太宰府市の文化財　第114集

大宰府条坊跡42

－第251・255・257次調査－

平成24(2012)年

太宰府市教育委員会

太宰府市の文化財　第114集

大宰府条坊跡42

－第251・255・257次調査－

平成24(2012)年

太宰府市教育委員会

第 251・255・257 次調査および第 236 次調査合成写真（上が北）

大型掘立柱建物（第 257 次調査 SB300　Fig. 56 ～ 58）

奈良三彩火舎（第 251 次調査　Fig. 23-18）

SB300 柱材（第 257 次調査　Fig. 93-23）

帯金具鋳型（第 257 次調査　Fig. 66-10）

序

本書は、太宰府市朱雀2･3丁目に所在する西日本鉄道二日市車庫跡地の開発事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書です。

調査地は大宰府条坊跡の中央付近に位置し、近年は西日本鉄道二日市車庫があった場所で、その機能が筑紫野市に移転するまで、大きな建物が建ち並んでいました。

今回の調査では「天下之一都会」(『続日本紀』) と称された大宰府を物語るように、奈良時代から平安時代にかけての遺構や遺物が多数見つかりました。その中でも奈良時代の大型掘立柱建物跡は、第236次調査の成果と合わせて南北に2棟並ぶことがわかったほか、奈良三彩の火舎など珍しい遺物も発見され、古代大宰府の歴史を知る上で貴重な所見を得ることが出来ました。

本書が学術研究はもとより文化財への理解と認識を深める一助となり、広く活用され、ひいては文化財愛護の精神が高揚することを心より願っております。

最後になりましたが、本調査に対しご理解ご協力いただきました、関係各位ならびに諸機関の方々に心からお礼申し上げます。

平成24年3月
太宰府市教育委員会
教育長　關　敏治

例言

1. 本書は太宰府市朱雀2・3丁目で行われた大宰府条坊跡の発掘調査報告書である。
2. 遺構の実測には、国土調査法第II座標系を利用した。したがって本書に示される方位は特に注記のない限りG.N.（座標北）を示し、本文中に記される遺構の角度もこれを基準としたものである。
3. 調査対象地の表土除去および埋め戻しは（有）松田造園土木に委託した。
4. 遺構の実測及び写真撮影は宮崎、柳、森若知子、久味木理恵が行った。
5. 遺構全体図作成は、第251・255次調査を宮崎、柳、森若知子、久味木理恵が行い、第257次調査の図化については、（株）写測エンジニアリングと国際航業（株）が行った。
6. 遺構の空中写真撮影は（有）空中写真企画（代表壇睦夫）が行った。
7. 出土品の科学分析はパリノ・サーヴェイに委託した。
8. 出土した鉄製品・木製品の保存処理は（株）タクトが行った。
9. 遺物の実測は、森部順子、松本理栄子、福井円、久家春美、木戸雅美、宮崎が行った。
10. 表入力・写真整理は瀬戸口みな子、市川晴美が行った。
11. 遺物の整理接合・復元作業は馬場由美、住山景子、末永亜由子が行った。
12. 遺物の写真撮影は（有）文化財写真工房（代表 岡紀久夫）が行った。
13. 図の浄書は、福井円、久家春美、吉富千春、今岡一恵、宮崎が行った。
14. 本書に用いた分類は以下のとおり。
    須恵器 ……『宮ノ本遺跡II　－窯跡篇－』（太宰府市の文化財第10集）1992
    陶磁器 ……『大宰府条坊跡XV　－陶磁器分類－』（太宰府市の文化財 第49集）2000
    土器 ……『大宰府条坊跡II』（太宰府市の文化財第7集）1983
15. 編集は、宮崎が担当した。

目次

Ⅰ、遺跡の位置と歴史 …… 1
Ⅱ、調査体制 …… 5
Ⅲ、調査および整理方法 …… 6
Ⅳ、調査報告 …… 7
1、第251次調査 …… 7
(1) 調査に至る経過 …… 7
(2) 基本層位 …… 7
(3) 検出遺構 …… 7
(4) 出土遺物 …… 16
(5) 小結 …… 37
2、第255次調査 …… 47
(1) 調査に至る経過 …… 47
(2) 基本層位 …… 47
(3) 検出遺構 …… 47
(4) 出土遺物 …… 54
(5) 小結 …… 68
3、第257次調査 …… 76
(1) 調査に至る経過 …… 76
(2) 基本層位 …… 76
(3) 検出遺構 …… 78
(4) 出土遺物 …… 105
(5) 小結 …… 180
Ⅴ、第257次調査自然科学分析 …… （パリノ・サーヴェイ） …… 229
Ⅵ、調査まとめ …… 239

写真図版 …… 主な遺構および遺物写真
付図 …… 第251次調査　第1面遺構全体図（1/200）
第251次調査　第2面遺構全体図（1/200）
第251次調査　遺構略測図（1/200）
第255次調査　遺構全体図（1/200）
第255次調査　遺構略測図（1/200）
第257次調査　第1面遺構全体図（1/200）
第257次調査　第2面遺構全体図（1/200）
第257次調査　第3面遺構全体図（1/200）
第257次調査　第1面遺構略測図（1/200）
第257次調査　第2面遺構略測図（1/200）
第257次調査　第3面遺構略測図（1/200）
付録 …… CD（遺構および遺物写真）

↑出現 ▌増加 ⋮減少　　2000.2補訂

紀年銘	AD.	大宰府土器型式	磁器区分	国産陶器型式（型式の上限）灰釉	国産陶器型式（型式の上限）緑釉	標識磁器	準標識磁器
		I A / I B					
	700	II					
	725	III					
	750	IV					
⑥		V	(A古)	猿投O-10 井ヶ谷IG-78	長門?・鍋内	白磁I類 越州窯系青磁I, II類 長沙窯系青磁・黄釉 褐彩・褐釉	唐三彩・二彩 絞胎
	800	VI A		黒笹K-14	長門・洛北・(洛西)・(黒笹K-14)		
	825	VI B		篠岡S-4 黒笹K-90	洛西 黒笹K-90		
	850	VII	A				青磁褐彩・褐釉 初期イスラム陶器
	900	VIII					
①	925		(A新)				
	950	IX		虎渓山1 (折戸O-53)	近江		
	1000	X		新戸O-53		越州窯系青磁III類 白磁XI類	
	1050	XI	B	東山H-72 (丸石2)			
②	1100	XII A / XII B	C	丸石2 百代寺 東山H-105 篠岡S-1		白磁椀II, III, VI～3, VI, XII, XIII類 皿II, IV, V, VI, VII類	初期龍泉窯系・同安窯系青磁0類 耀州窯系青磁 初期高麗青磁I, II, III類 青白磁
		XIII					白磁鉢III類、椀XIV類
	1150	XIV				龍泉窯系青磁椀I-1～4, 6 皿I類 同安窯系青磁椀I～IV, 皿I類	白磁椀VIII, V-4, 皿III類増加
		XV	D				白磁椀VII, 皿VIII-1類
	1200	XVI	E			龍泉窯系青磁椀II-a, b類	白磁皿VIII-2類
④	1230	XVII				龍泉窯系青磁III類 白磁IX類	
	1250	XVIII	F				龍泉窯系青磁II-c類 白磁X類 黒釉陶器
④	1300	XIX					
⑤	1330					龍泉窯系青磁IV類	
	1350	XX	G				白磁B, C類 安南鉄絵
⑦	1450						
⑧	1500						

紀年銘資料

①A.D.927　延長5年, 大宰府74次SD205A溝
②A.D.1091 寛治5年, 平安京左京4条1坊SE8井戸
③A.D.1224 貞応3年, 大宰府33次SD605溝
④A.D.1304 嘉元2年, 大宰府109.111次SD3200溝
⑤A.D.1330 元徳2年, 大宰府45次SX1200池
⑥A.D.784　延暦3年, 長岡京102次SD10201溝
⑦A.D.1459・1465 長禄3・寛正5年, 福岡市井相田CII・SG16池
⑧A.D.1501 文亀元年, 大宰府70次SD1805溝
⑨A.D.1265 文永2年, 博多62次713土壙

文献

①九州歴史資料館　「大宰府史跡昭和56年度発掘調査概報」1982
②田辺昭三・吉川義彦　「平安京跡発掘調査報告左京四条一坊」1975 平安京調査会
③九州歴史資料館「大宰府史跡昭和49年度発掘調査概報」1975
④九州歴史資料館「大宰府史跡昭和63年度発掘調査概報」1989
⑤九州歴史資料館「大宰府史跡昭和52年度発掘調査概報」1978
⑥長岡京市埋蔵文化財センター「長岡京市埋蔵文化財調査報告書第I集」1988
⑦福岡市教育委員会「井相田C遺跡II」「福岡市埋蔵文化財調査報告書179」1988
⑧九州歴史資料館「大宰府史跡昭和56年度発掘調査概報」1982
⑨福岡市教育委員会「博多48」「福岡市埋蔵文化財調査報告書397」1995

Fig.1　大宰府土器型式と国産陶器・貿易陶磁編年

1. 大野城跡
2. 岩屋城跡
3. 陣ノ尾遺跡
4. 筑前国分寺跡
5. 辻遺跡
6. 国分松本遺跡
7. 筑前国分尼寺跡
8. 国分千足町遺跡
9. 御笠団印出土地
10. 水城跡
11. 大宰府政庁跡
12. 観世音寺
13. 造営団印出土地
14. 大宰府条坊跡(破線内)
15. 君畑遺跡
16. 般若寺跡
17. 市ノ上遺跡
18. 神ノ前窯跡
19. 原口遺跡
20. 篠振遺跡
21. 前田遺跡
22. 宮ノ本遺跡
23. 麻川遺跡
24. フケ遺跡
25. 尾崎遺跡
26. 脇道遺跡
27. 殿城戸遺跡
28. 剣塚遺跡
29. 唐人塚遺跡
30. 峯・峯畑遺跡(●は峯火葬墓)
31. 太宰府天満宮(安楽寺跡)
32. 浦城跡
33. 原遺跡
34. 京ノ尾遺跡
35. カヤノ遺跡
36. 第251・255・257次調査地(報告地点)

Fig. 2　太宰府市とその周辺の遺跡 (1/30,000)

条○次・・・ 太宰府条坊跡第○次調査 (太宰府市教委 調査分)
史○次・・・ 太宰府史跡第○次調査 (九州歴史資料館 調査分)
南○次・・・ 御笠川南バイパス第○次調査 (福岡県教委 調査分)

Fig. 3　調査地と周辺調査地点 (1/5,000)

I、遺跡の位置と歴史

太宰府市は、北に四王寺山、北東に宝満山、南に背振山地東端の天拝山に囲まれ、さながら盆地的な様相を示している。これらの山々が途切れている北西に福岡平野が、南東に筑後平野が広がっている。市役所から博多湾まで直線距離で15km、筑後川まで20kmの位置関係である。

二つの平野には弥生から古墳時代にかけての遺跡が多く存在し、その勢力に挟まれた太宰府には、4世紀には割竹形木棺を有する円墳（菖蒲ヶ浦、下高尾、宮ノ本）が築造されている。5世紀に入ると前方後円墳は行政区こそ太宰府市であるが、福岡平野を見渡す丘陵に帆立貝形前方後円墳の成屋形古墳があるのみである。6世紀になって、四王寺山や高尾山の裾部に円墳が僅かに築造されるが、群集墳と呼べる状況を示していない。

古代になると大宰府政庁が置かれ、政庁の博多側には水城跡の土塁が築造されたほか、大野城・基肄城・阿志岐城などの古代山城が周囲に山々に築造されるなど、いわゆる羅城を形成していたと考えられる。

大宰府政庁の前面には、いわゆる大宰府条坊と呼ばれる都市が整備された。その規模は南北22条、東西12坊におよび、南辺部は筑紫野市まで広がっている。五条2丁目で行った第217･224調査では、平安時代中期と12世紀埋没の南北道路側溝が検出され、約90mの区割りでみる条坊案では左郭12坊推定ライン上にあたる。『宇佐大鏡』久安4（1148）年条の記述から、12坊路を「京極大路」とするという見解が大宰府条坊復原案を最初に提示した鏡山猛氏以来支持されてきたが、その「京極大路」の遺構である可能性が十分考えられる。また、T字路に取り付く平安時代後期の道路も明らかになり、平安時代後期の時点で、平安時代中期以降急速に栄えていった安楽寺天満宮周辺の街区と大宰府条坊が接していたことを示すものと考えられている。筑紫野市塔原東1丁目（第258次調査）では、8世紀後半埋没の平行する東西溝が検出され、井上信正条坊案の22条と合致し、条坊の南限である可能性が指摘されている。都府楼南2丁目の第222次調査は広大な面積が調査され、条坊内では近年一区画90m四方の設計プランが導き出されているが、条坊外に続く条里の存在も指摘されており、この調査地が条坊の外側であった可能性も考えられ、平安時代後期に条里の土地での住宅開発があったとみられ、条坊と条里の関係を知る貴重な所見を得ることが出来ている。

今回報告する調査地の東側には、般若寺があった丘陵があり、現在も塔跡が残っている。丘陵西斜面からは10世紀代の瓦窯跡が確認されている（第270次調査）。調査地の北西300mには榎社があり、大宰府に左遷された菅原道真の館跡と伝えられている。榎社は治安3（1023）年に大宰大弐惟憲が道真の霊を弔うために浄妙院を建立したのが始まりと伝えられ、榎の大木があったから榎寺とも呼称されるようになったといわれている。その榎社の東側には政庁前面から続く中央大路（推定朱雀大路）が確認されており、現在は調査で筑紫野市六反まで存在したことが確認されている。

II、調査体制

（平成17／2005年度）・・・第251・255次調査

総括	教育長	關　敏治
庶務	教育部長	松永栄人
	文化財課長	木村和美（～6月30日）
	文化財課長	齋藤廣之
	保護活用係長	久保山元信
	調査係長	永尾彰朗
	主任主査	齋藤実貴男
	事務主査	大石敬介
調査	主任主査	城戸康利　山村信榮　中島恒次郎
	技術主査	井上信正
	主任技師	高橋　学
		宮崎亮一（調査担当）
	技師（嘱託）	下川可容子　柳　智子（調査担当）　長　直信　松浦　智

（平成18／2006年度）・・・第257次調査

総括	教育長	關　敏治
庶務	教育部長	松永栄人
	文化財課長	齋藤廣之
	保護活用係長	久保山元信
	調査係長	永尾彰朗
	主任主査	吉原慎一（7月1日～）
		齋藤実貴男
	事務主査	大石敬介（～6月30日）
調査	主任主査	城戸康利　山村信榮　中島恒次郎
	技術主査	井上信正
	主任技師	高橋　学
		宮崎亮一（調査担当）
	技師（嘱託）	柳　智子
		下高大輔（調査担当）

（平成23／2011年度）・・・報告書発行

総括	教育長	關　敏治
庶務	教育部長	齋藤廣之
	文化財課長	井上　均
	保護活用係長	菊武良一
	調査係長	池本義彦
	主任主査	橋川史典

	主事	吉川あや		
調査	主任主査	山村信榮	中島恒次郎	井上信正
	技術主査	髙橋　学	宮崎亮一	
	主任技師	遠藤　茜		
	技師（嘱託）	白石祐呂		
	城戸康利（景観歴史のまち推進係長・文化財課併任）			

なお、調査および整理に際して、次の方々から有益なご教示を得た。記して感謝いたします。
（順不同・省略）

小田富士雄（福岡大学名誉教授）、山中章（三重大学教授）、山川均（大和郡山市教育委員会）、佐藤亜聖（元興寺文化財研究所）、辻本裕也（パリノ・サーヴェイ）

III、調査および整理方法

調査および整理方法については、『佐野地区遺跡群 I』（太宰府市の文化財第 14 集　1989）、『太宰府市における埋蔵文化財調査指針』（太宰府市教育委員会　2001 年 9 月改訂）に基づいている。

表土剥ぎはバックホーによって行い、調査後はその土砂で埋め戻している。

第 251 次調査と 257 次調査は、遺構面が複数面確認しているが、整地層の厚さの違いや高低差があるため、同一時期のものが、必ずしも同一面で確認されるものではなく、各時期の遺構が混在している状況である。よって、報告段階では調査作業順、つまり、調査面毎に整理報告を行っているため、面と記載されるものは調査面のことを示している。

第 251・255 次調査では、遺構全体図は航空測量による図化を予定していたが、両側を鉄道に囲まれている状況において危険と判断し、人力によって 1/20 の縮尺で実測を行った。

第 257 次調査では、第 236 次調査同様、夏から秋にかけての降雨時期には、現場全面が水没することもしばしばあり、遺構の崩壊が免れない状態であった。よって、航空測量で行った遺構全体図の作成は、調査当初に比べやや変形した遺構が記録される結果となった。

また、掘立柱建物については木材の遺存が良好であったため、科学分析を行い材質および年代測定を行っている。

整理報告に際し、国内からの搬入品については形状が確認できるものは極力報告することに努めたが、整理報告作業の効率化と報告書のスリム化のため、規格性が強い輸入陶磁器については『太宰府条坊跡 XV －陶磁器分類－』を基に分類し、出土遺物一覧表に分類と破片数を掲載したのみで、実測作業は基本的に行っていない。しかし、未分類のものや稀な陶磁器などについては実測し報告している。よって、遺構時期の検証については、出土遺物一覧表も同時に確認して頂きたい。

IV、調査報告

1、第 251 次調査

(1) 調査に至る経過

調査地は太宰府市宋崔 2 丁目 340-1 で、西日本鉄道株式会社の開発に先立ち、平成 17（2005）年 6 月 20 日から 11 月 30 日にかけて発掘調査を実施した。調査は宮崎亮一、柳智子が担当した。開発対象面積は 2650 ㎡、調査面積は 2351 ㎡である。

(2) 基本層位

現地表面から深さ 1.5m に遺構面が確認された。その上層は西鉄関連の表土が厚く覆っている。遺構面は殆ど 1 面であるが、南側の一部で整地が確認されている。しかし、残存している整地層は薄く、1 面目で 2 面目の遺構が見え隠れしている部分もある。SD099 などの削平状況から考えると当時の生活面は遺構検出面より高かかったと推測され、整地も全体に覆っていた可能性が考えられる。なお、遺構検出時の取り上げは灰色土で行った。

(3) 検出遺構

○第 1 面

掘立柱建物

251SB130（Fig. 4）

2 間×5 間の建物に調査区外で未確認の西側を除く三方それぞれに 1 間の庇が付く東西棟。振れは E-8°18′-N で、建物の規模は東西 11.0m、南北 3.7m、柱間は東西 2.2m、南北 1.85m を測る。建物と庇間は 1.85m で、庇の柱間が建物の柱間に対応している。掘り方は径 0.2 ～ 0.5m の円形で、柱痕は 0.12m 前後である。西から 2 間のところには束柱もしくは間仕切りとみられる掘り方を検出した。建物の東側は柱穴の未検出が多いが、南北それぞれの庇の柱間が東端だけ異なるため、東側も庇が廻っていたと考えられる。遺物は少ないが、振れや切り合い状況から SA135 の柵列とセットの遺構であり、この調査区内で最も新しい建物と推測される。

251SB180（Fig. 5）

2 間×5 間の南北棟で、建物の規模は東西 3.9m、南北 10.5m、柱間は東西 1.95m、南北 2.1m を測る。振れは N-2°58′-W で、掘り方は径 0.3m 前後の円形である。西端の一部が微妙であるが SX125 に切り込んでいるため、13 世紀以降の建物と推測される。この建物は調査終了間際に精査し確認されたもので、柱痕は不明である。

251SB185（Fig. 5）

1 間×2 間の南北棟で、建物の規模は東西 4.1m で柱間は 2.05m、南北 2.6m を測る。振れは約 W-1°52′-N で、掘り方は径 0.4m 前後の円形である。建物規模から小屋のような簡素な造りをした建物ではないかと推測される。SB185 の南辺と重なるようにピットが切り合って検出された。攪乱により対応する柱穴が特定できず建物としなかったが、この建物周囲に集中してピットが検出されており、ほかに何らかの建築物や建て替えがあったのかもしれない。

柵列

251SA135（Fig. 4）

柱間は 2 ～ 2.4m を測る東西 4 間の柵列で、長さ 8.6m、振れは E-8°31′-N を測る。掘り方は径 0.3 ～ 0.5m の円形である。SB130 の建物の目隠し塀と考えられ、SB130 との間隔は 2.0m である。

251SA190（Fig. 5）

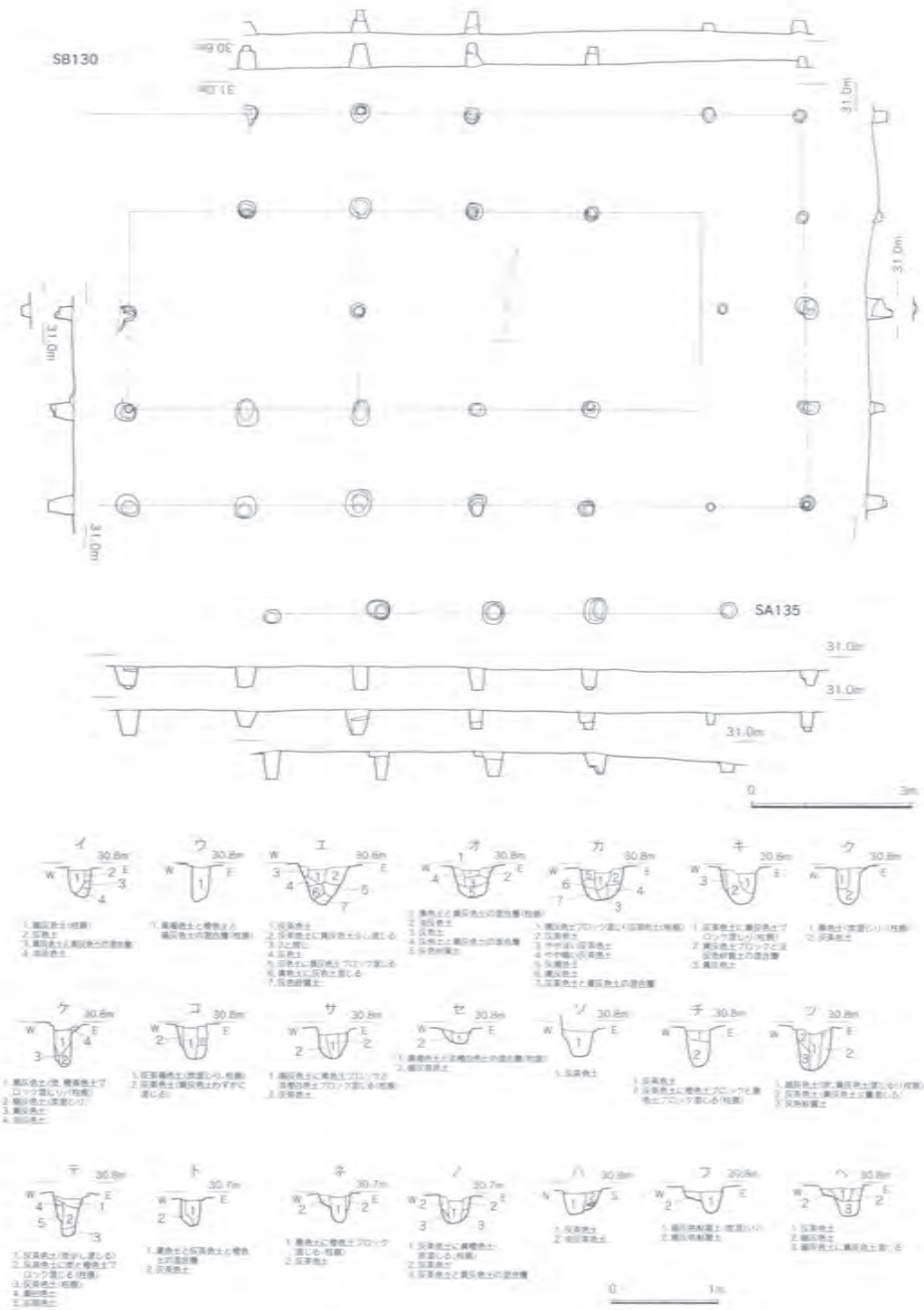


Fig. 4　251SB130・SA135 遺構実測図（1/100、1/50）

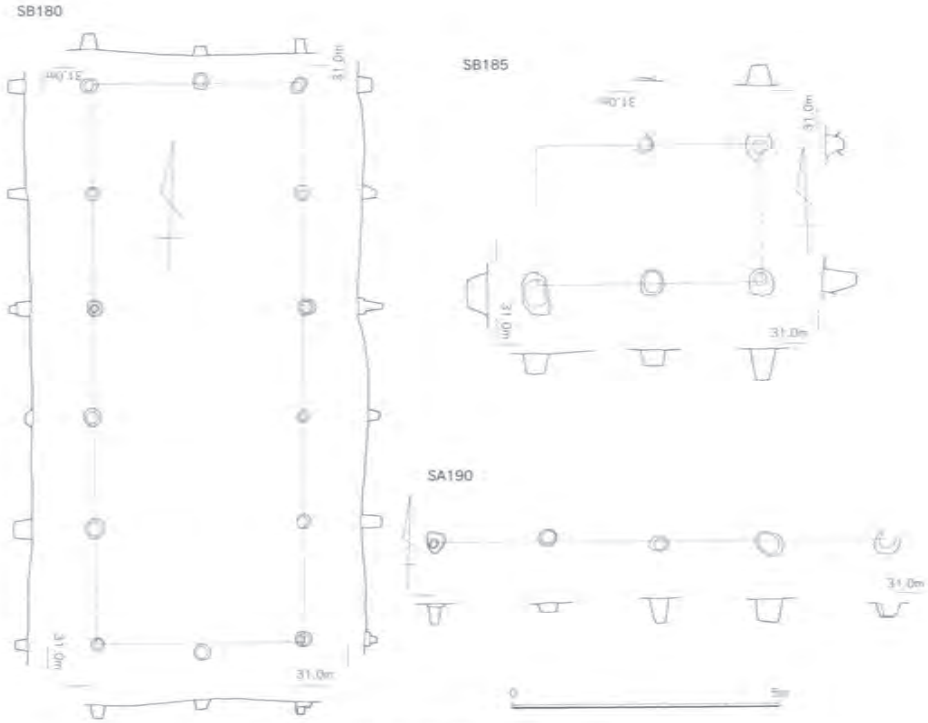


Fig. 5　251SB180・185、SA190 遺構実測図（1/100）

柱間は 2.1m を測る東西 4 間の棚列で、長さ 8.4m、振れは約 E-1° 35′ -N を測る。掘り方は径 0.3 ～ 0.5m の円形で、深さは 0.4m 前後である。

溝

251SD005（Fig. 6）

検出長 24.92m、幅 0.9 ～ 1.0m、深さ 0.25m 前後で、僅かだが西側に向かってレベルは下がっている。振れは E-1° 41′ 20″ -S の東西溝であるが、若干蛇行している。埋土は灰色土と黄灰色土の混合層である。断面は逆台形をしている。出土遺物のほとんどは 8 世紀後半であるが、白磁椀 IV 類と華南産の白磁破片の 2 点が出土した。平安後期の遺物が僅かに混入する遺構が多いことからも、この遺構はこの 2 点の遺物の年代を埋没時期と判断した。

251SD010（Fig. 6）

SD010 は検出長 9.8m、幅 0.7 ～ 0.9m、深さ 0.05 ～ 0.15m。振れは S-16° 38′ 27″ -W の南北溝。東側丘陵に沿うような振れを示している。この溝の北側延長上に SD016 が検出されたが、遺構検出時に撹乱のような新しい遺物が上面から出土し、第 236-2 次調査の SD005 の一部の可能性も考えられる。

251SD015

検出長 6.3m、幅 0.65 ～ 1.0m、深さ 0.48m。埋土が一部地山と見間違える状態であったため、検出時に確認できた範囲から掘削範囲は広くなった。途中から L 字形に東側に屈曲している。西側に約 2.5m の位置に SD010 の溝が平行しているため、関連があるかもしれない。検出状態から整地の下にあった遺

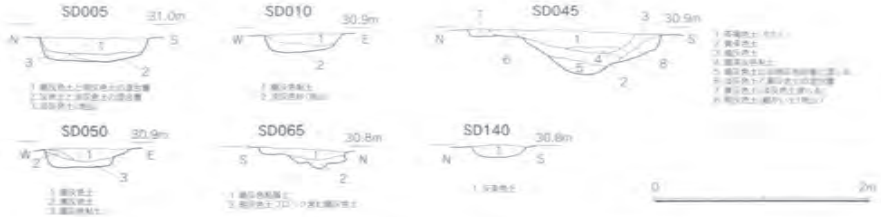


Fig. 6　第 251 次調査第 1 面溝土層実測図（1/50）

構、つまり 2 面目の可能性が考えられる。

251SD045（Fig. 6）

SX025 によって途中分断されているが、検出長 27.35m、幅は 0.63 ～ 1.38m で全体として 1.1m 前後、深さ 0.17 ～ 0.45m で底面の高低差はほとんどない。振れは E-1° 58′ 25″ -S の東西溝。埋土は上層が茶灰色粘土、下層は灰茶色土である。東側の上層はやや砂混じりであった。北側に中段を設け、掘り方断面はおよそ半円形をしている。

251SD050（Fig. 6）

検出長 11.9m、幅は 1m 前後だが部分的に出入りがあって 0.85 ～ 1.6m、深さ 0.15 ～ 0.26m。振れは N-2° 53′ 21″ -E の南北溝。1 面目遺構検出時にはプランはぼんやりした状態であった。2 面目でこれに平行する溝（SD095）が東側 3m の位置で検出している。北側は SD045 に切られて終わり、南側は SD039 に切られているが、その延長に遺構が確認できないため、ほぼこの付近で終わっているとみられる。この溝の下から SB060 が検出された。

251SD062

検出長 11.55m、幅 0.55 ～ 0.75m、深さ 0.03 ～ 0.16m で西側に向かってレベルは下がっている。振れは E-3° 9′ 42″ -S の東西溝。

251SD063

検出長 10.35m、幅 0.3 ～ 0.6m で概ね 0.5m 前後、深さ 0.02 ～ 0.12m。振れは E-6° 23′ 26″ -N の東西溝。遺物では底部糸切りの土師器坏 a が出土している。

251SD065（Fig. 6）

検出長 16.0m、幅 0.65 ～ 1.15m、深さ 0.12 ～ 0.23m。振れは E-0° 46′ 27″ -S の東西溝。東側は SX035 や攪乱によって切られているが、その遺構を越えた所では確認されていない。埋土は灰色粘土である。

251SD068

検出長 8.1m、幅 0.24 ～ 0.7m、深さ 0.14 ～ 0.02m。振れは E-3° 46′ 20″ -S の東西溝。

251SD099

検出長 9.25m、最大幅 1.2m、振れは S-0° 17′ 54″ -E の南北溝。ほとんど削平され、溝底の凸凹とみられる深さ 0.1m 前後の小穴が溝状に多数残っていただけである。

251SD112

検出長 3.55m、幅 0.4 ～ 0.55m、深さ 0.15m。振れは E-4° 38′ 42″ -N の東西溝。

251SD140（Fig. 6）

検出長 14.0m、幅 0.45 ～ 0.68m で概ね 0.6m 前後で、深さ 0.12m 前後。振れは E-9° 46′ 2″ -N の東西溝。溝断面は U 字形で、埋土は灰茶色土である。東側は全体的に遺構が希薄になって、僅かにその痕

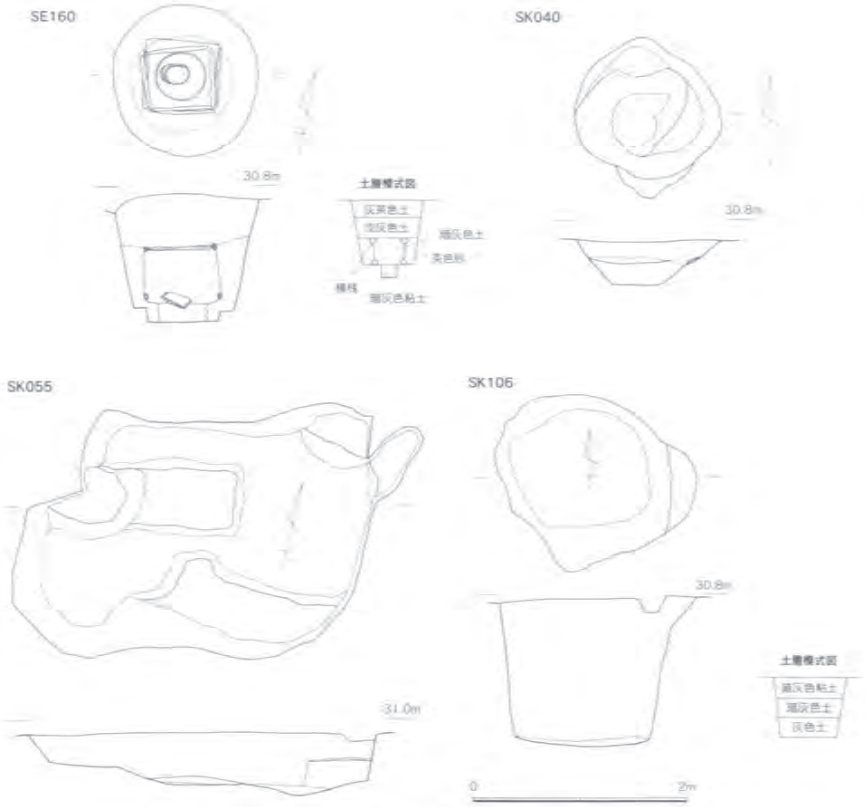


Fig. 7　251SE160、SK040・055・106 遺構実測図（1/50）

跡のような窪みが続いていることから、この溝は東側ほど大きく削平されたと推測される。

251SD145

検出長 6.65m、幅 0.4 ～ 0.5m、深さ 0.08m 前後。振れは E-1° 28′ 42″ -N の東西溝。西側は SX125 で途切れ、それを越えた西側でも未検出である。東側は SD099 の南側延長ラインで終わっている。

251SD150

検出長 6.75m、幅 0.3 ～ 0.5m で概ね 0.4m 前後、深さ 0.23m。振れは E-6° 53′ 0″ -N の東西溝。

251SD155・170

検出長はそれぞれ長さ 5.15m、4.8m、途中地盤のレベルが上がっているため 6m ほど分断されている。幅 0.4m 前後、深さ 0.08 ～ 0.17m。振れは E-7° 26′ 18″ -N の東西溝。両溝は延長上にあるため一連のもの考えられる。振れ具合から SD140 と同時期の可能性が考えられる。

251SD165

検出長 9.5m、幅 0.2 ～ 0.4m、深さ 0.05 ～ 0.2m で東側に向かってレベルは下がっている。振れは E-7° 3′ 49″ -N の東西溝。部分的に整地のような堆積土が被っていた。この溝に接続する S-123 は埋土が地山と区別が難しく古い遺構と推測される。

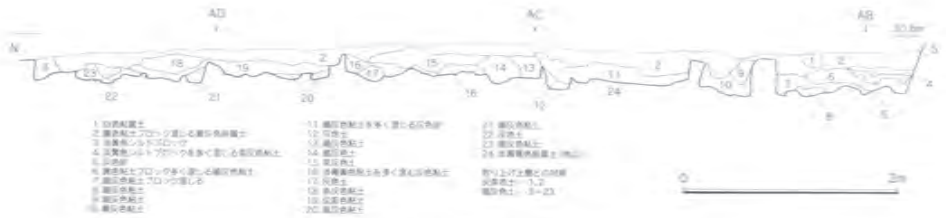


Fig.8　251SX001 土層実測図（1/50）

道路遺構

251SF195

SD045 と SD065 が道路側溝と考えられ、2 つの溝に挟まれた部分が道路の可能性が考えられる。しかし、側溝以外に道路に伴う基盤や通行痕跡は確認されていない。振れは E-0° 40′ 35″ -S で、路面部分の幅は 7.6 ～ 8.2m を測る。

251SF200

SD005 と SD062 が道路側溝と考えられ、2 つの溝に挟まれた部分が道路の可能性が考えられる。しかし、側溝以外に道路に伴う基盤や通行痕跡は確認されていない。振れは E-4° 7′ 5″ -S で、路面部分の幅は 3.7 ～ 4.6m を測る。SD062 は南側側溝ということになるが、平行する SD063・068 は側溝の掘り直しやそれを踏襲した区割り溝と考えられる。

井戸

251SE160（Fig.7）

掘り方は東西 1.35m、南北 1.4m、深さ 1.2m を測り、その中央に井戸枠が残存していた。井戸枠は横桟が 2 段分残っていて、それぞれの内法は上段が一辺 0.56m、下段が一辺 0.6m である。上下の横桟間は 0.4m で、縦板と推測される枠材の痕跡が検出されたが、腐食し殆ど残っていない。横桟も腐食が目立ち、殆ど丸くなっていて、一部原形に近い部材から一辺 0.04m 前後の断面方形の部材を使用したと推測される。また、上の横桟はホゾ組みであったことは確認できたが、下の横桟の組み方は不明である。井戸枠底面には径 0.44m、深さ 0.19m の曲物痕跡が確認されたが、曲物そのものは全く残っていなかった。この曲物の埋土上には水汲み用とみられる径 0.21m、深さ 0.1m の曲物が出土した。

土坑

251SK040（Fig.7）

径 1.4 × 1.52m、深さ 0.44m の円形土坑である。埋土は混じりが全くない暗灰色粘土である。井戸のようにも見えるがその根拠に乏しい。

251SK055（Fig.7）

東西 3.2m、南北 2.5m、深さ 0.65m の長方形状の不定形な土坑で、埋土は大きく上下 2 層で、上層は灰茶色土、下層は黄灰色土と暗灰色土の混合層である。

251SK106（Fig.7）

掘り方は隅丸方形で、東西 1.9m、南北 1.7m、深さ 1.4m を測る。周囲の地盤は下半が固い砂層で湧水はない。埋土中位の暗灰色土からは獣の歯片が出土した。底部に近いほど砂質になっている。埋土中に井戸枠の部材等は確認していないが、形状から井戸の可能性も考えられる。

その他の遺構

土取り遺構

251SX001（Fig.8）

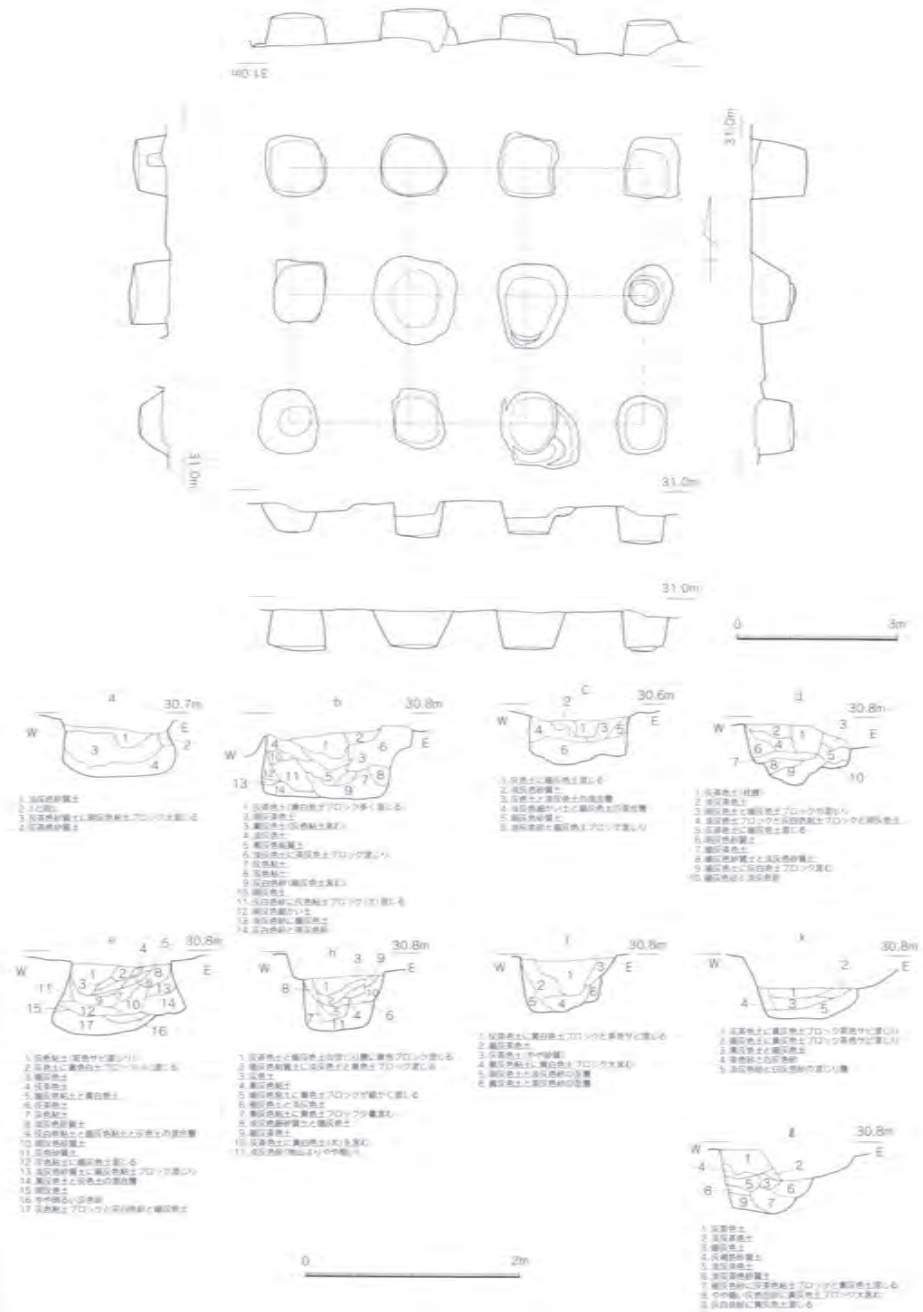


Fig.9　251SB060 遺構実測図（1/100、1/50）

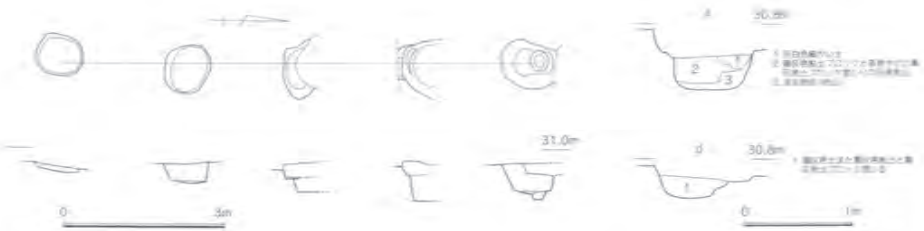


Fig. 10　251SA120 遺構実測図（1/100、1/50）

調査区南端部に広がる大きな窪みで、範囲はおよそ東西 29.6m ×南北 15.6m で、さらに南の調査区外に続いている。底面が凸凹していることと垂直に掘り下げた箇所も多く、自然現象によるものではないのは明確で、深さは 0.3m 前後で、最も深いところで 0.5m 前後であり、底部は凸凹である。ちょうど明灰色粘質土が消失した深さで掘削が終わっており、粘土採掘が目的であったことが理解でき、土取りの跡と推測される。土取り後の埋土は粘土や砂質土が不規則に堆積しており、自然堆積ではなく、人為的に埋められたものと考えられる。

出土遺物は殆どが奈良時代のものであるが、僅かに平安時代の白磁片が出土する。

251SX025・030・035・070

調査区中央付近に広がる大きな窪みで、埋土は暗灰色粘土に黄灰色土が混じる。範囲はおよそ東西 40.0m ×南北 24.3m で、深さは 0.4m 前後で、底部は凸凹である。出土遺物は殆ど奈良時代のものであるが、僅かに平安時代の白磁片が出土する。北側では糸切り調整の土師器片が多く出土した。

251SX069

調査区西端で検出されたため、全容は不明であるが、南北 3.4m、東西 4.5m 以上、深さ 0.04 ～ 0.1m で、方形状の浅い遺構である。埋土は茶灰色粘質土である。

251SX125

調査区北側を中心に広がる大きな窪みで、検出範囲はおよそ東西 13.7m ×南北 33.8m である。黄灰色土の地山に切り込んでいて、東側の砂層には掘りこまれていない。深さは 0.5m 前後で深い所では 0.7m 程あり、底部は凸凹である。また、掘り込み方が直角な所も多く、人為的に掘り込んだ土取り遺構と推測される。埋土は暗灰色土で奈良時代の遺物に混じって僅かに白磁など平安時代の遺物が出土する。

○第 2 面

掘立柱建物

251SB060（Fig. 9）

整地や遺構が存在しない部分では、建物の一部が 1 面目で確認されたが、それら以外は各遺構の下から検出され、切り合い関係から今回の調査地では最も古い遺構のひとつと考えられる。建物は 2 間× 3 間の総柱の東西棟で、東西 6.6m、南北 4.8m、柱間は東西 2.2m、南北 2.4m、振れはほぼ正方位をとっている。掘り方は 0.85 ～ 1.6m のやや丸みのある方形を示し、深さは 0.55 ～ 1.05m であるが底部のレベルはほぼ同じである。掘り方の埋土を見る限り柱痕は確認できず、埋土状況からも柱痕は抜き取られたものと推測される。

この建物の 25m 真東で 251SB090 が検出された。これは第 236-2 次調査で検出した 236-2SB060 の一部である。2 棟の規模は異なるものの北辺が揃っており、同一時期に存在した可能性は十分考えられる。

251SB090

第 236-2 次調査で検出していた SB060 の一部。今回の調査によって、その続きとみられる 2 つの掘り方が確認され、236-2SB060 は 2 × 3 間の南北の総柱建物と確定した。

柵列

251SA120（Fig. 10）

一部の掘り方を SB060 の掘り方と共に誤って掘ってしまったため、SB060 との切り合い関係は不明瞭である。南北の 4 間の柵列で、長さ 9.0m、柱間は 2.25m、振れは約 N-1° 5′ -W。掘り方の大きさは 0.9m 前後で、柱痕は明瞭に確認できなかったため抜き取りの可能性がある。また、底のレベルが南に行くほど浅くなっている。これは南側ほど地盤が高かったことを意味するのかもしれない。

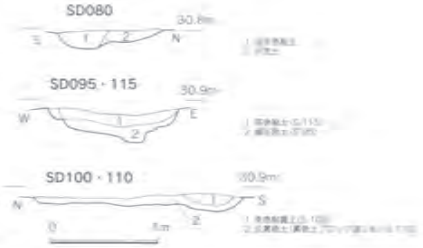


Fig. 11　第 251 次調査第 2 面溝土層実測図（1/50）

他の遺構との新旧関係だが、S-87 に掘り方が切り込んでいること、S-87 の埋土が SB060 の掘り方の一部に被っていることから、SB060 → S-87 → SA120 の新旧関係が成り立ち、SF205 との併存の可能性も考えられる。ただし、この柵の西隣には同時期の遺構として用途不明な SX069 があるだけで、柵の目的が明確でない。よって、調査区外の西側に関係する遺構が存在する可能性が考えられる。

溝

251SD020・080（Fig. 11）

整地の下から検出されたが、東側の整地がなかった部分で検出された SD020 と同一遺構と判断される。検出長 19.8m、幅 0.6m 前後で、西側が広く 2.0m、深さ 0.2m。振れは E-3° 18′ 27″ -N の東西溝。西側は SB095 によって切られている。埋土は淡灰色粘土と灰色土である。

251SD095（Fig. 11）

南北溝。1 面目で確認していた SB050 と対応する溝とみられる。1 面目検出段階でも西側ラインはぼんやり確認していたが東側は整地によって確認できていなかった。検出長 11.6m、幅 1.1 ～ 2.9m、深さ 0.1 ～ 0.3m。振れは S-5° 5′ 14″ -W の南北溝で、南北両端とも土取り遺構によって削平されている。埋土は暗灰色土である。

251SD100・115（Fig. 11）

L 字の溝で、東西溝を SD100、南北溝を SD115 として調査している。SD100 は検出長 16.5m、幅 0.45 ～ 0.75m で概ね 0.6m、深さは 0.1m 前後。振れは E-4° 16′ 14″ -S。SD115 は SD095 に切りこんでいる。北側が SX025 に切られ、検出長 2.3m、幅 1.25m、深さ 0.3m。埋土は共に茶灰色粘土で連続して見えていたが、屈曲部は浅かったため、検出時に埋土が消滅してしまった。SD115 については、その延長上に SD054 が確認されている。同一遺構の可能性が考えられる。

251SD105

検出長 4.1m、幅 1.25m、深さ 0.07m 前後の南北溝。第 1 面調査時点で、整地以外の北側部分は確認できていた。南端は SD100 によって切られていて、それより南側には続かない。

251SD110（Fig. 11）

検出長 7.9m、SD100 によって切られていて、現存幅 1.5m 以上、深さ 0.03 ～ 0.15m。振れは E-6° 29′ 13″ -S の東西溝。埋土は灰茶色土。

道路遺構

251SF205

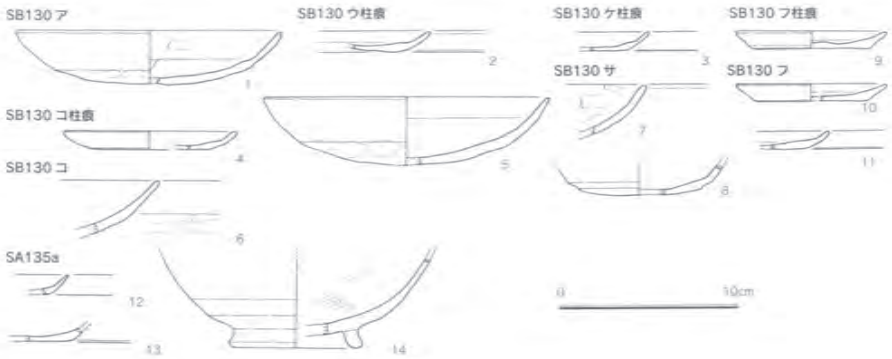


Fig. 12　251SB130・SA135 出土遺物実測図（1/3）

SD050 と SD095 の間が南北道路と考えられるが、路盤や通行痕跡等は残っていない。振れは N-2° 19′ 4″ -W で、路面幅 3.4m 前後を測る。南側は SX001 で大きく削平されているため、続きは明確でない。北側は SD045 によって切られているが、最終埋没の僅かな違いはあるものの、時期はほぼ同じであるため、道路は SF195 に接合していたものと考えられる。また、削平が目立つが、その北側延長上に SD099 や SD054 などの溝の痕跡が見つかっているため、このラインで広範囲に道路や区画境が存在した可能性が高い。

(4) 出土遺物

○第 1 面

掘立柱建物

251SB130 ア出土遺物（Fig. 12）

土師器

丸底坏 a（1）　復元口径 14.8cm、器高 3.0cm。内面にはミガキ b とそのコテ当て痕が残る。

251SB130 ウ柱痕出土遺物（Fig. 12）

土師器

小皿 a（2）　底部切り離しは回転ヘラ切りで、板状圧痕が残る。その他は回転ナデ。

251SB130 ケ柱痕出土遺物（Fig. 12）

土師器

小皿 a（3）　底部切り離しは回転ヘラ切りで、板状圧痕が残る。内面底部がナデ、その他は回転ナデ調整。

251SB130 コ柱痕出土遺物（Fig. 12）

土師器

小皿 a（4）　復元口径 9.7cm、器高 1.0cm、復元口径 6.9cm。底部はヘラ切りで、板状圧痕が残る。色調は淡茶灰色などを呈する。

丸底坏 a（5）　復元口径 16.0cm、器高 3.8cm。外面中位に押し出しの指頭圧痕が残り、底部付近はナデ調整である。

251SB130 コ出土遺物（Fig. 12）

土師器

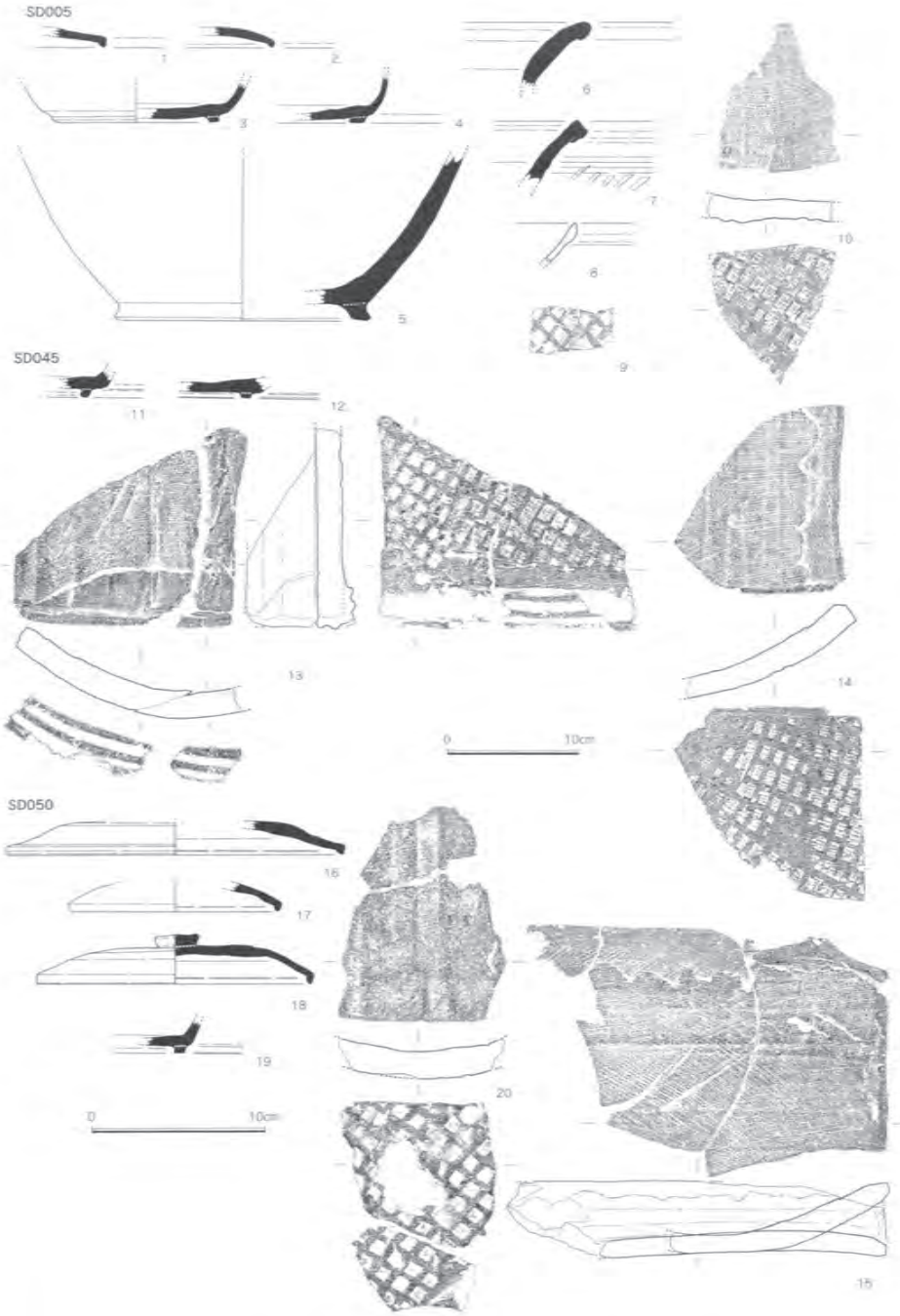


Fig. 13　251SD005・045・050 出土遺物実測図（1/3、瓦は 1/4）

丸底坏（6） 内面はミガキｂで、外面下半は押し出しの指頭圧痕が残る。淡褐灰色を呈する。

251SB130 サ出土遺物（Fig. 12）

土師器

坏ａ（8） やや丸い底部で、底部はヘラ切りで、その他は回転ナデ。焼成は良好で淡灰褐色を呈する。

丸底坏（7） 口縁部の破片だが、内面にミガキｂが確認でき、外面は回転ナデで、下半はさらにナデ調整する。

251SB130 フ柱痕出土遺物（Fig. 12）

土師器

小皿ａ（9） 復元口径8.4cm、器高1.0cm、復元口径6.5cm。底部はヘラ切りで、板状圧痕が残る。内面底部は回転ナデ後ナデ調整する。色調は淡褐色などを呈する。

251SB130 フ出土遺物（Fig. 12）

土師器

小皿ａ（10、11） 10は復元口径8.4cm、器高1.0cm、復元口径6.2cm。底部はヘラ切りで、板状圧痕が残る。内面底部は回転ナデ後ナデ調整。色調は淡褐灰色などを呈する。11は回転ナデだが底部切り離しは不明。

柵列

251SA135a 出土遺物（Fig. 12）

土師器

小皿ａ（12、13） 2点とも焼成不良で磨滅が目立つ。12の色調は淡灰白色を呈する。13は外面底部に板状圧痕が残る。色調は淡橙褐色を呈する。

黒色土器

椀ｃ（14） 外側に丸く跳ねた高台を貼付する。復元高台径7.4cm。磨滅が目立つが、内面に僅かにミガキが残る。Ｂ類。

溝

251SD005 出土遺物（Fig. 13）

須恵器

蓋3（1、2） 1は回転ナデのあと、内面だけナデ調整。焼成良好で淡灰白色を呈する。2は外面ナデ調整。その他は回転ナデ。焼成良好で暗青灰色を呈する。

坏ｃ（3、4） 底部内外面はナデ調整、その他は回転ナデ。焼成は良好で淡青灰色を呈する。3は復元高台径9.5cm。

壺（5） 復元高台径14.6cm。内外面とも回転ナデで、内面中位に当て具痕のような痕跡が残る。焼成は良好だが、還元はやや不良で淡茶灰色や淡灰褐色を呈する。

甕（6、7） 6は焼成良好だが還元はやや不良で、淡茶褐色を呈する。調整は回転ナデ。7は口縁端部を折り曲げる。外面には沈線を巡らせ、縦方向のヘラ文様が施されている。

白磁

椀（8） Ⅳ類の口縁部の破片である。

瓦類

平瓦（9、10） 9は凸面が方形叩き。10は凹面に布目痕と模骨痕が残り、凸面には「目」の字のような格子叩きを行う。焼成は良好で暗灰青色を呈する。

251SD045 出土遺物（Fig. 13）

須恵器

坏ｃ（11、12） 11はやや貧弱な高台を貼付する。焼成は不良で淡灰色を呈する。内外面回転ナデ。12は低い高台を貼付し、内面不定方向のナデ、外面ヘラ切り後ナデ。明青灰色を呈す。

瓦類

軒平瓦（13） 胎土は0.3cm以下の砂粒を多く含む。焼成は良好で灰色を呈する。瓦当面と凸面に重弧文を施す。凹面は布目痕、凸面は「目」のような格子叩きを施す。

平瓦（14、15） 14の胎土は0.3cm以下の砂粒を多く含む。焼成は良好で青灰色や淡灰色を呈する。凹面は布目痕と糸切り痕が残り、端部は面取りする。凸面は「目」のような格子叩きを施す。15の胎土は0.4cm以下の砂粒を多く含む。焼成は良好で淡灰色を呈する。凸面が縦方向のナデ調整、凹面は模骨痕と布目痕が残る。両面短辺端部はヘラケズリし面取りする。

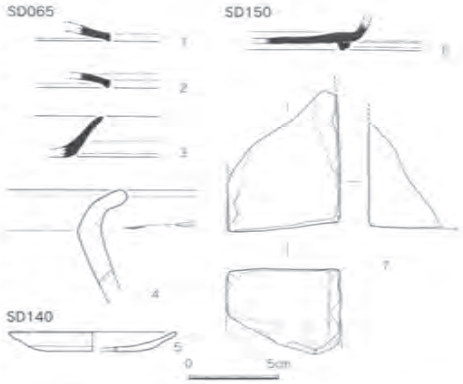


Fig. 14 251SD065・140・150出土遺物実測図（1/3）

251SD050 出土遺物（Fig. 13）

須恵器

蓋3（16、17） 16は復元口径19.1cm。外面上半部は回転ヘラケズリ、内面上半部は丁寧なナデ、その他は回転ナデで、色調は青灰色で、端部は重ね焼きのため黒灰色を呈する。17は復元口径11.7cm。焼成不良で摩滅が著しい。色調は淡灰色を呈する。

蓋c3（18） 口径15.6cm、器高2.8cm。外面上半部は回転ヘラケズリ、内面上半部は不定方向のナデ。焼成良好で明青灰色や暗灰色を呈する。口縁端部は重ね焼きのため黒灰色を呈する。

坏ｃ（19） 方形高台を貼付する。内面底部以外回転ナデ。焼成良好で暗青灰色を呈する。

瓦類

平瓦（20） 凸面には太い方形の格子叩きで、凹面は摩滅するが模骨痕は確認できる。胎土は0.3cm以下の砂粒を含み、焼成不良で淡黄茶色を呈する。

251SD065 出土遺物（Fig. 14）

須恵器

蓋3（1、2） 口縁端部の破片で、端部は僅かにつまんで断面三角形をなしている。焼成還元良好で、色調はやや暗青灰色を呈する。

坏ａ（3） 内外面とも回転ナデ。焼成還元は良好で、色調は淡灰白色を呈する。

土師器

甕（4） 口縁より胴部が張るタイプとみられる。全体的に摩滅する。胎土は0.1cm前後の砂粒を多く含み、褐灰色や淡茶褐色を呈する。口縁端部内面には煤が付着する。

251SD140 出土遺物（Fig. 14）

土師器

小皿ａ（5） 復元口径9.4cm、器高1.1cm、復元底径7.2cm。焼成不良で磨滅するが、外面底部には板状圧痕が残る。色調は淡褐白色を呈する。

251SD150 出土遺物（Fig. 14）

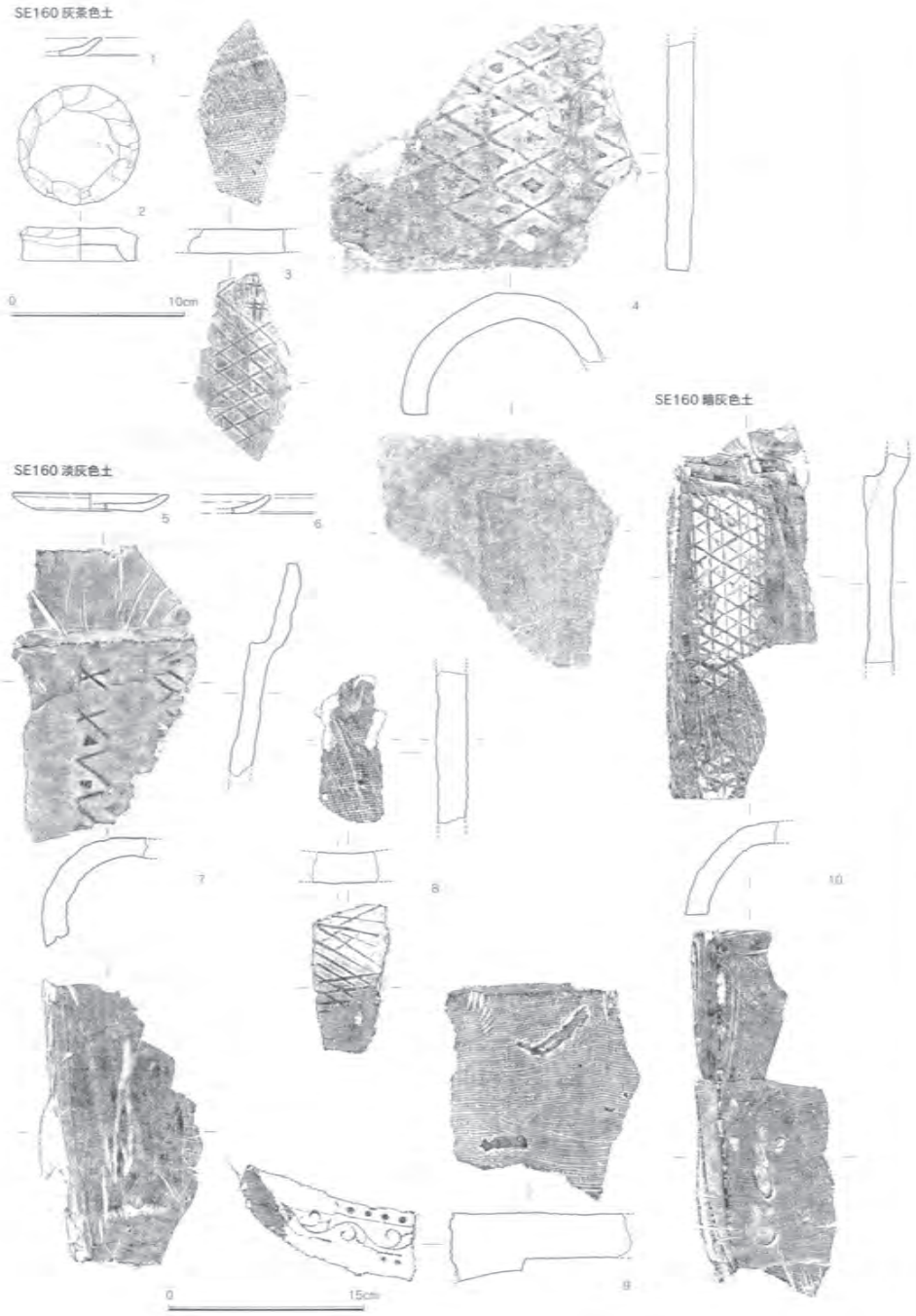


Fig. 15　251SE160 出土遺物実測図①（1/3、瓦は 1/4）

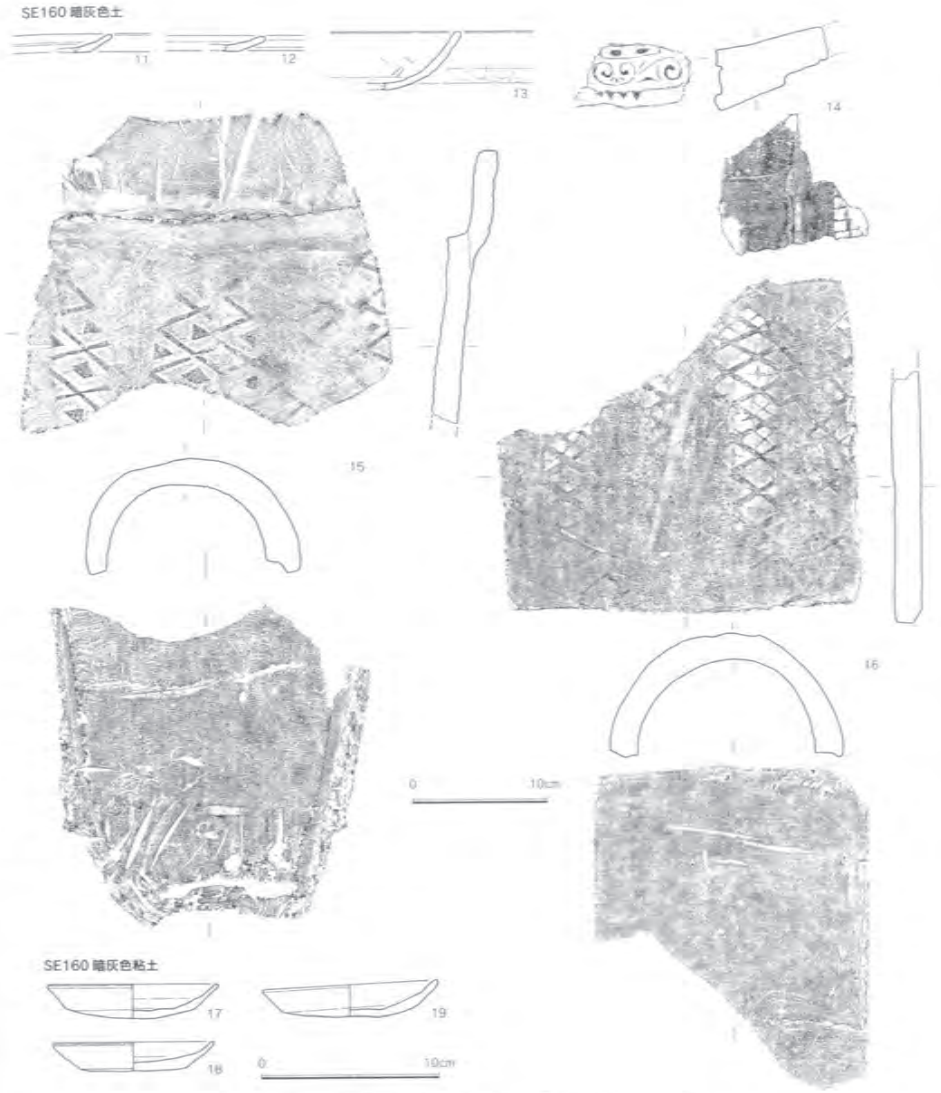


Fig. 16　251SE160 出土遺物実測図②（1/3、瓦は 1/4）

須恵器

坏 c（6）　内面底部はナデ、外面底部はヘラ切り後ナデ、その他は回転ナデ。焼成良好で淡灰白色を呈する。

土製品

塼（7）　幅 6.4cm。胎土は 0.1cm 以下の砂粒を多く含む。焼成良好で淡灰白色などを呈する。

井戸

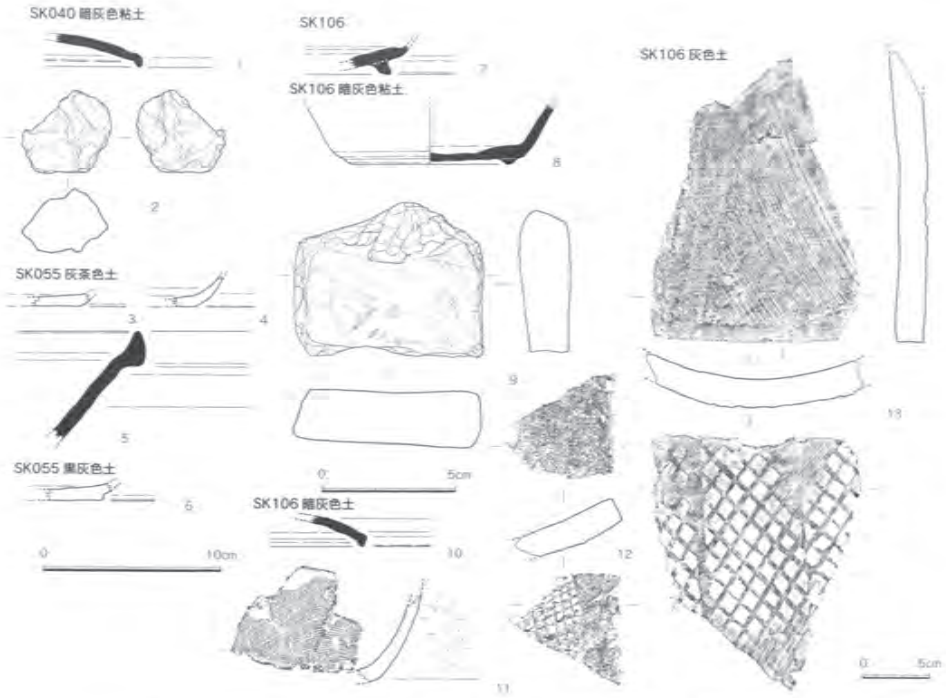


Fig. 17　251SK040・055・106 出土遺物実測図（1/3、9 は 1/2、瓦は 1/4）

251SE160 灰茶色土出土遺物（Fig. 15）

土師器

小皿 a（1）　全体的に磨滅する。淡褐灰色を呈する。

白磁

椀（2）　Ⅱ類で、高台を残し、体部を意図的に打ち掻いている。

瓦類

平瓦（3）　斜格子叩きに「平井」の文字がみえる。一部叩きをナデ消す。

丸瓦（4）　凸面には菱形のような形が入った大きな斜格子を施す。胎土には 0.1cm 前後の砂粒が混じり、焼成やや不良で摩滅が目立つ。

251SE160 淡灰色土出土遺物（Fig. 15）

土師器

小皿 a（5、6）　5 は復元口径 9.0cm、器高 1.0cm、復元底径 4.8cm。焼成は不良で全体的に磨滅する。色調は淡乳白色を呈する。6 の底部切り離しはヘラ切りで、色調は淡暗茶褐色を呈する。

瓦類

軒平瓦（9）　胎土はやや粗く 0.4cm 以下の砂粒を多く含む。焼成は良好で淡灰色などを呈する。瓦当面は簡略化された細い唐草文の上下に珠文を配している。凹面は布目痕で、凸面は縦方向のケズリの後ナデ調整。

平瓦（8）　凸面は不定形な格子叩きである。焼成良好で淡赤茶褐色などを呈する。

丸瓦（7）　凸面に菱形のような形が入った大きな斜格子で、部分的にナデ調整がある。断面はヘラ切り後未調整。焼成良好で暗灰色などを呈する。

251SE160 暗灰色土出土遺物（Fig. 15・16）

土師器

小皿 a（11、12）　11 は底部ヘラ切りで板状圧痕が残る。焼成良好で暗灰色を呈する。12 は底部回転ヘラ切り、焼成良好で乳灰白色を呈する。

丸底坏 a（13）　外面中位に指頭圧痕が残り、底部は回転ヘラケズリの後ナデ調整。内面は工具の当たり痕が残る。色調は淡橙茶褐色を呈する。

瓦類

軒平瓦（14）　瓦当面は均等唐草文で、凹面はナデ調整、凸面は叩きとナデ調整である。焼成良好で黒褐色などを呈する。

丸瓦（10、15、16）　10 は三角形の格子叩きで一部ナデ消している。凹面は細かい布目痕。15 は凸面が大きい格子目内に菱形が入った叩きで、凹面は布目痕だが、細かい目と粗い目がある。断面は内側半分までヘラ切りされ、残り半分は切断後未調整。焼成良好で淡灰色を呈する。16 は大きな格子叩きで、断面端部はヘラケズリし面取りしている。色調は黒褐色を呈する。

251SE160 暗灰色粘土出土遺物（Fig. 16）

土師器

小皿 a（17 ～ 19）　底部切り離しは回転ヘラ切りで板状圧痕を残す。色調は淡茶灰色や淡灰茶色を呈する。17 は口径 7.3cm、器高 1.95cm、底径 2.6cm。18 は口径 8.9cm、器高 1.65cm、底径 6.0cm。19 は口径 9.6cm、器高 1.7cm、底径 3.45cm。

土坑

251SK040 暗灰色粘土出土遺物（Fig. 17）

須恵器

蓋 3（1）　外面は灰かぶりで調整不明。内面は回転ナデの後不定方向の粗いナデ。口縁端部は回転ナデ。暗灰色や赤紫灰色を呈する。

土製品

土壁（2）　胎土は 0.3cm 以下の砂粒を多く含み、黄橙色や淡茶色を呈する。部分的に指頭圧痕が残る。

251SK055 灰茶色土出土遺物（Fig. 17）

土師器

小皿 a（3）　底部切り離しは回転糸切り。焼成不良で淡黄橙色を呈する。

坏 a（4）　焼成不良で底部切り離しで不明瞭だが回転糸切りにみえる。色調は淡黄橙色を呈する。

須恵質土器

鉢（5）　内外面回転ナデで、内面下半はその後ナデ調整。色調は灰色で、玉縁部分だけ重ね焼きの関係で暗灰色を呈する。一部粘土の継ぎ目が確認できる。東播系。

251SK055 黒灰色土出土遺物（Fig. 17）

土師器

小皿 a（6）　底部切り離しは回転糸切りで板状圧痕が残る。焼成不良でにぶく淡い黄橙色を呈する。

251SK106 出土遺物（Fig. 17）

須恵器

坏 c（7）　方形高台を外側に踏ん張らせている。焼成やや不良で淡灰色を呈する。

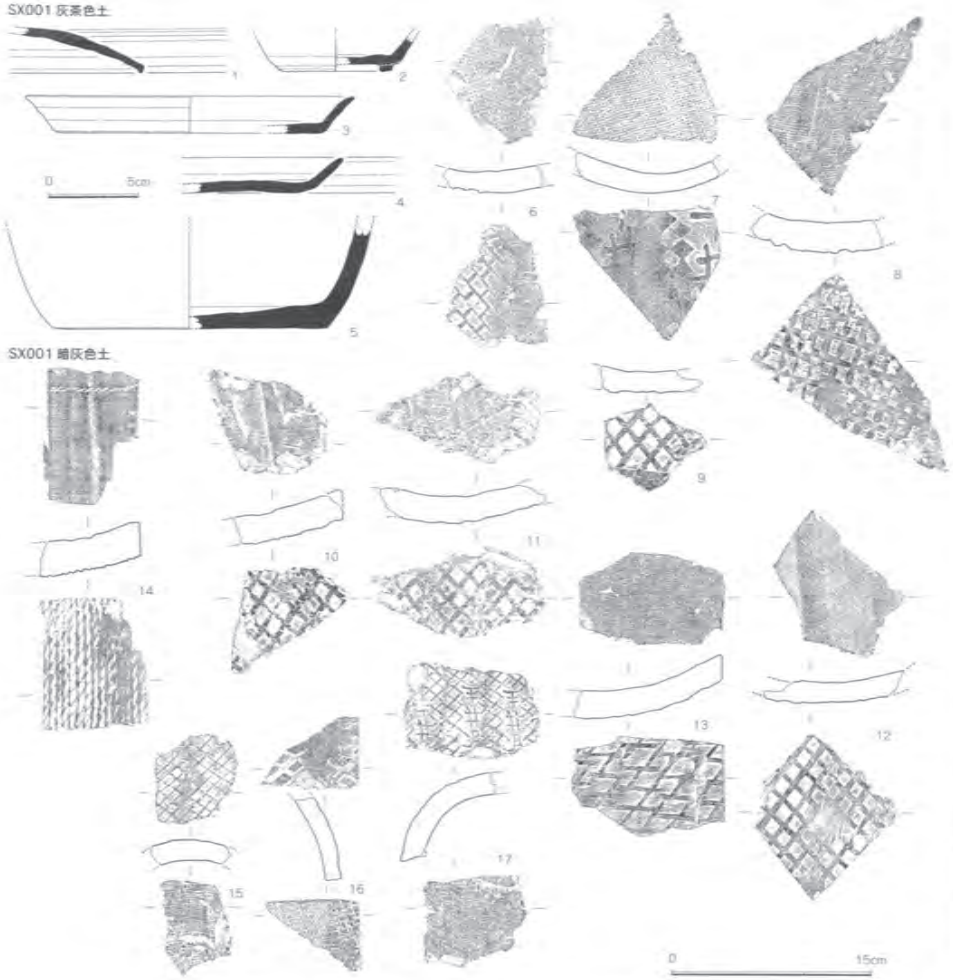


Fig. 18　251SX001 出土遺物実測図①（1/3、瓦は 1/4）

251SK106 暗灰色粘土出土遺物（Fig. 17）

須恵器

坏 c（8）　やや直線的に外開きする体部で、底部端に潰れた低い高台を貼付する。復元口径 8.9cm。焼成不良で調整不明。色調は淡橙茶褐色や乳灰白色を呈する。

石製品

砥石（9）　縦 5.7cm、横 7.0cm、厚さ 1.9cm。4 面使用されている。安山岩製。

251SK106 暗灰色土出土遺物（Fig. 17）

須恵器

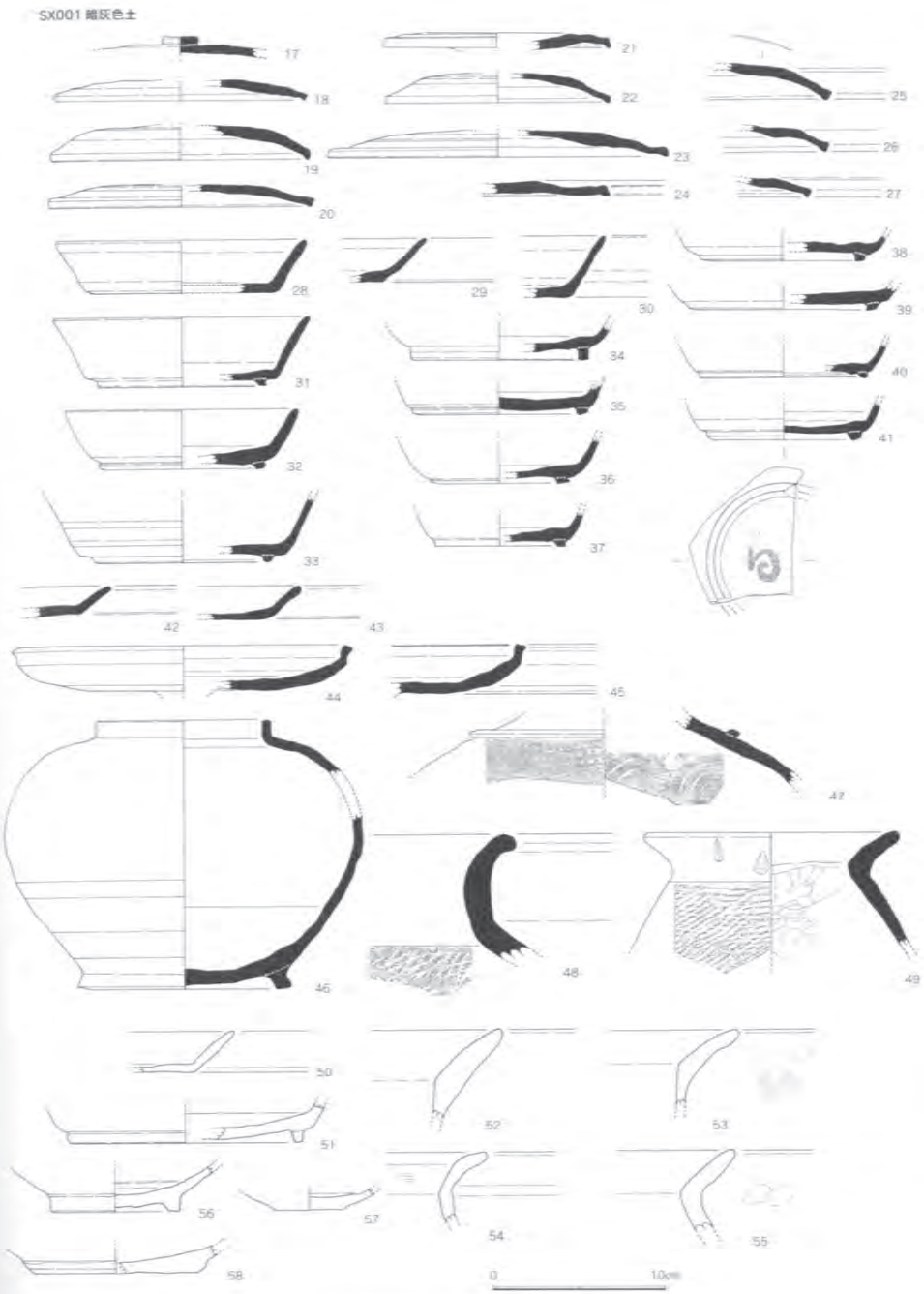


Fig. 19　251SX001 出土遺物実測図②（1/3）

蓋3（10） 外面上半部は回転ヘラケズリ、その他は回転ナデ調整。焼成還元不良で乳灰白色を呈する。

製塩土器

焼塩壺（11） 底部近くの破片で、内面に細かい布目痕が残る。外面は指頭圧痕が残る。胎土はやや粗く、淡茶褐色を呈する。

251SK106 灰色土出土遺物（Fig. 17）

瓦類

平瓦（12、13） 12は凹面に小さな方形格子叩き、側面はヘラケズリ。13は正方形に近い格子叩きで、凹面には糸切りと模骨痕が残る。色調は淡白褐色を呈する。

第1面その他の遺構

土取り遺構

251SX001 灰茶色土出土遺物（Fig. 18）

須恵器

蓋3（1） 外面上半部は回転ヘラケズリで、一部その後にナデ調整。その他内外面は回転ナデ。焼成良好で灰色を呈する。

坏c（2） 復元高台径6.4cm。内外面底部はナデ、その他は回転ナデ調整。焼成還元良好で淡灰白色を呈する。

皿a（3、4） 3は復元口径18.4cm、器高2.05cm、復元底径15.2cm。外面底部は回転ヘラ切り後粗いナデ。その他は回転ナデ。色調は明灰色で、一部暗灰色を呈する。4は外面底部は回転ヘラ切り後丁寧なナデ。内面底部も丁寧なナデ。その他は回転ナデ。焼成良好で明青灰色を呈する。

壺（5） 復元底径15.4cm。胎土は僅かに砂粒を含み、焼成良好で淡灰青色を呈する。外面底部は回転ヘラ切り未調整、内面底部はナデ、その他は回転ナデ。

白磁

皿 図化していないが、広東系の皿の破片が1点出土している。

瓦類

平瓦（6～9） 6はアミダくじのような格子叩き。7は格子叩きに「平井」の文字みえる。焼成良好で青灰色を呈する。8は格子目内に刻み目があり、「目」の字のような叩きを施す。焼成は不良で淡灰色を呈する。9は方形の格子叩き。色調は黄橙白色を呈する。

251SX001 暗灰色土出土遺物（Fig. 18・19）

須恵器

蓋c（17） ボタン上のつまみを貼付する。外面は回転ヘラケズリで、内面は回転ナデ後不定方向のナデ、焼成良好で淡灰白色を呈する。

蓋c3（20） 復元口径15.4cm。つまみは欠落する。口縁端部は僅かにつまむ程度である。外面上半部は回転ヘラケズリ、一部粗いナデ調整される。内面は回転ナデのあと丁寧な不定方向のナデ。それ以外の内外面は回転ナデ調整される。

蓋3（18～27） 全体として外面上半部は回転ヘラケズリ、内面上半部はナデ調整、それ以外の内外面は回転ナデ調整される。焼成還元は良好で、淡灰色や青灰色などを呈する。18は復元口径14.1cm。口縁端部は僅かにつまむ程度である。外面上半部はナデ調整される。19は復元口径15.0cm。内面上半部は丁寧な不定方向のナデ調整。21は潰れた蓋で全体も歪んでいる。復元口径13.0cm。22は復元口径12.9cm。口縁端部は僅かにつまんだ程度の回転ナデ調整。23は復元口径19.6cm。外面の上部の2/3は回転ヘラケズリ、内面2/3は回転ナデ後不定方向のナデ。その他は回転ナデ。24は全体が扁平な蓋で、

口縁端部だけが重ね焼きの関係で青灰色を呈する。25は外面にヘラ記号ある。27の口縁端部は指でつまんだような断面三角形に仕上げる。

坏a（28～30） 28は復元口径14.4cm、器高3.05cm、復元底径11.0cm。29は底部回転ヘラ切り後丁寧なナデ調整で、それ以外は回転ナデ。30は底部外面がヘラ切り後ナデ調整。

坏c（31～41） 全体として底部はヘラ切り後粗いナデ、内面底部は回転ナデの後不定方向のナデ調整。その他は回転ナデ調整である。焼成還元は良好で、淡灰白色や暗灰色などを呈する。31の体部は真っ直ぐ外開きで、復元口径14.8cm、器高4.05cm、復元高台径9.6cm。焼成良好で淡灰色を呈する。32はやや丸みがあって、体部が厚い。復元口径13.4cm、器高3.45cm、復元高台径4.8cm。焼成は良好で淡灰白色を呈する。33は復元高台径10.2cm。焼成はやや不良。底部外面には板状圧痕が残る。丸みがある体部で、潰れた低い高台を貼付する。34は方形のやや高い高台を貼付する。35は復元高台径10.0cm。底部外面は回転ヘラ切りが明瞭に残り、一部ナデ調整する。37は復元高台径7.5cm。38は復元口径9.4cm。39は復元高台径10.8cm。41は底部外面に墨書が残されている。

皿a（42、43） 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、内面底部はナデ、その他は回転ナデ調整。胎土は精製され、焼成は良好である。

高坏b（44、45） 口縁部を僅かに外反させる。外面下半は回転ヘラケズリ、内面下半は不定方向のナデ、その他は回転ナデ。焼成は良好である。44は復元口径19.4cm、色調は淡灰青色を呈する。45は口縁部がうっすらと灰が被っている。

壺a（46） 復元口径10.0cm、器高15.5cm、復元高台径12.3cm。外面下半は回転ヘラケズリで、底部外面はヘラケズリの後回転ナデ調整される。内面底部は回転ナデの後ナデ、それ以外は回転ナデである。胎土は砂粒少量含み、焼成還元は良好で淡灰青色を呈する。

壺e（47） 胎土は微細な砂粒を含み、淡灰青色などを呈する。外面は叩きの後ナデ、内面は当て具を回転ナデで消している。

甕（48、49） 48は胎土が0.1cm以下の砂粒を多く含む。外面は灰かぶりで、内面はヨコナデ、体部内面は叩きの後ナデ調整される。49は復元口径14.7cm。胎土は0.1cm以下の砂粒を多く含む。口縁部内外面は回転ナデで一部工具が当たったような痕跡がある。体部内面はナデの後一部ヘラケズリ、外面はタタキ調整される。焼成還元良好で淡灰青色を呈する。

土師器

坏a（50） 焼成不良で摩滅し調整不明瞭。色調は淡黄灰色を呈する。

大坏c（51） 復元高台径13.4cm。焼成は不良で摩滅が目立つ。色調は橙色や白橙色を呈する。

甕（52～55） 全体的に摩滅が目立つ。胎土は0.1cm前後の砂粒を多く含み、色調は淡茶褐色などを呈する。52は内面の一部に煤が付着する。53は外面に煤が付着する。54は胎土に角閃石を僅かに含む。

白磁

椀 出土量としては少ないが、Ⅴ類やⅧ類の破片が出土する。

椀（56） 内面底部の釉を輪状に掻き取っている。Ⅷ類。

皿 Ⅱ類とⅤ類の破片が1点ずつ出土する。

皿（57） 内面底部に僅かな段がある。底部外面は露胎。Ⅴ類。

鉢（58） 内面と体部外面には淡緑灰白色釉が施される。胎土は僅かに白色粒を含む。底部外面は回転ヘラケズリで露胎。復元高台径10.7cm。

瓦類

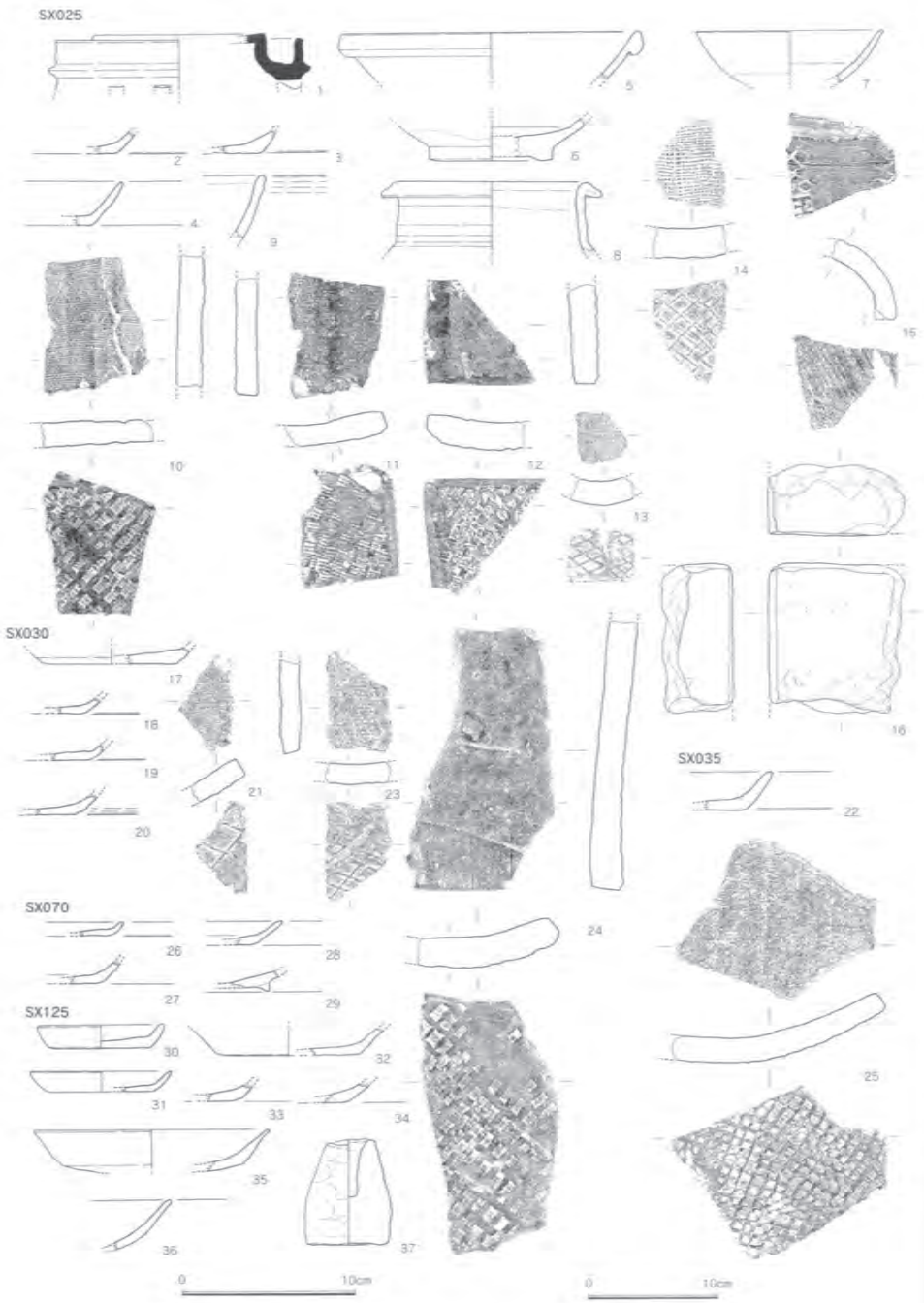


Fig. 20　251SX025・030・035・070・125 出土遺物実測図（1/3、瓦は 1/4）

平瓦（10～14）　10～12 は方形の格子叩き。10～12 の凹面には布目痕に模骨痕が残る。13 はやや太目の斜格子叩き。側面はヘラ切り後ナデ調整。14 は縄目叩き。側面はヘラ切り。凹面の途中に分割線が浅く入り、そこで欠損する。意図的に割ったとは思えず、ヘラ挿入を間違えた可能性がある。

丸瓦（15～17）　16 は陰文の格子目で、内面に布目痕と糸切り痕が残る。17 は格子目に「平井瓦」とある文字瓦。

251SX025 出土遺物（Fig. 20）

須恵器

円面硯（1）　硯面は復元径 9.8cm で、使用によってやや平滑である。脚部には方形の透かし窓が施されている。焼成は良好。

土師器

小皿 a（2）　焼成不良で摩滅する。胎土は精製され、淡橙色や黄白色を呈する。

坏 a（3、4）　3 は焼成不良で摩滅しているが、底部は回転ヘラ切り。4 は器高 2.5cm、底部切り離しはヘラ切りとみられる。色調は黄灰色を呈する。

白磁

椀（5、6）　5 は口縁部でⅣ類。6 は底部で、内面に沈線が巡る。Ⅳ-1a 類。

皿（7）　Ⅱ-1a 類。内面底部に沈線が巡り、淡緑灰白色釉を薄く施すが、外面下半は露胎である。

壺（8）　広東系の壺の口縁部で、復元口径 12.7cm、口縁端部を折り曲げている。胎土は淡灰白色で、外面と内面端部が淡褐灰色釉で薄く施釉されるが、釉の剥落も目立つ。

越州窯系青磁

鉢（9）　口縁部外面に突帯と沈線を施し、内外面に淡灰黄色釉を施すが、全体的に釉は剥落する。外面には砂状の付着物がみられる。

瓦類

平瓦（10～14）　10～12 は凸面に「目」の字のような格子叩きを施す。10 は焼成良好で暗灰色を呈する。11 は格子叩きがやや甘い。焼成はやや不良で淡灰黄白色を呈する。側面はヘラ切りし、両面端部は面取りヘラケズリを行う。12 は凹面に糸切り痕が残り、焼成は良好で灰色を呈する。内外面端部と側面はヘラケズリ調整する。13 は斜格子叩き。14 は方形格子叩き。

丸瓦（15）　凸面は陰文の格子叩きで「平」の文字が見える。

土製品

塼（16）　胎土は 0.5cm 以下の砂粒を含み、灰色や暗灰色を呈する。調整は不明瞭で、灰色や暗灰色を呈する。

251SX030 出土遺物（Fig. 20）

土師器

坏 a（17～20）　17 は復元底径 7.7cm、底部切り離しは回転糸切り。焼成良好で淡褐灰色を呈する。18 は底部回転糸切り。19・20 は摩滅しているが、20 の外面底部に板状圧痕が残る。

瓦類

平瓦（21）　凸面にはやや大きい格子叩きを施す。側面はヘラケズリを施す。胎土は 0.1cm 以下の砂粒を含み、焼成は良好で暗青灰色を呈する。

251SX035 出土遺物（Fig. 20）

土師器

坏 a（22）　外面底部切り離しは回転糸切り。色調は淡黄灰色を呈する。

瓦類

平瓦（23～25）　23は斜格子叩き。24は焼成不良で全体的に摩滅が目立つ。凸面には「目」のような格子叩きを施し、凹面は模骨痕が残るが摩滅し不明瞭。色調は淡灰白色を呈する。25はやや小さな方形格子叩き。焼成やや不良で、淡褐灰色を呈する。全体的に摩滅するが凹面には布目と模骨痕が残る。

251SX070 出土遺物（Fig. 20）

土師器

小皿a（26）　底部切り離しは糸切り。色調は淡褐茶色を呈する。

坏a（27、28）　色調は淡褐茶色を呈する。27は底部糸切りか。28は器高1.4cm。摩滅するが確認できる部分は回転ナデが残る。

黒色土器

椀c（29）　三角形の低い高台が貼付される。焼成不良で摩滅する。B類。

251SX125 出土遺物（Fig. 20）

土師器

小皿a（30、31）　2点とも底部切り離しは回転糸切り。色調は淡橙褐色を呈する。30は口径7.3cm、器高1.4cm、底径6.0cm。焼成やや不良。31は復元口径8.2cm、器高1.2cm、復元底径6.1cm。

坏a（32～34）　32は復元底径8.4cm。底部外面には板状圧痕が残るが、切り離しは不明。33・34の底部切り離しは糸切りである。

丸底坏a（35、36）　2点とも体部中位から口縁部にかけての破片で、磨滅が目立つ。35は復元口径13.5cm。体部中位がやや膨らんでいる。

小壺（37）　ほぼ完形で、口径2.9cm、器高6.1cm、底径4.6cm。体部はナデ調整される。色調は淡黄白色を呈する。

○第2面

掘立柱建物

251SB060e 出土遺物（Fig. 21）

須恵器

坏c（1）　底部内外面はナデ調整。その他は回転ナデ。色調は青灰色を呈する。復元高台径7.8cm。

251SB060K 出土遺物（Fig. 21）

須恵器

蓋3（2）　口縁端部の破片で、内外面回転ナデで、焼成還元良好で淡青灰色を呈する。

柵列

251SA090b 柱痕出土遺物（Fig. 21）

須恵器

坏c（3）　復元口径13.0cm、器高3.9cm、復元高台径7.7cm。低く潰れた高台を貼付する。外面底部はヘラ切り後未調整。内面底部はナデ。その他は回転ナデ。焼成良好で青灰色を呈す。

溝

251SD080 出土遺物（Fig. 22）

須恵器

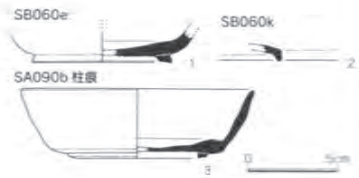


Fig. 21　251SB060・SA090
出土遺物実測図（1/3）

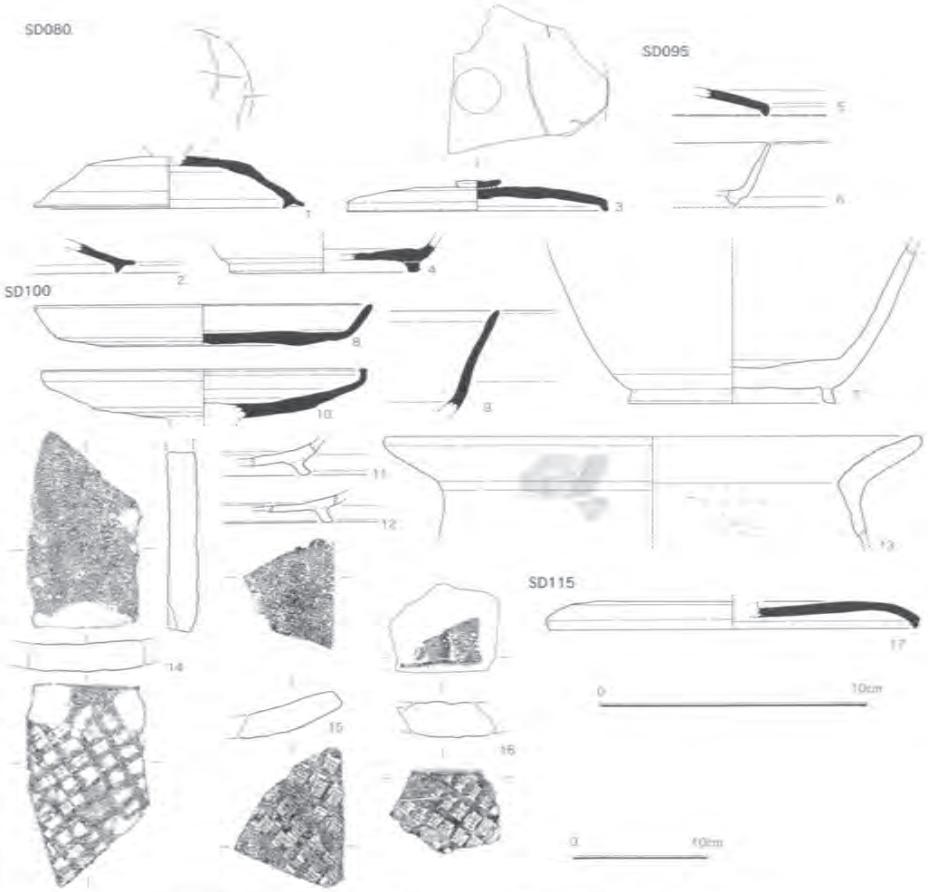


Fig. 22　251SD080・095・100・115 出土遺物実測図（1/3、瓦は1/4）

蓋c1（1）　復元口径15.1cm。ツマミは欠落する。外面上半部はヘラ切り後粗いナデ調整、内面上半部は回転ナデの後ナデ調整、その他は回転ナデ。色調は暗灰色などを呈する。

蓋1（2）　口縁端部の破片で、内外面とも回転ナデ。色調は淡灰白色を呈する。

蓋c3（3）　復元口径14.5cm、器高1.7cm。外面上半部は回転ヘラケズリ、下半は粗いナデ調整され、そこにヘラ記号が施されている。焼成良好で暗青灰色を呈する。

坏c（4）　復元高台径10.6cm。胎土は0.1cm以下の砂粒を多く含む。色調は淡灰青色で、外面下半は青灰色を呈する。

251SD095 出土遺物（Fig. 22）

須恵器

蓋3（5）　口縁端部はやや丸い三角形を作り出している。外面上半部は回転ヘラケズリで、その他は回転ナデ。胎土は白色砂粒を含み、淡灰色を呈する。

土師器

坏ｅ（6）　焼成不良で全体的に磨滅する。胎土はやや粗く色調は淡橙色を呈する。

大椀ｃ（7）　復元高台径 11.6cm。焼成不良で全体的に磨滅する。胎土は 0.4cm 以下の砂粒を多く含みやや粗い。色調は淡橙茶色を呈する。

251SD100 出土遺物（Fig. 22）

須恵器

皿ａ（8）　復元口径 18.6cm、器高 2.35cm、復元底径 11.0cm。外面底部は回転ヘラケズリ、内面底部は不定方向のナデ、その他は回転ナデ。焼成良好で淡灰色や青灰色を呈する。

坏（9）　体部の破片で、内外面とも回転ナデ調整。還元不良で、内面は淡赤茶灰色を呈する。

高坏ｂ（10）　復元口径 18.1cm。坏部内面は回転ナデ後不定方向のナデ、外面は上半部が回転ナデで一部工具が当たった痕跡が残る。下半は回転ヘラケズリ後ナデ調整。胎土はやや粗く、青灰色や暗灰色を呈する。

土師器

坏ｃ（11、12）　2 点とも外側に踏ん張った高台を貼付する。胎土は砂粒を多く含みやや粗い。焼成は不良で淡乳灰色を呈する。

甕（13）　復元口径 30.0cm。口縁部が体部より張り出しているものと推測される。口縁部から体部にかけてタテハケ、体部内面はヘラケズリ。焼成は良好。胎土はやや粗く淡茶褐色を呈する。

瓦類

平瓦（14 ～ 16）　14 はやや太い正格子叩き、凹面は磨滅が目立つが布目痕が僅かに残る。端部がヘラケズリ調整される。焼成はやや不良で淡茶灰色を呈する。15・16 は凸面に「目」のような格子叩き、凹面に模骨痕が残る。15 は焼成還元不良で淡灰橙色や橙色を呈する。側面ヘラ切り。16 は灰色を呈する。

251SD115 出土遺物（Fig. 22）

須恵器

蓋 c3（17）　復元口径 20.8cm。ツマミは欠損するが、その接合のための回転ナデ調整が確認できる。外面の 2/3 は回転ヘラケズリ、内面上半部はナデ、その他は回転ナデ調整。色調は暗青灰色を呈する。

第 2 面その他の遺構

251SX087 出土遺物（Fig. 23）

須恵器

蓋 3（1）　口縁端部は明確な三角形で、焼成良好で内外面とも回転ナデ。

坏ａ（2）　内外面とも回転ナデ。焼成良好で淡青灰色を呈する。

瓦類

平瓦（3）　凸面に小さな方形格子叩きを施す。凹面は布目痕と糸切り痕が残り側面近くの端部だけがナデ調整される。側面はヘラケズリ。焼成やや不良で褐灰色を呈する。

251SX075 出土遺物（Fig. 23）

須恵器

坏ａ（4）　復元底径 9.6cm。焼成不良で調整不明。色調は淡橙白色を呈する。

坏ｃ（5 ～ 8）　低くやや潰れた高台を貼付する。底部外面はヘラ切り後粗いナデ調整、内面底部は回転ナデ後不定方向のナデ。その他は回転ナデ。焼成良好で色調は灰色や青灰色を呈する。5 は復元高台径 8.5cm。6 は復元高台径 8.2cm。7 は復元高台径 8.7cm。8 は復元高台径 12.2cm。

鉢（9）　胎土は微細な砂粒を含み、灰色を呈する。内外面回転ナデで、口縁部は端部を平坦にするた

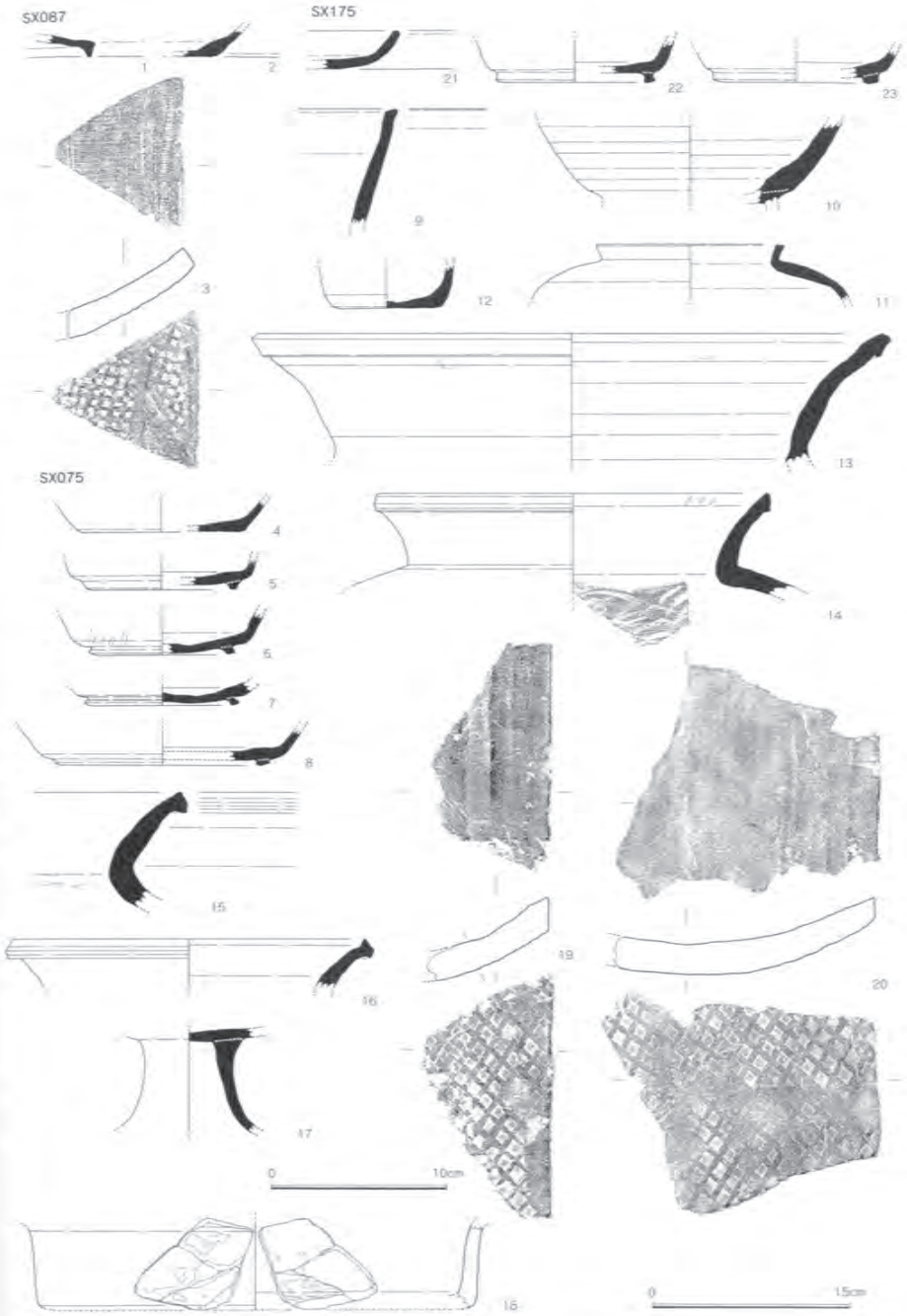


Fig. 23　251SX087・075・175 出土遺物実測図（1/3、瓦は 1/4）

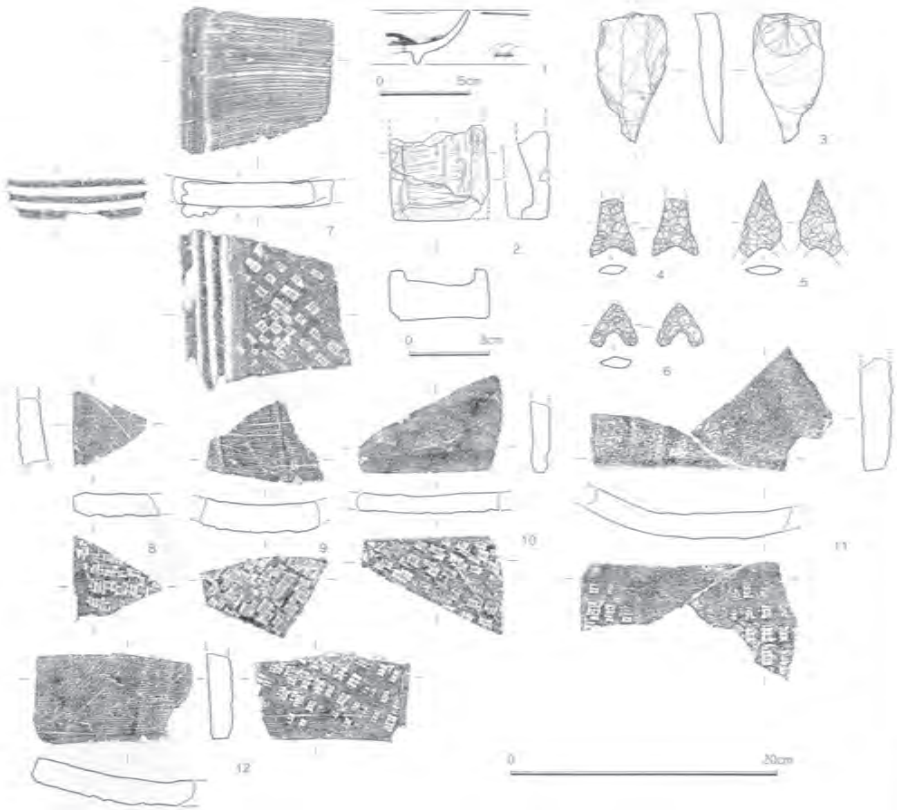


Fig. 24　第 251 次調査灰色土出土遺物実測図（1 は 1/3、2 ～ 6 は 1/2、瓦は 1/4）

めに摘まんで回転ナデ調整する。

壺（10）　体部下半で高台が僅かに残る。胎土は微細な砂粒を多く含み、焼成良好で灰白色を呈する。内面は強い回転ナデで、外面は回転ヘラケズリ調整。

壺 a（11）　いわゆる短頸壺で、復元口径 10.6cm。焼成は良好で灰色や暗灰色を呈する。内外とも回転ナデ。

小壺（12）　外面最下半と底部外面回転ヘラケズリ。その他は回転ナデ、内面底部は不定方向のナデ。色調は灰色を呈する。復元底径 6.2cm。

甕（13 ～ 16）　口縁部の破片で、内外面とも回転ナデ。焼成還元良好で淡灰色を呈する。13 は復元口径 36.0cm。一部に指頭痕が残る。14 は復元口径 22.4cm。体部内面には同心円の当て具痕、外面は叩きの後丁寧なナデ調整。15 は外面を中心に自然釉がみられる。体部内面は当て具痕をナデ消している。16 は復元口径 20.0cm。

高坏（17）　脚部の破片で、胎土は微細な砂粒を多く含み、焼成は良好で色調は淡灰青色を呈する。脚部内外面は回転ナデ調整。

奈良三彩

火舎（18）　底部付近の僅かな破片だが、復元底径は 24.6cm。胎土は微細な砂粒を含むがきめ細かく、黄褐色や淡黄褐色を呈する。釉調は光沢のある黄緑色、緑色、褐色釉が施されているが、内外面とも剥落し、僅かに残るだけで、底部外面端に 0.1cm ほどの釉が点で残り、底部も施釉されていた可能性が考えられる。釉が剥落した面には、内外面とも回転ナデ調整が明瞭に確認できる。

瓦類

平瓦（19、20）　2 点とも凸面がやや太い格子叩きで、一部ナデられている。凹面は布目痕と模骨痕が残る。凹面側端部と側面はヘラ切りである。焼成良好で淡灰白色を呈する。

251SX175 出土遺物（Fig. 23）

須恵器

皿 a（21）　体部と底部の境は丸味があって、内外面とも回転ナデ調整。淡白褐色を呈する。

坏 c（22、23）　22 は復元高台径 9.0cm。底部内外面はナデ、その他は回転ナデ。23 は太く低い高台を貼付し、復元高台径 9.4cm。焼成良好で淡灰褐色を呈する。

第 251 次調査灰色土出土遺物（Fig. 24）

肥前系磁器

椀（1）　内外面とも施釉され、呉須で文様を描く。

石製品

不明石製品（2）　幅 3.6cm、厚さ 1cm 程で、内面を削り込み硯のような形状を作り出している。滑石製。

剥片（3）　縦 4.85cm、横 2.65cm、厚さ 0.9cm。黒曜石製。

石鏃（4 ～ 6）　4 は先端を欠損し現存長 2.15cm、幅 1.1cm、厚さ 0.4cm、黒曜石製。5 は現存長 2.85cm、幅 1.35cm、厚さ 0.35cm。安山岩製。6 は縦 1.6cm、幅 1.55cm、厚さ 0.4cm、安山岩製。

瓦類

軒平瓦（7）　瓦当面と凸面端部が三重の重弧文で、凸面に「目」のような格子叩き痕を施し、凹面に糸切り痕と布目痕が残る。胎土は 0.2cm 以下の白色砂粒や茶色粒を含み、淡黄灰色を呈する。焼成はやや良好。

平瓦（8 ～ 12）　凸面には「目」の文字のような格子叩きが施され、凹面に布目痕が残る。胎土は 0.2cm 前後の白色砂粒を少量含む。焼成良好もしくはやや不良で、淡灰色や灰色を呈する。10・11 は凹面に模骨痕が残る。

その他の遺物（Fig. 25）

瓦器

椀（1）　口縁端部は丸く仕上げる。外面はミガキ c、内面もミガキが見られる。色調は灰色や暗灰色で銀色化している。S-18 より出土。

灰釉陶器

椀×皿（2）　復元高台径 7.2cm。胎土は淡灰白色で、外面下半と内面底部が輪状に露胎で、その他には淡灰緑色釉を施す。S-127 より出土。

瓦類

軒平瓦（3、4）　瓦当面と凸面端部が重弧文。3 は胎土に 0.1cm 前後の砂粒を含み、焼成良好でやや須恵質で灰色を呈する。S-34 より出土。4 の胎土は 0.2cm 以下の白色砂粒や茶色粒を含み、淡黄茶灰色を呈する。焼成は不良。S-16 より出土。

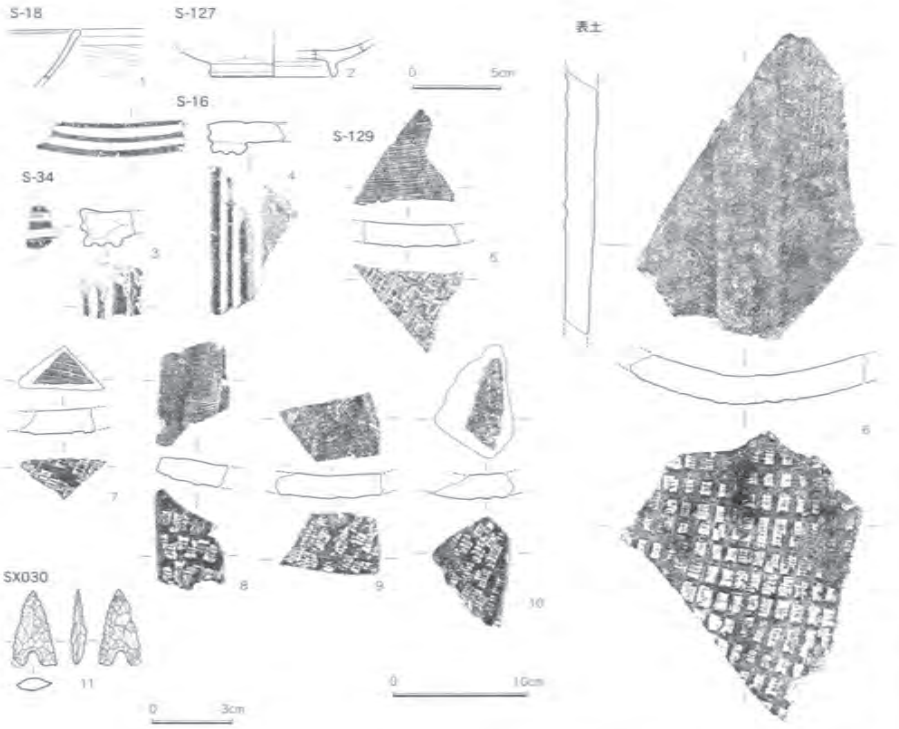


Fig.25　その他の遺構出土遺物実測図（11は1/2、1・2は1/3、瓦は1/4）

平瓦（5～10）　全て凸面に『目』のような格子叩きを施す。凹面には布目痕が残る。胎土には0.1cm前後の砂粒を僅かに含む。5は焼成良好で暗灰色を呈する。S-129より出土。6は焼成良好で淡灰色を呈する。表土より出土。8は側面がヘラ切りで、凹面端部は摩滅するがヘラケズリを行っている。焼成還元がやや不良で淡灰褐色を呈する。S-34より出土。9は焼成還元がやや不良で淡明灰色を呈する。凹面には模骨痕が残る。S-34より出土。10は焼成がやや不良で灰色を呈する。S-34より出土。

石製品

石鏃（11）縦2.9cm、幅1.6cm、厚さ0.5cm。安山岩製。SX030出土。

(5) 小結

調査区の広範囲を土取り遺構が占め、その掘削を免れた部分で、掘立柱建物や条坊関係の溝が確認された。主な遺構は奈良時代と条坊廃絶後の12～13世紀代の遺構で、平安時代にはSD005やSB185などの遺構があるものの遺構は少ない。

調査区で古い遺構として、8世紀前半に251SB060や251SB090（236-2SB060）の総柱の建物が並んでいる。その建物付近は井上条坊案の16条に位置し、ちょうどその付近幅20m間で東西溝が多く検出された。埋没時期がそれぞれ微妙に異なるが、奈良時代がSD065とSD045間（SF195）で、平安時代には南に下がったSD005とSD062間（SF200）が16条の道路と推測される。この付近が道路等の境界域であったと考えられる。また、251SF195に取り付く南北道路（251SF205）があるが、これは251SB060廃絶後に築造され、16条路より先に埋没している。251SB060が251SB090（236-2SB060）と共に政庁Ⅰ期に存在したものと推測される。

また、調査区内に広がる土取り遺構は、隣接する第216・236-2・255次調査でも確認されている。土取り遺構は前述した16条路を横切っており、出土遺物が12世紀代の遺物であることから、条坊廃絶後の12世紀代に大規模な土取りが行われたと考えられる。土取り遺構の埋土には砂や腐食土など自然堆積した痕跡が見られないため、掘削後放置されることなく、速やかに整地作業を行われたことが理解できる。

土取り遺構埋没後に条坊の正方位と異なる掘立柱建物（SB130やSA135）や溝が検出された。条坊廃絶後に土取りが行われ、その後13世紀代に居住域として利用されたと考えられる。その後の遺構遺物とも皆無に等しい。

表.1　第251次調査　遺構一覧表

通番	遺構番号	種別	埋土・切り合い等	調査面(遺構面)	時期	地区	掲載頁
1	251SX001	土取り跡	遺物の約9割は奈良時代	1	11世紀後半～12世紀前半	AA～AH・2～12	12.14.24～27.29
2		ピット群		1	古代	AG2・3	
3		溝		1	古代	AG3	
4		土坑		1	古代	AG3	
5	251SD005	溝	灰色土と黄灰色土の混合層	1	11世紀後半～12世紀前半	AJ5～14	9.10.17.18
6		土坑		1		AG2	
7		溝	淡暗灰色土	1		AH・2	
8		窪み	淡灰色土	1		AI2・3	
9		ピット群		1		AA2・3	
10	251SD010	溝	暗灰色土　S-20→10	1	8世紀後半	AF～AI4	9.10
11		窪み		1	奈良時代	AAAB1・2	
12		窪み群		1		AA1・2	
13		土坑	暗灰色土	1	奈良時代	AA2・3	
14		土坑		1	古代	AB2	
15	251SD015	溝		1	8世紀後半	AF2・AG3	9.10
16		溝		1		AJ・AK4	
17		溝		1		AI・AJ3	
18	251SX025	窪み	暗灰色粘土	1	平安時代後期～	AK1	
19		ピット群		1		AF3	
20	251SD020	溝	暗灰色土　S-20→10　S-80の終点	1		AG3・4	15
21		窪み		1	近世～	AC2	
22		ピット群		1		AC2	
23		溝	暗灰色土	1		AF2・AG3	
24		窪み	整地の一部	1		AF・AG3	
25	251SX025	窪み	暗灰色粘土と黄灰色土の混合層	1	12世紀代	AE～AP3～8	14.28.29
26		窪み	灰茶色土	1	奈良時代	AEAF7・8	
27		窪み	暗灰色粘質土	1		AG8	
28		たまり	灰色粘質土	1		AA6	
29		たまり	灰色砂質土	1		AA6	
30	251SX030	土取り跡	暗灰色土、黄色土混じり。S-35・70と同一	1	12世紀～13世紀	AP～35・9～15	14.28.29
31		ピット群		1		AK3	
32		土坑	暗灰色土　S-32→16	1	古代	AK3	
33		溝	黄茶色土　サビ沈着	1	近現代	AO6・7、AB8	
34		窪み		1	奈良時代?	AL10～12	
35	251SX035	土取り跡	S-30・70と同一	1	12世紀頃	AO～AQ9	14.28～30
36		ピット		1		AJ7	
37	251SB185	ピット群	S-185の一部	1	平安時代後期	AN10	
38		窪み	淡灰色土　S-38→19?	1	奈良時代?	AI4	
39		溝	西鉄以前の畦畔?　灰茶色土（S-41と同じ埋土）	1	近代	AIJJ9～14	
40	251SX040	土坑		1	奈良時代?	AQ6	11.12.22.23
41		溝	西鉄以前の畦畔?　灰茶色土	1	近代	AIJJ9～14	
42	251SD062	溝	灰茶色土	1	平安時代	AI7	10
43		ピット群		1	平安時代後期	AN9	
44		土坑	黄茶色土	1		AF4	
45	251SD045	溝	上層は茶灰色粘土、下層は灰茶色土　S-60→50→45	1	奈良時代	AL5～14	10.17～19
46		ピット群		1		AG11・AH13	
47		ピット群		1		AK2・8	
48		ピット		1		AL12	
49		ピット		1		AI7	
50	251SD050	溝	暗灰色土　S-60→50→45	1	8世紀後半	AH～AL10	10.17.19
51		ピット群		1		AE3	
52		窪み		1		AP・AQ4・5	
53		土坑		2		AP7	
54	251SD054	溝	SD115の延長上	1		AP・AQ8	
55	251SK055	土坑	灰茶色土、黒灰色土	1	12世紀後半～	AK9	12.22.23
56		ピット群	一部がSB185	1	平安時代後期	AL9	
57		ピット群	一部がSB185とSA190	1	平安時代中期～	AM10	
58		ピット群		1		AE7	
59		溝		1	古代	AF6・7	
60	251SB060	掘立柱建物	S-60→50→45	2	8世紀前半	AJ～AL・10～12	13.14.30
61		溝		1		AI10	
62	251SD062	溝		1	平安時代中期～	AJ7～10	10
63	251SD063	溝		1	平安時代後期～	AJ7～10	10
64		ピット		1		AF12	
65	251SD065	溝	灰茶色土	1	8世紀中頃～後半	AO10～15	10.19
66		土坑	暗灰色土	1		AH7	
67		ピット群	一部がSB185とSA190	1	古代	AM11	
68	251SD068	溝		1		AI8～10	10
69	251SX069	土坑もしくは溝	茶灰色粘質土	1	8世紀後半	AK13・14	14
70	251SX070	土取り跡	S-30・35と同一	2	12世紀～	AP13	14.28.30
71		窪み群		1		AL13	
72		溝		1	近世～	AI11・12	
73		溝		1		AM10・11	
74		ピット		1		AL10	
75	251SX075	整地層	1面基盤層　茶灰色土	1	8世紀中頃～後半	AF～AL・5～11	32～35
76		ピット		1		AG5	

77		窪み		1	奈良時代?	AJ12	
78		ピット		1		AI12	
79		ピット		1		AN12	
80	251SD080	東西溝	淡茶色粘質土、灰色土　S-80→95	2	8世紀前半	AG5～7.	15.30.31
81		たまり	S-5西溝の上層	1		AJ14	
82		ピット群		1	古代	AL5	
83		土坑		1	古代	AL6	
84		ピット		2		AL4	
85		溝	茶灰色粘質土	2	奈良時代	AG6	
86		たまり	茶灰色土	2	奈良時代	AI7	
87	251SX087	たまり	暗灰色土に黒色土混じる　S-87→120	2	8世紀前半	AI10	32.33
88		たまり?		2		AK9	
89		溝		1		AS14	
90	251SB090	掘立柱建物	第236-2次調査SB060の一部	1(2)	8世紀前半～中頃	AJ1	15.30
91		ピット群		1	古代	AT15	
92		ピット群		1	古代	AT13	
93		ピット群		1	古代	AS15	
94		窪み		1		AR15	
95	251SD095	南北溝	暗灰色土　S-80→95	2	8世紀中頃～後半	AB～AK8	15.31.32
96		ピット		1		AU15	
97		ピット		1	古代	AW15	
98		窪み	暗灰色土	1		AW10	
99	251SD099	溝	暗灰色土	1	古代	AX10	10
100	251SD100	溝	茶灰色粘質土　S-119→100	2	8世紀後半?	AJ3～8	15.31.32
101		ピット群	一部がSB180	1		AW11	
102	251SB180	ピット群		1		AU11	
103	251SB180	ピット群		1		AT10	
104		窪み		1		AT16	
105	251SD105	溝	灰茶色土	2	奈良時代?	AK4	15
106	251SK106	土坑	井戸かも	1	8世紀後半	AS15	12.22～24.26
107		ピット	S-140の下	1		AT15	
108		窪み		1		AS13・14	
109		窪み群		1		AT～AY8	
110	251SD110	溝	灰茶色土　S-110→100	2	奈良時代	AC3～	
111		ピット群		4	平安時代後期	AT・AU8	
112	251SD112	溝		1		AC14	10
113		窪み	明灰色土、下層は暗灰色土で一部深い	1		AU14・15	
114		土坑		1		AV14	
115	251SD115	溝	茶灰色粘質土　S-96→115	2	奈良時代	AK8	15.31.32
116		溝	S-165の上面	1		AU13・14	
117		土坑		1		AT13	
118		土坑		1		AS12	
119		ピット		4		AS12	
120	251SA120	柵列	S-87→120→60	2	8世紀代	11ライン	14.15
121		土坑		1	平安時代	BA14	
122		ピット群		1		AY14	
123		溝	明灰色土　S-165との境が不明瞭	4		AS・AT14	
124		土坑	暗灰色土	1		AW9	
125	251SX125	土取り	暗灰色土	1	13世紀～	AT～BF・11～15	14.28.30
126		ピット群		1	平安時代後期	ARAS9	
127		たまり		1	平安時代	AEAV9	
128		たまり		1	奈良時代	AU10・11	
129		溝	S-128の下	1	8世紀	AF10	
130	251SB130	掘立柱建物		1	13世紀～	AT～AY・11～15	7.8.16.18
131		たまり	S-131→160	1		AT9	
132		たまり		1		ARAS8	
133		たまり		1		ASAT7・8	
134		ピット		1	平安時代後半	AS8	
135	251SA135	柵列		1		AS12～14	7.8.16.18
136		ピット		1		AU9	
137		ピット		1		AV8	
138		窪み		1	平安時代後半～	AS10・11	
140	251SD140	溝	灰茶色土の炭層	1	平安時代後半～	AT11～15	10.11.19
145	251SD145	東西溝	黒灰色土	1		AW10～12	11
150	251SD150	溝	明灰褐色土の単層	1	奈良時代	AT13～15	11.19.21
155	251SD155	溝	灰褐色土の単層	1		AS9～11	11
160	251SE160	井戸		1	12世紀前半頃	AT10	11.12.20～23
165	251SD165	溝	明灰色土	1		ATAU12～15	11
170	251SD170	溝	S-155の延長?	1		AS13	11
175	251SX175	整地		1	奈良時代	AT12付近	33.35
180	251SB180	掘立柱建物		1	13世紀～	AT～AW11・12	7.9
185	251SB185	掘立柱建物	後告整理中に確認	1	平安時代	AMAN10・11	7.9
190	251SA190	柵列	後告整理中に確認	1		AM8～11	7.9
195	251SF195	東西道路	S-45と48の間	1	奈良時代	AXAM7ライン	12
200	251SF200	道路	S-5と62の間	1	平安時代	AIAJ3ライン	12
205	251SF205	南北道路	S-80と96の間	2	奈良時代	AH～AE9・10	15.16

表.2　第251次調査　条坊関連遺構座標値

遺構番号	位置	遺構中点座標値		南門からの距離		方位
		X	Y	X方向 (m)	Y方向 (m)	
251SD005	東端	55606.58	−44623.00	−1100.066	208.748	E-1° 41′ 20″ -S
	西端	55607.28	−44646.74	−1099.604	185.002	
251SD010	北端	55602.80	−44620.94	−1103.825	210.846	N-16° 38′ 27″ -W
	南端	55593.80	−44618.25	−1112.798	213.626	
251SD045	東端	55612.90	−44636.60	−1093.882	195.086	E-1° 58′ 25″ -S
	西端	55613.41	−44651.40	−1093.521	180.281	
251SD050	北端	55612.70	−44637.40	−1094.091	194.288	N-2° 53′ 21″ -E
	南端	55602.00	−44637.94	−1104.796	193.855	
251SD062	東端	55602.30	−44629.00	−1104.406	202.791	E-3° 9′ 42″ -S
	西端	55603.46	−44640.00	−1103.356	191.780	
251SD063	東端	55603.58	−44630.00	−1103.136	201.778	E-6° 23′ 26″ -N
	西端	55602.46	−44640.00	−1104.356	191.790	
251SD065	東端	55621.94	−44637.60	−1084.853	193.995	E-0° 46′ 27″ -S
	西端	55622.14	−44652.40	−1084.801	179.194	
251SD068	東端	55603.88	−44631.40	−1102.850	200.376	E-3° 46′ 20″ -S
	西端	55604.24	−44636.86	−1102.545	194.912	
251SD099	北端	55653.76	−44638.05	−1053.039	193.227	N-6° 17′ 54″ -E
	南端	55648.00	−44638.08	−1058.799	193.284	
251SD112	東端	55640.85	−44648.40	−1066.052	183.006	E-4° 38′ 42″ -N
	西端	55640.59	−44651.60	−1066.344	179.809	
251SD140	東端	55637.15	−44642.00	−1069.687	189.443	E-9° 46′ 2″ -N
	西端	55635.08	−44654.025	−1071.878	177.440	
251SD145	東端	55644.24	−44638.60	−1062.564	192.772	E-1° 28′ 42″ -N
	西端	55644.08	−44644.80	−1062.786	186.574	
251SD150	東端	55635.20	−44648.40	−1071.702	183.063	E-6° 53′ 0″ -N
	西端	55634.53	−44653.95	−1072.427	177.520	
251SD155・170	SD155東端	55634.20	−44636.60	−1072.584	194.872	E-7° 26′ 18″ -N
	SD170西端	55632.32	−44651.00	−1074.607	180.492	
251SD165	東端	55638.22	−44646.00	−1068.658	185.432	E-7° 3′ 49″ -N
	西端	55637.08	−44655.20	−1069.890	176.244	
251SF195	東端中点	55617.62	−44637.00	−1089.167	194.638	E-0° 40′ 35″ -S
(SD045・065間)	西端中点	55617.79	−44651.40	−1089.141	180.237	
251SF200	東端中点	55604.64	−44630.00	−1102.076	201.768	E-4° 7′ 5″ -S
(SD005・062間)	西端中点	55605.36	−44640.00	−1101.456	191.761	
251SD020・080	SD020東端	55599.04	−44614.60	−1107.522	217.223	E-3° 18′ 27″ -N
	SD080西端	55598.15	−44630.00	−1108.566	201.833	
251SD095	北端	55607.60	−44633.28	−1099.149	198.458	N-5° 5′ 14″ -W
	南端	55599.40	−44632.55	−1107.341	199.270	
251SD100	東端	55606.70	−44616.60	−1099.882	215.147	E-4° 16′ 14″ -S
	西端	55607.85	−44632.00	−1098.886	199.736	
251SD110	北肩東端	55608.62	−44622.73	−1098.024	208.998	E-6° 29′ 13″ -S
	北肩西端	55609.35	−44629.15	−1097.358	202.571	
251SF205	北端中点	55606.20	−44635.61	−1100.572	196.142	N-2° 19′ 4″ -W
(SD050・095間)	南端中点	55602.00	−44635.44	−1104.770	196.354	

政庁中軸線方位＝N-0° 34′ 24″ -E 政庁南門中点座標＝(X＝56708.680　Y＝−44820.730)

表.3　第251次調査　出土遺物一覧表

S-1暗灰色土

須恵器	蓋1、蓋3、蓋12、蓋c、坏、坏a、坏c、坏d(墨書)、皿、高坏、高坏b、壺、甕、甕a、鉢c、鉢d、鉢e、鉢×蓋	
土師器	坏、坏a、坏c、高坏、壺、把手、ﾐﾆ、ﾐﾆ? 破片、大坏c	
製塩土器	破片	
越州窯系青磁	椀：I(1)、III-1(1)	
龍泉窯系青磁	椀：II-b(1)　1類破片(1)	
同安窯系青磁	椀：III-b(1)	
白磁	椀：V(1)、V-4(1)、VIII(1)、外反口縁(1)、破片(1) 皿：(1)(1)、V(1)　盒？(1)　白磁破片(2)、広東系(1)	
中国陶器	壺：破片(1)	
緑釉陶器	破片	
瓦	軒	平瓦(格子叩,縄目叩,無文) 丸瓦(格子叩,無文)、丸瓦(無文)、瓦玉
金属製品	鉄滓	
石製品	平玉石、丸石	
土製品	焼土塊	

S-1灰茶色土

須恵器	蓋3、蓋c、坏c、高坏、皿a、壺、甕、破片	
土師器	坏a、坏c、壺、ﾐﾆ?、破片	
白磁	皿：広東系(1)	
瓦	軒	丸瓦(無文)、平瓦(縄目叩,格子叩,無文)
金属製品	鉄滓	

S-2

須恵器	坏	
土師器	破片	
瓦	軒	平瓦(格子叩,無文)

S-3

須恵器	坏、壺	
土師器	破片	
瓦	軒	平瓦(縄目叩)

S-4

須恵器	蓋、坏c	
瓦	軒	破片
金属製品	鉄滓	
石製品	石英	

S-5

須恵器	蓋1、蓋3、蓋c、坏c、壺、皿a、ブマミ	
土師器	坏、壺、破片	
越州窯系青磁	椀：II-gv(1)	
白磁	椀：IV(1)　白磁破片(1)	
瓦	軒	平瓦(縄目叩,格子叩,無文)
石製品	剥片(安山岩)	

S-6

須恵器	蓋a、破片	

S-7

土師器	坏、破片	

S-8

須恵器	壺	

S-9

須恵器	蓋1、坏、坏c	
土師器	坏、壺、破片	

S-10

須恵器	蓋3、坏、高坏a、壺、甕、破片	
土師器	坏、破片	
瓦	軒	破片

S-11

須恵器	蓋、蓋3、坏、坏c、壺	
土師器	坏、壺、破片	
瓦	軒	平瓦(縄目叩)、丸瓦(無文)

S-12

須恵器	蓋3、坏、坏c	
土師器	壺	
瓦	軒	平瓦(縄目叩)

S-13

須恵器	蓋3、坏、坏c、皿a、壺	
土師器	壺	
石製品	珪化木	

S-14

須恵器	坏c、破片	
土師器	壺	

S-15

須恵器	蓋1、蓋3、蓋c、坏c、高坏、壺、鉢	
土師器	坏、壺	
瓦	軒	平瓦(縄目叩)

S-16

須恵器	蓋3	
瓦	軒	軒平瓦(重弧文)

S-17

須恵器	破片	
土師器	坏	
瓦	軒	平瓦(格子叩)、傾し瓦
石製品	剥片(安山岩)	

S-18

須恵器	坏、壺、壺×鉢	
土師器	小型a×坏a、壺	
瓦	軒	鬼
輸入陶磁器	欽定陶器印(1)	
瓦	軒	平瓦(格子叩,縄目叩)
石製品	剥片(黒曜石)	

S-19

須恵器	壺、壺	
土師器	壺	

S-20

須恵器	破片	
土師器	破片	

S-21

須恵器	坏、破片	
瓦	軒	平瓦(格子叩)、傾し瓦

S-22

土師器	壺	

S-23

須恵器	坏、壺	
瓦	軒	破片

S-24

須恵器	坏、坏c、壺、壺×鉢	
土師器	壺、破片	
白磁	破片(1)	
瓦	軒	平瓦(縄目叩)、丸瓦(無文)
金属製品	鉄滓	

S-25

須恵器	蓋、蓋3、蓋c、坏a、坏c、高坏、椀c、皿a、壺 小壺、壺、円面硯、破片	
土師器	坏、坏a、椀c、壺、ﾐﾆ、把手、破片	
越州窯系青磁	椀：I-2ｱ(1)、I-2ｳ(1)　坏：III(1)	
龍泉窯系青磁	皿：I(1)	
白磁	椀：II-1-i(1)、IV(6)、IV-1a(1)、V-4×VI(1)-i×3(1)、破片?(6) 皿：II-1a(2)、VI-1a(1)、VI-3 (1) 壺？(1)、壺I(1)　破片?(6)、広東系(1)	
瓦	軒	平瓦(縄目叩,格子叩),無文)、丸瓦(無文)
石製品	砥石、剥片、丸石	
土製品	塼	

S-25灰茶色土

須恵器	蓋、蓋1、坏c、壺、破片	
土師器	坏、坏a、高坏、椀c、破片	
同安窯系青磁	皿：I(1)	
白磁	椀：II-1(1)、破片(1)　皿：VIII(1)　白磁破片(2)	
弥生土器	壺	
瓦	軒	平瓦(縄目叩,格子叩),無文)、丸瓦

S-26

須恵器	坏、坏c	
土師器	破片	
瓦	軒	丸瓦
金属製品	鉄滓	

S-27

須恵器	坏	
土師器	壺	

S-28

須恵器	坏	

S-29

須恵器	高坏、壺	
土師器	坏、壺	
瓦	軒	丸瓦(無文)

S-30

須恵器	蓋、蓋1、蓋3、蓋c、坏蓋、坏、坏a、坏c 高坏、壺、壺、皿a、鉢	
土師器	坏、坏a、坏a(1)、丸底坏?、椀c、壺、破片	
黒色土器A	破片	
越州窯系青磁	椀：II-2b(1)	
長沙窯系青磁	破片(1)	
龍泉窯系青磁	椀：I-1(1)、II-b(1)	
同安窯系青磁	皿：I(1)	
白磁	椀：IV(2)、V-1a×VIII-2(1)、V-4×VIII-b×3(1) 広東系(1)、破片(3) 皿：II-1a(1)、II-1(1)、IX(1) 白磁：破片(2)、広東系(1)、白磁壺(1)	
中国陶器	唐破片(1)、盤I(1)、中国陶器破片 (1)	
弥生土器	壺×壺、破片	
瓦	軒	平瓦(格子叩,縄目叩,無文)
金属製品	鉄滓、鉄釘？	
石製品	砥石、石錘、剥片、珪化木	

S-31

須恵	器	蓋3、破片
土師	器	坏
瓦	類	平瓦(縄目叩)

S-32

須恵	器	坏、壺
土師	器	坏、甕
瓦	類	平瓦(縄目叩,斜格子)

S-33

須恵	器	破片
土師	器	坏
瓦	類	丸瓦(縄目叩)

S-34

須恵	器	坏c、甕
土師	器	把手、破片
瓦	類	平瓦(格子叩,縄目叩)、軒平瓦(蓮弧文)
石製	品	丸石

S-35

須恵	器	蓋1、蓋3、蓋c、坏、坏c、高坏、甕、壺b
土師	器	坏、坏a、椀c、甕
緑釉陶	器	椀(京都)
回安東系青磁		椀：I-1b(2)
白	磁	椀：IV(1)、VII(1)、破片(3)
		皿：III-1(2)、V×VI(1)　　白磁破片(3)
須恵質(輸入)		緑釉系無釉陶器
瓦	類	平瓦(格子叩,縄目叩)、丸瓦(無文)、軒平瓦、埋し瓦
石製	品	剥片

S-36

土師	器	甕

S-37

須恵	器	甕
土師	器	丸底坏、小皿a
瓦	類	破片

S-38

須恵	器	蓋b3
土師	器	甕

S-39

須恵	器	蓋3、蓋c、蓋c3、坏、坏c、甕
土師	器	甕、破片
肥前系陶磁器		椀
輸入陶磁器		数釉壺(1)
白	磁	椀：II-1(1)　　白磁破片(1)
瓦	類	丸瓦、平瓦(縄目叩)、埋し瓦

S-40暗灰色粘土

須恵	器	蓋3、坏、甕
土製	品	焼土塊

S-41

須恵	器	甕、壺c、破片
土師	器	坏a×小皿a(ト)、破片
肥前系陶磁器		椀
白	磁	白磁破片(1)
瓦	類	平瓦(格子叩,縄目叩)、埋し瓦、破片

S-42

須恵	器	坏
土師	器	坏a、坏c
灰釉陶	器	破片
瓦	類	破片

S-43

須恵	器	甕
土師	器	丸底坏、甕
瓦	類	平瓦(縄目叩)

S-44

須恵	器	坏、破片
土師	器	破片
瓦	類	平瓦(縄目叩,無文)

S-45

須恵	器	坏a、坏c、甕、壺
土師	器	甕
瓦	類	平瓦(格子叩,縄目叩,無文)、軒平瓦(素弧文)
金属製	品	紀泮

S-46

須恵	器	甕
土師	器	甕
瓦	類	平瓦(縄目叩)

S-47

須恵	器	甕
土師	器	坏、甕

S-48

土師	器	破片

S-49

須恵	器	甕
土師	器	破片

S-50

須恵	器	蓋3、蓋c3、坏c、甕、壺?
土師	器	坏、甕
瓦	類	平瓦(格子叩,縄目叩,無文)

S-51

須恵	器	蓋、蓋c、坏c
土師	器	甕、破片

S-52

須恵	器	蓋c、坏、坏c、甕、壺b
土師	器	破片
瓦	類	平瓦(格子叩,縄目叩)

S-53

須恵	器	坏、甕
土師	器	椀c、甕
白	磁	椀：破片(1)
石製	品	剥片(黒曜石)

S-54

須恵	器	甕
土師	器	甕

S-55灰茶色土

須恵	器	蓋3、坏c、甕
土師	器	坏、坏a、坏a×小皿a(ト)、椀c、甕、破片
須恵質土	器	鉢(東播系)
回安東系青磁		椀：I-1b(1)、III-1(1)
白	磁	椀：V-4(1) 白磁広東系(1)、白磁破片(1)
瓦	類	平瓦(縄目叩,格子叩)、破片(格子叩)

S-56暗灰色土

須恵	器	坏c、破片
土師	器	坏、坏a(ト)
瓦	類	破片

S-57黒灰色土

須恵	器	蓋3、坏、坏c、甕
土師	器	坏、坏a(ト)、小皿a(ト)
白	磁	広東系破片(1)
瓦	類	丸瓦(無文)

S-58

須恵	器	破片
土師	器	小皿a(ハ)、破片
瓦	類	破片

S-59

須恵	器	破片
土師	器	小皿a(ハ)、破片

S-60

須恵	器	坏c、破片
土師	器	甕

S-59

須恵	器	坏、甕、破片
土師	器	坏、甕

S-60 a

須恵	器	破片
土師	器	破片

S-60 e

須恵	器	坏c、甕、破片
土師	器	破片
瓦	類	平瓦

S-60 h屋方

土師	器	破片

S-60 k

須恵	器	蓋3
土師	器	坏、甕
瓦	類	平瓦(格子叩)

S-60 l 施方

須恵	器	壺×鉢

S-60 l

須恵	器	蓋?
石製	品	石英

S-61

土師	器	甕

S-62

須恵	器	蓋1、蓋c、甕、壺
土師	器	小皿a(ハ)、破片
瓦	類	破片

S-63

須恵	器	高坏、壺、破片
土師	器	坏a(ロ)、破片
弥生土	器	壺
瓦	類	破片

S-64

土師	器	坏

S-65

須恵	器	蓋3、坏、坏c
土師	器	甕
瓦	類	平瓦、平瓦(縄目叩)、丸瓦
石製	品	平玉石

S-66

須恵	器	甕、破片
土師	器	椀c、破片

S-67

須恵	器	破片
土師	器	坏c、破片

S-68

土師	器	坏、破片
瓦	類	平瓦

S-69

須恵	器	蓋3、坏a、坏c、甕
土師	器	坏c、坏d、甕
瓦	類	平瓦(縄目叩)

S-70

須恵	器	蓋3、蓋c
土師	器	坏a、小皿a(ト)
黒色土	器	椀c
瓦	類	丸瓦

S-71

瓦	類	平瓦、丸瓦

S-72

須恵	器	坏、坏c
土師	器	甕、破片
瓦	類	平瓦(縄目叩)、埋し瓦

S-73

須恵	器	甕
土師	器	破片
瓦	類	平瓦(格子叩)

S-74

須恵	器	坏c、破片
土師	器	破片

S-75

須恵	器	蓋、蓋1、蓋3、坏a、坏c、高坏、甕、壺、壺a 小皿、鉢、破片
土師	器	蓋c、甕、破片
緑釉陶	器	京兵二彩火舎(1)
瓦	類	平瓦(格子叩,縄目叩)、丸瓦(縄目叩,無文)
石製	品	剥片(黒曜石)、石錘
土製	品	焼土塊

S-76

土師	器	甕

S-77

須恵	器	蓋、蓋3、坏a、甕
土師	器	破片
瓦	類	平瓦(格子叩)、破片

S-78

土師	器	破片

S-79

土師	器	坏a×小皿a

S-80

須恵	器	蓋1、蓋c1、蓋c3、甕、[illegible]
瓦	類	平瓦(縄目叩)

S-81

須恵	器	蓋、蓋3、甕、壺
土師	器	破片

S-82

須恵	器	破片
土師	器	破片

S-83

須恵	器	坏、甕
土師	器	破片
瓦	類	平瓦(格子叩)

S-84

須恵	器	坏
土師	器	破片

S-85

須恵	器	坏c

S-86

須恵	器	蓋、蓋3、坏、高坏

S-87

須恵	器	蓋、蓋3
土師	器	破片
瓦	類	平瓦(格子叩)
金属製	品	紀泮
石製	品	石英

S-88

須恵	器	甕

S-89

土師	器	破片

S-90 b茶色土

土師	器	坏a、破片

S-90 b粘弦

須恵	器	坏c

S-91

土師	器	坏、坏a×小皿a

S-92

土師	器	坏、破片

S-93

須恵	器	蓋3、破片
土師	器	破片
瓦	類	平瓦(縄目叩)

S-94

土師	器	甕

S-95

須恵	器	蓋、蓋3、坏a、皿a、甕、破片
土師	器	坏c、大椀c、甕、破片
瓦	類	平瓦(縄目叩)

S-96

土師	器	破片

S-97

須恵	器	蓋1
土師	器	破片

S-98

須恵	器	破片
土師	器	甕
黒色土		A破片
瓦	類	丸瓦(縄目叩)

S-99

須恵	器	蓋3、甕
土師	器	椀c、甕

S-100

須恵	器	坏、高坏b、壺a、甕
土師	器	椀c、甕、破片
瓦	類	平瓦(格子叩,縄目叩)

S-101

土師	器	坏

S-102

土師	器	坏、甕

S-103

土師	器	坏、甕
白	磁	広東系破片(1)

S-104

瓦	類	平瓦(破片)

S-105

須恵	器	坏、甕
瓦	類	平瓦(縄目叩)、丸瓦

S-106

須恵	器	坏c、甕、壺
土師	器	坏
瓦	類	平瓦(縄目叩)、破片

S-106暗灰色粘土

須恵	器	甕、坏
土師	器	坏c、甕
瓦	類	平瓦(格子叩,縄目叩)
石製	品	紙石

S-106暗灰色土

須恵	器	蓋、蓋3、坏、甕
製塩土	器	焼塩壺
瓦	類	丸瓦(無文)、塼

S-106灰色土

須恵	器	蓋1、破片
土師	器	甕
瓦	類	平瓦(格子)

S-107

土師	器	坏

S-108

須恵	器	甕
土師	器	甕

S-109

須恵	器	蓋、蓋1、蓋3、甕
土師	器	坏、甕、破片
瓦	類	丸瓦、平瓦(格子叩)、焼し瓦

S-110

須恵	器	坏、甕
土師	器	破片
瓦	類	平瓦(縄目叩)、破片

S-111

土師	器	丸底坏a
瓦	類	平瓦(縄目叩)

S-112

須恵	器	破片
土師	器	破片
土製	品	ﾌｲﾀﾞ羽口

S-113

須恵	器	坏、坏c
土師	器	坏、甕
瓦	類	平瓦(縄目叩)

S-114

土師	器	坏

S-115

須恵	器	蓋3
土師	器	破片
瓦	類	丸瓦

S-116

須恵	器	破片
土師	器	破片
瓦	類	平瓦(縄目叩)

S-117

土師	器	坏

S-118

土師	器	坏
瓦	類	平瓦(縄目叩)

S-119

土師	器	破片

S-121

須恵	器	坏
土師	器	坏
瓦	類	破片

S-122

須恵	器	蓋3、甕

S-123

須恵	器	坏、破片
土師	器	甕、破片

S-124

土師	器	甕、破片

S-125

須恵	器	蓋1、蓋3、蓋c、坏a、坏c、坏身、高坏、壺a、甕、壺、壺c、壺e、壺×鉢、ﾌﾗﾐ、破片
土師	器	坏、坏a、坏a(ｲ)、丸底坏?、丸底坏a、椀c、大椀c、小皿a、甕、壺、器台、破片
黒色土器A		椀c、破片
猿投窯系青磁		I類破片(2)
龍泉窯系青磁		椀：I(1)、II-b(1)
灰釉陶器		椀
国産磁器		椀
⑪	磁	椀：II-1(2)、III(1)、IV(1)、V(1)、X-1×VIII-2(1)(1)、VIｱ、破片(6) 皿：VI(1)　　耳皿(1)　　破片一(6)、広東系(1)
瓦	類	平瓦(縄目叩,格子叩,無文)、丸瓦(縄目叩,無文) 焼し瓦、瓦玉
金属製	品	鉱滓、用途不明鉄製品
石製	品	石臼、剥片、平玉石、滑石
土製	品	土球

S-126

須恵	器	破片
土師	器	丸底坏a、小皿a

S-127

須恵	器	蓋1、蓋3、蓋c3、坏c、甕
土師	器	坏、椀c、小皿a、甕、破片
黒色土器A		破片
灰釉陶器		椀×皿
瓦	類	平瓦(縄目叩,格子叩)

S-128

須恵	器	坏c、甕、破片
土師	器	甕、破片
瓦	類	丸瓦、平瓦(縄目叩,格子叩)

S-129

須恵	器	坏c、高坏×蓋、壺a
土師	器	坏、甕
瓦	類	平瓦(格子叩)

S-130ア

須恵	器	破片
土師	器	丸底坏a

S-130イ

瓦	類	破片

S-130イ鉢方

土師	器	坏
瓦	類	丸瓦

S-130イ柱痕

土師	器	坏

S-130ウ柱痕

土師	器	坏a

S-130エ鉢方

土師	器	破片

S-130オ

土師	器	破片

S-130オ柱痕

土製	品	焼土塊

S-130カ

土師	器	坏

S-130ク柱痕

瓦	類	瓦玉

S-130ケ

土師	器	坏

S-130ケ柱痕

土師	器	坏a、椀c、小皿a、破片

S-130コ

土師	器	丸底坏a、破片

S-130コ柱痕

土師	器	丸底坏a、小皿a

S-130サ

土師	器	丸底坏a、小皿a

S-130サ鉢方

土師	器	坏、破片

S-130セ柱痕

土師	器	破片

S-130ソ鉢方

須恵	器	甕

S-130ソ柱痕

土師	器	坏

S-130ソ鉢方

土師	器	坏

S-130タ

土製	品	焼土塊

S-130テ鉢方

土師	器	坏

S-130テ柱痕

土製	品	焼土塊

S-130ト

土師	器	破片
黒色土器A		破片

S-130ナ柱痕

土製	品	焼土塊

S-130ナ鉢方

土師	器	坏

S-130ハ鉢方

土師	器	坏

S-130ヒ

土師	器	坏

S-130フ

土師	器	坏、小皿a

S-130フ柱痕

土師	器	小皿a

S-130ヘ鉢方

土師	器	丸底坏

S-130ホ

土師	器	破片

S-130マ

土師	器	破片

S-131

須恵	器	蓋1、甕、壺
土師	器	坏a、小皿a、甕、ﾐﾆﾁｭｱ?
瓦	類	平瓦(格子叩、縄目叩)
石製	品	剥片

S-132

須恵	器	坏身、甕、壺
土師	器	坏
瓦	類	平瓦
石製	品	平玉石

S-133

須恵	器	蓋3、壺、壺b、鉢、破片
土師	器	坏、甕、破片
瓦	類	平瓦、焼し瓦

S-134

土師	器	丸底坏a
瓦	類	破片

S-135 a

土師	器	小皿a
黒色土器B		椀c

S-135 b

土師	器	破片

S-135 c

須恵	器	坏

S-135 d

須恵	器	壺?
土師	器	坏

S-136

土師	器	甕

S-137

土師	器	小皿a、破片

S-138

須恵	器	蓋1、壺c
土師	器	坏a、甕、破片
白	磁	椀：II-4×4(1)　　白磁・破片(1)、広東系(1)

S-140

須恵	器	坏、壺、破片
土師	器	坏、小皿a、甕、破片
黒色土器A		破片
瓦	類	平瓦
石製	品	石英

S-145

須恵	器	破片
土師	器	甕

S-150

須恵	器	坏c、甕
土師	器	甕
土製	品	塊

S-155

須恵	器	坏
土師	器	坏
瓦	類	平瓦

S-160灰基色土

須恵	器	坏c、甕
土師	器	坏、小皿a、甕
瓦	類	丸瓦(格子叩、無文)、平瓦(縄目叩、格子叩)
石製	品	石英

S-160暗灰色土

須恵	器	坏c、破片
土師	器	丸底坏a、小皿a、破片
瓦	類	平瓦(格子叩,縄目叩,無文)、軒平瓦
石製	品	丸石

S-160暗灰色土

須恵	器	坏a、甕
土師	器	丸底坏a、小皿a、破片
瓦	類	丸瓦(格子叩)、軒平瓦

S-160暗灰色粘土

土師	器	小皿a

S-165

須恵	器	坏c、甕
土師	器	破片

S-170

須恵	器	坏、坏a、坏c、甕
土師	器	甕

S-175

須恵	器	蓋1、坏c、皿a、甕、壺、壺b
土師	器	坏、甕、破片
瓦	類	丸瓦(無文)、平瓦(縄目叩、格子叩)

S-180 F

土師	器	坏
陶産陶	器	破片

S-180 A

須恵	器	蓋3
土師	器	破片

S-180 I

土師	器	坏

灰色土

須恵	器	蓋1、蓋3、蓋c、坏、坏a、坏c、高坏、皿a、甕、壺、壺a、壺b、壺c、丸底坏、椀c、小皿a(小)、甕、把手、破片
土師	器	蓋3、蓋c、坏c、丸底坏、椀c、小皿a(小)、甕、把手、破片
須恵質土器		鉢
肥前系陶磁器		椀、破片
国産陶器		擂鉢
長沙窯系青磁		破片(1)、壺×水注(1)
龍泉窯系青磁		椀：I(1)、II-b(3)、III-2(1)
同安窯系青磁		椀：I-1b(1)
白磁		椀：IV-1a(1)、VI-b(1)、破片(6) 皿：II-1a(1)、III(1)、VI-1a(1)、破片(1) 壺破片?(1)
弥生土器		破片
瓦類		平瓦(縄目叩,格子叩)、丸瓦(縄目叩,格子叩) 軒平瓦(重弧文)、焼し瓦、瓦玉
金属製品		鉱滓、金具
石製品		平玉石、石臼、剥片、石錘、滑石製品
土製品		ﾐﾆﾁｭｱ、紡錘車

表土

須恵	器	蓋、蓋3、坏、坏c、甕、壺、壺b
土師	器	坏、坏a、甕
瓦質土器		鍋蓋
肥前系陶磁器		椀
国産陶器		椀、破片
白磁		椀：V-1×VIII-2(1)、破片(1)　　白磁破片(1)
瓦類		丸瓦(無文)、平瓦(格子叩)
金属製品		鉄釘

撹乱

須恵	器	蓋3、甕、破片
瓦質土器		破片
肥前系陶磁器		椀c
国産陶器		土管、破片
国産磁器		破片
瓦類		平瓦(縄目叩)、丸瓦(無文)、焼し瓦

表.4　第236次調査　須恵器・土師器・黒色土器出土遺構一覧表

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	最高	底径	X	Y
須恵器	蓋1	—	S-001	Fig.19-27	—	1.1+α	—	—
	蓋1	—	S-006	Fig.19-22	(16.6)	1.1+α	—	—
	蓋1	—	S-009	Fig.19-19	(14.1)	1.1+α	—	—
	蓋1	—	S-013	Fig.19-25	—	2.1+α	—	—
	蓋1	—	S-014	Fig.19-20	—	1.6+α	—	—
	蓋1	—	S-015	Fig.19-17	—	1.7+α	—	—
	蓋1	—	S-020	Fig.19-23	(12.4)	1.7+α	—	—
	蓋1-3	—	S-021	Fig.19-20	(12.4)	1.1+α	—	—
	蓋1	—	S-028	Fig.19-18	(13.4)	2.0+α	—	—
	蓋1	～?3	S-042	Fig.19-21	(13.6)	0.9+α	—	○
	蓋1	—	S-099	Fig.19-24	—	0.9+α	—	○
	蓋1a	—	S-017	Fig.19-12	—	1.9+α	—	—
	蓋1a	～?3	S-045	Fig.19-12	—	1.7+α	—	○
	蓋1a	—	S-029	Fig.19-29	(14.4)	1.0	(11.0)	—
	蓋1a	～?3	S-024	Fig.19-30	—	1.5+α	—	○
	蓋1a	～?3	S-041	Fig.19-29	—	2.5	—	—
	蓋1c	～?3	S-081	Fig.19-11	(14.8)	4.05	(9.6)	○
	蓋1c	—	S-082	Fig.19-17	—	1.9+α	(12.5)	○
	蓋1c	～?3	S-083	Fig.19-10	—	1.6+α	(11.2)	○
	蓋1c	～?3	S-084	Fig.19-32	(13.4)	2.0	(14.6)	○
	蓋1c	—	S-011	Fig.19-18	—	1.3+α	(10.8)	—
	蓋1c	—	S-018	Fig.19-28	—	2.5+α	(8.6)	—
	蓋1c	—	S-023	Fig.19-24	—	2.2+α	(10.2)	—
	蓋1c	—	S-024	Fig.19-30	—	1.9+α	(9.6)	—
	蓋1c	—	S-026	Fig.19-26	—	1.5+α	(9.4)	—
	蓋1c	～?3	S-035	Fig.19-35	—	1.7+α	(10.0)	○
	蓋1c	～?3	S-043	Fig.19-31	—	2.0+α	(9.8)	○
土師器	甕a	—	S-033	Fig.19-36	—	2.0+α	—	—
	甕b	—	S-047	Fig.19-33	—	2.0+α	(12.6)	—

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	最高	底径	X	Y
須恵器	蓋1	—	S-002	Fig.19-1	—	0.9+α	—	—
	蓋1	—	S-032	Fig.19-2	—	1.9+α	(8.4)	—
	蓋1a	—	S-004	Fig.19-3	(18.4)	2.05	(16.2)	—
	蓋1a	～?3	S-005	Fig.19-4	—	0.9+α	—	—

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	最高	底径	X	Y
須恵器	蓋1	—	S-002	Fig.19-1	—	1.1+α	—	—
	蓋1	—	S-005	Fig.19-2	—	1.1+α	—	—
	蓋1c	—	S-003	Fig.19-3	—	0.2+α	(9.2)	—
	蓋1c	—	S-007	Fig.19-4	—	2.0+α	—	—

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	最高	底径	X	Y
土師器	甕a	—	S-002	Fig.20-1	—	2.0+α	—	—

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	最高	底径	X	Y
土師器	小型a　イトヤ	S-001	Fig.20-2	—	1.5+α	—	—	—
	甕a　ヘラヤ	S-002	Fig.20-3	—	1.4+α	—	—	—

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	最高	底径	X	Y
土師器	甕a　イトヤ	S-001	Fig.20-11	—	1.0+α	(7.7)	○	×
	甕a	S-002	Fig.20-12	—	1.0+α	—	—	—
	甕a	S-003	Fig.20-10	—	0.9+α	—	—	○
	甕a　イト	S-004	Fig.20-13	—	0.9+α	—	—	—

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	最高	底径	X	Y
土師器	甕a　ヘラヤ	S-002	Fig.20-12	—	0.2+α	—	○	×

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	最高	底径	X	Y
須恵器	蓋1	—	S-001	Fig.17-1	—	1.6+α	—	○

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	最高	底径	X	Y
須恵器	甕a　ヘラヤ	S-001	Fig.13-12	—	1.0+α	—	○	—
	甕a	S-002	Fig.13-11	—	1.6+α	—	—	—

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	最高	底径	X	Y
須恵器	蓋1	—	S-001	Fig.13-17	(11.1)	1.4+α	—	—
	蓋1	～?3	S-002	Fig.13-16	(10.1)	1.2+α	(13.2)	○
	蓋1c	～?3	S-004	Fig.13-18	(5.9)	2.3	(9.5)	○
	甕a	—	S-002	Fig.13-19	—	1.9+α	—	○

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	最高	底径	X	Y
土師器	甕a　ヘラヤ	S-002	Fig.17-4	—	1.7+α	—	—	—
	小型a　ヘラヤ	S-002	Fig.17-5	—	0.8+α	—	(7.1)	—

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	最高	底径	X	Y
土師器	小型a　イトヤ	S-001	Fig.17-6	—	1.0+α	—	—	○

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	最高	底径	X	Y
須恵器	甕c	—	S-001	Fig.21-1	—	1.6+α	(7.8)	—

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	最高	底径	X	Y
須恵器	蓋1	—	S-001	Fig.21-2	—	1.0+α	—	—

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	最高	底径	X	Y
須恵器	蓋1	—	S-002	Fig.18-2	—	1.0+α	—	—
	蓋1	—	S-003	Fig.18-1	—	1.0+α	—	—
	甕a＋蓋a	—	S-001	Fig.18-6	—	2.7+α	—	—

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	最高	底径	X	Y
土師器	小型a　イトヤ	S-002	Fig.20-26	—	0.9+α	—	—	—
	甕a	S-001	Fig.20-28	—	1.1+α	—	○	—
	甕a　イトヤ	S-002	Fig.20-27	—	1.2+α	—	○	—
須恵系土師器	鍋c	—	S-004	Fig.20-29	—	1.3+α	—	—

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	最高	底径	X	Y
須恵器	甕a	S-007	Fig.23-3	—	1.9+α	(8.5)	—	—
	甕c	S-001	Fig.23-5	—	1.7+α	(8.5)	—	—
	甕c	—	S-003	Fig.23-6	—	2.4+α	(9.2)	—
	甕c	—	S-006	Fig.23-7	—	1.9+α	(8.7)	—
	甕c	—	S-009	Fig.23-8	—	2.9+α	(12.2)	○

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	最高	底径	X	Y
須恵器	蓋1-3	—	S-001	Fig.22-3	(14.4)	1.7+α	—	—
	蓋1-3	—	S-002	Fig.22-1	(15.1)	2.4+α	—	—
	蓋1	—	S-003	Fig.22-2	—	1.7+α	—	—
	甕c	～?2	S-004	Fig.22-4	—	1.7+α	(10.6)	—

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	最高	底径	X	Y
須恵器	蓋1	—	S-001	Fig.22-1	—	1.7+α	—	—
	甕a	—	S-002	Fig.22-2	—	1.6+α	—	—

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	最高	底径	X	Y
須恵器	甕c	—	S-001	Fig.20-3	(14.8)	1.9+α	—	—

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	最高	底径	X	Y
須恵器	蓋1	—	S-001	Fig.20-4	—	1.5+α	—	—
	甕a	—	S-002	Fig.20-5	—	1.8+α	—	—

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	最高	底径	X	Y
須恵器	甕c	—	S-001	Fig.20-6	—	1.5+α	—	—

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	最高	底径	X	Y
須恵器	甕c	—	S-001	Fig.20-7	—	1.7+α	—	—

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	最高	底径	X	Y
須恵器	甕c	—	S-001	Fig.20-8	—	1.5+α	—	—

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	最高	底径	X	Y
須恵器	甕c	—	S-001	Fig.20-9	—	1.0+α	—	—

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	最高	底径	X	Y
須恵器	蓋1	—	S-001	Fig.22-5	—	1.5+α	—	—
土師器	甕a	—	S-003	Fig.22-6	—	3.0+α	—	—
	甕c	—	S-002	Fig.22-7	—	0.9+α	(11.6)	—

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	最高	底径	X	Y
土師器	甕c	—	S-001	Fig.22-12	—	1.3+α	—	—
	甕c	—	S-002	Fig.22-11	—	1.75+α	—	—
須恵器	蓋a	—	S-003	Fig.22-8	(18.6)	2.25	(11.6)	—
	甕	—	S-004	Fig.22-9	—	1.4+α	—	—

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	最高	底径	X	Y
須恵器	甕c	—	S-001	Fig.17-7	—	1.0+α	—	—

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	最高	底径	X	Y
須恵器	甕c	—	S-001	Fig.17-8	—	1.2+α	—	—

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	最高	底径	X	Y
土師器	甕c?	—	S-001	Fig.22-17	(20.6)	1.2+α	—	—

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	最高	底径	X	Y
土師器	小型a　イトヤ	S-001	Fig.20-20	(16.2)	1.2	(8.4)	—	○
	小型a　イトヤ	S-002	Fig.20-30	7.3	1.2	6.8	—	—
	甕a　イトヤ	S-003	Fig.20-16	—	1.1+α	—	—	—
	甕a　イトヤ	S-004	Fig.20-21	—	1.0+α	—	—	—
	甕a　イトヤ	S-005	Fig.20-32	—	1.0+α	(9.4)	—	○
	大型甕a	S-001	Fig.20-25	(15.5)	2.4+α	—	—	—
	大型甕a	S-004	Fig.20-26	—	2.9+α	—	—	—

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	最高	底径	X	Y
土師器	大型甕a　ヘラヤ	S-001	Fig.12-1	(14.0)	3.9+α	—	○	○

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	最高	底径	X	Y
土師器	小型a　ヘラヤ	S-001	Fig.12-2	—	1.2	—	○	○

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	最高	底径	X	Y
土師器	小型a　ヘラヤ	S-001	Fig.12-3	—	1.1+α	—	—	—

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	最高	底径	X	Y
土師器	大型甕	—	S-001	Fig.12-4	—	3.1+α	—	—

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	最高	底径	X	Y
土師器	小型a　ヘラヤ	S-001	Fig.12-4	(9.7)	1.5	(6.0)	○	○
	大型甕a	—	S-002	Fig.12-5	(16.0)	3.0+α	—	—

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	最高	底径	X	Y
土師器	甕a	—	S-002	Fig.12-7	—	1.7+α	(7.0)	×
	大型甕	—	S-001	Fig.12-8	—	2.0+α	—	—

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	最高	底径	X	Y
土師器	小型a　ヘラヤ	S-001	Fig.12-10	(8.4)	1.0	(8.2)	○	○
	小型a	—	S-002	Fig.12-11	—	1.9+α	—	○

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	最高	底径	X	Y
土師器	小型a　ヘラヤ	S-001	Fig.12-9	(8.8)	1.0	(6.5)	○	○

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	最高	底径	X	Y
土師器	小型a　ヘラヤ	S-001	Fig.12-12	—	1.1+α	—	—	—
	小型a	—	S-002	Fig.12-13	—	0.8+α	—	—
黒色土器?	鍋c	—	S-003	Fig.12-14	—	1.0+α	(7.4)	—

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	最高	底径	X	Y
土師器	小型a　ヘラヤ	S-001	Fig.14-5	(9.4)	1.1	(7.2)	—	○

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	最高	底径	X	Y
須恵器	甕c	～?3	S-001	Fig.14-4	—	1.0+α	—	—

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	最高	底径	X	Y
土師器	小型a	—	S-001	Fig.16-6	—	1.1+α	—	—
	小型a	—	S-002	Fig.16-5	(9.4)	1.2	(8.8)	—

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	最高	底径	X	Y
土師器	小型a	—	S-001	Fig.15-1	—	1.0+α	—	—

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	最高	底径	X	Y
土師器	小型a　ヘラヤ	S-001	Fig.16-11	—	1.2	—	—	○
	小型a　ヘラヤ	S-002	Fig.16-12	—	0.9+α	—	—	—
	大型甕a	—	S-003	Fig.16-13	—	2.3+α	—	—

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	最高	底径	X	Y
土師器	小型a　ヘラヤ	S-001	Fig.16-18	8.6	1.1	(6.4)	○	○
	小型a　ヘラヤ	S-002	Fig.16-19	8.4	1.1	6.40	○	○
	小型a　ヘラヤ	S-003	Fig.16-17	5.8	1.05	2.8	○	○

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	最高	底径	X	Y
須恵器	甕c	—	S-001	Fig.20-22	—	2.3+α	(9.6)	—
	甕c	—	S-003	Fig.20-23	—	1.9+α	(9.6)	—
	甕a	—	S-002	Fig.20-24	—	2.9+α	—	—

2、第 255 次調査

(1) 調査に至る経過

調査地は太宰府市朱雀 3 丁目 305-7 の一部で、2005（平成 17）年 12 月 5 日から 2006（平成 18）年 3 月 18 日にかけて発掘調査を実施した。調査は宮崎亮一が担当した。調査面積は 1213 ㎡である。

(2) 基本層位

第 236-1 次調査の北側と全く同じ層位で、砂利などの盛り土の下に耕作土とみられる茶灰色土があり、その下に床土とみられる黄灰色土があり、その下に包含層があり、その下に遺構が確認される。北西部で僅かに整地があり、2 面の遺構が存在した。なお、遺構検出面は現況から深さ約 1m 付近で、検出時の遺物は灰褐色土で取り上げている。

(3) 検出遺構

○第 1 面

掘立柱建物

255SB015（Fig. 26）

南北 2 間（4.5m）×東西 3 間（5.6m）の東西棟で、柱間は東西 1.7 ～ 2.0m、南北は 2.25m を測り、振れはなくほぼ東西を向いている。SX001 の埋土を除去した段階で確認でき、d では掘り方が SX001 によって切られている。掘り方は円形で、埋土は黄灰色土や橙色土などで地山の黄色より明るさが目立つものである。

255SB045（Fig. 26）

調査中は柵と考えていたが、整理中に建物になることが判明した。東西 3 間（7.1m）×南北 2 間（3.6m）の東西棟に、北側と西側にそれぞれ 1 間分（1.4m）の庇が付いている。振れは N-1° 6′ 16″ -N を測る。柱間は南北 1.8m、東西 2.1 ～ 2.3m で北西隅の柱間が 2.7m とやや広い。掘り方は約 0.2 ～ 0.45m の円形で、埋土は炭を多く含んでいる。南東隅の柱穴が SX001 に切り込んで検出されたが、その他の柱穴は SX001 の掘削後に確認している。SX001 の混ざり合った埋土と柱穴の埋土の区別が明瞭でなかった可能性も考えられ、南東隅の柱穴が確認できたことを重視し、SX001 に切り込んで建てられたものと判断する。

255SB050（Fig. 27）

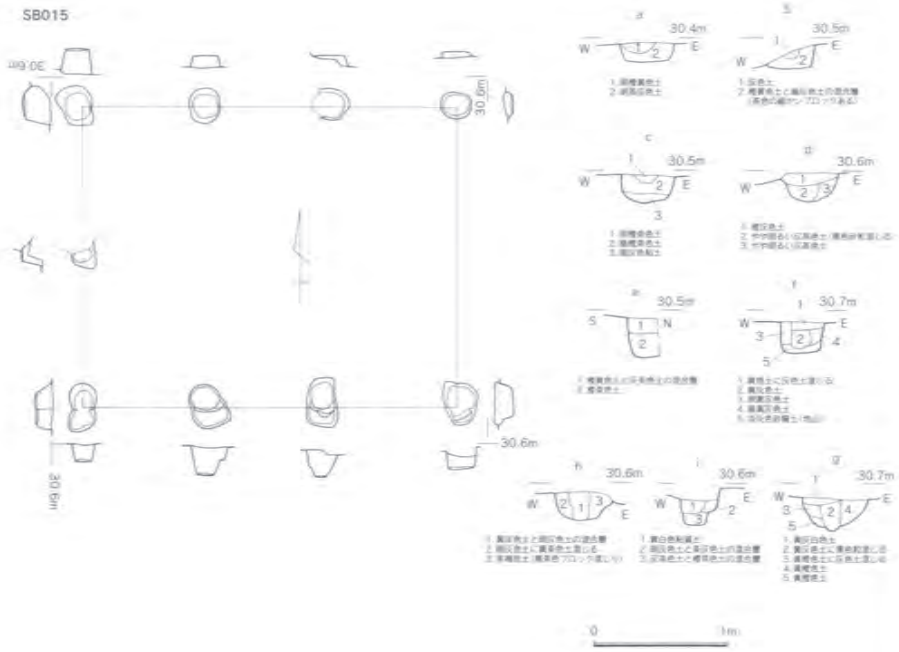
南北 2 間、東西 2 間の総柱の建物の南に庇が付く南北棟で、柱間は南北 2.0m、東西 1.9m、庇との間は 1.0m と 1.4m を測る。振れは N-2° 19′ 57″ -E である。庇は近接して同じ柱間の柱穴が掘られており、建替えがあったと考えられる。北側の掘り方は SX001 によって切られていて、その他の掘り方は調査時には建物の認識がなく、掘削してしまった。

255SB060（Fig. 27）

調査区東端で検出されたため、全容は不明だが、隣接する第 236-1 次調査で検出した SB660 と合わせると南北 5 間、東西 2 間の南北棟と考えられる。柱間は南北 2.1m、東西 1.8m、庇との間は 2.2m を測る。振れは N-2° 36′ 9″ -E である。円形の掘り方で遺構検出時に柱痕跡は確認できる状態であった。柱痕跡の径は約 0.1m である。

255SB070（Fig. 28）

調査区北西部に位置し、第 257 次調査地に続いている。第 257 次調査では柱穴が不明瞭だが、建物本体は第 257 次と合わせると南面する 3 間×3 間の東西棟で、南と東西に庇が 1 間づつ付く建物と推測される。柱間は東西 2.1m、南北 1.8m で、掘り方は円形で径 0.25 ～ 0.45m を測る。SD030 によって切られ



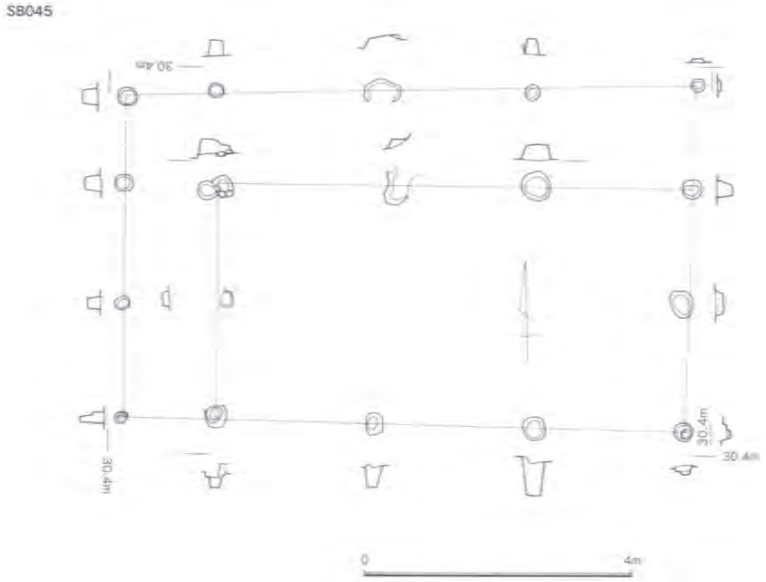


Fig.26　255SB015・045 遺構実測図（1/40、1/80）

Fig.27　255SB050・060 遺構実測図（1/80、1/40）

ている。

255SB080（Fig.28）

南北５間以上、東西２間の南北棟で、柱間は全て約2mで、全体で南北9.6m、東西4.0m。振れはN-3°7′44″-Wである。

255SB085（Fig.28）

南北２間、東西２間の東西棟で、柱間は南北1.28mと0.88m、東西1.8mで、全体で南北2.16m、東西3.6m。振れはN-3°33′38″-Nである。

Fig. 28　255SB070・080・085 遺構実測図（1/80）

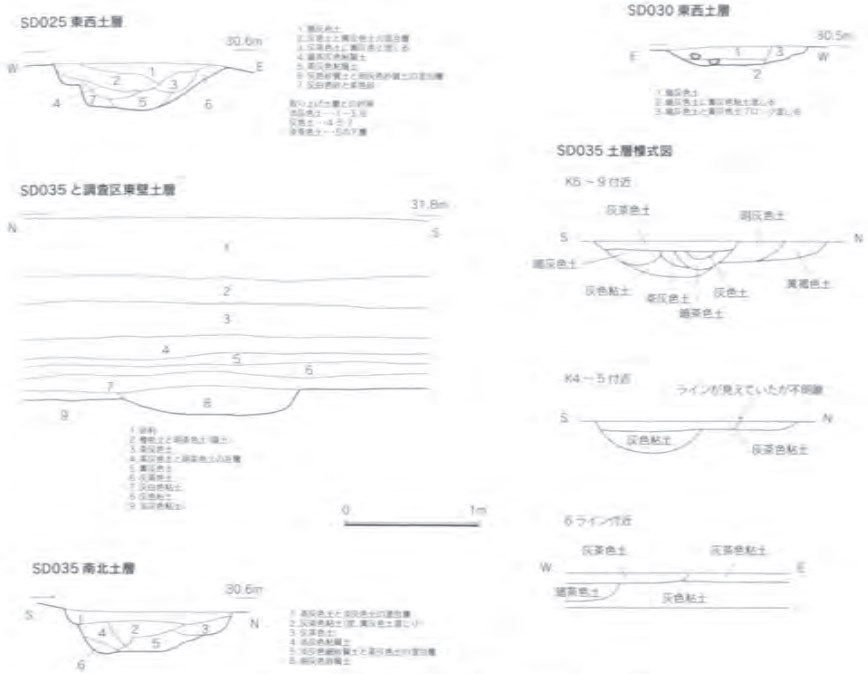


Fig. 29　255SD025・030・035 遺構実測図（1/40）

溝

255SD005

南北溝であるが、やや西に振れている。検出長 11.1m、幅 0.6 ～ 1.4m、深さ 0.05 ～ 0.1m で、北側は SX001 や S-11 によって切られ、その延長は確認できない。埋土はやや判別しづらい灰白色粘質土で、遺物は上層から殆ど出土する。

255SD010

E-2° 25′ 21″ -S の東西溝で、検出長 5.6m、幅 0.28 ～ 0.65m、深さはほぼ一定で 0.1m を測る。断面 U 字形で、埋土は淡灰色土である。

255SD025（Fig. 29）

N-5° 30′ 41″ -W の南北溝で、やや西に振れているが、SD030 と平行している。検出長 19.8m で、幅 1.05 ～ 1.9m、深さ 0.2 ～ 0.3m を測り、前後は調査区外に続いている。南側の一部は断面 3 段の形状を示しているが、全体としては 1 ～ 2 段で断面逆台形を示す。埋土は暗灰色土で、大きく上下 2 層（淡灰色土と灰色土）に分層され、上層に土師器を中心に遺物を多く含む。下層は上層よりやや粘質が強い。底面は白灰色砂や黄灰色土で、白灰色砂は側面が同質であることから、判別が困難な所もある。

255SD030（Fig. 29）

N-0° 28′ 39″ -W の南北溝で、SD025 と平行している。検出長 16.7m、幅 0.62 ～ 1.12m、深さ 0.05 ～ 0.1m を測り、前後は調査区外に続いている。SD025 と異なり、断面形状も浅い U 字形で、遺物量も少ないが R ラインより北側は SD025 と同様に多い。埋没時期が同じ SD025 との間は道路と考えられるが、一部溝が枝分かれし、道路面を横切っている。その横切っている溝が SD025 によって切られている

ことから最終埋没はSD025より僅かに早かったと推測される。

255SD035（Fig. 29）

E-0° 7′ 15″ -Sの東西溝であるが、堆積状況は若干複雑で、半分から西側の最上層である灰茶色土は深さ0.05m程で、11世紀後半ごろの土師器の小皿や坏の小破片が多く見られた。北側プランはやや蛇行している。それを除去すると一見地山かと思える茶色サビを含む地盤があり、その下に灰色粘土が堆積している。北側はだらだらと灰茶色粘土・明灰色土・黄褐色土が浅く堆積している。北端の立ち上がりはやや不明瞭な部分もみられる。灰色粘土は断面隅丸台形で、東西の明瞭な溝になり、幅0.45～1.4m、深さは遺構面から0.2～0.4mを測る。埋土は7世紀末の遺物が殆どで、最上層と遺物・土層からも明瞭に分層できる。

以上のようにこの溝は大きくみれば北側にテラス部がある2段に掘り込まれた溝であるが、堆積時期が明瞭に異なることから、400年の間常に溝が存在したとは言い切れないが何らかの境界として認識されていたため、同じ場所に何度も溝が掘削されたと推測される。全体の検出長19.6m、幅3.5m、深さ0.2～0.4mを測る。両端は調査区外に続いている。

井戸

255SE020（Fig. 30）

SX001の埋土に切り込んだ状態で確認できる。東西1.45m、南北1.4m、深さ1.1mの円形掘り方の井戸である。埋土の最上層は暗灰色土で、下層は淡灰色土と白灰色土との互層になり、最下層は黒灰色粘土と白灰色粘土である。埋土の上面には花崗岩礫がまとまって検出された。井戸枠部分に埋め込まれたものと推測される。埋土から井戸枠や曲物の破片は検出されていないが、以上のことから井戸と推測される。

255SE040（Fig. 30）

東西1.45m、南北1.65m、深さ1.5mの円形掘り方の井戸である。埋土から井戸枠痕跡らしきものは確認できたが、井戸枠は全く確認できなかった。底面には大小2個の曲物が上下2段で確認されたが、僅かに木片が残る程度であった。上段の曲物は径0.57～0.62m、深さ0.25m、下段は径0.39～0.40m、深さ0.19mを測る。曲物の裏込めは青灰色砂質土である。

土坑

255SK055（Fig. 30）

掘り方は東西0.23m、南北0.26m、深さ0.14mの円形土坑で、そこに鉢を置き、その内部には坏aが逆さになった状態で置かれていた。鉢と掘り方の間は白灰色粘土だが、意図的なのか自然の土質変化なのかは不明瞭。

東側はSX001と接しているが、切り合い関係は不明瞭である。しかし、土器の東側の欠損が目立つためSX001によって破壊された可能性が考えられる。

255SK065（Fig. 30）

南北0.54m、東西0.47m、全体の深さ0.46mの円形土坑で、灰茶色土に土師器の小片と炭が多く混じった埋土に、礫が3個検出された。その埋土と礫を除去すると大きさ0.23×0.26m、深さ0.37mの円形ピットが掘られていた。このピットには炭や土器片は少ない。

土取り遺構

255SX001

調査地の東側を中心に検出された。東側の第251次調査で検出された土取り遺構と全く同じである。土取りの端部は鋭く切り込んでいるところも見られる。埋土は暗灰色土と灰茶色土と黄灰色土の混合層

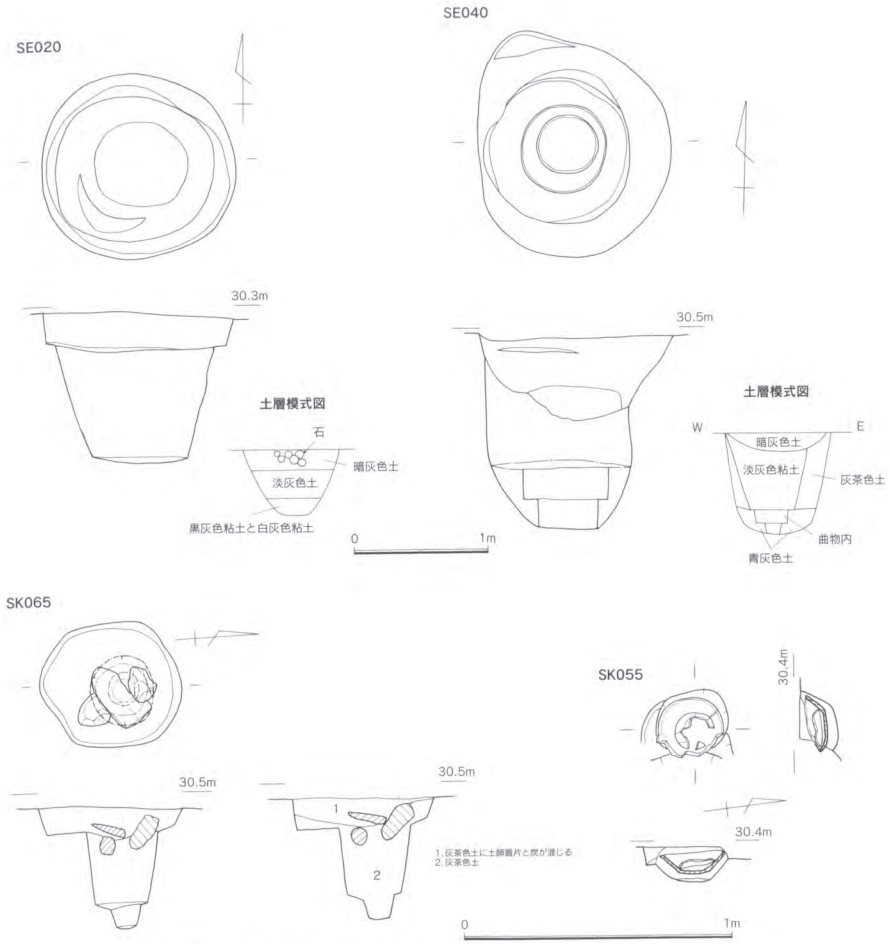


Fig. 30　255SE020・040、SK055・065遺構実測図（1/40、1/20）

である。調査地の西側は砂質土であることからも、これが粘土採掘の土取り場であったことが窺われる。

道路遺構

255SF075

255SD025とSD030を側溝とする道路と考えられる。振れはN-2° 11′ 14″ -W。道路面の幅は1.06～3.0mで、北に行くほど狭くなっている。埋没時期がほぼ同じで、SD030から枝分かれした溝がSD025によって切られていることから最終埋没はSD030より僅かに遅かったと推測される。

○第2面

北側で若干安定した堆積層が検出され、ピットや土坑が切り込み、西端をSD025が切っているため、整地と判断した。整地はS-129として調査を行った。

また、調査区西端で自然堆積ではないとみられる埋土が帯状に検出され、SD030が切り込んでいたため、現遺構面と時期が明らかに異なるものと判断し、S-128と遺構番号を付し2面目として調査を行った。

(4) 出土遺物

掘立柱建物

255SB015i 出土遺物 (Fig. 31)

須恵器

甕 (1) 外面は叩き目が残り、内面は当て具痕跡を粗くナデ消している。焼成還元は良好で青灰色を呈する。

255SB045b 出土遺物 (Fig. 31)

土師器

坏a (2) 復元底径7.4cm。底部は回転ヘラ切りで、板状圧痕が残る。

土製品

土壁 (3) 胎土は0.4cm以下の砂粒を多く含み、スサ痕も残る。一部平坦面も残る。空洞部分が多いためか重さは軽い。

溝

255SD005 出土遺物 (Fig. 31)

須恵器

大椀c (4) 高台径12.2cm。焼成不良で淡灰白色を呈する。

壺 (5) 口径10.3cm。口縁部は回転ナデが残るが、その他は磨滅により調整不明。焼成還元は不良で淡橙白色を呈する。

鉢b (6) 復元口径27.2cm。内外面とも回転ナデ。口縁端部は回転ナデ調整し平坦に仕上げている。焼成はやや不良で淡灰白色を呈する。

瓦類

軒丸瓦 (7) 瓦当の周縁部で、珠文部分が残っている。焼成は不良で土師質である。

255SD010 出土遺物 (Fig. 31)

須恵器

壺 (8) 復元高台径8.2cm。体部外面下半は回転ヘラケズリで、中位はその後粗くナデ調整。内面は回転ナデで、底部に付着物が見られる。焼成良好で淡青灰色を呈する。

255SD025 上層出土遺物 (Fig. 32)

土師器

小皿a (1、2) 復元口径8.0cm、9.2cmで、磨滅し調整不明瞭。

朝鮮系無釉陶器

甕 (3) 甕の底部付近の破片で、胎土は0.1cm前後の砂粒を少量含み、焼成は良好である。色調は鈍い灰色を呈する。内外面回転ナデ、底部外面は切り離し後未調整。

255SD025 淡灰色土出土遺物 (Fig. 32)

土師器

小皿a (4～18) 4～16は復元口径8.0～10.0cm、器高0.7～2.1cm、復元底径6.1～8.1cm。底部切り離しはヘラ切りである。底部に板状圧痕が残るものがある。16はやや深い小皿である。17は若

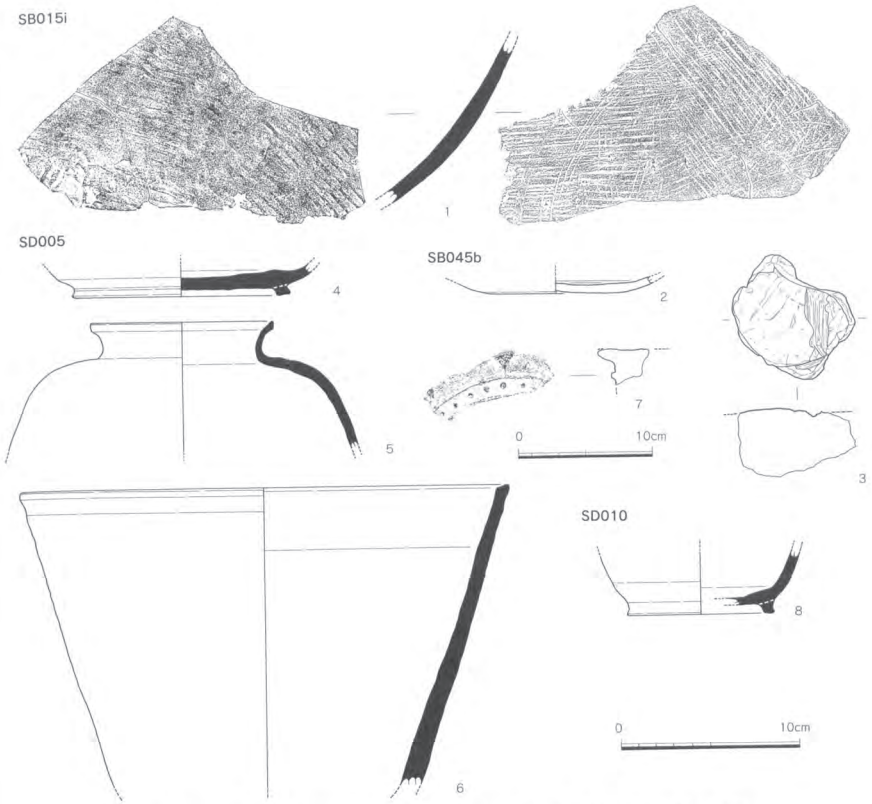


Fig. 31 255SB015・045、SD005・010出土遺物実測図 (1/3、7は1/4)

干大きく復元口径11.9cm、器高1.4cm、復元底径9.1cm。

椀c (19) 細い高台を貼付し、復元高台径5.1cm。

坏 (20) 坏の底部付近の破片で、内外面に墨書が見られる。墨書は仮名文字だが、内容については不明である。

坏a (21、22) 21は底部は回転ヘラ切りで、その他は回転安ナデ調整。22は復元口径12.6cm、器高3.2cm、底径9.0cm。外面底部はヘラ切りで、板状圧痕が残る。その他は回転ナデで、内面底部は一部ナデ調整。色調は淡褐白色を呈する。

丸底坏a (23～28) 復元口径12.4～16.6cm、器高2.65～3.6cm。23の内面に僅かにミガキbが残るが、全体的に焼成不良で磨滅が目立つ。色調は淡白褐色などを呈する。

器台 (29) 脚部で、上下欠損し磨滅が目立つが外面には指頭圧痕が僅かに残る。脚部径は4cm前後で、中央は1.2cm程空洞になっている。

脚付鉢 (30) 胎土は0.3cm未満の砂粒を多く含み、淡い褐白色を呈する。焼成はやや不良で磨滅が目立ち、脚部も欠損する。

鉢 (31) 復元口径22.6cm。胎土は0.1cm前後の砂粒を少量含み、淡黄白色を呈する。焼成不良で内外面は磨滅し調整不明瞭だが、内面はナデ調整。

瓦類

平瓦（32） 凸面には格子目に横線が入る叩き目を残す。側面はヘラ切り。焼成良好。

土製品

土壁（33） 平坦な面が残されている土壁で，スサ痕が各所にみられる。

255SD025 灰色土出土遺物（Fig. 32）

土師器

小皿 a（34 ～ 36） 復元口径 8.9 ～ 9.2cm。底部は回転ヘラ切りで、板状圧痕も残る。焼成は若干不良で淡い橙黄白色を呈する。

椀 c（37） 復元高台径 5.6cm。焼成はやや不良で部分的に回転ナデ調整が残る。

器台（38） 脚部のみで、上下は欠損する。脚部径は 4cm 前後で、中央は 1.2cm 程空洞になっている。表面は粗いナデ調整が見られる。胎土は砂粒を多く含む。

255SD030 出土遺物（Fig. 32）

土師器

小皿 a（39） 復元口径 9.3cm、器高 0.8cm、復元高台径 6.4cm。磨滅し切り離しは不明瞭だが、板状圧痕は残る。

丸底坏 a（40、41） 40 は復元口径 13.5cm。磨滅し調整不明瞭。41 は内面にミガキ b とコテ当て痕が残り、外面下半には指頭圧痕が残る。

鉢（42） 口縁端部の破片で、全形が掴めないが、器面はやや厚いため鉢のようなものと推測される。胎土は砂粒を僅かに含み、淡褐灰色を呈する。内外面は回転ナデで外面下半にヘラ切りのような痕跡を残す。

瓦類

平瓦（43，44） 格子目の叩きで、43 は文字瓦、44 はやや大きい格子内部にさらに菱形がみられる。

土製品

トリベ（45、46） 2 点とも端部の破片で、内面ナデ調整。46 は内面が僅かに茶褐色を帯びる。

土壁（47） ナデ調整された平坦面と土壁内部に用いられたと推測される骨組みのような痕跡が残る。骨組みの大きさはその痕跡から径 2cm 以上と推測される。胎土は 0.1cm 前後の砂粒を多く含む。

255SD035 灰茶色土出土遺物（Fig. 33）

土師器

小皿 a（1 ～ 6） 復元口径 8.0 ～ 9.2cm、器高 1.05 ～ 1.2cm。色調は淡黄褐色を呈する。底部切り離しは、2 が回転糸切りで、それ以外はヘラ切りである。

丸底坏 a（7 ～ 14） 復元口径 13.6 ～ 15.4cm。全体的に磨滅し調整不明瞭。13 は内面に僅かにミガキが残り、外面下半は回転ヘラ切り後押し出しされた状況がわかり、板状圧痕も残る。

瓦質土器

椀 c（15） 低い高台で復元高台径 6.6cm。胎土は僅かに砂粒を含み暗灰色を呈する。焼成は不良で、内面に僅かにミガキが確認できるが全体は磨滅し調整不明瞭である。

255SD035 灰茶色粘土出土遺物（Fig. 33）

須恵器

椀 a（16） 復元底径 10.0cm。外面は回転ヘラケズリ、内面は回転ナデで、底部はその後ナデ調整。焼成良好で色調は淡白灰色を呈する。

坏 c（17、18） 17 は復元高台径 11.8cm。18 は復元高台径 12.5cm。やや潰れた低い高台を貼付する。

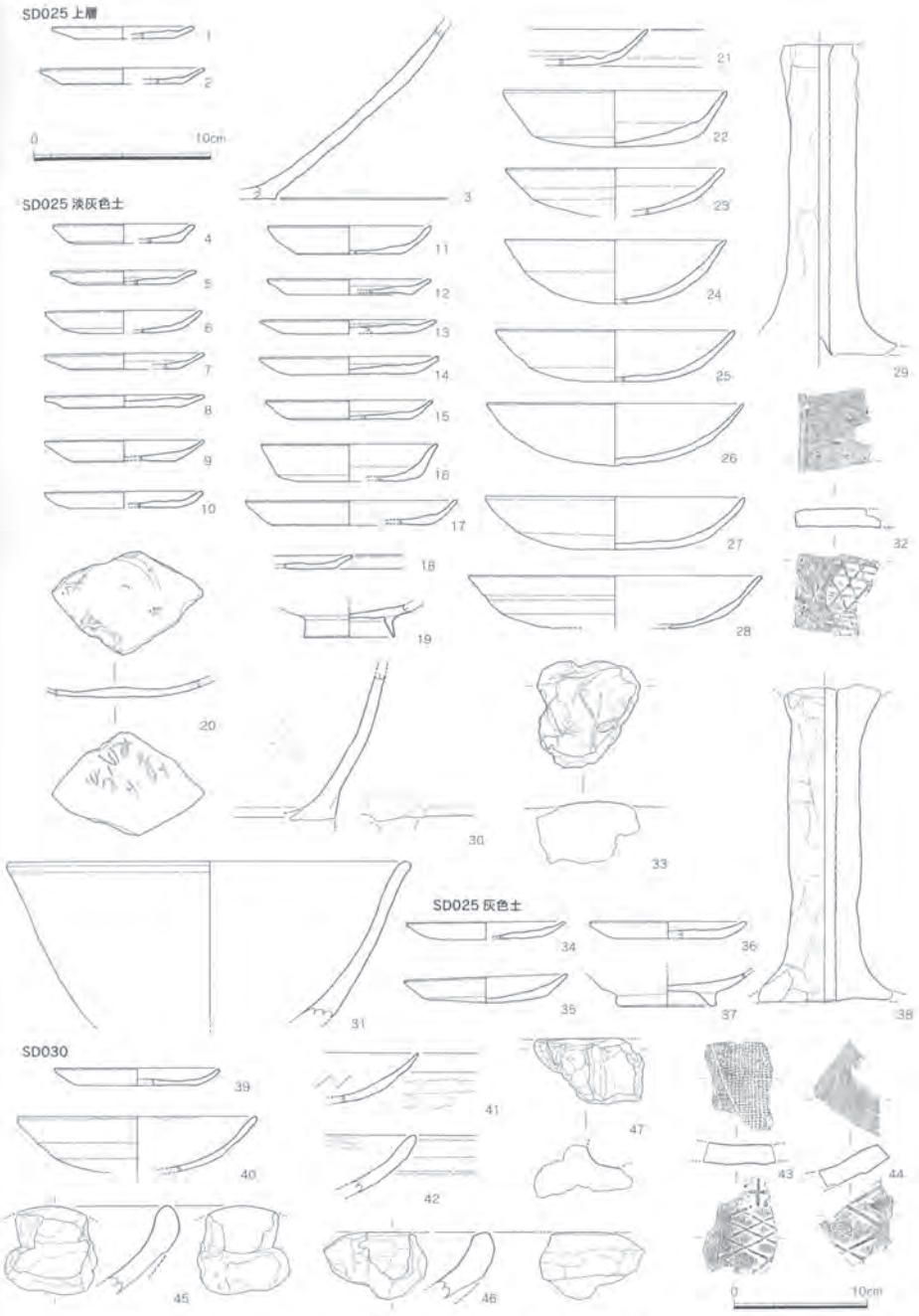


Fig. 32 255SD025・030 出土遺物実測図（1/3、瓦は 1/4）

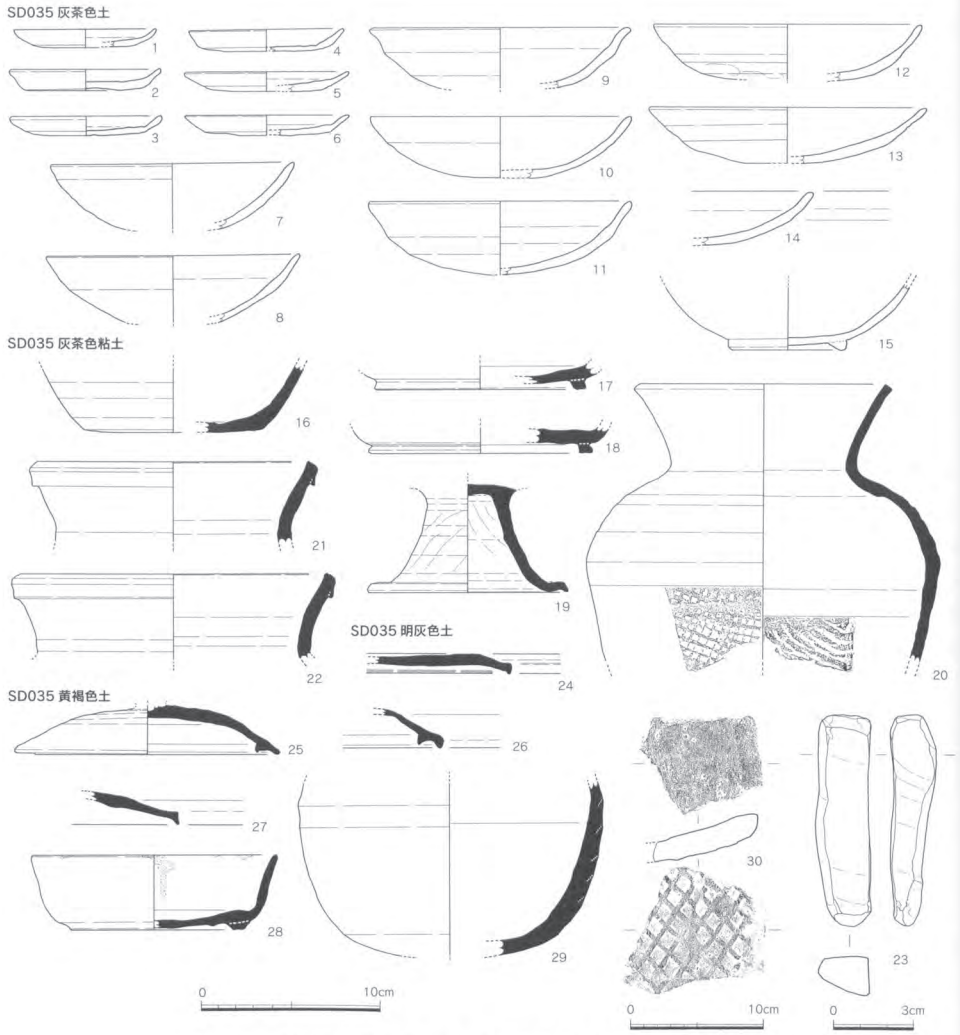


Fig. 33　255SD035 出土遺物実測図①（1/3、23 は 1/2、30 は 1/4）

高坏（19）　復元脚部径 11.2cm。脚部高 6.0cm。胎土は精製され焼成は良好。色調は暗灰色や白灰色を呈する。内外面回転ナデ調整。

壺（20）　復元口径 14.5cm。胎土は 0.1cm 前後の砂粒を多く含み、焼成良好だが、還元不良で淡茶褐色を呈する。体部外面下半は叩きで、内面には当て具痕も残る。その他の内外面は回転ナデで、外面肩部はやや強い回転ナデ。

甕（21、22）　復元口径 16.0cm。色調は内外面とも暗青灰色で、内外面とも回転ナデ。22 は復元口径 18.0cm で、色調は内外面とも白濁した青灰色で、内外面とも回転ナデ。

石製品

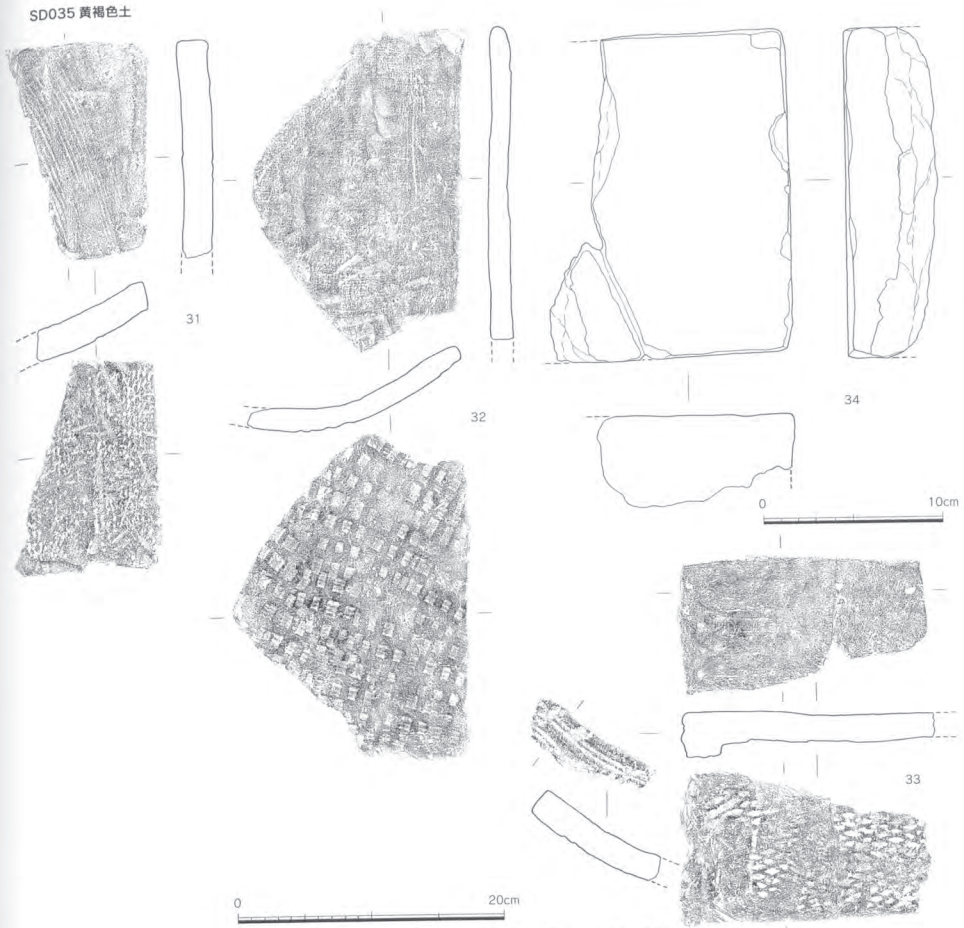


Fig. 34　255SD035 出土遺物実測図②（1/4、34 は 1/3）

砥石（23）　縦 7.9cm、横 2.0 × 1.5cm。4 面使用されている。砂岩製。

255SD035 明灰色土出土遺物（Fig. 33）

須恵器

蓋 3（24）　外面は回転ヘラケズリ、内面は不定方向の丁寧なナデ。端部は僅かに三角を作り出している。色調は淡青灰色を呈する。

255SD035 黄褐色土出土遺物（Fig. 33・34）

須恵器

蓋 c1（25）　ツマミは欠損する。外面上半部は回転ヘラケズリ、下半は回転ナデ。内面上部は回転ナデ後ナデ調整。還元不良で鈍い赤灰色を呈する。

蓋 1（26）　端部で回転ナデ。外面上半部は回転ヘラケズリ。

蓋３（27） 端部は細い三角形を呈する。外面上半部回転ヘラケズリ、その他は回転ナデ。外面の色調は黒灰色を呈する。

坏ｃ（28） 復元口径 13.8cm、器高 4.2cm、高台径 9.8cm。低い台形の高台を貼付する。内面口縁部付近には煤が付着する。

壺（29） 丸味のある体部で、外面回転ナデ、内面ナデ調整。胎土は砂粒を多く含み、焼成還元は良好で淡青灰色を呈する。

瓦類

平瓦（30 ～ 32） 30 は凸面に太めの格子叩きを施す。31 は縄目叩きだが摩滅が目立つ。凹面には糸切り痕が残る。32 は格子目叩きで、格子内に刻み目があり、「目」の字のような叩き目である。胎土は 0.1cm 前後の砂粒を多く含む。焼成は不良で土師質に仕上がり、淡明灰色を呈する。

軒丸瓦（33） 瓦当面は浅い重弧文があるが摩滅が目立つ。凹面は布目痕で、凸面はやや大きい縄目叩痕が残る。胎土は 0.1cm 前後の砂粒を多く含む。焼成は不良で淡黄灰色を呈する。

土製品

塼（34） 縦 18.4cm。胎土は 0.1cm 前後の砂粒を多く含み、淡白褐色で表面の一部は黒褐色を呈する部分がある。

255SD035 灰色粘土出土遺物（Fig.35・36）

須恵器

蓋ｃ1（35 ～ 38） 焼成還元は良好。35 は口径 16.2cm、器高 3.1cm。外面上半部回転ヘラケズリ、その他の内外面は回転ナデ。色調は淡灰色を呈する。36・37 はツマミを欠損する。外面上半部回転ヘラケズリで、その他は回転ナデ、内面上半部はその後ナデ調整。色調はやや暗い青灰色を呈する。38 は宝珠形のツマミを貼付する。外面は口縁部調整の回転ナデ以外は回転ヘラケズリ、内面は回転ナデ。

蓋１（39 ～ 44） 口縁端部の破片で、回転ナデ調整。40・41・44 の外面上半部は回転ヘラケズリ。41・43 は還元不良で淡赤紫灰色を呈する。

蓋ｃ（45） つぶれたツマミを貼付する。上半部の破片のため、外面は回転ヘラケズリ、内面は不定方向のナデで、やや滑らかになっている。硯として再利用した可能性もある。

蓋３（46） 口縁端部を長く折り曲げている。内外面とも回転ナデで、外面上部はその後ナデ調整。口径 15.4cm。

坏ｃ（47 ～ 51） 51 以外は外側に踏ん張ったやや高い高台を貼付する。47 は口径 13.75cm、器高 4.85cm、復元高台径 9.0cm。内外面回転ナデで、内面底部は直交する２方向のナデ調整。色調は淡青灰色を呈する。48 は復元高台径 9.5cm で、底部外面にヘラ記号を施す。49 は還元不良で淡褐茶色を呈する。50 は暗青灰色を呈する。51 は低い小さな高台を貼付する。

高坏ａ（52、53） 52 は復元口径 16.0cm、器高 7.5cm、脚部径 11.0cm。焼成は良好で青灰色を呈する。坏内面底部が不定方向のナデ、それ以外は回転ナデ調整される。53 は 52 とほぼ同じ形だが、上下端部を欠損する。還元不良で淡紫褐色を呈する。２点とも内外面とも回転ナデで、内面底部がナデ。

高坏ｂ（54） 坏部の破片で、復元口径 21.0cm。外面下半は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面底部はナデ調整である。焼成良好だが、還元不良で暗赤紫色を呈する。

壺（55） 口縁部を内湾させ、端部を僅かに外反させる。口径 12.5cm、器高 8.05cm、底径 7.7cm。胎土は白色粒を多く含み、青灰色を呈する。外面底部は回転ヘラケズリ、その他は回転ナデで、焼成時に器面が膨張し、凸凹している。

鉢（56） 口縁部を丸く内湾させる。復元口径 18.6cm。焼成還元良好で暗青色を呈す。

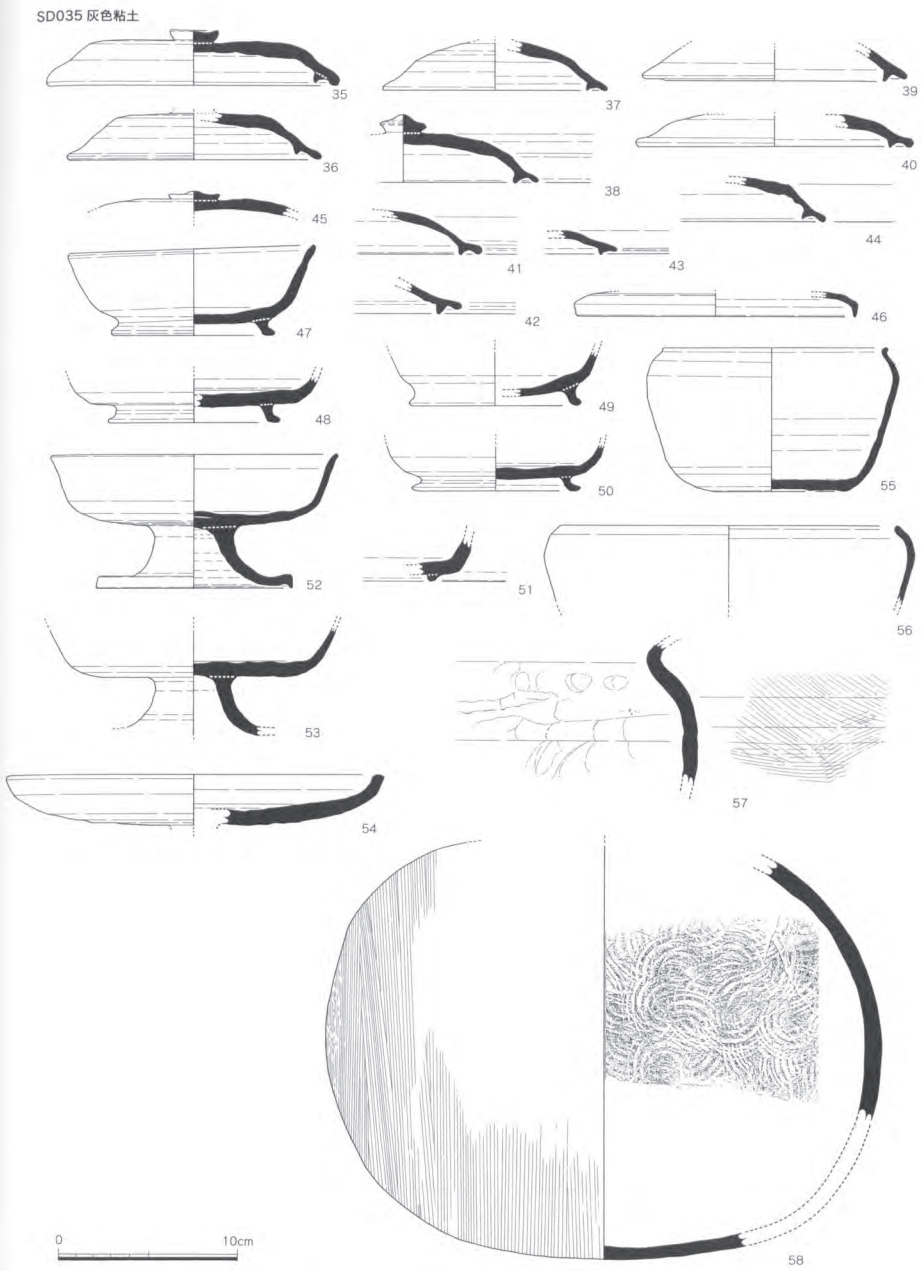


Fig.35 255SD035 出土遺物実測図③（1/3）

SD035 灰色粘土

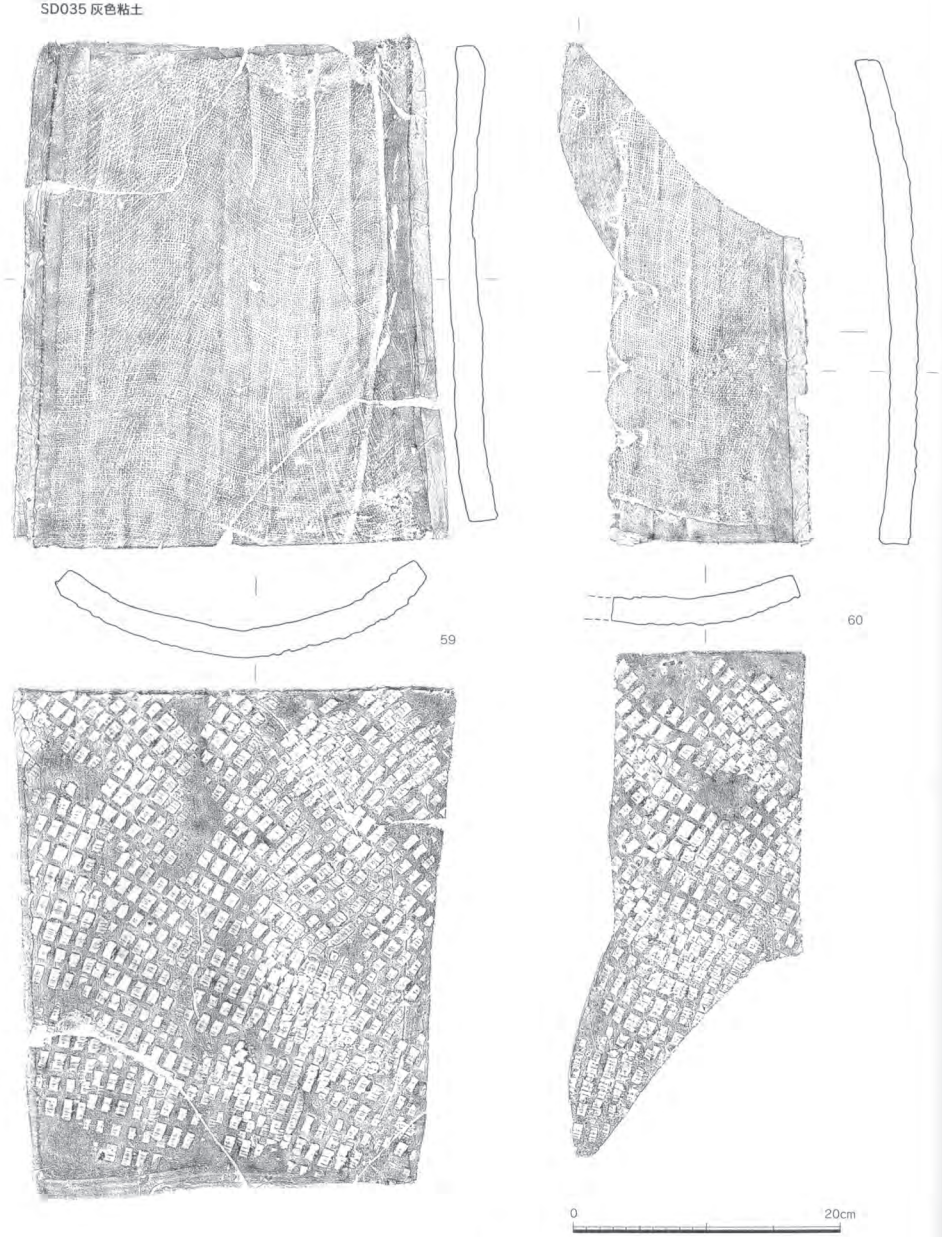


Fig. 36　255SD035 出土遺物実測図④（1/4）

甕（57）　体部の破片で、胎土は 0.3cm 前後の黒色粒を多く含み、外面にはカキ目、内面ヨコナデで指頭圧痕が残る。焼成良好で淡灰色を呈する。

横瓶（58）　外面カキ目、内面は同心円の当て具痕が残り、側面部分だけ接合のためのナデがみられる。焼成は良好で、暗灰青色を呈する。

瓦類

平瓦（59、60）　2 点とも同じ叩き目で、格子内に刻み目を入れ、「目」の字のような叩き目をしている。凹面は布目と模骨痕が残り、側面はヘラケズリ加工している。59 はほぼ完形だが、全体が若干ねじれている。縦 35.8cm、横 27.75cm、厚さ 2.0cm。胎土は 0.4cm 前後の砂粒を多く含む。焼成は良好で、色調は灰色を呈する。凹面は布目痕が明瞭に残り、凸面の短辺端部はヨコナデし面取りしている。60 は胎土に 0.3cm 以下の砂粒を多く含み、焼成は良好で、色調は暗灰色や灰色を呈する。

井戸

255SE020 暗灰色土出土遺物（Fig. 37）

瓦類

平瓦（1）　凸面に格子叩きとナデ調整され、「平井」の文字の一部が確認できる。胎土は砂粒を多く含み、焼成は良好で暗灰色を呈する。

255SE040 淡灰色粘土出土遺物（Fig. 37）

土師器

小皿 a（2）　口径 10.0cm、器高 1.2cm、復元底径 7.8cm。調整は磨滅し不明。

255SE040 灰茶色土出土遺物（Fig. 37）

土師器

小皿 a（3 ～ 5）　復元口径 8.6 ～ 10.6cm。器高 0.9 ～ 1.3cm。復元底径 5.6 ～ 8.3cm。全体的磨滅し調整不明瞭。色調は淡白褐色を呈する。

黒色土器

椀 c（6 ～ 8）　6 は若干丸い高台を貼付する。高台径 5.4cm。A 類。7 は高台径 5.9cm。B 類。8 は口縁部が僅かに外反し、口径 16.5cm、高台は欠落している。内外面はミガキが見られるが、外面は剥落が目立つ。外面底部には板状圧痕が残る。

255SE040 青灰色土出土遺物（Fig. 37）

土師器

丸底坏 a（9）　内面ミガキ、外面下半はヘラ切り後ナデ調整。色調は淡白褐色を呈する。

土坑

255SK055 出土遺物（Fig. 37）

土師器

丸底坏（10）　復元口径 15.2cm。焼成不良で調整不明瞭。

片口鉢（11）　口径 24.3cm、器高 7.65cm、底径 14.0cm。胎土は 0.5cm 前後の砂粒を多く含み粗い。内外面ともナデ調整される。焼成は不良で、色調は黄茶褐色を呈する。

朝鮮系無釉陶器

甕（12）　底部付近の破片で、外面底部はナデ調整で、一部工具痕が残る。内面は叩きの後回転ナデ、体部外面は回転ナデ調整。

255SK065 出土遺物（Fig. 37）

石製品

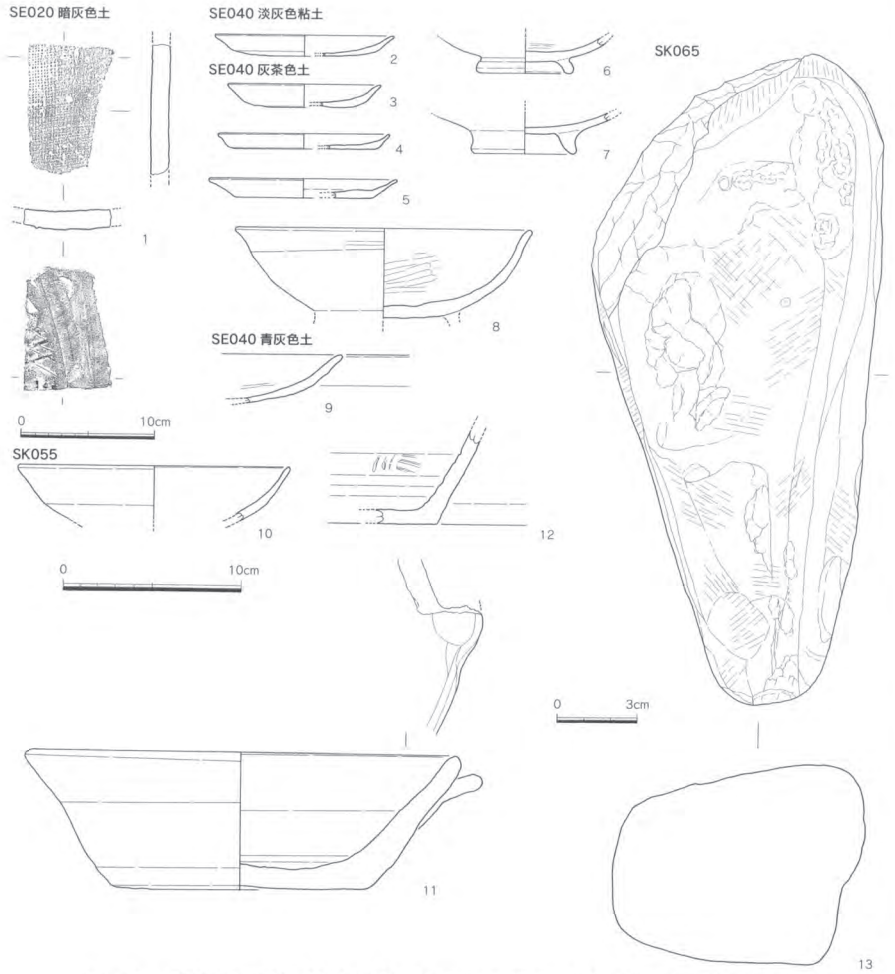


Fig. 37　255SE020・040、SK055・065 出土遺物実測図④（1/3、1 は 1/4、13 は 1/2）

砥石（13）　縦 24.4cm、横 9.45cm、厚さ 8.2cm。4 面使用され、一部敲打痕がみられる。赤みがかった淡灰色の砂岩製。

土取り遺構

255SX001 出土遺物（Fig. 38）

須恵器

円面硯（1）　硯面は使用により滑らかになり、一部擦痕もみられる。断面には粘土の繋ぎ目が確認できる。焼成は良好で暗青灰色を呈する。

脚付盤（2）　第 236-1 次調査で多く出土した盤と同様のものである。胎土は 0.1cm 前後の砂粒を多く含み、焼成は不良で淡灰白色を呈する。

土師器

小皿 a（3、4）　3 は復元口径 8.6cm、器高 1.0cm、復元底径 6.8cm。全体磨滅し調整不明。4 の底部切り離しは糸切りで、板状圧痕が残る。

坏 a（5 ～ 7）　5 は淡茶褐色で焼成は良好である。高台は若干厚みがある。6・7 は体部が若干反るような外開き。7 の底部切り離しは糸切りに思える。

椀 c（8）　丸く低い高台を貼付する。焼成は不良で淡褐色を呈する。

丸底坏 a（9）　復元口径 14.6cm、外面下半に指頭圧痕が残るが、全体的に磨滅する。

須恵質土器

鉢（10、11）　肥厚した口縁部の破片。色調は淡灰青色などを呈する。東播系。

緑釉陶器

皿×椀（12）　釉は剥落し、高台側面部に僅かに緑白色釉が残る。高台はケズリ出しの蛇の目高台である。焼成は須恵質だが色調は明灰色や黄灰色を呈する。復元高台径 8.2cm。京都産。

白磁

鉢（13）　内面と外面は薄く施釉されるが、高台内面と畳付は回転ヘラケズリのまま露胎である。Ⅱ類。

小壺（14）　底径 2.9cm。外面には浅い沈線が施されている。胎土は微細な砂粒を僅かに含む。内外面には淡灰緑色釉が薄く施釉され、内面底部には釉が少し溜まっている。底部外面は露胎である。

龍泉窯系青磁

椀（15）　高台内面に墨書が見られるが欠損しているため文字はわからない。I 類。

瓦類

平瓦（16 ～ 19）　焼成は良好で淡灰白色を呈する。16 は格子目に「平井」の文字がある。17 は「平井瓦屋」と文字の一部が残されている。18 は二重の格子目叩きで、側面は分割線で切断するもその後未調整。19 は格子目の内部に菱形が見られる叩きである。

丸瓦（20、21）　20 は格子目に「平井」の文字がある。21 は格子内に部分的に十文字のような模様が入る叩きで、側面はヘラケズリ。

土製品

土壁（22 ～ 29）　胎土は 0.1cm 前後の砂粒を多く含み、淡茶褐色を呈する。スサ痕跡もみられる。22 ～ 25 は骨組みに巻いていたような痕跡残る。22・29 の骨組みは痕跡から径 1.5cm 以上の大きさである。24 の骨組みは痕跡から径 2.5cm 以上の大きさである。25 の骨組みは痕跡から径 1.1cm 以上の大きさである。28 は土師器破片が一緒に練りこまれている。

土層

第 255 次調査灰褐色土出土遺物（Fig. 39）

黒色土器

椀 c（1）　低い高台を貼付し、復元高台径 6.4cm。焼成やや不良。B 類。

須恵質土器

鉢（2）　肥厚した口縁部で、外面はやや粗いナデ調整。

黒釉陶器

天目椀（3）　内外面に光沢のない黒茶褐色釉を施すが、体部下半は露胎。復元高台径 3.9cm。焼成は良好である。

初期高麗青磁

椀（4、5）　4 は I-1 類。内外面に淡灰緑色釉を施し、高台畳付は露胎で、目跡のような痕跡が見ら

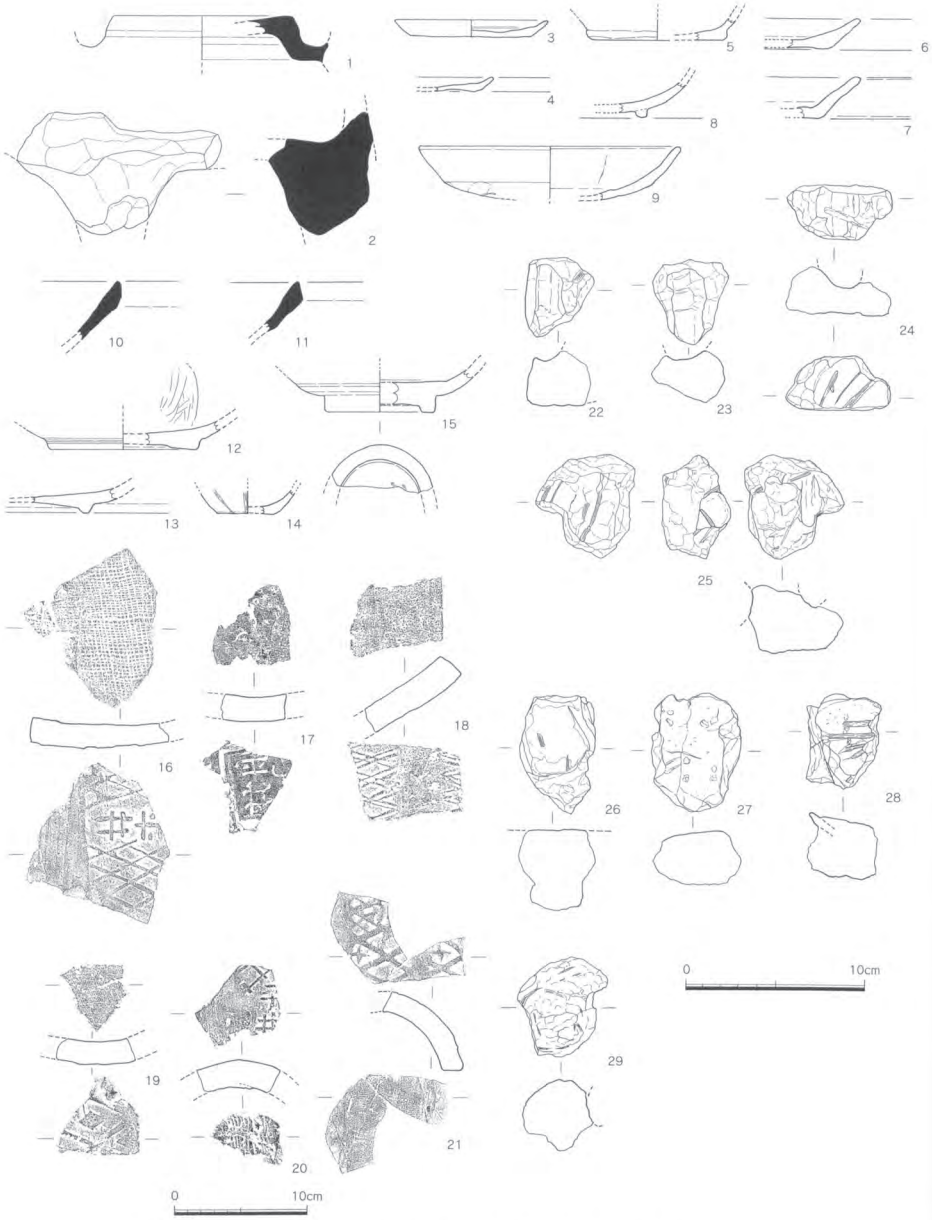


Fig. 38　255SX001 出土遺物実測図（1/3、瓦は 1/4）

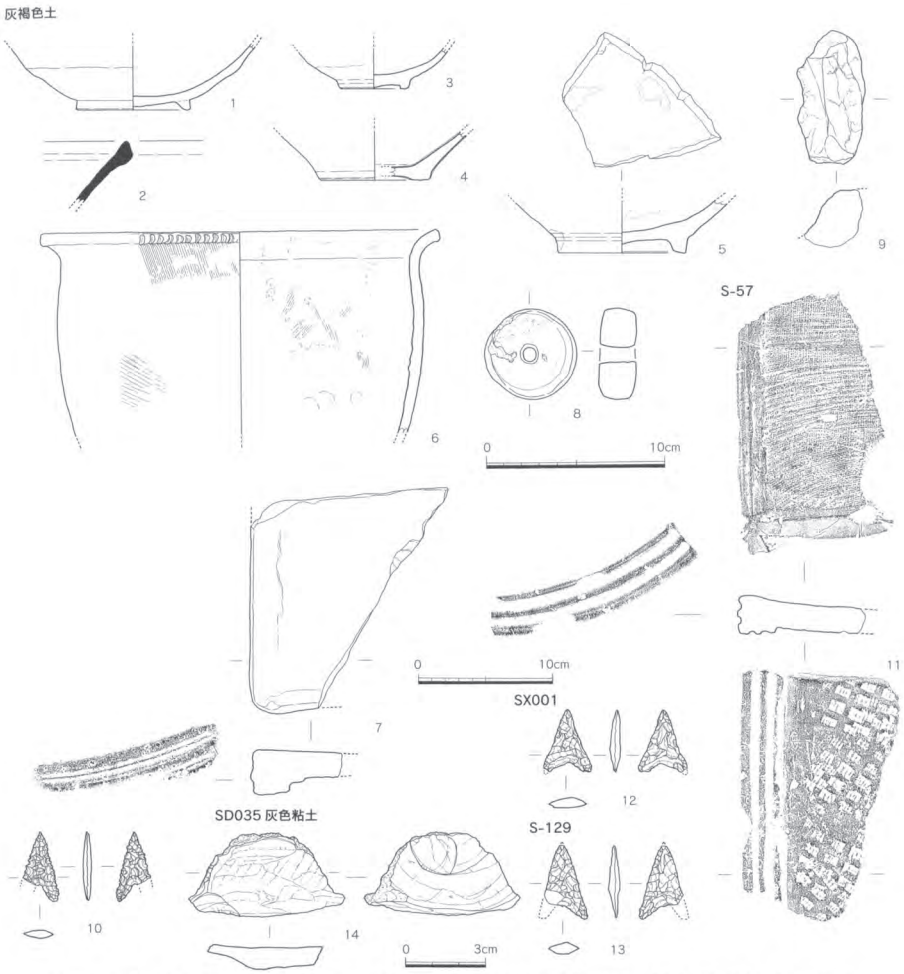


Fig. 39　第 255 次調査灰褐色土・その他の遺構出土遺物実測図（1/3、石製品は 1/2、瓦は 1/4）

れる。5 はⅢ-2 類。内外面に暗黄緑色釉を施し、高台畳付部分だけ釉をふき取っている。

弥生土器

甕（6）　口縁端部に刻み目を施す。体部外面はタテハケ調整。内面は付着物があり不明瞭。胎土は砂粒を多く含み、茶褐色や黒褐色を呈する。

瓦類

軒平瓦（7）　瓦当面は彫りの浅い重弧文で、それ以外は磨滅が目立ち、凸面には小さな格子目がみられる。胎土は 0.3cm 以下の砂粒を多く含み、焼成はやや不良で、色調は淡灰白色である。

土製品

紡錘車（8）　径 5.0 × 5.1cm、厚さ 2.1cm。色調は淡灰色を呈する。

トリベ（9）　破片で全形はつかめにくい。胎土は砂粒を多く含み淡灰色を呈する。

石製品

石鏃（10）　縦2.6cm、横1.25cm、厚さ0.3cm。黒曜石製。

その他の出土遺物（Fig.39）

瓦類

軒平瓦（11）　瓦当面と凸面口縁は重弧文を施す。凸面には目の字のような格子叩きを施す。胎土は0.4cm前後の砂粒を多く含む。焼成は良好で灰色を呈する。S-57より出土。

石製品

石鏃（12、13）　12は縦2.35cm、横1.8cm、厚さ0.4cm。安山岩製。SX001より出土。13は縦2.75cm、横1.2cm、厚さ0.4cm。安山岩製。S-129より出土。

剥片（14）　横長剥片で、自然面も残す。縦3.1cm、横4.5cm、厚さ0.8cm。安山岩製。SD035灰色粘土より出土。

(5) 小結

確認された遺構面はほとんど1面で、北端や西端で僅かに2面確認できた。調査地の半分近くを土取り遺構が広がっている。

土取り遺構に重複しながら、大規模ではないが掘立柱建物が7棟確認されている。時期判断が難しいが、SB015が若干古く奈良時代の可能性があるものの、殆んどが平安時代後半頃のものと推測され、井戸は2基あるが、いずれも11世紀後半～12世紀代で、奈良時代の遺構はSD035のほかSD005やSD010など溝3条のみで、調査区の南端に多く確認されている。

調査区中央で検出された255SD035は、上層が11世紀後半～12世紀前半、下層が7世紀末～8世紀前半の埋没で、埋土は明瞭に分層される。この状況から溝は政庁Ⅰ期に掘削され、8世紀前半には一度完全に埋没し、その後平安時代になるまで掘り直されることなかったと推測される。また、第236-2次調査で検出された236-2SX091やSX092が255SD035の延長上にあり、その南側4.8mの所に236-2SD035が平行していることを考えると、同じく南側で検出された255SD022を対とした道路である可能性が考えられる。土取り遺構が255SD035を挟んで両側にあり、この溝を認識した上で土取りが行われた可能性も考えられる。つまり、SD035は溝として断絶があっても、時代を越えて条坊区画設計上境界であったと推測される。

調査区西側にあるSD025とSD030の南北2本の溝に挟まれた空間は平安時代後期の道路と考えられる。幅は南端部が最も広くて3.0m、最も狭い北端部で1.06mを測る。SD030から派生した溝がSD025によって切られていることやSD025が遺物を多く含むことなどからSD025だけはSD030より長く使用されたことが窺える。よって、東西溝であるSD035の最上面と最終埋没が同じである可能性が考えられる。井上条坊案から推測すると条坊路には該当しないため、その他の道路や区画と推測される。

表.5　第255次調査　遺構一覧表

S-番号	遺構番号	種別	埋土・切り合い等	調査面（遺構面）	時期	地区	掲載頁
1	255SX001	土取り遺構		1	12世紀前半～13世紀代	D～T、3～8	52.53.64～66
2		土坑	黒灰色土、炭混じり	1	平安	B4	
3		土坑群		1		C4	
4		ピット群	SB080の一部	1		B5	
5	255SD005	溝	灰白色粘質土	1	8世紀後半	4ライン	51.54.55
6		溝	S-6→1　灰色粘土	1	古代	E4	
7		ピット群		1		H8	
8		土坑		1		J9	
9		土坑	暗灰色土	1	平安	J8	
10	255SD010	溝	淡灰色土	1	8世紀前半～中頃	Cライン	51.54.55
11		溝	淡灰色土	1	奈良時代	DE4	
12		土坑		1		K10	
13		ピット群	SB080の一部	1		C5	
14		ピット群	SB085の一部	1		E6	
15	255SB015	掘立柱建物	S-15→1	1	奈良時代？	EFG4・5・6	47.48.54.55
16		溝	灰白色土	1		F7	
17		ピット群		1		G7	
18		ピット群	SB080・085の一部	1		E5	
19		土坑	暗灰色土、下層は暗灰色粘土と黄灰色粘土	1		L4	
20	255SE020	井戸	S-1→20	1	12世紀～13世紀	Q5	52.53.63.64
21		ピット	黄灰色土	1		P6	
22		溝	淡灰色土　ぼんやり確認できる。	1		I8・9	
23		窪み	灰茶色土	1	11世紀後半～	FG6・7・8	
24		ピット群	炭・焼土混じり	1		Q4・R5	
25	255SD025	溝		1	11世紀後半～12世紀初	11ライン	51.54～57
26		ピット群		1		L7	
27		たまり	灰茶色土と黄灰色土の混合層	1	平安時代	N9	
28		土坑	暗灰色土	1		J6	
29		土坑	淡灰色土	1		K5	
30	255SD030	溝		1	11世紀後半～12世紀前半	12ライン	51.52.56.57
31		ピット群	S-50のピット含む	1		N8	
32		溝		1		K9	
33		溝		1		K8	
34		溝		1		K8	
35	255SD035	溝	上下2層あり	1	上層：11世紀後半～12世紀前半 下層：7世紀末～8世紀前半	Kライン	51.52.56 58～63
36		ピット	暗灰色土	1		K6	
37		土坑	淡灰色土	1		L9	
38		窪み	淡灰色砂質土、S9付近でS-106と分ける。	1	11世紀後半～	OP9	
39		ピット群	S-50のピット含む	1		O8	
40	255SE040	井戸		1	11世紀後半～12世紀初	O8	52.53.63.64
41		ピット		1		O10	
42		ピット		1		N11	
43		ピット		1		J9	
44		ピット	S-45e含む	1		Q9	
45	255SB045	掘立柱建物	炭混じりの暗灰色土	1	12世紀以降？	P6・7・8	47.48.54.55
46		ピット群	S-45n含む　暗灰色土	1		Q6	
47		窪み	茶灰色土　S-47→1	1	11世紀後半	M8	
48		窪み		1		M7	
49		ピット		1	平安後期	I8	
50	255SB050	掘立柱建物		1		NO7・8	47.49
51		ピット群		1		K8	
52		ピット群		1		M8	
53		ピット群		1		S7	
54		ピット群		1		M7	
55	255SK055	土坑		1	平安後期	O6	52.53.63.64
56		ピット群	S-50の一部	1	11世紀後半～	N7	
57		ピット群		1		N7	
58		ピット群		1		N6	
59		ピット群	S-45f含む	1		Q8	
60	255SB060	掘立柱建物	第236-1次調査SB660と同一遺構	1		TUV3・4	47.49
61		溝		1		Q8	
62		ピット群	S-70の一部	1	平安時代	R13	
63		溝	茶灰色粘質土	1		R13	
64		ピット群	S-70の一部	1		R12	
65	255SK065	焼土坑	S-96→65	1	11世紀後半～12世紀初	T7	52.53.63.64
66		窪み	茶灰色土	1	平安後期	R12	
67		窪み		1		R11	
68		ピット		1		P12	
69		ピット	S-50の一部	1	11世紀後半以前	P7	
70	255SB070	掘立柱建物	第257次調査に続く	1		R12・13	47.49.50
71		ピット	S-50の一部	1		O7	
72		たまり	淡灰色土	1		Q11	
73		ピット群		1		S11	
74		ピット群		1		R4	
75	255SF075	道路	SD025と030の間	1		M～S10・11	53
76		ピット群		1		Q6	
77		ピット群	S-45k含む	1		R6	
78		ピット群		1		T8	
79		窪み		1	平安時代	Q8	
80	255SB080	掘立柱建物	整理中に確認	1		B～E・5～7	49.50
81		たまり		1	平安時代	ST8	
82		ピット群	炭混じり暗灰色土　S-45p含む	1	平安後期～	R8	
83		ピット群	S-45含む	1	平安後期～	R9	

84		ピット		1		S8	
85	255SB085	掘立柱建物	整理中に確認	1		E5～7	49.50
86		ピット群		1		R10	
87		溝	暗灰色砂質土	1		S11	
88		ピット	炭・土器片混じり	1		U8	
89		ピット	炭・土器片混じり	1		U8	
91		ピット群		1	11世紀後半	U7	
92		ピット群		1		V4	
93		窪み		1		K7	
94		溝		1	平安後期	T8	
96		窪み		1		T8	
97		窪み		1	11世紀後半	TU8	
98		ピット群		1		T8	
99		ピット		1		U5	
101		ピット群		1		W4	
102		土坑	暗灰色土	1		S9	
103		ピット		1		S9	
104		溝		1		S9	
106		窪み		1	11世紀後半～	RS8・9	
107		ピット		1		N6	
108		ピット		1		K7	
109		ピット群		1		T9	
111		ピット群		1		T9	
112		土坑		1		T10	
113		ピット		1	平安後期	T10	
114		ピット		1		S10	
116		ピット群		1		V5	
117		ピット		1	平安時代	S12	
118		ピット		1	平安時代	S12	
119		ピット		1	平安時代	R12	
121		ピット		1		R11	
122		ピット		1		J8	
123		ピット		1		N11	
124		ピット群		1		E3	
126		ピット群		1		F5	
127		ピット		1		D6	
128		段落ち		1		PQ12・13	
129		整地	暗灰色土	1		T9	
131		ピット群	S-129の底	1		T9	

表6　第255次調査　条坊関連遺構座標値

遺構番号	位置	遺構中点座標値		南門からの距離		方位
		X	Y	X方向（m）	Y方向（m）	
255SD010	東端	55637.81	-44677.20	-1069.380	154.238	E-2° 25′ 21″ -S
	西端	55638.03	-44682.40	-1069.212	149.036	
255SD025	北端	55688.70	-44697.81	-1018.699	133.120	N-5° 30′ 41″ -W
	南端	55671.60	-44696.16	-1035.781	134.941	
255SD030	北端	55687.80	-44700.18	-1019.623	130.759	N-0° 28′ 39″ -E
	南端	55673.40	-44700.30	-1034.023	130.783	
255SD035	東端	55663.96	-44675.40	-1043.213	155.777	E-0° 7′ 15″ -S
	西端	55664.00	-44694.38	-1043.363	136.797	
255SF075（255SD025と030）	北端	55687.80	-44699.03	-1019.611	131.909	N-2° 11′ 14″ -W
	南端	55673.40	-44698.48	-1034.005	132.603	
255SD022	東端	55657.70	-44690.10	-1049.620	141.140	E-8° 57′ 17″ -N
	西端	55657.44	-44691.75	-1049.897	139.493	
255SD022・035間の中点	東端	55660.835	-44690.10	-1046.485	141.109	E-4° 9′ 35″ -N
	西端	55660.715	-44691.75	-1046.622	139.460	

政庁中軸線方位＝N-0° 34′ 24″ -E　　政庁南門中点座標＝(X＝56708.680　Y＝-44820.730)

表.7　第255次調査　出土遺物一覧表

S-1

須恵器	蓋1、蓋3、蓋c、坏a、坏c、高坏、高坏b、甕、円面硯
	壺、脚付盤、破片
土師器	小皿a、坏、坏a、坏a(小)、丸底坏a、椀c、
	甕、器台、把手、破片
黒色土器B	椀
須恵質土器	鉢
須恵質（輸入）	朝鮮系無釉陶器
緑釉陶器	破片(1)、皿(1)
灰釉陶器	壺(2)、皿(1)、破片(1)
越州窯系青磁	椀：I-2ア(1)、I(3)
龍泉窯系青磁	椀：I(6)、I-1a(1)、I-3a(2)、I-6b(1)、II-b(5)
同安窯系青磁	椀：I-1a(1)、I-1b(2)、I-1c(1)、III-2a(1)
	皿：I(1)、I-2b(1)　　破片(2)
高麗青磁	椀：I(1)、III-2(1)
白磁	椀：II-1(8)、II(3)、II-5(1)、IV(21)、V(7)、V-1b(1)
	V-2(3)、V-2b(1)、V-3a(1)、V-4(2)、V-4c(1)、IX(1)
	V-2×VI-1(6)、V-1×VIII-2(9)、VI(1)、VIII(1)
	広東系(3)、直口縁(1)、口縁外反(1)、破片(30)
	皿：II(1)、II-1a(3)、II-5(1)、IV(1)、IV-2(1)、V(2)
	V-a(1)、V-2(1)、V×VI(1)、VI(4)、VI-1b(2)
	VI-1a(2)、VI-b(2)、VI-2b(1)、VI×VII(1)、VII(1)
	VII-1(1)、VII-1c(1)、V～VII(3)、IX(1)
	直口縁(1)、広東系(5)、破片(2)
	壺(1)、小壺(1)、壺×水注(1)、合子身(1)
	鉢：II(1)、III(1)、破片(2)
	白磁破片(66)、広東系(20)
中国陶器	四耳壺(1)、盤(1)　　破片(3)
瓦類	平瓦(縄目叩,格子叩)、丸瓦(格子叩,無文)、瓦玉
金属製品	鉱滓
石製品	平玉石、剥片、丸石、石鍋、石鏃
土製品	トリベ、焼土塊、輪羽口

S-2

須恵器	坏、破片
土師器	坏、小皿a
白磁	破片(1)

S-3

須恵器	坏、甕
土師器	坏、甕
白磁	椀(1)

S-4

須恵器	甕、破片
土師器	坏、破片
瓦類	破片(縄目叩)

S-5

須恵器	蓋3、坏c、大椀c、甕、鉢b、鉢×壺
土師器	甕、甕?
瓦類	平瓦(縄目叩,格子叩)、軒丸瓦

S-6

須恵器	皿a
土師器	坏
瓦類	平瓦(縄目叩)、瓦玉

S-7

土師器	破片
土製品	焼土塊

S-8

土師器	甕

S-9

須恵器	高坏?、甕
土師器	小皿a、甕
金属製品	鉄釘

S-10

須恵器	坏c、高坏b、壺
土師器	坏a、甕、破片
瓦類	破片

S-11

須恵器	坏、甕、破片
土師器	坏
白磁	破片(1)

S-12

須恵器	破片
土師器	破片
瓦類	平瓦(縄目叩)

S-13

須恵器	破片
土師器	坏、破片
白磁	破片(1)

S-14

須恵器	甕
土師器	丸底坏、小皿a、甕

S-15 f

土師器	破片

S-15 i

須恵器	甕
石製品	平玉石

S-16

須恵器	甕
土師器	破片

S-17

須恵器	破片
土師器	坏
白磁	破片(1)
瓦類	破片

S-18

土師器	坏

S-19

須恵器	甕、破片
土師器	破片
金属製品	環状鉄製品

S-20暗灰色土

須恵器	坏a×皿a、甕、破片
土師器	椀c、甕
瓦類	丸瓦(縄目叩,無文)、平瓦(縄目叩,格子叩)

S-20淡灰色土

土師器	丸底坏?、椀c、破片
石製品	丸石

S-21

瓦類	破片

S-22

須恵器	甕

S-23

須恵器	蓋3、坏c、甕、壺
土師器	坏c、丸底坏a、甕
白磁	椀：IV-1a(1)、鉢？(1)
瓦類	平瓦(縄目叩,格子叩)
土製品	焼土塊

S-24

土製品	焼土塊

S-25淡灰色土

須恵器	坏、坏c、壺、破片
土師器	小皿a、坏a、丸底坏a、椀c、甕、鉢、脚付鉢
	器台、破片
黒色土器A	椀c
黒色土器B	破片
須恵質（輸入）	朝鮮系無釉陶器
白磁	椀：II(1)、II-1(3)、II-5(1)、IV(6)、VIII(1)
	広東系(1)、破片(3)
	皿：II(1)、V～VII(1)、VII-1b(2)
	白磁破片(4)、広東系(1)
瓦類	丸瓦(格子叩)、平瓦(縄目叩,格子叩)
金属製品	鉱滓
土製品	焼土塊、輪羽口

S-25上層

須恵器	甕、破片
土師器	丸底坏、椀c、小皿a、甕
白磁	椀：V-3a(2)　広東系(1)
須恵器（輸入）	朝鮮系無釉陶器甕
瓦類	平瓦
石製品	砥石
土製品	焼土塊

S-25

須恵器	坏c、破片
土師器	椀c、小皿a、破片

S-25灰色土

須恵器	甕、破片
土師器	丸底坏a、椀c、小皿a、鉢、器台
黒色土器A	椀c
瓦類	平瓦(縄目叩,無文)
石製品	滑石

S-26

土師器	坏

S-27

須恵器	甕、破片
土師器	坏、椀c、甕
青白磁	破片(1)
石製品	石核

S-28

須恵器	坏c
土師器	坏a、甕
白磁	椀：IV(1)　白磁破片I(1)
瓦類	平瓦(格子叩)、破片
金属製品	鉱滓

S-29

須恵器	甕
土師器	坏、甕
瓦類	平瓦(格子叩)
土製品	トリベ?

S-30

須恵器	甕、破片
土師器	小皿a、坏、坏a、丸底坏a、椀c、破片
白磁	椀：II-1(1)、V-1×VIII-2(1)、広東系(1) 皿：広東系(1)　白磁破片(1)
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩、破片)、丸瓦(無文)
石製品	剥片(黒曜石)
土製品	焼土塊、トリベ

S-31

土師器	坏、破片
白磁	皿：広東系(1)

S-32

須恵器	甕
土師器	坏、甕

S-33

須恵器	坏
土師器	坏、甕

S-34

須恵器	破片
土師器	破片

S-35灰色土

須恵器	甕、破片
土師器	坏、椀c
白磁	皿：II-1b(1)

S-35黄褐色土

須恵器	蓋1、蓋3、蓋c1、坏c、甕、鉢、壺、破片
土師器	甕、破片
瓦類	平瓦(縄目叩)、丸瓦(無文)、軒平瓦(重弧文)
土製品	塼

S-35灰茶色土

須恵器	蓋1、大蓋1、坏、高坏、甕、壺、破片
土師器	小皿a(ハ?)、小皿a(イ)、丸底坏a、丸底坏c、椀c、甕
白磁	椀：IV-1a(1)、V-2a(1)　皿：II(1)　白磁破片(1)
瓦類	平瓦(格子叩、縄目叩)、破片

S-35暗灰色土

須恵器	坏、甕
土師器	坏
白磁	皿：II-1b(1)

S-35茶灰色土

須恵器	坏a、甕
土師器	甕、破片

S-35明灰色土

須恵器	蓋1、蓋3、坏、甕
土師器	甕
瓦類	丸瓦(無文)、平瓦(格子叩)
石製品	丸石
土製品	焼土塊

S-35暗茶色土

須恵器	蓋3、坏c、甕
土師器	坏、甕
瓦類	平瓦(縄目叩)、軒丸瓦

S-35灰色粘土

須恵器	蓋1、蓋2、蓋c1、坏a、坏c、高坏a、高坏b 皿a、甕、小鉢a、鉢、壺、横瓶、破片
土師器	坏c、甕、破片
瓦類	平瓦(格子叩、無文)、丸瓦
石製品	剥片

S-35灰茶色粘土

須恵器	坏a、坏c、高坏、甕、壺
土師器	坏a、甕
瓦類	平瓦(縄目叩、無文)
石製品	砥石

S-36

土師器	甕?、破片

S-37

須恵器	甕

S-38

須恵器	蓋3、坏c、甕、破片
土師器	坏、丸底坏、椀c、小皿a、甕、器台
須恵質(輸入)	朝鮮系無釉陶器
白磁	椀：II-5(1)、IV(1)、破片(2) 皿：II-1(1)　壺(1)
瓦類	平瓦(格子叩、縄目叩)
石製品	平玉石
土製品	トリベ、焼土塊

S-39

土師器	坏、破片

S-40暗灰色土

須恵器	坏、壺?、破片
土師器	坏a、椀c、小皿a、破片
須恵質(輸入)	朝鮮系無釉陶器
白磁	椀破片(2)
瓦類	平瓦(格子叩)

S-40淡灰色粘土

須恵器	破片
土師器	丸底坏a、小皿a、小皿a2、器台
瓦類	平瓦(縄目叩)、破片

S-40曲物内

土師器	丸底坏a
白磁	椀；IV(1)

S-40灰茶色土

須恵器	坏a、甕
土師器	丸底坏a、小皿a、甕
黒色土器A	椀c
黒色土器B	椀c
須恵質(輸入)	朝鮮系無釉陶器

S-40青灰色土

土師器	丸底坏a、小皿a
瓦類	瓦玉

S-41

土師器	破片

S-42

瓦類	破片

S-43

須恵器	甕

S-44

土師器	甕、破片

S-45a

土師器	破片
土製品	焼土塊

S-45b

須恵器	甕
土師器	坏a、破片
瓦類	平瓦
土製品	焼土塊

S-45c

須恵器	甕
土師器	破片
土製品	焼土塊

S-45d

土師器	坏
瓦類	平瓦(格子叩)
土製品	焼土塊

S-46

土師器	小皿a、破片
土製品	焼土塊

S-47

須恵器	蓋3、坏、甕、破片
土師器	坏、坏a、椀c、甕、破片
瓦類	平瓦(格子叩,縄目叩)、丸瓦、軒平瓦

S-48

須恵器	甕
土師器	坏a

S-49

土師器	破片
白磁	皿：VI-2b(1)

S-51

須恵器	甕
土師器	坏、甕
土製品	焼土塊

S-52

土師器	坏、甕

S-53

土師器	坏、破片

S-54

土師器	破片

S-55

須恵器	甕、破片
土師器	丸底坏、甕、破片
土師質土器	片口鉢
須恵器(輸入)	朝鮮系無釉陶器甕
石製品	剥片

S-56

須恵器	甕
土師器	坏、破片
白磁	破片(1)、広東系(1)
土製品	焼土塊

S-57

須恵器	破片
土師器	丸底坏c、甕、破片
瓦類	軒平瓦(重弧文)

S-58

土師器	破片

S-59

土師器	坏

S-60a柱痕

土師器	破片

S-60b柱痕

土師器	破片

S-60c

須恵器	蓋1
土師器	破片

S-61

土師器	坏

S-62

土師器	坏、小皿

S-63

須恵器	坏c
土師器	坏、破片
白磁	皿：II-1(1)
瓦類	破片

S-64

須恵器	甕、破片
土師器	坏、破片

S-65

土師器	坏a、丸底坏、椀c、甕、破片
石製品	砥石?
白磁	椀：V-3a(1)、破片(1)　白磁破片(1)
土製品	焼土塊

S-66

土師器	丸底坏、甕

S-67

須恵器	破片
土師器	坏、破片

S-68

土師器	破片

S-69

土師器	坏、破片

S-71

須恵器	破片
土師器	坏
瓦類	平瓦(格子叩)

S-72

須恵器	蓋1、坏
土師器	坏、破片

S-73

土師器	丸底坏a、小皿a、器台、破片

S-74

土師器	破片

S-76

須恵器	坏
土師器	破片

S-77

瓦類	平瓦(格子叩)
土製品	焼土塊

S-79

土師器	坏
瓦類	破片

S-81

須恵器	坏、甕、破片
土師器	坏、椀c、甕、ﾂｸﾐ、破片
瓦類	平瓦(格子叩)
土製品	焼土塊

S-82

須恵器	破片
土師器	丸底坏a、小皿a
土製品	土塊

S-83

土師器	坏、小皿a、甕
土製品	焼土塊

S-84

土師器	坏

S-86

土師器	坏a、破片
金属製品	鉱滓

S-87

土師器	破片

S-88

須恵器	甕
土師器	坏、椀c、甕
黒色土器B	椀c
土製品	焼土塊

S-89

土師器	坏、破片
土製品	焼土塊

S-91

須恵器	甕
土師器	丸底坏、小皿a、破片
土製品	焼土塊

S-92

須恵器	破片
土師器	坏、破片
土製品	焼土塊

S-93

須恵器	甕、破片
土師器	丸底坏、破片
瓦類	破片(格子叩)

S-94

須恵器	坏、破片
土師器	坏、丸底坏、椀c、甕
白磁	椀：V-3b(1)
瓦類	平瓦(縄目叩)
土製品	焼土塊

S-96

須恵器	蓋3、坏、甕
土師器	坏、甕、破片
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩)

S-97暗灰色土

須恵器	坏、甕
土師器	坏、坏a、椀c、甕
土製品	焼土塊

S-97淡灰色土

須恵器	破片
土師器	破片

S-98

須恵器	甕
土師器	椀c、小皿a
土製品	焼土塊

S-99

土師器	坏
瓦類	平瓦(格子叩)

S-101

須恵器	甕
土師器	坏、破片
瓦類	平瓦

S-102

土師器	坏a、甕、破片

S-103

土師器	破片

S-104

土師器	坏

S-106

須恵器	坏、坏a、坏c、甕、壺?
土師器	坏、坏a、坏c、甕、壺?
須恵質(輸入)	朝鮮系無釉陶器
白磁	椀：V-3a(1)
瓦類	平瓦、破片(格子叩)
土製品	焼土塊

S-107

土師器	坏
黒色土器A	椀c

S-108

土師器	甕、破片
白磁	椀破片(1)

S-109

土師器	坏、破片

S-111

土師器	坏、丸底坏a、甕
白磁	椀：V-1×VIII-2(1)　　白磁破片(1)
土製品	焼土塊

S-112

須恵器	坏、坏a、甕、壺
土師器	坏、小皿a、甕
瓦類	平瓦(格子叩、縄目叩)、丸瓦(無文)

S-113

須恵器	蓋、甕
土師器	坏a、小皿a、破片
瓦類	平瓦(格子叩、縄目叩)

S-114

土師器	坏、小皿a

S-116

土師器	坏、破片

S-117

土師器	甕

S-118

土師器	甕

S-119

須恵器	破片
土師器	破片

S-121

土師器	破片

S-122

須恵器	甕?
土師器	破片

S-123

土師器	破片

S-124

土師器	坏

S-126

土師器	破片

S-127

土師器	坏、甕

S-128

須恵器	甕、破片
土師器	丸底坏、椀c、甕、器台、破片
黒色土器A	破片
越州窯系青磁	水注(1)
瓦類	平瓦(格子叩)、丸瓦(格子叩)
金属製品	鉱滓

S-129

須恵器	蓋、壺、小壺b
土師器	坏、椀c、甕、破片
瓦類	平瓦(縄目叩)
石製品	石鏃(安山岩)

S-131

土師器	破片

灰褐色土

須恵器	蓋、蓋1、蓋3、坏c、高坏、高坏b、椀c、甕、壺、鉢
土師器	坏、坏a、丸底坏a、椀、椀c、小皿a 小皿a(台)、器台、甕、鉢
黒色土器B	椀、破片
瓦器	椀
須恵質土器	鉢
肥前系陶磁器	破片
須恵質(輸入)	朝鮮系無釉陶器
越州窯系青磁	椀：I(2)、I-2(1)、I-2ヶ(1)　　壺：I(1)
長沙窯系青磁	水注(1)
龍泉窯系青磁	椀：I(1)、II-b(3)
同安窯系青磁	椀：I-1(2)、I-1a(1)、I-1b(2)　　破片(1)
高麗青磁	椀：I-1(1)、III-2(1)
灰釉陶器	破片(2)
白磁	椀：II-1(6)、II(2)、II-3×4(2)、II-5(2)、IV(8) IV-1a(1)、IV-2a(1)、V-1(2)、V-2b(1)、V-3(2) V-2×VI-1(2)、V-4c(1)、V(6)、V-4×VIII-1・3(1) V-1×VIII-2(7)、VI-1b(1)、VIII(1)、VIII-2(1) IX-2a(1)、破片(27) 皿：II-1(1)、IV-1a(1)、VI(3)、VI-1a(3)、VI-1b(1) VII-1(1)、VII-1b(1)VII-1b(1)、V～VII(3) IX(1)、広東系(1)、破片(2) 鉢III(1)　　白磁破片(23)、広東系(6)
中国陶器	壺(2)
黒釉陶器	椀
弥生土器	甕
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩、無文) 丸瓦(格子叩、縄目叩)、軒平瓦(重弧文)、瓦玉
金属製品	鉱滓
石製品	石鏃、剥片、平玉石
土製品	塼、焼土塊、トリベ、紡錘車

表土

須恵器	蓋1、蓋3、坏身、坏c、甕、壺、破片
土師器	坏、丸底坏、椀c、小皿a、甕、破片
肥前系陶磁器	椀、破片
国産陶器	破片
白磁	椀：IV(1)、IV-1a(1)、XI(1)、XII-1(1)、広東系(1) 口縁屈曲(1)、破片(2) 白磁破片(1)、広東系(2)
龍泉窯系青磁	椀：II-b(1)
中国陶器	破片(1)
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩)、丸瓦(格子叩、無文)
土製品	焼土塊

表.8　第255次調査　須恵器・土師器・黒色土器供膳具計測表

A：内底ナデ　B：板状圧痕

S-1

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a　イト	R-002	Fig.38-4	—	0.8	—	—	○
	小皿a　—	R-012	Fig.38-3	(8.6)	1.0	(6.8)	—	—
	坏a　—	R-022	Fig.38-5	—	1.2+α	(7.8)	—	—
	坏a　イトマ	R-026	Fig.38-7	—	2.3	—	○	—
	坏a　—	R-027	Fig.38-6	—	1.7	—	—	—
	椀　—	R-006	Fig.38-8	—	2.0+α	—	—	—
	丸底坏a　—	R-028	Fig.38-9	(14.6)	2.95	(7.8)	—	—

S-5

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	大椀c　ヘラ	R-001	Fig.31-4	—	1.8+α	12.2	—	—

S-25灰色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a　ヘラ	R-001	Fig.32-35	9.2	1.5	7.1	—	○
	小皿a　—	R-002	Fig.32-34	(8.9)	1.0	(6.2)	—	○
	小皿a　—	R-003	Fig.32-36	(8.9)	1.0	(6.3)	—	○
	椀c　—	R-004	Fig.32-37	—	1.9+α	5.6	—	—

S-25淡灰色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a　ヘラ	R-001	Fig.32-5	(8.2)	0.8	6.1	○	○
	小皿a　—	R-002	Fig.32-11	(9.2)	1.6	(6.1)	—	○
	小皿a　ヘラ	R-003	Fig.32-6	(8.8)	1.3	(7.0)	○	○
	小皿a　ヘラ	R-004	Fig.32-15	(9.4)	1.1	(7.1)	○	○
	小皿a　—	R-005	Fig.32-12	(9.2)	0.9	(7.0)	—	—
	小皿a　—	R-006	Fig.32-7	(9.0)	0.9	(6.3)	—	—
	小皿a　—	R-007	Fig.32-9	(9.0)	1.2	(6.2)	—	—
	小皿a　—	R-008	Fig.32-4	(8.0)	1.1	(6.4)	—	○
	小皿a　ヘラ	R-012	Fig.32-8	(9.0)	0.7	(7.1)	○	○
	小皿a　—	R-013	Fig.32-17	(11.9)	1.4	(9.1)	—	—
	小皿a　ヘラ	R-014	Fig.32-18	—	0.8	—	○	○
	小皿a　—	R-015	Fig.32-16	(10.0)	2.1	(8.1)	—	—
	小皿a　—	R-019	Fig.32-10	(9.0)	0.95	(6.2)	—	—
	小皿a　—	R-021	Fig.32-13	(10.0)	0.8	(7.4)	—	—
	小皿a　ヘラ	R-022	Fig.32-14	(10.1)	1.05	(7.4)	○	○
	坏a　ヘラ	R-010	Fig.32-22	(12.6)	3.2	9.0	○	○
	坏a　ヘラ	R-016	Fig.32-21	—	2.1+α	—	—	—
	椀c　—	R-026	Fig.32-19	—	1.8+α	(5.1)	—	—
	坏?（墨書）—	R-027	Fig.32-20	タテ5.9	ヨコ7.5	—	—	—
	丸底坏a　—	R-009	Fig.32-24	(12.4)	3.6	—	—	—
	丸底坏a　—	R-017	Fig.32-27	(14.6)	3.0	—	—	—
	丸底坏a　—	R-018	Fig.32-28	(16.6)	3.0+α	—	—	—
	丸底坏a　—	R-023	Fig.32-26	(14.4)	3.55	—	—	—
	丸底坏a　—	R-024	Fig.32-25	(13.4)	2.9	—	—	—
	丸底坏a　—	R-025	Fig.32-23	(12.4)	2.65	—	—	—

S-25上層

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a　—	R-001	—	(8.0)	0.7	(5.5)	○	—
	小皿a　—	R-002	—	(9.2)	0.9	(7.0)	—	—

S-30

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a　—	R-005	—	(9.3)	0.8+α	(6.4)	—	○
	丸底坏a　—	R-002	—	—	2.9+α	—	—	—
	丸底坏a　—	R-006	—	(13.5)	3.1+α	—	—	—

S-35灰茶色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a　—	R-001	Fig.33-1	(8.0)	1.05	(5.6)	—	—
	小皿a　—	R-002	Fig.33-6	(9.2)	1.1	(7.0)	—	—
	小皿a　ヘラ	R-008	Fig.33-4	8.7	1.2	7.1	○	○
	小皿a　ヘラ	R-009	Fig.33-5	(9.2)	1.1	(7.1)	—	○
	小皿a　ヘラ	R-010	Fig.33-3	(8.6)	1.1	(6.8)	—	○
	小皿a　イト	R-011	Fig.33-2	(8.5)	1.2	(6.6)	○	○
	坏　—	R-012	Fig.33-8	(14.2)	3.7	—	—	—
	丸底坏a　—	R-003	Fig.33-14	—	3.0+α	—	—	—
	丸底坏a　—	R-004	Fig.33-7	(13.6)	3.7+α	—	—	—
	丸底坏a　—	R-005	Fig.33-10	(14.6)	3.5+α	(11.6)	—	—
	丸底坏a　—	R-006	Fig.33-12	(15.0)	3.1+α	(11.8)	—	—
	丸底坏a　ヘラ	R-007	Fig.33-13	15.4	3.1	11.8	—	○
	丸底坏a　—	R-014	Fig.33-9	(14.6)	3.4+α	—	—	—
	丸底坏a　—	R-015	Fig.33-11	(14.7)	4.1	—	—	—

S-35灰茶色粘土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	坏c　—	R-004	Fig.33-18	—	1.5+α	(12.5)	○	—
	坏c　—	R-005	Fig.33-17	—	1.4+α	(11.8)	○	—
	椀a　—	R-008	Fig.33-16	—	3.7+α	(10.0)	○	—

S-35明灰色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋3　—	R-001	Fig.33-24	—	1.6+α	—	○	—

S-35灰色粘土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋c1　—	R-003	Fig.35-35	16.2	3.1	—	—	—
	蓋c1　—	R-010	Fig.35-38	—	3.8+α	—	—	—
	蓋c1　—	R-019	Fig.35-36	(14.2)	2.7	(8.6)	○	—
	蓋c1　—	R-020	Fig.35-37	(12.5)	2.7+α	(8.9)	○	—
	蓋1　—	R-001	Fig.35-44	—	2.5+α	—	○	—
	蓋1　—	R-005	Fig.35-43	—	1.3+α	—	—	—
	蓋1　—	R-006	Fig.35-42	—	1.7+α	—	—	—
	蓋1　—	R-007	Fig.35-40	(15.2)	1.8+α	—	—	—
	蓋1　—	R-008	Fig.35-39	(14.8)	1.8+α	—	—	—
	蓋1　—	R-009	Fig.35-41	—	2.45+α	—	—	—
	蓋c　—	R-026	Fig.35-45	—	1.4+α	—	○	—
	蓋3　—	R-027	Fig.35-46	15.4	1.4+α	—	—	—
	坏c　—	R-011	Fig.35-51	—	2.4+α	—	—	—
	坏c　—	R-012	Fig.35-48	—	2.4+α	(9.5)	—	—
	坏c　—	R-013	Fig.35-47	13.75	4.85	9.0	—	—
	坏c　—	R-021	Fig.35-50	—	2.6+α	(9.4)	○	—
	椀c　—	R-024	Fig.35-49	—	3.0+α	(9.5)	—	—
	高坏a　—	R-015	Fig.35-53	—	6.0+α	—	—	—
	高坏a　—	R-022	Fig.35-52	(16.0)	7.5	11.0	○	—
	高坏b　—	R-004	Fig.35-54	(21.0)	2.85+α	—	—	—

S-35黄褐色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋c1　—	R-001	Fig.33-25	(14.8)	2.8+α	—	○	—
	蓋3　—	R-002	Fig.33-27	—	1.8+α	—	○	—
	蓋1　—	R-007	Fig.33-26	—	2.2+α	—	—	—
	坏c　ヘラ	R-008	Fig.33-28	(13.8)	4.2	9.8	○	—

S-40青灰色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏a　ヘラ	R-001	Fig.37-9	—	2.8+α	—	—	—

S-40灰茶色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a　—	R-001	Fig.37-4	(9.6)	0.9	(8.3)	—	—
	小皿a　—	R-002	Fig.37-3	(8.6)	1.3	(5.6)	—	—
	小皿a　—	R-003	Fig.37-5	(10.6)	1.1	(7.8)	—	○
黒色土器A	椀c　—	R-004	Fig.37-6	—	2.0+α	5.4	—	—
黒色土器B	椀c　—	R-005	Fig.37-7	—	2.3+α	5.9	—	—
	椀c　—	R-006	Fig.37-8	16.5	5.0	5.6	—	—

S-40淡灰色粘土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a　—	R-001	Fig.37-2	10.0	1.2	(7.8)	—	—

S-45b

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a　ヘラ	R-001	Fig.31-2	—	0.9+α	(7.4)	—	○

S-55

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏　—	R-001	Fig.37-10	(15.2)	3.05+α	—	—	—

3、第 257 次調査

(1) 調査に至る経過

調査地は太宰府市朱雀 3 丁目 305 － 7 の一部で、2006（平成 18）年 3 月 20 日から 2007（平成 19）年 1 月 31 日にかけて発掘調査を実施した。調査は宮崎亮一・下高大輔が担当した。調査面積は 1805 ㎡である。

2006（平成 18）年 11 月 22 日には西鉄操車場跡地調査の中間報告ということで、記者発表を行い、翌日新聞各社に掲載される。そして、一般向け現地説明会を 11 月 25 日（土）に実施し、約 120 名の参加があった。

(2) 基本層位（Fig. 40・41・54・61）

第 236-1 次調査の北側と全く同じ層位で、砂利など西鉄車庫の盛土が 1m 前後全面に覆い、その下に耕作土とみられる茶灰色土があり、その下に床土とみられる黄灰色土、包含層とあり、現況から 1.4m 前後で遺構が確認される。

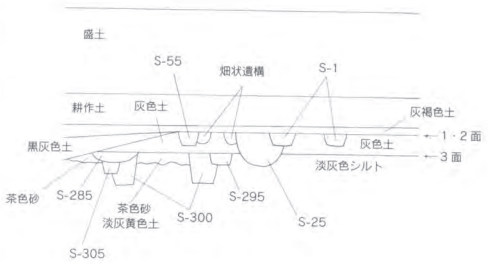


Fig. 40　調査区土層略図

遺構面の層位を簡単にまとめると以下のようになる。

第 1 面　・・・掘立柱建物 SB001・120 等の検出面・・・11 世紀後半～ 13 世紀代
2 面目の条坊痕跡が部分的に見え隠れする状況だが、それらの埋土に切り込んだ遺構が中心であるが、場所によっては古い遺構も検出される。

第 2 面　・・・南北溝 SD025 の検出面および畑状遺構検出面・・・9 世紀代～ 11 世紀後半
9 世紀の整地に切り込んだ遺構であるが、畑状遺構が未検出の西側については、1 面目と 2 面目の違いが不明瞭であり、時期が混在している。

第 2 面基盤層・SD010 より北側に整地が広がり、その東側半分が厚さ 0.1 ～ 0.2m の灰色土で、その西側半分が 0.05m 程の厚さで、黒灰色土・黒茶色土・茶褐色土がアメーバ状に広がっている。この西側半分はその下にやや粘質で一見地山のような灰白色土や茶灰色砂質土が広がっている。

第 3 面　・・・2 面目基盤層を除去して確認した遺構面・・・奈良時代
9 世紀代の整地より古い遺構で、大型掘立柱建物（SB300）

第 3 面基盤層・地山の凸凹を埋めるように厚さ 0.1m 前後の整地がみられるが、この整地が整地なのか包含層なのか明確でない。これらを除去するとやや凹凸のある淡黄色シルト質土の地盤になる。

第 4 面　・・・3 面目基盤層を除去して確認した遺構面
大型掘立柱建物（SB300）以下の整地より古い遺構となるのだが、今回の調査区では上層の遺構の掘り残しとみられる遺構を確認した以外は、目立った遺構は確認できなかった。

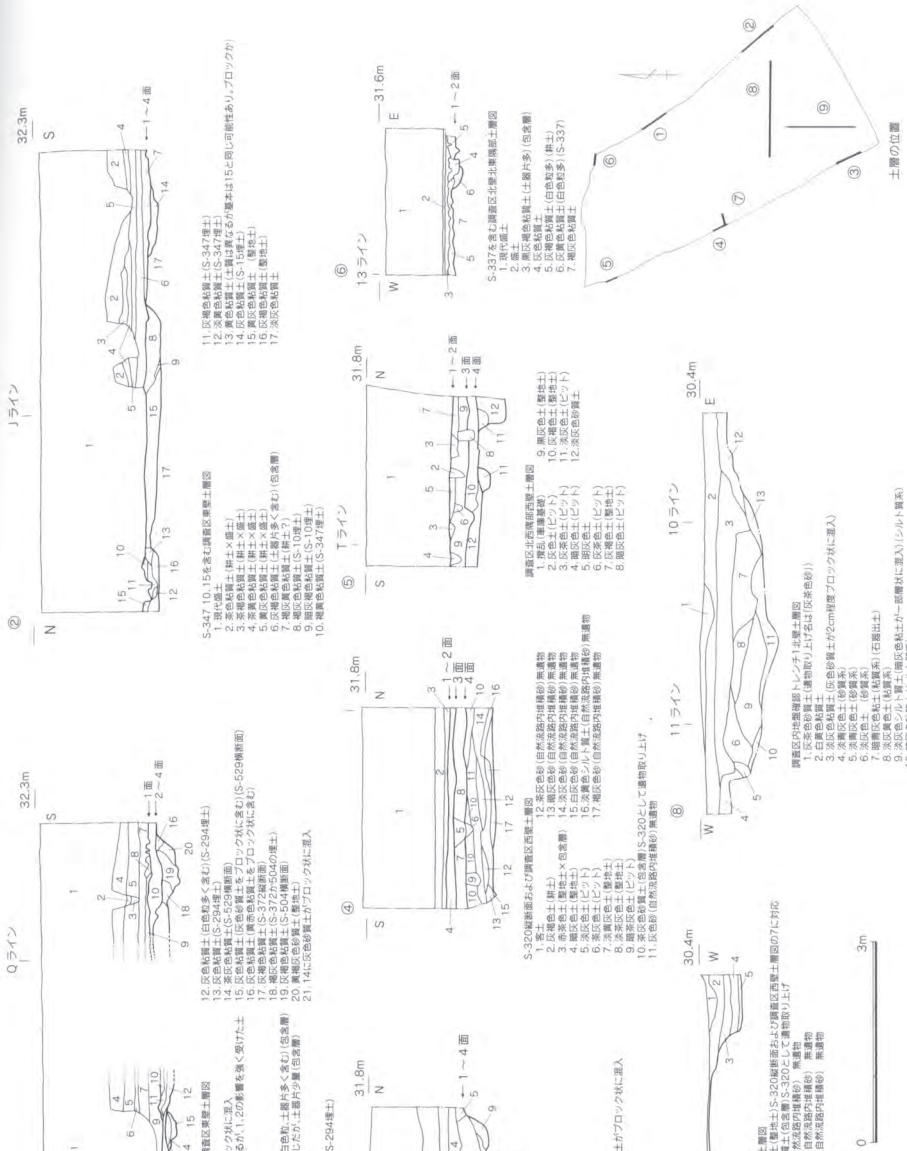


Fig. 41　調査区土層（1/80）

(3) 検出遺構

○第1面

第236-1次調査で1面目として調査したが、その中でも切り合いがあり、今回の調査ではそのうち新しい方が面的に捉えることができたため、1面目として調査した。よって、257次調査の2面目は、236-1次調査の1面目の古い段階のものということになる。調査初期段階で切り合いが殆どなかったため、SD015・020・025は一部掘削してしまったが正式には2面目で記録報告している。

掘立柱建物

257SB001 (Fig. 42)

2間×3間の東西棟で、周囲全面に1間の庇が付く。振れは梁、桁行共に若干ばらつきがあるがほぼ東西を示している。柱間は東西が1.85mで、南北は1.56mを測る。庇の柱間は北側が1.88m、南側が1.8m、東西は5間分確認され、0.7～1.88mと柱間にばらつきがあり、束柱のようなものも含んでいるものとみられ、柱穴の深さから4間であったと推測される。庇と本体との間隔が北側1.0m、南側2.0mであることから、南面した建物であることが推測され、全体として6.1m×9.3mの建物である。掘り方は径0.25～0.48m、深さ0.4m前後の円形で、柱痕は径0.15m前後である。

この建物は15条路と推測される257SF370・375の真上に建築されており、SB001が建築された頃には、この場所が道路として使用されていなかったことを物語っている。

257SB005 (Fig. 43)

2間×3間の南北棟で、南側と東側に1間の庇が付く。振れはおよそN-1° 57′ -Eを測る。東側は調査区外で、東隣の第236-1次調査で確認されている。掘り方が楕円形のものが多く、建替えもしくは柱痕の除去が行われた可能性が考えられるが、柱穴掘削後に建物と認識したため掘り方の埋土状況がわからず明確に言い切れない。柱間は南北2.0m、東西は1.8mと2.0m、庇との間は東側が1.0m、南側1.08mである。全体として4.9m×7.0mの建物である。また、建物南辺を257SB001の南辺とラインを一致させていることから、両者は併存していたと推測される。

257SB055 (Fig. 44)

2間×4間の南北棟で、北と西側に1間の庇が付く。振れはN-1° 45′ -Eを測る。掘り方は径0.3m前後の円形を呈し、柱間は梁行1.96m、桁行2.0mで、南端のみ1.85mを測り、北側に柱間1.0～1.16m離れて庇が付いている。全体として4.9m×9.0mの建物である。

257SB120 (Fig. 45)

4間×4間の総柱建物の状況を示しているが、掘り方の大きさや深さから、2間×4間の南北棟と推測され、東西それぞれに1間分の庇が付いた建物と考えられる。振れはほぼ正方位を示している。柱間は1.6～2.0mとばらつきがあるが、北側の1間が2.0mと広く、南側の1間が1.6mと狭い傾向にある。全体として建物はほぼ7.2mの正方形を成している。建物の中央には束柱のような柱穴が並んでいる。また、1ヶ所だけであるが、柱穴に重なるように花崗岩が検出されたため、礎石の役目を果たしていた可能性も考えられる。

257SB350 (Fig. 46)

2間×3間の東西棟で、南側に庇が付く。振れはおよそW-1° 50′ -Nを測る。掘り方は円形で庇の列は若干浅い。柱間は梁行が1.82mで、桁行は若干ばらつきがあり約1.75～2.0m、全体として4.35m×5.75mの建物である。

257SB355 (Fig. 46)

1間×3間の東西棟で、南北それぞれに1間分の庇が付く。掘り方は円形で、柱間は梁行2.45m、桁

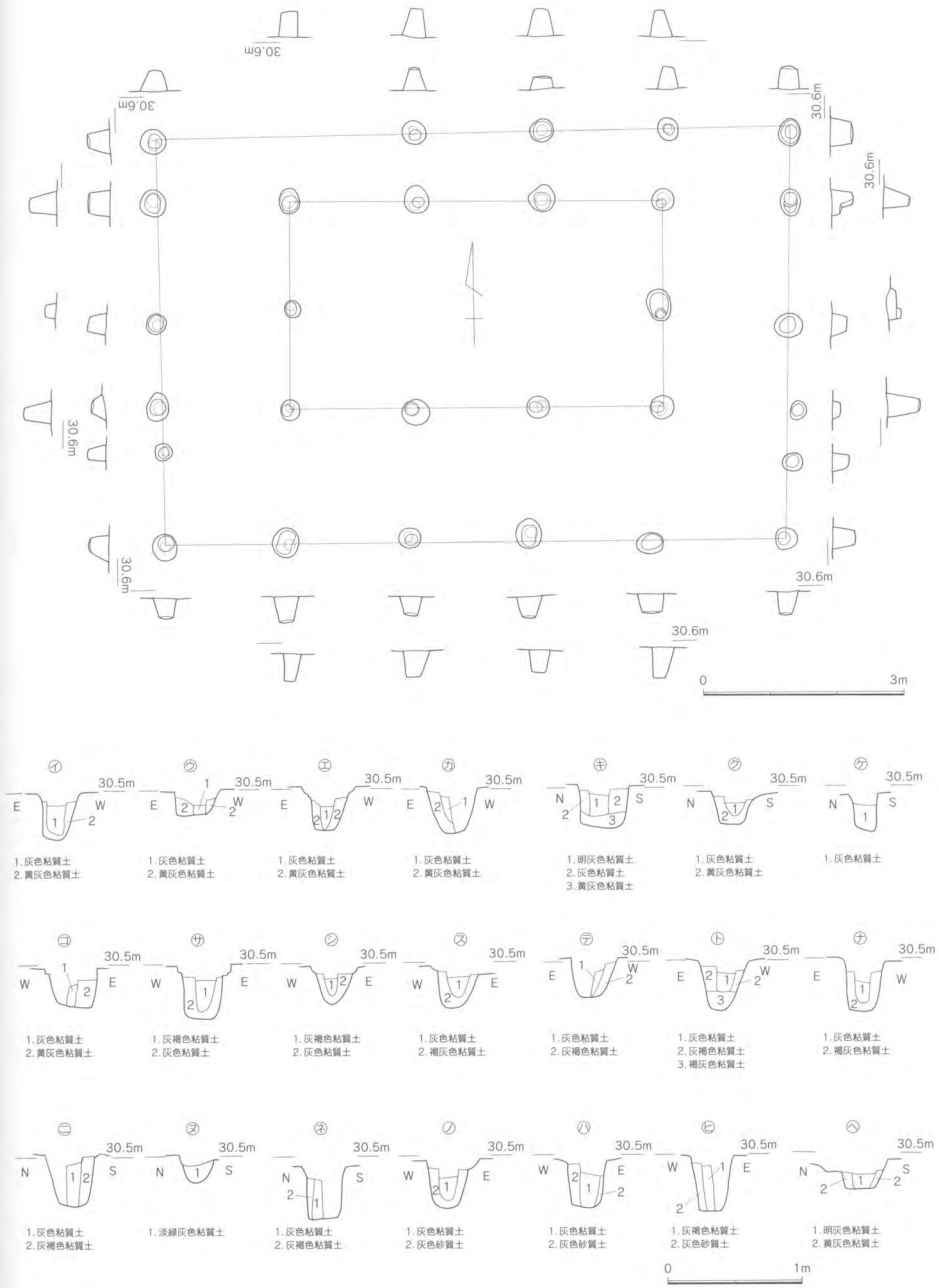


Fig. 42　257SB001遺構実測図（1/80、1/40）

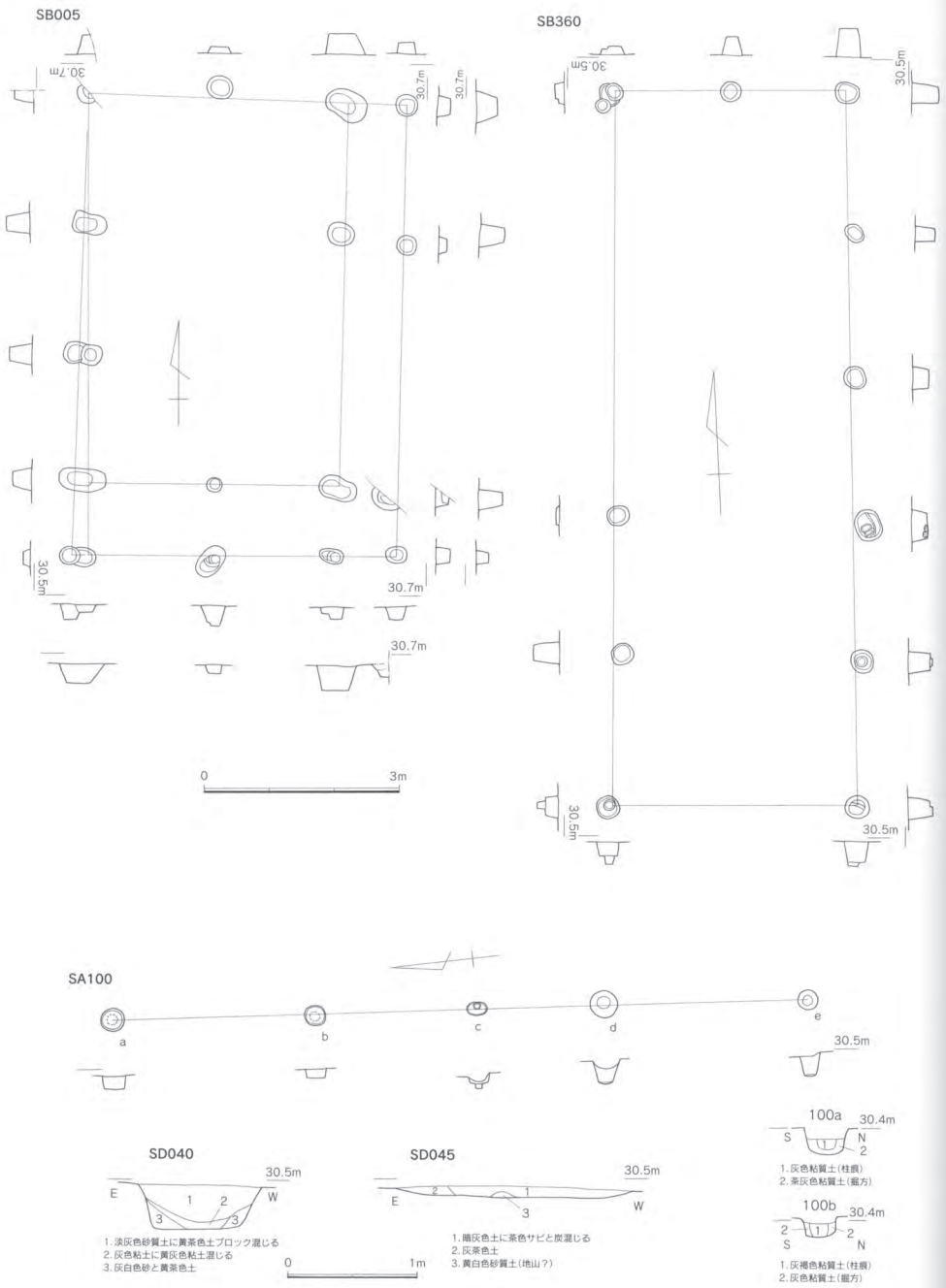


Fig. 43　257SB005・360、SA100、SD040・045 遺構実測図（1/80、1/40）

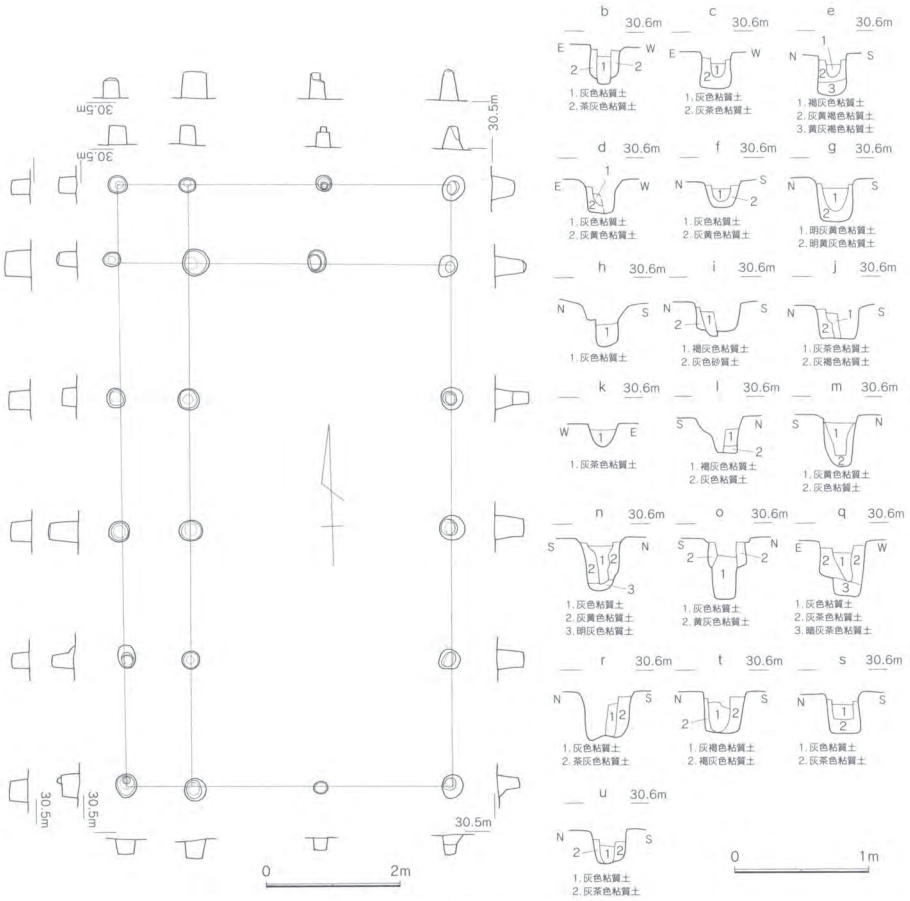


Fig. 44　257SB055 遺構実測図（1/80、1/40）

行 2.2m、庇は南北それぞれ 1.1m の位置に付けられ、全体として 4.6m × 6.6m の建物である。振れはおよそ W-2°　10′　-N を測る。

257SB360（Fig. 43）

2 間 × 5 間の南北棟で、振れはおよそ N-2°　51′　-E を測る。柱間は梁行が 1.75m、桁行が 2.2m で、全体として 3.5m × 11m の建物である。

柵列

257SA100（Fig. 43）

SD025 の埋土に切り込んだ南北の柵列で、柱間 1.95 ～ 3.1m の 4 間分検出した。掘り方は円形で、振れは掘立柱建物と若干異なり、N-4°　30′　-E を測る。

溝

257SD030

第 255 次調査で確認した SD030 の延長部に位置する南北溝で、これほど明瞭でなく、先細りになり

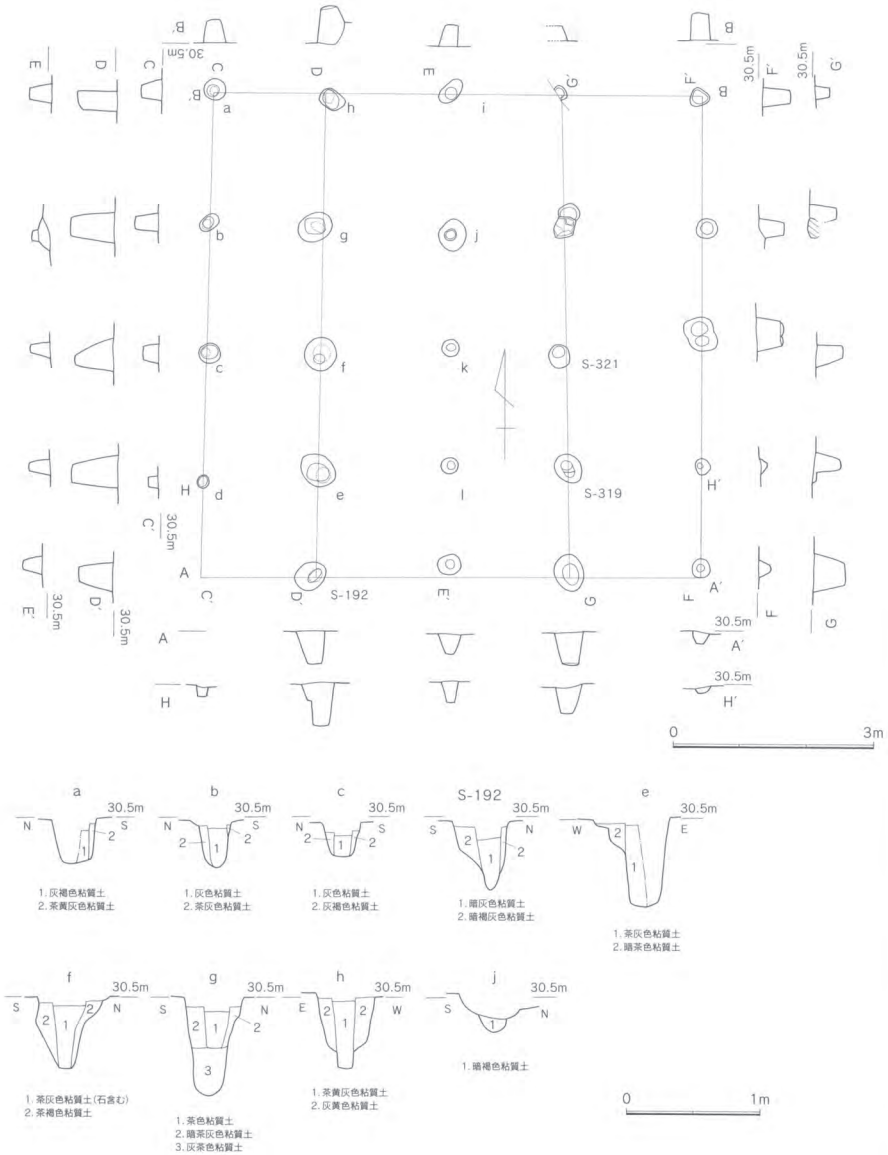
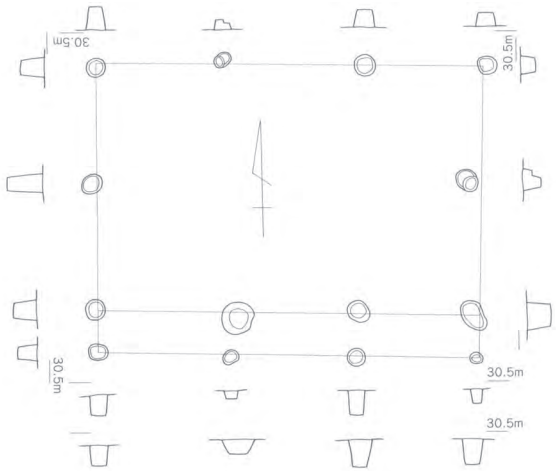


Fig. 45　257SB120 遺構実測図（1/80、1/40）

SB350



SB355

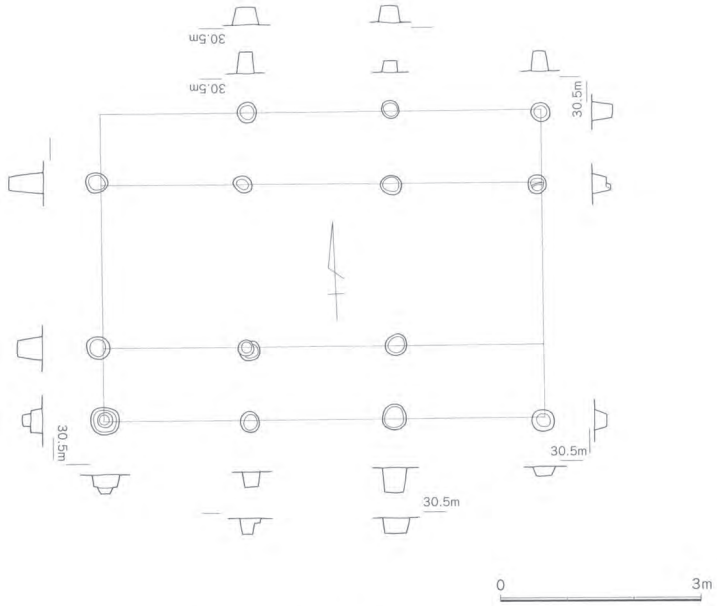


Fig. 46　257SB350・355 遺構実測図（1/80）

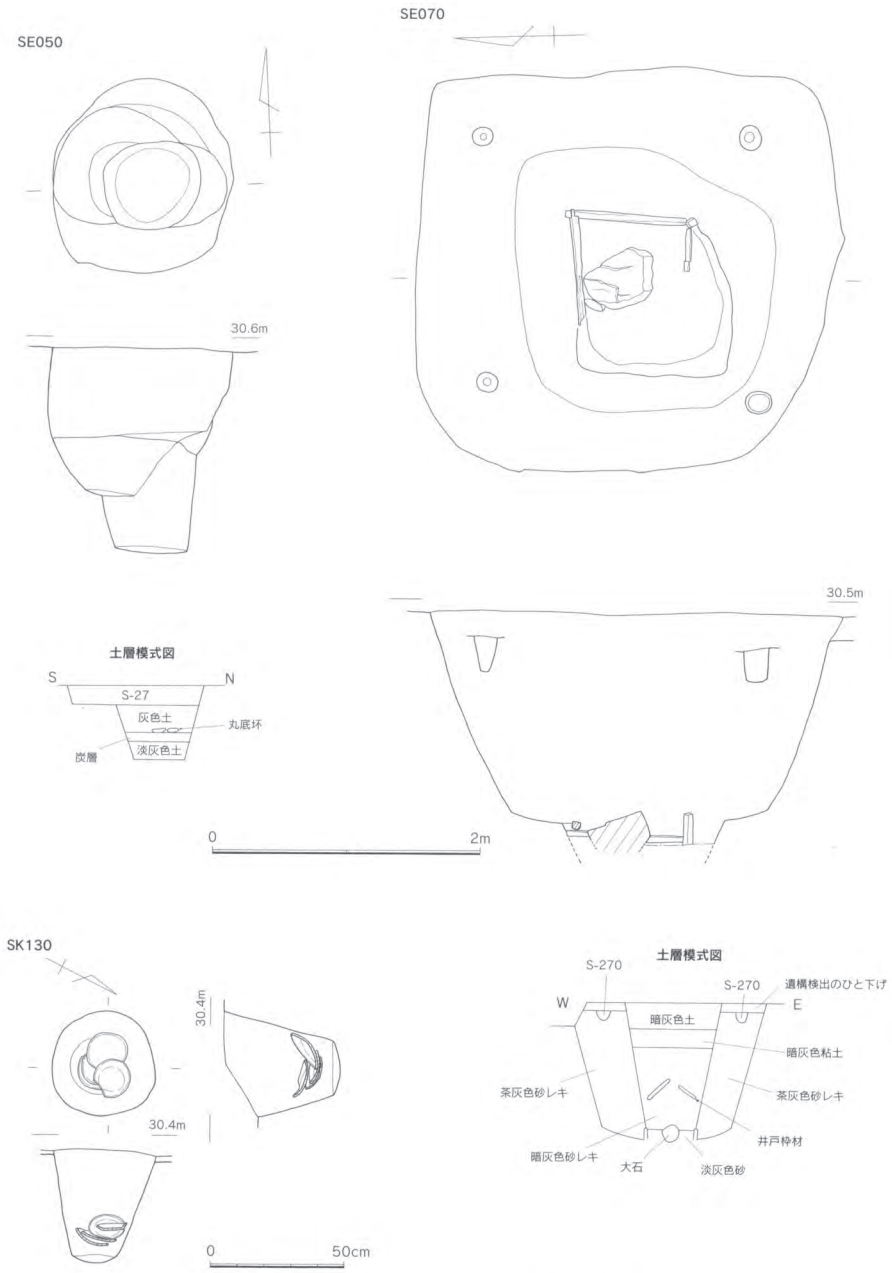


Fig. 47　257SE050・070、SK130 遺構実測図（1/40、1/20）

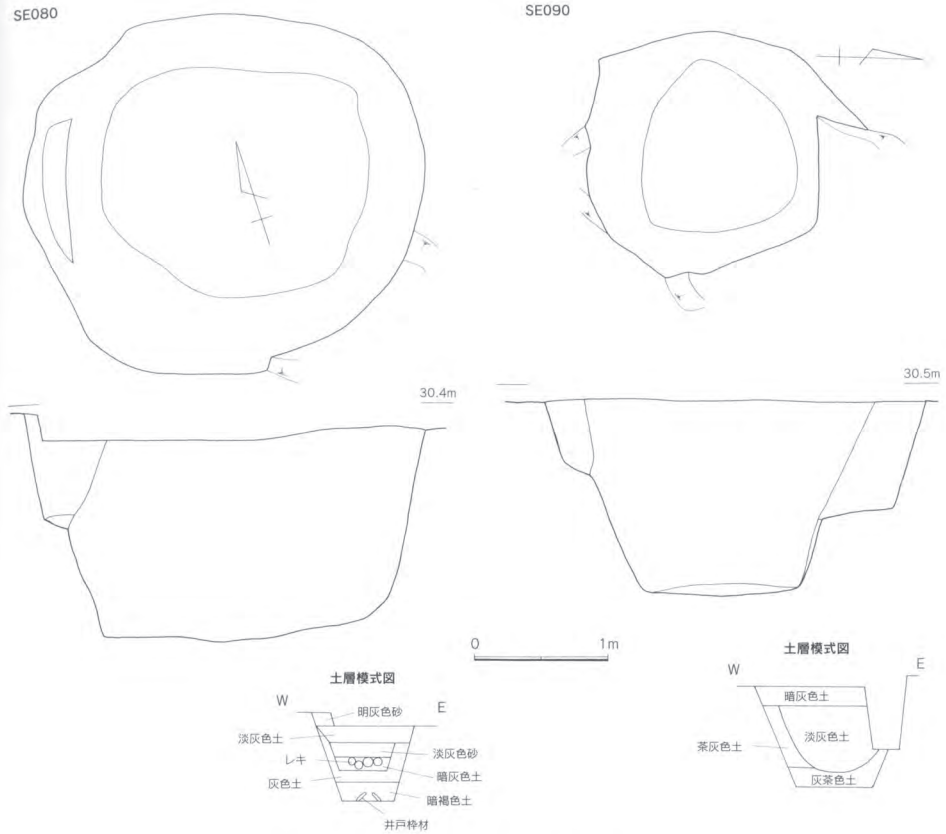


Fig. 48　257SE080・090 遺構実測図（1/40）

消滅している。S-409 はこの溝の掘り残しである。

257SD040（Fig. 43）

N-0°　4′　55″ -W の南北溝で、検出長 20.8m、幅 0.9m、深さ 0.15 ～ 0.4m を測り、断面逆台形を呈している。周囲の地盤は、調査中も雨で徐々に削平されていくほどの柔らかい地盤であり、土層の状況からも、下層に粘質土や砂が多く堆積しており、自然堆積の後に埋没した状況が窺える。北側は道路遺構（257SF370）を横切り、道路遺構の北辺の溝（SD160）の埋土に切り込んで終わっており、道路側溝埋没後もこのラインに何らかの境界であったことが推測される。

257SD045（Fig. 43）

調査区西端で、N-6°　54′　47″ -W の南北溝と推測される。途切れているが、S-59 も同じような埋土のため、同一遺構と考えられる。検出長 8.2m、幅 1.2m、深さ 0.05 ～ 0.1m を測る。

257SD065

調査区東端で、検出長は短いが、N-1°　55′　31″ -W の南北溝と推測される。検出長 5.09m、幅 1 ～ 1.3m、深さ 0.3m 前後を測る。東隣の第 236-1 次調査でその続きを SD125 として調査している。合わせて長さ 7.35m と短いが、ちょうど東側に平行する南北溝（236-1SD070・075）が陸橋状になっている部

分を遮るように掘られている。埋土は上層が黄灰色ブロック土混じりの茶灰色土で、下層が暗灰色粘土で明瞭に分層できる。

井戸

257SE050 (Fig. 47)

東西 1.35m、南北 1.45m、深さ 1.52m の円形土坑である。埋土の中位には炭層が堆積していた。周囲の地山は下半が砂層で、僅かに湧水があった。埋土から木片等は確認されなかったが、形状から考え合わせると井戸の可能性が考えられる。

257SE070 (Fig. 47)

掘り方が東西 3.0m、南北 2.7m、深さ 1.7m 以上で、円形をした井戸である。検出段階の埋土は砂礫混じりで、若干掘り下げた状態で掘り方の埋土に掘り込まれた 1 間× 1 間（2m × 2m）のピットを 4 つ検出した。井戸枠を囲んでいる状況から井戸の覆う井屋と推測される。井戸枠痕跡は検出段階で確認していたが、井戸枠の一部とみられる木片が崩壊した状態で確認され、旧位置を保っていたのは最下の横桟のみであった。井戸の形状は支柱で横桟を支えていたか支柱なしの構造だったと推測される。横桟は幅・厚さとも 0.04cm の角材で、両端はホゾ組みの加工が行われている。横桟の残存状況から、井戸枠は内法 0.7m の方形であったと推測される。しかし、そのレベルになると湧水が著しく、井戸枠内を掘削すればするほど周囲が崩壊していく状況であった。また、横桟に囲まれた中央には大石があり、投げ込まれたものと推測される。その脇には潰れた曲物が確認できたが、その後の降雨により調査困難な状況に陥り、完掘することはできなかった。この井戸は現場が乾いた状態でも、一定量の湧水量が得られた。

257SE080 (Fig. 48)

掘り方が東西 3.0m、南北 2.7m、深さ 1.7m で、円形をした井戸である。埋土は地山に似たような砂質土で、時々暗灰色土と互層になっている。埋土を観察している限り、井戸枠の裏込めとの区別は確認できなかった。埋土中位で花崗岩礫が中央付近でまとまって出土しているが、底面近くで検出された井戸枠は崩壊しており、これらの礫は井戸崩壊後に投げ込まれたものと推測される。井戸枠の部材は僅かに出土し、幅 0.12m、厚さ 0.005m の縦板が北向きに倒れた状態で出土した。

257SE090 (Fig. 48)

掘り方が東西 1.9m、南北 1.7m、深さ 1.5m で、円形をした井戸である。北東側は撹乱で削平されている。埋土は淡灰色の砂質土で、下層で木片が僅かに出土した。井戸枠痕跡や裏込めが明瞭に検出されなかったため、井戸枠は崩壊したものと考えられる。

土坑

257SK130 (Fig. 47)

直径 0.39m、深さ 0.38cm の円形ピットに、底面より若干浮いた位置に 4 枚の土師器の丸底坏が出土した。殆ど重なりあって上面を向けているため、人為的に置かれたものとみられる。

○第 2 面

1 面目で多くの遺構が見え隠れしていたが、1 面目調査時点では完璧なプランを確認できていない遺構も多かった。2 面目調査時に再検出し、全体的に数 cm 掘り下げたところ明瞭にプランを確認し遺構掘削を行った。この再検出に掘り下げた土色は、1 面目検出時と分けるべきであったが、再検出の意味合いが当初強かったため、1 面目の土色と同じ灰褐色土で取り上げている。時期については整地に切り込んだ遺構全てを対象としたため、平安時代前期のものから、1 面目と全く同じ平安後期の遺構まで含まれているが、調査手順上 2 面目で調査を行ったため、第 2 面として報告する。

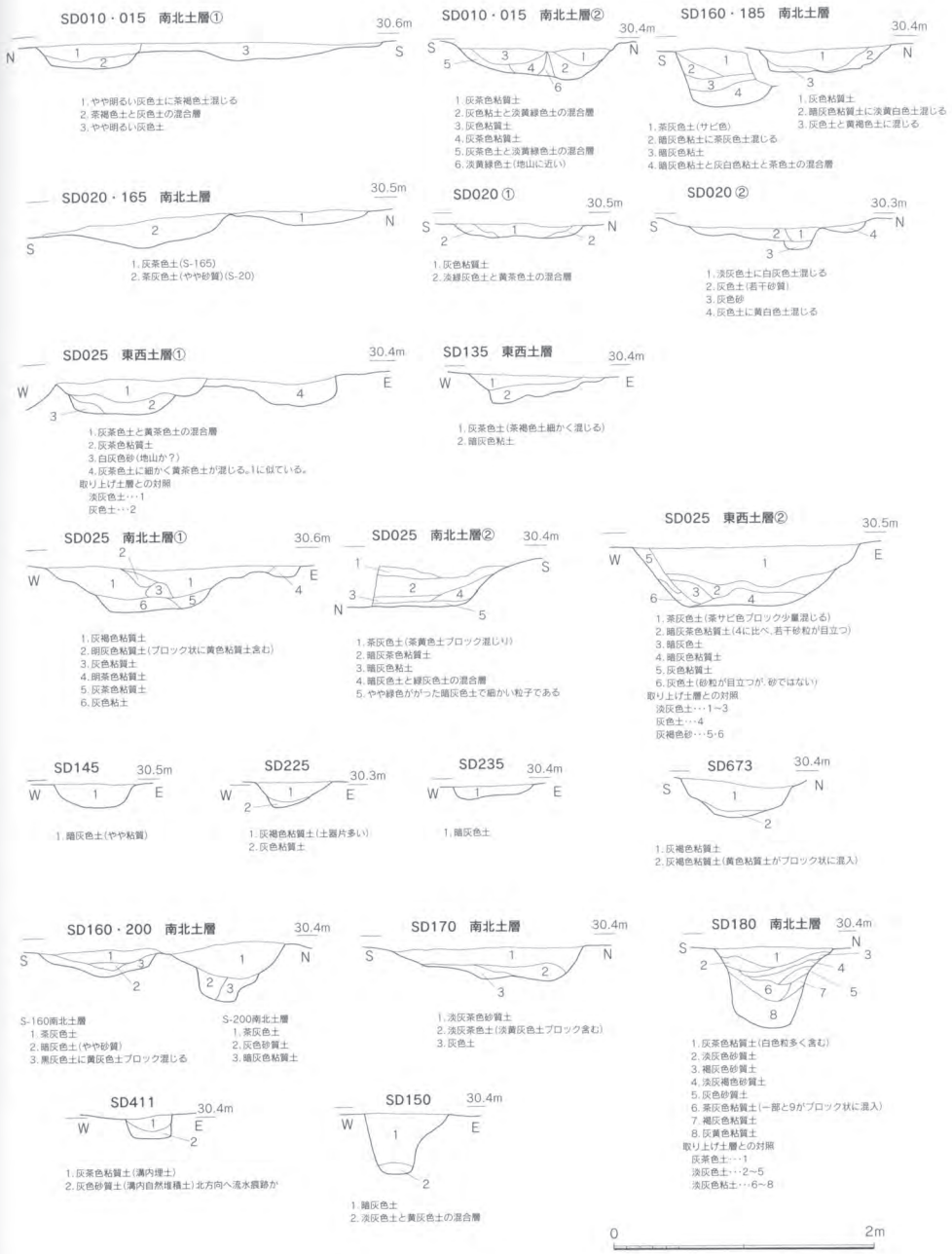


Fig. 49 第 257 次調査 2 面目溝土層実測図（1/40）

溝

257SD002・165 (Fig.49)

東西溝であるが、西に行くほど僅かに北側に湾曲していく状況で、SD002はE-0° 56′ 54″ -S、SD165はE-6° 16′ 53″ -Sの振れを示している。SD002の検出長15.7m、幅0.4～0.8m、深さ0.02～0.05m、SD165の検出長7.1m、幅1m前後、深さ0.03～0.1mと比較的浅い。溝は南北溝（SD025、SD040）の直前で途切れており、それぞれに遺構番号を付したが、同じ意味を持った溝と推測され、合わせて長さ26.2mを測る。この東西溝と南北溝が同時に存在していたと推測される。

257SD010 (Fig.49)

E-1° 20′ 44″ -Sの東西溝で、検出長約13.2m、幅0.75～0.9m、深さ0.15m前後を測る。SD025を挟んで東側はSD010と015が切りあいながら平行しているが、西側は一本の溝のように見え、明確に分けることができなかった。よって、調査段階では混乱を避けるため、SD160とした。SD160の埋土は大きく2層に分かれ、上層は灰褐色粘質土で、下層は灰色粘土である。SD010とSD015のどちらがSD160と同一遺構なのかについては、SD025に切られており明確に判断できなかったが、切り合い関係や埋土の状況からSD010とSD160が同一遺構と推測される。調査途中から2本の溝が平行することが明確になったため、古い溝についてはSD185とした。SD015との新旧はやや不明瞭であったが、遺物についてはSD010の方が新しい遺物を多く含み、その内容からSD160と同一遺構の可能性が考えられる。

257SD185 (Fig.49)

E-1° 11′ 3″ -Sの東西溝で、検出長17.2m、幅1～1.3m、深さ0.05～0.6mを測り、西側ほど深くSD185では断面逆台形を成している。11ラインから西側が明確で、SD160によって切られていることが確認できた。それより東側は、SD160・010・015によって切られ、不明瞭であった。

257SD015 (Fig.49)

E-4° 42′ 16″ -Sの東西溝で、やや蛇行している。検出長14.5m、幅0.95～1.6m、深さ0.15～0.2mを測る。SD025を挟んで東側はSD010に切り込む形で確認できたが、西側は明確に確認できず、調査段階では混乱をさけるため、SD160としている。SD010との新旧についても微妙だが、遺物についてはSD010の方が新しい遺物を多く含んでいる。西側のSD155と同一遺構か。

257SD160 (Fig.49)

E-4° 44′ 2″ -Sの東西溝で、検出長17.7m、幅1m前後、深さ0.3m前後を測る。SD025を挟んで東側はSD010と015に分かれていたが、SD025の西側は不明確で、調査段階では混乱をさけるため、SD160とした。SD010と015のどちらがSD160と同一遺構かについては、ちょうどSD025によって切られていたため不明確であった。西端は急に立ち上がり途切れている。SD160の埋土は大きく2層に分かれ、上層は灰褐色粘質土で、下層は灰色粘土である。遺物の内容からSD010と同一遺構の可能性が考えられる。

257SD020 (Fig.49)

E-1° 58′ 25″ -Sの東西溝で、検出長39.2m、幅0.8～2.5m、深さ0.1～0.2mを測る。SD025・040によって切られている。調査区中央付近から西側は溝幅がやや広がり、溝底の北縁に流水の跡とみられる砂のみで埋没した小溝も検出された。

また、SD025と平行する細い溝（S-239・411・414）がSD020と接続しているが、埋土の違いはなく、切り合いも確認できていないため、同時期に存在した可能性が考えられる。

257SD025 (Fig.49)

調査開始当初は1面目で確認できたが、埋土に掘立柱建物（SB055）が切り込んでいることが確認されたため、その後は2面目で調査を行った。N-0° 4′ 38″ -Eの南北溝で、やや西に振れているが、SD030やSD040と平行している。検出長36.7m、幅1.3～2.2m、深さは最深で0.55m、全体的に深さ0.2から0.3mの断面逆台形を成し、ほぼ水平に近い。埋土は大きく2層で、上層は淡灰色土で埋められた可能性が高い。下層は灰色粘土で溝が機能している時に堆積したものと推測される。途中で2mほど地山を残し、陸橋状に溝底が0.1～0.4m高くなっている所がある。この陸橋状の高まりは第236-1時調査でも2ヶ所確認され、それぞれの中心間は北から12.9mと14.8mである。しかし、周囲の遺構面より0.1m前後低いため、これが何の目的に造られたのかは明確でない。

257SD135 (Fig.49)

SD200に接続する溝だが、検出時は切り合いが確認され、SD135の方が新しかった。振れはN-33° 56′ 37″ -Eと斜めに掘られ、全長12.9m、幅1.1m前後、深さ0.15～0.3mで、埋土は主に上下2層で、下層は暗灰色粘土である。

257SD145・215・225・235 (Fig.49)

弓なり状に掘られた南北溝で、振れはN-3° 55′ 54″ -Eで、検出長32.7m、幅0.5m前後、深さ0.1～0.25mを測る。南端はSD200と接合するが切り合いは微妙でSD200によって切られているように見えた。格子状の溝はこの溝に接続し終了している。切り合いは確認できる個所もあれば、不明瞭な部分もある。しかし、格子状の溝に比べると遺物量が多く、溝の幅や深さが異なっている。この溝にSD718・673が直角に接続しており、畑の区画溝としての機能はもちろん、敷地内部を区画する機能も有していた可能性が推測される。

257SD673・718 (Fig.49)

SD673とSD718は途中で途切れているが大きさや方位から同一遺構とみられる。振れはE-1° 30′ 00″ -Nで、検出長18.1m、幅0.3～0.9m、深さ0.2～0.3mで、西側に行くほど僅かに下がっている。SD145・215に接続する東西溝で若干の切り合いは確認できたが、この接続部分から南北溝（SD215）の方位がやや変化することから、ほぼ同一時期と考えられる。SD673の埋土は黒茶色土である。

257SD150 (Fig.49)

N-7° 13′ 33″ -Eの南北溝。長さ8.6m、幅0.4～1.4m、深さ0.4～0.7mで、全体的に深く、南側ほど狭くなっている。

257SD170 (Fig.49)

SD040付近から西側調査区外へと続く東西溝で、SD040付近で途切れている。振れはE-2° 51′ 47″ -Nで、検出長5.5m、幅1.4～1.75m、深さ0.2m前後を測る。

257SD180 (Fig.49)

E-8° 19′ 20″ -Sの東西溝で、検出長7.2m、幅0.8～1.1m、深さ0.17～0.55mを測る。埋土は最下層が淡灰色粘土で、その上層はやや砂質の淡灰色土であった。

SD002・165の延長上にあるが、深さが全く違うことから、性格が異なる可能性が考えられる。SD200と平行していることに加え、溝の深さや東側の基点がほぼ同じであることから、同じ性格の遺構と推測される。

257SD200 (Fig.49)

E-6° 20′ 8″ -Sの東西溝で、検出長11.6m、幅0.5～0.75m、深さ0.6m前後で、西側に向って僅かに深くなっている。SD180と平行していることに加え、溝の深さや東側の基点がほぼ同じであることから、同じ性格の遺構と推測される。

257SD239・411・414 (Fig.49)

SD025に平行する南北溝で、振れはN-0° 51′ 24″ -Wで、検出長16.1m、幅0.28～0.55m、深さ0.05～0.2mを測る。SD025に比べ極端に細く浅い。南隣の第255次調査で検出したSD030とは繋がらない。北側はSD020に接続するが切り合いは不明瞭であった。SD020より北側で溝は確認できない。

257SD250

N-0° 51′ 2″ -Eの土坑状の南北溝で、長さ4.4m、幅1～1.2m、深さ0.4mを測る。埋土は黒灰色土で、埋土中位で20cm前後の花崗岩が同じレベルで6個検出し、その花崗岩の間でかなり腐食した円形状の径0.25cm前後の薄い板材を検出した。また、北端からは土師器の小皿の完形品が出土した。溝として調査を行ったが、別の特殊な遺構の可能性も考えられる。

井戸

257SE075 (Fig.50)

掘り方が東西3.7m以上、南北4.35m、深さ1.55mの円形をした井戸である。SE070に切られているが、遺物からみると時期差は殆どないとみられる。遺構検出時で中央付近に径1.7mほどの円形の埋土を確認したが、井戸枠は残っておらず、埋土中に板材が少量確認できただけであった。板材に残片のうち両端をホゾの造りのような痕跡を残すものがあった。

掘り方の底面からは若干浮いた位置に横桟を検出した。横桟はボロボロであったが、0.05m四方の角材を利用し、内法南北1.07mの方形枠を作っていた。井戸枠内からは自然木や板材に混じって、落下したとみられる曲物片が出土した。

257SE095 (Fig.51)

掘り方が東西2.25m、南北2.4m、深さ2.0mの円形をした井戸である。井戸枠は刳り貫き材を主に使用したもので、井戸枠の内法径は0.8～0.96mで、井戸枠は1.59m残っていた。

その構造はやや手の込んだもので、中央におよそ4分割された刳り貫き材を置き、その周囲に隙間を塞ぐように約22枚の板材を立て並べている。中央の刳り貫き井戸枠の一部が内側にずれていたが、良好な状態で残されていた。

最も残りの良い刳り貫き材はクスノキを使用していて、縦1.59m、幅0.99m、厚さ0.02～0.04mで、両側に0.03m四方と0.04m四方の方形孔があり、後者には角材が刺さっていた。他の刳り貫き材にも方形孔がみられた。これは大きな材を井戸内に降ろす際に使用されたものと推測される。井戸枠内の底部には曲物や砂利敷きなどの痕跡は確認されなかった。井戸枠内の明淡灰色土からは牛の歯とみられる小片が出土。

なお、この井戸には西鉄車庫の廃油が浸透し、井戸枠や埋土全てが油で汚染された状態で保存することは断念した。

257SE105 (Fig.50)

掘り方が東西2.1m、南北2.05m、深さ1.45mの円形をした井戸である。埋土の上位で花崗岩の巨石が出土した。遺構面から0.6mほど掘り下がった付近から方形の黒色の埋土が確認され、井戸枠の縦板が検出された。縦板は北側が斜めに傾き、西側は未検出、その他は木質の残りは悪いが現状を保っている。縦板は幅0.1m前後の板材を中心に形成され、南側については不規則に重なり合って井戸枠と成していた。下端には横桟が確認され、その内法は東西0.8m、南北0.72mの方形を呈していた。井戸枠中央にはさらに幅0.02mほどの木材で東西0.46m、南北0.4mの方形枠が作られていた。その方形枠と井戸枠との間には須恵器甕の破片が敷かれており、方形枠は集水機能を有していたと推測される。

257SE190 (Fig.50)

掘り方が東西1.85m、南北1.65m以上、深さ1.35mの円形をした井戸で、南側はSD180と接していて、

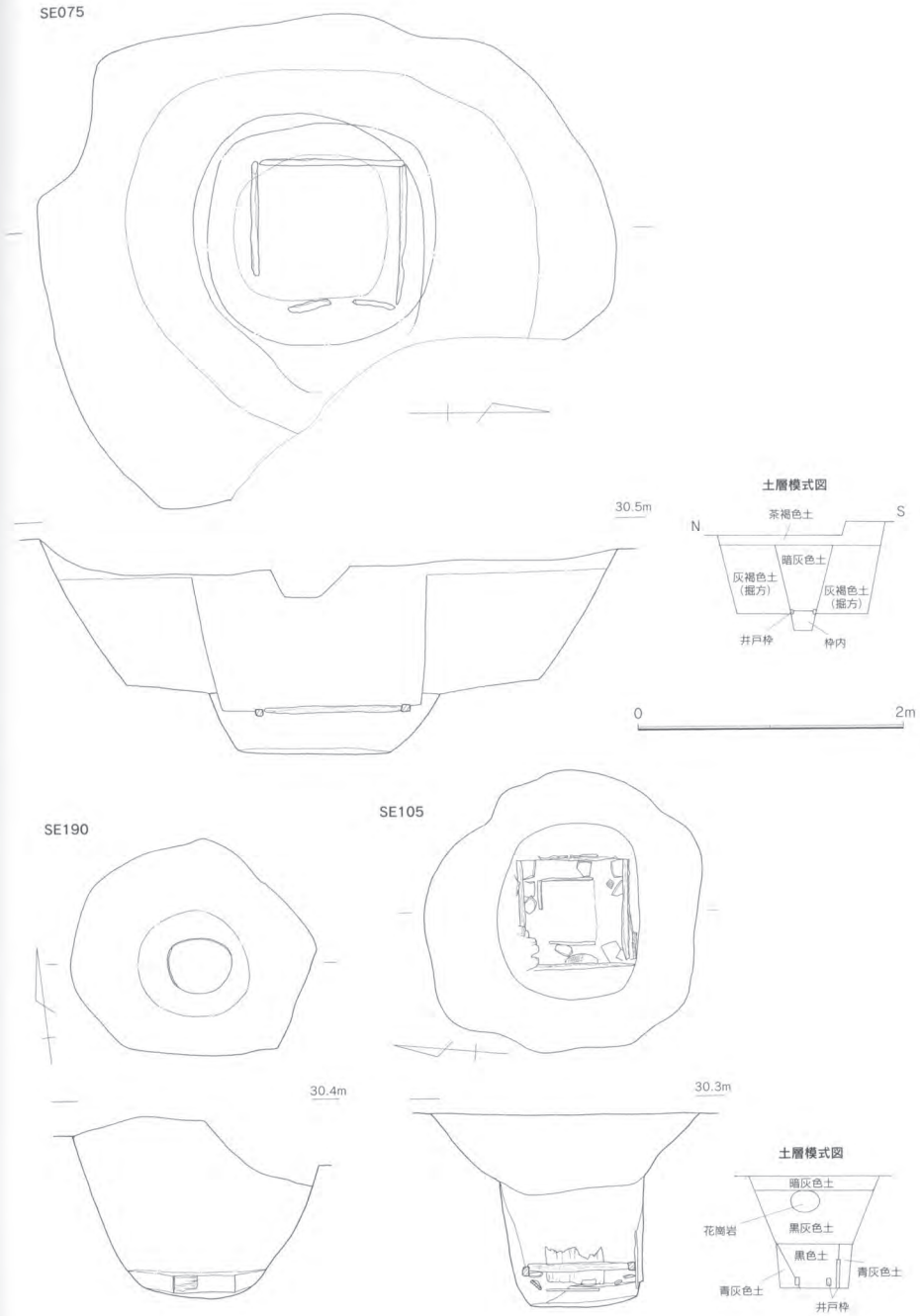


Fig.50 257SE075・105・190遺構実測図（1/40）

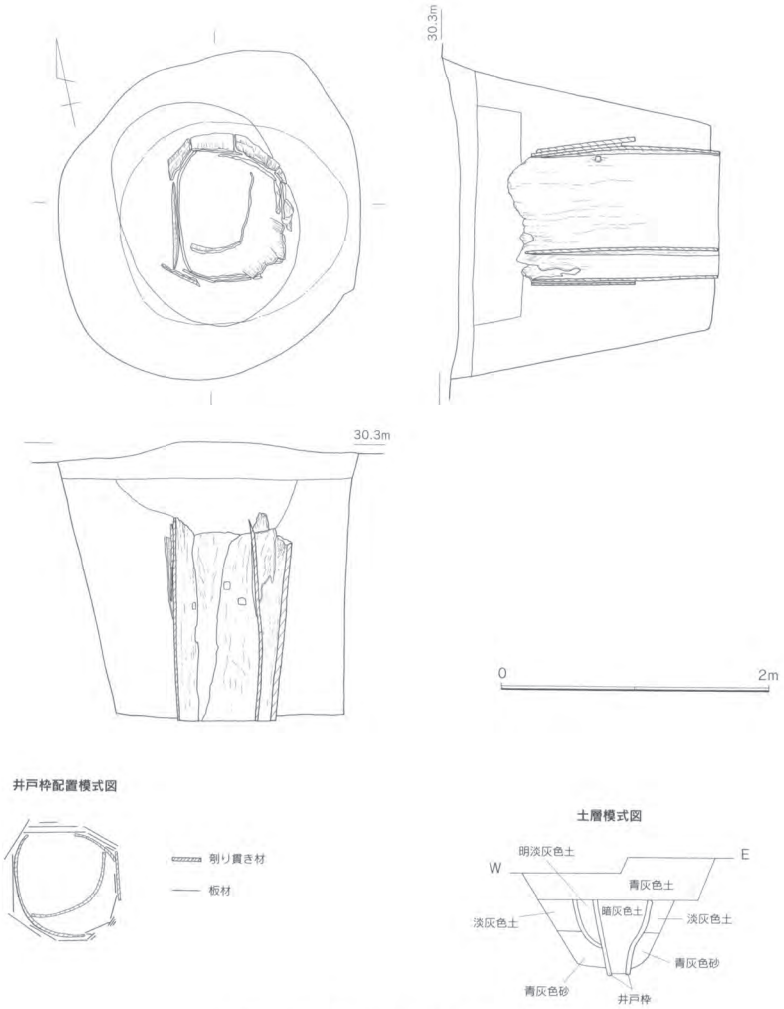


Fig. 51　257SE095 遺構実測図（1/40）

切り合いは微妙であったが、1 面目で確認された S-184 が SE190 の沈み込みの遺構である可能性が高く、その検出状況から SD180 より古い遺構と判断できる。埋土は灰色砂と黒色粘土の混合土である。底部に円形の曲物のプランが確認されたが、曲物そのものは北西側に僅かに残っているだけで、その他は埋土の違いで確認できただけであった。曲物の大きさは東西 0.45m、南北 0.4m、深さは約 0.1m である。

257SE210（Fig. 52）

掘り方が東西 2.6m、南北 2.4m、深さ 1.25m の円形をした井戸である。埋土は黄色粘土ブロック混じりの暗灰色粘質土で、遺構検出時にその中央付近に灰色粘質土の円形のプランを確認できたが、井戸枠の残片と思われる板片が少量出土したのみで、原位置を保っている枠材は全くなかった。板材は長さ最

大 0.7m、幅 0.15 ～ 0.28m、厚さ 0.01 ～ 0.015m で良好な板材はなく、すべてボロボロの状態であった。埋土中に曲物の破片は未確認である。

257SE240（Fig. 52）

掘り方が東西 1.6m、南北 1.9m、深さ 1.42m の円形をした井戸で、上部は側面がなだらかになっているため、当初の掘り方は東西 1.2m、南北 1.45m の隅丸方形をしていたと推測される。埋土は主に黒色土で、埋土中には僅かに木片が見られた。深さ約 1m 付近で約 0.6m 四方の方形の井戸枠を確認したが、板材の遺存は良好ではなく、東西の部材から縦板が確認されるくらいで、南北の部材を正確に確認できず、埋土の違いで井戸枠の位置が推測された。井戸枠内からは縦に並べた平瓦が 6 枚検出された。平瓦は井戸枠より深く入っていて安定しており、井戸枠の補強として置かれた可能性が高い。井戸枠の裏側でも 4 枚確認された。井戸枠埋土中央から花崗岩礫が 2 個出土した。

257SE245（Fig. 52）

掘り方が東西 2.0m、南北 1.85m、深さ 1.6m の円形をした井戸である。埋土の中位で井戸枠が確認された。井戸枠は広葉樹の刳り貫き材で大きく 3 枚で構成されている。枠内の内法は南北 0.72m、東西 0.54m でやや楕円形を呈する。それぞれの接合部付近に別の板材などが確認され、ウラ込めの土砂の流入を防ぐためのものと考えられる。材の内側下方に下端から 0.17m ほどで僅かな段差が確認され、この位置まで使用時に埋没していたため、井戸水による腐食を免れた痕跡と推測される。その枠内の底には深さ約 0.1cm の砂利が詰まっていた。ウラ込めにも同様の砂利が多く含まれていた。

257SE255（Fig. 52）

検出時は直径 2.2m の掘り方であったが、良好に残っている所では東西 1.6m、南北 1.9m、深さ 1.7m の円形をした井戸である。掘り方中央には東西 0.54m、南北 0.5m の方形井戸枠が検出されたが、厚さが 5mm に満たないほど腐食し、詳細な単位などは確認できなかった。その井戸枠の下からは、東西 0.53m、南北 0.54m の桶状の円形枠材が確認されたが、こちらも腐食が著しく刳り貫きなのか縦板を合わせたものなのかは確認できなかった。円形枠材の外側には曲物と同じ材質のものが検出され、円形枠材とセットで埋め込まれたとみられる。

土坑

257SK195

南北 1.61m、東西 1.34m、深さ 0.33m の円形土坑である。

257SK205

南北 1.8m、東西約 2m、深さ 1.0m を測る円形の土坑である。埋土は黄色ブロック混じりの黒色土で、降水後は湧水が著しかったが、井戸枠やその関連した板材が出土しないことから土坑とした。埋没後 SD200 が掘られているが、土坑の陥没により最上面の埋土が、溝の埋土ごと落ち込んでいる様子が窺えた。

その他の遺構

道路状遺構

257SF370

257SD010・160 と SD002・165 の間で、幅 3.4 ～ 3.7m、路面に人為的な痕跡は確認できなかった。西に行くにしたがって北に振れている。

257SF375

257SD020 と SD185 の間で、SD020 は上面に切り合いが少なく、調査区の端から端まで確認できたが、SD185 が平安時代の溝に切られているため、調査区西側でしか確認できていない。現存路面幅 3.6m 前後、

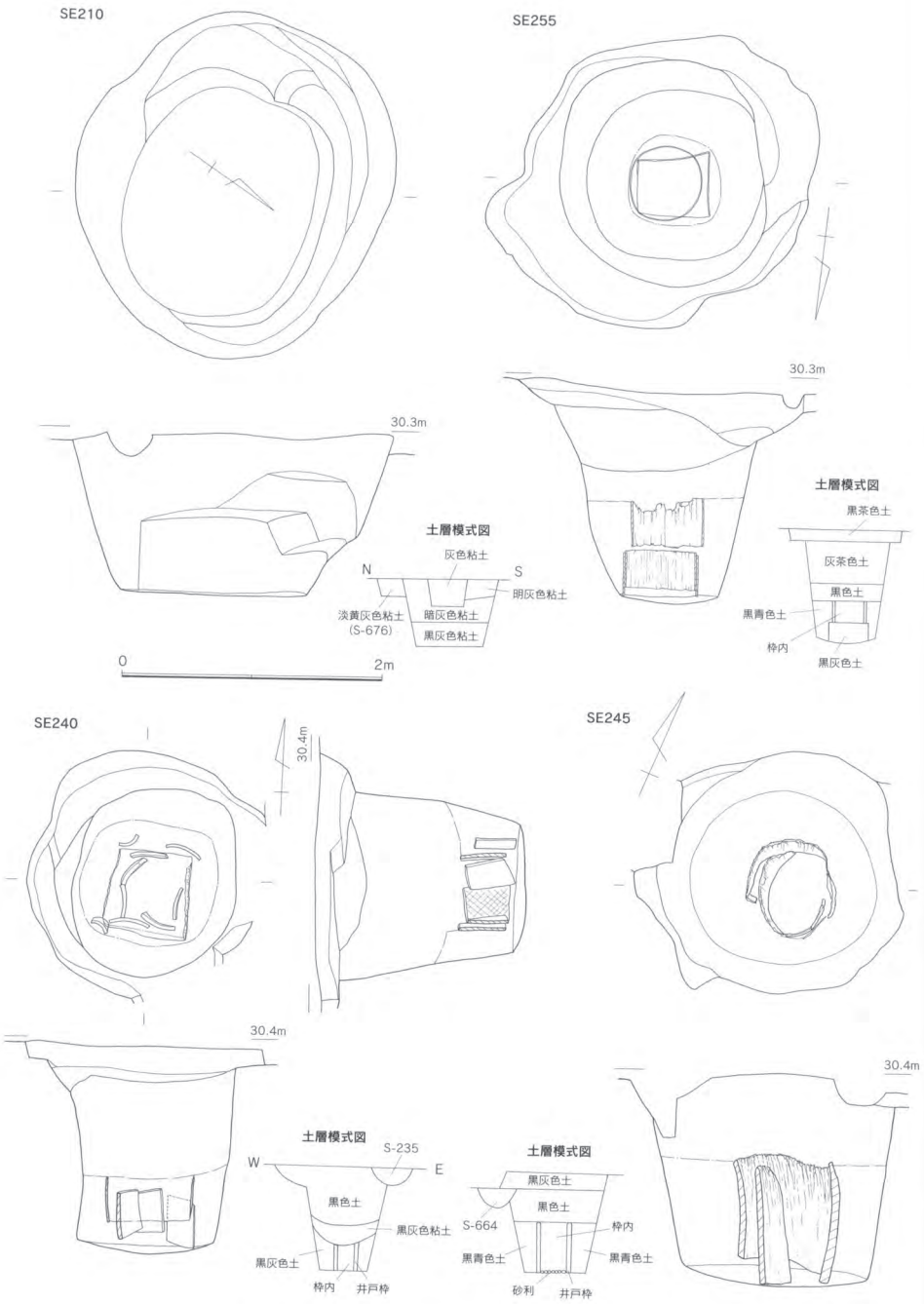


Fig. 52　257SE210・240・245・255 遺構実測図（1/40）

Fig. 53　畑状遺構関連遺構配置図（1/400、1/40）

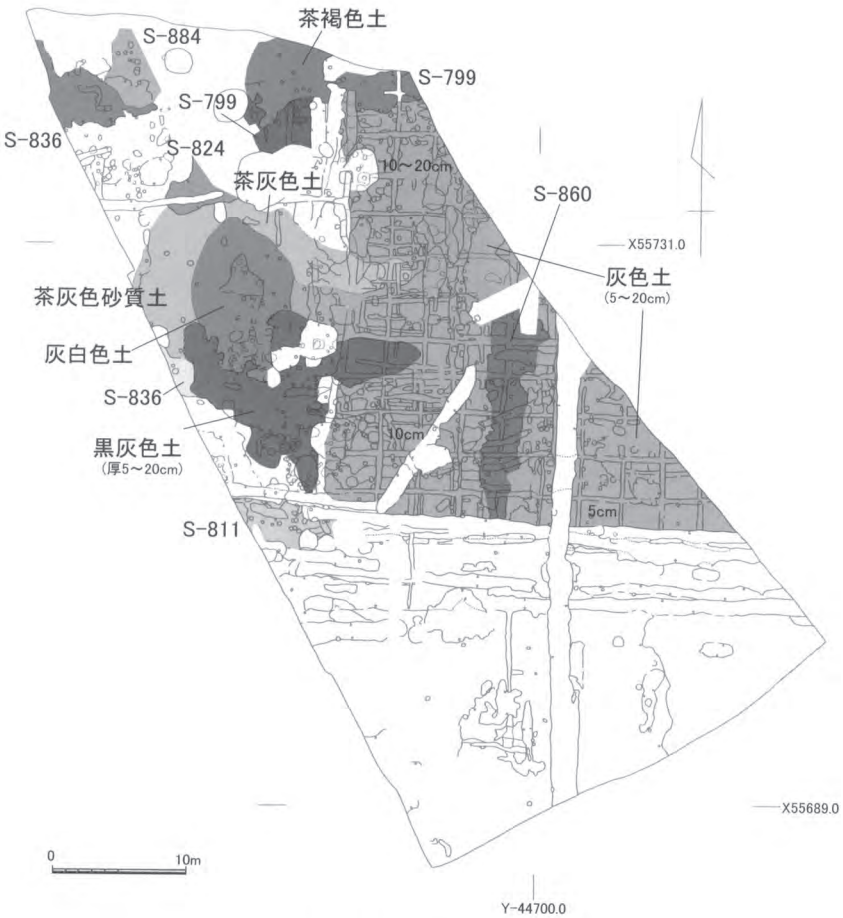


Fig. 54　2面基盤層概略図（1/400）

路面に人為的な痕跡は確認できなかった。

畑状遺構

257SX380（Fig. 49・53）

15条路の北側を中心に整地に切り込んで掘削されている3m四方の格子状の溝である。これは第236-1次調査でも検出しており、合わせた検出範囲は東西約45m、南北36mである。第257次調査では西側端の溝があり、その溝から西側に続く溝（SD673・718）があり、15条路から約22m付近に区画割されている。このSD673・718は底面レベルが西に向かって下がっているが、格子状の溝はほぼ同レベルである。

東西溝はSD180などの15条路北側側溝を基点に掘削されたとも取れる状況を示しているが、畑の耕

作に際し、そこまでの規格性が必要とするか疑問は残る。現状では平安後期の側溝掘削により、格子状の溝は南端を削平されているが、当時は側溝への排水もあった可能性もある。結果的に3m四方の格子状になっているが、東西溝が南北溝に比べやや深く、一部切り合いが見えるところもあるが、非常に不明瞭であった。これは時期差はあっても埋土が殆ど同じ土質であったことに起因するのかもしれない。格子状になったのは、違う時期に方向の異なる畝を持つ畑が交差したことよる結果と推測される。長岡京で平安時代初期の小溝群が確認され、それは畑痕跡とみられている。今回の格子状の溝に似ている個所が多く、今回の調査地のものも畑痕跡と推測される。また、溝の埋土を細かく見るとブロック状の土が下方に多く、上位ほど細かいのは耕作土でよくあることで、流水した痕跡もないことから畑などの耕作に関係した遺構の可能性が考えられるとパリノ・サーヴェイの辻本裕也氏よりご教示を頂いた。

時期については、S-529がVIA期埋没のSE210の埋土上に掘られているため、この畑状遺構は9世紀前半以降のものと推測される。また、溝埋土から平安中期を下限とする遺物が出土しているため、10世紀代には畑状遺構は役割を終えていたと推測される。

○第3面

掘立柱建物

257SB295（Fig. 55）

SB300の掘り方に切り込んだ状態で検出された2間×3間の東西棟で、振れはW-1°　18′　-Nを測る。掘り方は隅丸方形で、一辺0.5～0.6mで、深さは0.2～0.3m程である。柱間は1.8～1.9mを測り、全体として3.6m×5.6mの建物である。建物の中央には束柱とみられる掘り方も確認された。

257SB300（Fig. 56～58）

5間×11間の南北棟で、振れはおよそN-1°　2′　-Eを測る。掘り方は方形または隅丸方形で、桁行11間は長さ23.6mで80尺（小尺29.6cm）、柱間は2.0～2.2mを測り、およそ2.15mで設計されていて、切りのいい数値を示していない。梁行5間は長さ8.6mで29尺（小尺29.6cm）、柱間は1.1～2.2mで、西側の3列の柱筋は新旧が存在する可能性も考えられたが、並んでいた掘り方が上面の遺構によって削平され、切り合いを確認できなかったため、現場所見での結論は出せなかった。西側から3列目の柱列の南端（SB300⑮）の深さが浅いことから他と意味の異なる柱の可能性も考えられ、その場合は4間の柱間は1.85m、2.5m、2.2m、2.0mとなる。また、東側の列と西から2列目の掘り方の埋土に同じ黒色粘土が使われている箇所があり、これらの柱筋が建物本体のもので、西端の列が庇、3列目が束柱という見方も可能である。

柱痕の状況は、柱材が遺存するものが5ヶ所、礎板のみが遺存するものが9ヶ所あり、SB300⑩のように掘り方の底面に石を敷いているものもあるが、基本的な構造としては、礎板を置いたあと柱を据えたものと考えられる。土層観察から柱を抜き取ったような痕跡を示す掘り方もあり、全体として一貫した行為はなく、引き抜いた柱もあれば、上部を切断し埋めたままにしたものもあるようだ。柱材は残存しているもので径23.6～28.9cmで、一部樹種同定を行ったところ、マキ属の樹木を使用していた。また、柱材については、放射性炭素年代測定を行ったところ、第V章のように3世紀中頃～5世紀前半と6世紀中頃～7世紀前半と古い年代を示した。しかし、埋土から8世紀後半頃の須恵器が出土していることから、建物は奈良時代の建築と推測される。よって、土器編年と炭素年代で最大4世紀近く開きがあることとなる。このような現象は隣接する第236次調査でも同様の結果が出ており、古代の遺物の放射性炭素年代測定については、疑問が残るところである。

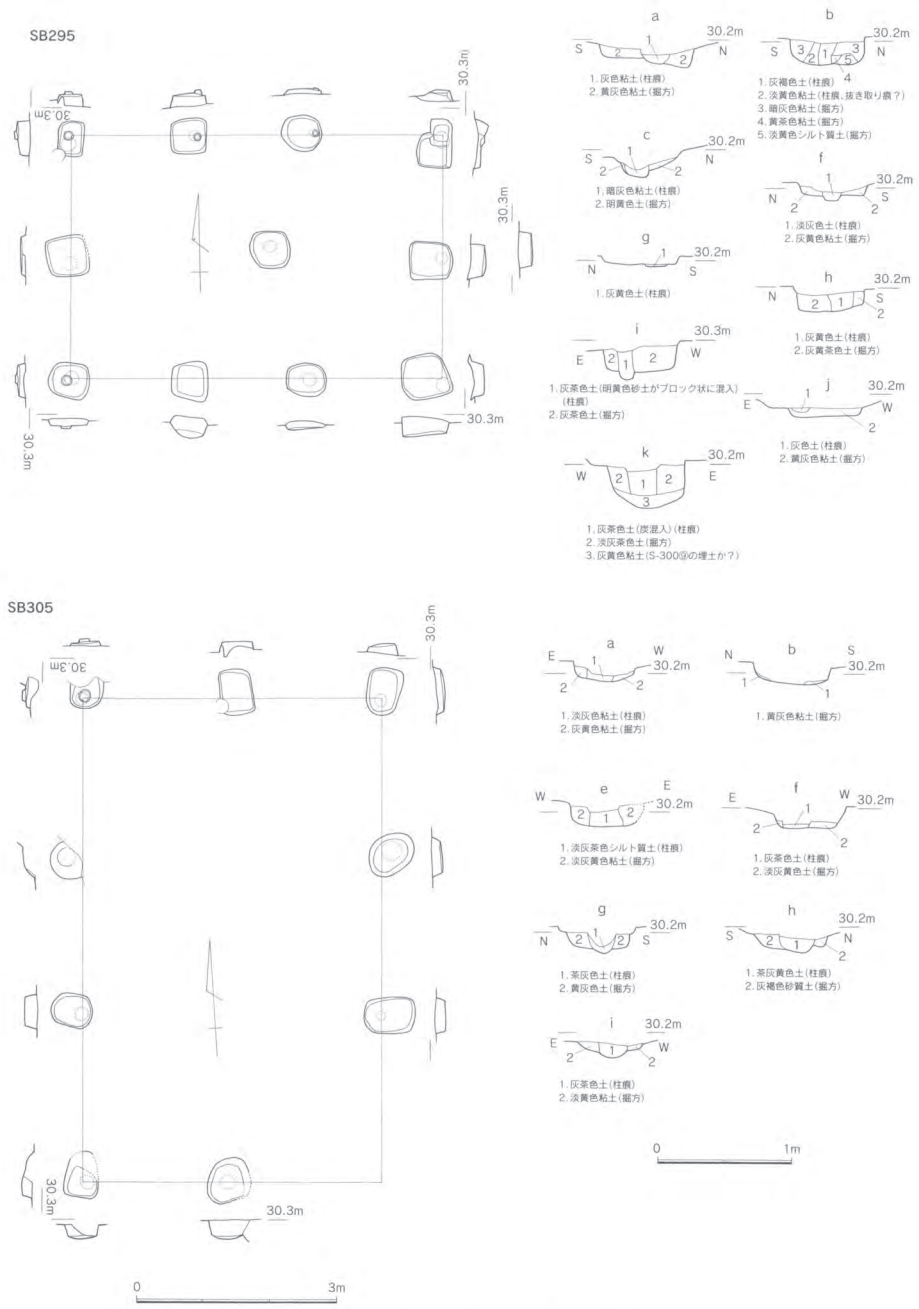


Fig. 55　257SB295・305 遺構実測図（1/80、1/40）

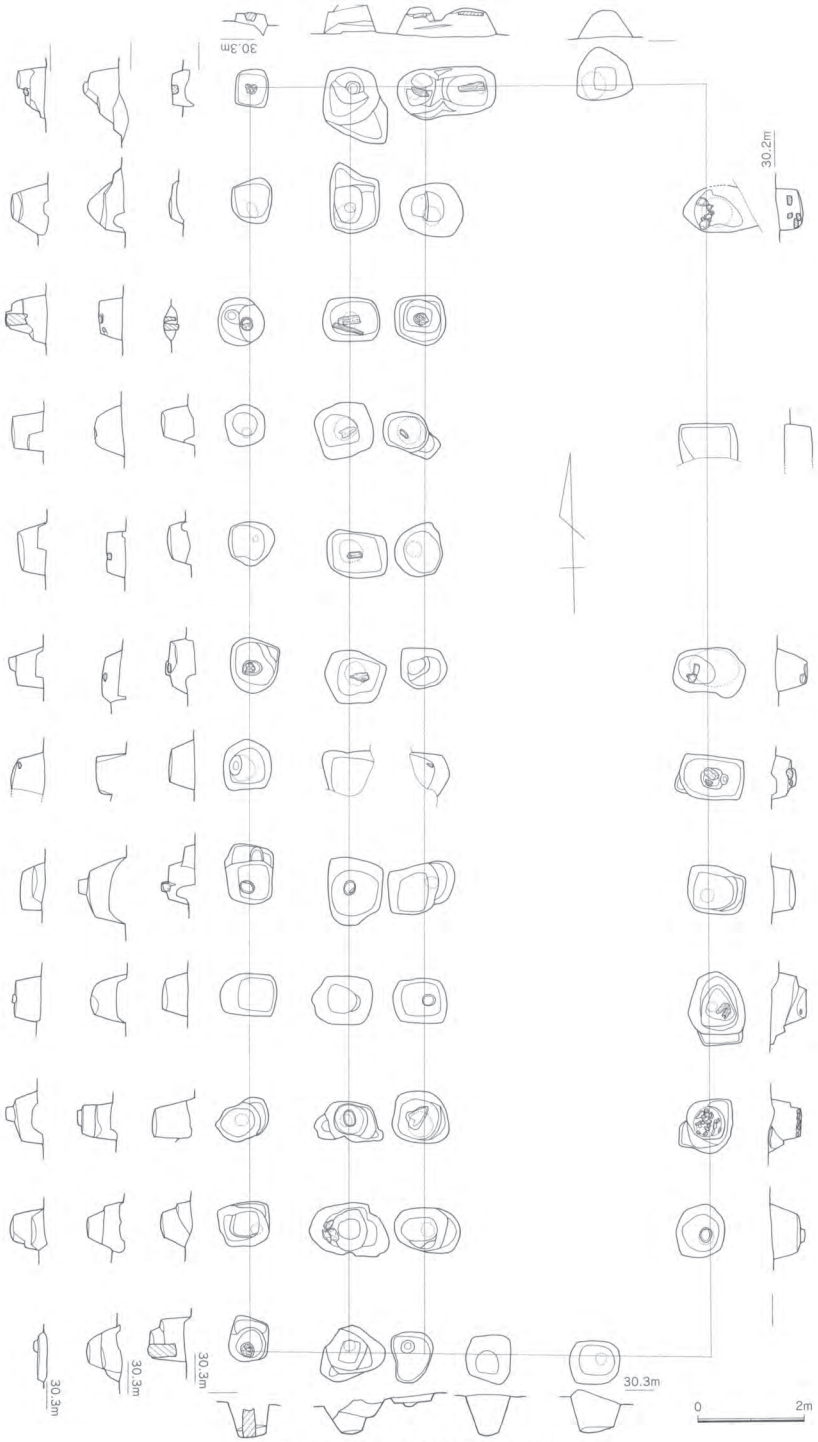


Fig. 56　257SB300 遺構実測図（1/100）

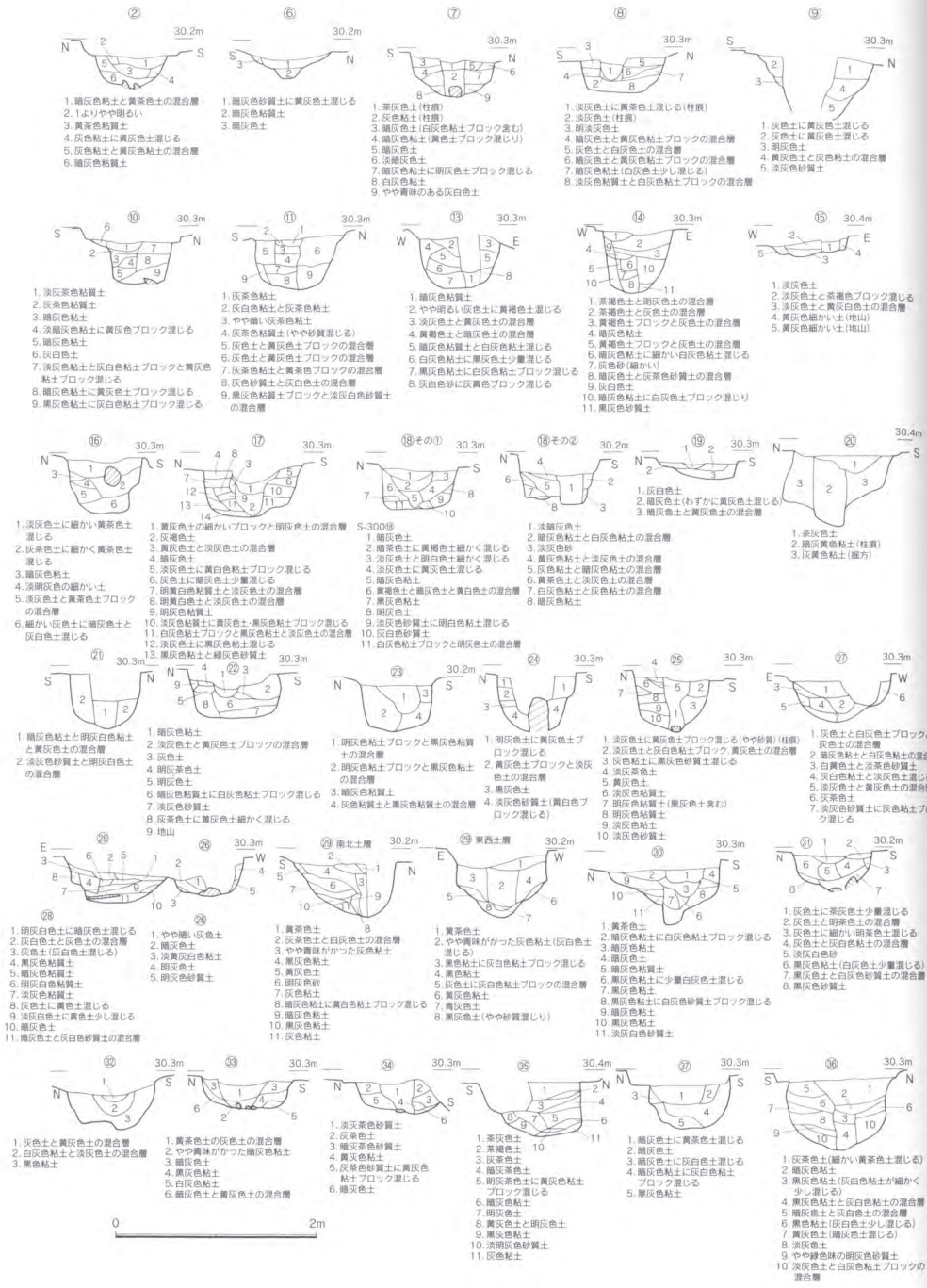


Fig. 57　257SB300 土層実測図①（1/50）

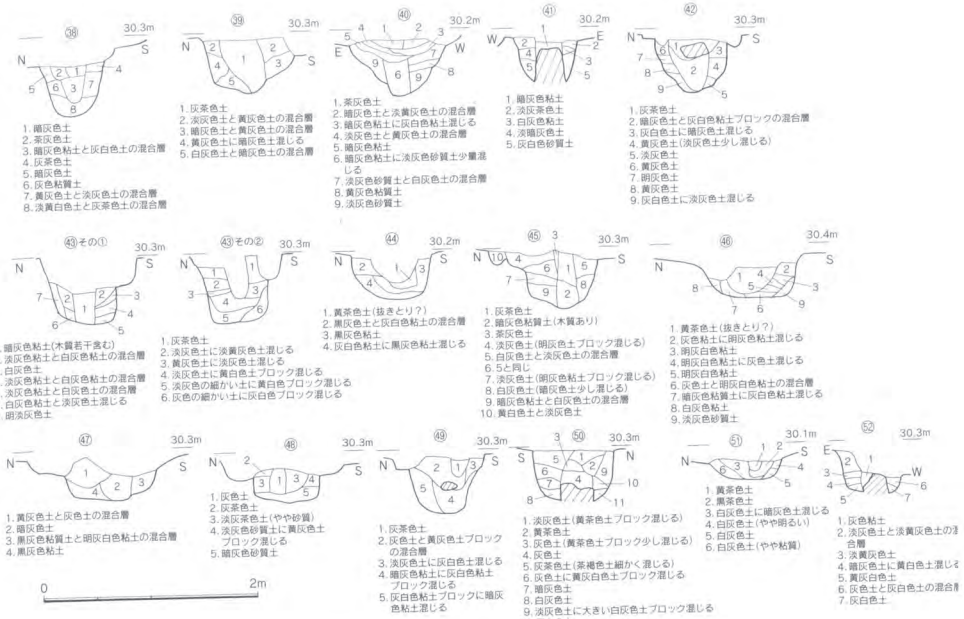


Fig. 58　257SB300 土層実測図②（1/50）

257SB305（Fig. 55）

SB300 の掘り方に切り込んだ状態で検出された 2 間×3 間の南北棟で、振れはおよそ N-3°　24′　-E を測る。西側は SD285 の底面から検出された。掘り方は隅丸方形で、一辺 0.5 ～ 0.7m、深さ 0.2m 前後を測る。柱間は梁行 2.22m、桁行 2.4m で、全体として梁行 4.45m、桁行 7.25m を測る。

257SB365

南北 2 間の掘り方が確認され、東隣の第 236-1 次調査で確認された S-500 と対応する状況を示している。第 236-1 次調査 SB480 と SB570 との位置関係から、この建物が門の可能性も考えられる。門と考えた場合、四脚門の可能性が考えられるが、この SB365 と S-500 との遺構間が約 8m あるため、その間を慎重に精査を行ったが、いくつか同様の掘り方は確認されたものの、柱筋がずれているなど明確に建物に伴うものと言いがたい状況であった。

溝

257SD275

N-3°　33′　10″ -E の南北溝で、埋土は灰茶色土で、断面形状は 2 段になっていて、検出長 20.0m、幅 0.65 ～ 1.9m、深さ 0.2m を測る。北端は SD020 に切られる形で終結している。

257SD285

N-1°　29′　26″ -E の南北溝で、SB300 を切る形で掘られている。南端は SD185 に接続し、終結していて、検出長 22.2m、断面は浅い U 字形で、幅 0.4 ～ 2.4m で、平均的に 1.5m 前後で、南ほど狭くなっている。深さは 0.02 ～ 0.1m を測る。埋土は茶褐色土である。

井戸

257SE345（Fig. 59）

SE095 に切られているが、SE095 調査中に詳細な確認を怠ってしまい、4 面目調査中に確認された。

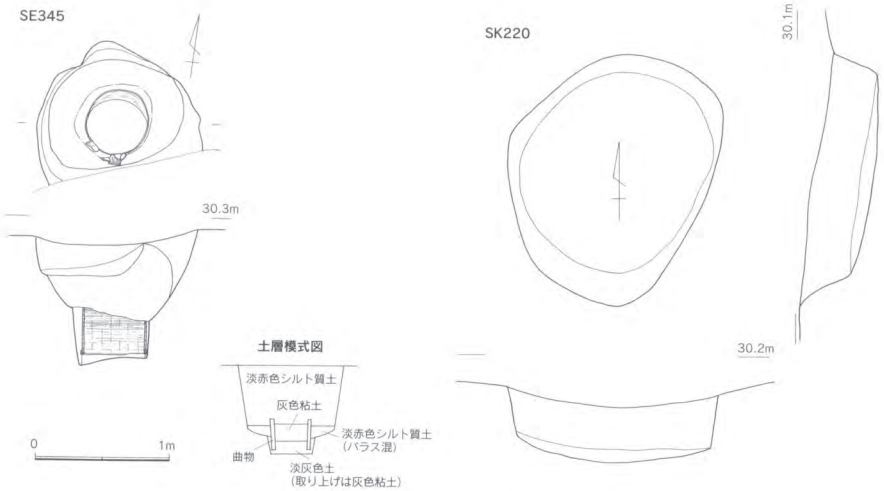


Fig. 59　257SE345・SK220 遺構実測図（1/40）

掘り方が東西 1.2m、深さ 1.0m の円形をした井戸で、深さ 0.6m 付近で径 0.45m の曲物が残存していた。曲物の上部は腐食していた。曲物は径 0.56m の狭い掘り方に設置されている。ウラゴメ内からは径 0.27m の曲物の底板が出土した。深さが周囲の井戸に比べ浅いことや曲物の設置状況が若干異質であることから井戸以外の可能性も考えられる。

土坑

257SK175（Fig. 60）

東西 3.9m、南北 3.5m、深さ 1.2m の円形土坑で、検出時は井戸のようなプランを示していたが、埋土中に井戸枠痕跡や木片は殆ど含んでなく、井戸と言える痕跡は全く確認できなかった。埋土の上面は灰褐色土であったが、中位から底まで青味を帯びた砂質を含まないべっとりとしたとても粘質が強い暗灰色粘土であった。その暗灰色粘土の上面付近の南東部で土器がつまった径 0.38 ～ 0.48m の曲物を検出した。曲物は底板がない状態で、最上面に須恵器の平瓶が置かれ、その下に甕の破片、木片、細かい土器片の順で検出され、人為的に入れられたものと見られる。これらの内容物は深さ 0.2m 前後までみられるが、曲物の側板は 0.1m 前後しか残っていなかったため、腐食して欠損したものなのか明確でない。

この土坑と曲物の性格については、トイレの可能性も考え、この暗灰色粘質土の科学分析を実施したが（第Ⅴ章参照）、それと分かる結果は得られず、用途は不明である。

257SK220（Fig. 59）

東西 1.55m、南北 1.9m、深さ 0.57m の楕円形土坑で、埋土の上面は若干炭が混じる粘質土で、下層が灰色砂である。

○第 4 面

ピットが散在する程度で、顕著な遺構は確認できていない。遺物は弥生時代後期頃のものが多く見られた。しかし、調査区内を蛇行する茶色砂があり、弥生時代以前の流路が広がっている。調査区の地山は安定地盤とは言いがたく、トレンチを入れると細かい層が確認され、僅かに旧石器を含んでいるところもあった。

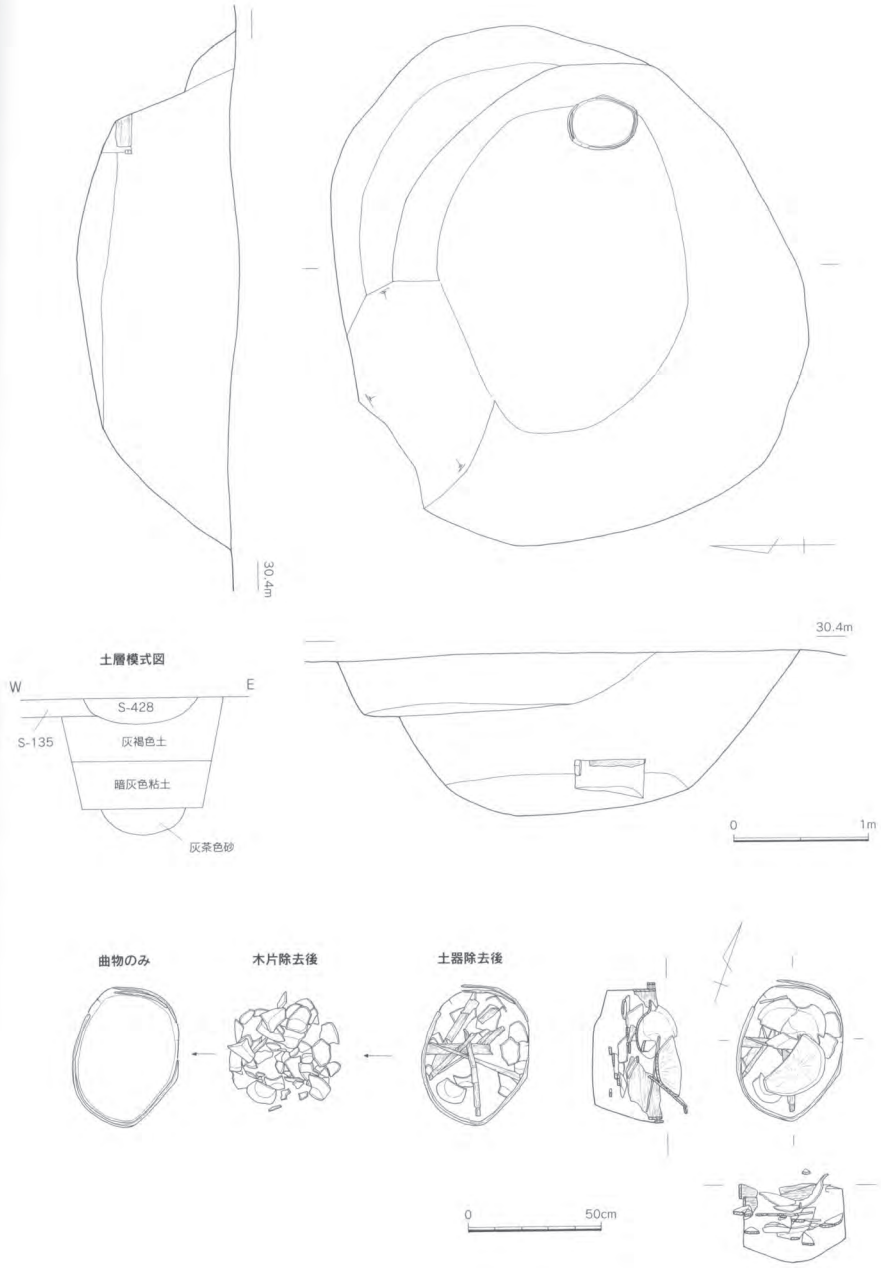


Fig. 60　257SK175 遺構実測図（1/40、1/20）

Fig. 61　3面基盤層平面図

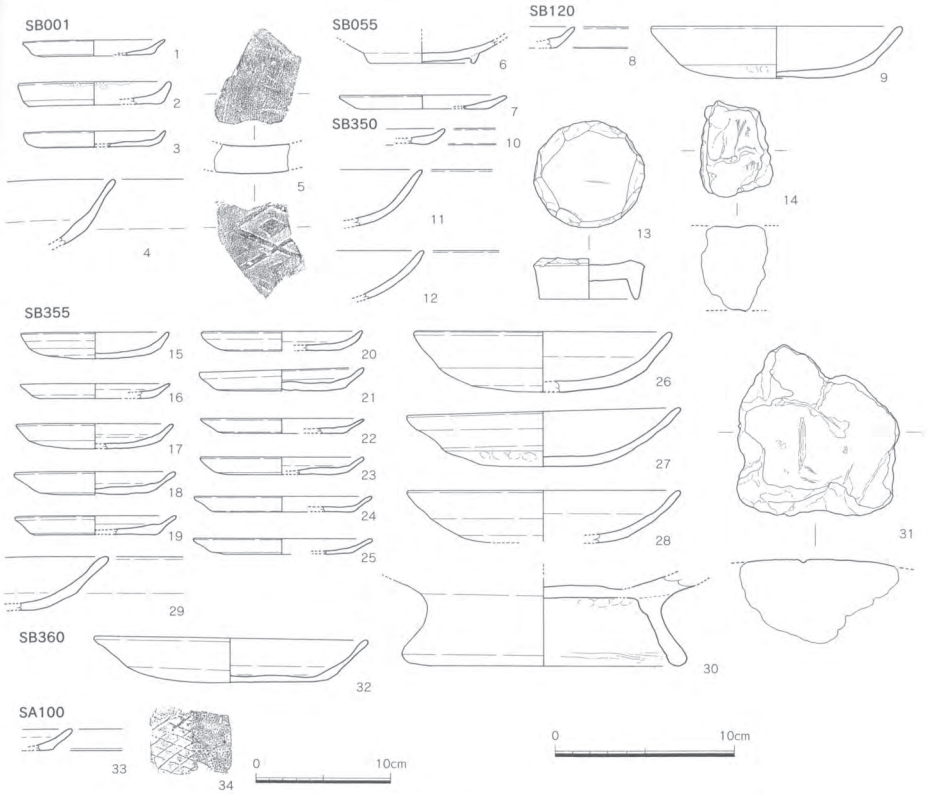


Fig. 62　257SB001・055・120・350・355・360、SA100 出土遺物実測図（1/3、瓦は 1/4）

(4) 出土遺物

○第1面

掘立柱建物

257SB001

257SB001 ク出土遺物（Fig. 62）

土師器

小皿 a (1)　復元口径 8.0cm、器高 0.9cm、復元底径 6.4cm。底部切り離しは糸切りにも見えるが破片で微妙である。

257SB001 シ出土遺物（Fig. 62）

土師器

小皿 a (2)　復元口径 8.6cm、器高 1.3cm、復元底径 8.0cm。口縁端部に煤が付着する。底部切り離しは摩滅し不明瞭。

257SB001 テ出土遺物（Fig. 62）

土師器

小皿 a (3)　復元口径 7.9cm、器高 0.9cm、復元底径 6.4cm。底部は摩滅し不明瞭。

257SB001 ネ出土遺物（Fig. 62）

土師器

丸底坏（4）　全体的に摩滅する。色調は鈍い茶褐色を呈する。

257SB001 ハ出土遺物（Fig.62）

瓦類

平瓦（5）　凸面は大きな格子内に菱形を入れた文様の叩きである。色調は灰黒色。

257SB055

257SB055n 出土遺物（Fig.62）

瓦器

椀ｃ（6）　やや丸い底部に貧弱な高台を貼付する。高台径5.8cm。焼成不良で灰白色を呈する。

257SB055r 掘方出土遺物（Fig.62）

土師器

小皿ａ（7）　復元口径9.3cm、器高0.8cm、復元底径7.4cm。焼成不良で調整不明。

257SB120

257SB120e 柱痕出土遺物（Fig.62）

土師器

小皿ａ（8）　磨滅して調整等は不明。器高1.2cm。

257SB120c 掘方出土遺物（Fig.62）

土師器

丸底坏ａ（9）　復元口径14.1cm、器高2.9cm. 底部は回転ヘラ切り後に押し出しし、体部中位に僅かに屈曲部がある。板状圧痕が残る。

257SB350 出土遺物（Fig.62）

土師器

小皿ａ（10）　全面磨滅する。器高0.9cm。

丸底坏ａ（11、12）　全面磨滅している。色調は淡橙白色を呈する。

白磁

椀（13）　Ⅴ類の底部で体部を意図的に打ち欠いている。

土製品

土壁（14）　胎土は0.3cm以下の砂粒を多く含み、スサ痕も少量みられる。色調は表面近くが灰橙色で内面ほど暗褐色を呈する。

257SB355 出土遺物（Fig.62）

土師器

小皿ａ（15～25）　復元口径8.3～10.0cm、器高0.8～1.5cm、復元底径6.0～8.0cm。底部は確認できるものは全て回転ヘラ切りで、板状圧痕も残る。内面底部は不定方向のナデ。

丸底坏ａ（26～29）　復元口径14.4～15.3cm、器高2.95～3.45cm。底部は回転ヘラ切り後に押し出し、27は指頭圧痕が残る。全体的に磨滅しミガキ等調整不明瞭。

脚付鉢（30）　鉢部分は欠損し全形は掴めないが、高さ4cmほどの高い高台を貼付する。高台径15.9cm。胎土は0.3cm以下の砂粒を含み、明橙色を呈する。磨滅も目立つ。

土製品

土壁（31）　面が残る土壁で、胎土は0.4cm以下の砂粒を多く含み、スサ痕も多くみられる。色調は淡橙色や茶灰色を呈する。

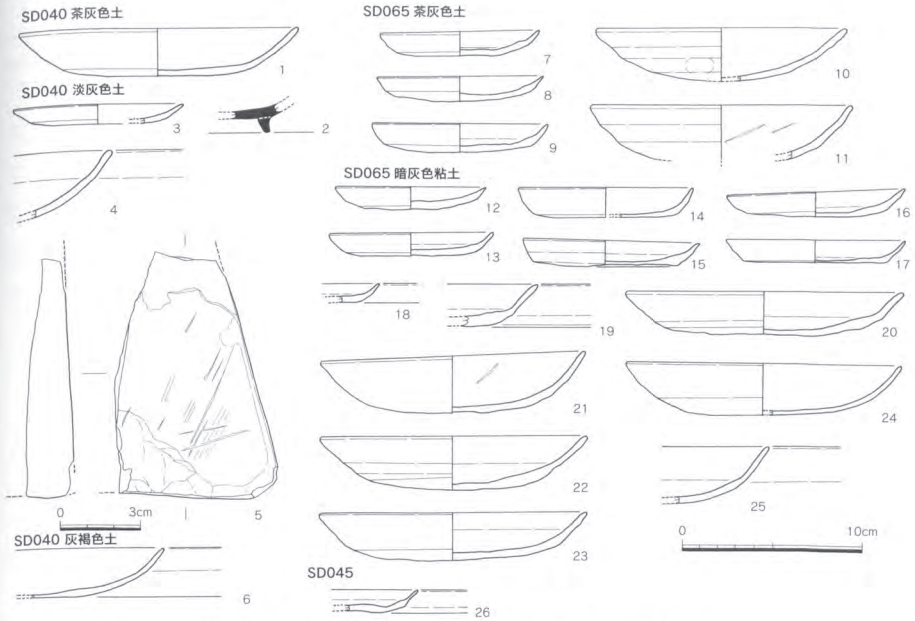


Fig.63　257SD040・045・065出土遺物実測図（1/3、5は1/2）

257SB360 出土遺物（Fig.62）

土師器

坏ａ（32）　復元口径15.4cm、器高2.5cm、復元底径11.7cm。摩滅が目立つが底部には板状圧痕が残る。色調は白橙色を呈する。

柵列

257SA100 出土遺物（Fig.62）

土師器

小皿ａ（33）　器高1.2cm。内外面は磨滅し調整不明。

瓦類

丸瓦（34）　凸面に格子叩とナデ調整が残る。

溝

257SD040 茶灰色土出土遺物（Fig.63）

土師器

丸底坏ａ（1）　復元口径15.6cm、器高2.7cm。全体が摩滅し調整不明。

257SD040 淡灰色土出土遺物（Fig.63）

須恵器

坏ｃ（2）　内面が滑らかになっていて、胎土の隙間に赤色顔料が付着する。

土師器

小皿ａ（3）　復元口径9.6cm、器高1.3cm、復元底径7.6cm。調整不明。淡白褐色を呈す。

丸底坏ａ（4）　摩滅するが僅かに内面にミガキがみられる。色調は淡茶褐色を呈する。

石製品

砥石（5）　欠損しているが、現状で3面が使用され、条痕も確認できる。

257SD040 灰褐色土出土遺物（Fig. 63）

土師器

丸底坏a（6）　焼成不良で調整不明。淡褐白色を呈する。

257SD045 出土遺物（Fig. 63）

土師器

小皿a（26）　体部中位に僅かな屈曲を有する。坏aの可能性もあり。

257SD065 茶灰色土出土遺物（Fig. 63）

土師器

小皿a（7～9）　口径8.9～9.8cm、器高1.4～1.6cm、底径6.6～8.2cm。底部切り離しは不明だが、板状圧痕が残る。焼成は良好で淡茶褐色を呈する。

丸底坏a（10、11）　復元口径はそれぞれ14.0cm、14.7cm。焼成不良だが10の底面には板状圧痕が、11の内面にはミガキbが残る。

257SD065 暗灰色粘土出土遺物（Fig. 63）

土師器

小皿a（12～18）　口径8.3～10.0cm、器高1.3～1.7cm、底径5.7～8.1cm。底部切り離しは不明だが、板状圧痕が残る。焼成は良好で淡白褐色を呈する。

坏a（19、20）　19は焼成不良で摩滅し調整不明、色調は淡褐白色を呈する。20は復元口径15.6cm、器高2.5cm、底径11.4cm。内面底部ナデ、その他は回転ナデで、板状圧痕が残る。

丸底坏a（21～25）　口径14.8～15.4cm、器高2.7～3.2cm。21・23は外面底部に板状圧痕が残る。全体的に焼成不良。

井戸

257SE050 灰色土出土遺物（Fig. 64）

土師器

小皿a（1～5）　口径9.0～10.4cm、器高0.9～1.3cm、底径7.0～7.9cm。摩滅も目立つが底部はヘラ切りで板状圧痕が残る。2は底部ヘラ切り後未調整。

丸底坏a（6、7）　復元口径は14.2cmと15.6cm。7は内面にミガキbが残る。

小壺（8）　復元口径5.8cm、器高9.1cm、底径5.9cm。全体的に摩滅するが肩部分にヨコナデが残る。胎土は0.1cm以下の砂粒を多く含み淡白褐色を呈する。

257SE050 淡灰色土出土遺物（Fig. 64）

土師器

小皿a（9）　復元口径10.4cm、器高1.5cm、復元底径8.3cm。底部に板状圧痕が残る。

盤（10）　内外面とも被熱で赤褐色に変色し、表面が劣化している。胎土は0.1cm前後の砂粒を多く含む。

257SE070 暗灰色土出土遺物（Fig. 64）

土師器

小皿a（11）　復元口径9.4cm、器高1.1cm、復元底径7.2cm。切り離しは不明だが板状圧痕が残る。

丸底坏a（12、13）　12は復元口径15.0cm、外面中位に屈曲が僅かに残る。13は復元口径15.2cm、内面にミガキbを施す。

丸底坏（14）　焼成不良で全体的に摩滅する。

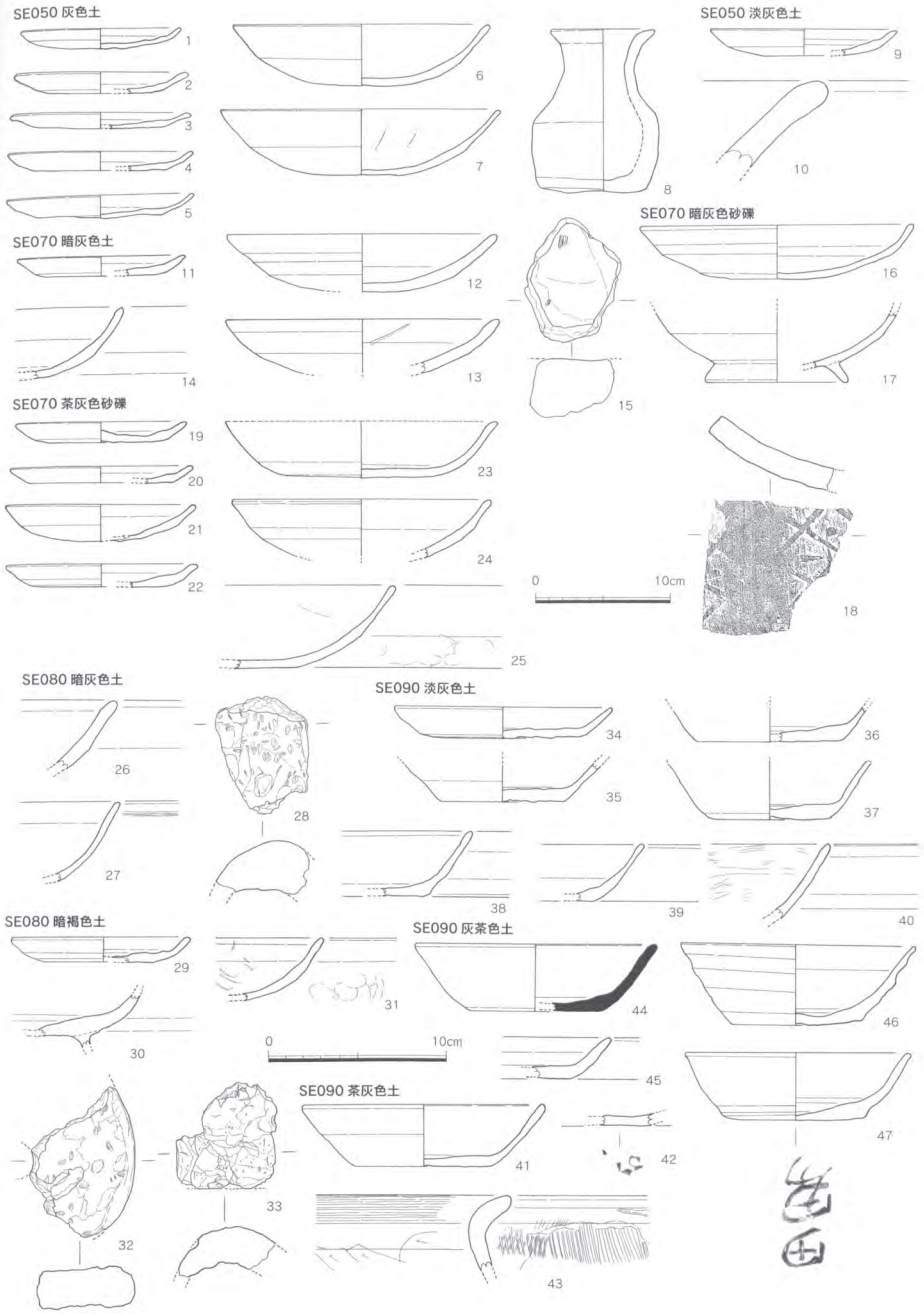


Fig. 64　257SE050・070・080・090出土遺物実測図（1/3、18は1/4）

土製品

土壁（15） 外面とみられる平坦面を残す。胎土は0.3cm以下の砂粒を多く含み、僅かにスサ痕もみられる。色調は淡橙色を呈する。

257SE070 暗灰色砂礫出土遺物（Fig.64）

土師器

丸底坏a（16） 口径15.2cm、器高3.05cm。内面はミガキb、外面下半は回転ヘラ切り後押し出しで、板状圧痕が残る。焼成良好で白橙色を呈する。

椀c（17） 丸い椀にハ字形に高台を貼付する。復元高台径8.0cm。焼成不良。

瓦類

平瓦（18） 凸面に大きな格子叩きを有する。断面には分割の切り込みと切断面がある。

257SE070 茶灰色砂礫出土遺物（Fig.64）

土師器

小皿a（19～22） 復元口径9.6～10.8cm、器高0.9～2.1cm。底部切り離しはヘラ切りで一部板状圧痕が残る。21は底部に丸みがある。色調は白橙色を呈する。

坏a（23） 復元口径15.2cm、器高3.15cm、復元底径11.5cm。白橙色を呈する。

丸底坏a（24、25） 24は復元口径14.4cm、内面にはミガキbが残る。25は外面下半に指頭圧痕が残る。色調は白橙色を呈する。

257SE080 暗灰色土出土遺物（Fig.64）

土師器

鉢（26） 内外面回転ナデで、胎土は砂粒を含み、色調は淡赤褐色を呈する。

黒色土器

椀（27） 全体的に磨滅し、ミガキcの単位は不明瞭である。口縁部外面も僅かに黒色化する。A類。

土製品

鞴羽口（28） 胎土には籾殻痕が多くみられる。先端部に近いとみられる部分は灰色や淡灰色を呈し須恵質を呈する。

257SE080 暗褐色土出土遺物（Fig.64）

土師器

小皿a（29） 復元口径9.7cm、器高1.4cm、復元底径6.0cm。橙褐色を呈する。底部切り離しは回転ヘラ切りで、板状圧痕を残す。

椀c（30） 内外面回転ナデで、内面底部は一方向のナデ。色調は橙褐色を呈する。

丸底坏a（31） 内面にミガキb、外面中位に指頭圧痕を残す。

土製品

用途不明品（32） 中央に2cm程の円孔があり、全体は直径15cm前後の円を描きそうな形状である。厚さは2.5cm前後で籾殻痕を多く含み粗い。色調は淡灰茶色や橙褐色を呈する。

鞴羽口（33） 先端部とみられる。色調は淡灰色で、端部が被熱により変色し黒褐色を呈する。胎土は籾殻痕が多く確認できる。

257SE090 淡灰色土出土遺物（Fig.64）

土師器

皿a（34） 復元口径12.2cm、器高1.75cm、復元底径9.4cm。底部は回転ヘラ切りで、色調は淡茶褐色を呈する。

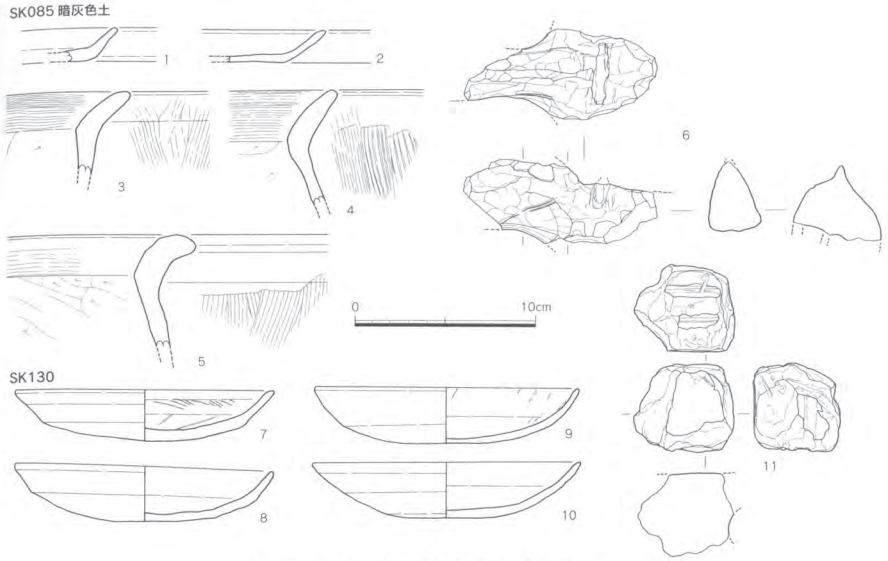


Fig.65 257SK085・130出土遺物実測図（1/3）

坏a（35～39） 底部はヘラ切りで底部と体部に若干の丸味を有する。35～37の復元底径は6.8～8.2cm。

黒色土器

椀（40） 内面はミガキcで外面は回転ナデ。A類。

257SE090 茶灰色土出土遺物（Fig.64）

土師器

坏a（41） 復元口径13.6cm、器高3.5cm、復元底径7.7cm。底部は回転ヘラ切り、その他は回転ナデ調整。色調は淡乳白色を呈する。

皿×坏（42） 底部外面はヘラ切り後に墨書されているが、文字の内容は不明。

甕（43） 口縁部内面はヨコハケ、体部外面はタテハケ、内面はヘラケズリ。外面には煤が付着する。

257SE090 灰茶色土出土遺物（Fig.64）

須恵器

坏a（44） 復元口径13.6cm、器高3.75cm、復元底径7.6cm。色調は淡灰色を呈する。

土師器

皿a（45） 底部は回転ヘラ切りで、その他は回転ナデ。

坏a（46、47） 46は口径13.0cm、器高4.6cm、底径7.3cm。内外面回転ナデ、外面底部は回転ヘラ切り後若干ナデ。色調は乳褐色を呈する。47は口径12.6cm、器高3.8cm、底径8.1cm。底部は回転ヘラ切り後若干ナデ調整。板状圧痕も残す。内面底部は不定方向ナデで、その他は回転ナデ。外面底部には「田田刀」もしくは「田男」と読める墨書が残る。

土坑

257SK085 暗灰色土出土遺物（Fig.65）

土師器

皿a（1、2） 2点とも色調は橙褐色を呈する。内外面回転ナデ。1は器高1.9cm、2は器高1.85cm、

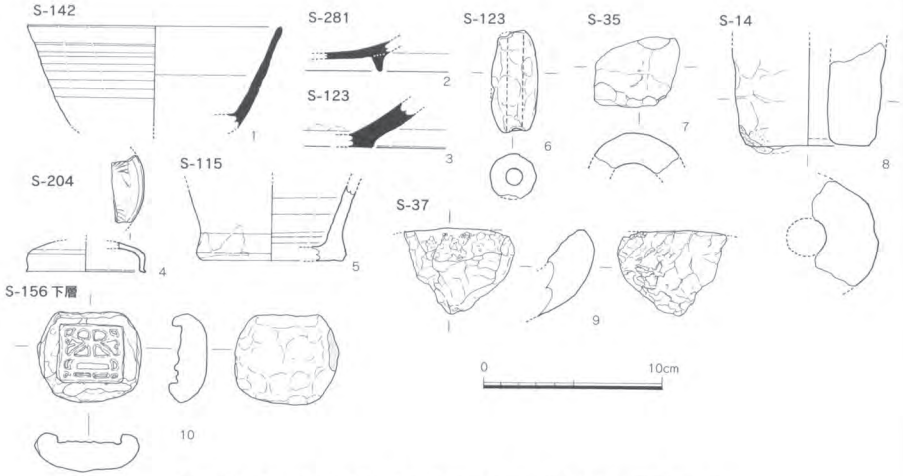


Fig. 66　第 257 次調査 1 面目その他の遺構出土遺物実測図（1/3）

底部はヘラ切り。

甕（3 ～ 5）　口縁部内面はヨコハケ、外面はタテハケ、体部内面はヘラケズリ。色調は茶褐色や橙褐色を呈する。胎土は 0.3cm 前後の砂粒を多く含む。5 は肥厚した丸味のある口縁部である。

土製品

土馬（6）　頭部や脚部は欠損し、頸から胴部にかけての破片で、タテガミや鞍を作り出し、胴部両側にキズを入れて手綱も表現している。焼成は良好で須恵質で灰色を呈する。

257SK130 出土遺物（Fig. 65）

土師器

丸底坏 a（7 ～ 10）　復元口径 14.5 ～ 15.0cm、器高 3.0 ～ 3.15cm。底部は回転ヘラ切り後押し出し、板状圧痕残る。焼成不良で白橙色や茶灰色を呈する。

土製品

土壁（11）　胎土は 0.3cm 以下の砂粒を多く含み、骨組み痕跡がみられる。茶灰色を呈す。

第 1 面その他の遺構出土遺物（Fig. 66）

須恵器

坏（1）　胎土は白色砂粒と茶色粒を少量含み、色調は淡茶灰色を呈する。外面底部近くは回転ヘラケズリ、その他は回転ナデ。搬入品とみられる。S-142 より出土。

坏 c（2）　内面には赤色の付着物があり、研磨されツルツルになっている。S-281 より出土。

鉢（3）　胎土は黒色粒を多く含み、灰色を呈する。外面は回転ナデ。篠窯。S-123 より出土。

越州窯系青磁

合子蓋（4）　復元口径 6.6cm。胎土は淡灰茶色で微細な黒色粒を僅かに含む。内外面には光沢のある緑灰色釉を薄く施し、外面上部にはヘラ描き文様が施されている。S-204 より出土。

水注（5）　胎土は精製されて灰色を呈し、外面ヘラケズリ、内面回転ナデで、外面に緑色がかった灰色釉を施す。内面と底部は露胎で茶色味を帯びる。外面底部には消された目跡が残る。復元底径 8.2cm。Ⅰ類。S-115 より出土。

土製品

土錘（6）　縦 5.7cm、径 2.6cm で、中央孔は 0.9cm。色調は茶褐色や茶灰色を呈する。S-123 より出土。

鞴羽口（7、8）　7 は先端部が被熱によって淡灰色に変色し、その他はにぶい茶褐色を呈する。S-35 より出土。8 は端部で、被熱によって灰色に変色し、表面が融解し細かな気泡がみられる。復元径 8cm 前後。S-14 より出土。

トリベ（9）　胎土は 0.1cm 前後の砂粒を多く含み、淡灰白色を呈する。内面は被熱で表面が融解している。S-37 より出土。

鋳型（10）　縦 5.0cm、横 5.8cm、厚さ 1.7cm。型部分は 3.1 × 3.6cm、深さ 0.5cm。対照に彫り込まれた文様があり、その形状から帯金具と推測される。鋳型面は灰色に変色する。胎土は 0.2cm 以下の砂粒を含み、一部真土が付着し、左下に注ぎ口が設けられている。S-156 下層より出土。

○第 2 面

溝

257SD165 出土遺物（Fig. 67）

瓦類

平瓦（1）　斜格子叩き。淡灰白色を呈する。

257SD010 灰色粘土出土遺物（Fig. 67）

須恵器

甕（2）　二重口縁の甕で、頸部に波状文を施す。内面灰かぶり、外面は自然釉が掛かる。

土師器

小皿 a（3、4）　焼成不良で摩滅する。3 は復元口径 9.5cm、器高 0.9cm、復元底径 7.7cm。4 は復元口径 9.8cm、器高 1.0cm、復元底径 7.4cm。

丸底坏 a（5 ～ 7）　全体的に焼成不良で摩滅する。5 は復元口径 14.8cm。6 は復元口径 16.0cm、器高 3.0cm。7 は外面中位に指頭圧痕が残る。

土製品

塼（8）　厚さ 9.2cm。胎土は 0.1cm 前後の砂粒を多く含み、焼成不良で淡白褐色を呈する。

257SD010 灰褐色土出土遺物（Fig. 67）

土師器

小皿 a（9）　器高 1.4cm。焼成不良で調整不明瞭。色調は淡茶褐色を呈する。

257SD185 出土遺物（Fig. 67）

須恵器

蓋 3（10 ～ 12）　10 は端部を明確に曲げているが、ほか 2 点は僅かにつまみ出している。内外面回転ナデで、12 は上半部に回転ヘラケズリが確認できる。

皿 a（13）　底部は回転ヘラケズリ、その他は回転ナデ。内面底部ナデ。

坏 c（14）　低くくて貧弱な高台を貼付する。色調は灰白色や淡青灰色を呈する。

土師器

坏 a（15）　全面摩滅する。色調は明茶褐色を呈する。

257SD015 灰色粘土出土遺物（Fig. 67）

須恵器

蓋 3（16）　復元口径 12.4cm、口縁端部は僅かに曲げている。外面はやや雑な回転ナデ、上半部は回転ヘラケズリ。暗青灰色を呈する。

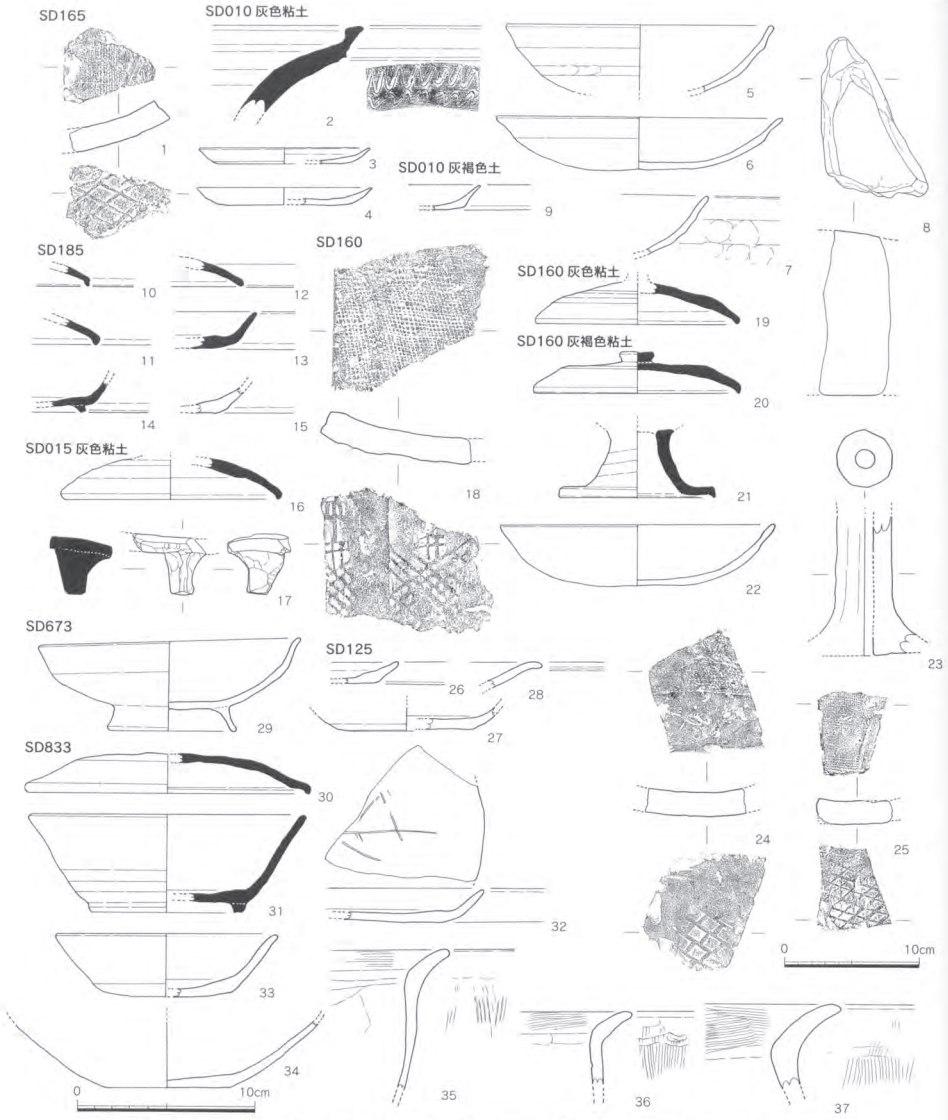


Fig. 67　257SD165、010・185、015・160、673・833・125 出土遺物実測図（1/3、瓦は 1/4）

獣脚（17）　硯の脚部と推測される。表面は手捏ね成形され、指頭圧痕が残る。焼成は良好で灰色を呈する。

257SD160 出土遺物（Fig. 67）

瓦類

平瓦（18）　小さな格子に「平井」の文字を入れた叩きを施す。

257SD160 灰色粘土出土遺物（Fig. 67）

須恵器

蓋 c3（19）　外面中位は回転ヘラケズリで、上部はツマミ貼付の回転ナデ、口縁部は回転ナデ。内面上部は不定方向のナデ。復元口径 11.3cm。ツマミは欠損する。灰色を呈する。

257SD160 灰褐色粘土出土遺物（Fig. 67）

須恵器

蓋 c3（20）　復元口径 11.5cm、器高 2.35cm。外面上半部は粗いナデ、その他は回転ナデで、内面上半部はその後ナデ調整。色調は灰色を呈する。

高坏（21）　脚部で、内面やや粗い回転ナデ、外面回転ナデ。復元底径 8.75cm。

土師器

丸底坏 a（22）　復元口径 15.4cm、器高 3.45cm。底部に板状圧痕が残るが全面磨滅する。

器台（23）　中央孔は径 1.0cm。磨滅が目立つが僅かにヘラケズリ痕が確認できる。

瓦類

平瓦（24、25）　24 はアミダクジ状の格子叩き。25 は斜格子叩き。共に灰色を呈する。

257SD125・673・833 出土遺物（Fig. 67）

257SD125 出土遺物（Fig. 67）

土師器

小皿 a（26）　磨滅で調整不明。器高 1.2cm。色調は白橙色を呈する。

坏 a（27）　復元底径 7.7cm。底部は回転ヘラ切り。色調は茶灰色を呈する。

緑釉陶器

皿（28）　胎土は白橙色で土師質。釉は殆ど剥落し、黄緑色釉が内外面に僅かに残る。

257SD673 出土遺物（Fig. 67）

土師器

椀 c（29）　焼成不良で全面磨滅し調整不明だが、丸底坏 c の可能性がある。口径 14.7cm、器高 5.0cm、高台径 7.2cm。色調は淡褐白色を呈する。

257SD833 出土遺物（Fig. 67）

須恵器

蓋 a3（30）　復元口径 16.0cm。内外面回転ナデで、外面上半部はヘラケズリの後雑なナデ。焼成還元不良で淡褐灰色を呈する。

坏 c（31）　復元口径 15.6cm、器高 5.5cm、復元高台径 8.8cm。淡灰青色を呈する。

土師器

皿 a（32）　外面ナデで内面底部はナデ、内面にヘラ記号を施す。淡茶褐色を呈する。

坏 a（33）　復元口径 12.4cm、器高 3.5cm、復元高台径 8.2cm。底部ヘラ切りで、内外面回転ナデ、内面はその後ナデ調整。色調は褐茶色を呈する。

大坏 d（34）　内外面磨滅し調整不明。色調は茶褐色を呈する。復元底径 6.9cm。

甕（35 ～ 37）　体部外面はタテハケ、内面はヘラケズリ、口縁部内面はヨコハケ、外面はナデ調整される。

257SD020 出土遺物（Fig. 68）

須恵器

蓋 c3（1、2）　1 は復元口径 10.8cm、器高 1.95cm、外面上半部はヘラ切り後にナデ調整を施している様子。内面は回転ナデ後ナデ調整。口縁端部は僅かにつまんで回転ナデを施す。色調は灰色を呈する。

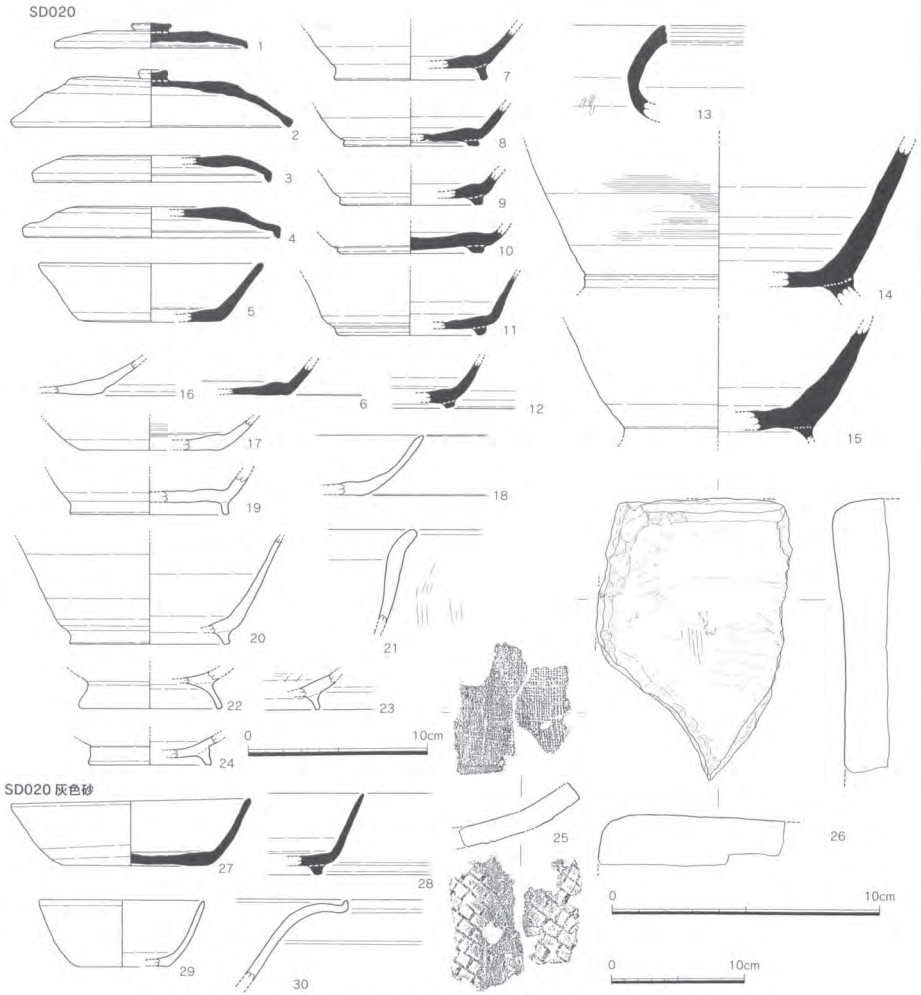


Fig. 68　257SD020 出土遺物実測図（1/3、25 は 1/4、26 は 1/2）

2 は復元口径 15.8cm、器高 3.3cm。外面上半部はヘラ切り後ナデ、内面上半部は回転ナデ後にナデ。

蓋 3（3、4）　外面上半部は回転ヘラケズリ、内面上半部は不定方向のナデ、それ以外は回転ナデ。3 は復元口径 13.4cm、色調は淡青灰色。4 は復元口径 14.4cm。色調は淡灰色を呈する。

坏 a（5、6）　5 は復元口径 12.6cm、器高 3.3cm、復元底径 8.0cm。外面底部に板状圧痕あり。内外面回転ナデ調整。焼成はやや良く白茶灰色を呈する。6 は底部が回転ヘラ切り後ナデだが、板状圧痕が残る。色調は淡灰色を呈する。

坏 c（7 ～ 12）　7 は底部端にやや高い高台を貼付する。内面はやや滑らかになっている。8 ～ 12 は方形もしくは潰れた低い高台を貼付する。復元高台径は 7.6 ～ 8.6cm。色調は青灰色を呈する。

甕（13）　口縁端部に浅い沈線を施す。内外面とも回転ナデ。

壺（14、15）　底部付近の破片で高台も殆ど欠落する。14 は内面回転ナデ、外面中位は叩きの後に回

転ナデ、その下はカキ目を施す。暗灰色を呈する。15 は外面回転ヘラケズリ、内面は回転ナデだが器面に気泡が出て凸凹している。色調は灰色を呈する。

土師器

坏 a（16）　焼成不良で全体的に摩滅する。色調はにぶい茶褐色を呈する。

坏 d（17、18）　17 は復元底部 7.6cm。底部はヘラケズリで、内面は摩滅するがミガキが残る。色調はにぶい橙色を呈する。18 は内面回転ナデだがその他は摩滅し不明。

椀 c（19、20）　19 は細い高台を底部端に貼付する。復元高台径 8.9cm。外面底部は回転ヘラケズリ。焼成不良で色調は黄橙色を呈する。20 は復元高台径 9.0cm。焼成不良で調整不明。色調は茶灰色を呈す。

甕（21）　口縁部を僅かに外反させる。外面に僅かにハケ目が残る。

黒色土器

椀 c（22 ～ 24）　22 は細く高い高台を貼付し、復元高台径 8.0cm。A 類。23 は内面に僅かにミガキが残る。A 類。24 は丸い底部の高台を貼付する。復元高台径 6.9cm。A 類。

瓦類

平瓦（25）　凸面にいわゆるアミダクジ状の格子叩きを施す。凹面の端部や側面はヘラケズリを施す。焼成はやや不良。色調は淡灰色を呈する。

石製品

砥石（26）　扁平な砂岩製で、使用面は 2 面で、平坦面には擦痕が僅かにみられる。

257SD020 灰色砂出土遺物（Fig. 68）

須恵器

坏 a（27）　外面底部は回転ヘラ切り後ナデで、板状圧痕を残す。その他は回転ナデで、内面底部はその後ナデ。色調は灰褐色を呈する。口径 13.4cm、器高 3.6cm、底径 8.3cm。

坏 c（28）　内面底部は不定方向のナデ、その他は回転ナデ。色調は灰色を呈する。

土師器

小坏 d（29）　復元口径 9.2cm、器高 3.75cm、復元底径 5.0cm。焼成不良で内外面とも摩滅する。色調は淡橙色を呈する。

鉢（30）　体部を大きく外反させ、端部を短く折り曲げる。体部中位に沈線を施す。焼成不良で調整不明、色調は明茶褐色を呈する。

257SD025 淡灰色土出土遺物（Fig. 69）

須恵器

用途不明品（1）　胎土は 0.1cm 前後の砂粒を少量含み、焼成は良好で淡灰褐色を呈する。全面ナデ調整されており、図の上面部分は粘土の接合部分で剥落したものと推測される。下方の断面部分にもナデ調整があり、全形がつかめない状況である。

土師器

小皿 a（2 ～ 9）　復元口径 8.6 ～ 10.1cm、器高 0.9 ～ 1.6cm。摩滅するが底部回転ヘラ切り。板状圧痕も僅かに残る。

坏 a（10）　復元口径 12.2cm、器高 2.0cm、復元底径 9.0cm。色調は褐茶色を呈する。

丸底坏 a（11 ～ 16）　復元口径 13.7 ～ 15.7cm、器高 2.7 ～ 3.8cm。全体的に摩滅する。

椀 c（17）　底部端に高台を貼付し、復元高台径 9.7cm。底部には 1 ヶ所径 0.6cm の円孔を穿っている。焼成は不良で茶褐色を呈する。

器台（18）　中央は 1cm ほどが空洞で、外面はナデ調整。焼成不良で淡白褐色を呈する。

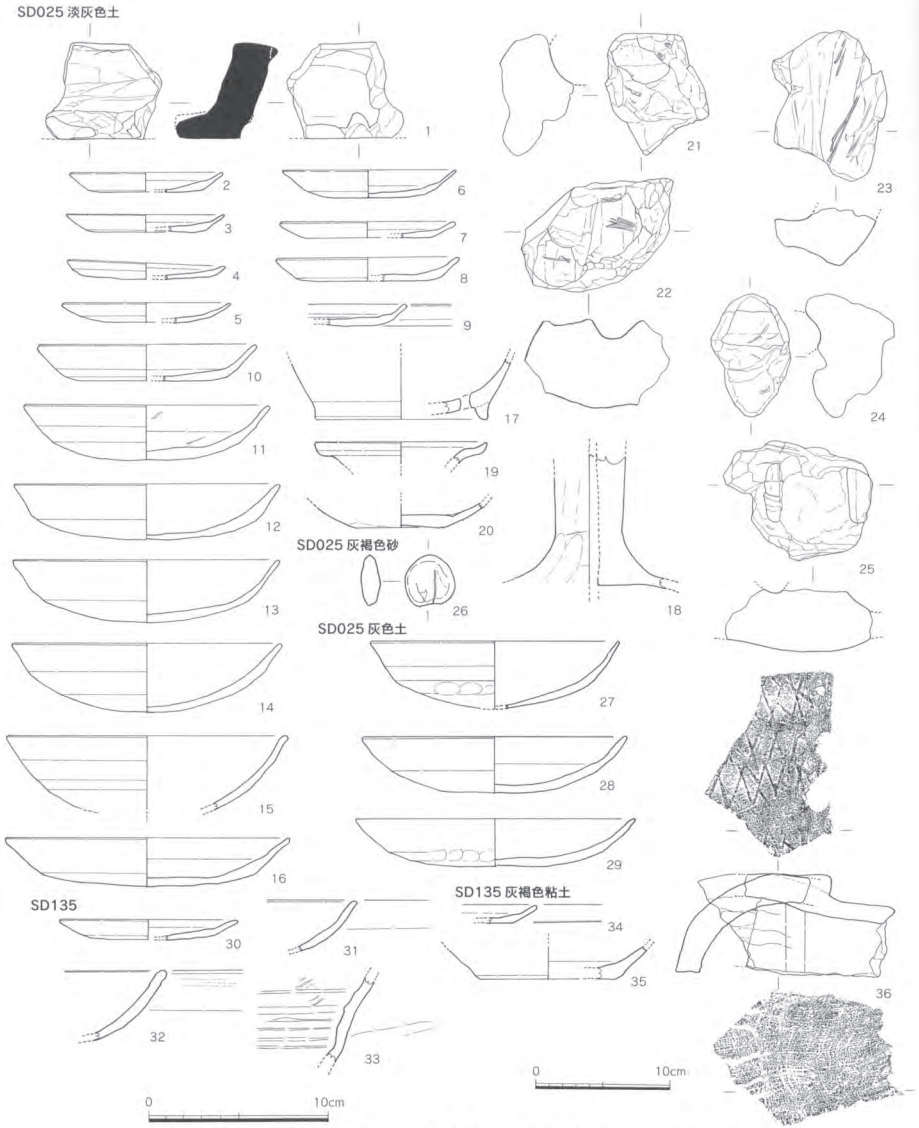


Fig. 69　257SD025・135 出土遺物実測図（1/3、瓦は 1/4、26 は 1/2）

灰釉陶器

壺（19）　復元口径 9.6cm。胎土は微細な砂粒を含む。内外面とも回転ナデ後に緑灰色釉を薄く施す。

青白磁

坏（20）　底径 4.8cm。底部は僅かに上げ底で、浅い沈線が巡る。内外面に淡緑青色釉を薄く施し、底部外面のみ釉を拭き取る。釉は光沢があって貫入あり。

土製品

土壁（21 ～ 25）　胎土には 0.1cm 前後の砂粒とスサが混じっていて淡茶褐色を呈する。径 3cm を超える骨組みの痕跡が僅かに見られる。部分的に外面とみられるナデ調整が残る。

257SD025 灰褐色砂出土遺物（Fig. 69）

石製品

平玉石（26）　大きさは 1.9cm × 1.9cm、厚さ 0.7cm。色調はにぶい褐白色。

257SD025 灰色土出土遺物（Fig. 69）

土師器

丸底坏 a（27 ～ 29）　復元口径 14.0 ～ 15.6cm、器高 2.7 ～ 3.8cm。全体的に摩滅が目立つ。色調は淡白褐色を呈する。

257SD135 出土遺物（Fig. 69）

土師器

小皿 a（30）　復元口径 10.0cm、器高 1.1cm、復元底径 7.2cm。磨滅し調整不明。

椀（31）　磨滅し調整不明。丸底坏の可能性もある。

黒色土器

椀（32）　磨滅するが内外面にミガキが確認できる。B 類。

朝鮮系無釉陶器

甕（33）　内面ヨコナデ、外面は叩きの後ナデ調整。色調は内外面とも青黒灰色、断面は暗茶褐色を呈する。

257SD135 灰褐色粘土出土遺物（Fig. 69）

土師器

小皿 a（34）　器高 1.0cm。板状圧痕らしきものが残る。

坏 a（35）　磨滅し調整不明。復元底径 7.6cm。色調は淡橙灰色を呈する。

瓦類

丸瓦（36）　凸面に若干大きめの格子叩きを施す。色調は青灰色を呈する。

257SD150 出土遺物（Fig. 70）

須恵器

坏 c（1）　底部端に細い高台を貼付する。内外面回転ナデで、青灰色を呈する。復元高台径 9.8cm。

坏 c ×壺（2）　太く低い高台を貼付する。復元高台径 9.0cm。内外面回転ナデで内面底部は不定方向のナデ。淡灰白色を呈する。

土師器

皿 a（3、4）　3 は復元口径 14.0cm、器高 1.1cm、復元底径 9.5cm。底部は回転ヘラ切りで板状圧痕が僅かに残る。4 は復元口径 16.3cm、器高 1.55cm、復元底径 12.4cm。外面にミガキのような痕跡を残す。

坏 a（5 ～ 10）　復元底径 7.1 ～ 8.2cm。底部は確認できるものは全て回転ヘラ切り後ナデ。内面底部は回転ナデ後にナデ調整。7・8 の底部はやや丸い。

甕（11 ～ 14）　体部内面はヘラケズリ、外面タテハケ。口縁部はヨコナデとみられる。14 は磨滅が著しいが口縁部内面がヨコハケ。

黒色土器

椀 c（15、16）　磨滅が目立つが内面に僅かにミガキが残る。A 類。

小鉢（17）　口縁部を大きく曲げ、復元口径 13.0cm。外面は磨滅するが内面は細かいミガキ c が残る。

緑釉陶器

椀ｃ（18） 内外面に光沢のある明緑色釉が厚く施す。胎土は乳白色や灰色で土師質。復元高台径10.6cm。

257SD150 灰色土出土遺物（Fig.70）

土師器

小皿ａ（19、20） 器高は２点とも1.0cm、磨滅し調整不明。色調は白橙色を呈する。

坏ａ（21～23） 21は底部ヘラ切り。22は底部ヘラ切りで、復元底径8.6cm。23は復元底径10.2cm。淡茶灰色や橙白色を呈する。

黒色土器

大椀ｃ（24） 厚い椀部に径9.0cmの高台を貼付する。外面回転ナデ。胎土は白色砂粒を含み、暗茶色を呈する。Ａ類。

257SD170 出土遺物（Fig.70）

土師器

坏ａ（25、26） 全面磨滅する。25は淡褐茶色、26は暗褐灰色を呈する。

椀ｃ（27） 復元高台径7.6cm。色調は淡褐茶色や淡褐灰色を呈する。

甕（28） 磨滅するが、体部内面がナデもしくはケズリのような痕跡を残す。胎土は0.1cm以下の砂粒と角閃石を含む。

黒色土器

椀ｃ（29、30） ２点ともＡ類。29は復元口径8.6cm。内面に僅かにミガキが確認できる。胎土は淡茶灰色を呈する。

瓦類

丸瓦（31） 斜格子叩きを施す。

平瓦（32、33） 格子叩きを施す。32は淡灰色。33は茶灰色を呈する。

257SD180 灰茶色土出土遺物（Fig.70）

土師器

坏ａ（34） 復元底径9.7cm。色調は黄橙白色を呈する。

椀ｃ（35～37） 35は内外面回転ナデで、内面底部は不定方向のナデ。外面の回転ナデは沈線状になっている。復元高台径8.9cm。色調はにぶい橙色を呈する。36は復元高台径7.0cm。37は体部に比べ細い高台を貼付する。

甕（38、39） ２点とも口縁部を肥厚する。体部内面はヘラケズリ、口縁部はヨコナデ、外面はタテハケを施す。38は外面に煤が厚く付着する。

瓦類

平瓦（40） 凸面に格子叩きを施す。

257SD180 淡灰色土出土遺物（Fig.70）

瓦類

平瓦（41） 凸面に浅い格子叩きが施されている。側面近くはナデ消される。

257SD200 出土遺物（Fig.71）

土師器

小皿ａ（1～3） 復元口径9.2～10.0cm、器高1.25～1.7cm、復元底径6.0～7.4cm。底部は回転ヘラ切りで、板状圧痕が残る。内面底部は一方向のナデ、その他は回転ナデ。

黒色土器

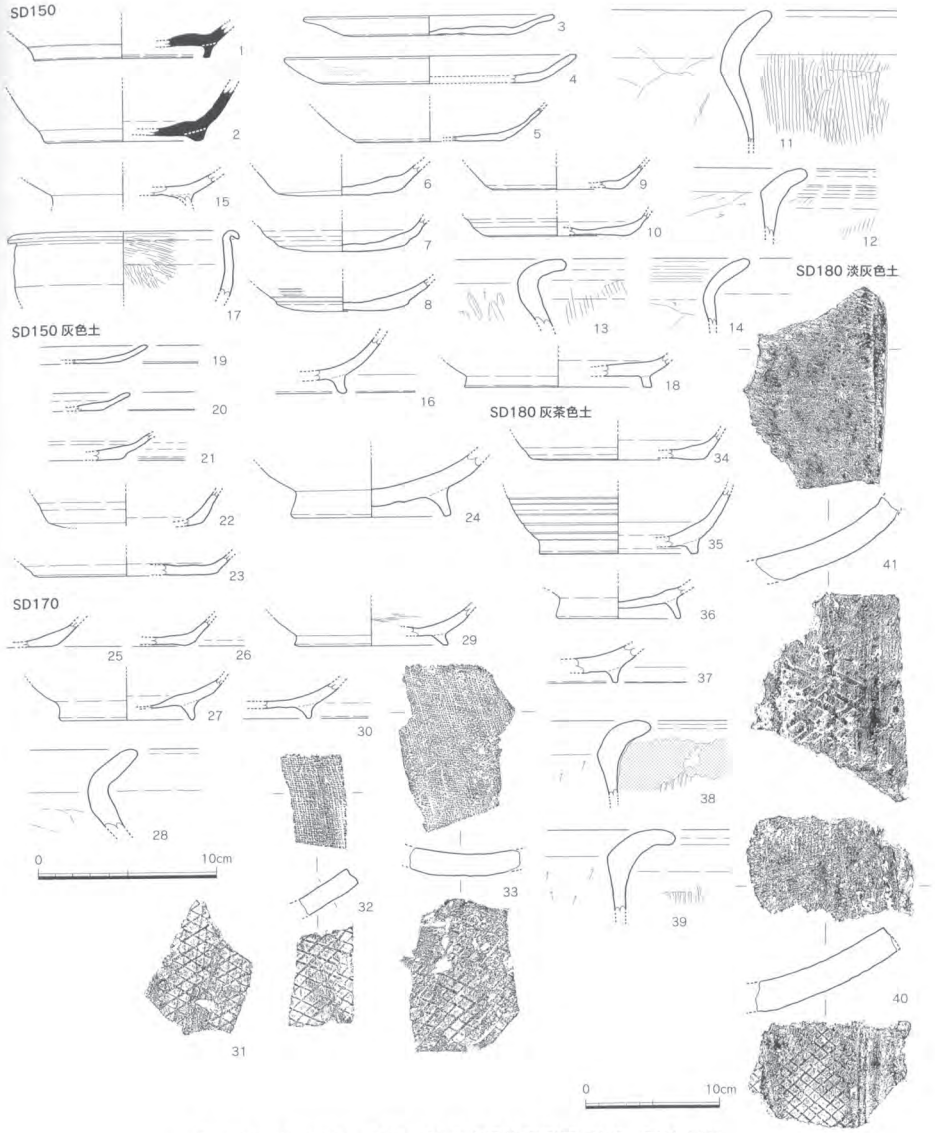


Fig.70 257SD150・170・180出土遺物実測図（1/3、瓦は1/4）

椀（4） 口縁端部を僅かに外反させる。Ｂ類。

石製品

石鍋加工品（5） 滑石製の石鍋の口縁部で、内外面ともヘラケズリ加工している。径0.75～0.8cmの円孔が１ヶ所穿たれており、石鍋を二次加工したものとみられる。

瓦類

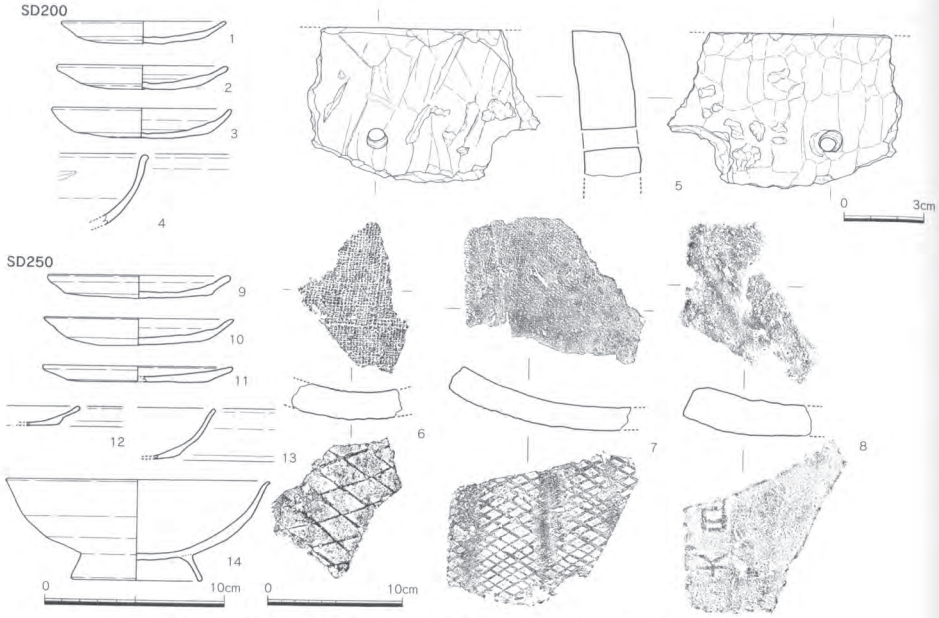


Fig. 71　257SD200・250 出土遺物実測図（1/3、5 は 1/2、6 ～ 8 は 1/4）

平瓦（6 ～ 8）　6 はやや大きめの斜格子叩き。7 は細かい斜格子叩き。8 は摩滅が目立つが、「大瓦」の文字瓦。

257SD250 出土遺物（Fig. 71）

土師器

小皿 a（9 ～ 12）　9 ～ 11 は復元口径 10.2 ～ 10.6cm、器高 0.9 ～ 1.5cm、復元底径 7.8 ～ 8.2cm。外面底部は回転ヘラ切りとみられ、板状圧痕が残る。色調は白橙色を呈する。12 は焼成不良で内外面磨滅する。器高 1.1cm。色調は淡茶白色を呈する。

坏 a（13）　底部がやや丸味がある。色調は淡褐白色を呈する。

黒色土器

椀 c（14）　復元口径 14.7cm、器高 5.6cm、復元高台径 7.3cm。焼成不良で全体が磨滅する。A 類。

井戸

257SE075 茶褐色土出土遺物（Fig. 72）

土師器

小皿 a（1 ～ 3）　復元口径 9.6 ～ 10.0cm、器高 1.1 ～ 1.4cm、復元底径 7.3 ～ 8.2cm。板状圧痕は確認できるが、底部切り離しは磨滅し不明。淡褐茶色を呈する。

丸底坏 a（4、5）　復元口径は 4 が 16.5cm、5 が 17.8cm、板状圧痕は残すが、2 点とも全体的に磨滅する。

甕（6）　外面タテハケ、内面ヨコハケ、口縁部内外面はヨコナデ。

257SE075 暗灰色土出土遺物（Fig. 72）

土師器

小皿 a（7 ～ 15）　復元口径 8.7 ～ 10.0cm、器高 0.9 ～ 1.9cm、復元底径 6.6 ～ 8.0cm。底部切り離しは確認できるものはヘラ切りで、板状圧痕が残る。

椀 c（16）　外跳ねの高台を貼付し、内面にはミガキ c が施される。黒色化されてなく、色調は淡褐灰色を呈する。復元高台径 7.0cm。

丸底坏 a（17 ～ 24）　復元口径 12.2 ～ 16.0cm、器高 2.2 ～ 4.2cm。内面にはミガキ b が施され、コテ当て痕が確認できる。色調は主に褐白色を呈する。

黒色土器

脚付鉢（25）　脚部は欠損するが、配置から 3 ヶ所付いていたものと推測される。胎土は砂粒を僅かに含み、色調は黒灰色を呈する。内外面ナデ調整。B 類。

灰釉陶器

鉢（26）　精製された胎土で、内外面とも回転ナデで、内面と口縁部に緑灰色釉を薄く施す。

土製品

鋳型（27）　胎土は 0.1cm 以下の砂粒を少量含み淡灰色を呈する。表面には真土が付着する。上面には 0.2cm 程の深さで型がみられる。小物の鋳型と推測される。

塼（28）　胎土は 0.1cm 前後の砂粒を多く含み、暗茶褐色を呈する。表裏はナデ調整される。縦 19.0cm 以上、幅 11.6cm 以上、厚さ 6.5cm。

石製品

硯（29）　方形の黒色の粘板岩を加工した硯で、背面は細かく研磨する。脚部の一部は欠損する。表面は浅い彫り込みがあり、細かい研磨とキズがみられる。また硯面の端には浅い溝が彫り込まれている。

木製品

杓子（30）　現存長 17.2cm、厚さ 0.9cm。柄の半分ほどを欠損する。表面は平坦に仕上げられ、僅かに加工痕が残っている。

257SE075 枠内出土遺物（Fig. 73）

須恵質土器

鉢（31）　片口鉢で口縁端部は灰被りで自然釉がみられる。焼成は良好で胎土は暗灰青色を呈する。外面は回転ナデ、内面はやや滑らかになっている。

土師器

小皿 a（32 ～ 36）　復元口径 8.4 ～ 9.8cm、器高 1.0 ～ 1.3cm、復元底径 6.2 ～ 8.0cm。32 はヘラ切り。35 は底部ヘラ切り後未調整。35 は底部付近の破片で、内外面に墨書がみられるが、残りが悪く内容はわからない。

丸底坏（37 ～ 42）　復元口径 15.0 ～ 19.1cm、器高 3.1 ～ 5.6cm。内面にミガキ b を施す。41・42 はやや大きく口縁部が僅かに外反する。

瓦類

瓦玉（43）　大きさは 2.5 × 2.3cm、厚さ 2.0cm。

257SE075 掘方出土遺物（Fig. 73）

須恵質土器

鉢（44）　僅かに砂粒を含み、淡灰色を呈する。内外面回転ナデ。東播系か。

土師器

小皿 a（45 ～ 59）　復元口径 9.2 ～ 11.4cm、器高 0.9 ～ 1.9cm、復元底径 6.4 ～ 9.2cm。底部切り離しはヘラ切りで、板状圧痕を残す。

小丸底坏 a（60）　復元口径 10.2cm、器高 2.5cm。全体的に磨滅するが、底部ヘラ切り後に押し出し。

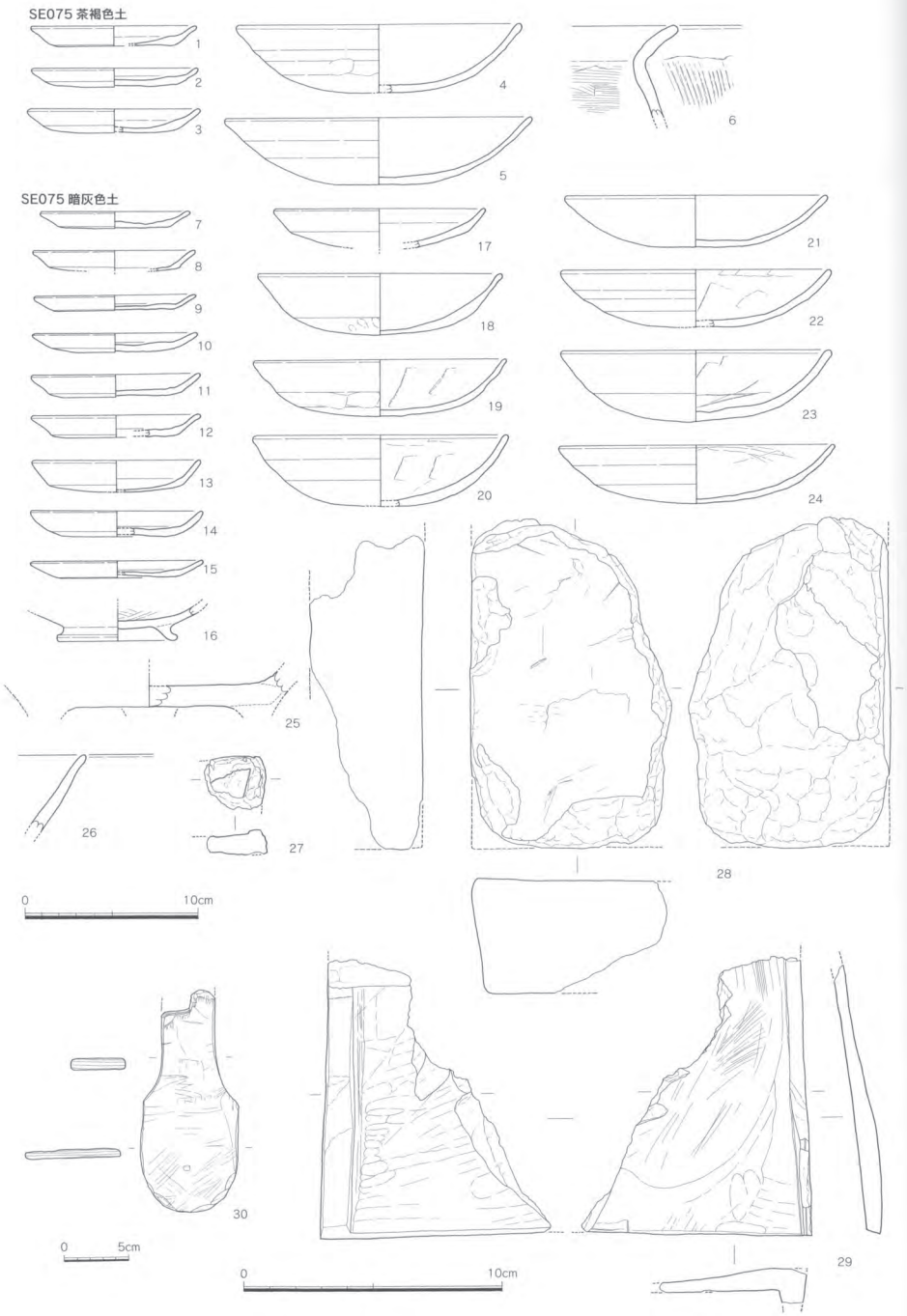


Fig. 72　257SE075 出土遺物実測図①（1/3、29 は 1/2、30 は 1/4）

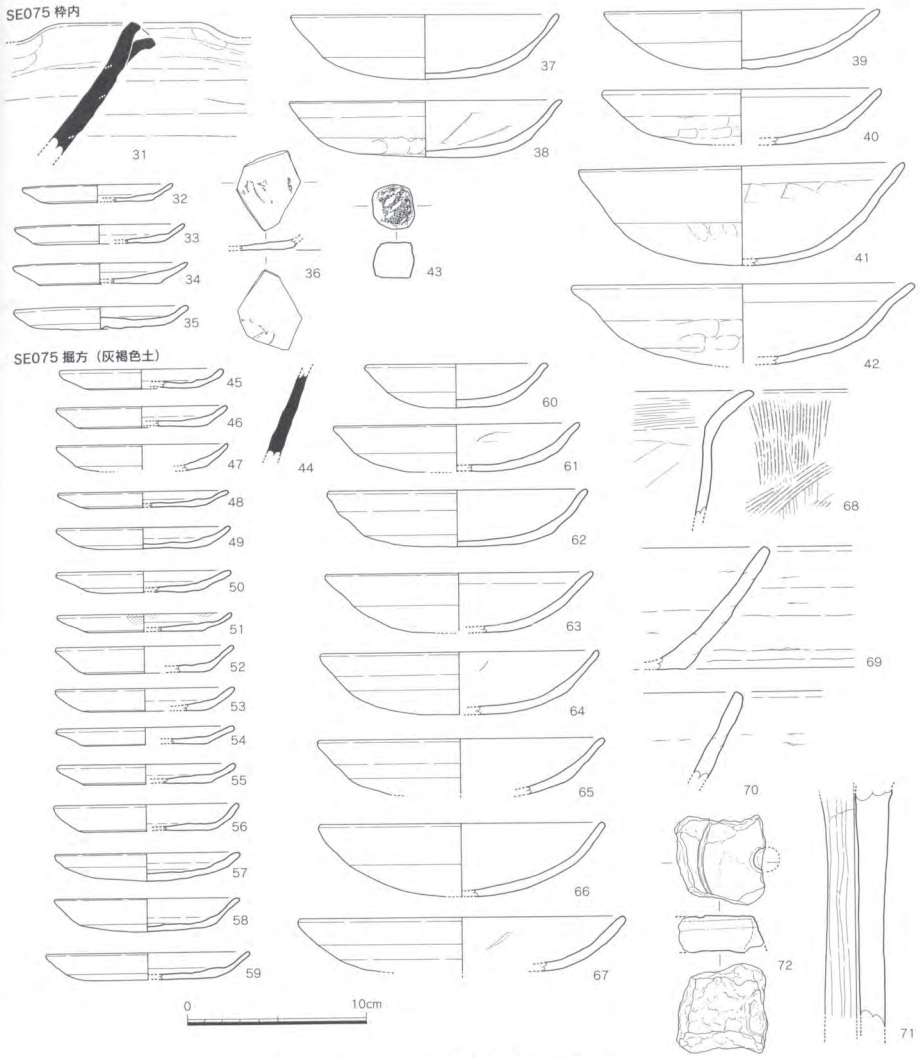


Fig. 73　257SE075 出土遺物実測図②（1/3）

板状圧痕も残る。

丸底坏 a（61 ～ 67）　復元口径 13.7 ～ 18.2cm、器高 0.9 ～ 1.9cm。底部ヘラ切りで板状圧痕を残す。内面にミガキ b を施すが磨滅も目立つ。

甕（68）　口縁部内面はヨコハケ、外面はタテハケ、体部内面はヘラケズリ。胎土は 0.1cm 以下の砂粒を含み暗褐灰色を呈する。

鉢（69、70）　69 の胎土は 0.1cm 以下の砂粒を含みにぶい褐色を呈する。内外面に粘土帯の接合痕が確認できる。内面上半部はヨコナデ、それ以外はナデ調整である。70 は 0.1cm 以下の砂粒を含む胎土で、外面回転ナデ、内面ヨコナデ、口縁端部内面は強いヨコナデがみられる。

器台（71） 器台の脚部で、中心に1cm程の円孔を作り、外面は丁寧な縦方向のナデを施す。焼成良好で淡褐色を呈する。

土製品

鋳型（72） 胎土は0.1cm以下の砂粒を多く含む白灰色で、その上半部は黒灰色、その上面と側面に真土が厚さ0.2～1cm程覆い、その面に0.2cm幅の輪状の溝と窪みが施されている。真土は淡灰色を呈する。

257SE095 青灰色土出土遺物（Fig.74）

須恵器

坏c（1） 体部は直線的に外反する。底部端に低い高台を貼付する。

土師器

坏a（2） 底部は復元底径5.1cmと小さいが体部は大きく外反する。底部は回転ヘラ切り後ナデ調整する。焼成は良好で色調は茶灰色を呈する。

椀c（3） 丸味のある坏部に高台を貼付する。色調は白橙色を呈する。

甕（6、7） 6は体部内面がヘラケズリ、それ以外の内外面はヨコナデ。7は丸味のある口縁部で、0.3cm以下の砂粒を多く含み灰色や茶黒色を呈する。外面に指頭痕のようなものもみえるが磨滅し不明。

黒色土器

椀c（4、5） 丸味のある坏で、共にA類。4は内外面ともミガキが残るが、内面のみ黒色化している。5は磨滅が目立つが内面に僅かにミガキが残る。

257SE095 暗灰色土出土遺物（Fig.74）

須恵器

壺（8） 白色砂粒を多く含み、焼成は良好で、暗青灰色を呈する。外面は叩きの後回転ナデ、内面は回転ナデ。底部内外面はナデ調整される。底部外面には焼き台が融着している。底部径は12.3cm。

大甕（9） 口縁部下半部分で、外面回転ナデ、内面上半部はヨコハケ、下半はナデ調整。色調は暗赤褐色を呈する。

土師器

坏a（10～12） 復元口径11.8～12.2cm、器高2.9～3.3cm、復元底部径5.3～7.1cm。10・11は丸味のある体部で、底部はヘラ切りで内外面は回転ナデ、内面底部はその後不定方向のナデ調整。12は中位に僅かな屈曲を有する。色調は灰色を呈する。

坏c（13） 復元口径13.0cm、器高4.0cm、復元高台径8.0cm。三角形の高台を貼付する。内外面回転ナデで、底部外面には板状圧痕が残る。

椀c（14、15） 14は高台径7.6cm。底部内外面が不定方向のナデ、その他は回転ナデ。15は復元高台径7.7cm。内面は雑なミガキ、その他は回転ナデ。

大椀c（16） 高い高台部分で、内外面ともナデ調整。胎土は微細な長石を少量含み、やや粗い。色調は灰白色を呈する。復元高台径11.4cm。

脚付鉢（17） 脚部のみで全形は不明で高台径24.0cm。胎土は微細な雲母や長石を含み、明黄橙色を呈する。内外面とも回転ナデ。

黒色土器

椀c（18～23） 18は復元口径12.9cm、器高5.7cm、復元高台径8.0cm。細い高台を貼付する。内面下半はヘラミガキ、その他は回転ナデ。底部内面には工具による線刻がある。19は復元口径15.0cm、器高5.4cm、復元高台径8.9cm。外面は回転ナデ、内面は丁寧なミガキcだが単位までは確認できない。

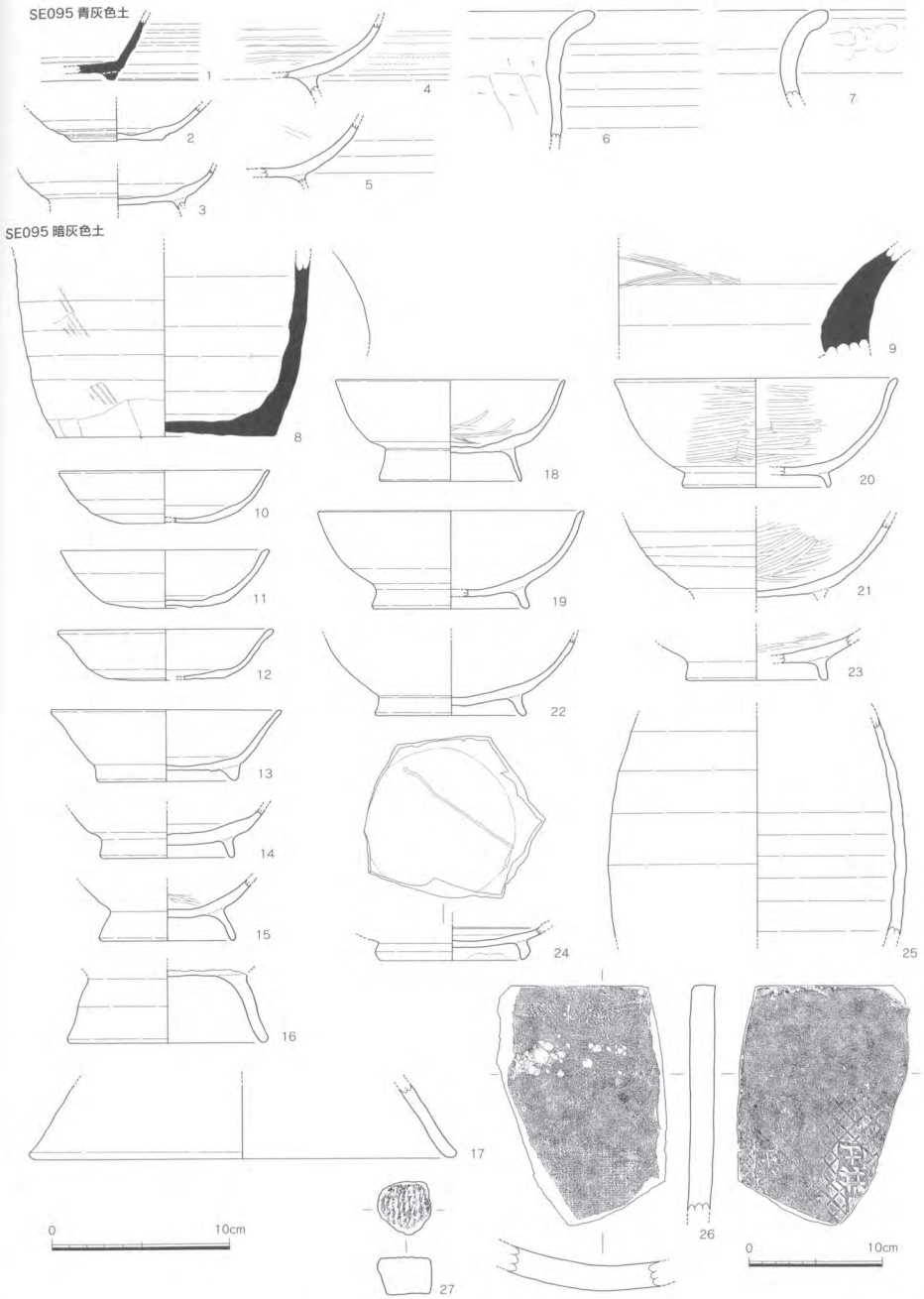


Fig.74 257SE095 出土遺物実測図①（1/3、26は1/4）

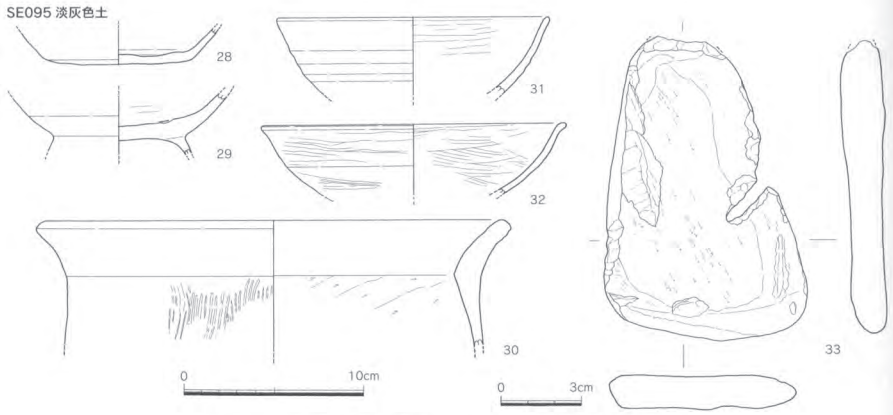


Fig. 75　257SE095 出土遺物実測図②（1/3、33 は 1/2）

A 類。20 は復元口径 16.0cm、器高 6.2cm、復元高台径 8.4cm。内外面ともミガキ c を施すが、黒色化は内面のみで、外面下半には一部油煙のようなものが付着する。A 類。21 は高台全てが剥落する。外面回転ナデ、内面ミガキ c、胎土は精製され微細な長石を含み、灰白色を呈する。22 は高台径 9.0cm。体部は丸味があり、外面は回転ナデ、内面はミガキがあるが、磨滅して単位は判然としない。A 類。23 は復元高台径 8.0cm。B 類。底部外面にヘラ記号のようなものがある。

灰釉陶器

段皿（24）　高台径 8.2cm。内面底部はオリーブ灰色釉を円形に拭き取り、ヘラ記号と重ね焼き痕ががある。欠損するが僅かに段が付いている。高台外面は施釉、内面は露胎。高台畳付は使用により磨滅している。

中国陶器

壺（25）　内外面回転ナデで、外面のみ褐色釉を施す。

瓦類

平瓦（26）「平井」の文字が入った格子叩き。凹面は布目痕とナデ調整が見られる。

瓦玉（27）　大きさ 3.0 × 2.7cm、厚さ 2.1cm。

257SE095 淡灰色土出土遺物（Fig. 75）

黒色土器

坏 a（28）　復元底部径 8.2cm。内面は全て黒色化しているが、一次焼成で土師器が変色した可能性も考えられる。

椀 c（29）　やや内湾する高い高台を貼付する。色調は淡橙色で、内面に僅かにミガキが確認できる。A 類。

甕（30）　復元口径 26.4cm。口縁部内面はヨコナデ、体部内面は斜め方向のヘラケズリ、外面はタテハケ。0.3cm 以下の白色砂粒を多く含み、色調は淡茶灰色や橙色を呈する。

椀（31、32）　31 は復元口径 15.2cm。胎土は白色砂粒を含み茶灰色を呈する。A 類。32 は復元口径 17.0cm。内外面にミガキ c を施す。B 類。

石製品

用途不明製品（33）　縦 11.5cm、横 8.5cm、厚さ 1.3cm の扁平な石材で表面が滑らかになっている。一部に人為的に切り込んだ部分がある。砥石としても使用したとみられるが詳細な利用は不明。

257SE105 暗灰色土出土遺物（Fig. 76）

土師器

小皿 a（1 ～ 3）　1 は復元口径 9.6cm、器高 1.3cm。底部は回転ヘラ切り。2 は復元口径 9.8cm、器高 0.9cm。底部は磨滅するが板状圧痕が残る。3 は底部ヘラ切り、器高 0.9cm。

椀 c（4）　体部中位がやや厚い。復元高台径 9.7cm。色調は淡橙茶褐色を呈する。

257SE105 黒灰色土出土遺物（Fig. 76）

土師器

小皿 a（5、6）　復元口径ともに 11.8cm、器高 1.5、1.6cm、復元底径ともに 8.6cm。底部は回転ヘラ切り。色調は淡橙白色を呈する。

小皿 c（7）　復元口径 13.2cm、器高 2.5cm、復元高台径 7.8cm。全体的に磨滅する。

皿（8）　口縁部の破片だが、全形がいまいち掴めにくい。内外面は丁寧な回転ナデ調整。復元口径 11.4cm。

坏 a（9）　復元底径 7.0cm。底部は回転ヘラ切りで僅かに板状圧痕が残る。色調は淡橙白色を呈する。

椀（10）　口縁部が僅かに肥厚している。復元口径 13.2cm。

椀 c（11）　復元高台径 7.2cm。色調は淡橙白色を呈する。

甕（12）　復元口径 12.0cm。内外面回転ナデ、体部内面は不定方向のナデで、一部に工具痕がみられる。胎土は 0.3cm 以下の砂粒を少量含み、色調は赤橙色を呈する。

黒色土器

椀 c（13）　復元口径 14.2cm、器高 6.0cm、復元高台径 8.0cm。口縁端部を僅かに外反させる。内面はミガキ c、外面は回転ナデを施す。A 類。

石製品

石鍋（14）　やや内湾する形状で、内外面に成形のケズリ痕と使用時の擦痕がみられる。滑石製。

瓦類

平瓦（15 ～ 18）　15･16 は格子叩に「平井」の文字瓦。17 は二重の格子叩き。18 は二重格子にさらに細かく格子を入れた叩き目を施す。

257SE105 黒色土出土遺物（Fig. 76 ～ 78）

土師器

小皿 c（19）　復元口径 13.0cm、器高 1.75cm、復元高台径 7.3cm。丸味のない浅い坏に低い高台を貼付する。内面底部は回転ナデ後不定方向のナデ、外面底部は回転ヘラ切り後粗いナデ調整。色調は淡灰白色を呈する。

坏 a（20 ～ 23）　底径は 7.1 ～ 8.0cm。底部は回転ヘラ切り後ナデ調整。20 は体部がやや厚い。22 は丸味のある底部である。

椀 c（24、25）　内外面回転ナデで、内面底部はその後ナデ調整。色調は暗灰色や灰色を呈する。

小甕（26）　復元口径 14.2cm。外面は二次焼成による被熱で剥落している。それ以外は回転ナデ。

黒色土器

椀 c（27）　方形の高台を貼付する。胎土は砂粒を僅かに含む。内外面ともミガキを施す。B 類。

緑釉陶器

椀（28）　高台内側に僅かに段を有する高台を貼付する。高台径 7.2cm。内面には沈線が巡る。内外面に深い緑色釉を施すが、高台内面は露胎で釉がパラパラ付着している。胎土は淡橙色で、近江産と推測される。

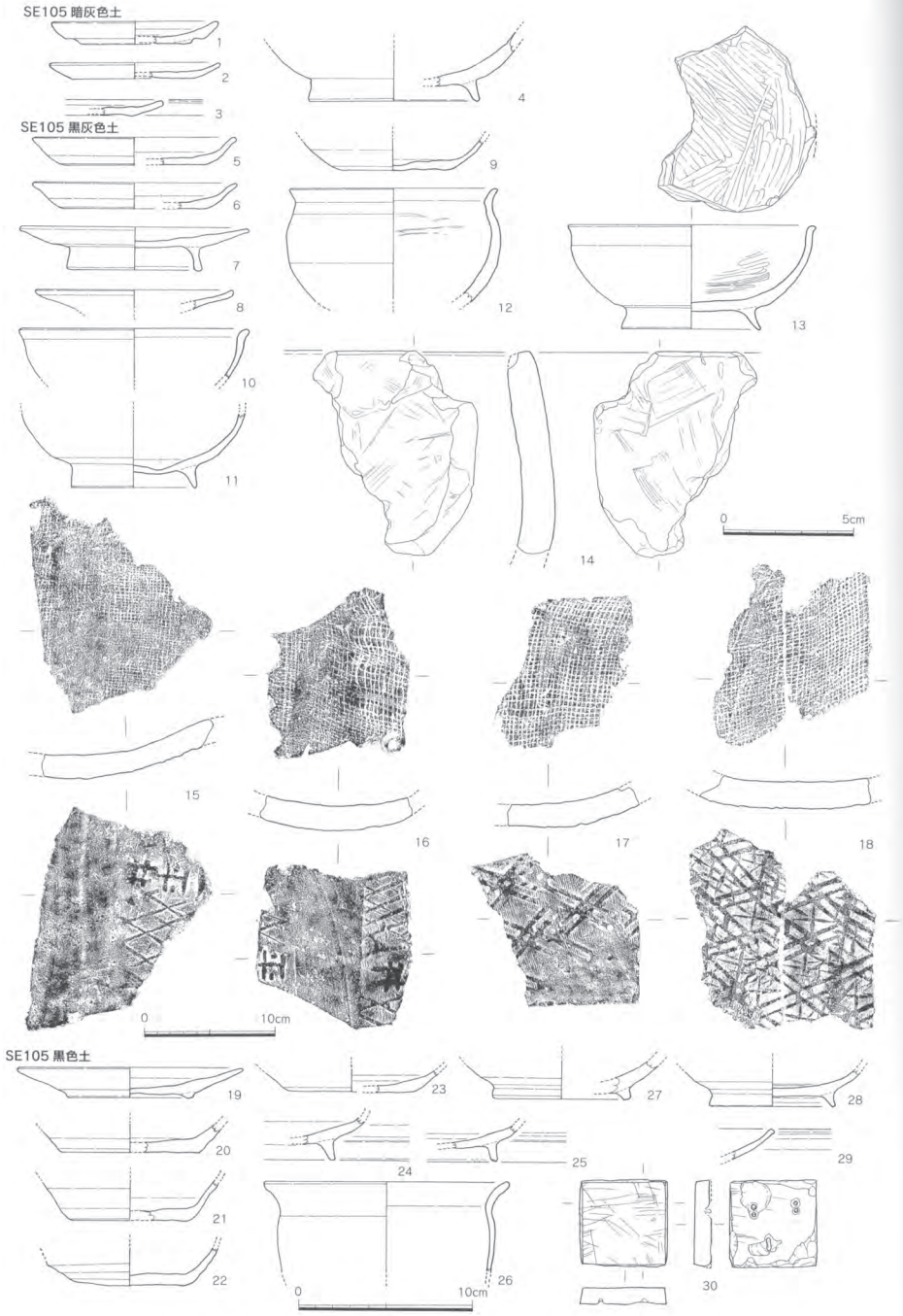


Fig. 76　257SE105 出土遺物実測図①（1/3、14・30 は 1/2、瓦は 1/4）

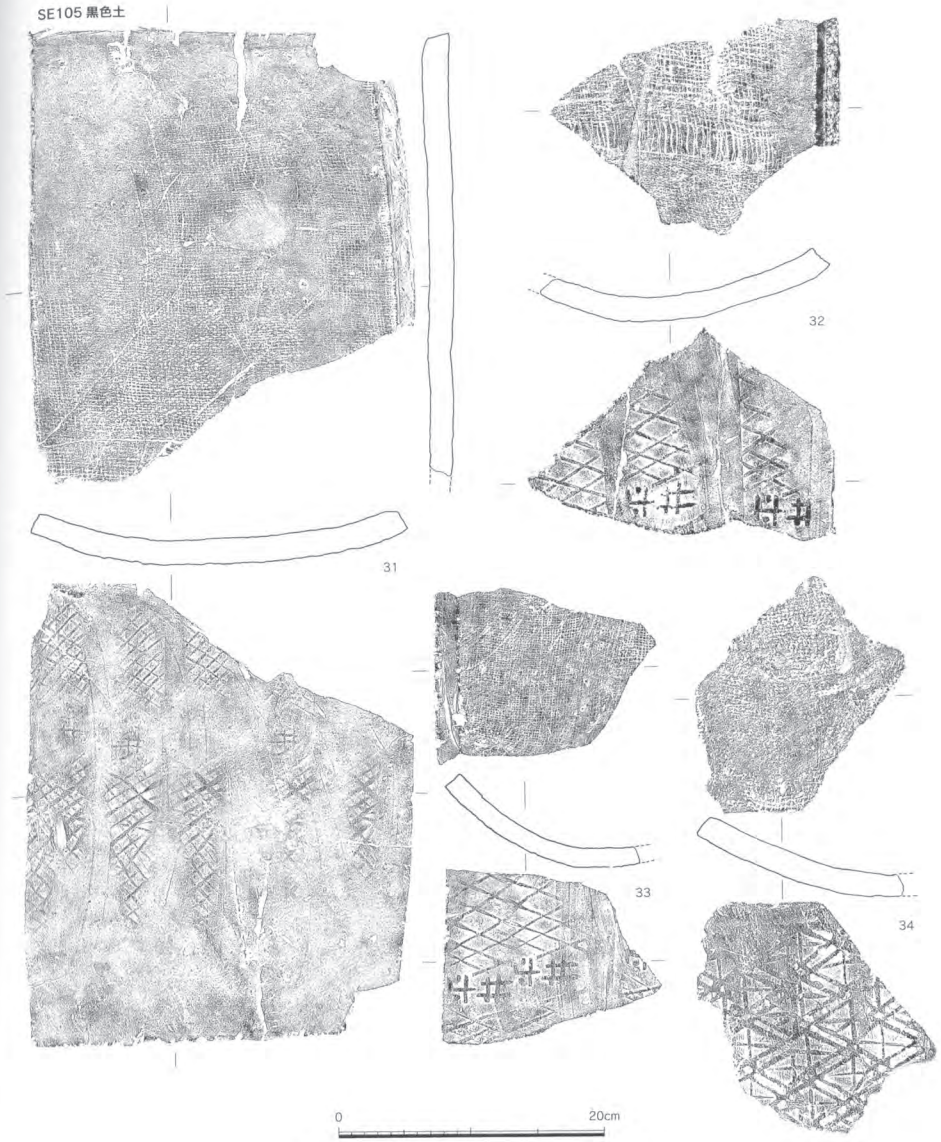


Fig. 77　257SE105 出土遺物実測図②（1/4）

灰釉陶器

皿（29）　口縁端部を僅かに曲げる。内外面に僅かに褐色味のある透明釉を施す。

瓦類

平瓦（31 ～ 34）31 は小さな格子叩き。色調は暗灰色を呈する。32・33 は格子目に「平井」の文字

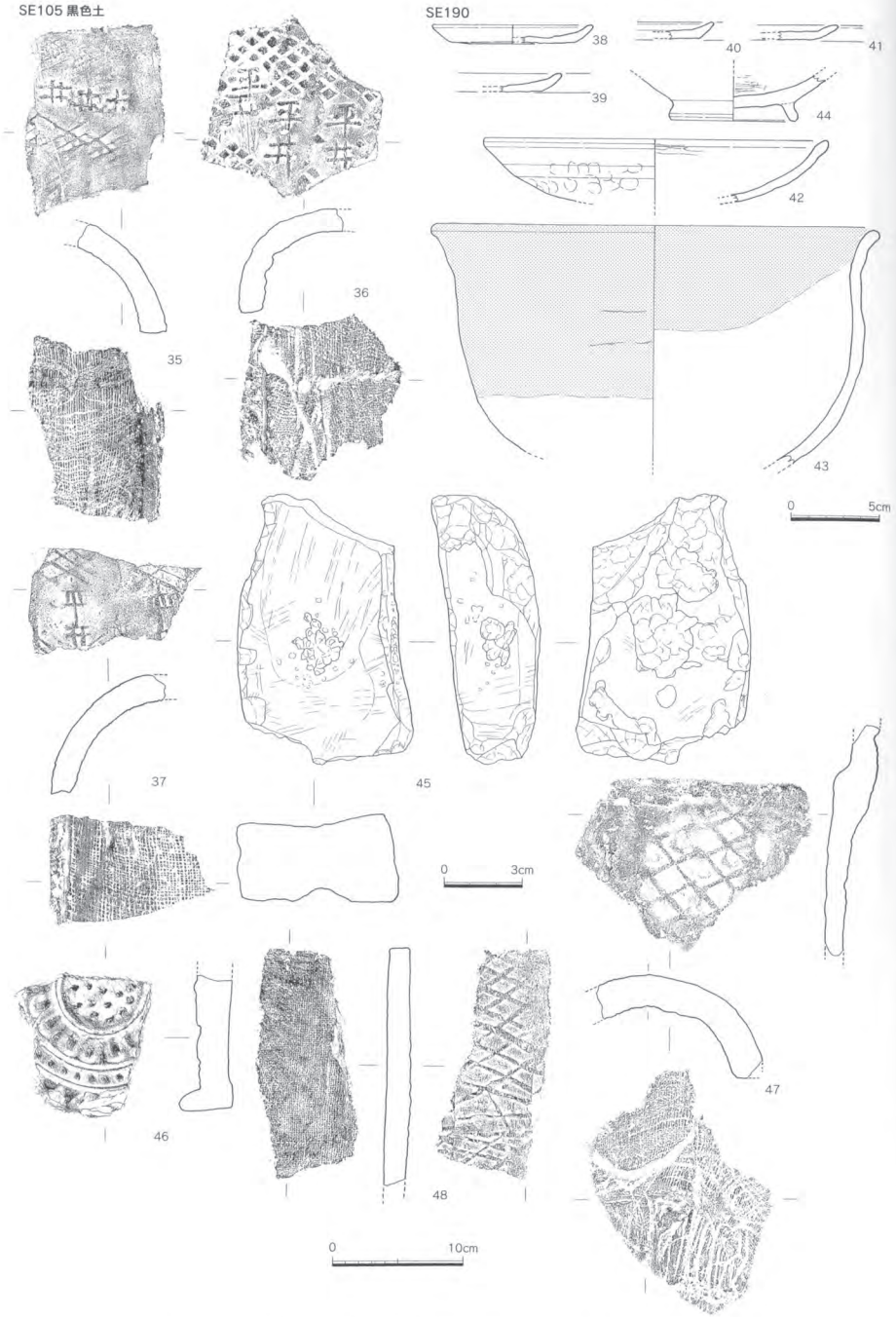


Fig. 78　257SE105 ③・190 ①出土遺物実測図（1/3、45 は 1/2、瓦は 1/4）

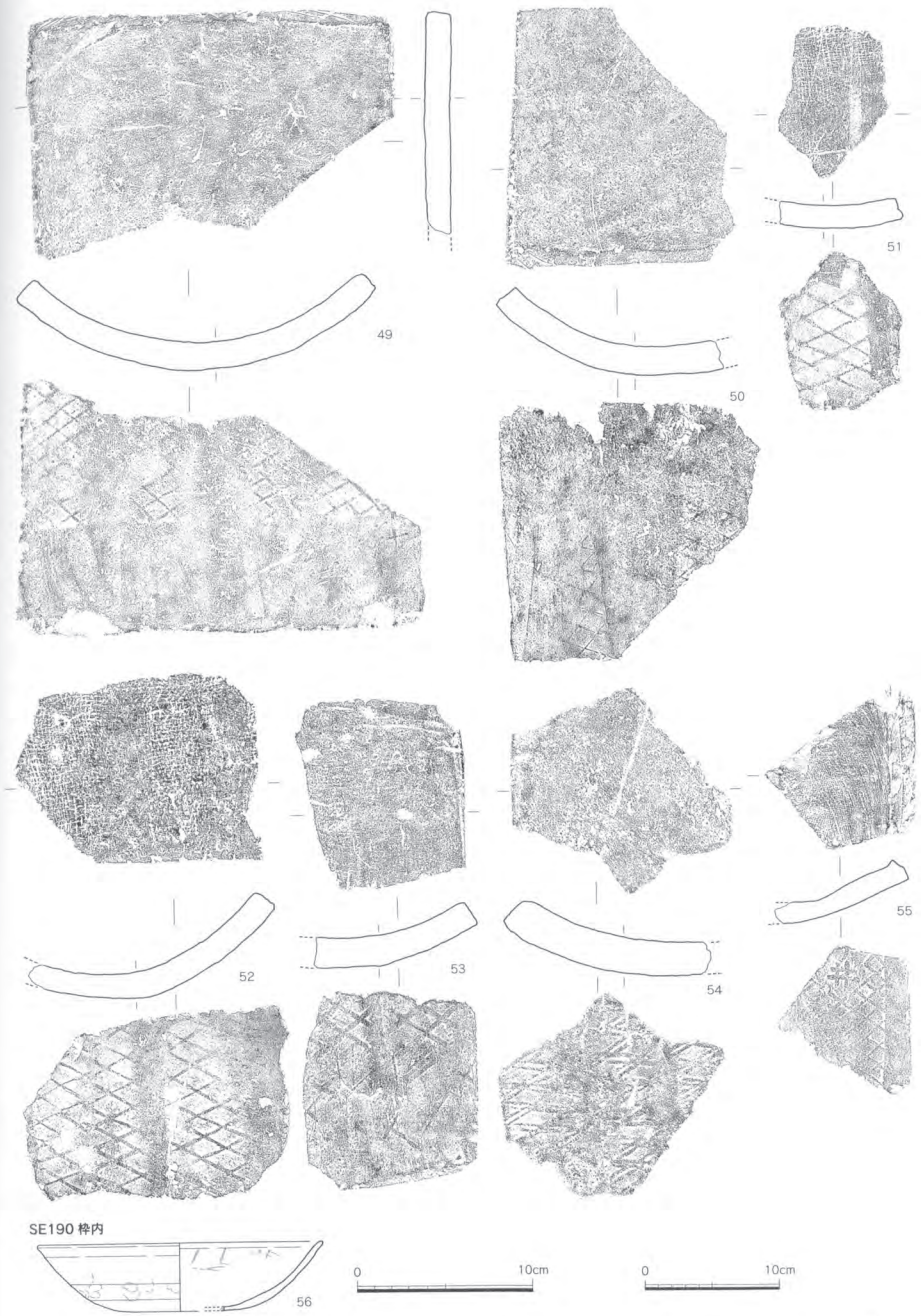


Fig. 79　257SE190 出土遺物実測図②（1/3、瓦は 1/4）

瓦。34は二重格子に十字を入れた叩きを施す。31・32の側面は半分ヘラ切りし切断している。33・34の側面は全面ヘラケズリする。

丸瓦（35～37）　全て格子に「平井」と刻む文字瓦。断面端部は僅かにヘラ切りし切断している。その後未調整。36は陰刻の格子である。

石製品

石帯巡方（30）　大きさは3.4×3.4cm、厚さ0.65cm。裏面に3ヶ所穿孔がある。色調は黒灰色を呈する。

257SE190 出土遺物（Fig.78・79）

土師器

小皿a（38～41）　外面底部は回転ヘラ切りで、38・39は板状圧痕が残る。38は復元口径9.3cm、器高0.9cm、復元底径7.2cm。

丸底坏a（42）　復元口径19.8cm。内面にはミガキb、外面下半には指頭圧痕が残る。

甕（43）　口径25.6cm。胎土は0.2cm以下の砂粒を少量含む。内外面ナデ調整とみられが、外面には煤が厚く付着している。

黒色土器

椀（44）　復元高台径7.1cm。外面底部にはヘラ記号がある。A類。

瓦類

軒丸瓦（46）　欠損しているが、中房は1+6+12とみられ、その外側に複弁、珠文、鋸歯が施される。側面・裏面はナデ調整。淡黒灰色や灰白色を呈する。

丸瓦（47）　やや大きめの格子叩き。

平瓦（48～55）　全て格子叩き。48は若干不定形な斜格子叩きで一部ナデ調整する。49は幅26.9cm。50は細い格子叩き。51は大きめの斜格子叩き。52・53はやや大きめの斜格子叩き。54は二重格子叩き。55は格子目に「平井」の文字瓦。

石製品

砥石（45）　4面使用が認められ、研磨痕跡と共に敲打痕も残る。大きさは9.4×6.2cm、厚さ2.4cm。砂岩製。

257SE190 枠内出土遺物（Fig.79）

土師器

丸底坏a（56）　復元口径16.0cm、器高3.7cm。口縁端部は僅かに外反する。内面にはミガキbとコテ当て痕が残り、外面下半には指頭圧痕と板状圧痕が確認できる。

257SE210 出土遺物（Fig.80）

須恵器

蓋3（1）　口縁端部を僅かに肥厚させる。外面上半部は回転ヘラ切り後ナデで、墨書がみられる。その他内外面とも回転ナデ。復元口径15.8cm。色調は淡灰色を呈する。

蓋4（2、3）　2の外面上半部は回転ヘラ切り後雑なナデ調整。口縁部は重ね焼きのため白灰色を呈する。3は内面端部に僅かに窪みがあるが端部は丸く仕上げる。

坏a（4）　外面底部は回転ヘラ切り後一部ナデ調整。その他は回転ナデ。淡灰色を呈す。

坏c（5）　底部端に低い高台を貼付する。復元高台径9.6cm。高台畳付には板状圧痕が残る。

甕（6）　口縁部は回転ナデ、体部外面は叩き、内面は当て具痕が残る。

土師器

皿a（7）　復元口径16.4cm、器高2.3cm、復元底径12.0cm。外面底部は回転ヘラ切りで、その他は回転ナデ、内面底部はその後不定方向のナデ。色調は淡橙褐色を呈する。

椀c（8～13）　復元高台径7.6～8.8cm。色調は灰茶褐色や淡橙色を呈する。内外面回転ナデで、内面底部の一部をナデ調整する。

甕（14）　口縁部をL字形に曲げる。体部内面はヘラケズリ、口縁部内面ヨコハケ、体部外面タテハケで、一部炭化物が付着する。色調は暗茶褐色を呈する。

灰釉陶器

段皿（15）　内面に褐灰色釉を薄く施す。外面は回転ナデで露胎。

257SE210 灰色粘土出土遺物（Fig.80）

土師器

坏a（16）　復元底径9.0cm。焼成不良で乳白色を呈する。外面底部には板状圧痕が残る。

257SE210 黒灰色粘土出土遺物（Fig.80）

須恵器

蓋3（17）　僅かに口縁端部をつまみ出している。外面上半部は回転ヘラ切り後未調整。

坏a（18）　やや外に直線的に開く体部を持つ。復元底径7.2cm。底部は回転ヘラ切り後粗いナデ、板状圧痕も残る。その他は回転ナデで、その後内面底部がナデ調整。

坏c（19）　復元高台径8.0cm。還元がやや不良で灰色や淡茶灰色を呈する。

壺（20）　二重口縁で、体部外面には波状文が描かれている。

土師器

甕（21、22）　内面はヘラケズリ、外面はハケの後ナデ調整。端部はヨコナデ。22は口縁部が肥厚し、体部は薄い。外面には炭化物が付着する。

257SE240 出土遺物（Fig.81）

土師器

椀c（1）　高台は全て欠落する。坏部の底部はやや丸味がある。色調は暗橙褐色を呈する。復元口径10.8cm。

土製品

塼（2）　胎土は0.3cm以下の砂粒を少量含み、淡灰色を呈する。面が一部に残る。

石製品

砥石（3）　4面使用されている。砂岩製。

瓦類

平瓦（4～6）　凹面に不定形な格子叩きとナデ調整を行う。5は「平井」の文字瓦。6は還元不良で灰橙褐色を呈する。

257SE240 枠内出土遺物（Fig.81・82）

土師器

小皿a（7）　口径10.4cm、器高2.0cm、底径7.8cm。底部は回転ヘラ切りで、板状圧痕が残る。内面は不定方向のナデ。

坏a（8）　復元口径11.8cm、器高2.4cm、底径8.2cm。底部は回転ヘラ切りで、板状圧痕が残る。色調は灰乳白色を呈する。

椀（9）　復元口径13.4cm。外面は回転ナデ、内面はミガキbで、コテ当て痕が残る。

椀c（10）　高台径7.0cm。内面は不定方向のナデ。色調は灰乳白色を呈する。

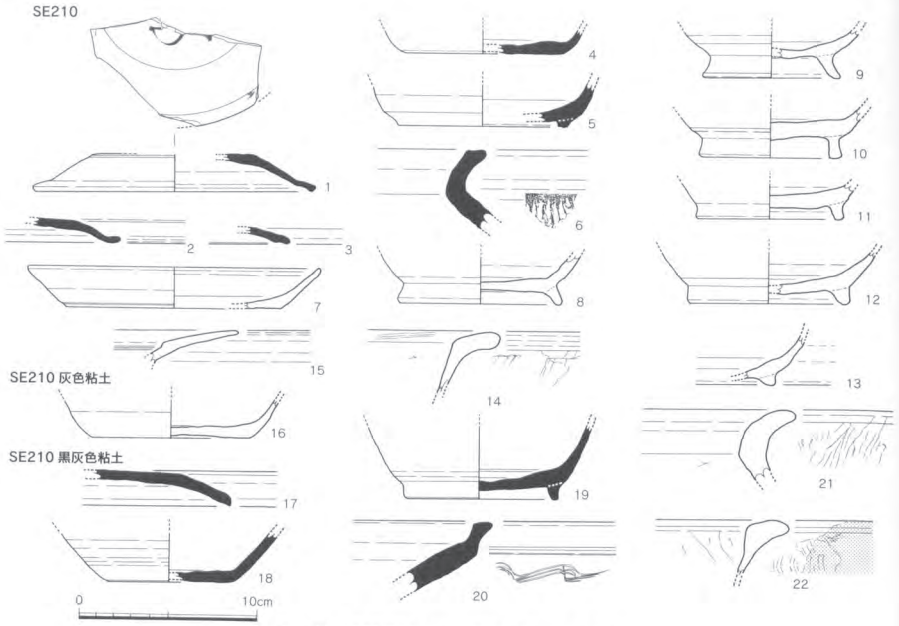


Fig. 80　257SE210 出土遺物実測図（1/3）

瓦類

丸瓦（11、12）　11 は不定形な斜格子叩きに「平井」の文字瓦。部分的に格子をナデ消す。縦 34.35cm、幅 17.85cm。12 は格子叩きに「平井瓦」の文字瓦。部分的に格子をナデ消す。一部に煤が付着する。

平瓦（13 ～ 19）　13 は二重格子に細かい格子を組み合わせた叩きで、凹面には糸切り痕が残る。14・15 は格子叩きで淡灰色を呈する。凹面は布目で一部ナデ消す。側面断面は半分ヘラ切りし、折ったままであるが、片方はヘラケズリで整形している。14 は縦 32.6cm、幅 28.5cm。15 は縦 35.8cm、幅 29.8cm。16 ～ 19 は格子叩きに「賀茂」を入れた文字瓦。部分的に格子をナデ消す。側面断面は半分ヘラ切りし、折ったままであるが、片方はヘラケズリで整形している。色調は灰色を呈する。大きさは縦 32.35 ～ 34.0cm、横 26.7 ～ 28.1cm、厚さ 1.6 ～ 1.85cm。

257SE240 黒灰色土出土遺物（Fig. 83）

黒色土器

托上椀（24）　復元高台径 7.7cm。内外面にミガキ c を施す。B 類。

瓦類

丸瓦（20、21）　凸面はやや不定形の斜格子に「平井」の文字が僅かに見える。内外面とも一部ナデ消す。色調は淡灰色を呈する。20 は縦 33.6cm、横 18.3cm、厚さ 1.8cm。21 は縦 33.1cm、横 15.7cm、厚さ 1.6cm。

平瓦（22、23）　22 は縦 34.2cm、横 28.6cm、厚さ 1.8cm。側面断面は分割線を半分入れ切断し、一方のみヘラケズリしている。細い格子叩きで、淡灰色を呈する。23 は格子に「平井」の文字瓦。

257SE245 出土遺物（Fig. 84）

土師器

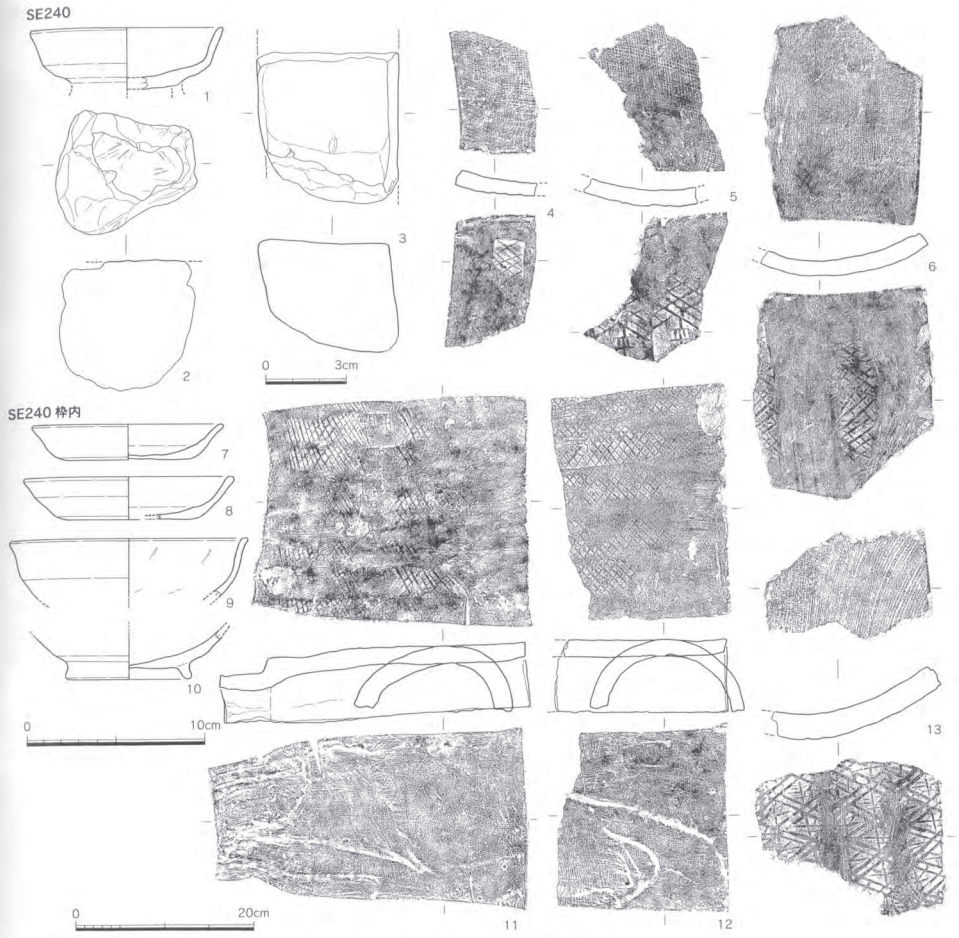


Fig. 81　257SE240 出土遺物実測図①（1/3、3 は 1/2、瓦は 1/6）

丸底坏（1）　磨滅するが内面にミガキが残り、外面下半に指頭圧痕が残る。

257SE245 黒灰色土出土遺物（Fig. 84）

黒色土器

椀 c（2、3）　2 点ともに内面のミガキは殆ど磨滅する。A 類。2 は高台径 7.6cm。3 は復元高台径 7.8cm。

瓦類

平瓦（4、5）　4 は格子叩き。5 は正格子に「平井瓦」と入れた文字瓦。

257SE245 黒色土出土遺物（Fig. 84）

土師器

坏 a（6）　全体が磨滅する。色調はにぶい褐色を呈する。

椀 c（7、8）　7 は高台径 7.5cm。白褐色を呈する。8 は復元口径 12.8cm、器高 3.7cm、高台径 7.3cm。

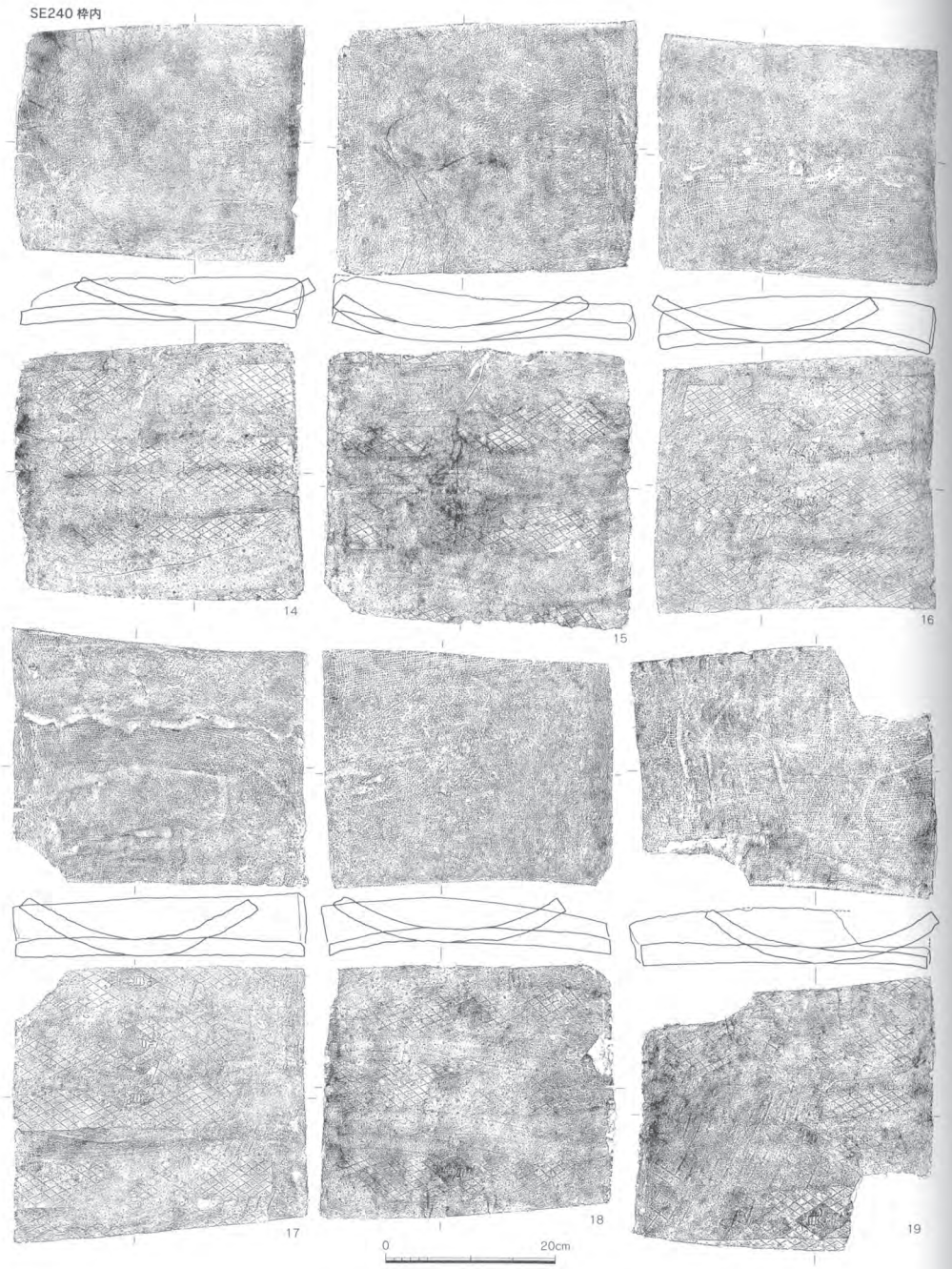


Fig. 82　257SE240 出土遺物実測図②（1/6）

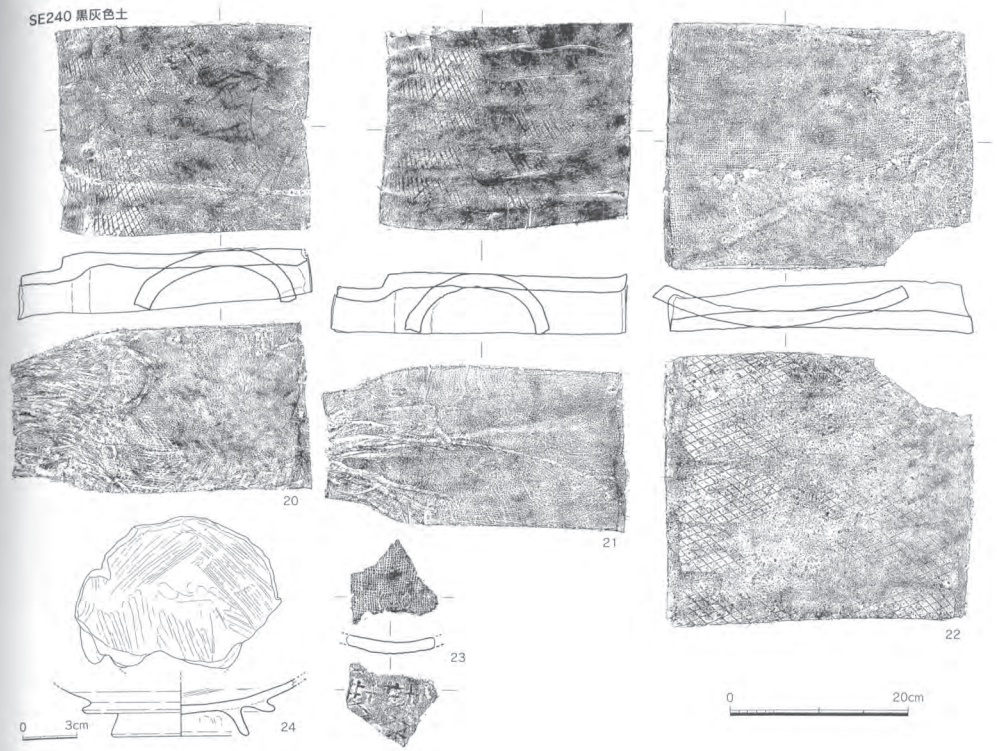


Fig. 83　257SE240 出土遺物実測図③（1/3、瓦は 1/6）

焼成不良でにぶい褐色を呈する。

甕（9、10）　9 は体部内面がヘラケズリ、外面はタテハケ。10 は体部内面がヘラケズリ、外面は回転ナデで煤が付着する。

黒色土器

椀（11、12）　共に A 類で、外面は茶褐色を呈する。11 は内面にミガキが確認できる。

金属製品

帯金具鉈尾（13）　大きさは 3.2 × 2.5cm、厚さ 1.0cm で、裏面を中心に錆が覆うが、表面は緑青色で部分的に金色を呈する。表面には 4 ヶ所に 0.8cm 程の留め具の穴が残る。

257SE245 枠内出土遺物（Fig. 84）

土師器

坏 a（15、16）　15 は全体が歪んでいる。口径 11.4cm、器高 2.5cm、底径 7.1cm。底部はヘラ切りで板状圧痕が残る。その他は回転ナデで内面底部はその後ナデ。灰褐色を呈する。16 は底部ヘラ切り後雑なナデ調整。

椀 c（17、18）　17 は復元口径 12.8cm、器高 4.4cm、高台径 7.9cm。全面回転ナデ。18 は復元口径 14.0cm、器高 5.1cm、高台径 8.9cm。外面底部に板状圧痕がある。外面は黒褐色で意図的に塗られている可能性がある。

黒色土器

椀ｃ（19）　復元口径12.0cm、器高4.7cm、復元高台径8.0cm。内面はミガキｃ、外面は回転ナデ。口縁部を僅かに外反させる。Ａ類。

土製品

塼（14）　胎土は0.1cm以下の砂粒を多く含み、淡灰褐色を呈する。各面はヘラケズリ調整。厚さは5.8cm。

瓦類

丸瓦（20）　凸面は陰刻の格子叩きで一部ナデ消す。

257SE245 黒青色土出土遺物（Fig.84）

土師器

皿ａ（21）　底部はヘラ切りで板状圧痕が残る。色調は淡褐茶色を呈する。器高1.1cm。

甕（22）　外面タテハケ、体部内面ヘラケズリ、口縁部内面は回転ナデ。外面は煤が付着する。

瓦類

丸瓦（23）　凸面の中央付近は斜格子叩きでその前後はナデ調整する。色調は灰黒色等を呈する。縦37.0cm、横15.9cm、厚さ2.0cm。

257SE255 黒茶色土出土遺物（Fig.85）

土師器

坏ａ（1）　全体的に磨滅するが、底部はヘラ切りとみられる。色調は淡褐白色を呈する。

257SE255 灰茶色土出土遺物（Fig.85）

土師器

椀（2、3）　２点とも磨滅し調整不明。色調は淡茶褐色を呈する。

椀ｃ（4）　内面にはミガキ痕が確認できる。明茶褐色を呈する。

甕（5）　口縁部を外側に屈曲させる。外面回転ナデ、内面は磨滅。

緑釉陶器

椀（6）　内外面に緑灰色釉を薄く施すが、口縁部は僅かに剥げている。焼成は良好で須恵質。

石製品

石鍋（7）　方形の把手を持つ古いタイプの石鍋である。滑石製。

砥石（8）　使用面が４面で、部分的に研磨時のキズも確認できる。砂岩製。

257SE255 黒色土出土遺物（Fig.85）

土師器

坏ａ（9）　内面は不定方向のナデ、外面底部は板状圧痕が残る。色調は淡白褐色を呈する。

椀（10、11）　10は焼成不良で磨滅する。色調は淡茶褐色を呈する。11は焼成不良で磨滅し、にぶい茶褐色を呈する。

黒色土器

椀ｃ（12）　復元高台径7.8cm。Ａ類。

257SE255 枠内出土遺物（Fig.85）

土師器

椀ｃ（13、14）　13は復元高台径8.0cm。14は内面にミガキ、外面は回転ナデ。復元高台径9.2cm。外面底部にはヘラ記号がある。色調は灰褐色を呈する。

黒色土器

椀ｃ（15）　内面にはミガキｃ、外面は回転ナデ。復元高台径8.0cm。色調はにぶい灰褐色を呈する。

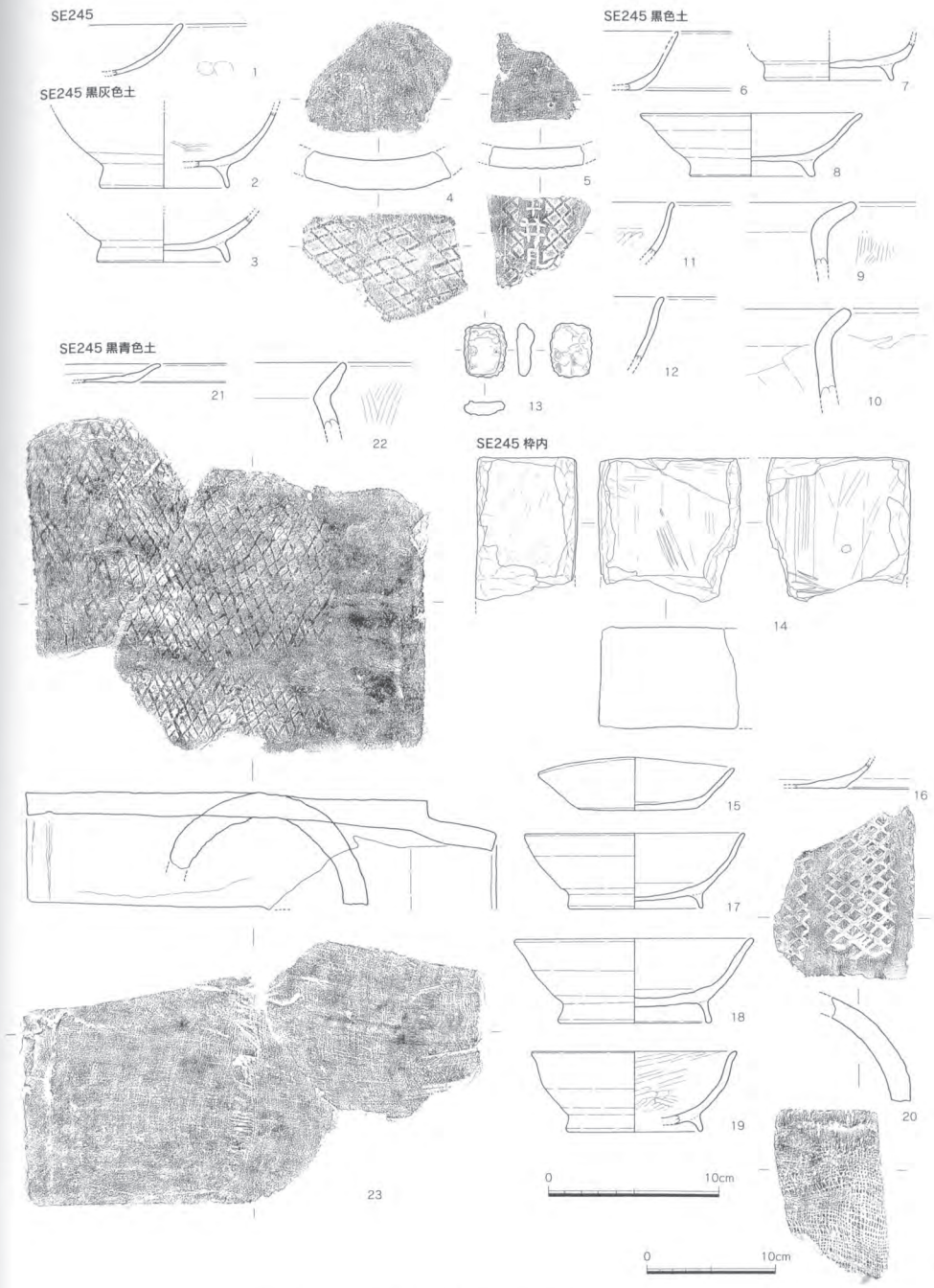


Fig.84　257SE245出土遺物実測図（1/3、瓦は1/4）

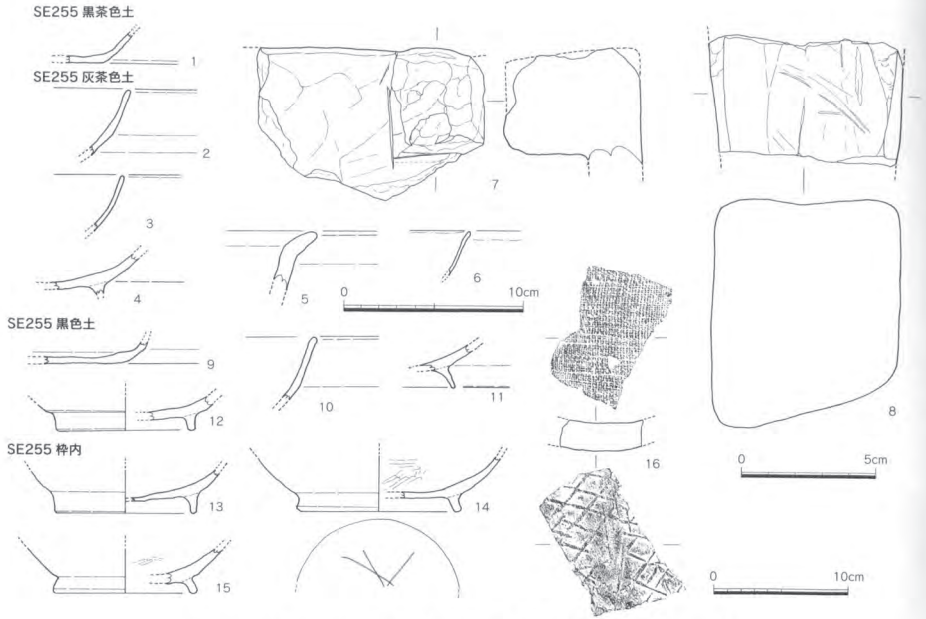


Fig. 85　257SE255 出土遺物実測図（1/3、7・8 は 1/2、16 は 1/4）

A 類。

瓦類

平瓦（16）　格子叩き。

土坑

257SK195 出土遺物（Fig. 86）

須恵器

坏 c（1 ～ 3）　底部端に潰れた高台を貼付する。1 の復元高台径は 8.9cm。

土師器

坏 a（4）　焼成不良で内外面摩滅する。色調は淡茶褐色を呈する。

丸底坏 a（5）　焼成不良で内外面摩滅する。混入か。

甕（6 ～ 9）　体部内面はヘラケズリ、その他は摩滅し調整不明。胎土には僅かに角閃石を含む。

257SK205 黒灰色土出土遺物（Fig. 86）

緑釉陶器

皿×椀（10）　削り出し高台で、胎土は暗灰色で、内外面に薄く緑灰色釉を薄く施すが、殆ど剥げている。内面にはキズもしくはヘラ記号がある。復元高台径 6.6cm。

257SK205 黒色土出土遺物（Fig. 86）

土師器

坏 a ×小皿 a（11）　底部は回転ヘラ切りで、胎土は淡茶灰色を呈する。

小皿 a（12 ～ 15）　底部は回転ヘラ切り。12 は復元口径 10.2cm、器高 1.6cm、復元底径 6.6cm。底部は回転ヘラ切り後ナデ調整。14 の底部切り離しは糸切りである。

脚付鉢（16）　胎土は砂粒を多く含み、橙色がかった乳白色を呈する。内面はナデ調整で、若干滑ら

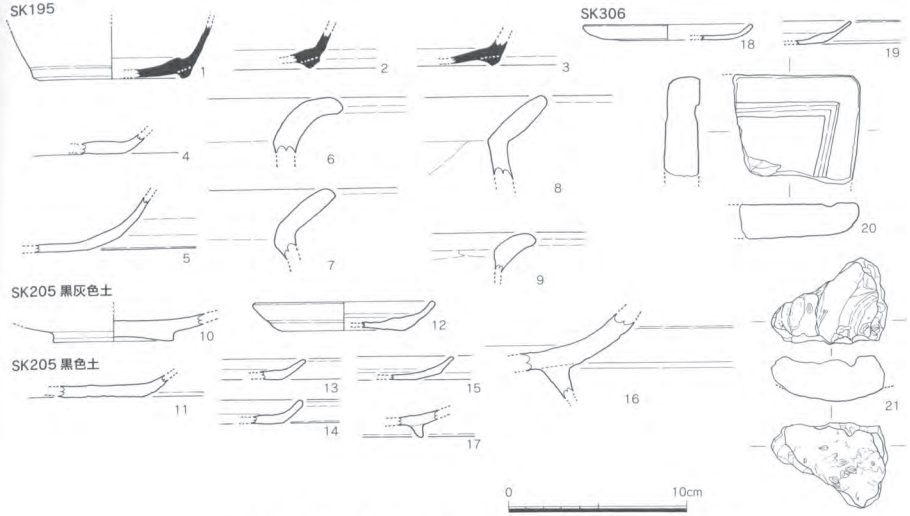


Fig. 86　257SK195・205・306 出土遺物実測図（1/3）

かになっている。外面は回転ヘラケズリで高台付近は回転ナデ調整。

灰釉陶器

椀 c（17）　胎土は淡灰色で、白灰色釉を施釉する。内面は釉を拭き取り、重ね焼き痕が残る。外面は高台と底部が露胎。

257SK306 出土遺物（Fig. 86）

土師器

小皿 a（18、19）　18 は復元口径 9.6cm、器高 0.9cm、復元底径 7.1cm。磨滅し調整不明。19 は焼成不良で磨滅する。

土製品

鋳型（20、21）　20 は幅 0.7 ～ 0.8cm の溝を作っている。胎土は 0.1cm 未満の砂粒が多く、明茶褐色を呈する。21 の胎土はモミ痕が残る。表面は彫り込みがあるが、全形はわからない。部分的に融解している。

畑状遺構に切り込む遺構出土遺物

257SX230 黒灰色土出土遺物（Fig. 87）

土製品

トリベ（1）　内面は融解し灰褐色や灰黄褐色を呈する。

257SX230 黒色土出土遺物（Fig. 87）

土師器

小皿 a（2 ～ 5）　復元口径 9.2 ～ 10.6cm、器高 1.1 ～ 1.6cm、復元底径 6.4 ～ 8.0cm。底部は回転ヘラ切り、内面底部は不定方向のナデ。

丸底坏 a（6）　復元口径 15.0cm。全体的に摩滅する。内面に暗茶褐色の付着物がある。

甕（7）　全体的に摩滅するが、内面はナデ調整のように見える。胎土は 0.5cm 以下の砂粒を多く含み、淡橙色を呈する。

黒色土器

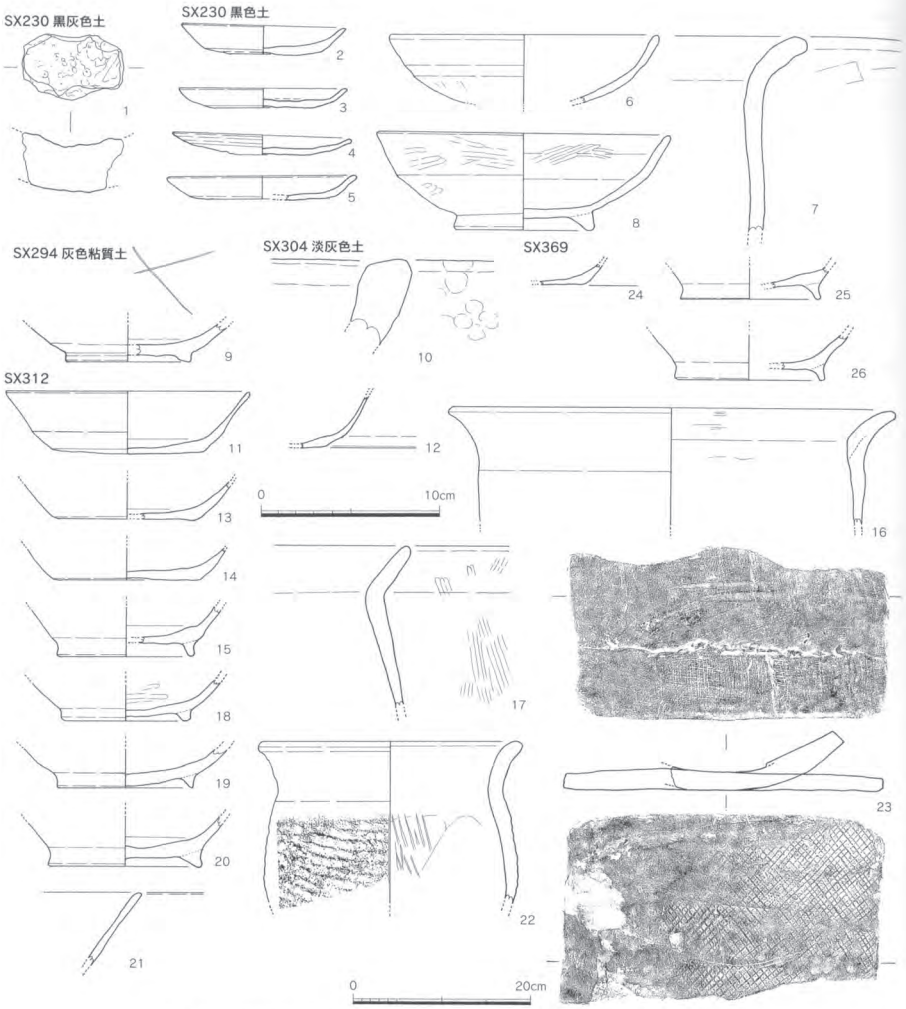


Fig. 87　畑状遺構に切り込む遺構出土遺物実測図（1/3、23 は 1/6）

椀 c（8）　口径 16.4cm、器高 5.4cm、高台径 7.85cm。摩滅が目立つが部分的にミガキ c が残る。B 類。

257SX294 灰色粘質土出土遺物（Fig. 87）

緑釉陶器

椀（9）　高台は削り出しで、復元高台径 7.0cm。胎土は須恵質。釉は白緑色だが殆ど剥落しうっすらと残るのみである。内面には重ね焼き痕とヘラ記号がある。

257SX304 淡灰色土出土遺物（Fig. 87）

土製品

坩堝（10）　全形が掴めにくいが坩堝の可能性が考えられる。胎土は白色砂粒を多く含む。外面は指頭圧痕が残り、内面は須恵質状になって灰色を呈し、ヒビが多く入る。

257SX312 出土遺物（Fig. 87）

土師器

坏 a（11 ～ 14）　全体的に磨滅が目立つ。11 は復元口径 13.6cm、器高 3.5cm、底径 8.5cm。にぶい褐灰色を呈する。

椀 c（15）　復元高台径 7.7cm。磨滅し調整不明。色調はにぶい灰褐色を呈する。

甕（16、17）　16 は復元口径 24.8cm。口縁部内面はヨコハケ。その他は磨滅するが体部内面はヘラケズリ。胎土は 0.1cm 以下の砂粒を多く含む。17 は外面にタテハケが残るが他は磨滅する。

黒色土器

椀 c（18 ～ 20）　全体的に磨滅が目立つ。A 類。18 は方形高台で復元高台径 7.3cm。内面にはミガキ c が残る。19・20 は三角形の高台で、19 は復元高台径 7.6cm。20 は高台径 8.6cm。

椀（21）　直線的な体部で、磨滅するが僅かに内面にミガキが残る。色調は淡茶褐色を呈する。A 類。

製塩土器

甕（22）　復元口径 14.7cm。体部内面はナデ後にタテハケ、外面は叩き痕。胎土は 0.2cm 以下の砂粒を多く含む。焼成不良で暗赤褐色を呈する。

瓦類

平瓦（23）　格子叩きで半分ほどナデ消している。凹面では粘土のつなぎ痕が確認できる。縦 35.2cm。

257SX369 出土遺物（Fig. 87）

土師器

坏 a（24）　内外面磨滅する。色調はやや暗い茶褐色を呈する。

椀 c（25、26）　共に底部端に高台を貼付する。内外面とも磨滅し調整不明で、色調は淡灰白色や淡褐茶色を呈する。復元高台径は 25 が 7.8cm、26 が 8.4cm。

257SX380（畑状遺構）出土遺物

257SD215 出土遺物（Fig. 88）

土師器

椀（1）　体部は丸く立ち上がり、端部を僅かに外反させる。色調は淡橙色を呈する。

越州窯系青磁

椀（2）　釉が全て剥落し、内外面回転ナデが確認できる。胎土は精製され白灰色を呈する。I 類。

257SD225 出土遺物（Fig. 88）

須恵器

皿 a（3）　復元底径 10.8cm。外面底部は回転ヘラ切り後軽いナデで、板状圧痕が残る。

坏 c（4、5）　4 は底部端に高台を貼付する。復元高台径 9.9cm。淡灰色を呈する。5 は暗青灰色を呈する。

小鉢（6）　復元口径 10.7cm。外面下半はケズリ、その他は回転ナデ、口縁部は自然釉が付着する。

壺（7）　復元底径 11.3cm。胎土は茶色粒をやや多く含む。外面は回転ヘラケズリ、色調は内面がにぶい橙色で、外面は暗灰色を呈する。

土師器

甕（8）　体部内面ヘラケズリ、外面はタテハケ。胎土は 0.5cm 以下の砂粒を多く含む。

黒色土器

椀 c（9）　高台径 8.2cm。胎土はにぶい橙色を呈する。内面は黒色化するが摩滅し、調整不明。A 類。

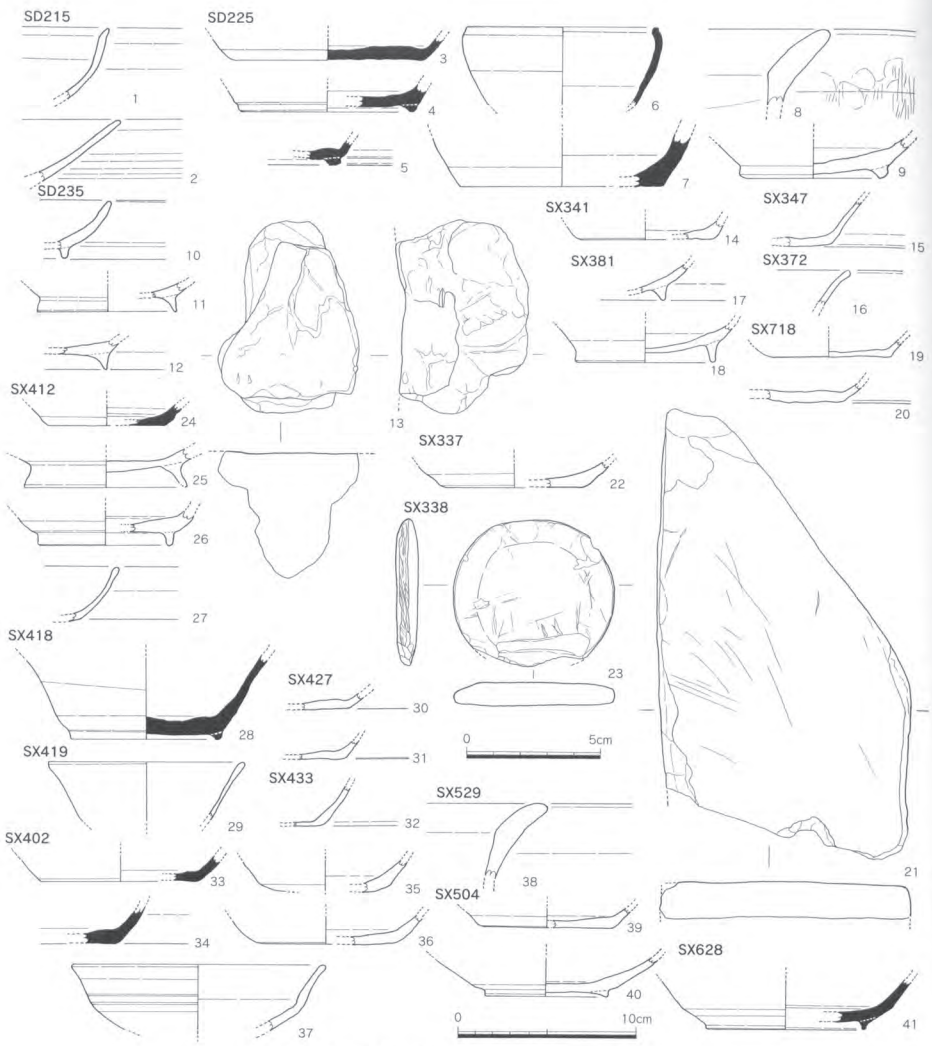


Fig. 88　畑状遺構出土遺物実測図（1/3、石製品は1/2）

257SD235 出土遺物（Fig. 88）

土師器

椀 c（10～12）　10は器高3.3cm。11・12とも細い高台を貼付する。11は復元高台径7.8cm。

土製品

土壁（13）　表面に生きている平坦面があり、断面に骨組みのような痕跡がある。胎土は淡橙白色でスサや砂粒を含んでいる。

257SX337 出土遺物（Fig. 88）

土師器

坏 a（22）　復元底径8.4cm。胎土は白色砂粒や雲母を含み、色調は茶褐色を呈する。

257SX338 出土遺物（Fig. 88）

石製品

円盤状石製品（23）　一部欠損する。径6.0cm、厚さ0.85cm。両面平坦で片面の端部をやや斜めに面取りしている。全面研磨する。

257SX341 出土遺物（Fig. 88）

土師器

坏 a（14）　復元底径7.7cm。板状圧痕が残るが全体的に磨滅する。淡茶灰色を呈する。

257SX347 出土遺物（Fig. 88）

土師器

坏 a（15）　焼成不良で全面磨滅する。色調は茶褐色を呈する。

257SX372 出土遺物（Fig. 88）

緑釉陶器

椀（16）　胎土は土師質で、外面に僅かに淡緑黄色釉を薄く施す。

257SX381 出土遺物（Fig. 88）

土師器

椀 c（17、18）　17は全面磨滅。色調はにぶい褐茶色を呈する。18は復元高台径7.8cm。内外面磨滅する。淡白褐色を呈する。

257SX402 出土遺物（Fig. 88）

須恵器

坏 a（33、34）　底部は回転ヘラ切り後ナデ、その他は回転ナデ。33は復元底径8.6cm、色調は青灰色を呈する。34の色調はやや暗い灰色を呈する。

土師器

坏 a（35、36）　共に磨滅する。35はやや丸い底部で復元底径7.2cm。黄茶灰色を呈する。36は復元底径7.6cm。色調は橙褐色や暗茶灰色を呈する。

緑釉陶器

椀（37）　体部中位で屈曲させ、若干外反させ口縁部に至る。体部下半は回転ヘラケズリで、体部中位には浅い沈線が巡る。胎土は淡茶灰色で、内外面とも白濁した緑色釉を施す。復元口径14.2cm。京都産。

257SX412 出土遺物（Fig. 88）

須恵器

坏 a（24）　復元底径6.4cm。焼成良好で青灰色を呈する。

土師器

椀 c（25、26）　25は復元高台径9.1cm。色調は淡黄褐色を呈する。26は小さく方形の高台で、復元高台径7.5cm。色調は茶褐色を呈する。

椀（27）　焼成不良で内外面磨滅する。色調は白橙色を呈する。

257SX418 出土遺物（Fig. 88）

須恵器

坏 c（28）　底部端に低い高台を貼付し、高台径8.5cm。体部内外面は回転ナデ、内面底部は不定方向のナデ、外面は回転ヘラ切り後ナデ調整。色調は青灰色を呈する。

257SX419 出土遺物（Fig. 88）

土師器

小坏×小椀（29）　復元口径 11.0cm。ほぼ直線的な体部を持つ。色調は茶灰色を呈する。

257SX427 出土遺物（Fig. 88）

土師器

坏 a（30、31）　2 点とも焼成不良で磨滅し調整不明。色調は茶褐色を呈する。

257SX433 出土遺物（Fig. 88）

土師器

坏 a（32）　焼成不良で磨滅し調整不明。色調は淡茶褐色を呈する。

257SX504 出土遺物（Fig. 88）

土師器

坏 a（39）　復元底径 7.4cm。内外面磨滅する。色調は淡橙色や白灰色を呈する。

坏 c（40）　体部はかなりの外開きで、低い三角形の高台を貼付する。復元高台径 6.6cm。胎土は精製され、淡橙色を呈する。焼成不良で磨滅し調整不明。

257SX529 出土遺物（Fig. 88）

土師器

甕（38）　焼成不良で磨滅し調整不明。胎土は 0.2cm 以下の砂粒を含み淡橙色を呈する。

257SX628 出土遺物（Fig. 88）

須恵器

坏 c（41）　若干丸い底部に細くて貧弱な高台を貼付する。復元高台径 9.0cm。内外面回転ナデで、底部内面はその後ナデ調整。色調は青灰色を呈する。

257SD718 出土遺物（Fig. 88）

土師器

小皿 a（19）　底径 6.9cm。底部はヘラ切り。色調は明茶褐色を呈する。

坏 a（20）　焼成不良で磨滅する。色調は暗茶褐色を呈する。

石製品

砥石（21）　使用面は 1 面で研磨傷も残る。欠損するが、一部径 1.3cm 程の穿孔がある。

第 2 面その他の遺構出土遺物（Fig. 89）

緑釉陶器

椀 c（1）　胎土は淡白灰色の土師質で、内外面には黄緑白色釉を施すが、殆んど剥落している。S-406 より出土。

水注×壺（2）　復元口径 5.0cm。胎土は土師質で内外面に明緑色釉を薄く施すが、外面はやや剥落する。内面は良好に残る。S-428 より出土。

長沙窯系青磁

水注（3、4）　3 は耳部とその付け根部分で、暗茶黒色釉が施される。内面は回転ナデ。S-667 より出土。4 は高台径 15.2cm。胎土は黄褐灰色で底部外面は雑なナデ、内面は回転ナデ後一方向のナデ、体部外面は回転ナデ調整。S-497 黒灰色粘土より出土。

須恵器

坏身（5）　復元口径 12.0cm、器高 3.8cm。口縁端部内面がごく僅かに凹んでいる。外面底部は回転ヘラケズリ。焼成良好で青灰色を呈する。SX372 より出土。

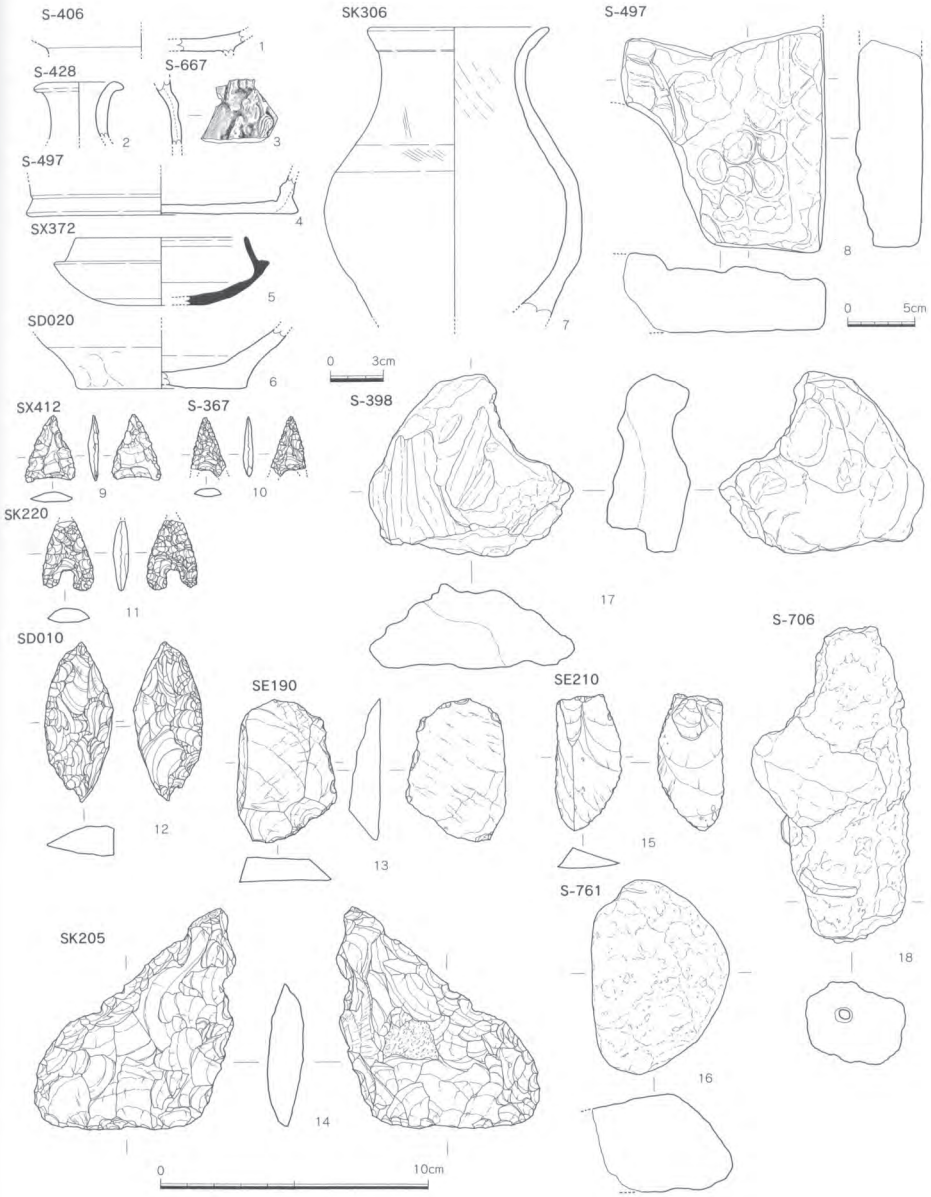


Fig. 89　第 257 次調査 2 面その他の遺構出土遺物実測図（1/3、8 は 1/4、石製品は 1/2）

弥生土器

甕（6） 復元底部径9.6cm。胎土は0.2cm前後の白色砂粒を多く含む。色調は白黄橙色を呈する。弥生後期。SD020より出土。

壺（7） 復元口径10.2cm。口縁部は僅かに肥厚させている。全体的に磨滅するが、内面はナデ調整。胎土は精製され、色調は淡黄褐色を呈する。SK306より出土。

瓦類

鬼瓦（8） 鬼瓦の右下部分で、焼成は不良で白灰色を呈し、表面の剥落が目立つ。縁辺部分には三角形の鋸歯文が確認できる。S-497より出土。

石製品

石鏃（9～11） 9は縦2.5cm、横1.8cm、厚さ0.35cm。安山岩製。SX412より出土。10は基部を欠損する。現存長2.2cm、厚さ0.35cm。黒曜石製。S-367より出土。11は先端を欠損し、現存長2.6cm、幅1.9cm、厚さ0.55cm。黒曜石製。SK220暗灰色粘土より出土。

ナイフ形石器（12） 縦6.0cm、横2.5cm、厚さ1.0cm。押圧剥離によって刃部を作り出している。黒曜石製。

削器（13、14） 13は縦5.4cm、幅3.45cm、厚さ0.85cm。刃部端を細かく加工している。安山岩製。SE190より出土。14は縦8.3cm、横6.9cm、厚さ1.3cm。内外面に細かく押圧剥離を施す。一部自然面が残る。安山岩製。SK205黒灰色土より出土。

剥片（15） 縦5.1cm、横2.4cm、厚さ0.8cm。安山岩製。SE210明灰色粘土より出土。

軽石（16） 大きさは7.3×5.2×3.7cm。特に加工はない。S-761より出土。

土製品

不明土製品（17） 胎土は0.2cm以下の砂粒を含み、淡橙色を呈するが、部分的に須恵質で淡灰色を呈する。表裏ともナデ痕や指頭圧痕が残る。S-398より出土。

高師小僧（18） 中心に径1cmほどの鉄分のような部分があり、その周囲に花崗岩石や土師器破片を含む暗茶褐色土が棒状を成している。これは植物の根などに鉄分などが吸着してできた自然物である。これ以外に2個この調査地で出土している。縦17.4cm、幅4.6～8.9cm。S-706より出土。

○第2面基盤層

灰色土出土遺物（Fig.90）

須恵器

蓋3（1） 口縁端部を僅かに摘み三角形状に作り出す。外面は回転ヘラケズリで端部近くが回転ナデ。内面の上半部はナデ、それ以外は回転ナデ。色調は淡灰茶色を呈する。

坏a（2） 外面底部はヘラ切り後ナデ調整。その他は回転ナデ。色調は淡灰色を呈する。

坏c（3、4） 3は底部端に潰れて平らな高台を貼付する。焼成不良で白灰色を呈する。復元高台径8.3cm。4は高い方形高台を貼付する。色調は淡灰色を呈する。

高坏（5） 脚部端部の破片で、内外面回転ナデ。

鉢（6） 内外面回転ナデで、色調は青灰色を呈する。

土師器

小皿c×椀c（7） 細い高台を貼付する。内外面磨滅し調整不明。淡茶褐色を呈する。

椀c（8） 方形高台を貼付する。内外面磨滅し、色調は濃い橙色を呈する。

甕（9） 外面タテハケ、体部内面はヘラケズリ。胎土は0.1cm以下の砂粒を多く含む。

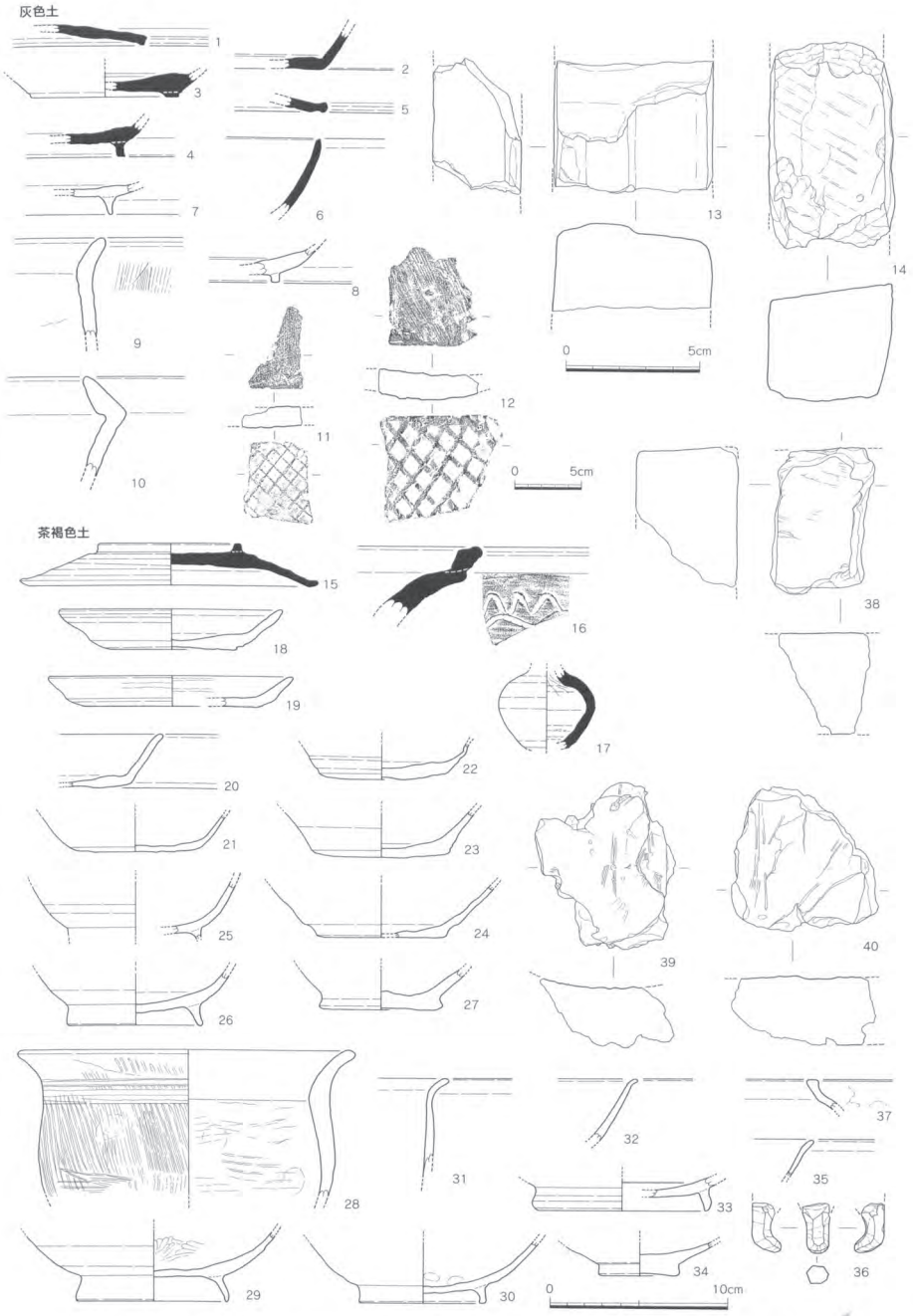


Fig.90 第257次調査2面基盤層出土遺物実測図①（1/3、石製品は1/2、瓦は1/4）

弥生土器

壺（10） 複合口縁壺の口縁部。焼成不良で全面磨滅する。色調は乳茶褐色を呈する。

瓦類

平瓦（11、12） 11は正格子叩き。灰茶褐色を呈する。12はやや太い格子叩きを施す。外面は淡乳白色を呈する。

石製品

砥石（13、14） 13は方形状の砥石で、全面がきれいであるが、研磨は明瞭ではない。14は3面使用され、一部敲打痕がみられる。砂岩製。

茶褐色土出土遺物（Fig. 90）

須恵器

蓋b4（15） 輪状つまみ径8.2cm、復元口径17.0cm、器高2.35cm。外面上部は回転ヘラ切り後粗いナデ。内面は回転ナデで、上部はその後不定方向のナデ。砂粒を若干多く含み、色調は暗灰色や灰色を呈する。

大甕（16） 二重口縁の口縁端部で、回転ナデ後頸部外面には波状文を施す。

小壺（17） 内外面回転ナデ。焼成は良好でやや暗い青灰色を呈する。体部最大径5.4cm。

土師器

皿a（18、19） 18は口径12.75cm、器高2.3cm、底径7.7cm。底部外面は回転ヘラ切りで、色調は暗灰色や淡灰橙色を呈する。19は復元口径14.0cm。

坏a（20～24） 20の外面底部は回転ヘラ切り後粗いナデ調整。色調は淡褐灰色を呈す。21は復元底径7.4cm。色調は淡橙白色を呈する。22は底径7.2cm。底部は回転ヘラ切りで、色調は淡橙白色を呈する。23は復元底径7.8cm。外面底部はヘラ切り後粗いナデで板状圧痕が残る。色調は淡橙白色を呈する。24は復元底径7.4cm。色調は淡橙白色を呈する。

椀c（25、26） 25は丸い体部で内面はミガキがあったように見える。26は高台径7.8cm。磨滅するが内外面にミガキのような痕跡を残す。

甕（27、28） 27は高台が円盤高台状をなす。焼成不良で調整不明。色調は淡灰褐色や淡橙色を呈する。28は復元口径19.4cm。外面はタテハケで煤が付着。体部内面はヨコハケ後粗いナデ調整。

黒色土器

椀c（29、30） 29は復元高台径8.8cm。外面下半は回転ヘラケズリ後粗いナデ、内面はミガキc。A類。30は高台径7.1cm。外面は回転ナデ、内面は磨滅するがミガキが僅かに残る。A類。

甕（31） 直線的な体部で外面には煤が付着する。胎土は精製されている。A類。

灰釉陶器

椀（32、33） 32の内面は淡灰緑色釉を施し、外面は回転ナデで露胎。33は復元高台径9.8cm。内面底部には沈線が巡り、淡緑灰色釉が僅かに残る。外面は露胎。

緑釉陶器

皿×椀（34） 高台は削り出しの円形高台で、高台径4.5cm。底部は糸切り。釉は緑がかった淡灰色釉を施すが、高台外面は露胎。洛西産。

椀（35） 胎土は焼成良好の土師質で、内外面とも光沢のある緑色釉を施す。

脚（36） 脚部のみで、ヘラケズリで6面を作り出している。胎土は精製された乳白色で、全面淡い緑色釉を施している。

中国陶器

壺（37） 内外面に暗茶褐色釉が薄く施され、一部白色釉が垂れる。内面には黒緑色釉がまだらに厚く施されている。口縁端部上面は釉がなくなっている。胎土は淡茶色を呈す。

土製品

塼（38） 欠損するが厚さ5.7cm。胎土は0.2cm以下の砂粒を含み淡灰橙色を呈する。

土壁（39、40） 39の胎土は0.5cm以下の砂粒を多く含み、スサ痕も多くみられる。面をなしている方には煤が付着する。40の胎土は0.3cm以下の砂粒を多く含み、角閃石も少量含む。スサ痕も明瞭に残る。色調は淡灰黄褐色を呈する。

黒茶色土出土遺物（Fig. 91）

須恵器

蓋c3（41、42） 内面上半部はナデ調整、内外下半は回転ナデ。41は復元口径14.4cm、器高1.9cm。ツマミはかなり潰れている。外面上半部は回転ヘラケズリ後未調整、42は外面上半部は回転ヘラケズリ後回転ナデ。

蓋3（43～45） 43は端部を僅かにつまみ曲げている。44の外面上半部は回転ヘラケズリ、内面上半部は不定方向のナデ、その他は回転ナデ。色調は茶灰色を呈する。45は口縁端部内面に僅かに沈線状になる。内外面は回転ナデ。

坏c（46） 還元不良で灰白色を呈する。

壺（47） 内面は当て具痕が残り、底部はナデ調整し指頭圧痕が残る。外面中位は叩きの後回転ナデ、体部下半は回転ヘラケズリ。外面底部は回転ヘラケズリ後ナデ調整。復元底径9.8cm。

土師器

皿a（48） 器高1.4cm。内外面回転ナデ。色調は淡橙褐色を呈する。

坏a（49～51） 49は復元口径12.8cm、器高3.3cm、復元底径6.4cm。底部外面は回転ヘラ切り、その他は磨滅するが回転ナデ。色調は橙茶褐色を呈する。50は全面磨滅する。色調は乳茶褐色を呈する。51は丸味のある体部で、底部外面は板状圧痕が残る。色調は淡乳茶灰色を呈する。

坏c（52） 底部と体部の境に三角形高台を貼付する。色調は淡橙茶褐色を呈する。

甕（53） 体部外面はタテハケ、内面ケズリ、口縁部外面ヨコナデ、内面ヨコハケを施す。淡橙茶褐色を呈する。

黒色土器

椀c（54） 復元高台径8.0cm。胎土は淡橙色を呈する。内面ミガキcだが磨滅する。A類。

緑釉陶器

脚（55） 断面六角形に面取り成形している。胎土は土師質で全面に光沢のある淡乳白色や淡灰色釉を施す。

古式土師器

高坏（56） 直線的に広がる坏部で、復元口径22.4cm。内外面回転ナデだが磨滅する。脚部は僅かに残り、中空である。胎土は粗く茶褐色や灰褐色を呈する。

黒灰色土出土遺物（Fig. 91）

須恵器

皿a（57、58） 底部外面がヘラ切りの後ナデ。板状圧痕も残る。内面底部は一方向のナデ。その他は回転ナデ。57は復元口径18.5cm、器高2.2cm、復元底径14.6cm。色調は灰白色を呈す。58は復元口径17.6cm、器高2.05cm、復元底径13.7cm。色調は淡灰色を呈す。

坏a（59） 復元口径12.6cm、器高2.6cm、復元底径7.0cm。外面底部はヘラ切り後ナデ。その他は回

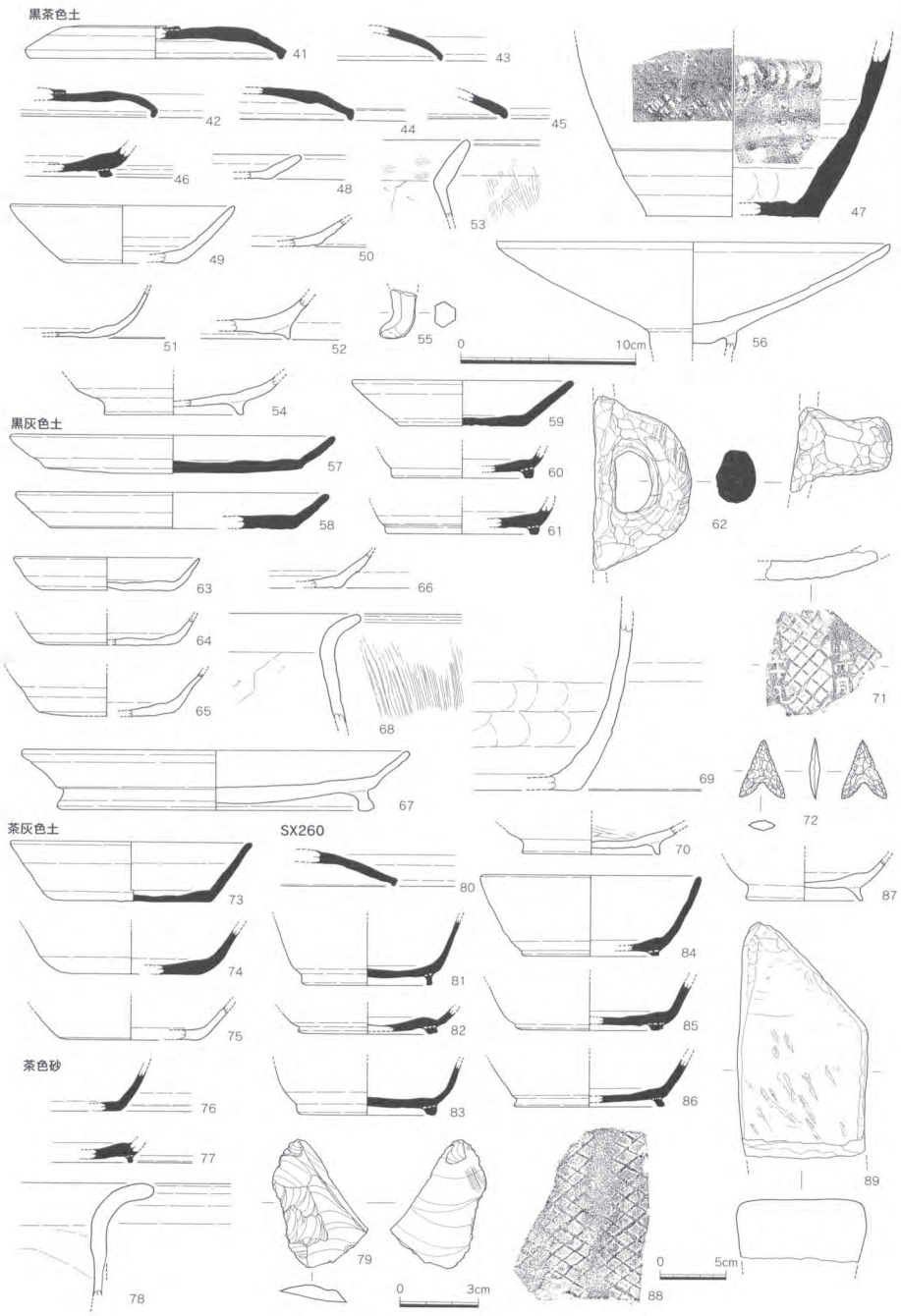


Fig. 91　第 257 次調査 2 面基盤層出土遺物実測図②（1/3、石製品は 1/2、瓦は 1/4）

転ナデ。色調は淡灰色を呈する。

坏 c（60、61）　底部端に方形の高台を貼付する。底部外面に回転ヘラ切り後ナデ調整。色調は灰色を呈する。60 は復元高台径 8.1cm。61 は復元高台径 8.6cm。

把手（62）　甕か鉢の把手とみられ、手捏ね成形され、指頭圧痕や工具痕が残る。体部内面は当て具痕をナデ消している。胎土は 0.3cm 以下の砂粒を含み、淡灰色を呈する。

土師器

坏 a（63 ～ 66）　底部切り離しは回転ヘラ切り。63 は復元口径 10.6cm、器高 1.9cm、復元底径 7.4cm。色調は淡乳茶灰色を呈する。64 は復元底径 8.0cm、色調は白橙色を呈する。65 はやや丸い底部で、復元底径 7.16cm。色調は白灰色や黒灰色を呈する。66 の色調は淡乳茶褐色を呈する。

大皿 c（67）　復元口径 22.0cm、器高 3.45cm、復元高台径 17.4cm。全体的に磨滅するが、回転ナデ調整で、底部外面が回転ヘラ切り後ナデ。色調は橙褐色を呈する。

甕（68）　体部外面はタテハケ後一部ヨコナデ、内面はケズリ。口縁部はヨコナデ。

鉢（69）　内面は指頭圧痕が残り、外面はヨコナデ、底部外面はナデ調整する。胎土は 0.2cm 以下の砂粒を含み、橙褐色や灰褐色を呈する。

黒色土器

椀 c（70）　復元高台径 7.7cm。内面にミガキ c が残る。A 類。

瓦類

平瓦（71）　凹面は布目で、凸面は格子叩きに「平井瓦」の文字瓦。還元不良で淡茶灰色を呈する。

石製品

石鏃（72）　縦 2.25cm、横 1.7cm、厚さ 0.4cm。安山岩製。

茶灰色土出土遺物（Fig. 91）

須恵器

坏 a（73、74）　73 は復元口径 13.7cm、器高 3.4cm、底径 9.0cm。底部の回転ヘラ切り痕が明瞭に残る。板状圧痕が残る色調は灰色や茶灰色を呈する。74 はやや丸みのある体部で復元底径 8.1cm。色調は淡灰色を呈する。

土師器

坏 a（75）　焼成不良で全体的に磨滅し灰色を呈する。復元底部径 4.1cm。

茶色砂出土遺物（Fig. 91）

須恵器

坏 a（76）　底部ヘラ切りで、体部内外面は回転ナデ。

坏 c（77）　底部端に小さい高台を貼付する。焼成良好で淡灰色を呈する。

土師器

甕（78）　摩滅が目立ち、体部外面も剥落する。体部内面はヘラケズリ。胎土は角閃石を多く含み、色調は橙色を呈する。

石製品

剥片（79）　大きさは 4.85 × 3.6cm、厚さ 0.5cm。黒曜石製。

257SX260 出土遺物（Fig. 91）

須恵器

蓋 3（80）　外面上部は回転ヘラケズリ、その他は回転ナデ。色調は青灰色を呈する。

坏 c（81 ～ 86）　全体的に貧弱で不定形な高台を貼付する。内面は回転ナデ後ナデ調整。復元高台径

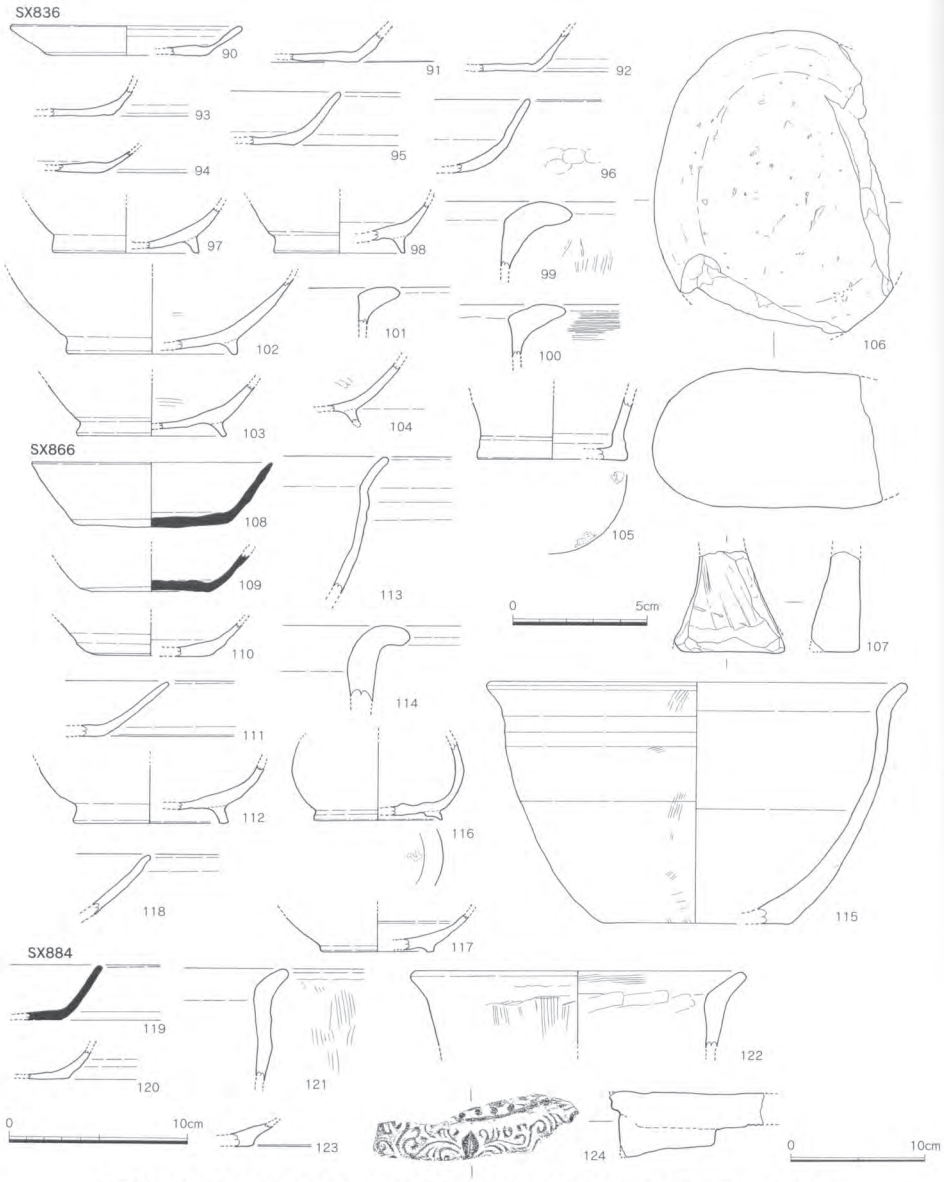


Fig. 92　第 257 次調査 2 面基盤層出土遺物実測図③（1/3、106・107 は 1/2、124 は 1/4）

7.4 ～ 8.5cm。色調は青灰色を呈する。84 は復元口径 12.6cm。

土師器

椀 c（87）　高台径 6.6cm。焼成不良で全面磨滅し、色調は茶褐色を呈する。

瓦類

平瓦（88）　格子叩きで一部ナデ消す。焼成は不良で土師質。側面断面は半分まで分割線を入れ、切断し未調整。

石製品

砥石（89）　4 面が使用されている。砂岩製。

257SX836 出土遺物（Fig. 92）

土師器

皿 a（90）　復元口径 13.0cm、器高 1.7cm、復元底径 9.4cm。焼成不良で調整不明。

坏 a（91 ～ 95）　底部ヘラ切りで、色調は褐灰色や淡褐茶色を呈する。

丸椀 a（96）　外面下半に指頭圧痕が残る。

椀 c（97、98）　内外面磨滅する。97 は丸い体部で復元高台径 8.2cm、外面底部には板状圧痕が残る。98 は復元高台径 7.3cm、暗褐灰色を呈する。

甕（99 ～ 101）　体部内面はヘラケズリ。99 は体部外面タテハケ。100 は口縁部外面に強いヨコナデとヨコハケで煤が付着する。101 は全面磨滅する。

黒色土器

椀 c（102 ～ 104）　外面回転ナデだが磨滅も目立つ。内面に僅かにミガキが残る。A 類。102 は復元高台径 9.6cm。103 は復元高台径 8.4cm。

越州窯系青磁

水注（105）　底部で、内面回転ナデで露胎。外面はにぶい緑灰色釉を薄く施す。底部外面は施釉後目跡と共に雑に掻き取っている。復元底径 8.4cm。

石製品

敲石（106）　丸い河原石を利用したものとみられる。

砥石（107）　研磨面には傷も残る。

257SX866 出土遺物（Fig. 92）

須恵器

坏 a（108、109）　108 は復元口径 13.4cm、器高 3.6cm、底径 9.1cm。109 は復元底径 9.1cm。底部外面はヘラ切り後雑なナデ。

土師器

坏 a（110、111）　110 は内外面磨滅するが、底部はヘラ切り。色調は淡白褐色を呈する。復元底径 7.1cm。111 は全面磨滅する。色調は淡白褐色を呈する。

椀 c（112）　がっちりとした高台で、復元高台径 8.7cm。

甕（113 ～ 115）　113 は内面磨滅し、外面は回転ナデで口縁部下付近は強いヨコナデ。色調は明茶褐色を呈する。114 は全面磨滅。115 は復元口径 23.4cm、器高 13.5cm、復元底径 10.4cm。内外面磨滅するが外面には僅かにハケ目が残る。胎土は 0.1cm 以下の砂粒を多く含み、色調は明茶褐色を呈する。

緑釉陶器

小壺（116）　内外面とも緑灰色の透明釉を施す。胎土は焼成良好で須恵質。復元高台径は 7.1cm。高台内面には目跡が残る。

椀 c（117）　体部内外面にはにぶい緑灰色釉が薄く施釉される。底部は削り出し高台で露胎。胎土は焼成良好で須恵質である。

椀（118）　胎土は淡白灰色の土師質である。内外面磨滅するが、外面にはにぶい緑褐色釉が点々と残る。

257SX884 出土遺物（Fig. 92）

須恵器

坏 a（119） 底部はヘラ切りで、内外面回転ナデ調整。色調は灰青色を呈する。

土師器

坏 a（120） 内外面磨滅し調整不明。色調は淡茶褐色を呈する。

甕（121、122） 121 は外面タテハケ、内面はヘラケズリ。122 は復元口径 18.8cm。外面タテハケで煤が付着する。口縁部内面はヨコハケ。

緑釉陶器

椀×皿（123） 胎土は土師質で内外面に緑灰色釉を薄く施すが僅かに残るだけである。

瓦類

軒平瓦（124） 瓦当面は中央飾が有軸木葉状文で、それを中心に均整唐草文である。外区には珠文を巡らす。凹面には細かい格子叩きを施す。

○第 3 面

掘立柱建物

257SB295

257SB295k 柱痕出土遺物（Fig. 93）

須恵器

坏（1） 内外面回転ナデ、焼成良好で淡白灰色を呈する。

257SB295i 掘方出土遺物（Fig. 93）

土師器

坏 c（2） 焼成不良で全体が磨滅する。低い高台が貼付される。色調は明茶褐色を呈する。復元高台径 9.4cm。

257SB300

257SB300 ②掘方出土遺物（Fig. 93）

須恵器

蓋 2（3） 復元口径 12.0cm 器高 1.5cm。口縁部を細く長く曲げている。外面上半部は平坦で回転ヘラ切り後未調整。その他は回転ナデで内面は一部ナデ。色調は青灰色で一部自然釉で白色を呈する。

257SB300 ⑦出土遺物（Fig. 93）

木製品

礎板（19） 長さ 27.6cm、幅 14.9cm、厚さ 8.2cm。断面三角形状に加工されている。

257SB300 ⑭出土遺物（Fig. 93）

土師器

坏 a ×甕（4） 底部の破片で内外面磨滅する。胎土は 0.1cm 以下の砂粒を含み、色調は白橙色や白灰色を呈する。

257SB300 ⑰出土遺物（Fig. 93）

須恵器

坏（5） 内外面回転ナデ調整。色調は淡灰色を呈する。

257SB300 ㉔出土遺物（Fig. 93）

木製品

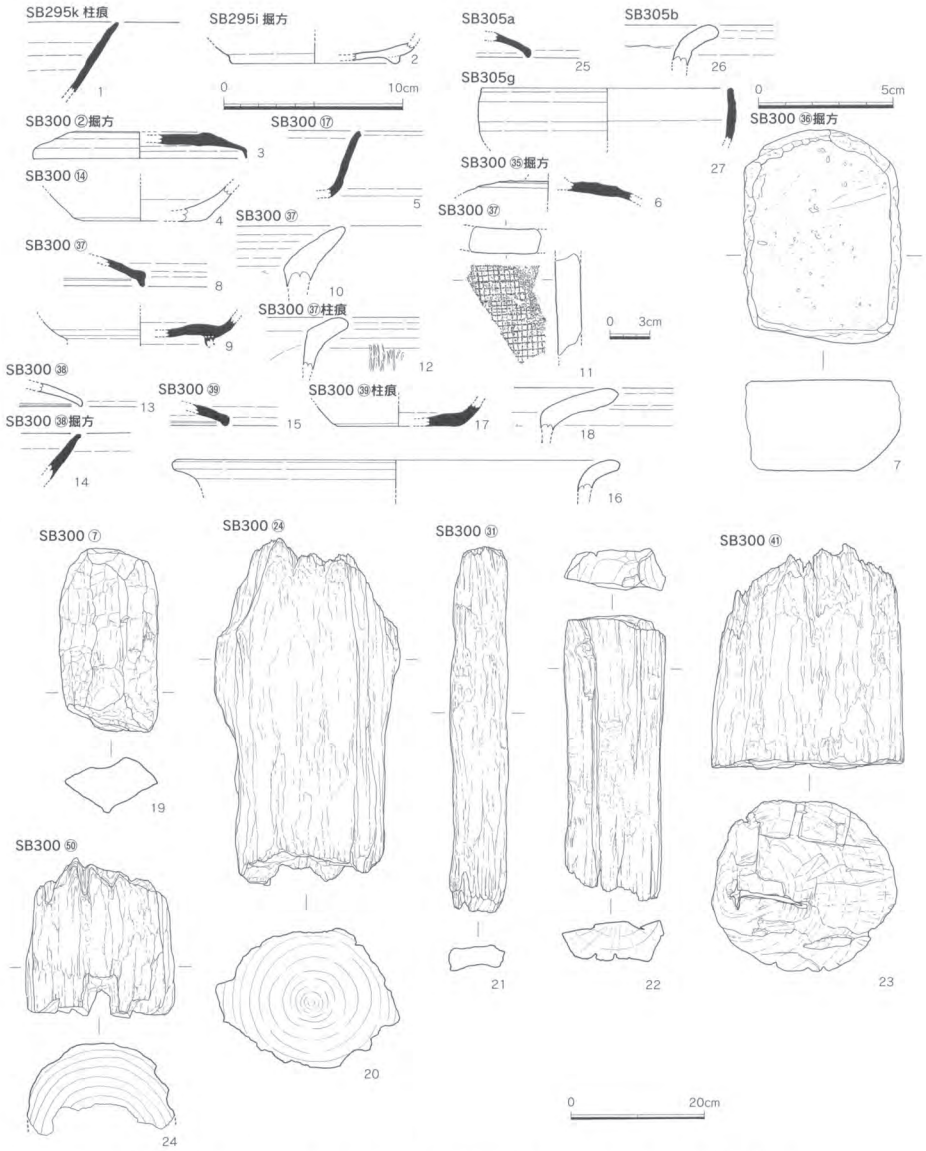


Fig. 93 257SB295・300・305 出土遺物実測図（1/3、7 は 1/2、19 ～ 24 は 1/8）

柱（20） 長さ 51.6cm、径 20.8 ～ 27.7cm。表面は凹凸が目立っているため、当初の大きさより痩せていると考えられる。

257SB300 ㉛出土遺物（Fig. 93）

木製品

礎板（21、22） 21は長さ54.7cm、幅8.4cm、厚さ3.4cm。若干加工痕跡が残る。22は長さ12.7cm、幅15.2cm、厚さ5.7cm。側面部には表皮の近い部分が残っている。

257SB300㉟掘方出土遺物（Fig.93）

須恵器

蓋c（6） 蓋の上半部とみられ、外面はヘラ切り、内面は不定方向のナデ調整。色調は暗灰色を呈する。

257SB300㊱掘方出土遺物（Fig.93）

石製品

砥石（7） 大きさは8.0×5.9cm。厚さは3.4cm。表裏2面を使用している。

257SB300㊲出土遺物（Fig.93）

須恵器

蓋3（8） 端部を明瞭に三角形に作り出す。内外面回転ナデ。色調は灰色を呈する。

坏c（9） 高台は端部を欠損するが、方形で若干貧弱な高台である。色調は灰色を呈する。外面底部はナデ、その他は回転ナデで内面底部がその後ナデ調整。

土師器

甕（10） 体部内面はヘラケズリ、口縁部内面はヨコナデ。胎土は0.2cm以下の砂粒を多く含み、暗茶色や暗茶灰色を呈する。

瓦類

平瓦（11） 凸面は小さな格子叩き。凹面は布目とみられるが磨滅が目立つ。

257SB300㊲柱痕出土遺物（Fig.93）

土師器

甕（12） 口縁部はヨコナデ、体部内面はヘラケズリ、外面はタテハケ。胎土は0.2cm以下の砂粒や雲母を含む。色調は淡橙色を呈する。

257SB300㊳出土遺物（Fig.93）

土師器

蓋3（13） 口縁端部を僅かに摘まみ出す。外面は回転ナデ調整。色調は黄褐色を呈す。

257SB300㊳掘方出土遺物（Fig.93）

須恵器

坏（14） 口縁部で内外面とも回転ナデ。色調は淡灰色を呈する。

257SB300㊴出土遺物（Fig.93）

須恵器

蓋3（15） 口縁端部が僅かに断面三角形を成す。還元不良で白灰褐色を呈す。内外面回転ナデ調整。

土師器

甕（16） 丸味のある口縁部で、復元口径25.0cm。胎土は角閃石を多く含み粗い。磨滅し調整不明。

257SB300㊴柱痕出土遺物（Fig.93）

須恵器

坏a（17） 復元底径7.2cm。回転ナデの後内面はナデ調整。色調は灰色を呈する。

土師器

甕（18） 焼成不良で調整不明だが、体部内面はヘラケズリ。

257SB300㊶出土遺物（Fig.93）

木製品

柱（23） 長さ33.8cm、径25.6～28.9cm。小口部分は伐採もしくは加工処理した際の粗いケズリ痕が明瞭に残っている。

257SB300㊿出土遺物（Fig.93）

木製品

柱（24） 半分ほど残存していて、長さ23.6cm、径22.2cm、厚さ8.2cm。底部近くには方形状にホゾ加工しているようにみえる。

257SB305a出土遺物（Fig.93）

須恵器

蓋3（25） 内外面回転ナデ。色調は淡い茶灰色を呈する。

257SB305b出土遺物（Fig.93）

土師器

甕（26） 胎土は角閃石を多く含む。内外面ヨコナデ調整。

257SB305g出土遺物（Fig.93）

須恵器

鉢（27） 復元口径14.1cm。胎土は白色砂粒を多く含み灰色を呈する。内外面回転ナデ。

溝

257SD275灰茶色土出土遺物（Fig.94）

須恵器

蓋3（1～3） 内外面回転ナデ。色調は青灰色を呈する。1の外面は灰かぶり。2の外面上半部は回転ヘラケズリ。

土師器

椀c（4） 復元高台径9.5cm。焼成不良で磨滅し、淡茶褐色を呈する。

甕（5） 全体的に磨滅するが、体部内面はヘラケズリ。

257SD275灰色土出土遺物（Fig.94）

須恵器

蓋2（6） 内面はナデ、外面は回転ナデ。色調は青灰色を呈する。

蓋3（7、8） 色調は暗青灰色を呈する。7は外面が灰かぶり。

土師器

甕（9） 体部は内面ヘラケズリ、外面はタテハケ。胎土は0.1cm以下の砂粒を多く含む。

257SD285出土遺物（Fig.94）

須恵器

蓋a3（10） 外面上半部は回転ヘラケズリ後未調整で灰かぶりがある。その他は回転ナデ。復元口径12.2cm。

蓋c3（11） 復元口径17.8cm。外面上半部は回転ヘラケズリその他は回転ナデでその後若干雑なナデ。内面もナデ調整。色調は淡灰白色を呈する。

蓋3（12～15） 外面上半部は回転ヘラケズリ、その他は回転ナデで内面上部はその後ナデ調整。色調は淡青灰色を呈する。11・13の外面は灰かぶりしている。

坏c（16、17） 16は高台を底部端に貼付し、復元高台径8.0cm。17はやや坏部が丸い。復元高台径9.2cm。

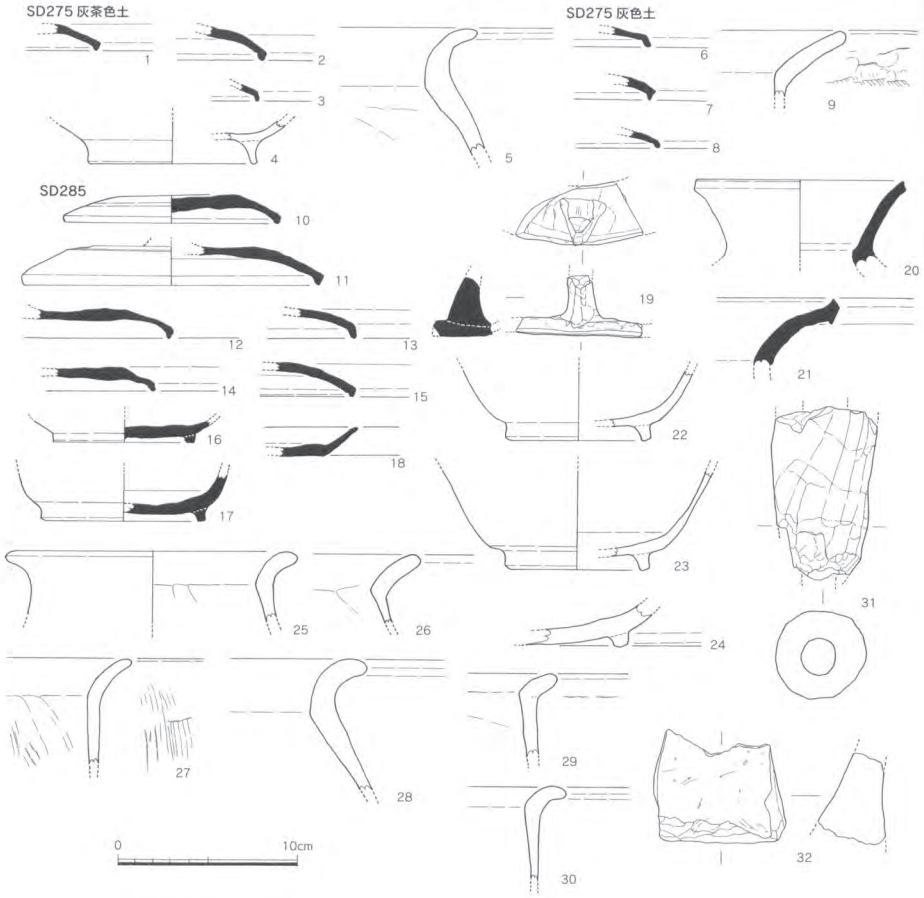


Fig. 94　257SD275・285 出土遺物実測図（1/3、32 は 1/2）

皿 a（18）　外面底部はナデ調整。その他は回転ナデ。淡青灰色を呈する。

円面硯（19）　脚部部分と輪状の台部分である。脚部は断面三角形を成す。胎土は精製され、色調は淡灰青色を呈する。

壺（20）　復元口径 11.8cm。内外面回転ナデ。焼成良好で淡青灰色を呈する。

甕（21）　内外面回転ナデ。色調は暗赤褐色を呈する。

土師器

椀 c（22、23）　共に復元高台径 8.1cm。焼成不良で磨滅が目立ち調整不明。色調は明茶褐色を呈する。

大椀 c（24）　厚い体部に方形の高台を貼付する。焼成不良で調整不明。胎土は僅かに 0.1cm 以下の砂粒を含む。色調は茶橙色や淡褐灰色を呈する。

甕（25 ～ 30）　全体的に磨滅し、体部内面はヘラケズリが確認できるが、その他は調整不明。25 は復元口径 16.2cm。27 は胎土に僅かに角閃石を含む。体部内面は外面タテハケ。29 の胎土は角閃石含む。

土製品

鞴羽口（31）　先端部で劣化が目立ち、被熱で淡灰色を呈し先端から離れた部分は淡茶褐色を呈する。径 5.0 ～ 5.8cm で、中央が 2cm 前後空洞である。

石製品

砥石（32）　4 面使用が認められる。砂岩製。

井戸

257SE345 淡赤色シルト質土出土遺物（Fig. 95）

須恵器

坏（1）　内外面回転ナデで、色調は灰色で口縁端部のみ暗灰色を呈する。

土師器

甕（2）　体部内面はヘラケズリ、口縁部外面タテハケ、内面ヨコナデ。外面には一部煤が付着する。

黒色土器

椀（3）　内面にミガキが残る。A 類。

257SE345 灰色粘土出土遺物（Fig. 95）

須恵器

坏 c（4）　底部端に方形の高台を貼付する。その他はナデ調整。暗青灰色を呈する。

土師器

甕（5）　体部は内面ヘラケズリ、外面はタテハケ。口縁部外面ヨコナデ、内面ヨコハケ。外面には僅かに煤が付着する。

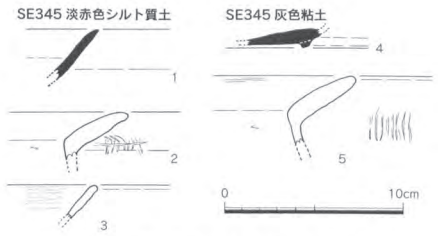


Fig. 95　257SE345 出土遺物実測図（1/3）

土坑

257SK175 出土遺物（Fig. 96）

土師器

甕（1）　全体的に磨滅するが、口縁部内面ヨコハケ、外面ヨコナデ、体部外面タテハケ、内面はヘラケズリ。外面上部は二次焼成で黒褐色を呈する。胎土は 0.5cm 以下の砂粒を多く含む。

把手付甕（2）　復元口径 15.0cm、器高 14.9cm、口縁直下に小さな把手が付くが磨滅が目立つ。外面タテハケで下半には煤が厚く付着し、最下部は表面が剥落する。内面はヘラケズリで底部付近は指頭圧痕が残り、炭化物が薄く付着する。口縁部外面は煤が厚く付着する。

257SK175 灰褐色土出土遺物（Fig. 96・97）

須恵器

蓋 c3（3 ～ 5）　口縁端部を僅かにツマミ出す程度。内外面は回転ナデ後、内面上半部は不定方向のナデ調整。色調は青灰色で口縁部は重ね焼きで暗灰色を呈する。3 は復元口径 16.6cm、器高 2.55cm。4 は復元口径 14.5cm。外面上半部は回転ヘラ切り後粗いナデ調整。5 は復元口径 13.2cm。

蓋 3（6）　口縁端部を僅かに肥厚させる程度で、外面上半部は回転ヘラ切り後粗いナデ調整。口縁部は重ね焼きで暗灰色を呈する。復元口径 14.0cm。

皿 a（7 ～ 9）　8 は丸味のある底部で、復元口径 15.0cm、器高 2.2cm、復元底径 12.0cm。外面底部はヘラ切り後ナデ調整で、板状圧痕が残る。9 は復元口径 16.2cm、器高 2.4cm、復元底径 14.0cm。内外面回転ナデで、内面が若干滑らかになっている。

坏 a（10 ～ 14）　底部は回転ヘラ切り、体部は回転ナデ。色調は淡灰色を呈する。11 は底部外面に墨痕が残る。13・14 は内面底部がナデ調整。

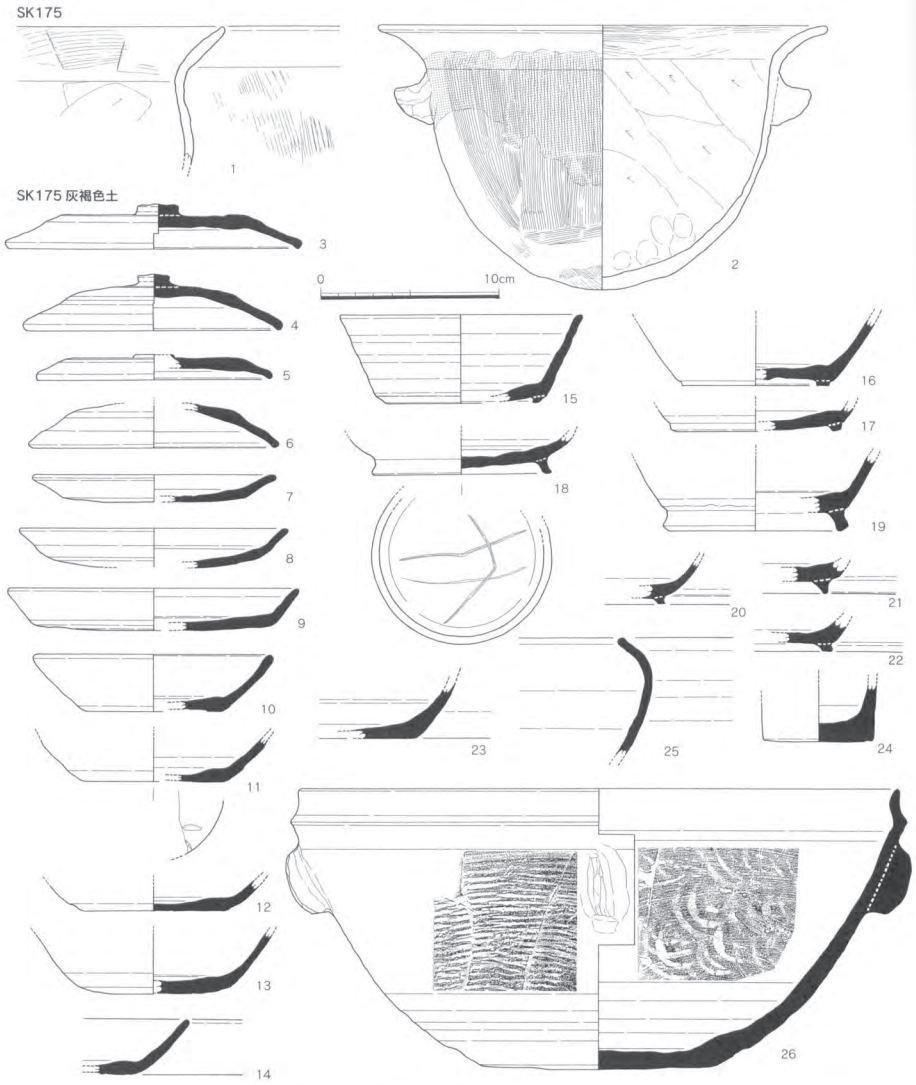


Fig. 96　257SK175 出土遺物実測図①（1/3）

坏 c（15 ～ 22）　底部端に高台を貼付する。色調は灰色や暗灰色を呈する。15 は貧弱な高台を貼付する。復元口径 13.6cm、器高 5.0cm、復元高台径 8.6cm。16・17 は低い高台を貼付する。16 は復元高台径 8.2cm。17 は復元高台径 9.5cm で、板状圧痕があり、内面底部は丁寧にナデ調整される。18 は復元高台径 10.0cm で、底部外面にヘラ記号を施す。19 は復元高台径 10.3cm。

壺（23）　内外面回転ナデ、外面底部は回転ナデで板状圧痕が残るが、若干滑らかになっている。色調は淡灰色を呈する。

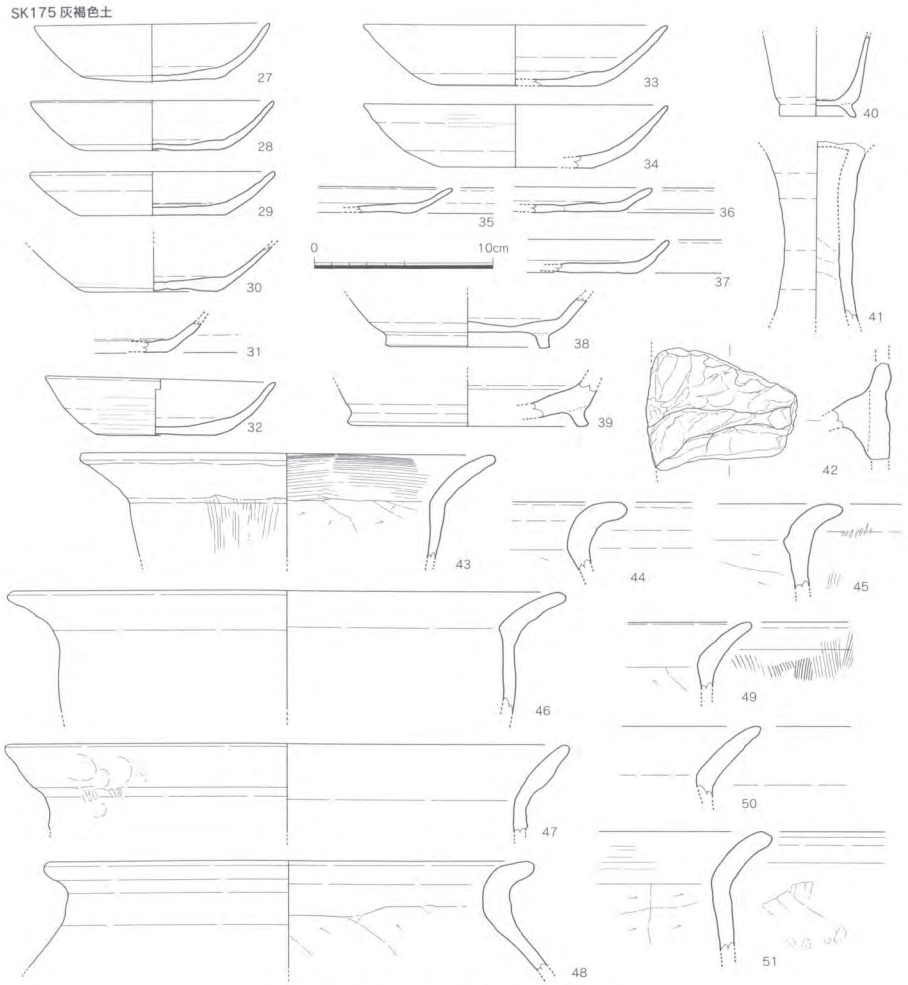


Fig. 97　257SK175 出土遺物実測図②（1/3）

小壺（24）　底径 6.2cm。外面は回転ヘラケズリ、底部はその後ナデ調整。内面はナデ。胎土は 0.5cm 以下の白色砂粒を含み、色調は暗灰色を呈する。

鉢（25、26）　25 は内外面回転ナデ、内面下半は斜め方向のナデ。暗灰色を呈する。26 は復元口径 33.4cm、器高 15.7cm、復元底径 13.4cm。胎土は 0.3cm 以下の砂粒を含み、焼成良好で暗茶色や茶褐色を呈する。外面には耳が付く。底部は回転ヘラ切り後粗いナデ、外面下半は回転ヘラケズリ、上半は横線状の叩き、内面は同心円状の当て具痕が残り、下半はその後不定方向のナデ調整。

土師器

坏 a（27 ～ 31）　色調は黒茶色や橙茶褐色を呈する。内外面回転ナデ。復元口径 13.2 ～ 13.7cm。器高 2.45 ～ 3.25cm。27 は全面磨滅する。底部外面に板状圧痕のようなものがみられる。29 は内面表面にヒビが入る。30 は全面磨滅するが、底部外面は明瞭に回転ヘラ切り痕跡と板状圧痕が残る。

坏 d（32 ～ 34） 32 は外面にミガキ a が残る。復元口径 12.9cm、器高 3.2cm、底径 6.8cm。淡茶色を呈する。33 は全面磨滅する。復元口径 17.0cm、器高 3.45cm、復元底径 9.4cm。淡黄茶色を呈する。34 は全面磨滅するが外面上部にミガキ痕が僅かに残る。復元口径 17.0cm、器高 3.55cm、復元底径 8.4cm。淡橙色を呈する。

皿 a（35 ～ 37） 35 は器高 1.45cm で、淡茶褐色を呈する。36 は磨滅するが底部に粘土紐痕のようなものがみられる。器高 1.4cm。

坏 c（38） 復元高台径 9.2cm。胎土は 0.3cm 以下の砂粒を含み、にぶい橙色を呈する。

鉢×大椀（39） 復元高台径 13.4cm。磨滅するが全面回転ナデ。胎土は 0.2cm 以下の砂粒を多く含み、色調は橙褐色を呈する。

小壺（40） 高台径 4.3cm。色調は淡橙色を呈する。全面磨滅する。

高坏（41） 磨滅し調整不明。中央には 3cm 程が空洞である。色調は淡白橙色を呈する。

カマド（42） 鍔部分で内外面ナデ調整。胎土は 0.2cm 以下の砂粒を含み淡茶褐色を呈する。

甕（43 ～ 51） 体部内面はヘラケズリ。色調は淡橙色や茶灰色を呈する。43 は復元口径 23.2cm。口縁部内面はヨコハケ、外面はヨコナデ、体部外面はタテハケ。45 は僅かにタテハケが残る。46 は復元口径 31.2cm。全面磨滅し調整不明。47 は復元口径 31.6cm。胎土は 0.3cm 以下の砂粒を多く含む。48 は口縁部を肥厚させ丸く曲げる。復元口径 27.5cm。胎土は 0.3cm 以下の砂粒を多く含む。49 はタテハケ。51 は口縁部内面ヨコハケ、外面は僅かにハケ目があり、炭化物が付着する。

257SK175 暗灰色粘土出土遺物（Fig. 98）

須恵器

蓋 c3（52） 口径 14.8cm、器高 2.7cm。ボタン状のツマミを貼付する。外面上半部は回転ヘラケズリ後粗いナデ調整、その他は回転ナデで内面の一部にナデ調整が見られる。外面は重ね焼きのため、口縁部が灰色に変色する。

蓋 3（53） 外面上半部は回転ヘラケズリ、その他は回転ナデ。端部は重ね焼きで変色している。

小皿 a（54） 復元口径 9.8cm、器高 2.1cm、復元底径 5.8cm。内外面回転ナデ。

皿 a（55） 復元口径 15.2cm、器高 2.1cm、復元底径 11.6cm。内外面回転ナデ。外面底部は回転ヘラ切り後ナデで板状圧痕も残る。内面底部には赤褐色の付着物があり、墨も付着している。

坏 a（56、57） 56 は復元口径 13.9cm、器高 2.7cm、復元底径 9.6cm。外面底部に「清」と書かれた墨書がある。57 は器高 3.0cm。外面底部近くに墨痕がみられる。

坏 c（58 ～ 60） 58 は底部端に高台を貼付する。復元高台径 6.8cm。色調は淡青灰色を呈する。59 は復元高台径 8.6cm。外面底部には墨が付着し、転用硯として使用されたものと推測される。60 は復元高台径 9.3cm。内外面回転ナデ。

鉢（61） 口縁部を僅かに内湾する。復元口径 16.2cm。淡青灰色を呈する。外面下半はナデ、その他は回転ナデ調整。

壺（62） 二重口縁で、復元口径 13.0cm。頸部は回転ナデ、体部は外面格子の叩きで、内面は同心円の当て具痕が残る。胎土は 0.2cm 以下の砂粒を含み、色調は暗灰色を呈する。

平瓶（63） 口縁部や把手を一部欠損する。内外面とも体部外面は回転ヘラケズリ、内面は回転ナデ。口縁部は回転ナデ。胎土は 0.7cm 以下の砂粒を多く含み、一部焼成時に膨張している部分がある。色調は淡灰白色を呈する。高台径 14.7cm。

土師器

蓋 3（64） 外面上半部は回転ヘラケズリ、その他の内外面はミガキ a を施す。

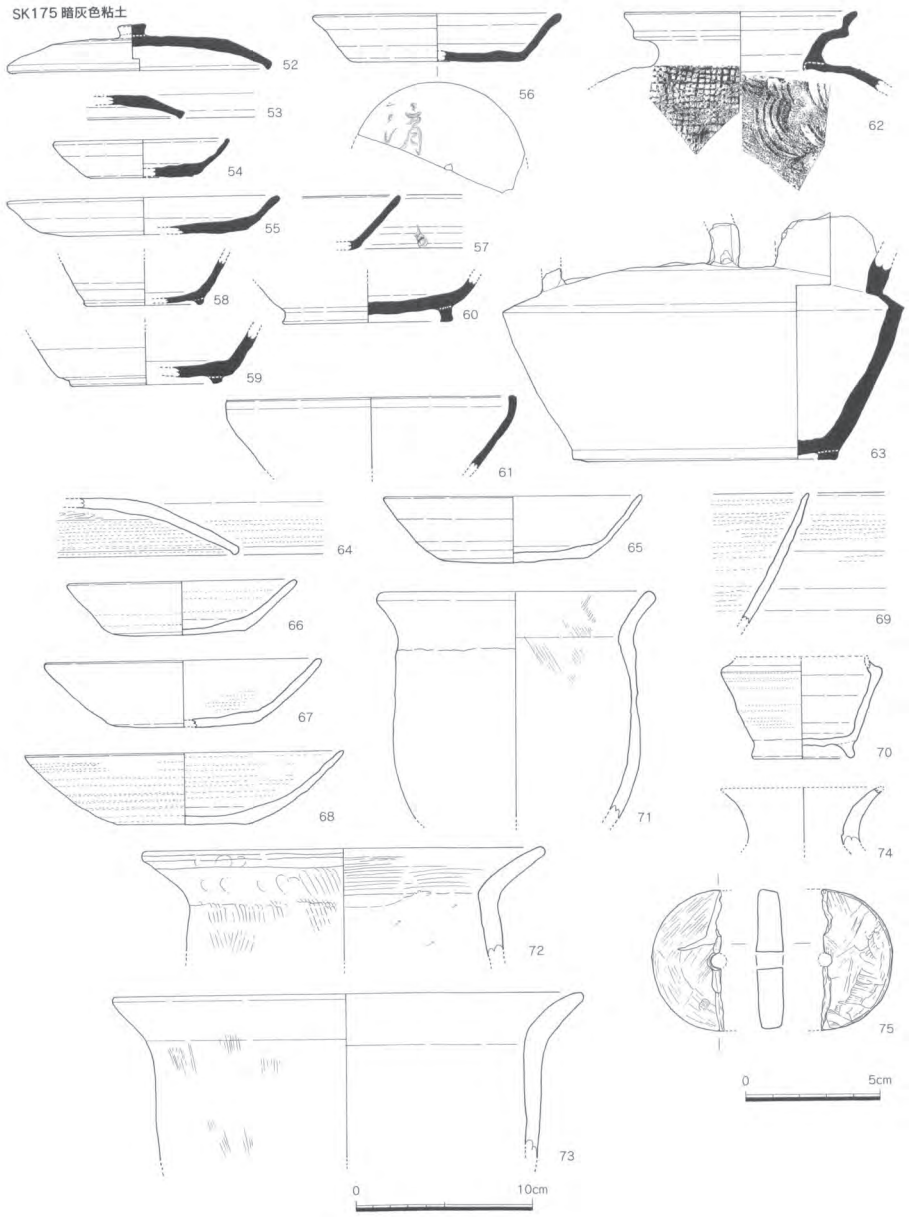


Fig. 98 257SK175 出土遺物実測図③（1/3、75 は 1/2）

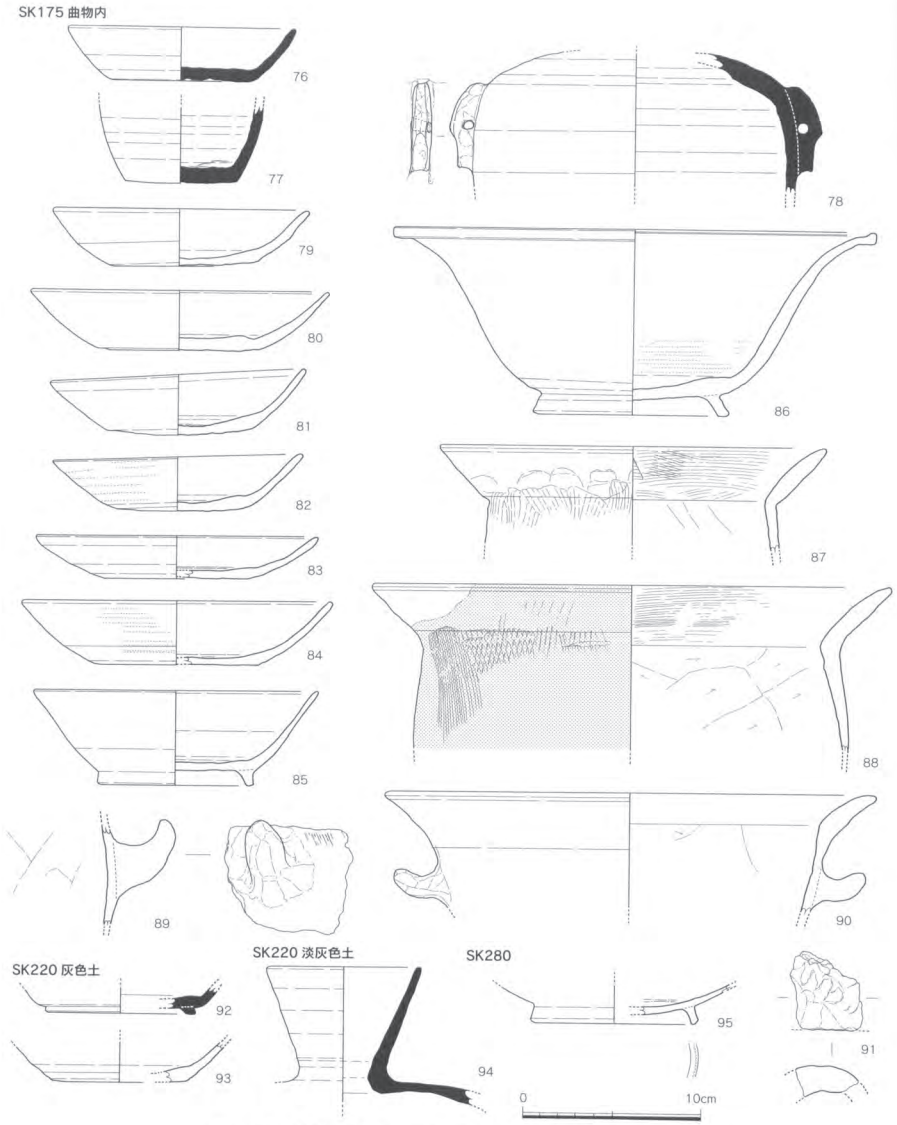


Fig. 99　257SK175 ④・220・280 出土遺物実測図（1/3）

坏 a（65）　復元口径 14.4cm、器高 3.8cm、底径 8.4cm。外面底部回転ヘラ切り後ナデ、その他は回転ナデで、内面底部はその後不定方向のナデ。色調は暗灰色を呈する。

坏 d（66 ～ 68）　復元口径 13.0 ～ 18.0cm、器高 3.0 ～ 4.0cm、底径 7.4 ～ 7.9cm。外面は磨滅が目立つが内面にはミガキ a が明瞭に残る。色調は淡褐色や橙褐色を呈する。

椀（69）　外面下半は回転ヘラケズリ、その他の内外面はミガキ a を施す。色調は橙白色を呈する。

小壺 c（70）　口縁端部を欠損する。内面は回転ナデ、内面底部は粗いナデ、外面はミガキ a を施す。

高台径 5.7cm。色調は淡灰黄白色を呈する。

甕（71 ～ 73）　71 は復元口径 15.6cm。内外面磨滅するが、内面に僅かに斜めハケが残る。胎土は 0.3cm の砂粒を多く含み暗橙褐色を呈する。72 は復元口径 22.8cm。外面タテハケ、内面ヘラケズリ、口縁部内面はヨコハケである。胎土は 0.2cm 以下の砂粒を含み、暗灰色を呈する。73 は復元口径 26.6cm。磨滅するが外面に僅かにタテハケが残る。

緑釉陶器

壺（74）　頸部の破片で、胎土は乳白色の土師質。内外面に光沢のある褐色釉と鈍い暗灰色釉が斑状に施されている。内面は外面より剥落が目立つ。

石製品

紡錘車（75）　半分欠損する。大きさ 5.25cm、厚さ 0.95cm。中央に 0.65cm の円孔を穿つ。表裏側面ともきれいに研磨され、研磨痕が残る。

257SK175 曲物内出土遺物（Fig. 99）

須恵器

坏 a（76）　復元口径 12.8cm、器高 3.05cm、復元高台径 7.6cm。外面底部は粗いヘラ切り。内外面は回転ナデ、内面底部は一方向のナデ。色調は灰色を呈する。

小壺（77）　内面は回転ナデ、外面・底部は回転ヘラケズリ。復元底部径は 6.2cm。色調は暗灰色を呈する。

双耳壺（78）　肩部に自然釉が厚く付いている。耳には 0.6 ～ 0.8cm の円孔を穿つ。内外面回転ナデで、胎土は灰色を呈する。

土師器

坏 a（79 ～ 81）　復元口径 14.3 ～ 16.7cm、器高 3.2 ～ 3.4cm、底径 8.1 ～ 9.0cm。色調は淡橙褐色を呈する。79 は外面下半が回転ヘラケズリその他は回転ナデ。81 は全体的に磨滅する。

坏 d（82 ～ 84）　復元口径 13.9 ～ 17.4cm、器高 2.4 ～ 3.6cm、底径 7.5 ～ 9.2cm。色調は淡橙褐色を呈する。底部は回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、外面ミガキ a を施す。83 は全体的に磨滅するが外面も回転ナデのように見える。

坏 c（85）　復元口径 16.0cm、器高 5.3cm、高台径 8.8cm。内外面は回転ナデ、色調は暗茶褐色を呈す。

鉢（86）　復元口径 27.0cm、器高 10.4cm、高台径 10.9cm。全面磨滅が目立つが、内面底部付近にミガキ a が確認できる。外面底部は回転ヘラ切り後粗いナデ。淡灰橙色を呈す。

甕（87、88）　内面はヨコハケ、体部外面はタテハケ、内面はヘラケズリ。色調は淡茶灰色を呈す。87 は口縁部が若干肥厚し、復元口径 23.6cm。88 は外面全体に煤が付着する。

把手付甕（89、90）　89 は把手部分で、内面はヘラケズリ。淡茶灰色や暗灰色を呈する。90 は復元口径 29.0cm。口縁部内外面はヨコナデ、体部内面はヘラケズリ。胎土は粗く、表面に砂粒が浮くほど磨滅している。

土製品

鞴羽口（91）　胎土は橙褐色で、表面は被熱で暗灰色に変色している。

257SK220 灰色土出土遺物（Fig. 99）

須恵器

坏 c（92）　復元高台径 8.4cm。色調は青灰色を呈する。

土師器

坏 a（93）　復元口径 7.7cm。底部外面は回転ヘラ切り。色調はにぶい橙色を呈する。

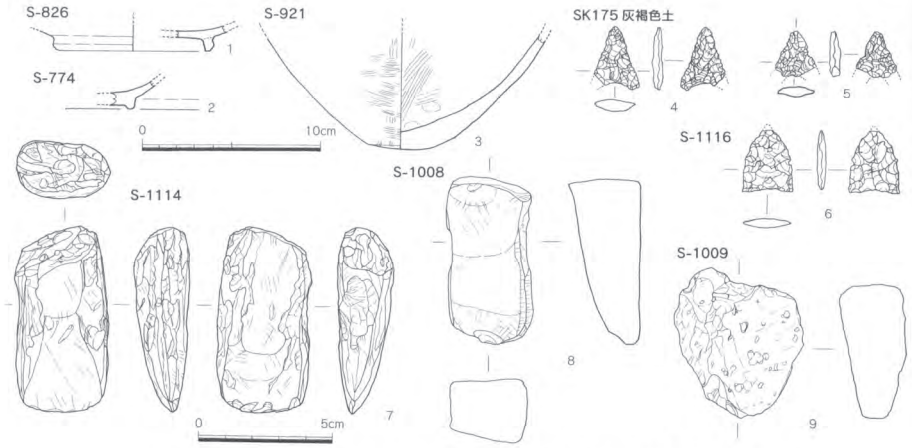


Fig. 100　第 257 次調査 3 面その他の遺構出土遺物（1 ～ 3 は 1/3、1/2）

257SK220 淡灰色土出土遺物（Fig. 99）

須恵器

平瓶（94）　復元口径 8.7cm。口縁部内面には茶褐色の漆が付着している。外面の一部にも若干漆が付着する。

257SK280 出土遺物（Fig. 99）

灰釉陶器

椀×皿（95）　淡緑色を帯びた淡白灰色釉を施す。内面は釉を雑な掻き取っている。外面は回転ナデ後施釉。高台内面は回転ナデで露胎。復元高台径 9.3cm。高台畳付には目跡が残る。

第 3 面その他の遺構出土遺物（Fig. 100）

灰釉陶器

椀×皿（1）　復元高台径 9.0cm。高台内面は露胎、内面底部も回転ナデで一部施釉。外面も部分的に施釉される。釉調は淡緑灰色釉で薄く施す。S-826 より出土。

緑釉陶器

椀 c（2）　胎土は須恵質で、内外面に緑灰色釉を薄く施す。高台内面は露胎。S-774 より出土。

古式土師器

壺×甕（3）　丸い底部で内外面ハケ目、外面下部は雑なナデ。胎土は 0.1cm 以下の砂粒を多く含み淡白褐色を呈する。S-921 より出土。

石製品

石鏃（4 ～ 6）　4 は現存長 2.4cm、黒曜石製。5 は現存長 1.7cm。4・5 は SK175 灰褐色土より出土。6 は先端部を欠落する。現存長 2.2cm、幅 1.8cm、厚さ 0.3cm。S-1116 より出土。

磨製石斧（7）　縦 7.0cm、幅 3.3cm、厚さ 2.1cm。刃部を作り出すため丁寧に研磨する。端部は折れているようだが、研磨した痕跡がある。安山岩製。S-1114 より出土。

砥石（8）　大きさは、長さ 6.3cm、幅 3.1 × 2.1cm。4 面研磨痕があり、側面に一部敲打痕がみられる。S-1008 より出土。

磨り石（9）　大きさは 5.6 × 4.7 × 2.4cm。一部に磨り面がある。S-1009 より出土。

○第 3 面基盤層

257SX320 出土遺物（Fig. 101）

須恵器

蓋 a3（1）　復元口径 12.4cm、器高 1.4cm。外面上部は回転ヘラ切り後未調整。その他は回転ナデで、内面上半部はその後丁寧なナデ。色調は青灰色で口縁部は重ね焼きで黒灰色を呈する。

蓋 3（2）　端部を僅かに肥厚させる。暗灰色を呈する。

257SX325 出土遺物（Fig. 101）

須恵器

蓋（3）　外面上部は回転ヘラ切り、内面上部は不定方向のナデ、その他は回転ナデ。色調は青灰色を呈する。

土師器

鉢×高坏（4）　鉢の口縁部もしくは高坏の脚部端とみられる。色調は茶褐灰色を呈する。

257SX330 出土遺物（Fig. 101）

石製品

スクレイパー（6）　大きく剥離させる。剥片や石核の可能性もある。大きさは 6.25 × 8.75cm、厚さ 1.2cm。安山岩製。

257SX340 出土遺物（Fig. 101）

弥生土器

高坏（5）　復元口径 29.4cm。全体的に磨滅するが、内外面とも放射状のミガキが残る。

暗青灰色粘土出土遺物（Fig. 101）

石製品

石槍（7）　縦 10.9cm、幅 4.0cm、厚さ 1.5cm。断面三角形状に打ち欠く。先端は自然面も残るため、未製品かもしれない。安山岩製。

○その他の土層

灰褐色土出土遺物（Fig. 102 ～ 106）

須恵器

壺蓋（1）　復元口径 10.4cm。外面上部はヘラケズリでその他は回転ナデ調整する。焼成良好でやや暗い灰色を呈する。

椀（2）　円盤状高台で、胎土は精製され、淡灰色を呈す。内外面回転ナデ調整。篠窯系。

鉢（3）　外面底部は回転糸切りで、その他内外面は回転ナデで、内面は使用により滑らかになっている。胎土は 0.1cm 以下の砂粒や炭化物を多く含む。篠窯。

大甕（4）　口縁部で内外面回転ナデ、頸部に波状文を施す。色調は淡灰褐色を呈する。

甕（5）　内外面回転ナデで、頸部内面は粗いナデ、体部内面は同心円当て具痕が残る。胎土は砂粒を少量含み、うっすらと淡灰色の自然釉が掛かる。

獣脚（6）　磨滅が目立つ。胎土は 0.2cm 以下の砂粒を多く含む。淡い灰白色を呈する。

土師器

甕（7）　把手部分で 3 個の円孔が穿たれている。色調は暗褐色で把手下端には煤が付着。

鉢（8）　胎土は 0.3cm 以下の砂粒を多く含み、焼成不良で淡白橙色を呈する。高台径は 24cm くらいと推測される。全体的に摩滅し調整不明瞭。

ミニチュア土器（9）　復元口径 4.0cm、器高 1.8cm。手捏ね成形され指頭圧痕が残る。胎土はきめが

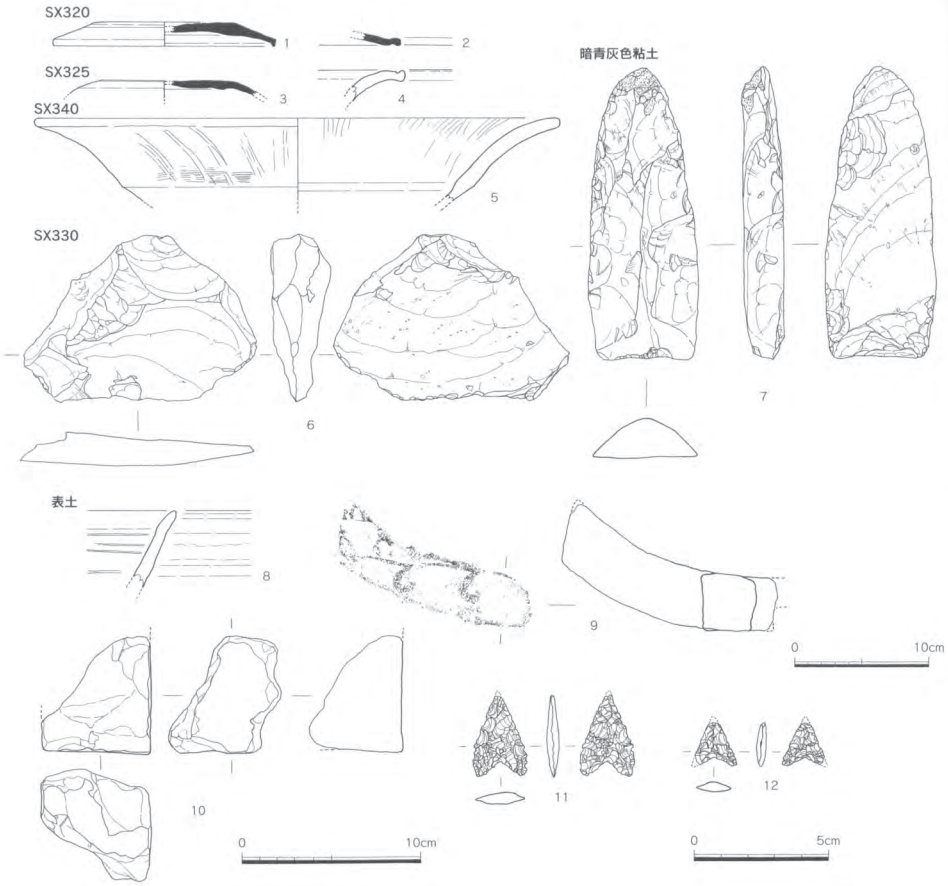


Fig. 101　第 257 次調査 3 面基盤層・表土出土遺物実測図（1/3、石製品は 1/2、9 は 1/4）

粗く淡白茶灰色を呈する。

製塩土器

甕（10）　胎土は 0.4cm 以下の砂粒を多く含み、橙褐色を呈する。表面はかなり荒れていて、砂粒が浮き出ている。体部内面は指頭圧痕があり、外面は叩き痕跡を残す。

緑釉陶器

坏（11）　復元口径 9.2cm、器高 2.9cm、底径 5.2cm。胎土は淡黄灰色で土師質である。全面摩滅し釉の剥落が目立ち、内外面に僅かに淡い緑色釉が残る。

皿（12）　内外面には緑白色釉に斑点状に薄緑色釉を施す。外面には僅かに釉が残るが殆ど剥落する。

椀×皿（13）　高台径 6.3cm。内外面回転ナデ後に白緑色釉を施す。胎土は焼成良好で淡黄色を呈す。

椀（14、15）　14 は削り出し高台で、復元高台径 7.7cm。胎土は白黄色の土師質である。釉は淡緑色だが、内外面とも殆ど剥落している。15 は焼成良好で土師質。全面に淡黄緑色～やや暗い緑色釉を施す。

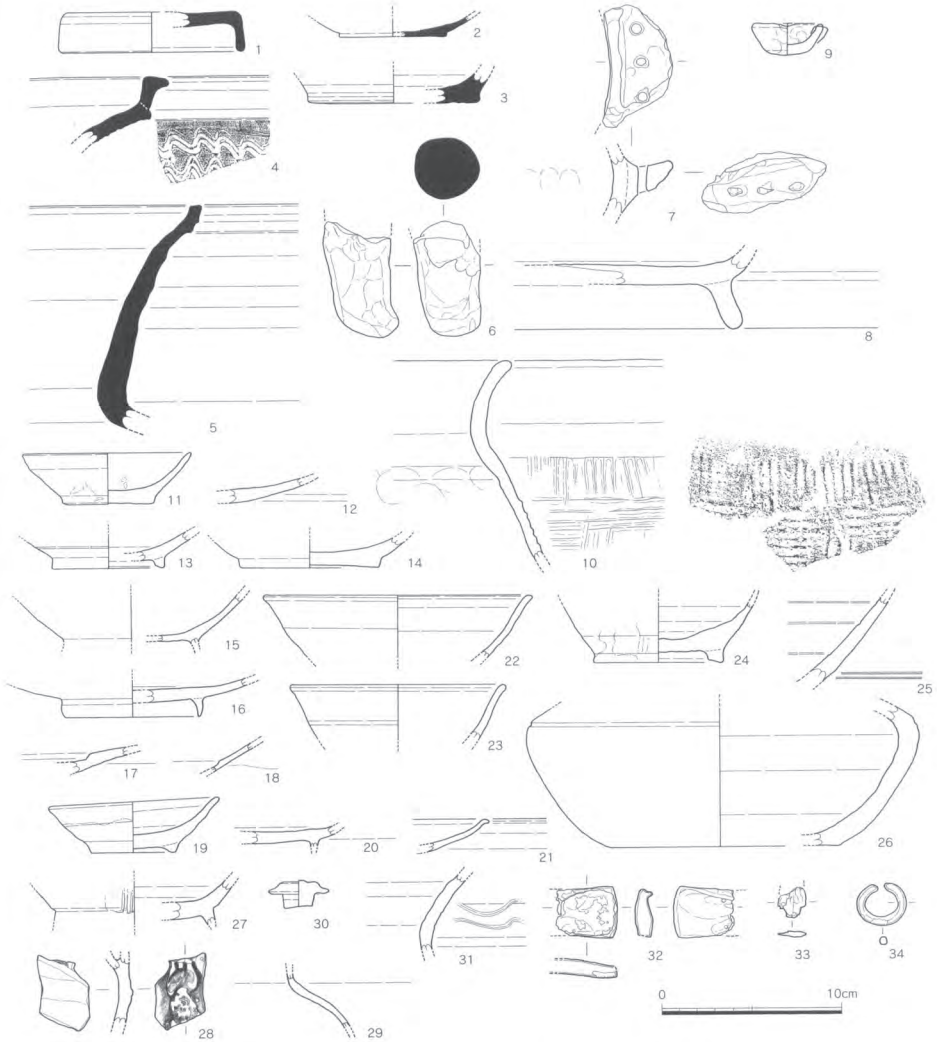


Fig. 102　第 257 次調査灰褐色土出土遺物実測図①（1/3）

灰釉陶器

皿（16）　復元高台径 7.5cm。高台畳付は使用により滑らかになっている。外面底部は回転ヘラケズリ、その他は回転ナデで、内面上半部のみ化粧土と薄い緑灰色を施す。

段皿（17、18）　17 は胎土が淡灰色で外面は下半が回転ヘラケズリ、それ以外は回転ナデで、内面のみやや緑味のある灰茶色釉を施す。18 の胎土は淡灰色で、釉は緑灰色の透明釉で、内面は薄く施釉され、外面下半はヘラケズリで露胎である。

小坏（19）　口径 9.5cm、器高 2.9cm、高台径 4.8cm。底部は回転糸切り。その他内外面は回転ナデで、

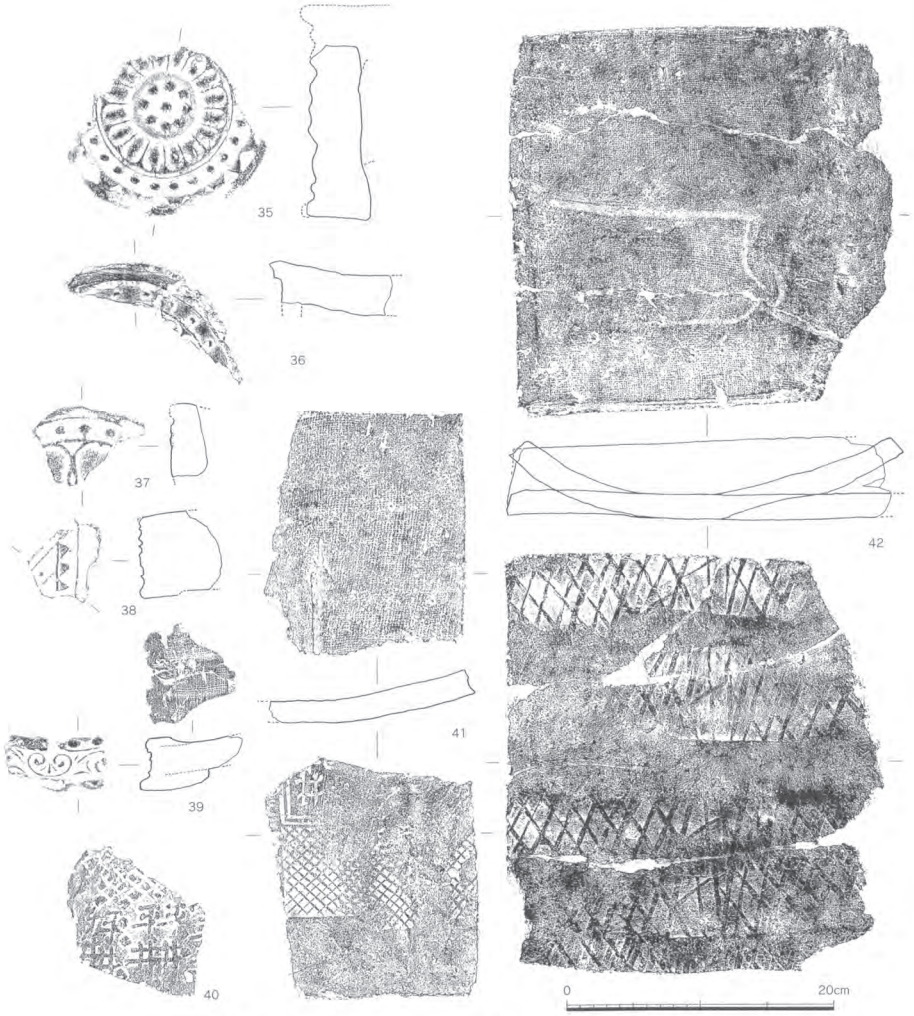


Fig. 103　第 257 次調査灰褐色土出土遺物実測図②（1/4）

内面と外面上半部が淡灰色の透明釉を施す。胎土は 0.1cm 以下の砂粒や黒色粒を含み淡灰色を呈する。

椀×皿（20）　胎土は精製された須恵質で、内面には褐色味の透明釉が薄く残るが剥落が目立つ。また内面には目跡が残る。外面底部は回転ヘラケズリ、その他は回転ナデ。

皿（21）　口縁端部を僅かに外反させる。胎土は淡茶灰色を呈する。内外面回転ナデ後に若干緑色味のある白灰色で細かな貫入があり、外面を中心に剥落が著しい。

椀（22、23）　22 は復元口径 15.0cm。胎土はきめ細かく淡灰色を呈する。内外面回転ナデ。23 は復元口径 12.0cm。胎土は 0.1cm 以下の白色砂粒や黒色粒を含む。内外面回転ナデ後、内面のみやや褐色がかった透明釉を施す。

壺（24 ～ 26）　24 は復元高台径 7.2cm。外面は回転ヘラケズリ、内面は回転ナデで、外面には淡緑灰色釉が垂れている。内面にも一部釉が付着する。25 は外面が回転ナデの露胎で、下方に溝が巡る。内面は浅い沈線が巡り淡灰白色釉と淡緑灰色釉がまだらに施されている。26 は復元底径 13.2cm。胴部径 21.9cm。その最大径付近に沈線を巡らす。外面下半はケズリ気味の回転ナデ。内面は回転ナデ。外面底部は使用により磨滅する。胎土は 0.1cm 以下の砂粒を多く含み、淡緑灰色の透明釉を施す。

越州窯系青磁

水注（27）　体部下端に縦方向の沈線が施されている。釉は灰白色で、内面は回転ナデの後一部施釉され、外面も施釉されるが剥落も目立つ。I 類系。

長沙窯系青磁

水注（28、29）　28 は耳の付け根部分で、暗緑色釉を施す。29 は水注の肩部で、外面は淡灰褐色釉を施し、内面は回転ナデで露胎。

白磁

ツマミ（30）　つまみの笠部分の上面にはやや緑青色釉を厚く施す。その他は回転ナデで露胎である。

朝鮮系無釉陶器

甕（31）　頸部付近とみられ、内外面回転ナデで、外面には波状文を施す。胎土は断面茶色、外面暗灰色を呈する。

瓦類

軒丸瓦（35 ～ 37）　35 は中房の蓮子が 1+8 で、16 弁の複弁蓮華文と鋸歯文を施す。36 の外区は小さな珠文があり、鋸歯はない。37 は小片だが、連弁と外区の珠文が残る。

軒平瓦（38、39）　38 は軒平瓦の端部で珠文と鋸歯文が確認できる。39 は軒平瓦の中央部分で、鴻臚館式の均正唐草文である。

丸瓦（40）　陰刻の格子叩きに「平井」の文字瓦。

平瓦（41、42）　41 は小さな格子叩に二重線で囲んだ「平井」を入れた文字瓦。色調は淡灰色を呈する。42 は若干大きめの斜格子叩きで、部分的にナデ消している。凹面は布目で一部ナデ消している。凹面両端には分割突帯が確認できる。横 30.0cm。

金属製品

帯金具鉈尾（32）　幅 2.9cm で材の厚みは 0.1cm 程で内部は空洞で、一部潰れている。基部の方には留め具が 2 ヶ所確認できる。表面は緑青色錆に覆われ、銅部分が露出し裏部分は金色部分を多く残る。

鉄鏃（33）　先端部は欠損する。

耳環（34）　縦 2.4cm、横 2.8cm、径 0.5cm。錆で緑青色を呈する。やや曲がっている。

土製品

塼（43 ～ 49）　43 の表面はヨコナデで、その反対面はナデ痕が明瞭に残り、粘土がぱっくり外れたような状況に見える。胎土は 0.4cm 以下の砂粒を多く含み、還元不良で土師質である。44 は焼成良好で須恵質である。胎土は 0.4cm 以下の砂粒を多く含み、生きている面はナデ調整されている。厚さ 6.3cm。45 は焼成不良の土師質で、磨滅や欠損で残りが悪い。色調は淡橙色を呈する。46 の生きている面にはナデの工具痕が残る。色調は淡茶灰色を呈する。47 は厚さ 5.7cm。胎土は 0.2cm 以下の砂粒を多く含み、色調は暗灰色を呈する。48 は欠損し、面は 1 面しか残っていない。胎土は 0.3cm 以下の砂粒を含み茶灰色や暗灰色を呈する。49 は片面に平らな面があり、断面部分に竹のような骨組痕が残る。骨組み痕の間は 6.8cm である。

土壁（50 ～ 52）　50 は骨組み痕跡が残る。胎土は 0.3cm 以下の砂粒を多く含み、僅かに土師器破片

Fig. 104　第 257 次調査灰褐色土出土遺物実測図③（1/3）

Fig. 105　第 257 次調査灰褐色土出土遺物実測図④（1/2）

も含んでいる。51 は平坦な表面にヒビが入っている。胎土は 0.3cm 以下の白色砂粒を多く含む。52 は片面にナデ調整された面が残る。その面と平行ではないが反対側にも面が存在する。

坩堝（53） 上面端部を平坦にナデ調整し、外面は指頭痕が確認できる。内面は被熱で融解し気泡もみられる。胎土は 0.2cm 以下の砂粒を多く含み、籾痕も確認できる。

トリベ（54 ～ 58） 内面に茶黒灰色の鉱滓などの融解付着物が付いていて、内面にいくほど灰色に近い色に変色している。56 は器高 4.1cm。58 は融解した鉱滓が外面にせり出している。

鉱滓（59） 底が丸くなっていて、いわゆる椀型滓。大きさは 8.4 × 6.7cm、厚さ 3.1cm。

鞴羽口（60 ～ 62） 60 は内外面ナデ調整、外面は被熱で黒色化もしくは剥落する。61 の胎土は 0.6cm 以下の砂粒を多く含み、内面は淡橙色で、外面は被熱によって灰色を呈す。62 は羽口の破片だが、欠損部分の断面が焼けている。

土錘（63、64） 63 は縦 5.2cm、径 2.3cm。色調は茶灰色を呈する。64 は縦 3.8cm、径 1.25 × 1.3cm。色調は淡橙色を呈する。

丸玉（65） 大きさは 2.0 × 2.05cm、厚さ 0.9cm。色調は淡橙灰白色を呈する。

石製品

砥石（66 ～ 69） 66 は 3 面が研磨され、その 1 面にはキリ状のもので、深さ 0.1 ～ 0.2cm 程の小さな穴が彫られている。67 は縦 6.6cm、横 6.4cm、厚さ 2.9cm。4 面が使用される。砂岩製。68 は縦 18.0cm、幅 7.6 × 4.9cm。2 面使用されている。69 は 4 面が使用され、きれいな断面方形をなしている。現存長 10.9cm、幅 3.3 × 1.5cm。

軽石（70） 大きさは 7.3 × 5.1 × 4.4cm。

丸石（71、72） 細かく敲打して作り上げ円球を作る。71 は 3.3 ～ 3.8cm。72 は大きさ 2.6 ～ 3.6cm。

敲石（73） 長さ 7.8cm、幅 2.7 ～ 5.25cm。両端部に敲打による細かい剥落がある。

石斧（74） 現存長 7.8cm、幅 5.4cm、厚さ 0.8cm。緑色片岩製。

用途不明品（75） スクレイパーもしくは錐状石製品と考えられる。4 面加工し端部を尖らせ、対する端部は細かく加工し刃部のようなものを作り出している。安山岩製。大きさは縦 6.3cm、横 2.95 × 1.9cm。

石錘（76） 扁平な滑石に幅 1cm、深さ 0.3cm 程の溝を彫り込んでいる。欠損が目立つが形状から石錘ではないかと推測される。

石帯巡方（77） 半分ほど欠損する。色調は暗灰色を呈する。幅 4.3cm、厚さ 0.75cm。

石鍋（78 ～ 80） 78 は内外面にケズリ痕が明瞭に残る。滑石製。79 は底部付近で、外面はケズリ出し後使用のためなどで磨滅し一部うっすらと煤が付着する。内面はケズリ出しの工具痕が明瞭に残り、底部近くでは横方向の細かいケズリがみられる。滑石製。80 は滑石製石鍋の底面付近で、内外面ケズリだが外面は磨滅する。

滑石加工品（81 ～ 84） 81 は欠損が目立つが、溝が施されている。欠損部分も多い。82 は長方形で、縦 5.2cm、横 2.1cm、厚さ 1.0cm。2 ヶ所円孔を穿つ。83 は欠損し全形は不明だが、径 0.8cm の円孔が穿たれている。84 は 3.8 × 3.95 × 2.35cm で全面ケズリを施す。

表土出土遺物（Fig. 101）

灰釉陶器

椀（8） 内外面回転ナデで、内面には沈線がある。内外面とも緑青灰色釉を薄く施すが、外面は剥落が目立つ。胎土は砂粒を少量含み、淡灰色を呈する。

瓦類

Fig. 106 第 257 次調査灰褐色土出土遺物実測図⑤（1/2）

軒平瓦（9）　焼成不良で全体が磨滅する。瓦当はやや大きな唐草文が残る。凸面は縄目叩き。色調は淡白灰色を呈する。

土製品

塼（10）　厚さ5.9cm。胎土は0.3cm以下の砂粒を含み、土師質で黄橙色や暗茶灰色を呈する。全面磨滅する。

石製品

石鏃（11、12）　11は先端部が僅かに欠損する。現存長3.0cm、横2.1cm、厚さ0.4cm。黒曜石製。12は先端部と基部が僅かに欠損する。現存長1.55cm、横1.55cm、厚さ0.35cm。黒曜石製。

(5) 小結

基本的に東隣の第236-1次調査と同じような所見を得ることができた。

特記すべき事は大型掘立柱建物であるSB300の検出である。SB300は南北11間（23.6m）×東西5間（8.5m）で、隣接する第236次調査でも南北16間（29.6m）×東西3間以上（6m以上）の建物が確認され、南北に2棟の掘立柱建物が並んでいる状況を確認した。SB300と重複するように奈良時代後半の掘立柱建物（SB295、305）があるため、SB300は8世紀後半には消滅していた可能性が高い。

SB295やSB305の建物廃絶後の9～10世紀代には格子状の溝が掘られている。これらの溝は畑で畝を作る際に掘削した溝の痕跡と推測される。10世紀代の建物は確認できていないが、畑状遺構の西側を中心に井戸が検出されている。

11世紀後半前後には掘立柱建物や区画溝など他の条坊域と同様に土地利用が活発である。これらの条路や区画溝が埋没した後には、建物規模こそ奈良時代のものには及ばないものの、多くの建物が確認された。ちょうど大宰府政庁廃絶後であり、かつての条坊の区画に左右されない土地利用がなされたことを示している。

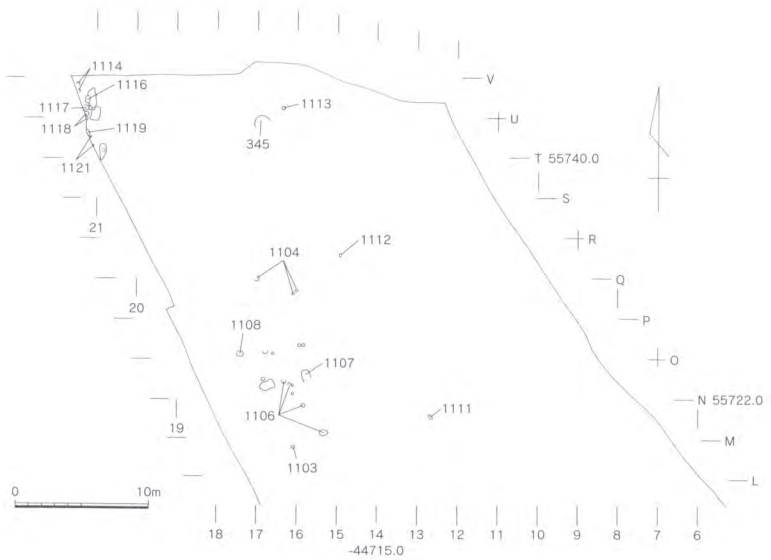


Fig.107　4面目略測図（1/400）

表.9　第257次調査　遺構一覧表

S-番号	遺構番号	種別	埋土・切り合い等	調査面（遺構面）	時期	地区	掲載頁
1	257SB001	掘立柱建物	2間×3間の東西棟、全面に庇付。S-2・20→1	1	13世紀代	GH3・4	78. 79. 105. 106
2	257SD002	溝	道路側溝　S-20→2	2	平安	H2～7	88
3		ピット群		1	平安後期	G4	
4		ピット群	一部S-1含む	1	平安	F3・4	
5	257SB005	掘立柱建物	2間×3間の南北棟、南と東に庇付。S-2→5	1	鎌倉か？	FGH2・3	78. 80
6		土坑	灰茶色土	1	平安後期～	G6	
7		ピット群		1	平安～	D8	
8		窪み		1	平安後期～	BC10・11	
9		窪み		1	平安	BC11	
10	257SD010	溝	道路側溝　灰茶色土　S-25より東側	2	平安後期	I3～8	87. 88. 113. 114
11		ピット群		1	平安後期～	G6	
12		ピット群		1	平安後期～	C12	
13		土坑		1		B12	
14		土坑		1		A11	
15	257SD015	溝	道路側溝　S-25より東側　灰茶色土、下層はやや粘質。	2	平安	I3～8	87. 88. 113. 114
16		窪み		1	平安後期	C7	
17		窪み		1		C7	
18		ピット群		1	平安	E13	
19		土坑	底に石	1	平安	D12	
20	257SD020	溝	道路側溝　灰茶色粘質土　S-20→2	2	8世紀後半	Hライン	87. 88. 115～117
21		たまり	灰茶色粘質土	1	平安後期～	BC9～11	
22		ピット		1	平安後期～	C7	
23		溝		1		E6	
24		ピット		1		D7	
25	257SD025	溝	255SD025と同一遺構。	2	XII期	8ライン	87～89. 117～119
26		ピット		1	平安後期～	D4	
27		たまり	灰茶色土（やや砂質土）	1	平安後期～	C10	
28		ピット		1		B9	
29		ピット群		1	平安後期～	F4	
30	257SD030	溝	S-409と同一遺構。255SD030の延長	1		C～E8・9	81. 85
31		ピット群		1	平安前～中期	J4	
32		溝		1	平安	ED11	
33		ピット群		1	平安後期～	H7	
34		ピット群		1		IJ8	
35		たまり	黒灰色土、土師器破片多い	1	平安後期～	D6・7	
36		ピット	灰茶色土（炭混じり）	1		E11	
37		窪み	炭と土師器多く混じる	1	平安後期～	E11	
38		窪み		1	11世紀～	D11	
39		ピット		1		G12	
40	257SD040	溝	淡灰色土、灰茶色土	1	平安後期	C～J12	80. 85. 107. 108
41		土坑		1		F12	
42		ピット群		1	平安後期～	F7	
43		ピット群		1		F7	
44		ピット群	浅い	1		F9	
45	257SD045	溝	暗灰色土（炭混じり）	1	平安後期	EF13	80. 85. 107. 108
46		土坑		1		F8	
47		ピット群		1	平安後期～	F8	
48		土坑		1		F5	
49		ピット群		1		J9	
50	257SE050	土坑	S-27の底面	1	XI～XII期	D11	84. 86. 108. 109
51		ピット群		1	平安後期	F3	
52		溝		1	平安後期	F7・8	
53		ピット群		1		G5	
54		ピット群		1		G6	
55	257SB055	掘立柱建物	2間×4間の南北棟、北と西に庇付。S-2. 10. 15. 20→55	1	11世紀後半～，鎌倉？	GHI7・8	78. 81. 105. 106
56		ピット群		1		J12	
57		ピット群		1		J12	
58		ピット群		1		J11	
59	257SD045	たまり	S-45と似た埋土	1	11世紀後半～	FG13	
60		土坑	灰茶色土（炭混じり）	1	平安後期	G14	
61		土坑	灰茶色土（炭混じり）	1	9世紀	H15	
62		ピット群		1	11世紀	I15	
63		ピット群		1		H15	
64		たまり	包含層の残りか	1	平安後期	G10・11	
65	257SD065	溝	236-1SD125の続き	1	XII期	OP9	85. 86. 107. 108
66		ピット群		1	平安後期	H14	
67		ピット群		1		F11	
68		ピット群		1		J16	
69		ピット群		1	平安	J15	
70	257SE070	井戸	S-75→70	1	XI～XII期	RS14・15	84. 86. 108～110
71		ピット群		1	奈良？	K16	
72		ピット群	一部SB350の柱穴含む	1		K15	
73		ピット群	一部SB350の柱穴含む	1		K15	
74		ピット群		1	平安後期	L17	
75	257SE075	井戸	S-75→70	1(2)	XI～XII期	R15・16	90. 91. 122～126
76		ピット群		1		L16	
77		ピット群		1	平安中期～	L15	
78		ピット群	S-120の柱穴含む	1		J6	
79		ピット群	S-120の柱穴含む	1		K6	
80	257SE080	井戸		1	11世紀代	S17	85. 86. 109. 110
81		ピット群		1		K6	
82		ピット群	S-120の柱穴含む	1		J6	
83		ピット		1		J6	
84		ピット群		1	奈良～平安前期	J5	
85	257SK085	土坑もしくは井戸	第267次で調査	1		V11	111. 112
86		ピット群		1		K5	
87		ピット群		1		J5	

88		ピット群		1		K16	
89		ピット群		1		L16	
90	257SE090	井戸		1	VI期	O18	85. 86. 109～111
91		ピット群	一部SB350の柱穴含む	1	9世紀	L16	
92		ピット群	一部SB350の柱穴含む	1	11世紀～	L15	
93		ピット群		1	平安	M15	
94		ピット群		1	平安	M16	
95	257SE095	井戸	分割刳りぬき井戸	1(2)	VIII＞IX期	T16	90. 92. 126～128
96		ピット群		1	平安	I14	
97		ピット群		1	平安後期～	J14	
98		ピット群		1		J14	
99		ピット群	一部SB350の柱穴含む	1	平安後期～	K14	
100	257SA100	柵列	S-25→100	1	鎌倉？	C～F8	80. 81. 105. 107
101		ピット群	一部SB350の柱穴含む	1	平安	K14	
102		ピット		1		G14	
103		ピット群		1		G13	
104		ピット		1		F12	
105	257SE105	井戸		2	IX～X期	U17・18	90. 91. 129～134
106		攪乱		1	平安	RS11	
107		ピット群	淡灰色土	1	平安後期～	M14	
108		ピット群	一部SB350の柱穴含む。淡灰色土	1		L14	
109		ピット群	一部SB350の柱穴含む。淡灰色土	1	平安後期～	L14	
110		井戸？	第267次で調査	1	平安	V17・18	
111		ピット群	淡灰色土	1	平安後期	L13	
112		ピット	淡灰色土	1		L14	
113		ピット群	一部SB355の柱穴含む。淡灰色土	1	平安後期～	N16	
114	257SB355	ピット	SB355の柱穴。淡灰色土	1	XII期	N17	
115		土坑	暗灰色土	1	平安後期～	U14	
116		ピット群	一部SB355の柱穴含む。淡灰色土	1		N17	
117		ピット群	一部SB355の柱穴含む。淡灰色土	1	XII期	N17	
118		ピット群	淡灰色土	1	平安	N15	
119		たまり	明灰色土	1	平安後期～	M13	
120	257SB120	掘立柱建物	2間×4間の南北棟、東西に庇付。S-55と切り合う	1	平安後期以降	JKL6・7	78. 82. 105. 106
121		溝		1	平安	C9・10	
122		ピット		1		D10	
123		たまり		1	平安後期以降	E10	
124		ピット		1		F10	
125	257SD125	溝	S-673と同一遺構	1(2)	X期頃	R18・19	114. 115
126		土坑		1		T17	
127		土坑		1		Q15	
128		ピット群		1		O18	
129	257SB355	ピット	SB355の柱穴	1	平安後期	O17	
130	257SK130	ピット	土器埋納	1	XII期	R19	84. 86. 111. 112
131		ピット群		1		O16	
132		ピット群		1		O16	
133		ピット群		1	平安中期	O16	
134		ピット群		1		Q19	
135	257SD135	溝	格子状の溝の上面、底面凸凹、灰色粘質土	2	XII期頃	I～M・10～12	87. 89. 118. 119
136		ピット群		1	平安前期	Q18	
137		ピット群		1	平安	R19	
138		ピット		1	平安	R20	
139		ピット		1		R19	
140		井戸？	第267次で調査	1		V20	
141		ピット群		1	平安	S20	
142		ピット群	奈良時代の遺物が多い	1	平安後期	U21	
143		ピット		1		O17	
144		ピット		1		Q19	
145	257SD145	溝	格子状溝の西端	2	10世紀代か？	ST13	87. 89
146		ピット群		1	平安前期？	S19	
147		ピット群		1		Q16	
148		ピット群	位置不明			O17	
149		土坑		1		V21	
150	257SD150	溝	黒灰色土、9世紀の遺物殆どだが最終埋没はX期頃か	2	VII期前後	ST13・14	87. 119～121
151		土坑		1	8世紀末～9世紀	U21	
152		ピット群		1		V21	
153		ピット群		1		T12	
154		攪乱		1		T12	
155	257SD155	溝	S-160→155	2	平安後期～	19・10	
156		ピット	鋳型出土	1		T12	
157	257SB360	ピット群	一部SB360の柱穴	1	平安後期？	Q15	
158		ピット群		1		Q14	
159		ピット群		1		S14	
160	257SD160	溝	S-10と15が混在した溝　道路側溝	2	平安後期	LJ8～14	87. 88. 114. 115
161		ピット群		1		S14	
162		ピット群		1		S15	
163		ピット群		1		S14	
164		ピット群		1		O12	
165	257SD165	溝	道路側溝	2	平安後期？	H9～11	88. 113. 114
166		ピット		1		N12	
167		ピット群		1		O14	
168		ピット群		1		O14	
169		ピット群		1		P16	
170	257SD170	溝		2	VIII期前後	G12～14	87. 89. 120. 121
171	257SB355	ピット群	一部SB355の柱穴	1		O15	
172	257SB355	ピット群	一部SB355の柱穴	1	平安後期	O16	
173		ピット群		1	平安前期	U20	
174		ピット		1		P13	
175	257SK175	土坑	S-175→402→135→428　S-300との切り合い未確認	3	8世紀後半～末	KL11	102. 103. 163～169
176		土坑		1	平安	N14	
177		ピット群	SB360の柱穴の一部を含む	1		O15	

178	257SB355	ピット	一部SB355の柱穴	1	平安後期？	O17	
179		ピット	炭混じり　S-95の最上面	1		T16	
180	257SD180	溝	道路側溝	2	VIII期前後	I13・14	87. 89. 120. 121
181		溝		1	平安	LMN11	
182		ピット群		1		L10	
183		ピット		1		N10	
184		土坑	黄灰色土　S-190の沈み込みとみられる	1	平安後期？	I14	
185	257SD185	溝	S-185→160　S-160をIIラインから分ける	2	9世紀初頭前後	I11～15	87. 88. 113. 114
186		ピット群		1		P18	
187		ピット群		1	平安後期	S16	
188		ピット群		1		T17	
189		土坑		1	平安前期	U18	
190	257SE190	井戸	黒灰色土炭混じり　S-180→190	2	XII期頃	I14	90～92. 132～134
191		ピット群		1	平安前期	Q17	
192	257SB120	ピット	SB120の一部	1		J7	
193		ピット群		1	平安前期	P17	
194		ピット群		1		S18	
195	257SK195	土坑	黒灰色土	2	9世紀初頭	I14	93. 142. 143
196		ピット群		1	平安後期～	T18・19	
197		ピット群		1	平安後期	ST18	
198		ピット群		1	平安後期～	V18	
199		土坑		1	平安前期	P15	
200	257SD200	溝	茶褐色土　J13付近は下層が灰色粘土　S-205→200	2	XI期前後	J13～16	87. 89. 120～122
201	257SB360	ピット	SB360の柱穴の一部　底に石	1	平安後期～	P15	
202		ピット		1		P15	
203		土坑		1		P17	
204		土坑		1	9世紀中頃	P17	
205	257SK205	土坑	黒灰色土　S-205→200	2	XII期前後	J15	93. 142. 143
206		ピット	S-127の底面	1		Q15	
207		ピット		1		P15	
208	257SB360	ピット	SB360の柱穴の一部	1	平安後期	P14	
209		ピット		1	平安後期～	P14	
210	257SE210	井戸	S-210→292	2	VIA期	Q11	92～94. 134～136
211	257SB360	ピット	SB360の柱穴の一部	1	平安後期～	Q14	
212	257SB360	ピット群	SB360の柱穴の一部	1	平安後期～	R14	
213	257SB360	ピット	SB360の柱穴の一部	1	12世紀代	S14	
214	257SB360	ピット	SB360の柱穴の一部	1		S14	
215	257SD215	溝	灰色粘質土　S-145・225の延長か　格子状溝関連	2	10世紀代？	P～R13	89. 145. 146
216		ピット		1		L7	
217		ピット		1		L7	
218		ピット		1		K7	
219		ピット		1		K6	
220	257SK220	土坑		3	8世紀末頃	GH14	102. 168～170
221		ピット		1		J7	
222		ピット		1		J4	
223		ピット		1		J7	
224		ピット		1		G4	
225	257SD225	溝	灰褐色粘質土　　格子状溝関連	2	9世紀初頭	MN13・14	87. 89. 145. 146
226		ピット		1		F7	
227		ピット		1		I9	
228		落ち込み		1		F7	
229		ピット		1		H8	
230	257SX230	土坑	黒灰色土	2	平安後期	L14	143. 144
231		ピット		1		G10	
232		ピット		1		D9	
233		落ち込み		1		C9	
234		土坑		1		C9	
235	257SD235	溝	S-225の延長　S-235→225、M14付近で分層確認	2	平安	JI4～MI4	87. 89. 146
236		ピット群		1		NI4	
237		ピット		1		RI7	
238		ピット群		1		RI2	
239	257SD239	溝		1	古代	BC9	89. 90
240	257SE240	井戸	黒灰色土　S-235→240(微妙)	2	X期前後	K14	93. 94. 135～139
241		ピット	位置不明			B9	
242		ピット		1		E8	
243		ピット	S-15の底面	1		I6	
244		ピット		1		I6	
245	257SE245	井戸	刳りぬき材使用	2	VIII～IX期	MN15	93. 94. 136～141
246		ピット		1		H8	
247		ピット		1		L9	
248		ピット		1		N8	
249		ピット		1		M8	
250	257SD250	溝	S-250→70	2	X期	ST14	90. 122
251		ピット		1		M8	
252		ピット		1		P14	
253		ピット		1		F6	
254		ピット		1		E3	
255	257SE255	井戸		2	10世紀	RS18	93. 94. 140. 142
256		ピット	S-258の底面	1		K13	
257		ピット	S-258の底面	1		K13	
258		土坑		1	平安後期～	K13	
259		落ち込み		1		L15	
260	257SX260	溝状整地？	茶褐色土	2面基盤層	平安前期	I～O9・10	154～157
261		土坑		1	平安後期～	M15	
262		ピット		1		K8	
263		ピット		1		D10	
264		ピット		1	平安後期	F13	
265		整地の残り		3(2)	平安後期	FG7	
266		ピット	S-45の底面で検出	1		F13	
267		ピット		1		J10	

268		ピット		1		J10	
269		ピット		1		R19	
270		掘立柱建物	SE070の上面検出の1×1間のピット、井戸の上屋？	1		R14	84. 86
271		ピット		1		V17	
272		ピット		1		U17	
273		ピット		1	9世紀	U17	
274		ピット		1		T18	
275	257SD275	溝	灰茶色土	3	8世紀後半	A～H・10・11	101. 161. 162
276		ピット群		1	平安	S15	
277	257SB360	ピット	SB360の柱穴の一部	1	平安後期	G14	
278		ピット		1		H13	
279		ピット群		1	平安	T15	
280	257SK280	土坑もしくは溝	黒灰色土	3	平安前期	LM15	168. 170
281		ピット群		1	平安後期	U14・15・16	
282		ピット群		1		T13・14	
283		ピット		1		U14	
284		ピット群		1		S12	
285	257SD285	溝	茶褐色土　S-300→285　S-804の延長か	3	8世紀後半前後	J～Q・14・15	101. 161～163
286		土坑		1	平安後期	U13	
287		ピット		1		P10	
288		ピット		1		R18	
289		ピット群		1		U13	
290		自然流路	茶色砂質土	3面基盤層		K～T・11～18	
291		ピット	白灰色粘質土	2		R13	
292		土坑（不定形）	明灰色粘質土　S-210→192	2		Q11	
293		落ち込み	淡灰色粘質土	2		Q10	
294	257SX294	落ち込み（不定形）	整地土？　黄灰色粘質土←灰色粘質土	2	平安後期	OPQ10	144
295	257SB295	掘立柱建物	2間×3間の東西棟　S-300→295	3	奈良末～平安初期	MN10～12	97. 98. 158. 159
296		落ち込み		2	平安後期	RS13	
297		ピット		2	奈良時代	N10	
298		ピット		2		M10	
299		ピット		2		M9	
300	257SB300	掘立柱建物	5間×11間の南北大型建物　S-300→305	3	8世紀中～後半	L～T・11～14	97. 99～101. 158～161
301		ピット		2		L7	
302		ピット		2		L7	
303		落ち込み？		2	10世紀～	R11	
304	257SX304	土坑	明灰黄色粘質土	2	平安	R11	144
305	257SB305	掘立柱建物	2間×3間の南北棟　S-300→305　S-305→285	3	8世紀後半前後	O～R13・14	98. 101. 159. 161
306	257SK306	土坑	灰色粘質土	2		S14	143
307		窪み	灰茶色土（黄灰色土ブロック混じり）	2		PQ11	
308		ピット群		2		S13	
309		ピット群		2		S13	
310		整地土？	灰黄色土	3面基盤層		Q～T・10～13	
311		ピット群		2	平安後期	T13	
312	257SX312	土坑	格子状溝に切り込む	2	9世紀中頃前後	JK6	144. 145
313		窪みもしくは溝	灰茶色粘質土	2		O11	
314		窪み	灰茶色粘質土	2	平安	Q11	
315		整地土	淡灰黄色土	3面基盤層		J～P・10～13	
316		ピット		2		J4	
317	257SB120	ピット	SB120の柱穴	2(1)		J5	
318	257SB120	ピット	SB120の柱穴	2(1)		J5	
319	257SB120	ピット	SB120の柱穴	2(1)	平安後期～	J6	
320	257SX320	自然流路	茶色砂質土（S-290と同一）	3面基盤層		K～T・11～18	171. 172
321	257SB120	ピット	SB120の柱穴	2(1)		K6	
322		ピット		2		L7	
323		ピット		2		K7	
324		ピット		2		K7	
325	257SX325	整地土？	整地土？　暗灰色土	3面基盤層		M～P14・15	171. 172
326		ピット		2		J7	
327		ピット		2		J8	
328		ピット		2		J8	
329		ピット		2		K8	
330	257SX330	整地土もしくは堆積層	灰色土	3面基盤層		K～Q15～17	171. 172
331		ピット		2		L8	
332		ピット		2		O11	
333		ピット		2		S13	
334		ピット		2		S13	
335		整地土	淡灰色土	3面基盤層	古代	TU20・21	
336	257SX380	南北溝	格子状	2		S11	
337	257SX380(SX337)	南北溝	格子状	2		R～T12	95. 146. 147
338	257SX380	東西溝	格子状	2		S11～13	146. 147
339	257SX380	南北溝	格子状	2	古代	J～M7	95
340	257SX340	包含層？	淡灰色粘質土	3面基盤層	古代	U16・17	171. 172
341	257SX380(SX341)	南北溝	格子状	2	古代	JK6	95. 146. 147
342	257SX380	南北溝	格子状	2	平安前期？	JK5	95
343	257SX380	南北溝	格子状	2	平安前期？	J4	
344	257SX380	東西溝	格子状	2	平安前期？	L6・7	
345	257SE345	井戸	S-345→95	4(3)	9世紀前半前後	T16	101. 102. 163
346	257SX380	東西溝	格子状	2		K5～7	95
347	257SX380(SX347)	東西溝	格子状	2		J5～8	95. 146. 147
348		土坑？		2	平安後期～	H5	
349		窪み		2	平安後期	H4	
350	257SB350	掘立柱建物	2間×3間の東西棟で、南側に庇付	1	平安後期	KL14・15	78. 83. 105. 106
351		ピット		2		H6	
352		ピット		2		I8	
353		溝		2	平安後期～	F7・8	
354		ピット		2		J7	
355	257SB355	掘立柱建物	1間×3間の東西棟、南北1間分の庇付	1	XII期	NO15～17	78. 81. 83. 105. 106
356		ピット		2	平安	C8	
357		ピット		2		E8	

358		ピット		2		J8	
359		ピット		2		M8	
360	257SB360	掘立柱建物	2間×5間の南北棟	1	12世紀代？	P～S14・15	80. 81. 105. 107
361		ピット		2		M8	
362		ピット		2		M8	
363		東西溝（格子）	位置不明			Mライン	
364		ピット		2		J8	
365	257SB365	掘立柱建物	236-1SB500と同一遺構	3	奈良時代？	L7	101
366		窪み	淡灰色土	2	平安後期	E6	
367		ピット群		2		EF6	
368		ピット		2	平安	E6	
369	257SX369	溝状	灰色粘質土	2	VII期頃	N8・9	144. 145
370	257SF370	東西道路	S-10・160とS-2・165の間	2	平安時代	H1・2～14	93
371	257SX380	東西溝	格子状	2	平安前期？	N8～13	
372	257SX380(SX372)	南北溝	格子状	2		M～P9	146. 147
373	257SX380	東西溝	格子状	2	奈良～平安前期	O9	
374		窪み		2		B8	
375	257SF375	東西道路	S-185とS-20との間	2	奈良時代	G～I・2～15	93. 96
376		溝		2		I7	
377		窪み		2		I8	
378	257SX380	東西溝	格子状	2	平安	M11・12	
379		ピット群		2		I7	
380	257SX380	畑状遺構	格子状の溝群				95～97. 145～148
381	257SX380(SX381)	東西溝	格子状	2		M8～13	146. 147
382	257SX380	東西溝	格子状	2		M11・12	
383	257SX380	南北溝	格子状	2		N08	
384	257SX380	東西溝	格子状	2	平安前期	O8～13	
386		落ち込み群		2		B11	
387		溝	黄茶色土	2		D9・10	
388		ピット		2		E11	
389		落ち込みもしくは土坑？	茶褐色粘質土、格子状溝を覆う	2	平安	J10	
391		ピット	灰褐色粘質土	2		J10	
392		落ち込み		2		E10	
393		ピット		2		J10	
394		溝もしくはたまり	淡灰色土	2		H10	
396		ピット		2		G10	
397		溝		2	平安前期？	L9・10	
398		たまり	S-20→398	2	平安後期以降	G10	
399		たまり		2		E10	
401		溝		2	平安	L9	
402	257SX380(SX402)	東西溝	格子状	2	平安前期	K9～13	95. 146. 147
403		溝		2	奈良～平安前期？	K8～10	
404		溝		2		L8	
406		溝もしくはたまり		2		J9	
407	257SX380	南北溝	格子状　位置不明			J8	
408		ピット		2		C9	
409	257SD030	溝	S-30の掘り残し	2	平安後期	DE9	
411	257SD411	溝	S-20との切り合いはない	2	古代	E～G9	87. 89. 90
412	257SX380(SX412)	東西溝	格子状	2		J9～13	146. 147
413		たまり	S-414→413	2		D9	
414	257SD414	溝	S-411と一連か？	2	平安	DE9	89. 90
416		ピット		2		G13	
417		たまり		2		K10	
418	257SX380(SX418)	東西溝	格子状	2		L9～13	146. 147
419	257SX380(SX419)	南北溝	格子状	2		KL9	146. 148
421		溝	灰褐色粘質土（S-424と一連？）	2		H13・14	
422		たまり？	灰褐色砂	2	平安	H13	
423		南北溝	灰褐色粘質土（S-421と一連？）、格子溝の可能性あり	2		H112	
424		東西溝	灰褐色粘質土（S-421と一連？）、格子溝の可能性あり	2		H12	
426	257SX380	南北溝	格子状	2		KL10	
427	257SX380(SX427)	南北溝	格子状	2		J～O10	146. 148
428		たまり	S-175→402→135→428	2	XII期以降	K11	
429		溝		2		L12	
431		ピット		2	平安後期～	M9	
432		たまり	灰色粘質土	2	平安後期～	M10	
433	257SX433	溝	茶褐色土	2		JK10	146. 148
434	257SX380	南北溝	S-337とS-628と同一溝、格子状	2	平安前期	K～O12	95
436		溝		2		M12	
437		溝		2		M12・13	
438		溝		2		MN11	
439		ピット	灰褐色粘質土	2		M13	
441		溝		2		M12	
442	257SX380	南北溝	格子状	2		N10	
443	257SX380	東西溝	格子状、S-371との切り合い不明瞭	2		N10	
444		ピット		2		K11	
446		ピット	黒灰色土	2	奈良？	L11	
447		溝	灰褐色粘質土	2		M12	
448		溝	灰茶色粘質土	2		N12	
449	257SX380	東西溝	格子状　灰茶色粘質土	2	平安前～中期？	MN11～13	
451		ピット		2		J12	
452		ピット群		2		K11	
453		ピット群		2		L10	
454		ピット		2	平安後期～	M14	
456		ピット		2	平安	M14	
457		ピット		2		M13	
458		ピット		2		M14	
459		ピット		2		M14	
461		ピット		2		M14	
462		ピット		2		M14	
463		ピット		2	平安後期？	M14	

464		土坑もしくは、たまり		2	平安	L14	
466		溝もしくは落ち込み	灰茶色粘質土　位置不明			M13	
467		ピット群		2		K10	
468		ピット群		2		L10	
469		溝		2		J9・10	
471		溝	S-471の下にS-185	2		I12・13	
472		ピット		2	平安	L13	
473		ピット		2	平安	L13	
474		ピット		2	平安	L14	
476		ピット		2		L14	
477		ピット		2		L14	
478		ピット		2	平安後期～	L14	
479		ピット		2		L14	
481		ピット	灰茶色粘質土	2	平安	O14	
482		ピット	灰茶色粘質土	2		N14	
483		ピット	灰茶色粘質土	2		N14	
484		ピット	灰茶色粘質土	2	平安	N14	
486		ピット		2		K13	
487		ピット		2		K13	
488		溝		2		I11	
489		溝		2		I15	
491		たまり		2		I13	
492		たまり		2	平安後期以降	N14	
493		ピット		2		L12	
494		ピット		2		L12	
496		ピット	灰色粘質土	2		I15	
497		土坑		2	平安後期	I15	
498		ピット		2		Q12	
499		ピット		2		Q12	
501		ピット		2	平安	Q12	
502		ピット		2		Q12	
503		ピット		2		Q12	
504	257SX380(SX504)	東西溝	格子状	2	平安	P9～11	146.148
506		たまり	S-294の底面	2		P10	
507		たまり、もしくは土坑		2		S12	
508		ピット		2		R12	
509		ピット		2		R13	
511		ピット		2		R12	
512		たまり	土器破片多い	2	平安後期	Q13	
513		ピット		2		I14	
514		ピット		2		I14	
516		ピット		2		I15	
517		ピット		2	平安後期～	I15	
518		ピット		2	平安	I15	
519		東西溝		2		J13	
521		土坑		2		K13	
522		ピット		2		O11	
523		ピット		2		O10	
524		ピット		2		P10	
526		ピット		2		P11	
527		落ち込みもしくは整地土	落ち込みもしくは整地土　明灰黄色粘質土	2	平安前期？	O・P11	
528		溝		2		Q10	
529	257SX380(SX529)	東西溝	格子状	2		Q10～13	146.148
531		ピットもしくは土坑		2		Q10	
532		溝もしくは土坑		2	奈良	Q10	
533		溝		2		R10	
534		溝	格子溝と同様の埋土（灰褐色粘質土）位置不明			Q12	
536		東西溝（格子）	位置不明			T12	
537		ピット	黒色粘質土	2		T13	
538		土坑		2		S12	
539		溝		2		S11	
541		ピット	灰褐色粘質土	2		S12	
542		土坑	黒灰色粘質土（炭混じり）	2		S12	
543		溝もしくは土坑		2		T11	
544		土坑		2		T11	
546		ピット		2		T12	
547		溝もしくは土坑		2		T11	
548		落ち込み	褐灰色粘質土	2		T12	
549		落ち込み		2		T12	
551		ピット		2		S12	
552		ピット		2		T12	
553		ピット		2		S11	
554		ピット	灰黒色粘質土（木くず混じり）	2		T12	
556		ピット		2		T12	
557		ピット		2		U12	
558		ピット		2		U12	
559		ピット		2		U13	
561		ピット		2		U13	
562		落ち込み		2		Q10	
563		ピット		2		J14	
564		ピット		2		J14	
566		ピット群		2	平安	J14	
567		ピット		2		J15	
568		ピット		2		J16	
569		ピット		2		J15	
571		窪み	黒灰色土（砂質）　浅い	2		J16	
572		溝	S-160の延長？　黒灰色土、下層は西側地山と同じ砂質	2	平安前期？	J15	
573		ピット		2		J15	
574		ピット群		2		J15	
576	257SX380	東西溝	格子状	2		R12・13	95

577		土坑		2		O13	
578	257SX380	東西溝	格子状	2		N12・13	
579	257SX380	東西溝	格子状	2		O12・13	
581	257SX380	東西溝	淡灰色土　格子状　S-384との新旧不明瞭	2		O11・12	
582	257SX380	南北溝	格子状	2		NO13	
583	257SX380	南北溝	格子状	2		OP12	
584		落ち込み	黒灰色粘質土（炭混じり）	2		R11	
586		土坑		2		T11	
587	257SX380	溝	格子状　S-426の延長？	2		O10	
588		落ち込み		2		O10	
589		ピット		2		N12	
591		窪み	灰褐色粘質土　土器破片多い	2	9世紀初前後	O13・14	
592		ピット		2		L13	
593		ピット		2		L13	
594		溝		2		L13	
596		ピット群		2		L13	
597		たまり		2		J14	
598		たまり		2	平安	K14	
599		ピット群		2		K13	
601		ピット		2		L14	
602		ピット		2		K13	
603		ピット		2	平安後期	K14	
604		ピット		2		P12	
606		ピット		2		P12	
607		ピット		2		P12	
608		ピット		2		P12	
609		ピット		2		P12	
611		ピット		2		P12	
612		ピット		2		P11	
613	257SX380	東西溝	格子状　褐色砂質土	2		P12・13	
614	257SX380	東西溝	格子状	2		P11～13	
616		ピット		2		S12	
617		ピット		2		S12	
618		土坑		2		S11	
619		ピット		2		Q14	
621		ピット		2	平安	N15	
622		ピット		2		N15	
623		ピット		2		N15	
624		ピット		2		N15	
626		溝		2	平安前期	M14・15	
627		ピット群		2	平安	L16	
628	257SX380(SX628)	南北溝	格子状	2		PQ12	146.148
629	257SX380	東西溝	格子状	2		P12	
631		ピット群		2		L14	
632		土坑		2		K14	
633		ピット群		2		K14	
634		たまり		2		K16	
636		ピット群		2	平安	K16	
637		ピット群		2	平安前期～中期	MN18	
638		たまり	暗灰褐色粘土	2		P13	
639		たまり	黒灰色土	2		L13	
641		たまり	明灰褐色粘質土	2		P13	
642		たまり		2		P12	
643		溝	黒色土	2	奈良～平安初期	O14	
644		ピット群		2		O15	
646		窪み		2		I14	
647		ピット		2		I14	
648		ピット群		2		L13	
649		ピット		2	8世紀後半	Q13	
651		ピット		2		Q13	
652		ピット		2	平安後期～	Q13	
653		ピット		2		Q13	
654		ピット		2		R13	
656		たまり		2		L14	
657		窪み群		2		O14	
658		ピット群		2		M14	
659		ピット		2		M14	
661		ピット群	S-492の下、掘り残し？	2	平安後期	N14	
662		ピット群		2	平安後期	N14	
663		ピット		2		L14	
664		土坑	黒色土	2		N15	
666		ピット		2		J14	
667		ピット群		2		M15	
668		ピット群		2		O17	
669		ピット		2		P17	
671		ピット		2		O14	
672		ピット		2		N15	
673	257SD673	溝	黒茶色土	2	X期頃	Q17～19	87.89.114.115
674		たまり	灰褐色粘質土、土師器小破片多量	2	平安後期	PQ14	
676		土坑	灰黄色粘質土　S-676→210	2		Q11	
677		ピット		2		P18	
678		土坑もしくはピット		2		Q18	
679		土坑		2		Q18	
681		ピット群		2		R18・19	
682		ピット		2		R19	
683		ピット		2		R19	
684		ピット群		2	8世紀後半	R19	
686		ピット		2	平安	S20	
687		ピット		2		S19	
688		ピット群		2		T19	

689		ピット		2	平安	T20	
691		ピット		2	平安後期	U19	
692		土坑		2		U20	
693		ピット		2		U20	
694		ピット群		2		K15	
696		ピット		2		K15	
697		ピット		2		K15	
698		ピット		2		K15	
699		土坑もしくはピット		2		K15	
701		ピット群		2	平安	KL14・15	
702		ピット群		2		L15	
703		ピット群		2		KL14	
704		土坑もしくは、たまり		2		L13	
706		土坑		2		Q14	
707		溝		2		Q15	
708		溝		2		ST15	
709		溝		2		S15	
711		ピット群		2		R14	
712		ピット群		2	平安	Q15	
713		ピット群		2		T15・16	
714		ピット群		2	平安	U15	
716		土坑		2	平安	N16	
717		ピット群		2		N16	
718	257SD718	溝		2	平安前期	R14・15	89.146.148
719		ピット		2		P14	
721		たまり	暗灰色土	2	8世紀後半	P16	
722		ピット		2	8世紀末	Q16	
723		たまり		2		P14	
724		溝		2	古代	OP14	
726		ピット群		2		NO16	
727		ピット		2		N16	
728		ピット群		2		M16	
729		土坑		2		M15	
731		土坑		2		M15	
732		ピット群		2		M15	
733		ピット		2	平安	M15	
734		ピット		2		O16	
736		ピット		2		Q16	
737		ピット群		2	平安後期	P15	
738		ピット		2		Q14	
739		ピット		2		P14	
741		ピット群		2		U14	
742		ピット		2		K7	
743		ピット		2		J5	
744		ピット		2		L7	
746		ピット		2		L7	
747		ピット		2		L8	
748		ピット		2		L9	
749		ピット		2		L9	
751		ピット		2		L9	
752		ピット		2		K9	
753		ピット		2		K8	
754		ピット		2		L8	
756		ピット		2		K8	
757	257SX380	南北溝	格子状	2	古代	JK8	
758		ピット		2		J9	
759		ピット		2		K10	
761		ピット		2		N11	
762		落ち込み		2		O16	
763		ピット群		2	奈良時代？	OP16	
764		溝		2		T14	
766		落ち込み		2		T14	
767		ピット群		2		T14・15	
768		整地？	整地？　灰褐色粘質土　位置不明		平安	T15	
769		ピット		2	平安後期～	U18	
771		ピット群		2		U19	
772		ピット		2	平安前～中期？	U19	
773		ピット		2		T19	
774		落ち込み群		2	平安前期？	S18	
776		溝		2	平安後期	S20	
777		ピット		2	9世紀	S20	
778		ピット		2	平安前期	S19	
779		ピット		2		T19	
781		ピット		2	平安後期	U19	
782		ピット		2		U19	
783		ピット		2		U19	
784		ピット		2		S18	
786		ピット		2		N13	
787		ピット		2		M11	
788		ピット		2		L10	
789		ピット		2		K9	
791		ピット		2		J11	
792		ピット		2		K9	
793		ピット		2		J8	
794		ピット		2		M9	
796		ピット		2		R18	
797		溝		2		L12	
798		溝もしくは、たまり		2		K12・13	
799		整地（2面基盤層）	褐灰色土	2面基盤層	奈良時代	TU12・13	
801		土坑		2		QR13	

802		ピット群		2		R12	
803		溝	位置不明			K10	
804		溝		3		J14	
806		たまり		2		R12	
807		土坑		3		D11	
808		土坑		3	平安後期	E12	
809		土坑		3	平安	E12	
811		整地（2面基盤層）		2面基盤層		IJ14・15	
812		溝	黒灰色土	3		M15	
813		ピット群	黒灰色土	3		M15	
814		ピット群	黒灰色土	3		M17	
816		ピット群		3		L15	
817		ピット群		3		L14	
818		ピット群		3	奈良末	K14	
819		ピット		3	奈良末～平安初期	L15	
821		ピット群		3	平安	K15	
822		ピット		3		L15	
823		ピット		3		M14	
824		整地（2面基盤層）		2	9世紀	R17	
826		溝	S-826→824	2	9世紀	R17	
827		たまり	灰茶色土（やや砂質）	3	平安前～中頃	M17	
828		ピット群		3		R19	
829		土坑		3	奈良末	R17	
831		たまり		3		R17	
832		ピット		2		R19	
833	257SD833	溝		3	8世紀後半	R19	114.115
834		ピット		2		S20	
836	257SX836	整地？　2面基盤層	灰褐色土、土器破片多い	2		T20	156.157
837		ピット群		3	平安	T20	
838		ピット		3		T20	
839		ピット		3		T20	
841		土坑		3	平安前期	T20	
842		土坑もしくは、たまり		3		T21	
843		ピット		3		T16	
844		溝		3		T16	
846		整地	灰色土	3	平安前～中頃	U16・17	
847		ピット群		3		U16・17	
848		ピット		3	平安中期？	U17	
849		ピット		3	平安	U16	
851		土坑もしくは、たまり		3		R16	
852		整地？				R19	
853		ピット群		3	平安	K・M14・15	
854		土坑		3		T21	
856		整地（2面基盤層）	淡灰色土	2面基盤層		S15	
857		ピット群		3		R19	
858		ピット群		3	平安	S20	
859		ピット		3		S19	
861		ピット		3		R19	
862		土坑		3	平安前期？	S19	
863		ピット		3	9世紀前半	S19	
864		ピット		3		S19	
866	257SX866	整地？	黒灰色土	3		U19	156.157
867		ピット		3		S19	
868		ピット		3		S19	
869		ピット群		3		S20	
871		ピット群		3		T21	
872		ピット		3		T20	
873		ピット		3		T20	
874		ピット群		3		T20	
876		ピット群		3	平安	U21	
877		ピット		3	平安	T20	
878		ピット		3		T20	
879		ピット群		3		U19	
881		ピット群		3	平安	U19	
882		ピット群		3		U19	
883		溝		3		T20	
884	257SX884	整地？（2面基盤層）		2面基盤層		TU19	156.158
886		ピット群		3		JK6・7	
887		ピット群		3		L7	
888		ピット		3		L7	
889		ピット		3		L6	
891		ピット		3		M7	
892		土坑		3		B11	
893		溝	淡灰色砂質土	3		D10	
894		ピット		3		D10	
896		土坑		3	平安	E12	
897		落ち込み？		3		G14	
898		ピット群		3		H12・14	
899		ピット群		3		M9	
901		落ち込み		3		G10	
902		落ち込み？		3		G14	
903		ピット群		3		JK13	
904		ピット群		3		K14	
906		ピット群		3		L8	
907		ピット群		3		K8	
908		たまり	灰色土	3		K14	
909		ピット群		3		M8	
911		溝		3		H9～11	
912		落ち込み群		3		G9	
913		柱穴		3		L7	

914	257SB365	柱穴		3		L7	
916		ピット群		3		J11	
917		ピット群		3		M17	
918		ピット群		3		N17	
919		ピット群		3		M15	
921		ピット群		3		M15	
922		ピット群		3		M14	
923		溝		3		M17	
924		溝		3		M17	
926		ピット群		3		L12	
927		柱穴		3		L6	
928		溝		3	平安	L13・14	
929		溝		3		M13	
931		窪み		3	平安前期	N18	
932		窪み		3		M17	
933		ピット群		3		N16	
934		ピット		3		M16	
936		ピット		3		K15	
937		ピット群		3		N11	
938		ピット	暗灰色土	3	平安	N11	
939		ピット	黒灰色土（炭混じり）	3	8世紀後半	O11	
941		ピット群		3		N11	
942		ピット群		3		O11	
943		ピット群		3		P12	
944		ピット群		3		L16	
946		ピット群		3		L15	
947		ピット群		3		M17	
948		ピット群		3		KL9・10	
949		ピット群		3		L15	
951		ピット		3		L14	
952		ピット		3		M14	
953		土坑		3		O15	
954		土坑		3	8世紀末	N15	
956		土坑		3	平安	O14	
957		ピット		3	8世紀後半	O15	
958		土坑		3		P19	
959		ピット群		3		O14・15	
961		ピット群		3		P18	
962		ピット群		3		P19	
963		ピット群		3		Q18	
964		ピット群		3	平安	U15	
966		ピット群		3	平安後期～	N16	
967		落ち込み？		3		M7	
968		ピット群		3	平安後期	P14	
969		ピット群		3		P15	
971		ピット		3		P14	
972		ピット		3		R15	
973		ピット		3	12世紀～	Q15	
974		ピット群		3		P16	
976		柱穴？		3		L6	
977		整地？	整地？　茶灰色土	3	奈良時代	ST15	
978		土坑群	黒灰色土	3		PQ16・17	
979		ピット		3		J5	
981		土坑群		3		QR17	
982		ピット群		3		ST16	
983		ピット群		3		S15	
984		ピット		3		S16	
986		ピット群		3	9世紀	T15	
987		ピット群		3		O17	
988		ピット群		3	平安	U14	
989		ピット群		3		U15	
991		土坑		3	9世紀	U14	
992		土坑		3		TU13・14	
993		ピット群		3		U14	
994		窪み		3		U15	
996		たまり		3		S18	
997		たまり		3		S18	
998		ピット群		3		S18	
999		ピット群		3		M11・12	
1001		ピット群		3		M13	
1002		たまり		3		L14	
1003		ピット群		3		L11	
1004		ピット		3		O10	
1006		溝		3		M11	
1007		土坑		3		N14	
1008		ピット群		3		N12	
1009		ピット		3		N12	
1011		ピット群		3		N12	
1012		ピット		3		N13	
1013		ピット群		3		R13	
1014		ピット群		3		Q14	
1016		ピット群		3		P14	
1017		ピット群		3		Q13	
1018		たまり		3		Q13	
1019		ピット群		3		S12	
1021		ピット		3		T13	
1022		ピット群		3		JK5	
1023		ピット		3		I3	
1024		ピット		3		I7	
1026		ピット群		3		J8	

1027		ピット		3		K6	
1028		ピット群		3		JK9	
1029		ピット		3		K10	
1031		ピット		3		K10	
1032		ピット	位置不明	3		K14	
1033		ピット		3		M10	
1034		ピット		3		O10	
1036		ピット群		3		O12	
1037		ピット群		3		Q12・13	
1038		ピット群		3		R14	
1039		ピット群		3		T12	
1041		土坑		3		T12	
1042		ピット群		3		S19	
1043		ピット群		3	平安前期	S18	
1044		溝	暗灰色粘質土	3		T14	
1046		落ち込み		3		U15	
1047		ピット群		3		U16	
1048		ピット群		3	平安後期	T19	
1049		溝	位置不明			U18・19	
1051		ピット	位置不明			P15	
1052		ピット	位置不明			Q13	
1053		ピット	位置不明			O13	
1054		ピット		3		R14	
1056		ピット		3		R14	
1057		ピット		3		S13	
1058		ピット		3		Q15	
1059		溝		3		U19・20	
1061		溝		3		T18～20	
1062		落ち込み		3	奈良後半	T18	
1063		落ち込み		3	奈良時代？	T19	
1064		落ち込み		3		T19	
1066		ピット		3		T19	
1067		ピット		3		U19	
1068		ピット		3		R13	
1069		ピット		3		M13	
1071		ピット群		3		L13	
1072		ピット		3		L13	
1073		ピット		3		O12	
1074		ピット		3		K10	
1076		ピット		3		R14	
1077		ピット		3		N12	
1078		ピット		3		T14	
1079		ピット		3		Q16	
1081		ピット		3		T16	
1082		ピット		3		L14	
1083		ピット		3		O15	
1084		ピット		3		P18	
1086		ピット		3		R20	
1087		落ち込み？		3		R20	
1088		土坑		3		S20	
1089		土坑		3		T20	
1091		ピット		3		T20	
1092		ピット		3		T19	
1093		ピット		3		T19	
1094		土坑		3		S16	
1096		土坑		3		N17	
1097		土坑		3		N17	
1098		ピット		3		O8	
1099		ピット		3	平安	B11	
1101		ピット		2	平安	D6	
1102		ピット群		3		O17	
1103		ピット		4		L16	
1104		ピット群		4		P16	
1106		ピット群		4		MN15・16	
1107		土坑		4		N15	
1108		ピット		4		O17	
1111		ピット		4		M12	
1112		ピット		4		Q14	
1113		ピット		4		U16	
1114		ピット群		4		U21	
1116		ピット		4		U21	
1117		ピット		4		U21	
1118		ピット群		4		U21	
1119		土坑？		4		T21	
1121		ピット群		4		T21	
灰色土		2面基盤層		2面基盤層		J～T・4～14	150.151
茶灰色土		2面基盤層		2面基盤層		O～Q・12～16	154.155
灰白色土		2面基盤層		2面基盤層		M～Q・15～17	
茶灰色砂質土		2面基盤層		2面基盤層		N～Q・17～18	
黒灰色土		2面基盤層		2面基盤層		I～O・12～17	153.154
茶褐色土		2面基盤層		2面基盤層		T～V・14～16	151.152
黒茶色土		2面基盤層		2面基盤層	奈良時代		153.154
茶色砂		2面基盤層		2面基盤層			154.155

表.10　第257次調査　条坊関連遺構座標値

遺構番号	位置	遺構中点座標値		南門からの距離		方位
		X	Y	X方向（m）	Y方向（m）	
257SD040	北端中点	55710.029	-44710.510	-997.498	120.207	N-0° 4′ 55″ -W
	南端中点	55691.158	-44710.483	-1016.368	120.423	
257SD045・059	SD045北端中点	55702.399	-44714.203	-1005.165	116.591	N-6° 54′ 47″ -W
	SD059南端中点	55698.036	-44713.674	-1009.522	117.164	
257SD065	北端中点	55728.074	-44700.862	-979.357	129.674	N-1° 55′ 31″ -W
	南端中点	55724.653	-44700.747	-982.777	129.824	
257SD002	東端中点	55704.939	-44681.684	-1002.299	149.083	E-0° 56′ 54″ -S
	西端中点	55705.176	-44696.001	-1002.206	134.764	
257SD010	東端中点	55709.190	-44685.230	-998.084	145.494	E-1° 20′ 44″ -S
	西端中点	55709.396	-44694.001	-997.966	136.722	
257SD015	東端中点	55707.658	-44684.056	-999.604	146.684	E-4° 42′ 16″ -S
	西端中点	55708.482	-44694.069	-998.880	136.663	
257SD020	東端中点	55703.815	-44680.955	-1003.416	149.823	E-1° 58′ 25″ -S
	西端中点	55705.050	-44716.792	-1002.540	113.976	
257SD025	北端中点	55722.499	-44697.788	-984.901	132.804	N-0° 4′ 38″ -E
	南端中点	55689.892	-44697.832	-1017.507	133.086	
257SD135	北端中点	55721.110	-44704.896	-986.361	125.710	N-33° 56′ 37″ -E
	南端中点	55711.802	-44711.161	-995.732	119.539	
257SD145・215・225・235	SD145北端中点	55741.639	-44714.163	-965.926	116.238	N-3° 55′ 54″ -E
	SD235南端中点	55712.815	-44716.144	-994.769	114.546	
257SD673・718	SD718東端中点	55734.274	-44715.064	-973.300	115.411	E-1° 30′ 00″ -N
	SD673西端中点	55733.818	-44732.479	-973.930	98.001	
257SD150	北端中点	55742.173	-44715.295	-965.404	115.101	N-7° 13′ 33″ -E
	南端中点	55734.688	-44716.244	-972.898	114.227	
257SD180	東端中点	55706.894	-44712.305	-1000.651	118.444	E-8° 19′ 20″ -S
	西端中点	55707.822	-44718.649	-999.786	112.091	
257SD200	東端中点	55711.438	-44712.953	-996.114	117.750	E-6° 20′ 8″ -S
	西端中点	55712.480	-44722.338	-995.166	108.355	
257SD239・411・414	SD411北端中点	55703.522	-44702.012	-1003.920	128.770	N-0° 51′ 24″ -W
	SD239南端中点	55687.940	-44701.779	-1019.499	129.159	
257SD250	北端中点	55741.022	-44716.596	-966.568	113.812	N-0° 51′ 2″ -E
	南端中点	55738.732	-44716.630	-968.858	113.800	
257SF375	SD185～020の中点東端	55707.004	-44706.027	-1000.478	124.720	E-2° 1′ 4″ -S
	SD185～020の中点西端	55707.355	-44715.990	-1000.227	114.754	
257SF370	SD010～002の中点東端	55706.935	-44686.237	-1000.349	144.510	E-2° 17′ 32″ -S
	SD010～002の中点西端	55707.540	-44701.352	-999.895	129.390	
257SD275	北端中点	55703.023	-44706.071	-1004.459	124.716	N-3° 33′ 10″ -E
	南端中点	55684.049	-44707.249	-1023.444	123.728	
257SD285	北端中点	55731.376	-44717.249	-976.220	113.255	N-1° 29′ 26″ -E
	南端中点	55714.929	-44717.677	-992.670	112.992	
257SD1061	東端中点	55742.840	-44727.533	-964.859	102.857	E-0° 33′ 43″ -S
	西端中点	55742.910	-44734.671	-964.860	95.719	
257SD170	東端中点	55702.078	-44711.208	-1005.456	119.589	E-2° 51′ 47″ -N
	西端中点	55701.834	-44716.087	-1005.748	114.713	
257SD165	東端中点	55705.388	-44700.948	-1002.043	129.815	E-6° 16′ 53″ -S
	西端中点	55706.000	-44706.508	-1001.487	124.249	
257SD185	東端中点	55709.411	-44706.556	-998.077	124.167	E-1° 11′ 3″ -S
	西端中点	55709.692	-44720.150	-997.932	110.571	
257SD160	東端中点	55709.352	-44699.061	-998.060	131.662	E-4° 44′ 2″ -S
	西端中点	55710.758	-44716.040	-996.824	114.670	

政庁中軸線方位＝N-0° 34′ 24″ -E　　政庁南門中点座標＝（X＝56708.680　Y＝-44820.730）

表.11　第257次調査　出土遺物一覧表

S-1ア
土　師　器 破片

S-1ウ
須　恵　器 破片
土　師　器 坏

S-1エ
土　師　器 坏

S-1カ
土　師　器 坏、甕、破片

S-1カ掘方
土　師　器 破片

S-1キ
須　恵　器 壺?
土　師　器 坏

S-1キ掘方
須　恵　器 破片
土　師　器 坏

S-1ク
土　師　器 坏、小皿a(糸)、破片

S-1ケ掘方
土　師　器 破片

S-1ケ
土　師　器 坏、甕
瓦　　類 破片

S-1ケ柱痕
土　師　器 坏、破片

S-1コ
土　師　器 坏、坏a、破片

S-1コ柱痕
土　師　器 坏

S-1コ掘方
土　師　器 坏、破片

S-1サ
土　師　器 坏
白　　磁 椀：Ⅳ-1b(1)

S-1サ柱痕
土　師　器 破片

S-1サ掘方
土　師　器 破片

S-1シ
土　師　器 坏、小皿a

S-1シ柱痕
土　師　器 坏

S-1シ掘方
土　師　器 丸底坏、破片

S-1ス
土　師　器 坏、丸底坏a、小皿a

S-1ス柱痕
土　師　器 坏

S-1ス掘方
土　師　器 坏

S-1セ
土　師　器 坏

S-1チ
土　師　器 坏、甕

S-1ツ
土　師　器 破片
黒 色 土 器 A破片

S-1テ
土　師　器 坏、小皿a

S-1テ柱痕
土　師　器 破片

S-1テ掘方
土　師　器 坏

S-1ト
須　恵　器 破片
土　師　器 坏、甕、破片

S-1ト掘方
土　師　器 破片

S-1ナ
土　師　器 坏

S-1ナ掘方
土　師　器 破片

S-1ニ
土　師　器 破片

S-1ニ掘方
土　師　器 破片

S-1ネ
土　師　器 坏、坏a、丸底坏、椀c、小皿a

S-1ノ
土　師　器 坏

S-1ハ
須　恵　器 蓋3
黒 色 土 器 B破片
瓦　　類 平瓦(格子叩)

S-1ヒ
土　師　器 坏、破片

S-1ヒ柱痕
土　師　器 坏

S-1ヒ掘方
土　師　器 破片

S-1ヘ
土　師　器 坏

S-1ヘ柱痕
土　師　器 破片
瓦　　類 平瓦(縄目叩)

S-1ヘ掘方
須　恵　器 甕
土　師　器 坏

S-1ホ
土　師　器 坏

S-2
須　恵　器 蓋3、坏、甕、壺
土　師　器 坏、椀c、甕、破片
黒 色 土 器 A破片
瓦　　類 平瓦(縄目叩)、破片(縄目叩、無文)
金 属 製 品 鉱滓
石　製　品 石英

S-2茶灰色土
須　恵　器 坏c、甕、壺
土　師　器 椀c、破片
白　　磁 破片(1)

S-3
須　恵　器 坏
土　師　器 坏、丸底坏
黒 色 土 器 A破片
土　製　品 塼

S-4
土　師　器 坏、破片

S-5a
土　師　器 坏、破片

S-5b
須　恵　器 坏、壺
土　師　器 坏

S-5c
土　師　器 坏

S-5d
土　師　器 坏
瓦　　類 破片

S-5e
土　師　器 坏

S-5f
土　師　器 坏

S-5g
土　師　器 坏

S-6
土　師　器 丸底坏a、椀c、小皿a(ハ)、甕
黒 色 土 器 B破片

S-7

土師	器	坏
須恵質土	器	鉢(東播系)

S-8

須恵	器	坏、坏c
土師	器	坏、丸底坏、小皿a
瓦	類	平瓦(格子叩、破片)

S-9

須恵	器	蓋3、坏、坏c、甕、大甕
土師	器	坏、甕
白	磁	広東系破片(1)
瓦	類	平瓦(破片)、丸瓦(無文)
金属製	品	鉱滓

S-10

須恵	器	蓋1、甕、破片
土師	器	坏、甕、破片
瓦	類	破片
石製	品	平玉石

S-10灰茶色土

須恵	器	蓋3、坏、坏c、甕、壺、ﾌﾂﾐ
土師	器	坏a、丸底坏a、椀c、小皿a、甕
白	磁	椀：I-1(1)、V(1)
瓦	類	平瓦(格子叩、縄目叩)
石製	品	ナイフ形石器
土製	品	焼土塊

S-10茶灰色土

須恵	器	蓋1、蓋3、甕
土師	器	坏a、椀c
黒色土器A		椀c
石製	品	砥石

S-10灰色砂

瓦	類	平瓦(格子叩、破片)

S-10灰褐色土

須恵	器	坏、坏c、甕、壺?
土師	器	坏a、椀c、小皿a、甕、把手
瓦	類	平瓦(無文)、丸瓦(格子叩)

S-10灰色粘土

須恵	器	蓋3、坏、坏c、椀、椀c、甕、大甕
土師	器	小皿a、坏a、丸底坏a、椀c、甕
瓦	類	平瓦(格子叩、縄目叩、無文)、丸瓦(無文、破片)
金属製	品	鉱滓
石製	品	平玉石
土製	品	塼

S-11

須恵	器	破片
土師	器	丸底坏a、椀c、小皿a
黒色土器B		椀c
白	磁	広東系破片(1)
瓦	類	破片(格子叩)

S-12

土師	器	丸底坏a、破片
瓦	類	平瓦(格子叩)

S-13

須恵	器	甕
土師	器	坏、破片
黒色土器B		椀
瓦	類	破片

S-14

須恵	器	坏a、ﾌﾂﾐ
土師	器	坏、坏a、小皿a、甕
瓦	類	丸瓦(破片)、平瓦(無文)
土製	品	輪羽口

S-15

須恵	器	蓋、坏a、坏c、高坏、甕、壺
土師	器	坏、坏a、椀c、甕、器台×高台、破片
黒色土器A		破片
瓦	類	平瓦(格子叩、縄目叩)、丸瓦(縄目叩、無文)

S-15灰色粘土

須恵	器	蓋3、坏、甕、硯獣脚
土師	器	椀c、小皿a、甕、破片
越州窯系青磁		破片I類(1)
瓦	類	平瓦(破片)、丸瓦(格子叩)

S-15褐茶色粘土

須恵	器	甕
土師	器	坏、椀c、甕
黒色土器A		破片
瓦	類	平瓦(縄目叩)

S-16

須恵	器	蓋3、坏c、甕
土師	器	坏、坏a、椀c、小皿a

S-17

須恵	器	蓋3、坏
土師	器	坏、小皿a
瓦	類	破片

S-18

須恵	器	甕、破片
土師	器	椀c、破片
瓦	類	破片
土製	品	ﾄﾘﾍﾞ?

S-19

須恵	器	破片
土師	器	坏、丸底坏?、鉢?
瓦	類	平瓦(格子叩、縄目叩)

S-20

須恵	器	蓋1、蓋3、蓋c3、坏、坏a、坏c、甕、壺、壺b 破片
土師	器	坏、坏a、坏d、高坏、椀c、皿a、甕、把手 破片
黒色土器A		椀c、破片
黒色土器B		椀c
越州窯系青磁		椀：I(1)、II(1)　破片I(1)
白	磁	椀：I-1(1)
弥生土器		甕
瓦	類	平瓦(格子叩、縄目叩)、丸瓦(格子叩、無文)
金属製	品	鉱滓
石製	品	剥片(黒曜石)、砥石
土製	品	焼土塊、輪羽口?

S-20灰色砂

須恵	器	蓋3、坏、坏a、坏c、甕
土師	器	坏、小坏d、甕、鉢
瓦	類	平瓦(縄目叩)

S-21

須恵	器	蓋、坏c、甕
土師	器	坏、丸底坏、小皿a、甕
瓦	類	平瓦(格子叩、破片)、瓦玉
金属製	品	鉱滓

S-22

須恵	器	蓋3
土師	器	坏a、丸底坏a、破片
白	磁	椀；IV(2

S-23

土師	器	坏
石製	品	剥片(安山岩)

S-24

土師	器	破片

S-25灰褐色砂

須恵	器	蓋、坏、壺
土師	器	坏、坏c、甕、把手、破片
瓦	類	平瓦(破片)
石製	品	石鏃、平玉石

S-25灰色土

須恵	器	蓋c、坏、坏a、坏c、甕、壺
土師	器	坏、丸底坏a、高坏×器台、椀c、小皿a、甕、脚付、破片
黒色土器A		椀c、破片
白	磁	椀：破片(1)　皿：V(1)
須恵質(輸入)		朝鮮系無釉陶器
瓦	類	平瓦(格子叩、縄目叩)、丸瓦(格子叩)

S-25淡灰色土

須恵	器	蓋1、蓋3、坏c、甕、壺b、盤?、ﾌﾂﾐ、破片、不明製品
土師	器	坏、坏a、丸底坏、丸底坏a、丸底坏c、椀c ×椀c、小皿a、甕、器台、盤、破片
黒色土器A		椀c
黒色土器B		破片
灰釉陶器		壺
越州窯系青磁		破片II(1)
長沙窯系青磁		椀(1)
白	磁	椀：II-1(3)、IV(4)、IV-1a(1)、IV-1b(1) V-1×VIII-2(1)、破片(2) 皿：VII(1)、V-2b(1)　破片(1)、広東系破片(2)
青白	磁	坏(1)
瓦	類	丸瓦(無文)、平瓦(格子叩、縄目叩)、瓦玉、破片
石製	品	滑石加工品、砥石、剥片(黒曜石)、平玉石
土製	品	土壁、輪羽口?、炉壁

S-26

土師	器	丸底坏、小皿a(ﾍﾗ)

S-27

須恵	器	蓋3、坏c、甕、壺
土師	器	坏、丸底坏、椀c、小皿a(ﾍﾗ)、甕
白	磁	皿：VIII-2(1)、広東系破片(1)　白磁破片(1)
瓦	類	平瓦(縄目叩)、丸瓦(格子叩)

S-28

土師	器	破片

S-29

土師	器	坏、丸底坏、小皿a(ﾍﾗ)

S-31

須恵	器	坏
土師	器	坏a、甕

S-32

須恵	器	蓋3、坏c、甕、脚部、破片
土師	器	坏、甕
白	磁	破片(1)
瓦	類	平瓦(格子叩、縄目叩)、破片
土製	品	ﾄﾘﾍﾞ、焼土塊

S-33

須恵	器	破片
土師	器	坏、丸底坏a、破片
瓦	類	破片

S-34

土師	器	坏、椀c
黒色土器A		破片
越州窯系青磁		破片I(1)

S-35

須恵	器	坏、甕
土師	器	坏、丸底坏a、椀c、小皿a
白	磁	椀：II-1(1)、V(1)、V-1×VIII-2(1)
瓦	類	平瓦(格子叩、縄目叩)
土製	品	輪羽口、焼土塊

S-36

須恵	器	破片
土師	器	坏

S-37

須恵	器	蓋3、坏c、破片
土師	器	丸底坏、小皿a、甕、把手、破片
黒色土器A		破片
瓦	類	平瓦(格子叩、無文)
石製	品	軽石
土製	品	ﾄﾘﾍﾞ

S-38

須恵	器	蓋3、蓋c、坏c
土師	器	坏、丸底坏a、小皿a、甕、把手
黒色土器B		椀、椀c
白	磁	椀：IV(1)
瓦	類	平瓦(縄目叩)
金属製	品	銅(破片)
石製	品	砥石
土製	品	ﾄﾘﾍﾞ?

S-39

土師	器	破片

S-40茶灰色土

須恵	器	蓋3、坏、坏a、甕
土師	器	坏、丸底坏a、椀c、甕、破片
灰釉陶	器	破片
白	磁	椀：I-1(1)
瓦	類	平瓦(縄目叩、格子叩)、破片

S-40淡灰色土

須恵	器	蓋3、坏、坏c、皿a、甕、大甕
土師	器	坏、丸底坏a、椀c、小皿a、甕
越州窯系青磁		椀：I-1(1)
瓦	類	平瓦(格子叩、縄目叩、無文)
石製	品	砥石

S-40灰色土

須恵	器	坏a、甕
土師	器	坏、丸底坏、甕
白	磁	椀：II-1a(1)　破片(1)
瓦	類	平瓦(破片)
石製	品	剥片(安山岩)

S-40灰褐色土

須恵	器	坏c、甕
土師	器	坏a、丸底坏a、破片

S-40灰茶色土

須恵	器	坏、破片
土師	器	坏、椀c、甕、破片
瓦	類	丸瓦(破片)、平瓦(縄目叩)

S-41

須恵	器	坏、甕
土師	器	坏、破片

S-42

土師	器	坏、丸底坏、破片
瓦	類	平瓦(無文)
土製	品	焼土塊

S-43

須恵	器	破片
土師	器	坏、甕、破片
白	磁	椀：IV(1)
瓦	類	破片

S-44

須恵	器	坏a、甕
土師	器	破片

S-45

須恵	器	坏、坏c、甕
土師	器	坏、坏a、丸底坏、小皿a、甕
白	磁	皿：II-1(1)　広東系破片(1)
瓦	類	平瓦(格子叩、縄目叩、無文)、丸瓦(格子叩)
金属製	品	鉱滓

S-46

須恵	器	甕
土師	器	坏、坏a、小皿a、破片
白	磁	皿：広東系破片(1)
石製	品	石英塊

S-47

須恵	器	坏、甕
土師	器	坏、丸底坏a
瓦	類	平瓦
土製	品	焼土塊

S-48

土師	器	坏、丸底坏、椀c、小皿a

S-49

須恵	器	甕
土師	器	椀c、甕
土製	品	焼土塊

S-50淡灰色土

土師	器	坏、丸底坏、小皿a、甕、盤

S-50灰色土

須恵	器	坏、甕
土師	器	丸底坏a、小皿a(ﾍﾗ)、甕、小壺、鉢
黒色土器A		椀c
瓦	類	丸瓦

S-51

土師	器	坏、小皿a
瓦	類	平瓦(格子叩)

S-52

土師	器	坏、小皿a、甕

S-53

須恵	器	破片
土師	器	丸底坏a、丸底坏c、破片
土製	品	焼土塊

S-54

土師	器	坏

S-55a

須恵	器	坏、破片
土師	器	破片

S-55b

土師	器	甕

S-55b柱痕

土師	器	破片

S-55 b 掘方

須恵	器	破片
土師	器	破片

S-55c

土師	器	破片

S-55c掘方

土師	器	破片

S-55d

土師	器	破片

S-55e

土師	器	坏

S-55f

須恵	器	坏
土師	器	坏、破片

S-55g

須恵	器	坏
土師	器	坏
瓦	類	丸瓦

S-55g柱痕

土師	器	器台?、破片

S-55g掘方

土師	器	坏、破片

S-55h

土師	器	坏
瓦	類	丸瓦

S-55h柱痕

土師	器	坏

S-55i

土　師　器	破片

S-55i柱痕

土　師　器	坏

S-55j掘方

土　師　器	坏

S-55j柱痕

土　師　器	坏

S-55k

土　師　器	坏

S-55k柱痕

土　師　器	破片

S-55ℓ

土　師　器	坏

S-55ℓ柱痕

土　師　器	坏

S-55ℓ掘方

土　師　器	坏

S-55m

土　師　器	坏

S-55m柱痕

瓦　類	平瓦

S-55n

土　師　器	坏、椀c
瓦　器	椀c

S-55n柱痕

土　師　器	破片

S-55n掘方

土　師　器	坏、破片

S-55 o柱痕

土　師　器	破片

S-55q

土　師　器	坏、破片

S-55q柱痕

土　師　器	破片

S-55q掘方

須　恵　器	坏
土　師　器	破片

S-55r

土　師　器	坏、甕
黒 色 土 器 A	破片
瓦　類	破片

S-55r柱痕

土　師　器	坏、甕

S-55r掘方

須　恵　器	坏、甕
土　師　器	坏a、小皿a、甕、破片

S-55s

須　恵　器	坏
土　師　器	破片
瓦　類	平瓦(格子叩)

S-55s掘方

土　師　器	坏

S-55t

土　師　器	坏、破片

S-55t柱痕

土　師　器	坏

S-55t掘方

土　師　器	坏

S-55u

土　師　器	破片

S-55u柱痕

土　師　器	坏
黒 色 土 器 B	破片

S-55u掘方

土　師　器	坏、小皿a

S-56

須　恵　器	坏c、壺
土　師　器	坏、甕

S-57

須　恵　器	破片
土　師　器	坏a、椀c、甕
黒 色 土 器 A	椀
瓦　類	平瓦(格子叩)

S-58

須　恵　器	破片
土　師　器	坏a、椀c、甕
黒 色 土 器 A	破片
瓦　類	平瓦(縄目叩)

S-59灰茶色土

須　恵　器	蓋3、甕、鉢、破片
土　師　器	坏、甕
黒 色 土 器 A	破片
土　製　品	焼土塊

S-59暗灰色土

須　恵　器	蓋3、蓋c、破片
土　師　器	坏、椀c、甕
黒 色 土 器 A	椀c
白　磁	椀：Ⅳ(1)
瓦　類	平瓦(縄目叩)、軒平瓦
金 属 製 品	鉱滓

S-60

須　恵　器	蓋c、坏、甕
土　師　器	丸底坏、椀c、甕
黒 色 土 器 A	破片
越州窯系青磁	破片Ⅰ(1)
白　磁	破片(1)
瓦　類	丸瓦(格子叩､無文)、平瓦(縄目叩)
金 属 製 品	鉱滓

S-61

須　恵　器	坏、坏c、甕
土　師　器	坏a、椀c、甕
黒 色 土 器 A	椀c
黒 色 土 器 B	椀c
越州窯系青磁	椀：Ⅰ-5(1)　　破片Ⅰ(1)
瓦　類	平瓦(格子叩)、丸瓦(格子叩)
石　製　品	滑石

S-62

須　恵　器	坏、坏c
土　師　器	坏、丸底坏、椀c、小皿a、甕
黒 色 土 器 A	椀c
瓦　類	平瓦(格子叩)

S-63

須　恵　器	蓋3、坏、坏c、甕
土　師　器	坏、皿a、甕
黒 色 土 器 A	椀
瓦　類	平瓦(格子叩､縄目叩)
石　製　品	剥片(安山岩)

S-64

須　恵　器	甕、破片
土　師　器	坏、丸底坏a、小皿a(ヘラ)、甕
瓦　類	平瓦(格子叩)

S-65茶灰色土

須　恵　器	坏、甕
土　師　器	蓋、坏、坏a、丸底坏a、小皿a、破片
灰 釉 陶 器	破片
白　磁	広東系破片(1)
瓦　類	平瓦(格子叩)、破片

S-65暗灰色粘土

須　恵　器	壺?
土　師　器	坏a、丸底坏a、小皿a、甕
越州窯系青磁	椀：Ⅰ-5(1)
瓦　類	丸瓦(格子叩)、平瓦(格子叩)
土　製　品	焼土塊

S-66

須　恵　器	蓋3、甕
土　師　器	椀c、小皿a、甕、破片
黒 色 土 器 A	破片
瓦　類	平瓦(縄目叩､格子叩)、丸瓦(無文)

S-67

須　恵　器	甕、破片
土　師　器	坏、高坏、甕

S-68

須　恵　器	坏、坏a、甕
土　師　器	坏、甕
瓦　類	平瓦

S-69

須　恵　器	蓋3、坏、坏c、甕
土　師　器	坏、甕
黒 色 土 器 A	破片
白　磁	破片(1)
弥 生 土 器	甕?
土　製　品	焼土塊

S-70暗灰色土

須　恵　器	蓋3、蓋c、坏、坏c、甕
土　師　器	坏a、丸底坏a、椀c、小皿a、甕、鉢
黒 色 土 器 A	椀
白　磁	椀：Ⅳ(1)　　破片(1)
瓦　類	平瓦(格子叩､破片)
金 属 製 品	鉱滓
土　製　品	土壁

S-70暗灰色粘土

須　恵　器	甕
土　師　器	坏、丸底坏、丸底坏a、甕
白　磁	皿：Ⅱ-1(1)
瓦　類	平瓦(格子叩､無文)

S-70暗灰色砂礫

須　恵　器	蓋3?、坏、坏c、甕、壺
土　師　器	坏、丸底坏a、椀c、甕
黒 色 土 器 A	破片
黒 色 土 器 B	破片
白　磁	椀：破片(1)
瓦　類	平瓦(格子叩､縄目叩)、丸瓦(無文)
石　製　品	剥片(黒曜石)、チャート

S-70茶灰色砂礫

須　恵　器	坏、坏a、甕、壺、破片
土　師　器	蓋、丸底坏a、椀c、小皿a、坏a、甕、器台、把手
黒 色 土 器 A	破片
越州窯系青磁	椀：Ⅰ(1)　　破片Ⅰ(1)、Ⅱ(1)
白　磁	椀：Ⅱ-1(1)、Ⅳ(4)、破片(1)　　破片(1)
須恵質(輸入)	朝鮮系無釉陶器
瓦　類	平瓦(縄目叩､格子叩､無文)
石　製　品	剥片(黒曜石)

S-70a

土　師　器	破片

S-70b

土　師　器	坏、甕
瓦　類	平瓦

S-71

須　恵　器	坏
土　師　器	坏、甕
黒 色 土 器 A	破片

S-72

須　恵　器	坏、甕
土　師　器	坏、坏a、甕
黒 色 土 器 A	椀、椀c
白　磁	広東系破片(1)
瓦　類	平瓦(格子叩)

S-73

須　恵　器	壺
土　師　器	坏、坏a、甕、高台、破片
黒 色 土 器 A	破片
瓦　類	平瓦(縄目叩)

S-74

須　恵　器	坏、破片
土　師　器	坏、丸底坏、椀c、甕
灰 釉 陶 器	椀
白　磁	椀：Ⅰ-1(1)

S-75枠内

須　恵　器	坏a、甕
土　師　器	丸底坏a、椀c、小皿a、器台、破片
須恵質土器	鉢
白　磁	椀：Ⅱ-1(1)、Ⅳ-1a(1)　　皿：Ⅵ-1b(1)
瓦　類	平瓦(格子叩､無文)、瓦玉

S-75茶褐色土

須　恵　器	蓋c、坏、甕
土　師　器	坏a、丸底坏a、小皿a、甕
黒 色 土 器 A	椀c
黒 色 土 器 B	破片
白　磁	椀：Ⅳ(2)　皿：Ⅺ-3(1)　白磁破片(1)、広東系破片(1)
須恵質(輸入)	朝鮮系無釉陶器
瓦　類	丸瓦(格子叩)
金 属 製 品	銅片、銅滓

S-75灰褐色土

須　恵　器	坏c、甕、壺、破片
土　師　器	坏、丸底坏a、小丸底坏a、小皿a、甕、鉢、器台
黒 色 土 器 A	椀c、破片
黒 色 土 器 B	破片
灰 釉 陶 器	破片
白　磁	椀：Ⅳ(1)
瓦　類	平瓦(格子叩､縄目叩)、丸瓦(無文)
金 属 製 品	鉱滓
土　製　品	鋳型

S-75掘方

須　恵　器	坏、甕、鉢
土　師　器	丸底坏a、椀c、小皿a、甕、鉢、器台、破片
須恵質土器	鉢
白　磁	破片(1)
瓦　類	平瓦(格子叩､縄目叩)
石　製　品	滑石

S-75暗灰色土

須　恵　器	蓋c、坏a、坏c、甕、壺
土　師　器	坏c、丸底坏a、丸底坏c、椀c、小皿a、脚付鉢、器台
黒 色 土 器 A	椀c、丸椀
黒 色 土 器 B	脚付鉢
灰 釉 陶 器	鉢
越州窯系青磁	椀：Ⅰ(1)、Ⅰ-2ア(1)　　破片Ⅰ(1)
白　磁	椀：破片(1)　　皿：破片(1)
瓦　類	平瓦(格子叩)、丸瓦(格子叩､無文)
石　製　品	硯
土　製　品	塼、鋳型、焼土塊
木　製　品	杓子
金 属 製 品	銅片、銅滓

S-76

須　恵　器	蓋3、蓋c、坏
土　師　器	丸底坏a、小皿a、甕
黒 色 土 器 A	破片
瓦　類	丸瓦(格子叩)

S-77

須　恵　器	蓋3、坏、坏a、坏c
土　師　器	蓋3、坏、坏a、坏c
瓦　類	平瓦(縄目叩)
石　製　品	平玉石
土　製　品	焼土塊

S-78

須　恵　器	甕
土　師　器	甕、破片
瓦　類	平瓦

S-79

須　恵　器	蓋3、破片
土　師　器	坏、坏a、椀c、皿a
製 塩 土 器	焼塩壺
瓦　類	平瓦

S-80暗灰色土

須　恵　器	甕、破片
土　師　器	坏、坏a、椀、小皿a、甕、鉢、脚付鉢、器台
黒 色 土 器 A	椀、椀c
越州窯系青磁	椀：Ⅰ(1)、Ⅰ-2aア(1)、Ⅰ-5(1)　　破片Ⅰ(1)
瓦　類	平瓦(格子叩､無文)、丸瓦(格子叩)
金 属 製 品	鉱滓
石　製　品	平石

S-80灰色土

須　恵　器	甕、壺
土　師　器	蓋、坏、坏a、椀c、小皿a、甕
黒 色 土 器 A	椀、椀c
越州窯系青磁	破片Ⅰ(1)
白　磁	破片(1)
須恵質(輸入)	朝鮮系無釉陶器
瓦　類	破片
土　製　品	輪羽口

S-80淡灰色砂

須　恵　器	坏c、甕、破片
土　師　器	坏、坏a、椀、椀c、甕
黒 色 土 器 A	椀c
黒 色 土 器 B	破片
須恵質(輸入)	朝鮮系無釉陶器
瓦　類	平瓦(格子叩､無文)

S-80明灰色砂

須　恵　器	蓋3、坏、甕
土　師　器	坏、椀c
黒 色 土 器 A	椀
瓦　類	平瓦(格子叩)

S-80淡灰色土

須　恵　器	甕
土　師　器	坏、高坏、椀c、甕、破片
黒 色 土 器 A	椀、椀c
黒 色 土 器 B	椀c
越州窯系青磁	破片Ⅰ(2)、Ⅰ輪花(1)
白　磁	椀：Ⅳ(1)　　皿：Ⅵ-1b(1)
須恵質(輸入)	朝鮮系無釉陶器
瓦　類	平瓦(無文)、丸瓦(格子叩)

S-80暗褐色土

須　恵　器	蓋3、坏c、甕
土　師　器	坏a、丸底坏a、椀、椀c、小皿a、甕
黒 色 土 器 A	椀
黒 色 土 器 B	破片
越州窯系青磁	破片Ⅰ(2)
中　国　陶　器	破片(1)
瓦　類	平瓦(縄目叩)、破片
土　製　品	不明土製品、トリベ?、輪羽口

S-81

須　恵　器	坏c
土　師　器	坏、甕
同安窯系青磁	破片(1)

S-82

須　恵　器	蓋4、坏、甕
土　師　器	坏、坏a、椀c、破片
黒 色 土 器 A	破片
瓦　類	平瓦(縄目叩)、丸瓦(無文)

S-83

土師器	坏、破片
瓦類	平瓦(縄目叩)

S-84

須恵器	甕、鉢×壺、破片
土師器	椀c、皿a、甕、破片
瓦類	平瓦(縄目叩)、破片

S-85暗灰色土

須恵器	蓋3、坏a、坏c
土師器	蓋c、椀c、皿a、甕、破片
黒色土器A	椀
瓦類	平瓦(縄目叩)
土製品	馬形土製品

S-86

須恵器	甕、破片
土師器	坏、甕

S-87

土師器	坏、甕

S-88

須恵器	坏c
土師器	坏、小皿a、甕
黒色土器A	椀c、破片
白磁	皿：破片(1)
瓦類	平瓦(格子叩)

S-89

須恵器	坏、坏a、甕
土師器	坏、椀c、皿、高台
土製品	焼土塊
金属製品	鉄釘

S-90淡灰色土

須恵器	蓋3、坏、坏c、甕、壺?、破片
土師器	坏、坏a、椀c、皿a、甕
黒色土器A	椀
越州窯系青磁	椀：I(1)
瓦類	平瓦(縄目叩,格子叩)
金属製品	鉄釘
石製品	焼石
土製品	焼土塊

S-90茶灰色土

須恵器	蓋3、蓋3(転用硯)、坏、坏a、坏c、甕
土師器	坏a、坏c、甕、破片(墨書?)、
瓦類	平瓦(縄目叩)
石製品	剥片(安山岩)

S-90灰茶色土

須恵器	坏、坏a、坏c、壺b
土師器	坏、坏a、坏a(墨書あり)、椀c、甕、破片

S-91

須恵器	蓋3、坏、甕
土師器	坏、坏a、椀c、甕、破片
黒色土器A	椀
瓦類	丸瓦(格子叩)、破片
石製品	剥片(黒曜石)
土製品	鉱滓

S-92

須恵器	坏、甕
土師器	坏、丸底坏a、椀c、小皿a、甕
黒色土器A	破片
瓦類	丸瓦(格子叩)

S-93

須恵器	甕
土師器	坏、椀c、甕
黒色土器A	破片
越州窯系青磁	皿：II(1)

S-94

須恵器	坏、甕
土師器	坏、坏a、椀c、甕
黒色土器A	椀c
越州窯系青磁	破片II(1)
瓦類	破片

S-95暗灰色土

須恵器	坏、坏c、甕、大甕、壺、盤
土師器	坏a、椀、椀c、甕、鉢、大椀c、高坏？
黒色土器A	椀、椀c
黒色土器B	椀、椀c
灰釉陶器	段皿
越州窯系青磁	椀：I(1)、I-5(2)、I輪花(1)　破片I(1)
中国陶器	壺(1)
瓦類	平瓦(格子叩,縄目叩,無文)、丸瓦(格子叩,無文) 瓦玉

S-95淡灰色土

須恵器	蓋3、坏c、甕、壺
土師器	坏、坏a、椀c、甕
黒色土器A	椀、椀c、坏a
黒色土器B	椀
越州窯系青磁	破片I(1)
白磁	椀：IV(1)
瓦類	丸瓦(無文)、平瓦(格子叩)
石製品	用途不明品

S-95青灰色砂

須恵器	甕、壺
土師器	坏、坏a、甕

S-95掘方

須恵器	蓋3、坏a、甕
土師器	坏a、椀c、甕
黒色土器A	椀
瓦類	平瓦(格子叩,縄目叩)

S-95明淡灰色土

須恵器	坏c
土師器	坏、坏c、甕
黒色土器A	椀c
越州窯系青磁	椀：I-5(1)
瓦類	平瓦(格子叩,縄目叩)
土製品	焼土塊

S-95青灰色土

須恵器	坏、坏a、坏c、甕、破片
土師器	坏、坏a、椀c、甕、破片
黒色土器A	椀c
黒色土器B	破片
越州窯系青磁	椀：I-2ア(1)　破片I(2)
瓦類	平瓦(格子叩,縄目叩,無文)
金属製品	鉄釘？
石製品	砥石、丸石

S-96

須恵器	坏c、甕、破片
土師器	坏、坏a、小皿a、破片
黒色土器A	破片
黒色土器B	大椀c
瓦類	丸瓦(格子叩)
金属製品	鉱滓

S-97

須恵器	甕、破片
土師器	丸底坏a、小皿a、甕、破片
黒色土器B	破片
白磁	皿：VI-1b(1)
瓦類	平瓦(格子叩)
石製品	丸石
土製品	焼土塊

S-98

須恵器	椀c、甕
土師器	坏、椀c、甕
越州窯系青磁	破片I(1)
瓦類	平瓦(格子叩)
土製品	焼土塊

S-99

須恵器	蓋3、甕、大甕、破片
土師器	坏、丸底坏a、甕、破片
黒色土器A	破片
瓦類	平瓦(格子叩)

S-100a

土師器	小皿a、破片
白磁	椀破片(1)

S-100a掘方

土師器	坏

S-100b

土師器	坏

S-100b掘方

土師器	破片

S-100e

瓦類	平瓦(格子叩)

S-101

須恵器	坏、高坏
土師器	椀、椀c、甕
越州窯系青磁	破片I(1)
瓦類	平瓦(格子叩)
土製品	焼土塊

S-102

須恵器	坏
土師器	坏

S-103

土師器	坏、甕、破片

S-104

土師器	甕

S-105黒色土

須恵器	蓋、坏a(転用硯)、甕、壺、破片
土師器	坏a、椀、椀c、小皿c、甕、小甕
黒色土器A	椀、椀c
黒色土器B	椀c
緑釉陶器	椀
灰釉陶器	皿
越州窯系青磁	椀：I(1)　破片I(1)
瓦類	平瓦(格子叩)、丸瓦(格子叩,無文)
石製品	石帯巡方、石鍋
その他	種

S-105暗灰色土

須恵器	大皿×大蓋、甕、破片
土師器	坏、坏a、丸底坏?、椀c、小皿a、甕、破片
黒色土器A	椀c、破片
越州窯系青磁	破片I(2)
瓦類	平瓦(格子叩)、丸瓦(格子叩)
石製品	砥石

S-105黒灰色土

須恵器	蓋2、皿a×坏a、甕、破片
土師器	坏a、椀c、小皿a、皿a、小皿c、皿c、甕、鉢、器台
黒色土器A	椀c
灰釉陶器	椀×皿
越州窯系青磁	椀：I(1)　破片I(2)
白磁	破片(1)
瓦類	平瓦(格子叩,無文)、丸瓦(格子叩,無文)
石製品	焼石、石鍋

S-105青灰色土

土師器	坏a、椀c、破片
黒色土器A	椀
瓦類	破片

S-106

須恵器	蓋3、甕、壺?
土師器	坏a、坏a×小皿、椀、椀c、甕、器台
黒色土器A	破片
瓦類	丸瓦(格子叩)、平瓦(無文)

S-107

須恵器	蓋、坏a、坏c、甕、壺
土師器	坏、丸底坏、甕
白磁	広東系破片(1)
瓦類	平瓦(無文)
土製品	焼土塊

S-108

須恵器	坏c、甕、破片
土師器	坏、坏a、小皿a、甕
黒色土器B	破片
緑釉陶器	椀
越州窯系青磁	破片I(1)
白磁	椀：II-1(1)
瓦類	平瓦(破片)
土製品	焼土塊

S-109

須恵器	甕、破片
土師器	坏、丸底坏a、椀c、小皿a、破片
越州窯系青磁	破片I(1)
白磁	椀：V(1)
瓦類	平瓦(格子叩)
土製品	土壁

S-110黒灰色土

須恵器	坏、甕、鉢?、破片
土師器	椀c、小皿c
黒色土器A	椀c
瓦類	平瓦(格子叩,無文)

S-110暗灰色土

須恵器	坏、坏a、甕
土師器	坏、椀c、甕
黒色土器B	椀
瓦類	平瓦(格子叩,無文)

S-111

須恵器	蓋1、甕、破片
土師器	坏、椀c、甕
瓦類	破片

S-112

土師器	坏、丸底坏、甕
金属製品	銅滓

S-113

須恵器	坏、甕、破片
土師器	坏、丸底坏a、甕、鉢×壺
白磁	椀：IV(1)
土製品	焼土塊
金属製品	工具片？

S-114

須恵器	甕、破片
土師器	坏a、丸底坏a、小皿a、甕
黒色土器A	椀
土製品	焼土塊

S-115

須恵器	坏c、甕、小壺、破片
土師器	坏a、丸底坏a、椀c、小皿a(ヘラ)、甕
黒色土器A	椀c
緑釉陶器	破片
越州窯系青磁	椀：I(2)　壺：I(1)　水注(1)
白磁	椀：IV(1)
瓦類	丸瓦(格子叩)
その他	炭

S-116

須恵器	蓋3、坏、甕
土師器	坏a、丸底坏a、小皿a、甕
黒色土器A	椀
瓦類	平瓦(縄目叩)
土製品	土壁

S-117

須恵器	蓋3、甕
土師器	坏、丸底坏a、椀c、小皿a(ヘラ)、甕、脚付鉢 破片
瓦類	破片
土製品	焼土塊

S-118

須恵器	甕、破片
土師器	坏、坏a、椀c、甕

S-119

須恵器	坏、坏a、坏c、甕、壺
土師器	坏a、丸底坏、椀c、甕
黒色土器A	椀c、破片
白磁	椀：V(1)
瓦類	平瓦(破片)

S-120a

土師器	破片

S-120a柱痕

土師器	破片

S-120a掘方

土師器	破片

S-120b

土師器	破片

S-120b柱痕

土師器	破片

S-120b掘方

土師器	破片

S-120c

須恵器	坏

S-120c柱痕

土師器	破片

S-120c掘方

土師器	丸底坏a、破片

S-120d

土師器	甕、破片

S-120e

土師器	破片

S-120e柱痕

土師器	坏、小皿a

S-120e掘方

土師器	甕、破片

S-120f

土師器	坏、甕

S-120f柱痕

土師器	坏、甕

S-120f掘方

土師器	坏、甕

S-120g

須恵器	坏
土師器	甕、破片

S-120g掘方

須恵器	坏
土師器	坏

S-120h掘方

須恵器	坏

S-120i

須恵器	破片
土師器	坏
土製品	焼土塊

S-120j柱痕

土師器	破片

S-120m

須恵器	蓋3
土師器	坏、破片

S-121

須恵器	甕、壺
土師器	坏、坏a×小皿a、甕
瓦類	平瓦(無文)

S-122

土師器	坏、甕、破片

S-123

須恵器	坏、甕、こね鉢
土師器	坏、丸底坏、甕
瓦類	破片(格子叩)
金属製品	鉱滓
土製品	土錘

S-124

土師器	甕

S-125

須恵器	坏、甕
土師器	坏a、椀c、小皿a、甕
緑釉陶器	皿
瓦類	平瓦(格子叩)、破片

S-126

須恵器	坏
土師器	坏、坏、甕
黒色土器A	破片

S-128

土師器	坏、坏a、椀c、甕

S-129

土師器	丸底坏、丸底坏a、椀c
白磁	椀：破片(1)

S-130

土師器	丸底坏a、甕、破片
土製品	土壁

S-131

須恵器	坏
土師器	坏、甕、破片

S-132

須恵器	蓋、坏、甕
土師器	坏、坏a、甕

S-133

須恵器	坏、破片
土師器	坏a、椀c、甕、破片

S-134

須恵器	蓋3、坏、甕
土師器	椀、椀c、小皿a
緑釉陶器	破片

S-135

須恵器	蓋3、坏、坏c、甕、小壺
土師器	蓋c、坏、坏a、丸底坏、小皿a、甕
黒色土器A	破片
黒色土器B	椀
須恵質(輸入)	朝鮮系無釉陶器
白磁	椀：Ⅳ(1)　皿：Ⅱ-1a(1)
瓦類	平瓦(格子叩、縄目叩、無文)、丸瓦(格子叩) 破片(縄目叩、無文)
金属製品	鉱滓
石製品	珪化木

S-135灰色粘土

須恵器	蓋3、坏、坏c、壺
土師器	坏、椀c、甕
瓦類	平瓦(格子叩)、破片(縄目叩)

S-135灰褐色粘土

須恵器	蓋3、坏c、甕、破片
土師器	坏a、椀c、小皿a、甕、器台
黒色土器A	破片
越州窯系青磁	椀：Ⅰ-1b(1)
瓦類	丸瓦(格子叩)、平瓦(格子叩、無文)
石製品	剥片(黒曜石)

S-136

須恵器	坏、甕
土師器	坏、甕、破片

S-137

須恵器	坏、壺、壺b
土師器	坏a、小皿a、甕

S-138

須恵器	甕
土師器	坏a、椀、破片
黒色土器A	椀c、破片

S-139

土師器	坏、坏a、小皿a、甕

S-140

須恵器	甕
土師器	坏、坏a、坏d、丸底坏a、椀c、甕
黒色土器A	破片
白磁	椀：Ⅳ(1)　破片(1)
瓦類	破片
土製品	ﾄﾘﾍﾞ

S-141

須恵器	坏、甕
土師器	坏a、小皿a、甕
黒色土器A	椀c

S-142

須恵器	蓋、蓋3、坏、鉢?
土師器	丸底坏a、椀c、小皿a、甕
瓦類	平瓦(格子叩)
土製品	焼土塊

S-143

須恵器	坏c、甕
土師器	坏、皿?、甕
黒色土器B	破片
瓦類	丸瓦(無文)
金属製品	鉄釘

S-144

須恵器	坏a、破片
土師器	坏、甕
越州窯系青磁	椀：Ⅱ-2(1)

S-145

須恵器	坏c、甕
土師器	坏a、甕、把手、破片
越州窯系青磁	椀：Ⅰ-2ウ(1)
瓦類	丸瓦(無文)、平瓦(無文)

S-146

須恵器	坏c
土師器	椀c、皿a、甕、破片

S-147

須恵器	坏c、甕
土師器	破片
白磁	椀：Ⅰ-1(1)

S-148

須恵器	破片
土師器	坏、甕、把手
越州窯系青磁	破片Ⅰ(1)

S-149

須恵器	蓋3、甕
土師器	坏、坏a、皿、甕
黒色土器A	破片
石製品	砥石?

S-150

須恵器	蓋、蓋3、坏、坏c、坏×壺、甕
土師器	坏a、椀c、皿a、甕、鉢、高台、把手
黒色土器A	椀、椀c、小鉢
緑釉陶器	椀c
越州窯系青磁	Ⅲ-1b(1)
白磁	破片Ⅰ(1)
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩、無文)、丸瓦(無文)
金属製品	鉱滓、火打ち金
石製品	平玉石

S-150灰色土

須恵器	蓋3、坏a、皿a、甕、鉢
土師器	坏a、皿a、甕
黒色土器A	大椀c

S-151

須恵器	甕
土師器	坏、坏a、皿a、甕
瓦類	平瓦(格子叩)

S-152

須恵器	蓋?、蓋c
土師器	坏、坏a、甕、把手

S-153

須恵器	甕、鉢×壺
土師器	坏、甕
黒色土器A	椀c
黒色土器B	破片
瓦類	平瓦(縄目叩)

S-154

須恵器	坏a、甕
土師器	坏、椀c、甕
黒色土器B	破片

S-156上層

須恵器	蓋1、甕
土師器	坏、甕、把手

S-156下層

土師器	坏a、破片
土製品	鋳型

S-157

須恵器	甕
土師器	坏、破片

S-158

土師器	坏、椀c、甕
黒色土器A	椀
黒色土器B	破片

S-159

須恵器	甕
土師器	坏、甕
黒色土器B	椀c
金属製品	鉱滓

S-160

須恵器	甕、破片
土師器	坏、椀、椀c、甕
黒色土器B	椀c
越州窯系青磁	椀：Ⅰ-2ア(1)
白磁	椀：Ⅰ-1(1)
瓦類	平瓦(格子叩、無文)、丸瓦(格子叩)

S-160灰褐色粘土

須恵器	蓋3、蓋c、蓋c3、坏、坏a、坏c、高坏、甕、高台
土師器	坏、坏a、丸底坏a、椀c、甕、器台、高坏
黒色土器A	椀、椀c
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩、無文)、丸瓦(格子叩、無文)

S-160灰色粘土

須恵器	蓋c3、甕、壺×鉢、鉢、破片
土師器	坏、坏c、椀c、甕、鉢?
黒色土器A	破片
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩、無文)、丸瓦(格子叩)

S-161

須恵器	坏
土師器	坏、甕、破片
瓦類	平瓦(無文)
金属製品	鉱滓

S-162

須恵器	甕
土師器	坏、坏a、甕、破片
黒色土器A	破片
土製品	ﾄﾘﾍﾞ

S-163

須恵器	甕、小壺
土師器	坏、丸底坏、小皿a、甕
黒色土器A	椀
黒色土器B	椀c
瓦類	平瓦(無文)
石製品	石鏃

S-164

須恵器	甕、破片
土師器	坏、椀c、甕

S-165

須恵器	蓋3、坏、坏a、甕、破片
土師器	坏、丸底坏、椀c
黒色土器A	椀c
瓦類	平瓦(格子叩)
金属製品	鉱滓
石製品	丸石

S-166

土師器	甕、破片
瓦類	破片

S-167

須恵器	破片
土師器	坏、小皿a、甕
黒色土器A	破片

S-168

須恵器	蓋3、坏
土師器	坏、丸底坏、甕
白磁	破片(1)
金属製品	鉱滓
土製品	焼土塊

S-169

須恵器	坏、甕
土師器	破片

S-170灰色粘土

須恵器	甕
土師器	破片
瓦類	平瓦(格子叩)

S-170

須恵器	蓋、蓋3、坏a、坏c、甕
土師器	坏a、椀c、甕、破片
黒色土器A	椀c
瓦類	平瓦(格子叩、縄目叩)、丸瓦(格子叩)
金属製品	鉱滓

S-171

須恵器	甕、破片
土師器	坏、坏a、甕、破片

S-172

須恵器	蓋c
土師器	丸底坏a、椀c、甕
白磁	破片(1)
土製品	焼土塊

S-173

須恵器	坏c、甕、破片
土師器	坏a、甕、破片
黒色土器A	椀c

S-174

須恵器	坏c
土師器	破片

S-175①

須恵器	甕

S-175②

土師器	甕

S-175灰褐色土

須恵器	蓋1、蓋3、蓋4、蓋c、蓋c3、坏a、坏c、小坏c、皿a 甕、壺、小壺、鉢
土師器	蓋、小坏c、坏a、坏c、坏d、高坏、椀c、皿a 甕、ﾐｶﾄﾞ、把手、鉢×大椀、小壺、破片
黒色土器A	破片
瓦類	平瓦(縄目叩)、丸瓦(格子叩)
石製品	石鏃、丸石

S-175灰茶色砂

須恵器	破片
土師器	坏

S-175暗灰色粘土

須恵器	蓋、蓋c、蓋c3、坏a、坏c、高坏、皿a、小皿a 甕、壺、平瓶、鉢
土師器	蓋c、坏a、坏c、坏d、大椀、甕、小壺b、破片
緑釉陶器	壺
瓦類	平瓦(格子叩、縄目叩)
石製品	紡錘車

S-175曲物内

須恵器	坏a、甕、壺、小壺
土師器	坏a、坏c、坏d、甕、鉢、把手
瓦類	平瓦(縄目叩)
土製品	輪羽口

S-176

須恵器	蓋3、蓋c、坏、坏a、坏c、皿a、甕、
土師器	坏、坏c、丸底坏、小皿a、皿a、甕、小鉢?
白磁	椀：Ⅰ(1)
瓦類	丸瓦(格子叩)、平瓦(破片)
金属製品	鉱滓
土製品	輪羽口

S-177

須恵器	蓋、坏、甕
土師器	坏a、椀c、小皿a、甕、把手
緑釉陶器	椀×皿
瓦類	平瓦(破片)
土製品	焼土塊

S-178

土師器	坏
金属製品	鉱滓

S-180淡灰色粘土

須恵器	破片
土師器	甕
瓦類	平瓦

S-180淡灰色土

須恵器	坏c、甕
土師器	坏a、甕、破片
黒色土器A	破片
瓦類	丸瓦(格子叩、無文)、平瓦(格子叩)

S-180灰茶色土

須恵器	蓋3、蓋4、坏、椀c、甕、壺×鉢
土師器	坏a、椀c、甕
黒色土器A	椀、椀c、破片
越州窯系青磁	椀：Ⅰ(1)
白磁	破片(1)
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩)、丸瓦(無文)、瓦玉
石製品	石炭、剥片

S-181

須恵器	蓋1、坏c、甕
土師器	坏、坏a、椀c、甕
黒色土器A	椀c、破片
黒色土器B	破片
瓦類	丸瓦(格子叩)、平瓦(縄目叩)

S-182

土師器	坏、甕

S-183

土師器	破片

S-184

須恵器	蓋3、坏、破片
土師器	坏、甕
黒色土器B	破片
瓦類	平瓦(縄目叩)

S-185

須恵器	蓋1、甕3、坏c、皿a、甕
土師器	皿c、皿a、甕、把手
石製品	砥石

S-185灰色粘土

須恵器	壺?
土師器	甕

S-186

須恵器	壺×鉢
土師器	甕、破片

S-187

須恵器	坏、破片
土師器	小皿a、甕、破片
黒色土器A	破片
瓦類	破片

S-188

須恵器	破片
土師器	坏a、坏c、甕、破片
瓦類	平瓦(縄目叩)、丸瓦(格子叩)
土製品	ﾄﾘﾍﾞ?

S-189

須恵器	坏a、甕、壺
土師器	坏a、椀c、甕
瓦類	破片

S-190

須恵器	蓋3、坏a、坏c、高坏、甕、壺
土師器	坏a、丸底坏、丸底坏a、椀c、小皿a、甕、鉢
黒色土器A	椀c
黒色土器B	椀
越州窯系青磁	破片I(1)
白磁	椀：I-1(1)
瓦類	平瓦(格子叩,縄目叩,無文)、丸瓦(格子叩,無文) 軒丸瓦
金属製品	鉱滓
石製品	砥石、石鍋、ｽｸﾚｲﾊﾟｰ

S-190枠内

須恵器	蓋1、坏c
土師器	坏a、丸底坏a
黒色土器A	椀c

S-191

須恵器	蓋3、坏c、甕、破片
土師器	坏a、甕、把手
瓦類	平瓦(格子叩)、破片
石製品	丸石
金属製品	不明銅製品

S-192掘方

土師器	坏

S-193

須恵器	蓋3、坏、坏a、甕
土師器	坏、坏a、甕
瓦類	平瓦(縄目叩,格子叩)

S-194

須恵器	甕、破片
土師器	坏、坏a、破片
瓦類	破片

S-195

須恵器	蓋3、坏a、坏c、甕、壺、破片
土師器	坏a、皿a、丸底坏a、甕、破片
黒色土器A	椀、椀c
瓦類	平瓦(縄目叩)、丸瓦(縄目叩)

S-196

須恵器	坏、甕
土師器	坏a、丸底坏a、椀c、小皿a、甕、鉢
黒色土器B	椀、椀c
灰釉陶器	破片
瓦類	丸瓦(格子叩)、破片
木製品	木片

S-197

須恵器	蓋3、甕
土師器	椀、椀c、小皿a、皿a
黒色土器A	破片
黒色土器B	椀c
瓦類	平瓦(無文)、破片(格子叩)

S-198

土師器	丸底坏、椀c、小皿a、甕
黒色土器A	破片
黒色土器B	破片
緑釉陶器	破片
瓦類	破片

S-199

須恵器	皿a、甕、破片
土師器	坏、坏a、甕、破片
黒色土器A	破片

S-200

須恵器	蓋3、蓋c、坏、坏a、坏c、甕、壺
土師器	丸底坏a、椀c、小皿a、甕、鉢、脚部
黒色土器A	椀、椀c
黒色土器B	椀
越州窯系青磁	椀：II-2(1)　　破片I(2)
瓦類	平瓦(格子叩,縄目叩)、丸瓦(無文)
石製品	滑石加工品

S-201

須恵器	坏a
土師器	坏、破片
黒色土器A	破片
瓦類	平瓦(格子叩)

S-202

土師器	坏、甕

S-203

須恵器	蓋3、坏、坏c、甕
土師器	坏、甕

S-204

須恵器	坏
土師器	坏a、椀c、皿a、甕
黒色土器A	破片
越州窯系青磁	合子蓋(1)

S-205

金属製品	棒状鉄製品

S-205黒灰色土

須恵器	甕
土師器	坏、小皿a、甕、破片
黒色土器A	椀c
黒色土器B	椀
緑釉陶器	皿×椀
瓦類	平瓦(格子叩,縄目叩,破片)、丸瓦(格子叩)
石製品	削器

S-205黒色土

須恵器	坏c、甕、壺
土師器	坏a、椀c、小皿a(ｲﾄ、ﾍﾗ)、坏a×小皿a、甕、脚付鉢
黒色土器A	椀
灰釉陶器	椀c
白磁	皿：I-1(1)
瓦類	丸瓦(破片)、平瓦(縄目叩)

S-206

土師器	坏、破片

S-207

須恵器	坏、甕
土師器	坏、甕

S-208

須恵器	坏a、破片
土師器	坏、破片

S-209

土師器	坏、甕、破片

S-210

須恵器	蓋3、蓋4、坏a、坏c、高坏、大椀、甕、壺
土師器	坏、坏a、坏c、椀c、甕、ｸﾏﾐ
黒色土器A	椀、破片
灰釉陶器	段皿、破片
瓦類	丸瓦(縄目叩,無文)、平瓦(縄目叩)、破片
石製品	砥石

S-210明灰色粘土

須恵器	蓋3、坏a、皿a、甕
土師器	坏、甕、破片
瓦類	平瓦(縄目叩)
金属製品	鉱滓
石製品	剥片

S-210黒灰色粘土

須恵器	蓋、蓋3、坏a、坏c、甕、大甕、壺、破片
土師器	蓋、坏、甕、破片
瓦類	平瓦(縄目叩)、丸瓦(縄目叩,無文)

S-210灰色粘土

須恵器	甕、破片
土師器	坏、坏a
瓦類	平瓦(無文)
金属製品	鉱滓

S-211

須恵器	坏、甕
土師器	坏、甕、破片
黒色土器A	椀c

S-212

須恵器	蓋3
土師器	坏、坏a、破片
土製品	焼土塊

S-213

須恵器	坏、坏a、甕
土師器	坏a、甕

S-214

須恵器	甕
土師器	甕、鉢?、破片

S-215

須恵器	坏、高坏、甕、破片
土師器	坏、椀、甕、把手、破片
越州窯系青磁	椀：I(1)
瓦類	平瓦(格子叩,無文)、丸瓦(無文)

S-216

須恵器	坏
土師器	甕
瓦類	平瓦(縄目叩)

S-217

土師器	破片
瓦類	破片

S-218

土師器	破片

S-219

土師器	甕

S-220淡灰色土

須恵器	平瓶

S-220灰色土

須恵器	坏c、甕
土師器	坏a、甕、破片
瓦類	丸瓦(縄目叩,無文)、平瓦(破片)

S-220暗灰色粘土

須恵器	破片
土師器	甕、破片
石製品	石錘

S-221

土師器	破片

S-222

土師器	甕、破片

S-223

須恵器	破片
土師器	甕、破片

S-224

須恵器	甕×壺
土師器	破片

S-225

須恵器	蓋3、坏a、坏c、甕、壺、鉢a、ｸﾏﾐ
土師器	坏、椀c、皿a、甕
黒色土器A	椀c
瓦類	丸瓦(格子叩)、平瓦(縄目叩)
石製品	剥片

S-226

須恵器	甕
土師器	丸底坏a

S-227

土師器	坏、甕、破片
瓦類	平瓦(格子叩)

S-228

土師器	坏、破片

S-229

土師器	甕

S-230黒灰色土

須恵器	坏、坏c、甕、破片、壺
土師器	坏、椀c、小皿a、甕
黒色土器A	椀c、破片
越州窯系青磁	破片I(1)
瓦類	平瓦(格子叩,縄目叩,無文)、丸瓦(格子叩)
土製品	ﾄﾘﾍﾞ

S-230黒色土

須恵器	坏、坏c、甕、破片
土師器	坏、丸底坏a、椀、小皿a(ﾍﾗ)、甕、破片
黒色土器A	椀
黒色土器B	椀、椀c
白磁	破片(1)
瓦類	平瓦(格子叩,無文)

S-231

須恵器	坏c
土師器	坏、破片

S-232

土師器	坏

S-233

土師器	坏、破片

S-234

須恵器	破片
土師器	坏a、破片
瓦類	平瓦(格子叩)

S-235

須恵器	蓋1、蓋3、坏c、甕、破片
土師器	坏、坏a、椀c、甕
黒色土器A	破片
瓦類	平瓦
土製品	土壁

S-236

須恵器	甕、破片
土師器	坏、小皿a、甕
白磁	皿：破片(1)
瓦類	平瓦(無文)
石製品	石鏃

S-237

須恵器	破片
土師器	坏、甕
瓦類	破片(格子叩)

S-238

須恵器	破片
土師器	坏、甕

S-239

須恵器	破片
土師器	坏

S-240

須恵器	坏、坏c、高坏、甕
土師器	坏a、坏d、椀、椀c、皿a、甕、鉢?
黒色土器A	椀c
越州窯系青磁	椀：I(3)　　破片III(1)
白磁	破片I(1)
瓦類	平瓦(格子叩,縄目叩)、丸瓦(格子叩)
石製品	砥石、滑石製品
土製品	塼

S-240枠内

須恵器	坏、甕
土師器	坏、小皿a、椀、椀c、甕、破片
黒色土器A	椀
瓦類	平瓦(格子叩,無文)、丸瓦(格子叩)

S-240黒灰色土

須恵器	坏、坏c、甕
土師器	坏a、甕、破片
黒色土器A	椀c
黒色土器B	椀、椀c、托上椀
瓦類	平瓦(格子叩,縄目叩)、丸瓦(格子叩)

S-241

土師器	丸底坏、破片

S-242

土師器	甕

S-243

土師器	坏、破片

S-244

土師器	坏、椀c

S-245

須恵器	坏、坏c、甕、鉢、破片
土師器	坏、坏a、椀c、丸底坏、甕
黒色土器A	椀、椀c
瓦類	平瓦(格子叩,縄目叩,無文)

S-245黒灰色土

須恵器	蓋、坏、坏a、坏c、甕、壺
土師器	坏、坏a、椀、甕、把手
黒色土器A	椀c
瓦類	平瓦(格子叩)

S-245黒色土

須恵器	蓋3、蓋c、坏、坏c、甕
土師器	坏、坏a、椀c、皿c、甕、把手、破片
黒色土器A	椀、椀c
越州窯系青磁	破片I(2)
瓦類	平瓦(格子叩,縄目叩,無文)、丸瓦(縄目叩,無文)
金属製品	金銅製帯金具
石製品	叩き石、剥片、砥石

S-245枠内

須恵器	坏c、甕
土師器	坏a、椀c、甕、破片
黒色土器A	椀c
緑釉陶器	破片
越州窯系青磁	破片I(1)
瓦類	丸瓦(格子叩)
土製品	塼

S-245黒青色土

須恵器	蓋、坏a、坏c、甕、壺
土師器	坏、皿a、甕、破片
黒色土器A	椀c、破片
瓦類	平瓦(格子叩)、丸瓦(格子叩)、瓦玉
石製品	剥片

S-246

土師器	坏

S-248

土師器	破片

S-249

土師器	坏、破片
その他	炭

S-250

須恵器	坏a、皿a、甕
土師器	坏a、椀、椀c、小皿a、小皿a(ヘラ)、高坏、甕
黒色土器A	椀、椀c
黒色土器B	椀c
越州窯系青磁	破片II(1)
瓦類	丸瓦(格子叩)
石製品	ﾁｬｰﾄ

S-251

須恵器	破片
土師器	坏

S-252

土師器	坏a、破片

S-253

土師器	椀c、小皿a、甕、破片

S-254

土師器	破片

S-255黒茶色土

須恵器	蓋3、坏、坏c、甕
土師器	坏、坏a、椀c、甕
黒色土器A	椀
瓦類	平瓦(格子叩,無文)、丸瓦(格子叩)、破片
金属製品	鉱滓、鉄釘

S-255灰茶色土

須恵器	蓋3、坏、甕
土師器	坏、坏a、椀、椀c、甕
黒色土器A	椀、椀c
緑釉陶器	椀
越州窯系青磁	椀：I(1)、I-2a(1)、I-5(1)、II-c(1)　破片I(1)
瓦類	丸瓦(格子叩,無文)、平瓦(格子叩,縄目叩,無文)
石製品	砥石、石鍋

S-255黒色土

須恵器	蓋3、坏、甕
土師器	坏a、椀c、椀、甕
黒色土器A	椀c
黒色土器B	椀c、破片
瓦類	平瓦(格子叩,縄目叩,無文)、丸瓦(無文)

S-255枠内

須恵器	坏
土師器	坏、椀c、甕
黒色土器A	椀c
瓦類	平瓦(縄目叩,格子叩)、丸瓦(格子叩)

S-255黒灰色土

須恵器	蓋、壺、破片
土師器	坏、甕
黒色土器A	破片
瓦類	平瓦(格子叩)、丸瓦(格子叩)
石製品	剥片

S-255黒青色土

須恵器	甕
土師器	坏、甕
黒色土器A	破片
瓦類	平瓦(格子叩)

S-256

土師器	破片

S-257

須恵器	壺
土師器	椀c、破片
黒色土器A	破片

S-258

須恵器	蓋、坏、甕、壺
土師器	坏a、小皿a、甕
白磁	椀：V-2a(1)　皿：破片(1) 破片(1)、広東系(1)
瓦類	破片
金属製品	鉱滓
石製品	砥石

S-259

須恵器	蓋3、破片
土師器	坏、椀c、甕
瓦類	破片
土製品	焼土塊

S-260

須恵器	蓋、蓋1、蓋3、坏、坏c、甕、小壺、壺a×c、壺b、破片
土師器	坏、坏a、椀c、甕、把手
古式土師器	高坏
瓦類	丸瓦(格子叩,破片)、平瓦(縄目叩)
金属製品	鉱滓
石製品	剥片、砥石
土製品	焼土塊

S-261

須恵器	坏a、坏c、甕、鉢?、破片
土師器	坏、椀c、小皿a、甕、破片
黒色土器B	椀c
越州窯系青磁	破片：I(1)、II(1)
瓦類	平瓦(破片)
土製品	焼土塊

S-262

土師器	坏、甕

S-263

須恵器	甕

S-264

須恵器	坏c、破片
土師器	坏、甕

S-265

須恵器	蓋c、坏c、甕
土師器	坏、丸底坏a、椀c、小皿a、甕
白磁	椀：II(2)、II-1(3)、IV(3)　破片(3)
瓦類	平瓦(縄目叩,格子叩,破片)、丸瓦(格子叩)、破片
金属製品	鉱滓

S-266

土師器	椀c、破片

S-267

土師器	坏

S-268

須恵器	蓋3、甕
土師器	椀c、甕、破片

S-269

土師器	甕

S-272

須恵器	破片
土師器	椀c、破片

S-273

須恵器	甕
土師器	坏、坏a、椀c
瓦類	丸瓦(格子叩)

S-274

土師器	坏、甕
黒色土器B	椀、皿
越州窯系青磁	破片I(1)
石製品	平玉石

S-275灰色土

須恵器	蓋3、甕、壺、破片
土師器	坏、坏a、甕、破片
瓦類	平瓦(縄目叩)

S-275灰茶色土

須恵器	蓋1、蓋3、坏、坏c、皿a、甕、破片
土師器	坏、坏a、坏c、甕、把手
黒色土器A	破片
瓦類	平瓦(格子叩,縄目叩,無文)、丸瓦(破片)
石製品	剥片

S-276

須恵器	甕、破片
土師器	坏、甕、破片
黒色土器A	椀c

S-277

須恵器	甕
土師器	丸底坏a、小皿a、破片
黒色土器A	椀
瓦類	平瓦(破片)

S-278

須恵器	破片
土師器	破片

S-279

須恵器	坏a、坏c、甕、壺
土師器	蓋、坏a、椀c、甕、鉢、把手、破片
黒色土器A	椀c
瓦類	丸瓦(縄目叩)
土製品	焼土塊

S-280

須恵器	蓋3、坏c
土師器	坏、坏a、甕
黒色土器A	椀c、破片
灰釉陶器	椀×皿
瓦類	平瓦(縄目叩,格子叩,無文)

S-281

須恵器	蓋c、坏、坏a、坏c、高坏、甕
土師器	坏、坏a、小皿a、椀c
黒色土器B	小皿a
瓦類	平瓦(格子叩)、破片
石製品	石鍋

S-282

須恵器	甕
土師器	坏、坏a、小皿a、甕
黒色土器B	破片
瓦類	丸瓦(無文)、破片

S-283

土師器	坏
黒色土器A	椀c
瓦類	平瓦(格子叩)

S-284

須恵器	高坏
土師器	坏、丸底坏、椀c、甕
その他	炭

S-285

須恵器	蓋1、蓋3、蓋c、坏、坏c、皿a、甕、鉢、脚部、円面硯
土師器	坏c、大椀c、皿c、甕、破片
瓦類	丸瓦(無文)
金属製品	鉱滓
石製品	剥片(黒曜石)、平玉石、砥石
土製品	土塊、鞴羽口

S-286

須恵器	坏c、甕
土師器	坏a、丸底坏、椀c、小皿a、器台
黒色土器B	椀c
須恵質(輸入)	朝鮮系無釉陶器
越州窯系青磁	破片I(1)、II(1)
白磁	椀：II-1(1)　皿破片(1)　破片(1)
瓦類	平瓦(縄目叩,格子叩)
金属製品	鉄釘
石製品	丸石

S-287

土師器	坏、甕

S-288

土師器	小皿a、甕

S-289

土師器	坏、甕

S-290

須恵器	坏、坏c、甕、壺
土師器	坏、坏a、甕、ｶﾏﾄﾞ、破片
黒色土器A	椀c

S-291

土師器	坏

S-292

須恵器	蓋、蓋3、坏、甕、壺
土師器	坏a、皿a、甕
瓦類	平瓦(縄目叩)

S-293

土師器	甕、破片
黒色土器A	破片
瓦類	破片

S-294黄色粘質土

須恵器	坏、甕
土師器	坏、坏a、小皿a、甕
黒色土器A	椀c、破片

S-294灰色粘質土

須恵器	蓋3、坏a、坏c、皿a、甕
土師器	蓋c、坏、坏a、丸底坏、椀c、小皿a、甕
黒色土器B	椀c、小皿a、破片
緑釉陶器	椀
灰釉陶器	破片
越州窯系青磁	破片I(2)
白磁	椀：IV(1)　壺破片(1)　破片I(1)
瓦類	丸瓦(無文)、平瓦(縄目叩,破片)
金属製品	鉱滓、用途不明鉄製品
石製品	丸石
土製品	土玉

S-295a

土師器	破片

S-295b

土師器	甕

S-295b掘方

土師器	破片
金属製品	鉱滓

S-295c掘方

須恵器	坏
土師器	破片

S-295e

土師器	甕

S-295h

土師器	破片

S-295h掘方

土師器	甕

S-295i

須恵器	破片
土師器	破片

S-295i掘方

土師器	坏c

S-295h柱痕

土師器	甕

S-295k

須恵器	坏
土師器	坏、甕、小鉢?

S-295k掘方

須恵器	坏
土師器	甕、破片

S-295k柱痕

須恵器	坏
土師器	坏、甕、破片

S-296灰色粘質土

須恵器	坏c、甕、破片
土師器	坏a、丸底坏a、椀c、小皿a(ヘラ)、破片
瓦類	平瓦(縄目叩,格子叩)、破片
石製品	砥石
土製品	焼土塊
その他	炭

S-296黒灰色粘質土

須恵器	坏、坏c、甕
土師器	坏、坏c、甕

S-297

須恵器	破片
土師器	坏a、坏c、破片

S-298

土師器	破片

S-299

土師器	甕?、破片

S-300②

須恵器	蓋3

S-300②掘方

須恵器	蓋2
土師器	甕

S-300⑥

土師器	破片

S-300⑦

土師器	坏、甕
木製品	礎板

S-300⑦柱痕

須恵器	甕

S-300⑦礎板

木製品	礎板

S-300⑧柱痕

土師	器	甕

S-300⑨

土師	器	破片

S-300⑩

土師	器	坏、破片

S-300⑪

須恵	器	坏
土製	品	焼土塊

S-300⑪柱痕

須恵	器	蓋1

S-300⑪掘方

土師	器	甕

S-300⑭

土師	器	坏、甕、坏a×甕、破片

S-300⑭柱痕

土師	器	破片

S-300⑭掘方

土師	器	坏a、破片

S-300⑯

須恵	器	甕

S-300⑯柱痕

土師	器	甕、破片
石製	品	石英塊

S-300⑯掘方

須恵	器	坏
土師	器	甕、破片

S-300⑰

須恵	器	坏、甕
土師	器	坏、甕

S-300⑰掘方

土師	器	甕

S-300⑱

土師	器	甕、破片

S-300⑲

土師	器	甕

S-300㉑

土師	器	破片

S-300㉒

土師	器	坏、甕

S-300㉒柱痕

土師	器	甕、破片

S-300㉔

土師	器	坏、破片

S-300㉔柱

木製	品	柱

S-300㉔掘方

土師	器	甕

S-300㉕

土師	器	破片

S-300㉕柱痕

弥生土器		二重口縁壺

S-300㉕掘方

土師	器	坏

S-300㉖

須恵	器	甕
土師	器	破片
弥生土器		壺×甕

S-300㉘掘方

弥生土器		甕×壺

S-300㉙

土師	器	甕、破片

S-300㉙掘方

土師	器	破片

S-300㉚

土師	器	破片

S-300㉛礎板

木製	品	礎板

S-300㉜

土師	器	蓋1、坏、破片

S-300㉝

土師	器	坏

S-300㉝柱痕

土師	器	坏

S-300㉞

土師	器	坏
黒色土器A		破片

S-300㉟

土師	器	坏

S-300㉟掘方

須恵	器	蓋c

S-300㊱掘方

須恵	器	甕
石製	品	砥石

S-300㊲

須恵	器	蓋3、坏c、甕、破片
土師	器	坏、椀c、甕、ｶﾏﾄﾞ?、破片
瓦	類	平瓦(格子叩､縄目叩)

S-300㊲柱痕

土師	器	坏、甕

S-300㊳

須恵	器	蓋3、破片
土師	器	坏、破片
黒色土器A		破片

S-300㊳柱痕

土師	器	坏、甕

S-300㊳掘方

須恵	器	坏
土師	器	坏、甕

S-300㊴

須恵	器	蓋3
土師	器	坏、坏a、甕

S-300㊴柱痕

須恵	器	坏a、甕
土師	器	坏、甕

S-300㊴掘方

土師	器	坏、甕

S-300㊵

須恵	器	破片
土師	器	坏

S-300㊵柱痕

土師	器	破片

S-300㊵掘方

土師	器	甕、破片

S-300㊶

土師	器	坏、坏a、破片

S-300㊶柱痕

土師	器	甕、破片

S-300㊶掘方

土師	器	甕

S-300㊶柱痕

木製	品	柱

S-300㊸

土師	器	甕、破片
古式土師	器	高坏

S-300㊹

土師	器	破片

S-300㊹掘方

土師	器	破片

S-300㊺

土師	器	破片

S-300㊺柱痕

土師	器	坏、破片

S-300㊺掘方

須恵	器	坏

S-300㊼

土師	器	甕

S-300㊽

土師	器	椀c、甕

S-300㊾

土師	器	破片

S-300㊿

須恵	器	壺?

S-300㊿柱痕

土師	器	破片

S-300(52)

土師	器	破片

S-300(54)

須恵	器	破片
土師	器	甕、破片

S-300(55)

土師	器	甕

S-301

土師	器	甕

S-302

須恵	器	蓋
土師	器	破片

S-303淡灰色土

須恵	器	甕
土師	器	坏、破片

S-303茶灰色土

須恵	器	坏、坏c、甕
土師	器	坏、椀c、甕
緑釉陶	器	破片
瓦	類	平瓦(格子叩)
土製	品	焼土塊、鞴羽口

S-304淡灰色土

須恵	器	甕
土師	器	坏a、椀c、破片
白	磁	破片(1)
瓦	類	平瓦(格子叩､無文)
土製	品	坩堝?

S-304茶褐色土

須恵	器	坏、甕
土師	器	坏、坏a
瓦	類	平瓦(破片)　破片(格子叩)
石製	品	丸石、叩き石?

S-305a

須恵	器	蓋3
土師	器	甕

S-305 b

土師	器	坏、甕

S-305e

土師	器	破片

S-305f

土師	器	坏

S-305g

須恵	器	坏
土師	器	甕

S-305g柱痕

土師	器	坏、甕

S-305h

土師	器	甕

S-306

須恵	器	坏、皿
土師	器	坏a、丸底坏?、小皿a、甕
黒色土器A		椀c
黒色土器B		破片
弥生土器		壺
瓦	類	平瓦(格子叩)
土製	品	焼土塊、鋳型、土壁×鋳造遺物

S-307

須恵	器	蓋3、坏、坏a、坏c、甕
土師	器	坏a、椀c、甕、鉢
黒色土器A		椀
白	磁	椀：II(1)
瓦	類	破片
土製	品	焼土塊

S-308

土師	器	甕
黒色土器B		椀

S-309

須恵	器	破片
土師	器	坏、椀c、甕
白	磁	破片(1)
土製	品	鋳型

S-310

土師	器	破片
古式土師	器	甕?

S-311

土師	器	丸底坏、甕

S-312

須恵	器	蓋3、坏、坏c、高坏、甕、壺
土師	器	蓋c、坏a、椀c、甕
製塩土	器	焼塩壺
黒色土器A		椀、椀c
黒色土器B		椀c
瓦	類	平瓦(格子叩､縄目叩)、丸瓦(無文)

S-313

須恵	器	坏、甕
土師	器	坏、丸底坏、甕

S-314

須恵	器	蓋3、蓋c、坏c、甕?
土師	器	坏、坏a、甕
瓦	類	平瓦(縄目叩､無文)
土製	品	焼土塊

S-315

土師	器	甕、破片
古式土師	器	破片

S-316

須恵	器	甕
土師	器	破片

S-317

土師	器	坏

S-318

土師	器	坏

S-319

土師	器	丸底坏a、小皿a、甕、破片

S-320

須恵	器	蓋、蓋3、坏、甕、小壺、破片
土師	器	蓋、坏、坏a、丸底坏?、丸底坏a、椀c 小皿a(ﾍﾗ)、甕、破片
黒色土器A		破片
石製	品	砥石、剥片(安山岩､黒曜石)

S-322

土師	器	坏、甕

S-323

土師	器	破片
瓦	類	丸瓦(縄目叩)

S-324

土師	器	破片

S-325

須恵	器	蓋
土師	器	丸底坏?、甕、鉢、高坏×鉢、破片
弥生土	器	破片

S-326

土師	器	坏、甕

S-327

土師	器	坏、破片

S-328

土師	器	坏、甕、把手

S-329

須恵	器	蓋3

S-330

須恵	器	坏、坏a、甕
土師	器	椀c、甕
古式土師	器	破片
黒色土器A		椀c
石製	品	スクレイパー(安山岩)

S-331

土師	器	破片

S-332

須恵	器	甕
土師	器	坏、甕
石製	品	剥片(黒曜石)

S-333

土師	器	破片

S-334

土　師	器	坏、椀c、破片
瓦	類	平瓦(破片)

S-335

須　恵	器	坏
土　師	器	甕、破片
古式土師	器	破片
黒色土	器A	椀c

S-336

土　師	器	破片

S-337

須　恵	器	坏、坏c、甕、壺
土　師	器	坏、坏a、甕、把手、破片
黒色土	器A	椀c
灰釉陶	器	破片
瓦	類	平瓦(無文)、破片

S-338

須　恵	器	蓋3、坏、甕、高台
土　師	器	坏、椀c、甕
黒色土	器A	椀c
瓦	類	平瓦(格子叩)
石　製	品	円盤状石製品

S-339

須　恵	器	破片
土　師	器	坏、坏a、破片

S-340

須　恵	器	坏
土　師	器	坏、椀c、甕
弥生土	器	高坏

S-341

須　恵	器	坏、甕
土　師	器	坏a、甕
瓦	類	平瓦(無文)

S-342

須　恵	器	蓋、坏、甕
土　師	器	坏a、甕、破片
瓦	類	破片
土　製	品	焼土塊

S-343

須　恵	器	甕
土　師	器	坏、椀c、破片
黒色土	器A	破片
瓦	類	平瓦(縄目叩、破片)

S-344

須　恵	器	蓋、坏、甕
土　師	器	坏、甕
瓦	類	平瓦(格子叩)

S-345灰色粘土

須　恵	器	坏c、甕、壺×鉢
土　師	器	坏、甕、壺?

S-345淡赤色ｼﾙﾄ質土

須　恵	器	坏、甕
土　師	器	坏、甕
黒色土	器A	椀

S-346

須　恵	器	坏、壺
土　師	器	坏、甕、破片
黒色土	器A	椀c
瓦	類	平瓦(縄目叩)、、破片

S-347

須　恵	器	坏、甕
土　師	器	坏、坏a、椀c、甕、破片
黒色土	器A	椀c
越州窯系青磁		椀：I-1(1)
瓦	類	平瓦(縄目叩)、、破片

S-348

須　恵	器	甕
土　師	器	丸底坏a、小皿a、破片
瓦	類	平瓦(格子叩)

S-349

須　恵	器	蓋3、甕
土　師	器	丸底坏a、椀c、小皿a(ヘラ)、甕、破片
瓦	類	破片

S-351

土　師	器	坏

S-352

土　師	器	破片

S-353

須　恵	器	蓋3、蓋c、甕
土　師	器	丸底坏a、小皿a(ヘラ)、甕、器台
白	磁	椀：II-1(1)
瓦	類	平瓦(格子叩、縄目叩)

S-354

土　師	器	坏

S-356

土　師	器	坏

S-357

土　師	器	破片

S-358

土　師	器	甕、破片

S-359

土　師	器	椀c、破片

S-361

須　恵	器	坏
土　師	器	破片

S-362

土　師	器	破片

S-363

土　師	器	坏、破片
黒色土	器A	破片
石　製	品	平玉石

S-364

土　師	器	坏、破片
黒色土	器A	坏、甕

S-366

須　恵	器	蓋3、坏、甕
土　師	器	坏、小皿a、甕、器台

S-367

土　師	器	坏、破片
石　製	品	石鏃

S-368

土　師	器	坏
黒色土	器A	破片

S-369

須　恵	器	蓋3、坏、坏a、坏c、甕、壺、鉢
土　師	器	坏、坏a、椀c、大皿、甕、把手
黒色土	器A	破片
瓦	類	平瓦(格子叩、縄目叩、無文)
石　製	品	丸石、砥石

S-371

須　恵	器	蓋3、坏、坏a、坏c、甕、壺
土　師	器	坏、丸底坏a、椀c、甕、鉢
黒色土	器A	破片
越州窯系青磁		椀：II(1)
瓦	類	平瓦(破片)
石　製	品	丸石

S-372

須　恵	器	蓋3、坏、坏身、坏a、坏c、甕
土　師	器	坏、坏a、甕
緑釉陶	器	椀
瓦	類	平瓦(格子叩、縄目叩)

S-373

須　恵	器	坏、坏c、甕
土　師	器	坏、坏c
土　製	品	焼土塊

S-374

須　恵	器	坏
土　師	器	坏、椀c、甕

S-376

土　師	器	破片

S-377

須　恵	器	甕
土　師	器	破片

S-378

須　恵	器	蓋、甕
土　師	器	坏、椀c、甕
黒色土	器A	椀
瓦	類	平瓦(縄目叩)
石　製	品	石鏃

S-379

土　師	器	坏、破片

S-381

須　恵	器	蓋3、坏、坏c、甕
土　師	器	坏、椀c、甕
黒色土	器A	破片
灰釉陶	器	破片
瓦	類	平瓦(格子叩、破片)、丸瓦(無文)
石　製	品	砥石、丸石、剥片

S-382

土　師	器	坏、甕

S-383

須　恵	器	坏a、皿a
土　師	器	坏a、破片

S-384

須　恵	器	蓋、坏、甕、破片
土　師	器	坏、坏a、高坏、破片
越州窯系青磁		椀：II-2(1)
瓦	類	破片

S-386

土　師	器	坏

S-387

須　恵	器	坏
土　師	器	甕、破片

S-388

土　師	器	坏

S-389

須　恵	器	坏、坏a、甕
土　師	器	坏a、甕
土　製	品	焼土塊

S-391

須　恵	器	蓋4
土　師	器	坏、椀c、甕

S-392

須　恵	器	破片
土　師	器	坏、破片
瓦	類	平瓦(破片)

S-393

須　恵	器	蓋3、破片
土　師	器	坏、椀c、甕、破片
黒色土	器A	椀c

S-394

土　師	器	丸底坏、椀c、甕
瓦	類	平瓦(破片)

S-396

土　師	器	破片

S-397

須　恵	器	蓋3、坏c、甕
土　師	器	坏、椀c、甕
黒色土	器A	椀c
緑釉陶	器	破片
瓦	類	平瓦(無文)

S-398

須　恵	器	蓋3、坏、坏c、甕、壺
土　師	器	坏、坏a、丸底坏a、椀c、小皿a、甕、破片
越州窯系青磁		椀：I(1)
白	磁	椀：II(1)、IV(1)　破片(1)、広東系破片(1)
瓦	類	平瓦(格子叩、縄目叩、無文)、丸瓦(格子叩)
金属製	品	鉱滓
石　製	品	剥片(黒曜石)、平玉石、砥石
土　製	品	ﾄﾘﾍﾞ、鋳型?、不明製品

S-399

須　恵	器	甕
土　師	器	坏
土　製	品	焼土塊

S-401

須　恵	器	坏、甕、破片
土　師	器	蓋、坏、坏a、小皿a
瓦	類	平瓦(破片)、破片

S-402

須　恵	器	蓋3、坏、坏a、坏c、甕
土　師	器	坏、坏a、椀c、甕、破片
黒色土	器A	椀c、破片
緑釉陶	器	椀
瓦	類	平瓦(縄目叩)

S-403

須　恵	器	蓋1、坏、坏c、甕、鉢?
土　師	器	坏、小皿、甕
金属製	品	鉱滓

S-404

土　師	器	破片
白	磁	椀：IV(1)

S-406

土　師	器	坏a、丸底坏a、甕
緑釉陶	器	椀c

S-407

瓦	類	平瓦(縄目叩、破片)

S-408

須　恵	器	甕

S-409

須　恵	器	坏c、破片
土　師	器	坏、丸底坏c、小皿a、破片
白	磁	椀：IV(1)
瓦	類	平瓦(格子叩、破片)、丸瓦(破片)
土　製	品	焼土塊

S-411

土　師	器	甕
瓦	類	破片

S-412

須　恵	器	坏a、坏c、甕、壺、破片
土　師	器	坏、椀c、椀、小皿?、甕、破片
黒色土	器A	椀、椀c
瓦	類	平瓦(縄目叩)、丸瓦(無文)
石　製	品	剥片(黒曜石)、破片(滑石)、石鏃

S-413

須　恵	器	坏
土　師	器	坏

S-414

土　師	器	坏

S-416

須　恵	器	破片
土　師	器	破片
瓦	類	平瓦(格子叩)

S-417

土　師	器	坏、坏a、甕
越州窯系青磁		椀：I(1)

S-418

須　恵	器	坏、坏c、甕、破片
土　師	器	坏a、椀c、甕、破片
黒色土	器A	椀、椀c
越州窯系青磁		椀：I-5(1)
瓦	類	平瓦(縄目叩)
金属製	品	鉱滓

S-419

須　恵	器	蓋3、坏c、甕
土　師	器	小坏×小椀、甕
白	磁	椀：破片(1)
瓦	類	平瓦(無文)

S-421

須　恵	器	甕、壺×鉢
土　師	器	坏、坏a、椀c、甕
瓦	類	平瓦(格子叩、無文)
石　製	品	丸石

S-422

須　恵	器	坏、坏c、甕
土　師	器	坏、甕、高台
瓦	類	丸瓦(格子叩)、平瓦(縄目叩)

S-423

須　恵	器	坏、甕
土　師	器	坏、甕、破片
黒色土	器A	破片
瓦	類	平瓦(縄目叩)

S-424

須　恵	器	蓋3、甕、破片
土　師	器	坏、甕、破片
瓦	類	平瓦(縄目叩、破片)

S-426

須　恵	器	坏c、破片
土　師	器	坏、椀c、甕、破片

S-427

須　恵	器	坏、坏a、甕
土　師	器	坏、坏a、坏c、甕、破片
黒色土	器A	破片

S-428

須　恵	器	蓋3、蓋c、坏a、坏c、高坏、甕、壺、鉢
土　師	器	坏a、椀c、小皿a、甕、把手
黒色土	器A	椀c
緑釉陶	器	水注×壺
瓦	類	平瓦(格子叩、縄目叩)
石　製	品	破片(滑石)

S-429

土　師	器	甕、破片

S-431

土　師	器	丸底坏、破片

S-432

須　恵	器	坏、甕
土　師	器	丸底坏a、甕、破片
黒色土	器A	破片

S-433

須　恵	器	甕
土　師	器	坏a、破片

S-434

須恵器	蓋3、坏、坏c、壺
土師器	椀c、甕、高台、破片
黒色土器A	椀c
瓦類	平瓦(破片)、破片(縄目叩)
石製品	剥片(黒曜石)

S-436

土師器	破片
瓦類	平瓦(破片)

S-437

土師器	椀c、甕
瓦類	丸瓦(格子叩)

S-438

須恵器	破片
土師器	椀c、甕、破片
瓦類	破片

S-439

土師器	坏、甕

S-441

須恵器	坏、甕
土師器	坏a、甕、破片
黒色土器A	椀
瓦類	平瓦(格子叩)

S-442

須恵器	坏
土師器	坏

S-443

須恵器	坏、皿a
土師器	破片
黒色土器A	破片

S-444

須恵器	坏c

S-446

土師器	椀、甕

S-447

須恵器	坏、甕
土師器	坏、甕
瓦類	平瓦(縄目叩)

S-448

土師器	甕、破片
瓦類	平瓦(格子叩)

S-449

須恵器	蓋3、坏、坏c、甕
土師器	坏、坏a、椀c、甕
瓦類	平瓦(格子叩)

S-451

須恵器	破片
土師器	坏、甕

S-452

土師器	破片

S-453

土師器	坏、破片
黒色土器A	破片
黒色土器B	破片

S-454

須恵器	甕
土師器	坏、丸底坏、小皿a、甕
黒色土器A	椀

S-456

須恵器	蓋3、坏
土師器	坏、甕、把手
黒色土器A	椀

S-457

土師器	坏、坏a、甕
土製品	焼土塊

S-458

須恵器	蓋3
土師器	坏、甕

S-459

土師器	椀c、甕

S-461

土師器	坏、破片
瓦類	破片(縄目叩)

S-462

須恵器	坏a
土師器	坏

S-463

須恵器	破片
土師器	坏、甕

S-464

須恵器	坏
土師器	坏、椀c、甕

S-464灰茶色粘土

土師器	坏、椀c

S-466

土師器	坏a、破片

S-467

須恵器	甕
土師器	坏、椀c、甕

S-468

須恵器	甕
土師器	坏
黒色土A	破片

S-469

須恵器	蓋1、坏、坏c
土師器	椀c、甕、破片
黒色土器A	椀
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩)

S-471

須恵器	蓋、坏、甕、壺、破片
土師器	坏、坏a、椀c、甕、破片
黒色土器A	破片
瓦類	平瓦(格子叩、無文)
石製品	砥石
土製品	焼土塊

S-472

土師器	坏、椀、小皿、破片

S-473

土師器	坏、椀c、甕
黒色土器A	破片

S-474

須恵器	破片
土師器	坏、甕
瓦類	破片(格子叩)
石製品	焼土塊

S-476

須恵器	破片
土師器	坏、甕
黒色土器A	破片
越州窯系青磁	椀：II(1)
石製品	平玉石

S-477

土師器	坏、破片
中国陶器	その他；破片(1)

S-478

須恵器	坏c
土師器	丸底坏、甕、破片

S-479

須恵器	甕
土師器	坏、小皿a、甕

S-481

須恵器	坏
土師器	坏、破片

S-482

須恵器	甕
土師器	坏、甕

S-483

土師器	坏、破片
黒色土器A	椀
瓦類	平瓦(無文)

S-484

須恵器	破片
土師器	小皿a、甕、破片

S-486

須恵器	坏
土師器	坏、破片
黒色土器A	椀c

S-487

土師器	甕

S-488

土師器	破片

S-489

瓦類	平瓦(縄目叩)

S-491

須恵器	甕
土師器	甕、破片
瓦類	平瓦(格子叩)

S-492

須恵器	坏、坏a、坏c、皿a、甕
土師器	坏、坏a、丸底坏、椀c、小皿a、甕、器台、破片
白磁	椀：I(1)、IV(1)、IV-2(1)、広東系(1) 皿：VI-b(1)、広東系(1)
瓦類	平瓦(格子叩)、破片
石製品	珪化木
土製品	焼土塊

S-493

須恵器	坏c、皿a
土師器	破片
瓦類	平瓦(縄目、破片)

S-494

須恵器	破片
土師器	破片
黒色土器A	椀c
瓦類	平瓦(破片)

S-496

土師器	破片

S-497

須恵器	蓋1、坏a、坏c、甕
土師器	坏、坏a、丸底坏a、椀c、皿a、甕
黒色土器A	坏a、椀、椀c
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩)、丸瓦(無文)、鬼瓦

S-497黒灰色粘土

須恵器	甕、壺
土師器	坏、坏a、椀c、甕、破片
長沙窯系青磁	水注(1)
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩)、丸瓦(格子叩)
石製品	焼石

S-497暗灰色粘土

須恵器	蓋1、坏c、甕、破片
土師器	坏a、坏c、甕、破片
白磁	破片(1)
瓦類	平瓦(縄目叩、無文)、丸瓦(無文)

S-498

瓦類	丸瓦(無文)

S-499

黒色土器A	破片
瓦類	平瓦(破片)

S-501

土師器	坏、破片

S-502

須恵器	坏
土師器	破片

S-503

土師器	坏、破片

S-504

須恵器	坏a、坏c、甕、破片
土師器	坏a、椀c、甕
黒色土器A	破片
瓦類	丸瓦(格子叩)

S-506

土師器	坏、坏a

S-507

土師器	甕、破片
古式土師器	破片

S-508

須恵器	甕
土師器	甕、破片

S-509

須恵器	坏c

S-511

土師器	坏
黒色土器A	椀

S-512

須恵器	坏、坏c、甕
土師器	丸底坏a、椀c、小皿a、甕、把手
黒色土器A	椀
瓦類	平瓦(格子叩、縄目、破片)

S-513

須恵器	破片
土師器	破片

S-514

土師器	破片
黒色土器A	破片
瓦類	平瓦(破片)

S-516

須恵器	破片
土師器	破片

S-517

須恵器	坏
土師器	丸底坏a、甕

S-518

土師器	坏

S-519

須恵器	蓋3、甕、大甕、壺、破片
土師器	坏、坏a、椀c、甕
黒色土器A	椀
白磁	椀：IV-b(1)
瓦類	平瓦(格子叩、破片)
金属製品	鉱滓
石製品	石鍋

S-521

須恵器	坏、皿a
土師器	坏、甕
黒色土器A	椀c

S-522

須恵器	坏
土師器	坏、破片

S-523

土師器	破片

S-524

土師器	蓋c

S-526

土師器	坏、破片

S-527

須恵器	蓋3、坏、坏a、坏c、皿a、壺
土師器	坏、坏a、坏d、椀c、甕
瓦類	平瓦(格子叩、縄目叩、無文)、丸瓦(格子叩)
石製品	剥片((黒曜石)

S-528

土師器	坏a

S-529

須恵器	蓋3、坏、皿a、甕、鉢、盤
土師器	坏a、椀c、甕
黒色土器A	椀c
瓦類	平瓦(無文)、丸瓦(格子叩)

S-531

須恵器	坏
土師器	坏、甕

S-532

須恵器	蓋3
土師器	蓋、坏

S-533

須恵器	甕
土師器	甕、破片

S-534

須恵器	破片
土師器	破片

S-536

須恵器	甕、ﾌﾗﾐ、破片
土師器	坏、坏a、甕
黒色土器A	破片

S-537

土師器	坏

S-538

土師器	甕、破片

S-539

須恵器	蓋3、坏、甕
土師器	破片

S-541

土師器	破片

S-542

土師器	坏c、甕、破片

S-543

土師器	坏、甕

S-544

土師器	坏

S-546

須　恵　器	甕
土　師　器	甕、破片

S-547

土　師　器	甕

S-548

須　恵　器	坏
土　師　器	破片

S-549

土　師　器	破片

S-551

須　恵　器	坏
土　師　器	破片

S-552

土　師　器	甕

S-553

土　師　器	甕

S-554

須　恵　器	甕
土　師　器	坏、甕

S-556

須　恵　器	蓋
土　師　器	坏、甕

S-557

須　恵　器	壺
土　師　器	坏、甕

S-558

須　恵　器	甕
土　師　器	坏、破片

S-559

土　師　器	破片
黒色土器A	椀

S-561

須　恵　器	蓋3、坏、甕
土　師　器	坏、甕

S-562

土　師　器	坏
瓦　　類	平瓦(破片)

S-563

須　恵　器	坏
土　師　器	破片

S-564

土　師　器	破片

S-566

須　恵　器	坏、破片
土　師　器	坏、破片
黒色土器A	破片
灰釉陶器	破片(1)
瓦　　類	平瓦(縄目叩、無文)

S-567

土　師　器	坏、甕

S-568

土　師　器	坏、甕

S-569

土　師　器	坏a、坏c
瓦　　類	破片

S-571

須　恵　器	坏a、甕
土　師　器	坏、甕
土　製　品	焼土塊

S-572

須　恵　器	蓋3、坏、甕
土　師　器	坏a、椀c、甕
黒色土器A	椀c
瓦　　類	丸瓦(無文)、平瓦(格子叩、無文)

S-573

須　恵　器	破片
土　師　器	坏a、甕
黒色土器A	破片

S-574

須　恵　器	坏、甕
土　師　器	椀c、甕、破片

S-576

須　恵　器	甕
土　師　器	坏a、椀c、甕
黒色土器A	椀c
瓦　　類	平瓦(格子叩、破片)

S-577

須　恵　器	鉢?
土　師　器	甕

S-578

須　恵　器	坏
土　師　器	坏

S-579

土　師　器	坏、椀c、甕

S-581

須　恵　器	坏
土　師　器	坏、坏a、破片

S-582

須　恵　器	蓋、坏、甕
土　師　器	坏、甕

S-583

須　恵　器	破片
土　師　器	破片

S-584

土　師　器	甕、破片

S-586

須　恵　器	甕
土　師　器	坏、破片

S-587

須　恵　器	坏a、甕
土　師　器	甕
瓦　　類	破片

S-588

須　恵　器	蓋3、甕
土　師　器	坏、甕
瓦　　類	平瓦(格子叩)

S-589

土　師　器	破片

S-591

須　恵　器	蓋、蓋3、坏、坏a、坏c、鉢
土　師　器	坏、坏a、坏c、皿a、甕、鉢
瓦　　類	破片(縄目叩)

S-592

須　恵　器	坏、甕
土　師　器	坏、破片
瓦　　類	平瓦(縄目叩)

S-593

須　恵　器	蓋3、坏、坏a、甕
土　師　器	坏、椀c、甕

S-594

土　師　器	破片

S-596

土　師　器	坏、破片
黒色土器A	破片
瓦　　類	破片

S-597

須　恵　器	坏、壺?
土　師　器	坏

S-598

須　恵　器	甕、破片
土　師　器	坏、椀c
黒色土器A	破片
瓦　　類	破片
金属製品	鉱滓

S-599

土　師　器	坏
黒色土器A	破片

S-601

須　恵　器	坏
土　師　器	坏、甕

S-602

土　師　器	破片

S-603

土　師　器	坏、小皿a、甕
黒色土器B	破片

S-604

土　師　器	破片

S-606

須　恵　器	蓋3
土　師　器	坏、破片
黒色土器A	破片
瓦　　類	平瓦(格子叩)

S-607

須　恵　器	坏
土　師　器	甕、破片
石　製　品	平玉石

S-608

須　恵　器	破片

S-609

土　師　器	坏、甕
黒色土器A	破片

S-611

須　恵　器	坏
土　師　器	坏、破片

S-612

土　師　器	甕

S-613

須　恵　器	坏、甕
土　師　器	坏a、甕、破片

S-614

須　恵　器	蓋、坏、甕
土　師　器	坏a、椀c、甕
黒色土器A	椀c
瓦　　類	平瓦(無文、破片)、丸瓦(格子叩)

S-616

須　恵　器	破片
土　師　器	破片

S-617

須　恵　器	甕
土　師　器	甕、破片
黒色土器A	破片
瓦　　類	破片

S-618

須　恵　器	蓋
土　師　器	甕

S-619

須　恵　器	甕
土　師　器	坏

S-621

須　恵　器	坏
土　師　器	坏

S-622

土　師　器	甕、破片

S-623

土　師　器	坏、破片

S-624

須　恵　器	甕、坏
土　師　器	破片

S-626

須　恵　器	蓋3、坏、坏c、甕、壺
土　師　器	坏a、甕、破片
黒色土器A	椀c
金属製品	不明銅製品

S-627

土　師　器	坏、坏a

S-628

須　恵　器	坏c、甕
土　師　器	甕、破片
黒色土器A	椀c

S-629

土　師　器	破片
古式土師器	破片

S-631

須　恵　器	坏
土　師　器	坏、小皿a、甕
黒色土器B	椀
白　　磁	椀;I(1)
石　製　品	丸石

S-632

須　恵　器	甕、壺
土　師　器	坏、破片
黒色土器A	破片
須恵質土器	鉢
瓦　　類	平瓦(格子叩)、丸瓦(無文)
石　製　品	滑石(破片)

S-633

灰釉陶器	椀×皿
瓦　　類	平瓦(格子叩)、破片(縄目叩)

S-634

須　恵　器	蓋、甕
土　師　器	坏a、椀c、甕
黒色土器A	椀
瓦　　類	平瓦(破片)

S-636

須　恵　器	甕
土　師　器	坏、坏a、甕
黒色土器A	椀

S-637

須　恵　器	坏
土　師　器	坏a、椀c、甕
黒色土器A	破片

S-638

須　恵　器	蓋、甕、破片
土　師　器	小皿a、甕、破片
越州窯系青磁	椀:II-2(1)

S-639

須　恵　器	坏、甕、脚部
土　師　器	坏、椀c、甕
瓦　　類	丸瓦(格子叩、破片)、瓦玉
土　製　品	焼土塊

S-641

須　恵　器	坏c、甕
土　師　器	甕、破片

S-642

土　師　器	甕、破片

S-643

須　恵　器	蓋3、坏、甕
土　師　器	坏a、椀c、ﾌﾂﾐ、破片

S-644

須　恵　器	破片
土　師　器	坏、破片
灰釉陶器	破片

S-646

須　恵　器	坏、坏a、坏c、甕
土　師　器	坏、椀c、甕
瓦　　類	丸瓦(無文)、平瓦(縄目叩)

S-647

土　師　器	坏、破片

S-648

須　恵　器	破片
土　師　器	坏、甕

S-649

須　恵　器	蓋3、甕
土　師　器	坏、坏c、椀c、皿a

S-651

土　師　器	坏a、破片
瓦　　類	平瓦(格子叩)

S-652

土　師　器	丸底坏a、小皿a、破片
黒色土器A	椀c

S-653

土　師　器	坏a、甕、破片
黒色土器B	破片

S-654

須　恵　器	坏c
土　師　器	破片

S-656

須　恵　器	破片
土　師　器	破片

S-657

須　恵　器	坏
土　師　器	坏、甕

S-658

土　師　器	甕、破片

S-659

須　恵　器	蓋3、坏c、甕
土　師　器	坏、甕

S-661

土　師　器	小皿a、甕、破片

S-662

須　恵　器	坏c
土　師　器	坏、丸底坏a、破片
土　製　品	焼土塊

S-663

土　師　器	破片

S-664

須恵器	坏、坏c、甕
土師器	坏、坏a、椀、椀c、小皿a、甕
黒色土器A	破片
白磁	皿：XI-2(1)
瓦類	丸瓦(格子叩、無文)、破片
土製品	焼土塊

S-666

須恵器	坏、坏c、甕
土師器	椀c、甕
黒色土器A	椀c

S-667

須恵器	蓋、甕、破片
土師器	坏、坏a、甕
長沙窯系青磁	水注(1)

S-668

須恵器	坏a
土師器	坏、坏a、小皿a
土製品	焼土塊

S-669

土師器	坏、丸底坏a、甕、破片
黒色土器A	椀c
瓦類	丸瓦(破片)
金属製品	鉱滓

S-671

須恵器	坏c
土師器	甕、破片
瓦類	平瓦(無文)

S-672

須恵器	甕
土師器	坏、甕、破片

S-673

須恵器	蓋3、坏、坏c、高坏、甕、大甕
土師器	坏a、丸底坏a、椀c、甕、ｶﾏﾄﾞ
黒色土器A	椀、椀c、甕
越州窯系青磁	椀：II(1)
瓦類	平瓦(縄目叩、無文)、丸瓦(格子叩、無文) 破片(格子叩)
金属製品	鉱滓

S-674

須恵器	蓋c、坏、皿a、甕、壺
土師器	坏、坏c、椀c、甕、鉢?、破片
黒色土器A	破片
瓦類	平瓦(格子叩、縄目叩)、丸瓦(縄目叩、無文)
石製品	丸石

S-676

須恵器	蓋c

S-677

土師器	破片

S-678

土師器	破片

S-679

須恵器	蓋c、甕
土師器	蓋、坏a、椀c、甕
黒色土器A	椀c

S-681

須恵器	坏
土師器	坏、小皿a、甕
黒色土器A	破片
瓦類	破片(縄目叩)

S-682

土師器	坏、破片

S-683

土師器	坏a、破片
瓦類	丸瓦(無文)

S-684

須恵器	蓋3、破片
土師器	坏a、椀c、甕、破片
黒色土器A	椀c、破片

S-686

須恵器	甕
土師器	坏、甕
黒色土器A	椀c
黒色土器B	椀

S-687

須恵器	坏c、破片
土師器	坏a、甕、破片
瓦類	平瓦(破片)

S-688

須恵器	甕
土師器	蓋、甕
黒色土器A	破片
黒色土器B	破片

S-689

須恵器	坏、甕
土師器	坏、坏a、椀c、甕
瓦類	平瓦(格子叩)

S-691

土師器	坏、丸底坏、小皿a、甕

S-692

須恵器	蓋、蓋3、坏a、坏c、甕
土師器	坏a、甕
黒色土器A	椀c
越州窯系青磁	破片I(1)

S-693

土師器	坏、甕
瓦類	瓦玉

S-694

須恵器	坏、甕
土師器	坏、坏a、甕
瓦類	破片(格子叩)

S-696

須恵器	破片
土師器	破片
金属製品	鉱滓

S-697

須恵器	坏、坏a
土師器	甕、破片

S-698

土師器	甕

S-699

須恵器	坏
土師器	坏、甕、破片
金属製品	鉄釘

S-701

須恵器	甕、破片
土師器	坏、椀c、甕
黒色土器A	椀c
瓦類	破片(格子叩)

S-702

須恵器	坏、甕
土師器	坏、椀c、甕
黒色土器A	椀
瓦類	平瓦(格子叩)

S-703

須恵器	坏、坏c
土師器	坏a、椀c、甕

S-704

須恵器	甕
土師器	坏、甕

S-706

須恵器	蓋3、坏、坏a、坏c、甕
土師器	坏、坏a、坏c、甕
その他	高師小僧

S-707

須恵器	甕
土師器	坏

S-708

須恵器	坏、坏c
土師器	坏a、破片
黒色土器A	破片
瓦類	平瓦(縄目叩)

S-711

須恵器	蓋3、甕
土師器	甕、破片

S-712

土師器	坏、破片

S-713

須恵器	坏a、甕
土師器	坏、坏a、甕
黒色土器A	破片

S-714

須恵器	坏、甕
土師器	坏a、小皿a、甕
黒色土器A	椀c、破片

S-716

須恵器	蓋3、蓋c、坏、坏c
土師器	坏a、甕
黒色土器A	椀
瓦類	平瓦(格子叩)

S-717

土師器	坏、破片
黒色土器A	破片
瓦類	破片

S-718

須恵器	蓋3、蓋c、坏c、甕、壺、破片
土師器	坏a、坏c、小皿、丸底坏?、甕、高台、破片
黒色土器A	椀c
瓦類	平瓦(縄目叩、無文)、丸瓦(格子叩)
石製品	砥石

S-719

須恵器	破片
土師器	坏、甕
黒色土器A	椀c

S-721

須恵器	蓋1、蓋3、坏a、坏c、皿a、甕、鉢
土師器	蓋、坏、坏a、椀c、甕
瓦類	平瓦(縄目叩)

S-722

須恵器	坏、甕
土師器	坏、坏a、椀c、甕
黒色土器A	椀

S-723

須恵器	坏c
土師器	坏、椀c、甕
瓦類	平瓦(格子叩)

S-724

須恵器	坏、坏c、甕
土師器	坏、甕

S-726

須恵器	破片
土師器	坏a、甕

S-727

土師器	甕

S-728

須恵器	坏、坏c、甕
土師器	甕、破片

S-729

須恵器	蓋3、坏a、坏c、壺
土師器	坏、坏a、高坏、甕

S-731

須恵器	坏
土師器	坏、甕

S-732

土師器	坏、甕
黒色土器A	椀

S-733

土師器	坏、破片

S-734

土師器	破片

S-736

土師器	坏、坏c

S-737

須恵器	甕
土師器	小皿a(ﾍﾗ)、破片

S-738

須恵器	甕
土師器	坏、甕

S-739

須恵器	坏c
土師器	坏、甕

S-741

須恵器	甕
土師器	坏、丸底坏、小皿a
黒色土器B	破片
灰釉陶器	破片
瓦類	破片

S-742

土師器	破片

S-743

土師器	坏

S-744

須恵器	甕
土師器	坏、破片

S-746

須恵器	破片
土師器	破片

S-747

土師器	坏
黒色土器A	破片

S-748

土師器	坏

S-749

土師器	破片

S-751

土師器	坏

S-752

土師器	坏、甕

S-753

須恵器	甕
土師器	甕

S-754

土師器	甕

S-756

土師器	破片

S-757

須恵器	甕、破片
土師器	坏a、甕、破片

S-758

土師器	坏、破片

S-759

須恵器	甕
土師器	坏a、破片

S-761

須恵器	蓋3、坏
土師器	甕、破片
石製品	軽石

S-762

須恵器	坏
土師器	甕、破片

S-763

須恵器	皿a
土師器	蓋c、坏a、椀c、甕

S-764

須恵器	破片
土師器	坏、甕

S-766

須恵器	蓋3、坏、坏c
土師器	坏a、破片

S-767

須恵器	坏、坏a、甕
土師器	坏、椀c、甕
黒色土器A	破片

S-768

須恵器	蓋3、坏a、甕、壺
土師器	坏a、椀c、甕
黒色土器A	椀c、破片
越州窯系青磁	椀：I-2b(1)　破片I(2)
白磁	破片I(1)
瓦類	丸瓦(格子叩)、軒丸瓦
石製品	平玉石

S-769

土師器	丸底坏a、小皿a、破片

S-771

須恵器	蓋3、甕、壺、ﾌﾀﾞ、破片
土師器	坏a、椀c、甕、破片
黒色土器A	破片
瓦類	平瓦(格子叩)

S-772

須恵器	坏a、甕、破片
土師器	坏、坏a、椀c、甕、破片
黒色土器A	椀c
越州窯系青磁	破片I(1)

S-773

土師器	甕、破片
瓦類	破片

S-774

須恵器	坏、甕、破片
土師器	坏a、椀c、甕
黒色土器A	椀、椀c
緑釉陶器	椀c
瓦類	平瓦(格子叩、縄目叩)、破片

S-776

須恵器	甕
土師器	坏、坏a、丸底坏a、椀c、皿a、甕
瓦類	破片

S-777

須恵器	甕
土師器	坏a、甕
黒色土器A	椀c、破片
越州窯系青磁	破片I(1)
金属製品	鉄釘

S-778

須恵器	破片
土師器	坏、甕、破片

S-779

須恵器	甕
土師器	坏a、甕
黒色土器A	椀、椀c
越州窯系青磁	破片I(1)

S-781

須恵器	甕
土師器	坏、小皿a(ヘラ)、甕
越州窯系青磁	破片I(1)
瓦類	平瓦(格子叩)
金属製品	鉄釘

S-782

須恵器	甕
土師器	甕、高台、破片
黒色土器A	破片

S-783

須恵器	坏、甕
土師器	坏、坏a、甕
黒色土器A	破片
石製品	平玉石

S-784

須恵器	甕
土師器	坏、破片
瓦類	平瓦(格子叩)

S-786

土師器	坏a、甕
黒色土器A	破片

S-787

須恵器	蓋、坏
土師器	甕、破片

S-788

須恵器	坏c、皿a、壺
土師器	坏、坏a、皿a、甕、破片
白磁	椀：IV-1(1)　皿：II-1(1)
瓦類	平瓦(縄目叩)
石製品	丸石

S-789

土師器	破片

S-791

土師器	破片
古式土師器	甕

S-792

瓦類	平瓦(縄目叩)

S-793

土師器	坏

S-794

土師器	破片

S-796

須恵器	坏a、坏c
土師器	坏、破片

S-797

須恵器	坏、坏c、皿a?、甕
土師器	坏a、椀c、甕、把手
黒色土器A	破片
瓦類	平瓦(破片)
石製品	剥片(黒曜石)

S-798

須恵器	坏、甕
土師器	坏、甕

S-799

須恵器	蓋1、坏、坏a、坏c、甕
土師器	坏、坏a、甕
石製品	叩き石

S-801

須恵器	坏c、甕
土師器	坏、甕

S-802

須恵器	坏、壺?
土師器	坏、椀c、甕
瓦類	破片

S-803

須恵器	坏、壺b
土師器	破片

S-804

須恵器	蓋3、甕
土師器	甕、破片
金属製品	鉄(破片)

S-806

須恵器	坏c
土師器	破片

S-807

須恵器	坏、坏c、甕
土師器	甕、破片
黒色土器B	破片
瓦類	破片

S-808

須恵器	蓋c、坏、甕
土師器	坏、椀c、小皿a、甕
灰釉陶器	破片
白磁	椀：IV(1)
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩)、破片
度製品	焼土塊

S-809

土師器	坏

S-811

須恵器	坏c、甕、壺
土師器	坏、坏a、椀c、甕

S-812

須恵器	坏
土師器	坏a、椀c、甕

S-813

土師器	甕、破片

S-814

土師器	坏、破片

S-816

須恵器	坏、坏a、甕
土師器	坏a、椀c、甕
黒色土器A	破片

S-817

須恵器	坏、甕
土師器	坏a、坏c、椀c

S-818

須恵器	蓋3、坏a
土師器	坏、坏a、甕、破片

S-819

須恵器	坏c、破片
土師器	坏、甕、破片
黒色土器A	破片

S-821

須恵器	甕、破片
土師器	坏、甕、破片
黒色土器A	破片
石製品	滑石(破片)

S-822

須恵器	坏a
土師器	坏

S-823

須恵器	甕

S-824

須恵器	蓋3、坏、坏a、坏c、甕、壺、脚部
土師器	坏a、椀c、小皿a、甕
黒色土器A	椀、椀c
越州窯系青磁	椀：II(1)
瓦類	平瓦(破片)

S-826

須恵器	坏、甕
土師器	坏a、椀c、甕
灰釉陶器	椀×皿
石製品	剥片(黒曜石)

S-827

須恵器	蓋3、坏、坏c、甕
土師器	坏a、椀c、甕
黒色土器A	椀
白磁	椀：破片(1)
瓦類	平瓦(縄目叩)、破片
金属製品	鉱滓

S-828

土師器	破片

S-829

須恵器	蓋3、坏、坏a
土師器	坏、甕、破片

S-831

土師器	破片

S-832

土師器	坏、甕、破片

S-833

須恵器	蓋3、坏c、甕、壺
土師器	坏、坏a、大坏d、椀c、皿a、甕
瓦類	平瓦(縄目叩)

S-834

土師器	坏、甕、把手

S-836

須恵器	蓋、蓋3、蓋4、蓋b、蓋c、坏、坏a、坏c、甕 壺、破片
土師器	坏、坏a、高坏、椀c、皿a、甕、鉢、ｶﾏﾄﾞ、破片
黒色土器A	椀、椀c、破片
黒色土器B	椀c
越州窯系青磁	椀：I(1)、I-1(1)　水注(1)
長沙窯系青磁	水注(1)
白磁	破片(1)
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩、無文)、丸瓦(格子叩、無文)
石製品	砥石、平玉石、叩き石
土製品	焼土塊

S-837

須恵器	破片
土師器	坏、坏a、破片
黒色土器A	椀c

S-838

須恵器	甕
土師器	坏a、椀c
黒色土器A	破片

S-839

須恵器	甕、破片
土師器	坏a、椀c、甕
黒色土器A	椀
緑釉陶器	破片

S-841

須恵器	坏c、甕、破片
土師器	坏、坏a、甕、破片
黒色土器A	椀c
金属製品	鉱滓

S-842

須恵器	蓋3、甕
土師器	坏、坏a、椀c、甕
黒色土器A	椀c
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩)

S-843

須恵器	甕
土師器	坏、甕
黒色土器A	破片

S-844

須恵器	破片

S-846

須恵器	蓋3、坏c、甕
土師器	坏、坏a、椀c、甕
黒色土器A	椀c
越州窯系青磁	椀：I(1)
瓦類	平瓦(格子叩)
石製品	砥石、平玉石

S-847

須恵器	蓋1、蓋3、甕
土師器	坏、坏a、椀c、甕
瓦類	平瓦(格子叩)

S-848

須恵器	坏、坏c
土師器	坏、坏a、椀c、甕、破片
緑釉陶器	破片

S-849

須恵器	甕、破片
土師器	坏、坏a、破片
瓦類	平瓦(縄目叩)

S-851

須恵器	破片
土師器	甕、破片

S-852

須恵器	坏、甕
土師器	坏、甕、破片

S-853

須恵器	坏、甕
土師器	坏、坏a、甕
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩)

S-854

須恵器	坏a、坏c、高坏、破片
土師器	坏、椀c、甕
黒色土器A	破片
黒色土器B	破片

S-856

須恵器	甕
土師器	坏、甕、破片

S-857

須恵器	蓋
土師器	甕、破片

S-858

須恵器	坏、坏c
土師器	坏、坏a、椀c、破片
越州窯系青磁	椀：I(1)
石製品	剥片(黒曜石)、砥石
土製品	焼土塊

S-859

須恵器	坏c、甕
土師器	坏、坏a、皿a、甕
黒色土器A	椀

S-861

須恵器	坏a、破片
土師器	坏、甕
黒色土器A	椀

S-862

須恵器	蓋3、坏、坏a、壺、破片
土師器	坏、甕、鉢、破片
黒色土器A	椀c、破片

S-863

須恵器	甕、破片
土師器	坏a、甕、破片
瓦類	破片

S-864

土師器	坏、破片

S-866

須恵器	蓋3、蓋c、坏、坏a、坏c、甕、壺、破片
土師器	蓋3、坏、坏a、椀c、皿a、甕、鉢×甕、把手
黒色土器A	椀c、破片
緑釉陶器	椀、椀c、小壺
越州窯系青磁	椀：I(1)
瓦類	平瓦(縄目叩、格子叩)、軒平瓦、破片
石製品	丸石
土製品	焼土塊

S-867

土師器	坏、甕

S-868

須恵器	破片
土師器	破片

S-869

須恵器	坏c、甕
土師器	坏、ｶﾏﾄﾞ、破片

S-871

須恵器	甕
土師器	坏、椀c、甕

S-872

須恵器	蓋3、甕
土師器	坏、椀c、甕
黒色土器A	椀c
黒色土器B	破片
石製品	滑石加工品

S-873

須恵器	坏、甕
土師器	坏a、破片

S-874

土師器	椀c、破片

S-876

土師器	坏、椀c、甕
黒色土器A	椀c
瓦類	瓦玉

S-877

土師器	坏

S-878

須恵器	蓋、蓋3、皿、甕
土師器	坏、坏a、甕

S-879

須恵	器	坏c
土師	器	坏、甕、ｶﾏﾄﾞ、破片
黒色土器A		破片
瓦	類	平瓦(格子叩)、破片

S-881

須恵	器	蓋3
土師	器	椀、椀c、甕
黒色土器A		椀c

S-882

須恵	器	甕、破片
土師	器	坏、椀c、甕、破片

S-883

須恵	器	坏c、甕、破片
土師	器	坏a、椀、甕
黒色土器A		椀c
瓦	類	破片(格子叩)
石製	品	平玉石

S-884

須恵	器	蓋1、蓋c、坏a、坏c、皿a、甕、壺
土師	器	蓋、坏、坏a、椀c、皿a、甕
黒色土器A		椀、椀c
緑釉陶	器	椀×皿、破片
瓦	類	平瓦(縄目叩,格子叩)
金属製	品	鉱滓

S-886

須恵	器	破片
土師	器	坏、甕、破片

S-887

須恵	器	坏
土師	器	甕、破片

S-888

土師	器	甕
金属製	品	鉱滓

S-889

須恵	器	蓋3、甕、破片
土師	器	甕、破片
土製	品	焼土塊

S-891

土師	器	破片

S-892

須恵	器	破片
土師	器	坏
黒色土器A		破片

S-893

土師	器	甕、破片

S-894

土師	器	坏、甕

S-896

須恵	器	坏
土師	器	坏、破片
瓦	類	破片
土製	品	ﾄﾘﾍﾞ×輪羽口

S-897

土師	器	坏、甕

S-898

須恵	器	破片
土師	器	坏、甕
瓦	類	破片(縄目叩)

S-899

須恵	器	坏、甕
土師	器	椀c、甕、破片

S-901

須恵	器	坏a
土師	器	破片

S-902

須恵	器	坏、甕
土師	器	坏
その他		炭

S-903

土師	器	坏、甕

S-904

須恵	器	蓋3、甕
土師	器	坏、甕、破片
瓦	類	平瓦(縄目叩)

S-906

須恵	器	坏
土師	器	坏、甕

S-907

須恵	器	蓋3、坏c
土師	器	坏、坏a

S-908

土師	器	坏

S-909

土師	器	椀c、破片

S-911

須恵	器	坏a
土師	器	坏、甕

S-912

須恵	器	破片
土師	器	坏

S-913

土師	器	破片

S-913掘方

土師	器	甕

S-914

土師	器	破片

S-914柱痕

土師	器	坏a、甕

S-916

須恵	器	蓋
土師	器	坏、甕

S-917

須恵	器	甕、破片
土師	器	坏a、甕、破片

S-918

須恵	器	破片
土師	器	椀c、甕
黒色土器A		破片

S-919

須恵	器	破片
土師	器	坏
土製	品	焼土塊

S-921

土師	器	破片
古式土師	器	甕×壺

S-922

須恵	器	坏
土師	器	坏、丸底坏、椀c、甕、破片
黒色土器A		破片

S-923

土師	器	破片

S-924

須恵	器	甕
土師	器	破片

S-926

土師	器	坏、破片

S-927柱痕

須恵	器	坏
土師	器	甕、坏

S-928

須恵	器	蓋3、坏a、坏c、壺
土師	器	坏、坏a、椀c、甕
瓦	類	平瓦(格子叩)

S-929

土師	器	破片

S-931

須恵	器	蓋3、坏、坏a、甕
土師	器	坏、坏a、甕
黒色土器A		椀
越州窯系青磁		椀：I(1)，II-1b(1)　　破片II(1)
瓦	類	平瓦(格子叩)
石製	品	平玉石

S-932

土師	器	破片

S-933

須恵	器	坏a
土師	器	坏a、甕、高台、破片

S-934

須恵	器	坏
土師	器	坏

S-936

須恵	器	坏
土師	器	甕、破片
瓦	類	破片

S-937

須恵	器	破片
土師	器	坏、破片
黒色土器A		椀

S-938

須恵	器	甕、破片
土師	器	坏、椀c、甕
黒色土器A		破片
瓦	類	平瓦(格子叩)
石製	品	剥片

S-939

須恵	器	蓋3、坏、坏a、高台
土師	器	坏、坏a、甕

S-941

土師	器	破片
石製	品	丸石

S-942

須恵	器	甕、破片
土師	器	坏、甕

S-943

須恵	器	坏、破片
土師	器	甕、破片
黒色土器B		破片

S-944

土師	器	坏

S-946

土師	器	椀、破片

S-947

土師	器	坏、甕、破片
黒色土器A		椀

S-948

須恵	器	坏
土師	器	坏、椀c、甕

S-949

土師	器	甕、破片

S-951

須恵	器	蓋3
土師	器	坏、坏a、破片
黒色土器A		破片

S-952

須恵	器	蓋3
土師	器	甕

S-953

須恵	器	坏
土師	器	坏、甕

S-954

須恵	器	蓋、坏a、坏c
土師	器	坏a、椀c、甕、破片
黒色土器A		椀
瓦	類	平瓦(縄目叩)

S-956

須恵	器	蓋、蓋3、蓋c、坏、坏c
土師	器	坏、坏a、甕
黒色土器A		破片
瓦	類	平瓦(無文)
金属製	品	鉱滓

S-957

須恵	器	蓋3、坏、甕
土師	器	蓋、坏、坏a、高坏、甕

S-958

須恵	器	蓋c、坏、甕
土師	器	坏、甕
瓦	類	平瓦(縄目叩)
石製	品	砥石

S-959

須恵	器	破片
土師	器	坏、坏a、甕、破片
金属製	品	鉱滓

S-961

須恵	器	破片
土師	器	坏、坏a、甕
金属製	品	鉱滓

S-962

土師	器	坏、甕
瓦	類	平瓦(無文)

S-963

須恵	器	破片
土師	器	坏、甕

S-964

須恵	器	甕
土師	器	椀c、甕
黒色土器A		破片
瓦	類	破片(格子叩)

S-966

須恵	器	破片
土師	器	坏a、丸底坏a、甕、破片

S-967

土師	器	椀c

S-968

須恵	器	蓋3、坏、甕
土師	器	坏、小皿a、甕

S-969

須恵	器	坏a、甕
土師	器	蓋、坏、甕
黒色土器A		椀c、破片

S-971

須恵	器	破片
土師	器	坏、甕
瓦	器	椀

S-972

須恵	器	甕
土師	器	坏
黒色土器A		破片

S-973

土師	器	坏a、丸底坏a、破片

S-974

須恵	器	坏
土師	器	坏a、甕、破片

S-977

須恵	器	蓋、坏a、甕、破片
土師	器	坏、甕、破片
瓦	類	平瓦(無文)

S-978

須恵	器	蓋3、甕
土師	器	坏、坏a、甕、破片
黒色土器A		椀c

S-979

須恵	器	破片
土師	器	破片

S-981

須恵	器	坏、甕、壺?
土師	器	坏、坏a、甕
黒色土器A		破片
瓦	類	破片(縄目叩)

S-982

須恵	器	坏
土師	器	坏、甕

S-983

須恵	器	甕
土師	器	坏、甕
黒色土器A		破片
瓦	類	破片

S-984

須恵	器	坏c、破片
土師	器	丸底坏、甕
黒色土器A		破片
黒色土器B		破片
瓦	類	破片

S-986

須恵	器	蓋3、坏、甕
土師	器	坏a、甕、破片
黒色土器A		坏a、椀c
瓦	類	平瓦(無文)

S-987

土師	器	甕、破片

S-988

須恵	器	甕、壺×鉢
土師	器	坏、坏a、甕、破片
黒色土器A		破片

S-989

須恵	器	坏a、甕
土師	器	坏、甕
黒色土器A		破片

S-991

須恵	器	蓋3、坏、坏c、甕、壺、壺e
土師	器	坏a、高坏、椀c、甕
黒色土器A		椀、椀c
瓦	類	丸瓦(格子叩)、破片

S-992

須恵	器	蓋3、蓋4、蓋c、坏、坏a、甕、壺、破片
土師	器	蓋、坏a、椀c、甕、破片
黒色土器A		椀c
瓦	類	平瓦(縄目叩)

S-993

須恵	器	坏、甕
土師	器	坏、坏a、甕

S-994

須恵	器	坏
土師	器	坏、甕

S-996

須恵	器	蓋?、破片
土師	器	坏、坏a、甕
黒色土器A		椀c
瓦	類	平瓦(格子叩、無文)

S-997

須恵	器	坏、坏c、壺?
土師	器	坏、甕

S-998

須恵	器	坏、甕
土師	器	坏、坏a、椀c、甕
黒色土器A		椀c
越州窯系青磁		破片II(1)
瓦	類	破片
土製	品	焼土塊

S-999

須恵	器	坏
土師	器	坏、甕
灰釉陶	器	椀×皿

S-1001

須恵	器	蓋b、坏、高台
土師	器	坏
黒色土器A		破片
瓦	類	破片

S-1002

須恵	器	破片
土師	器	甕、破片
石製	品	砥石

S-1003

須恵	器	坏
土師	器	坏、破片

S-1004

石製	品	砥石?

S-1006

土師	器	坏、破片

S-1007

須恵	器	破片
土師	器	坏、甕

S-1008

須恵	器	破片
土師	器	破片
石製	品	砥石

S-1009

須恵	器	坏
土師	器	坏、破片
石製	品	軽石

S-1011

須恵	器	破片
土師	器	蓋、坏、甕
黒色土器A		椀c、破片
緑釉陶	器	椀×皿
瓦	類	破片
石製	品	平玉石

S-1012

須恵	器	坏、坏a
土師	器	坏、破片
同安窯系青磁		椀：I(1)

S-1013

土師	器	坏、破片
黒色土器A		椀

S-1014

須恵	器	坏×蓋
土師	器	坏、皿a、甕、破片

S-1016

土師	器	坏、甕

S-1017

須恵	器	破片
土師	器	坏、甕

S-1018

土師	器	破片

S-1019

土師	器	破片
瓦	類	破片

S-1021

須恵	器	破片
土師	器	甕、破片

S-1022

須恵	器	蓋3
土師	器	坏a、破片
瓦	類	破片
石製	品	丸石

S-1024

土師	器	坏、甕

S-1026

土師	器	坏、破片

S-1027

須恵	器	破片
瓦	類	瓦玉

S-1028

須恵	器	坏
土師	器	坏、甕

S-1029

土師	器	破片

S-1031

土師	器	破片

S-1032

土師	器	破片

S-1033

須恵	器	坏、坏×蓋
土師	器	椀c、甕、破片

S-1034

土師	器	破片

S-1036

土師	器	破片

S-1037

土師	器	坏、破片

S-1038

土師	器	坏、破片

S-1039

土師	器	破片

S-1042

須恵	器	坏、甕、破片
土師	器	坏a、高坏、甕
黒色土器A		破片
石製	品	平玉石

S-1043

須恵	器	甕
土師	器	坏、坏a、甕

S-1044

土師	器	破片

S-1046

土師	器	坏、甕

S-1047

須恵	器	破片
土師	器	破片

S-1048

須恵	器	甕
土師	器	椀c、小皿a、甕
瓦	類	平瓦(格子叩)

S-1049

土師	器	甕、破片

S-1051

須恵	器	坏、甕
土師	器	坏、甕
石製	品	剥片(黒曜石)

S-1052

土師	器	破片

S-1053

古式土師	器	甕×壺

S-1054

土師	器	蓋、甕、破片

S-1056

土師	器	坏、甕

S-1057

土師	器	坏、甕
黒色土器B		破片
越州窯系青磁		破片I(1)

S-1058

須恵	器	壺
土師	器	坏a、破片
黒色土器B		破片

S-1059

須恵	器	坏
土師	器	甕
土製	品	ﾄﾘﾍﾞ?

S-1061

須恵	器	蓋3、坏、坏c、甕、壺
土師	器	蓋、坏、坏a、甕
黒色土器A		椀c
越州窯系青磁		椀：I(1)、I-1(1)

S-1062

須恵	器	蓋、甕、破片
土師	器	坏a、甕、破片
石製	品	丸石

S-1063

土師	器	坏、甕

S-1064

須恵	器	甕、破片
土師	器	坏、坏a、甕

S-1066

須恵	器	蓋3、坏a、甕
土師	器	坏、甕、破片
瓦	類	平瓦(縄目叩)

S-1067

土師	器	坏a、甕

S-1068

土師	器	破片

S-1069

須恵	器	蓋3
土師	器	甕
瓦	類	平瓦(縄目叩)

S-1071

須恵	器	甕
土師	器	坏、甕

S-1072

土師	器	坏、破片

S-1073

須恵	器	坏
土師	器	坏、甕
石製	品	砥石

S-1074

須恵	器	破片
土師	器	破片

S-1076

土師	器	甕、破片

S-1077

土師	器	破片

S-1078

土師	器	破片

S-1079

土師	器	破片

S-1081

須恵	器	甕
土師	器	甕、破片
瓦	類	平瓦(格子叩)

S-1082

須恵	器	坏
土師	器	坏、破片
黒色土器B		破片

S-1083

土師	器	破片

S-1084

須恵	器	坏、壺
土師	器	椀c、破片

S-1086

須恵	器	破片
土師	器	椀、椀c、破片

S-1087

土師	器	蓋

S-1088

須恵	器	破片
土師	器	蓋3、坏、甕
瓦	類	平瓦(縄目叩)

S-1089

須恵	器	坏、甕、壺、破片
土師	器	坏、甕

S-1091

須恵	器	破片
土師	器	蓋、破片
瓦	類	破片

S-1092

土師	器	破片

S-1093

須恵	器	坏
土師	器	甕

S-1094

須恵	器	甕
土師	器	破片

S-1096

土師	器	坏、甕

S-1097

須恵	器	壺×鉢
土師	器	坏、甕

S-1098

土師	器	破片

S-1099

土師	器	坏

S-1101

土師	器	坏

S-1102

須恵	器	破片
土師	器	椀c、破片

S-1103

土師	器	甕、破片

S-1104

土師	器	坏、破片

S-1106

須恵	器	破片
土師	器	坏、甕

S-1107

土師	器	破片
石製	品	砥石?

S-1108

土師	器	破片

S-1111

土師	器	破片

S-1112

土師	器	甕、破片

S-1113

土師	器	坏

S-1114

須恵	器	破片
土師	器	蓋、椀c
石製	品	磨製石斧

S-1116

須恵	器	坏、甕
土師	器	坏、甕
瓦	類	破片
石製	品	石鏃

S-1117

須恵	器	坏、破片
土師	器	坏

S-1118

土師	器	甕

S-1119

土　師　器	甕、破片

S-1121

土　師　器	坏a、破片
瓦　　類	破片

黒灰色土

須　恵　器	蓋3、蓋c、坏、坏a、坏c、坏d、皿a、甕、壺、把手
土　師　器	蓋、坏a、坏c、椀c、大皿c、鉢、甕、小壺、把手
黒　色　土　器　A	椀c
越州窯系青磁	椀：I(2)、I-1a(1)　　破片(3)
瓦　　類	平瓦(縄目叩,格子叩,無文)、丸瓦(格子叩)
金　属　製　品	鉱滓
石　　製　品	平玉石、砥石、剥片、石鏃
土　　製　品	焼土塊

黒茶色土

須　恵　器	蓋3、蓋c3、蓋2、坏c、甕、壺
土　師　器	坏、坏a、高坏、椀c、皿a、甕
黒　色　土　器　A	椀c
越州窯系青磁	破片(1)
緑　釉　陶　器	脚
瓦　　類	平瓦(縄目叩)
金　属　製　品	刀子
石　　製　品	剥片

灰茶色土

須　恵　器	蓋c、坏c、高坏、甕、壺、破片
土　師　器	坏、坏a、把手、破片
白　　磁	椀：IV(1)
瓦　　類	丸瓦(格子叩,無文)

茶色砂

須　恵　器	坏、坏a、坏c、甕
土　師　器	椀c、甕
黒　色　土　器　A	椀c、破片
石　　製　品	剥片(黒曜石)

茶灰色土

須　恵　器	蓋1、蓋3、蓋c、坏a、甕、破片
土　師　器	坏、坏a、甕、破片
黒　色　土　器　A	破片
石　　製　品	丸石

灰茶色砂

土　師　器	破片

暗青灰色粘土

石　　製　品	石楊

灰色土

須　恵　器	蓋1、蓋3、坏c、皿、甕、壺e、壺×鉢、鉢
土　師　器	坏、坏d、小皿a、皿a、椀c、甕、破片
黒　色　土　器　A	椀c
越州窯系青磁	椀：II(1)
弥　生　土　器	複合口縁壺
瓦　　類	平瓦(縄目叩,格子叩)、丸瓦、破片
石　　製　品	剥片(黒曜石)、砥石

茶褐色土

須　恵　器	蓋3、蓋4、蓋c、大蓋c1、坏、坏c、皿、甕
土　師　器	大甕b、小壺、壺、壺f、壺e、破片 蓋、蓋b4、坏、坏a、丸底坏、椀c、小皿a、皿a、甕 ﾌﾟﾐ、ｶｯﾄﾞ、破片
黒　色　土　器　A	椀c、甕、鉢、破片
緑　釉　陶　器	皿×椀、椀、脚部
灰　釉　陶　器	椀
越州窯系青磁	椀：I(3)、I-2ｱ(1)　　破片I(2)
白　　磁	壺(2)
瓦　　類	平瓦(格子叩,縄目叩,無文)
金　属　製　品	鉄釘？
石　　製　品	砥石、丸石、碁石、剥片
土　　製　品	土壁、塼

灰褐色土

須　恵　器	蓋1、蓋3、蓋4、蓋b、蓋c、蓋c3、坏、坏a、坏c 高坏、甕、壺、壺b、壺e、獣脚、大甕
土　師　器	蓋、坏、坏a、坏c、坏d、丸底坏、丸底坏a、椀c 小皿a、小皿a2、皿a、甕、鉢、器台、ｶｯﾄﾞ、ﾌﾟﾐ 手づくね土器、把手、破片
製　塩　土　器	焼塩壺
黒　色　土　器　A	椀c、破片
黒　色　土　器　B	椀c、破片
須恵質土器	鉢(東播系)
緑　釉　陶　器	坏、椀×皿、椀、皿、破片
灰　釉　陶　器	段皿、壺、皿、椀、小坏、椀×皿
肥前系陶磁器	破片
須恵質(輸入)	朝鮮系無釉陶器
越州窯系青磁	椀：I(21)、I-1(2)、I-2ｱ(1)、I-2(1)、I-2ウ(1)、 I-2ウ(5)、I-3(1)、I-5(2)、II(5)、II-2(6) 皿：II(1)　　坏：II(1)　耳壺I(1)　壺I(3)　水注(1) 破片：I(35)、II(22)
長沙窯系青磁	椀(1)、水注(1)
龍泉窯系青磁	椀：I(1)、II-b(2)
高麗青磁	椀：I-1(2)
白　　磁	椀：I-1(5)、I-1a(1)、II(7)、II-1(12)、II-1a(1)、II-5(3)、 II-3×4(1)、IV(24)、IV-1a(7)、IV-1b(5)、IV-2(2)、V(5) V-2a(1)、V-3a(1)、V-2b(1)、XI(1)、XII(1)、XII-1b(2) XIII-2b(1)、広東系(3)、破片(19) 皿：II(2)、II-1a(6)、IV-2(1)、V-1b(2)、VI(1)、VI-1b(1) VII(3)、V～VII(1)、VII-1a(1)、VIII?(1)、破片(6) 壺III(1)　　瓶蓋(1) 白磁破片(47)、I(7)、広東系(7)
青　白　磁	破片(1)
中　国　陶　器	破片(2)
瓦　　類	平瓦(格子叩,縄目叩,無文)、軒平瓦 丸瓦(格子叩,縄目叩,無文)、軒丸瓦、塼
金　属　製　品	鉱滓、鉄釘、銅滓？、金銅製帯金具、刀子 金具、鉄鏃、耳環
石　　製　品	剥片、丸石、砥石、石鏃、平玉石、軽石、石斧 滑石加工品、石帯巡方、ﾁｬｰﾄ、叩き石、珪化木
土　　製　品	焼土塊、ﾄﾘﾍﾞ、土錘、土鈴?、輔羽口、丸玉、炉壁 塼、坩堝、土壁

表土

須　恵　器	蓋1、蓋3、蓋c、坏、坏c、大椀、皿、皿a、甕、壺、壺b
土　師　器	蓋、坏、坏a、坏c、坏d、坏d?、丸底坏、丸底坏a 椀c、小皿a(ﾍﾗ)、皿a、甕、甑
製　塩　土　器	焼塩壺
黒　色　土　器　A	椀、椀c
黒　色　土　器　B	破片
肥前系陶磁器	椀
国　産　陶　器	椀、小椀、土管、皿、擂鉢
国　産　磁　器	破片(染付)
緑　釉　陶　器	破片
灰　釉　陶　器	椀
越州窯系青磁	椀：I-1(1)、I-2(1)、I-2ｱ(2)、I-5(2)、II-2b(1) 皿：II(1)　　破片I(1)
白　　磁	椀：IV(6)、V(1)、破片(3)　白磁破片(7)、輪花(1) 皿：II-1(1)、II-1a(1)、III-1(1)、VII-2a(1)
青　白　磁	皿(1)
瓦　　類	丸瓦(格子叩,無文)、平瓦(縄目叩,格子叩) 軒平瓦、燻し瓦、破片
金　属　製　品	鉱滓、
石　　製　品	剥片、石鏃、滑石(破片)、石炭
土　　製　品	塼、焼土塊

撹乱

須　恵　器	甕
土　師　器	丸底坏
瓦　　類	破片

Z（出土地不明）

須　恵　器	坏、坏c、甕、破片
土　師　器	坏、坏a、坏c、丸底坏、椀c、小皿a、甕、破片
黒　色　土　器　B	椀c、破片
瓦　　類	丸瓦(格子叩)、破片
金　属　製　品	銅釘
土　　製　品	焼土塊

表.12　第257次調査　須恵器・土師器・黒色土器供膳具計測表

A：内底ナデ　B：板状圧痕

S-1ｸ

種別	器　種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a　イト	R-001	Fig.62-1	(8.0)	0.9	(6.4)	－	－

S-1シ

種別	器　種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a　－	R-001	Fig.62-2	(8.6)	1.3	(8.0)	－	－

S-1ﾃ

種別	器　種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a　－	R-001	Fig.62-3	(7.9)	0.9	(6.4)	－	－

S-1ﾈ

種別	器　種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏　－	R-001	Fig.62-4	－	3.7+α	－	－	－

S-10灰色粘土

種別	器　種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a　－	R-002	Fig.67-3	(9.5)	0.9	(7.7)	－	－
	〃　－	R-005	Fig.67-4	(9.8)	1.0	(7.4)	－	－
	丸底坏a　－	R-003	Fig.67-7	－	3.3+α	－	－	－
	〃　－	R-004	Fig.67-6	(16.0)	3.0	－	－	○
	〃　－	R-006	Fig.67-5	(14.8)	3.7+α	－	－	－

S-10灰褐色土

種別	器　種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a　－	R-001	Fig.67-9	－	1.4+α	－	－	－

S-15灰色粘土

種別	器　種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋3　ヘラ	R-001	Fig.67-16	(12.4)	2.4+α	(7.7)	○	－

S-20

種別	器　種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋3　ヘラ	R-001	Fig.68-4	(14.4)	1.75+α	(9.6)	○	－
	蓋3　ヘラ	R-002	Fig.68-3	(13.4)	1.5+α	(9.8)	○	－
	蓋c3　ヘラ	R-012	Fig.68-1	(10.8)	1.95	(7.6)	○	－
	蓋c3　ヘラ	R-023	Fig.68-2	(15.8)	3.3	－	○	－
	坏a　－	R-026	Fig.68-16	－	2.0+α	－	－	－
	坏a　ヘラ	R-017	Fig.68-6	－	1.6+α	－	○	○
	坏a　－	R-018	Fig.68-5	(12.6)	3.3	(8.0)	○	○?
	坏c　－	R-003	Fig.68-11	－	3.3+α	(8.5)	○	－
	坏c　ヘラ	R-010	Fig.68-8	－	2.2+α	(7.6)	○	－
	坏c　ヘラ	R-016	Fig.68-12	－	2.6+α	－	○	－
	坏c　ヘラ	R-019	Fig.68-10	－	1.2+α	(8.2)	○	
	坏c　－	R-024	Fig.68-7	－	2.7+α	8.6	○	－
	坏c　－	R-025	Fig.68-9	－	1.8+α	(8.0)	○	－
	坏d　－	R-027	Fig.68-18	－	3.4+α	－	－	○
土師器	椀c　ヘラ	R-006	Fig.68-19	－	2.2+α	(8.9)	－	－
	椀c	R-008	Fig.68-20	－	5.7+α	(9.0)	－	－
	坏d　ヘラ	R-007	Fig.68-17	－	2.0+α	(7.6)	－	－
黒色土器A	椀c　－	R-004	Fig.68-23	－	1.6+α	－	－	－
	椀c　－	R-005	Fig.68-24	－	1.5+α	(6.9)	－	－
	椀c　－	R-021	Fig.68-22	－	2.1+α	(8.0)	－	－

S-20灰色砂土

種別	器　種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	坏a　ヘラ	R-003	Fig.68-27	13.4	3.6	8.3	○	○
	坏c3　－	R-004	Fig.68-28	－	4.5+α	－	○	－
土師器	小坏d　－	R-002	Fig.68-29	(9.2)	3.75	(5.0)	－	－

S-25灰色土

種別	器　種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏a　－	R-001	Fig.69-28	(14.8)	3.2	－	－	－
	丸底坏a　－	R-002	Fig.69-29	(15.6)	2.7	－	－	○
	丸底坏a　－	R-003	Fig.69-27	(14.0)	3.8+α	－	－	－

S-25淡灰色土

種別	器　種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a　ヘラ	R-001	Fig.69-6	(9.6)	1.6	6.9	○	○
	小皿a　－	R-002	Fig.69-3	(8.8)	1.0	(6.7)	－	－
	小皿a　－	R-003	Fig.69-5	(9.3)	1.1	(7.4)	－	－
	小皿a　－	R-011	Fig.69-4	8.8	0.9	8.1	－	－
	小皿a　－	R-012	Fig.69-2	(8.6)	1.1	(6.3)	－	○
	小皿a　－	R-017	Fig.69-7	(9.8)	0.9	(7.4)	－	－
	小皿a　ヘラ	R-021	Fig.69-9	－	1.2+α	－	○	○
	小皿a　－	R-022	Fig.69-8	(10.1)	1.3	(8.0)	－	－
	坏a　－	R-023	Fig.69-10	(12.2)	2.0	(9.0)	－	－
	丸底坏a　ヘラ	R-004	Fig.69-16	(15.7)	2.7	－	×	－
	丸底坏a　－	R-013	Fig.69-12	(14.7)	3.1		－	－
	丸底坏a　－	R-014	Fig.69-15	(15.6)	4.1+α		－	－
	丸底坏a　－	R-015	Fig.69-13	(14.8)	3.5		－	－
	丸底坏a　ヘラ	R-018	Fig.69-11	(13.7)	3.1	－	○	－
	丸底坏a　ヘラ	R-019	Fig.69-14	(15.0)	3.8	(9.4)	－	－
	椀c　－	R-016	Fig.69-17	－	3.4+α	(9.7)	－	－

S-40茶灰色土

種別	器　種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏a　－	R-001	Fig.63-1	(15.6)	2.7	(10.6)	－	－

S-40淡灰色土

種別	器　種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	坏c　－	R-004	Fig.63-2	－	1.6+α	－	－	－
土師器	丸底坏a　－	R-002	Fig.63-3	－	3.8+α	－	－	－
	小皿a　－	R-003	Fig.63-4	(9.6)	1.3	(7.6)	－	－

S-40灰褐色土

種別	器　種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏a　－	R-001	Fig.63-6	－	2.7+α	－	－	－

S-45

種別	器　種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a　－	R-001	Fig.63-26	－	1.3+α	－	－	－

S-50灰色土

種別	器　種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a　－	R-001	Fig.64-5	10.4	1.3	7.0	－	－
	小皿a　ヘラ	R-002	Fig.64-1	9.0	1.1	7.9	－	○
	小皿a　ヘラ	R-003	Fig.64-3	(10.2)	0.9	(7.0)	－	○
	小皿a　－	R-004	Fig.64-4	(10.3)	1.1	(7.3)	○	－
	小皿a　ヘラ	R-005	Fig.64-2	(9.8)	1.2	(7.0)	×	－
	丸底坏a　ヘラ	R-006	Fig.64-7	(15.6)	3.6	－	－	－
	丸底坏a　－	R-007	Fig.64-6	(14.2)	3.5	－	－	－

S-50淡灰色土

種別	器　種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a　－	R-001	Fig.64-9	(10.4)	1.5	(8.3)	－	○

S-55r掘方

種別	器　種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a　－	R-001	Fig.62-7	(9.3)	0.8	(7.4)	－	－

S-65茶灰色土

種別	器　種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a　－	R-001	Fig.63-9	9.8	1.6	8.2	○	○
	小皿a　－	R-002	Fig.63-8	9.3	1.4	8.0	－	○
	小皿a　－	R-003	Fig.63-7	8.9	1.4	6.6	○	○
	丸底坏a　－	R-004	Fig.63-11	(14.7)	3.1+α	－	－	－
	丸底坏a　－	R-005	Fig.63-10	(14.0)	3.0+α	－	－	○

S-65暗灰色粘土

種別	器　種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a　－	R-001	Fig.63-16	10.0	1.65	7.7	○	○
	小皿a　ヘラ	R-002	Fig.63-15	(9.8)	1.5	8.0	－	○
	小皿a　－	R-003	Fig.63-17	(10.0)	1.3	(8.1)	－	－
	小皿a　－	R-004	Fig.63-12	(8.3)	1.3	(5.7)	－	－
	小皿a　－	R-005	Fig.63-13	(9.2)	1.3	(7.3)	○	○
	小皿a　－	R-006	Fig.63-14	(9.7)	1.7	(8.0)	－	－
	小皿a　－	R-007	Fig.63-18	－	1.1	－	－	－
	坏a　－	R-011	Fig.63-20	(15.6)	2.5	11.4	○	○
	坏a　－	R-012	Fig.63-19	－	2.4+α	－	－	－
	丸底坏a　－	R-008	Fig.63-25	－	3.2+α	－	－	－
	丸底坏a　－	R-009	Fig.63-22	15.0	3.0	－	－	－
	丸底坏a　－	R-010	Fig.63-21	14.8	3.2	－	－	○
	丸底坏a　－	R-013	Fig.63-23	(15.0)	2.7	11.2	－	○
	丸底坏a　－	R-014	Fig.63-24	15.4	2.9	－	－	－

S-70茶灰色砂礫

種別	器　種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a　ヘラ	R-001	Fig.64-20	(10.2)	0.9	(7.8)	－	－
	小皿a　ヘラ	R-002	Fig.64-22	(10.8)	1.25	(8.0)	○?	○?
	小皿a　ヘラ	R-004	Fig.64-19	(9.6)	1.15	(7.5)	○	○
	小皿a　ヘラ	R-005	Fig.64-21	10.6	2.1	8.8	○	○
	坏a　ヘラ	R-006	Fig.64-23	(15.2)	3.15	(11.5)	－	－
	丸底坏　－	R-003	Fig.64-24	(14.4)	3.2+α	11.2	－	－
	丸底坏a　－	R-007	Fig.64-25	－	4.6	－	－	－

S-70暗灰色砂礫

種別	器　種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	椀c　－	R-001	Fig.64-17	－	3.9+α	(8.0)	－	－
	丸底坏a　ヘラ	R-002	Fig.64-16	15.2	3.05	12.8	－	○

S-70暗灰色土

種別	器　種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a1　－	R-001	Fig.64-11	(9.4)	1.1	(7.2)	－	○
	丸底坏　ヘラ	R-002	Fig.64-14	－	3.9+α	－	－	－
	丸底坏a　－	R-003	Fig.64-12	(15.0)	3.25	(10.4)	－	－
	丸底坏a　－	R-004	Fig.64-13	(15.2)	3.05+α	(11.8)	－	－

S-75灰褐色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	—	R-001	Fig.73-48	(9.6)	0.9	(7.0)	○	○
	小皿a	ヘラ	R-002	Fig.73-46	(9.5)	1.2	(7.4)	○	○
	小皿a	ヘラ	R-003	Fig.73-54	(10.0)	1.0	(7.2)	○	○
	小皿a	—	R-004	Fig.73-47	(9.6)	1.5	(7.2)	—	○
	小皿a	ヘラ	R-005	Fig.73-53	(10.0)	1.3	(7.2)	—	—
	小皿a	ヘラ	R-011	Fig.73-58	(10.4)	1.9	(7.6)	○	○
	小皿a	—	R-012	Fig.73-56	(10.4)	1.5	(7.6)	—	—
	小皿a	—	R-013	Fig.73-52	(10.0)	1.5	(7.4)	—	—
	小皿a	ヘラ	R-014	Fig.73-59	(11.4)	1.5	(9.2)	○	○
	小皿a	—	R-015	Fig.73-50	(9.8)	1.2	(7.1)	○	○
	小丸底坏a	ヘラ	R-006	Fig.73-60	(10.2)	2.5	(7.6)	—	○
	丸底坏a	ヘラ	R-007	Fig.73-67	(18.2)	3.0+α	—	—	—
	丸底坏a	ヘラ	R-008	Fig.73-65	(16.0)	3.1+α	—	—	○

S-75茶褐色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	—	R-001	Fig.72-3	(10.0)	1.4	(8.2)	—	○
	小皿a	ヘラ	R-002	Fig.72-2	(9.7)	1.1	(8.2)	○	○
	小皿a	—	R-003	Fig.72-1	(9.6)	1.2	(7.3)	—	—
	丸底坏a	—	R-004	Fig.72-4	(16.5)	4.0	—	—	—
	丸底坏a	—	R-005	Fig.72-5	(17.8)	3.9	—	—	○

S-75暗灰色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	—	R-001	Fig.72-13	(9.8)	1.9	(7.9)	○	—
	小皿a	—	R-002	Fig.72-11	(9.8)	1.3	(7.8)	—	○
	小皿a	ヘラ	R-003	Fig.72-12	(9.8)	1.4	(7.5)	○	○
	小皿a	ヘラ	R-004	Fig.72-8	(9.4)	1.2+α	(7.6)	○	○
	小皿a	—	R-005	Fig.72-17	(12.2)	2.2+α	(12.6)	—	—
	小皿a	—	R-009	Fig.72-9	(9.4)	0.9	(7.0)	○	○
	小皿a	ヘラ	R-010	Fig.72-15	(10.0)	1.0	(7.3)	○	○
	小皿a	ヘラ	R-011	Fig.72-14	(10.0)	1.5	(8.0)	○	—
	小皿a	—	R-012	Fig.72-10	(9.6)	1.1	(7.4)	○	—
	小皿a	ヘラ	R-013	Fig.72-7	(8.7)	1.1	(6.6)	○	—
	椀c	—	R-014	Fig.72-16	—	1.9+α	(7.0)	×	○
	丸底坏a	ヘラ	R-006	Fig.72-24	(16.0)	3.4	—	×	○
	丸底坏a	ヘラ	R-007	Fig.72-18	(14.2)	3.6	(10.1)	—	○
	丸底坏a	ヘラ	R-015	Fig.72-22	(15.6)	3.4	—	×	○
	丸底坏a	ヘラ	R-016	Fig.72-19	14.6	3.3	—	×	○
	丸底坏a	ヘラ	R-017	Fig.72-20	(14.8)	4.2+α	—	×	○
	丸底坏a	ヘラ	R-018	Fig.72-23	(15.6)	4.2	—	×	○
	丸底坏a	—	R-019	Fig.72-21	(15.2)	3.0	—	—	—

S-75枠内

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	—	R-003	Fig.73-33	(9.6)	1.1	(7.4)	—	○
	小皿a	ヘラ	R-004	Fig.73-35	(9.8)	1.3	(8.0)	○	—
	丸底坏a	ヘラ	R-002	Fig.73-40	(15.6)	3.1	—	×	—
	丸底坏a	ヘラ	R-005	Fig.73-39	(19.1)	4.5+α	—	×	—
	丸底坏a	—	R-006	Fig.73-37	(15.0)	3.7+α	—	×	—

S-75井戸枠内

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	—	R-001	Fig.73-34	(9.8)	1.2	(7.0)	○	○
	小皿a	ヘラ	R-002	Fig.73-32	(8.4)	1.0	(6.2)	○	—
	小皿a	ヘラ	R-003	Fig.73-36	—	0.7+α	—	—	○
	丸底坏a	ヘラ	R-005	Fig.73-42	(15.4)	3.3	(12.0)	○	—
	丸底坏a	ヘラ	R-006	Fig.73-38	15.2	3.2	—	×	—
	丸底坏a	ヘラ	R-007	Fig.73-41	18.2	5.6	—	×	○

S-75掘方

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	ヘラ	R-001	Fig.73-57	10.4	1.6	9.1	○	○
	小皿a	ヘラ	R-002	Fig.73-49	(9.7)	1.2	(7.4)	—	○
	小皿a	ヘラ	R-003	Fig.73-55	(10.0)	1.1	(7.4)	—	○
	小皿a	ヘラ	R-004	Fig.73-45	(9.2)	1.1	(6.4)	○	—
	小皿a	ヘラ	R-005	Fig.73-51	(9.8)	1.0	(6.8)	○	○
	丸底坏a	ヘラ	R-008	Fig.73-63	(15.0)	4.0+α	—	—	—
	丸底坏a	ヘラ	R-009	Fig.73-64	(15.6)	3.5+α	—	—	○
	丸底坏a	ヘラ	R-010	Fig.73-62	(14.5)	3.2	—	—	○
	丸底坏a	—	R-011	Fig.73-61	(13.7)	2.5+α	—	—	—
	丸底坏a	—	R-014	Fig.73-66	(16.0)	4.1+α	—	—	—

S-80暗灰色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
黒色土器A	椀	—	R-002	Fig.64-27	—	4.4+α	—	—	—

S-80暗褐色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	ヘラ	R-003	Fig.64-29	(9.7)	1.4	(6.0)	○	○
	椀c	—	R-004	Fig.64-30	—	3.0+α	—	○	—
	丸底坏a	—	R-005	Fig.64-31	—	3.5+α	—	○	—

S-85暗灰色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	皿a	ヘラ	R-001	Fig.65-2	—	1.85+α	—	○	—
	皿a	—	R-002	Fig.65-1	—	1.9	—	○	—

S-90淡灰色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a	ヘラ	R-001	Fig.64-38	—	3.7	—	—	—
	坏a	—	R-002	Fig.64-39	—	3.2	—	—	—
	坏a	ヘラ	R-005	Fig.64-35	—	2.1+α	(6.9)	○	—
	坏a	ヘラ	R-006	Fig.64-37	—	3.3+α	(6.8)	○	—
	坏a	ヘラ	R-007	Fig.64-36	—	2.0+α	(8.2)	○	—
	皿a	ヘラ	R-004	Fig.64-34	(12.2)	1.75	(9.4)	—	—
黒色土器A	椀	—	R-003	Fig.64-40	—	4.2+α	—	—	—

S-90灰茶色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	坏a	ヘラ	R-002	Fig.64-44	(13.6)	3.75	(7.6)	○	—
土師器	坏a	ヘラ	R-001	Fig.64-45	—	2.3	—	○	—
	坏a	ヘラ	R-003	Fig.64-46	13.0	4.6	7.3	○	○
	坏a	ヘラ	R-004	Fig.64-47	12.6	3.8	8.1	○	○

S-90茶灰色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	皿×坏	ヘラ	R-001	Fig.64-42	—	0.7+α	—	○	—
	坏a	ヘラ	R-002	Fig.64-41	(13.6)	3.5	(7.7)	○	—

S-95青灰色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	坏c	—	R-001	Fig.74-1	—	3.4+α	—	○	—
土師器	坏a	ヘラ	R-002	Fig.74-2	—	1.9+α	(5.1)	—	—
	椀c	—	R-003	Fig.74-3	—	2.3+α	—	○?	○
黒色土器A	椀c	—	R-004	Fig.74-5	—	3.4+α	—	—	—
	椀c	—	R-005	Fig.74-4	—	4.2+α	—	—	—

S-95淡灰色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
黒色土器A	坏a	—	R-001	Fig.75-28	—	2.0+α	—	—	—
	椀c	—	R-002	Fig.75-29	—	3.4+α	—	—	—
	椀	—	R-003	Fig.75-31	(15.2)	4.4+α	—	—	—
黒色土器B	椀	—	R-004	Fig.75-32	(17.0)	4.0+α	—	—	—

S-95暗灰色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a	ヘラ	R-004	Fig.74-12	12.2	2.9	(6.7)	○	○
	坏a	ヘラ	R-008	Fig.74-10	(11.8)	3.0	(5.3)	—	—
	坏a	ヘラ	R-009	Fig.74-11	(11.8)	3.3	(7.1)	—	○
	坏c	—	R-015	Fig.74-13	(13.0)	4.0	(8.0)	—	○
	大椀c	—	R-005	Fig.74-16	—	6.1+α	(11.4)	—	—
	椀c	—	R-010	Fig.74-15	—	3.5+α	(7.7)	—	—
	椀c	—	R-014	Fig.74-14	—	2.7+α	7.6	—	—
黒色土器A	椀c	—	R-001	Fig.74-20	(16.0)	6.2	(8.4)	—	—
	椀c	—	R-002	Fig.74-19	(15.0)	5.4	(8.9)	—	—
	椀c	—	R-003	Fig.74-21	—	4.5+α	—	—	—
	椀c	—	R-011	Fig.74-18	(12.9)	5.7	(8.0)	—	—
	椀c	—	R-012	Fig.74-22	—	4.3+α	9.0	—	—
黒色土器B	椀c	—	R-013	Fig.74-23	—	2.7+α	(8.0)	—	—

S-100a

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a1	—	R-001	Fig.62-33	—	1.2+α	—	—	—

S-105暗灰色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	—	R-001	Fig.76-2	(9.8)	0.9	(7.6)	○	○
	小皿a	—	R-002	Fig.76-3	—	0.9	—	—	—
	小皿a	ヘラ	R-003	Fig.76-1	(9.6)	1.3	(6.3)	○	—
	中椀c	—	R-004	Fig.76-4	—	3.0+α	(9.7)	—	—

S-105黒灰色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a	ヘラ	R-001	Fig.76-9	—	1.9+α	(7.0)	○	○
	皿?	—	R-002	Fig.76-8	(11.4)	1.1+α	—	—	—
	椀c	—	R-003	Fig.76-10	(13.2)	2.9+α	—	—	—
	小皿a	—	R-004	Fig.76-6	(11.8)	1.5	(8.6)	—	—
	小皿a	—	R-005	Fig.76-5	(11.8)	1.6	(8.6)	—	—
	小皿c	—	R-006	Fig.76-7	(13.2)	2.5	7.8	—	—
	椀c	—	R-008	Fig.76-11	—	4.3+α	(7.2)	—	—
黒色土器A	椀c	—	R-009	Fig.76-13	(14.2)	6.0	(8.0)	—	—

S-105黒色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿c	ヘラ	R-001	Fig.76-19	(13.0)	1.75+α	(7.3)	○	—
	坏a	ヘラ	R-003	Fig.76-21	—	2.4+α	(7.1)	○	—
	坏a	ヘラ	R-004	Fig.76-22	—	2.2+α	7.5	○	—
	坏a	—	R-012	Fig.76-20	—	1.7+α	(8.0)	—	○
	坏a	—	R-015	Fig.76-23	—	1.3+α	(7.2)	—	—
	椀c	—	R-013	Fig.76-25	—	2.0+α	—	—	—
	椀c	—	R-014	Fig.76-24	—	2.45+α	—	—	—
黒色土器B	椀c	—	R-016	Fig.76-27	—	2.2+α	(8.0)	—	—

S-109

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	—	R-001	Fig.62-10	—	0.9+α	—	—	—
	丸底坏a	—	R-002	Fig.62-12	—	2.6+α	—	—	—
	丸底坏a	—	R-003	Fig.62-11	—	3.15+α	—	—	—

S-114

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	ヘラ	R-003	Fig.62-21	9.2	1.2	7.2	○	○
	小皿a	ヘラ	R-004	Fig.62-19	(9.0)	1.05	(7.2)	○	×
	小皿a	—	R-005	Fig.62-22	(9.2)	8.05	(7.2)	—	—
	小皿a	ヘラ	R-006	Fig.62-18	(9.0)	1.3	(6.0)	○	○
	小皿a	—	R-007	Fig.62-24	(9.8)	0.9	(8.0)	—	—
	小皿a	ヘラ	R-008	Fig.62-25	(10.0)	0.9	(7.8)	—	—
	丸底坏a	—	R-001	Fig.62-28	(15.3)	2.95+α	—	—	—
	丸底坏a	—	R-002	Fig.62-29	—	3.0+α	—	—	—

S-116

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	—	R-001	Fig.62-16	(8.4)	0.85	(6.0)	—	—
	丸底坏a	ヘラ	R-002	Fig.62-26	(14.4)	3.45	(11.6)	—	○

S-117

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	ヘラ	R-002	Fig.62-17	(8.8)	1.4	(7.3)	○	○
	小皿a	ヘラ	R-003	Fig.62-20	(9.0)	1.1	(6.8)	—	—
	小皿a	ヘラ	R-004	Fig.62-23	(9.2)	1.0	(7.4)	○	○
	小皿a	ヘラ	R-005	Fig.62-15	(8.3)	1.5	(7.2)	○	○

S-120e掘方

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏a	ヘラ	R-001	Fig.62-9	(14.1)	2.9	(10.8)	—	○

S-120e柱痕

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	—	R-001	Fig.62-8	—	1.2+α	—	—	—

S-125

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	—	R-001	Fig.67-26	—	1.2+α	—	—	—
	坏a	ヘラ	R-003	Fig.67-27	—	1.3+α	(7.7)		○?

S-129

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏a	ヘラ	R-001	Fig.62-27	15.3	3.1	—	—	○

S-130

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏a	ヘラ	R-001	Fig.65-10	15.0	3.15	12.0	—	○
	丸底坏a	ヘラ	R-002	Fig.65-8	14.5	3.1	12.5	—	○?
	丸底坏a	ヘラ	R-003	Fig.65-7	14.5	3.0	11.4	—	○
	丸底坏a	ヘラ	R-004	Fig.65-9	14.8	3.15	11.8	—	○

S-135

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	—	R-004	Fig.69-30	(10.0)	1.1	(7.2)	—	—
	椀	—	R-002	Fig.69-31	—	2.9+α	—	—	—
黒色土器B	椀	—	R-001	Fig.69-32	—	3.9+α	—	—	—

S-135灰褐色粘土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	—	R-001	Fig.69-34	—	1.0+α	—	—	○?
	坏a	—	R-002	Fig.69-35	—	1.9+α	(7.6)	—	—

S-142

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	坏	—	R-001	Fig.66-1	(14.2)	5.7+α	—	—	—

S-150

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	坏×壺	ヘラ	R-001	Fig.70-2	—	2.95+α	(9.0)	○	—
	坏c	—	R-015	Fig.70-1	—	1.8+α	(9.8)	○	—
土師器	坏a	ヘラ	R-016	Fig.70-7	—	1.8+α	(7.1)	○	○
	坏a	ヘラ	R-017	Fig.70-10	—	1.2+α	(8.2)	—	—
	坏a	—	R-003	Fig.70-9	—	1.4+α	(7.4)	—	—
	坏a	—	R-004	Fig.70-6	—	1.7+α	7.1	—	—
	坏a	—	R-007	Fig.70-5	—	1.8+α	(8.4)	—	—
	坏a	—	R-008	Fig.70-8	—	1.8+α	—	—	—
	皿a	ヘラ	R-005	Fig.70-3	(14.0)	1.1	(9.5)	—	—
	皿a	—	R-006	Fig.70-4	(16.3)	1.55	(12.4)	—	—
黒色土器A	椀c	—	R-002	Fig.70-16	—	3.1+α	—	—	—
	椀c	—	R-009	Fig.70-15	—	1.8+α	—	—	—

S-150灰色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	—	R-001	Fig.70-19	—	1.0+α	—	—	—
	小皿a	—	R-002	Fig.70-20	—	1.0+α	—	—	—
	坏a	—	R-003	Fig.70-22	—	1.9+α	—	—	—
	坏a	ヘラ	R-004	Fig.70-23	—	1.1+α	(10.2)	—	—
	坏a	ヘラ	R-005	Fig.70-21	—	1.3+α	—	○	—
黒色土器A	大椀c	—	R-006	Fig.70-24	—	3.4+α	9.0	—	—

S-160灰色粘土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋c3	—	R-001	Fig.67-19	(11.3)	2.35+α	—	—	—

S-160灰褐色粘土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏a	—	R-001	Fig.67-22	(15.4)	3.45	—	—	—
須恵器	蓋c3	—	R-002	Fig.67-20	(11.5)	2.35	—	—	—

S-170

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a	—	R-002	Fig.70-25	—	1.4+α	—	—	—
	坏a	—	R-003	Fig.70-26	—	1.5+α	—	—	—
	椀c	—	R-001	Fig.70-27	—	2.4+α	(7.6)	—	○
	椀c	—	R-004	Fig.70-30	—	1.9+α	—	—	—
黒色土器A	椀c	—	R-006	Fig.70-29	—	2.2+α	(8.6)	—	—

S-175曲物内

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	坏a	ヘラ	R-009	Fig.99-76	(12.8)	3.05	(7.6)	○	—
土師器	坏a	ヘラ	R-004	Fig.99-81	14.3	3.4	8.1	○	—
	坏a	ヘラ	R-005	Fig.99-79	14.3	3.2	8.4	○	—
	坏a	ヘラ	R-006	Fig.99-80	(16.7)	3.4	(9.0)	○	—
	坏c	ヘラ	R-007	Fig.99-85	(16.0)	5.3	8.8	○	—
	坏d	ヘラ	R-001	Fig.99-84	(17.4)	3.6	(9.2)	○	—
	坏d	ヘラ	R-002	Fig.99-83	(15.8)	2.4	(8.0)	○	—
	坏d	ヘラ	R-003	Fig.99-82	13.9	3.05	7.5	○	—

S-175灰褐色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋c3	ヘラ	R-031	Fig.96-5	(13.2)	1.45	(9.9)	○	—
	蓋c3	ヘラ	R-033	Fig.96-4	(14.5)	3.2	(9.9)	○	—
	蓋c3	ヘラ	R-034	Fig.96-3	(16.6)	2.55	(10.5)	○	—
	蓋3	ヘラ	R-032	Fig.96-6	(14.0)	2.5+α	(10.1)	○	—
	坏a	ヘラ	R-013	Fig.96-14	—	3.1	—	○	—
	坏a	ヘラ	R-014	Fig.96-10	(13.4)	3.2	(7.6)	○	—
	坏a	ヘラ	R-016	Fig.96-11	—	2.5+α	(8.0)	○	—
	坏a	ヘラ	R-018	Fig.96-12	—	1.35+α	(8.0)	○	—
	坏a	ヘラ	R-026	Fig.96-13	—	3.5+α	(8.5)	○	○
	皿a	ヘラ	R-019	Fig.96-9	(16.2)	2.4	(14.0)	○	—
	皿a	ヘラ	R-028	Fig.96-8	(15.0)	2.2	(12.0)	○	○
	皿a	ヘラ	R-029	Fig.96-7	(13.6)	1.55	(10.2)	○	○
	小坏c	—	R-020	Fig.96-20	—	2.4+α	—	—	—
	坏c	ヘラ	R-017	Fig.96-16	—	3.5+α	(8.2)	○	—
	坏c	ヘラ	R-021	Fig.96-21	—	1.8+α	—	—	—
	坏c	ヘラ	R-022	Fig.96-22	—	1.7+α	—	—	—
	坏c	—	R-023	Fig.96-17	—	1.3+α	(9.5)	—	○
	坏c	—	R-024	Fig.96-19	—	4.3	(10.3)	—	—
	坏c	—	R-025	Fig.96-15	(13.6)	5.0	(8.6)	—	○
	坏c	ヘラ	R-027	Fig.96-18	—	2.1+α	(10.0)	○	—
土師器	坏a	—	R-004	Fig.97-31	—	1.8+α	—	—	—
	坏a	ヘラ	R-006	Fig.97-29	(13.7)	2.45	(8.1)	○	—
	坏a	ヘラ	R-038	Fig.97-30	—	2.6+α	8.1	○	—
	坏a	—	R-039	Fig.97-32	(12.9)	3.2	6.8	—	—
	坏a	—	R-041	Fig.97-27	13.2	3.25	8.1	—	○?
	坏a	—	R-008	Fig.97-28	(13.6)	2.8	(8.2)	○	—
	皿a	—	R-005	Fig.97-35	—	1.45+α	—	—	—
	皿a	—	R-007	Fig.97-37	—	1.85+α	—	—	—
	皿a	—	R-036	Fig.97-36	—	1.4+α	—	—	—
	坏c	—	R-040	Fig.97-38	—	2.9+α	(9.2)	—	—
	坏d	—	R-035	Fig.97-34	(17.0)	3.55	(8.4)	—	—
	坏d?	—	R-037	Fig.97-33	(17.0)	3.45	(9.4)	—	—
	鉢×大椀	ヘラ	R-009	Fig.97-39	—	2.65+α	(13.4)	○	—

S-175暗灰色粘土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋3	—	R-018	Fig.98-53	—	1.7+α	—	—	—
	蓋c3	—	R-019	Fig.98-52	14.8	2.7	—	—	—
	小皿a	ヘラ	R-010	Fig.98-54	(9.8)	2.1	(5.8)	—	—
	皿a	ヘラ	R-011	Fig.98-55	(15.2)	2.1	(11.6)	○	○
	坏a	—	R-002	Fig.98-57	—	3.0	—	—	—
	坏a	ヘラ	R-013	Fig.98-56	(13.9)	2.7	(9.6)	○	—
	坏c	—	R-004	Fig.98-60	—	2.25+α	(9.3)	—	—
	坏c	ヘラ	R-015	Fig.98-58	—	2.5+α	(6.8)	○	—
	坏c	ヘラ	R-016	Fig.98-59	—	3.0+α	(8.6)	○	—
土師器	蓋3	—	R-020	Fig.98-64	—	3.35+α	—	—	—
	坏a	ヘラ	R-012	Fig.98-65	(14.4)	3.8	8.4	○	—
	坏d	ヘラ	R-021	Fig.98-66	(13.0)	3.0	7.4	—	—
	坏d	ヘラ	R-022	Fig.98-68	(18.0)	4.0	(7.6)	○	—
	坏d	ヘラ	R-023	Fig.98-67	(15.6)	3.7	(7.9)	—	—

S-180灰茶色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a	—	R-003	Fig.70-34	—	1.5+α	(9.7)	—	—
	椀c	—	R-001	Fig.70-36	—	1.9+α	(7.0)	—	○
	椀c	—	R-004	Fig.70-35	—	3.5+α	(8.9)	○	—
	椀c	—	R-005	Fig.70-37	—	2.1+α	—	—	—

S-185

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋3	—	R-001	Fig.67-12	—	1.6+α	—	—	—
	蓋3	—	R-002	Fig.67-11	—	1.4+α	—	—	—
	蓋3	—	R-004	Fig.67-10	—	1.2+α	—	—	—
	坏c	—	R-003	Fig.67-14	—	1.8+α	—	○	—
土師器	坏a	—	R-005	Fig.67-15	—	1.9+α	—	—	—
	皿a	—	R-006	Fig.67-13	—	2.1+α	—	○	—

S-190枠内

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏a	ヘラ	R-001	Fig.79-56	(16.0)	3.7	(9.4)	—	○

S-190

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	ヘラ	R-005	Fig.78-38	(9.3)	0.9	(7.2)	○	○
	小皿a	ヘラ	R-006	Fig.78-41	—	0.9	—	○	—
	小皿a	ヘラ	R-007	Fig.78-40	—	1.0	—	○	—
	小皿a	ヘラ	R-008	Fig.78-39	—	1.1	—	—	○
	丸底坏a	—	R-009	Fig.78-42	(19.8)	3.55+α	—	—	—
黒色土器A	椀c	ヘラ	R-011	Fig.78-44	—	2.6+α	(7.1)	—	—

S-195

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	坏c	—	R-001	Fig.86-1	—	3.0+α	(8.9)	○	—
	坏c	—	R-002	Fig.86-2	—	2.0+α	—	○	—
	坏c	—	R-003	Fig.86-3	—	1.4+α	—	○	—
土師器	坏a	—	R-004	Fig.86-4	—	1.1+α	—	—	—
	丸底坏a	—	R-005	Fig.86-5	—	3.0+α	—	—	—

S-200

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	ヘラ	R-001	Fig.71-1	9.2	1.25	6.0	○	○
	小皿a	ヘラ	R-002	Fig.71-2	(9.6)	1.35	(6.6)	○	○
	小皿a	ヘラ	R-003	Fig.71-3	(10.0)	1.7	(7.4)	○	○
黒色土器A	椀	—	R-004	Fig.71-4	—	4.0+α	—	—	—

S-205黒色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a×小皿a	ヘラ	R-002	Fig.86-11	—	1.15+α	—	—	—
	小皿a	ヘラ	R-003	Fig.86-12	(10.2)	1.6	(6.6)	○	—
	小皿a	—	R-004	Fig.86-13	—	1.15	—	○	—
	小皿a	ヘラ	R-005	Fig.86-15	—	1.3	—	○	—
	小皿a	イト	R-006	Fig.86-14	—	1.3	—	○	—

S-210

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋4	—	R-009	Fig.80-3	—	0.9+α	—	—	—
	蓋4	ヘラ	R-011	Fig.80-2	—	1.3+α	—	○	—
	蓋3	ヘラ	R-012	Fig.80-1	(15.8)	2.1+α	(9.5)	—	—
	坏a	ヘラ	R-003	Fig.80-4	—	1.4+α	(9.0)	○	—
	坏c	—	R-002	Fig.80-5	—	2.5+α	(9.6)	○	—
土師器	椀c	—	R-004	Fig.80-13	—	2.8+α	—	○	—
	椀c	—	R-005	Fig.80-12	—	3.0+α	(8.8)	○	—
	椀c	ヘラ	R-006	Fig.80-10	—	2.9+α	(8.0)	○	—
	椀c	ヘラ	R-008	Fig.80-9	—	2.7+α	(7.6)	○	—
	椀c	ヘラ	R-013	Fig.80-8	—	2.8+α	(9.2)	—	—
	椀c	—	R-014	Fig.80-11	—	2.0+α	(8.2)	—	—
	皿a	ヘラ	R-001	Fig.80-7	(16.4)	2.3	(12.0)	○	—

S-210灰色粘土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a	—	R-001	Fig.80-16	—	2.25+α	(9.0)	—	○

S-210黒灰色粘土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋3	—	R-003	Fig.80-17	—	2.0	—	—	—
	坏a	ヘラ	R-001	Fig.80-18	—	2.8+α	(7.2)	○	○
	坏c	—	R-002	Fig.80-19	—	4.25+α	(8.0)	○	—

S-213

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a	ヘラ	R-001	Fig.63-32	(15.4)	2.5	(11.7)	—	○

S-215

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	椀	—	R-001	Fig.88-1	—	4.1+α	—	—	—

S-220灰茶色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	坏c	—	R-001	Fig.99-91	—	1.5+α	(8.4)	○	—
土師器	坏a	ヘラ	R-002	Fig.99-92	—	2.3+α	(7.7)	—	—

S-225

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	坏c	—	R-001	Fig.88-5	—	1.5+α	—	○	—
	坏c	—	R-004	Fig.88-4	—	1.2+α	(9.9)	○	—
	皿a	ヘラ	R-005	Fig.88-3	—	1.2+α	(10.8)	○	○
黒色土器A	椀c	ヘラ	R-006	Fig.88-9	—	2.3+α	8.2	—	—

S-230黒色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	ヘラ	R-001	Fig.87-3	(9.4)	1.1	(6.4)	○	—
	小皿a	ヘラ	R-002	Fig.87-4	10.0	1.1	8.0	○	○
	小皿a	—	R-003	Fig.87-5	10.6	1.3	8.0	○	—
	小皿a	ヘラ?	R-005	Fig.87-2	(9.2)	1.6	(6.6)	—	—
	丸底坏a	—	R-006	Fig.87-6	(15.0)	3.8+α	—	—	—
黒色土器B	椀c	—	R-004	Fig.87-8	16.4	5.4	7.85	—	—

S-235

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	椀c	—	R-001	Fig.88-10	—	3.3+α	—	—	—
	椀c	—	R-002	Fig.88-11	—	1.6+α	(7.8)	—	—
	椀c	—	R-003	Fig.88-12	—	1.6+α	—	—	—

S-240

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	椀c	—	R-004	Fig.81-1	(10.8)	3.45+α	—	—	—

S-240枠内

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	ヘラ	R-003	Fig.81-7	10.4	2.0	7.8	○	○
	坏a	—	R-002	Fig.81-8	(11.8)	2.4	(8.2)	—	—
	椀	—	R-001	Fig.81-9	(13.4)	3.3+α	—	—	—
	椀c	ヘラ?	R-004	Fig.81-10	—	2.7+α	7.0	○	○?

S-245

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏	—	R-001	Fig.84-1	—	3.0+α	—	—	—

S-245枠内

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a	ヘラ	R-001	Fig.84-16	—	1.6+α	—	○	—
	坏a	ヘラ	R-002	Fig.84-15	11.4	2.5	7.1	○	○
	椀c	—	R-003	Fig.84-17	(12.8)	4.4	7.9	—	—
	椀c	—	R-004	Fig.84-18	14.0	5.1	(8.9)	○	○
黒色土器A	椀c	—	R-007	Fig.84-19	(12.0)	4.7	(8.0)	—	—

S-245黒色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a	—	R-002	Fig.84-6	—	3.5+α	—	—	—
	椀c	—	R-005	Fig.84-7	—	2.3+α	7.5	—	○
	椀c	—	R-007	Fig.84-8	(12.8)	3.7	7.3	—	○
黒色土器A	椀c	—	R-001	Fig.84-12	—	3.8+α	—	—	—
	椀	—	R-006	Fig.84-11	—	3.0+α	—	—	—

S-245黒灰色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
黒色土器A	椀c	—	R-001	Fig.84-2	—	4.5+α	7.6	—	—
	椀c	ヘラ	R-002	Fig.84-3	—	2.7+α	(7.8)	—	—

S-245黒青色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	皿a	ヘラ	R-001	Fig.84-21	—	1.1+α	—	○	○

S-250

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	—	R-001	Fig.71-12	—	1.1+α	—	—	—
	小皿a2	—	R-004	Fig.71-11	(10.6)	0.9	(7.8)	—	○
	小皿a	ヘラ	R-005	Fig.71-9	10.2	1.3	8.2	—	○
	小皿a	—	R-006	Fig.71-10	10.6	1.5	7.9	○	○?
	坏a	—	R-002	Fig.71-13	—	2.9+α	—	—	—
黒色土器A	椀c	ヘラ	R-003	Fig.71-14	(14.7)	5.6	(7.3)	—	—

S-255灰茶色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	椀	—	R-001	Fig.85-3	—	3.1+α	—	—	—
	椀	—	R-002	Fig.85-2	—	3.7+α	—	—	—
	椀c	—	R-003	Fig.85-4	—	2.4+α	—	—	—

S-255黒茶色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a	ヘラ	R-001	Fig.85-1	—	1.8+α	—	—	—

S-255黒色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a	—	R-001	Fig.85-9	—	1.3+α	—	○	○
	椀c	—	R-003	Fig.85-11	—	1.9+α	—	—	—
	椀	—	R-004	Fig.85-10	—	3.5+α	—	—	—
黒色土器A	椀c	ヘラ	R-002	Fig.85-12	—	1.9+α	(7.8)	—	—

S-255枠内

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	椀c	ヘラ	R-001	Fig.85-14	—	3.1+α	(9.2)	—	—
	椀c	ヘラ	R-002	Fig.85-13	—	2.5+α	—	—	○
黒色土器A	椀c	ヘラ	R-003	Fig.85-15	—	2.5+α	(8.0)	—	—

S-260

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋3	—	R-001	Fig.91-80	—	2.1+α	—	—	—
	坏c	ヘラ	R-002	Fig.91-85	—	2.8+α	(8.4)	○	—
	坏c	—	R-003	Fig.91-82	—	1.3+α	(8.0)	○	—
	坏c	ヘラ	R-004	Fig.91-83	—	3.1+α	(8.0)	○	—
	坏c	ヘラ	R-005	Fig.91-81	—	3.7+α	(7.4)	○	—
	坏c	—	R-007	Fig.91-84	(12.6)	4.6	(7.8)	—	—
	坏c	—	R-008	Fig.91-86	—	2.7+α	(8.5)	○	—
土師器	椀c	—	R-006	Fig.91-87	—	2.4+α	6.6	—	—

S-275灰茶色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋3	—	R-002	Fig.94-1	—	1.5+α	—	—	—
	蓋3	—	R-003	Fig.94-3	—	1.0+α	—	—	—
	蓋3	—	R-004	Fig.94-2	—	1.9+α	—	—	—
土師器	椀c	—	R-001	Fig.94-4	—	2.4+α	(9.5)	—	—

S-275灰色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋2	—	R-001	Fig.94-6	—	1.1+α	—	—	—
	蓋3	—	R-002	Fig.94-7	—	1.4+α	—	—	—
	蓋3	—	R-003	Fig.94-8	—	1.0+α	—	—	—

S-281

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	坏c	—	R-001	Fig.66-2	—	1.7+α	—	—	—

S-285

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋3	—	R-005	Fig.94-14	—	1.3+α	—	—	—
	蓋3	—	R-011	Fig.94-12	—	1.7+α	—	—	—
	蓋3	—	R-012	Fig.94-15	—	1.9+α	—	—	—
	蓋3	—	R-013	Fig.94-13	—	1.7+α	—	—	—
	蓋a3	—	R-010	Fig.94-10	(12.2)	1.6	—	—	—
	蓋c3	—	R-020	Fig.94-11	(17.8)	2.2+α	—	—	—
	坏c	—	R-001	Fig.94-16	—	1.3+α	(8.0)	○	—
	坏c	—	R-006	Fig.94-17	—	2.7+α	(9.2)	—	—
	皿a	—	R-019	Fig.94-18	—	1.6+α	—	—	—
土師器	大椀c	—	R-008	Fig.94-24	—	2.3+α	—	—	—
	椀c	—	R-021	Fig.94-22	—	3.8+α	8.1	—	—
	椀c	—	R-022	Fig.94-23	—	5.6+α	(8.1)	—	—

S-295K柱痕

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	坏	—	R-001	Fig.93-1	—	4.0+α	—	—	—

S-295i掘方

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏c	—	R-001	Fig.93-2	—	1.2+α	9.4	—	—

S-300②掘方

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋2	ヘラ	R-001	Fig.93-3	(12.0)	1.5	(8.1)	○	—

S-300⑦

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	坏	—	R-001	Fig.93-5	—	3.7+α	—	—	—

S-300⑧掘方

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋c	—	R-001	Fig.93-6	—	1.2+α	—	—	—

S-300⑤

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋3	—	R-004	Fig.93-8	—	1.7+α	—	—	—
	坏c	—	R-001	Fig.93-9	—	1.8+α	—	○	—

S-300⑧

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	蓋3	—	R-001	Fig.93-13	—	1.8+α	—	—	—

S-300⑧掘方

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	坏	—	R-001	Fig.93-14	—	2.6+α	—	—	—

S-300⑨

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋3	—	R-001	Fig.93-15	—	1.2+α	—	—	—

S-300⑨柱痕

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	坏a	—	R-001	Fig.93-17	—	1.2+α	(7.2)	—	—

S-305a

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋3	—	R-001	Fig.93-25	—	1.4+α	—	—	—

S-306

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	—	R-001	Fig.86-18	(9.6)	0.9	(7.1)	—	—
	小皿a	—	R-002	Fig.86-19	—	1.3+α	—	—	—

S-312

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a	ヘラ	R-001	Fig.87-14	—	1.8+α	(8.2)	—	—
	坏a	—	R-003	Fig.87-12	—	3.9+α	—	—	—
	坏a	—	R-004	Fig.87-13	—	2.1+α	(8.4)	—	—
	坏a	—	R-007	Fig.87-11	(13.6)	3.5	(8.5)	—	—
	椀c	—	R-006	Fig.87-15	—	2.8+α	(7.7)	—	—
黒色土器A	椀c	—	R-002	Fig.87-18	—	2.2+α	(7.3)	—	—
	椀c	—	R-005	Fig.87-19	—	2.2+α	(7.6)	—	—
	椀c	—	R-008	Fig.87-20	—	2.8+α	8.6	—	—
	椀	—	R-009	Fig.87-21	—	4.0+α	—	—	—

S-320

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋3	—	R-001	Fig.101-2	—	0.7+α	—	—	—
	蓋3	ヘラ	R-002	Fig.101-1	(12.4)	1.4+α	(8.6)	○	—

S-325

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋	ヘラ	R-001	Fig.101-3	—	1.0+α	(8.0)	○	—

S-337

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a	ヘラ?	R-001	Fig.88-22	—	1.4+α	(8.4)	—	—

S-341

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a	—	R-001	Fig.88-14	—	1.0+α	(7.7)	—	○

S-345淡赤色シルト質土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	坏	—	R-001	Fig.95-1	—	2.9+α	—	—	—
黒色土器A	椀	—	R-002	Fig.95-3	—	1.9+α	—	—	—

S-345灰色粘土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	坏c	—	R-001	Fig.95-4	—	1.1+α	—	○	—

S-347

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a	—	R-001	Fig.88-15	—	2.6+α	—	—	—

S-369

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a	—	R-003	Fig.87-24	—	1.2+α	—	—	—
	椀c	—	R-001	Fig.87-26	—	2.6+α	(8.4)	—	—
	椀c	—	R-002	Fig.87-25	—	1.8+α	(7.8)	—	—

S-372

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	坏身	—	R-001	Fig.89-5	(12.8)	3.8	—	○	—

S-381

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	椀c	—	R-001	Fig.88-17	—	2.0+α	—	—	—
	椀c	—	R-002	Fig.88-18	—	2.1+α	(7.8)	—	—

S-402

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	坏a	ヘラ	R-001	Fig.88-34	—	2.1+α	—	—	—
	坏a	ヘラ	R-002	Fig.88-33	—	1.5+α	(8.6)	—	—
土師器	坏a	—	R-003	Fig.88-35	—	1.8+α	—	—	—
	坏a	—	R-004	Fig.88-36	—	1.6+α	—	—	—

S-412

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	坏a	ヘラ	R-002	Fig.88-24	—	1.3+α	(6.4)	○	—
土師器	椀	—	R-001	Fig.88-27	—	2.9+α	—	—	—
	椀c	ヘラ	R-003	Fig.88-25	—	1.5+α	(9.1)	—	—
	椀c	—	R-004	Fig.88-26	—	2.0+α	(7.5)	—	—

S-418

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	坏c3	ヘラ	R-001	Fig.88-28	—	4.5+α	8.5	○	—

S-419

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小坏×小椀	—	R-001	Fig.88-29	(11.0)	3.3+α	—	—	—

S-427

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a	—	R-001	Fig.88-31	—	1.1+α	—	—	—
	坏a	ヘラ	R-002	Fig.88-30	—	0.9+α	—	—	—

S-433

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a	—	R-001	Fig. 88-32	—	2.3+α	—	—	—

S-504

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a	—	R-001	Fig. 88-39	—	1.1+α	(7.4)	—	○?
	坏c	—	R-002	Fig. 88-40	—	2.2+α	(6.6)	—	—

S-628

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	坏c	—	R-001	Fig. 88-41	—	2.8+α	(9.0)	○	—

S-673

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	椀c	—	R-001	Fig. 67-29	14.7	5.0	7.2	—	—

S-718

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿	ヘラ	R-001	Fig. 88-19	—	1.0+α	6.9	—	—
	坏a	ヘラ	R-002	Fig. 88-20	—	1.1+α	—	—	—

S-833

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋3	ヘラ	R-001	Fig. 67-30	(16.0)	2.2+α	—	—	—
	坏c	—	R-002	Fig. 67-31	(15.6)	5.5	(8.8)	○	—
土師器	坏a	ヘラ	R-003	Fig. 67-33	(12.4)	3.5	(8.2)	○	—
	大坏d	—	R-006	Fig. 67-34		3.7+α	(6.9)	—	—
	皿a	—	R-008	Fig. 67-32		1.9+α	—	—	—

S-836

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	皿a	—	R-001	Fig. 92-90	(13.0)	1.7	(9.4)	—	—
	坏a	—	R-002	Fig. 92-96	—	4.1+α	—	—	—
	坏a	ヘラ	R-008	Fig. 92-93	—	1.7+α	—	—	○
	坏a	ヘラ	R-009	Fig. 92-91	—	1.8+α	—	—	—
	坏a	ヘラ	R-010	Fig. 92-94	—	1.2+α	—	—	—
	坏a	—	R-011	Fig. 92-95	—	3.0	—	—	—
	坏a	ヘラ	R-012	Fig. 92-92	—	2.3+α	—	—	—
	椀c	—	R-013	Fig. 92-98	—	2.9+α	(7.3)	—	—
	椀c	ヘラ	R-014	Fig. 92-97	—	2.6+α	(8.2)	—	○
黒色土器A	椀c	—	R-003	Fig. 92-103	—	3.0+α	(8.4)	—	—
	椀c	—	R-015	Fig. 92-104	—	3.3+α	—	—	—
	椀c	—	R-016	Fig. 92-102	—	4.3+α	(9.6)	—	—

S-866

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	坏a	ヘラ	R-001	Fig. 92-108	(13.4)	3.6	9.1	—	—
	坏a	ヘラ	R-007	Fig. 92-109	—	2.2+α	(8.0)	×	—
土師器	坏a	ヘラ	R-003	Fig. 92-110	—	1.9+α	(7.1)	—	—
	坏a	—	R-004	Fig. 92-111	—	3.1+α	—	—	—
	椀c	—	R-006	Fig. 92-112	—	3.3+α	(8.7)	—	—

S-884

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	坏a	ヘラ	R-001	Fig. 92-119	—	3.1+α	—	—	—
土師器	坏a	—	R-002	Fig. 92-120	—	1.7+α	—	—	—

灰色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋3	—	R-007	Fig. 90-1	—	1.2+α	—	—	—
	坏a	ヘラ	R-003	Fig. 90-2	—	2.1+α	—	○	—
	坏c	ヘラ	R-005	Fig. 90-3	—	1.0+α	—	—	—
	坏c	ヘラ	R-010	Fig. 90-4	—	1.8+α	—	○	—
土師器	小皿c?	—	R-008	Fig. 90-5	—	1.7+α	—	—	—
	椀c	—	R-013	Fig. 90-8	—	2.2+α	—	—	—

灰褐色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	椀	—	R-002	Fig. 102-2	—	1.1+α	(6.0)	—	—

茶褐色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	蓋b4	ヘラ	R-012	Fig. 90-15	(17.0)	2.35	8.2	○	—
	坏a	ヘラ	R-014	Fig. 90-20	—	3.05+α	—	—	—
	坏a	ヘラ	R-015	Fig. 90-21	—	2.05+α	(7.4)	—	—
	坏a	ヘラ	R-019	Fig. 90-22	—	2.0+α	7.2	—	—
	坏a	イト	R-020	Fig. 90-23	—	2.6+α	(7.8)	○	—
	坏a	—	R-021	Fig. 90-24	—	3.0+α	(7.4)	—	—
	皿a	ヘラ	R-016	Fig. 90-18	12.75	2.3	7.7	○	—
	皿a	ヘラ	R-011	Fig. 90-19	(14.0)	1.7	(10.4)	—	—
	椀c	—	R-001	Fig. 90-26	—	2.9+α	7.8	—	—
	椀c	—	R-004	Fig. 90-25	—	3.3+α	—	—	—
黒色土器A	椀c	—	R-010	Fig. 90-29	—	4.0+α	(8.8)	—	—
	椀c	ヘラ	R-013	Fig. 90-30	—	3.5+α	7.1	—	—

茶灰色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	坏a	ヘラ	R-001	Fig. 91-73	(13.7)	3.4	9.0	○	○
	坏a	ヘラ	R-002	Fig. 91-74	—	2.6+α	8.1	—	—
土師器	坏a	ヘラ	R-003	Fig. 91-75	—	2.1+α	(4.1)	—	—

茶色砂

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	坏a	ヘラ	R-001	Fig. 91-76	—	2.5+α	—	—	—
	坏c	ヘラ	R-002	Fig. 91-77	—	1.2+α	—	○	—

黒灰色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	坏a	ヘラ	R-002	Fig. 91-59	(12.6)	2.6	(7.0)	○	—
	皿a	ヘラ	R-005	Fig. 91-57	(18.5)	2.2	(14.6)	○	○
	皿a	ヘラ	R-007	Fig. 91-58	(17.6)	2.05	(13.7)	○	—
	坏c	ヘラ	R-012	Fig. 91-61	—	1.6+α	(8.6)	—	—
	坏c	ヘラ	R-013	Fig. 91-60	—	1.4+α	(8.1)	○	—
土師器	坏a	ヘラ	R-001	Fig. 91-66	—	2.0+α	—	○	—
	坏a	ヘラ	R-014	Fig. 91-64	—	1.6+α	(8.0)	—	—
	坏a	ヘラ	R-015	Fig. 91-65	—	2.5+α	(7.6)	—	—
	皿a	—	R-003	Fig. 91-63	(10.6)	1.9	(7.4)	○	○
	大皿c	ヘラ	R-006	Fig. 91-67	(22.0)	3.45	(17.4)	○	—
黒色土器A	椀c	—	R-008	Fig. 91-70	—	1.3+α	(7.7)	—	—

黒茶色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋2	—	R-015	Fig. 91-43	—	2.0+α	—	—	—
	蓋3	—	R-004	Fig. 91-45	—	1.5+α	—	—	—
	蓋3	—	R-011	Fig. 91-44	—	1.85+α	—	—	—
	蓋c3	—	R-012	Fig. 91-41	(14.4)	1.9	—	—	—
	蓋c3	—	R-013	Fig. 91-42	—	1.6+α	—	—	—
	坏c	ヘラ	R-010	Fig. 91-46	—	1.9+α	—	○	—
土師器	坏a	—	R-001	Fig. 91-50	—	1.65+α	—	—	—
	坏a	ヘラ	R-002	Fig. 91-51	—	2.65+α	—	○	○
	坏a	ヘラ	R-008	Fig. 91-49	(12.8)	3.3	(6.4)	—	—
	皿a	ヘラ	R-003	Fig. 91-48	—	1.4+α	—	—	—
	坏c	ヘラ	R-009	Fig. 91-52	—	2.3+α	—	—	—
黒色土器A	椀c	—	R-007	Fig. 91-54	—	1.85+α	—	—	—

V、第257次調査自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

○花粉分析・寄生虫分析・土壌分析

はじめに

大宰府条坊跡第257次調査で検出された、主に8～9世紀の遺構覆土について、花粉分析、寄生虫卵分析、土壌理化学分析を行うことにより、遺構の性格や周辺植生に関する情報を得る。

1. 試料

分析試料は、遺構から採取された土壌試料9点であり、花粉分析9点、寄生虫卵分析、土壌理化学分析を各4点づつ実施する。S-175は8世紀頃の遺構でトイレの可能性が指摘されている。このため、遺構覆土3点について、花粉分析、寄生虫卵分析、土壌理化学分析を実施する。S-300は8世紀頃の遺構であり、S-175の対照試料として、柱穴（No. 29）より採取された。花粉分析、寄生虫卵分析、土壌理化学分析を実施する。S-160、S-402、S-576、S-337は平安時代の溝、S-245は9－10世紀の井戸と考えられている。これらの性格ならびに周辺植生に関する情報を得るため、花粉分析を実施する。

2. 分析方法

(1) 花粉分析

試料約10 gについて、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液（臭化亜鉛，比重2.3）よる有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス（無水酢酸9：濃硫酸1の混合液）処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作成し、400倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての種類について同定・計数する。結果は同定・計数結果の一覧表として表示する。

(2) 寄生虫卵分析

寄生虫卵分析に関しては、金原・金原（1992）等を参考に処理を行った。堆積物1ccあたり10,000個体以上検出される（金原・金原，1994）ような場合は、簡便な方法で観察可能である。しかし、今回は試料の質等から判断して、寄生虫卵の数が少ないことが予想される。このため、花粉分析に準じた方法で分析を行い、寄生虫卵を濃集することにした。試料10ccを正確に秤り取る。これについて水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液（臭化亜鉛，比重2.3）よる有機物の分離の順に物理・化学的処理を施し、寄生虫卵および花粉・胞子を分離・濃集する。処理後の残渣を定容してから一部をとり、グリセリンで封入してプレパラートを作成し、400倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査して出現する全ての寄生虫卵について同定・計数する。結果は、堆積物1ccあたりに含まれる寄生虫卵の個数を一覧表として、花粉分析結果の一覧表とあわせて表示する。

(3) 土壌理化学分析

分析を行う遺構は、トイレ遺構の可能性があることから、全炭素、全窒素、全リン酸を測定する。全炭素・全窒素はCNコーダー法、全リン酸は硝酸・過塩素酸分解－バナドモリブデン酸比色法でそれぞれ行った（土壌環境分析法編集委員会，1997）。以下に各項目の操作工程を示す。

試料を風乾後、土塊を軽く崩して2mmの篩でふるい分けをする。この篩通過試料を風乾細土試料とし、分析に供する。また、風乾細土試料の一部を乳鉢で粉砕し、0.5mm篩を全通させ、粉砕土試料を作成する。風乾細土試料については、105℃で4時間乾燥し、分析試料水分を求める。

全炭素・全窒素量は、粉砕土試料500～1000mgを正確にはかり、サンプルボードに充填した後、CNコーダー（ヤナコ分析工業製）に挿入する。試料をキャリアガス（Ｈｅ）気流中で950℃に加熱燃焼し、

発生した燃焼ガスを純化させ、CO_2 及び N_2 の組成にする。ＴＣＤ検出器により炭素及び窒素の濃度を測定する。これら測定値と加熱減量法で求めた試料中の水分から乾土あたりの全炭素量（T-C%）および全窒素量（T-N%）を求める。また、全炭素量を全窒素量で除し、C/N（炭素率）を算出する。

全リン酸は、粉砕土試料 1.00 g をケルダールフラスコに秤りとり、はじめに硝酸（HNO_3）10ml を加えて加熱分解する。放冷後、過塩素酸（$HClO_4$）20ml を加えて再び加熱分解を行う。分解終了後、蒸留水で 100ml に定容し、ろ過する。ろ液の一定量を試験管に採取し、リン酸発色液（バナドモリブデン酸・硝酸液）を加えて分光光度計によりリン酸（P_2O_5）濃度を測定する。この測定値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりのリン酸含量（P_2O_5mg/g）を求める。

3. 結果

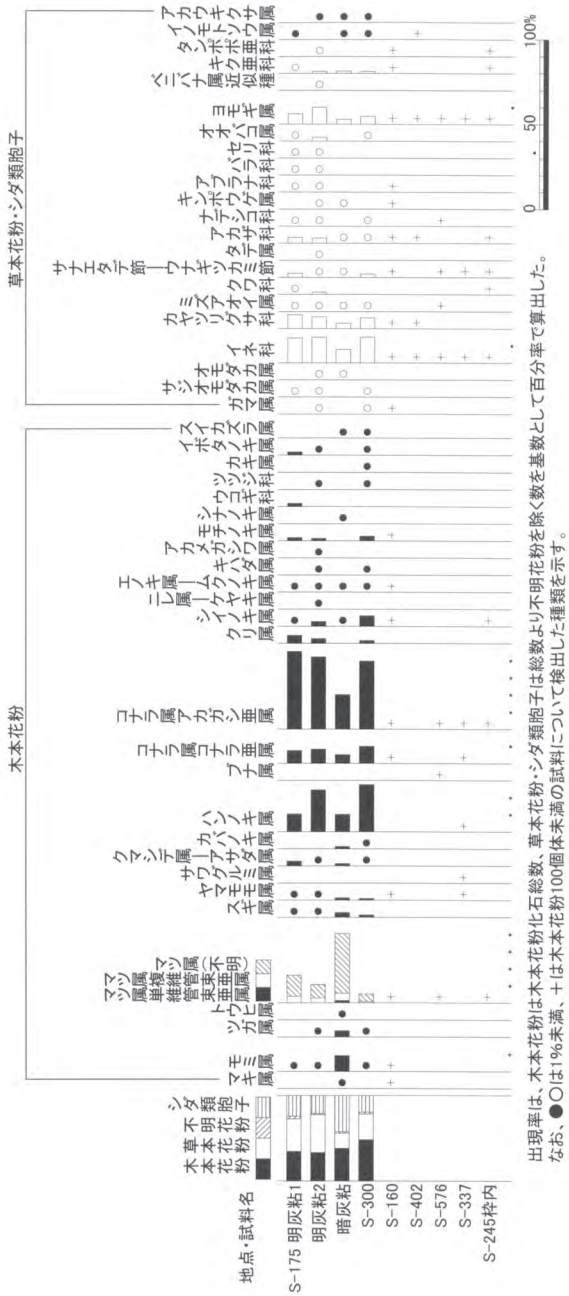
(1) 花粉分析

結果を表 13・14 に示す。S-175 と S-300 からは、花粉化石が検出されるが、他の遺構については、花粉化石の保存状態が悪く、ほとんど検出されない。S-175 明灰色粘土の木本花粉組成は、コナラ属アカガシ亜属が多く、ハンノキ属、コナラ亜属、マツ属がこれに次いで多いが、下部層の暗灰色粘土ではアカガシ属よりもマツ属の割合が若干高い。草本類は3試料とも類似し、イネ科、カヤツリグサ科、ヨモギ属等が検出される。その他ガマ属、サジオモダカ属、オモダカ属、ミズアオイ属、アカウキクサ属等の

種　類	遺構名・試料名								
	S-175			S-300	S-160	S-402	S-576	S-337	S-245
	明灰色粘土1	明灰色粘土2	暗灰色粘土						枠内
木本花粉									
マキ属	–	–	1	–	12	–	–	–	–
モミ属	1	2	20	1	3	–	–	–	–
ツガ属	–	1	8	1	–	–	–	–	–
トウヒ属	–	–	2	–	–	–	–	–	–
マツ属単維管束亜属	–	–	3	–	–	–	–	–	–
マツ属複維管束亜属	4	6	9	2	4	–	–	–	1
マツ属（不明）	13	17	75	13	4	–	1	–	5
スギ属	1	2	6	4	–	–	–	–	–
ヤマモモ属	1	2	3	3	3	–	–	2	–
サワグルミ属	–	–	–	–	–	–	–	1	–
クマシデ属－アサダ属	3	1	3	1	–	–	–	–	–
カバノキ属	–	–	3	1	–	–	–	–	–
ハンノキ属	11	53	22	80	–	–	–	2	–
ブナ属	–	–	–	–	–	–	1	–	–
コナラ属コナラ亜属	8	18	11	29	6	–	–	9	–
コナラ属アカガシ亜属	48	91	43	115	6	–	1	12	1
クリ属	5	6	–	5	–	–	–	–	–
シイノキ属	1	6	2	18	1	–	–	–	3
ニレ属－ケヤキ属	–	1	–	–	–	–	–	–	–
エノキ属－ムクノキ属	1	1	2	2	1	–	–	–	–
ヤドリギ属	–	1	–	–	–	–	–	–	–
キハダ属	–	1	–	1	–	–	–	–	–
アカメガシワ属	–	1	–	–	–	–	–	–	–
モチノキ属	2	3	–	8	1	–	–	–	–
ツタ属	–	–	–	1	–	–	–	–	–
ノブドウ属	–	1	–	–	–	–	–	–	–
シナノキ属	–	–	1	–	–	–	–	–	–
ウコギ科	2	–	–	–	–	–	–	–	–
ツツジ科	–	1	–	1	–	–	–	–	–
カキ属	–	–	–	1	–	–	–	–	–
ハイノキ属	1	–	–	–	–	–	–	–	–
イボタノキ属	2	1	–	1	–	–	–	–	–
トネリコ属	1	–	–	–	–	–	–	–	–
ガマズミ属	1	–	–	–	–	–	–	–	–
スイカズラ属	–	–	1	2	–	–	–	–	–
草本花粉									
ガマ属	–	1	–	1	1	–	–	–	–
サジオモダカ属	1	1	–	1	–	–	–	–	–
オモダカ属	–	1	2	–	–	–	–	–	–
イネ科	43	96	43	89	33	1	2	3	6
カヤツリグサ科	24	44	18	37	2	1	–	–	–
ミズアオイ属	1	5	3	2	–	–	1	–	–
クワ科	2	9	–	–	–	–	–	–	2
ギシギシ属	1	1	–	–	–	–	–	–	–
サナエタデ節－ウナギツカミ節	7	3	5	12	7	–	1	1	1
タデ属	–	3	–	–	–	–	–	–	–
アカザ科	10	19	1	1	2	1	–	–	1
ナデシコ科	1	4	–	1	–	–	1	–	–
キンポウゲ属	–	1	1	–	2	–	–	–	–
キンポウゲ科	–	–	2	1	–	–	–	–	–
アブラナ科	2	2	–	–	3	–	–	–	–
バラ科	1	1	–	–	–	–	–	–	–
マメ科	–	1	–	–	–	–	–	–	–
フウロソウ属	–	–	–	–	1	–	–	–	–
カラスノゴマ属	–	1	–	–	–	–	–	–	–
セリ科	2	6	–	–	–	–	–	–	–
オオバコ属	2	15	–	1	–	–	–	–	–
オミナエシ属	–	–	–	1	–	–	–	–	–
ヨモギ属	18	64	16	27	20	1	3	2	8
オナモミ属	–	1	–	–	–	–	–	–	–
ベニバナ属近似種	–	1	–	–	–	–	–	–	–
キク亜科	1	8	8	7	1	–	–	–	1
タンポポ亜科	–	1	–	–	1	–	–	–	1
不明花粉	10	9	9	13	5	–	2	–	–
シダ類胞子									
ヒカゲノカズラ属	–	–	2	–	1	–	–	–	–
ゼンマイ属	–	–	–	1	–	–	–	–	–
イノモトソウ属	1	–	1	1	–	1	–	–	–
アカウキクサ属	–	1	2	1	–	–	–	–	–
他のシダ類胞子	73	136	235	115	76	25	80	61	4
合　計									
木本花粉	106	216	215	290	41	0	3	26	10
草本花粉	116	289	99	181	73	4	8	6	20
不明花粉	10	9	9	13	5	0	2	0	0
シダ類胞子	74	137	240	118	77	26	80	61	4
総計（不明を除く）	296	642	554	589	191	30	91	93	34
寄生虫卵（個/cc）									
鞭虫卵	<100	<100	0	0	—	—	—	—	—

<100：100個未満　—：寄生虫卵分析を実施していない試料

表 13、花粉分析寄生虫分析



出現率は、木本花粉は木本花粉化石総数、草本花粉・シダ類胞子は総数より不明花粉を除く数を基数として百分率で算出した。
なお、●○は1%未満、＋は木本花粉100個体未満の試料について検出した種類を示す。

表 14、花粉化石群集

水生植物が低率ながら検出される。栽培由来の種類としては、ベニバナ属が検出される。なお、S-300の組成は、S-175 明灰色粘土と類似する。

(2) 寄生虫卵分析析

結果を表 13 示す。鞭虫卵が、S-175 明灰色粘土で検出されたのみである。これらを堆積物 1cc あたりに換算すると 100 個以下であり、非常に少ない。

(3) 土壌理化学分析

結果を表 15 に示す。炭素含量は、S-175 明灰色粘土 1 が最も高く 4.9%、S-175 明灰粘土 2 が 1.8%、残りの 2 点は 1% 以下である。全窒素も、炭素含量と同様 S-175 明灰色粘土 1 が高く 0.26% で、S-175 暗灰色粘土や S-300 は低い。腐植分解の指標となる C/N 比は、S-175 明灰色粘土 1 は 19 であり、残りの 3 点は 10 前後である。リン酸値はいずれも低く 1mg/g 以下であるが、腐植含量が多い試料でリン酸も高くなる傾向がみられる。

試料名	土性	土色		全炭素 (%)	全窒素 (%)	C／N	全リン酸 (mg/g)
条257　S-175 明灰色粘土1	CL	10YR2/1	黒色	4.87	0.26	19	0.88
条257　S-175 明灰色粘土2	HC	10YR4/1	褐灰色	1.81	0.16	11	0.73
条257　S-175 暗灰色粘土	LiC	2.5Y4/1 2.5Y5/2	黄灰色 暗黄灰色	0.35	0.04	9	0.55
条257　S-300	SC	10YR4/1	褐灰色	0.69	0.07	10	0.53

注.（1）土色：マンセル表色系に準じた新版標準土色帖（農林省農林水産技術会議監修, 1967）による。
（2）土性：土壌調査ハンドブック（ペドロジスト懇談会編, 1984）の野外土性による。
CL･･･埴壌土（粘土15～25%、シルト20～45%、砂3～65%）
LiC･･･軽埴土（粘土25～45%、シルト0～45%、砂10～55%）
SC･･･砂質埴土（粘土25～45%、シルト0～20%、砂55～75%）
HC･･･重埴土（粘土45～100%、シルト0～55%、砂0～55%）

表 15. 土壌理化学分析結果

4. 考察

(1) 遺構の性格

分析の結果、S-175 からは寄生虫卵がほとんど検出されなかった。金原正明・金原正子（1994）によれば、トイレ遺構の寄生虫卵は数千個 /cc を超えることが多く、今回のような 100 個 /cc 以下は汚染の範囲内であるとされており、トイレ遺構の指標とはならない。一方トイレ遺構であれば、リン酸や窒素化合物など排泄物に多い物質が多いことが予想された。しかしながら、窒素含量、リン酸含量ともに低く、排泄物等混入の指標にはならない。なお、炭素含量が多い試料でリン酸含量が高いが、これは腐植中にリン酸が含まれるためであり、自然状態に近い土壌では普遍的にみられる傾向である。また、腐植の分解の割合を示す C/N 比も 10 前後であることから、分解の進んだ土壌であるといえる。S-175 明灰粘 1 では C/N 比が高く、分解が進んでいないように見えるが、この層には木片等を含んでいるため、この影響が分析値に出ていると思われる。

なお、S-160、S-402、S-576、S-337、S-245 では花粉化石の保存状態が悪く、シダ類胞子が比較的多く見られる。花粉化石は好気的環境による風化に弱く、かつシダ類胞子は花粉化石と比べて風化に強い（徳永・山内、1971）ことから、風化により花粉化石が消失したと考えられる。遺跡の立地から考えて、遺構覆土の母材は、氾濫堆積物であるとみられるが、遺構構築時には、乾湿を繰り返すような状況であったため、花粉化石が風化により消失したとみられる。

(2) 植生復元

木本花粉に着目すると、アカガシ亜属が多く、ヤマモモ属、シイノキ属、アカメガシワ属等暖地に多い種類を伴う。このような傾向は、北九州各地の花粉分析結果にも表れている（Hatanaka, 1985; 畑中ほか, 1998）。このことから、遺跡周辺の山地には、シイ・カシ類からなる照葉樹林が存在していたと考えられる。なお、照葉樹林の代表的な樹木としてタブノキやクスノキなどクスノキ科の植物があるが、クスノキ科の花粉化石は膜が弱いため化石としてはほとんど残らない。そのため、当時クスノキ科も多く生育していたとは思われるが、花粉化石からはその復元が難しい。

また、ハンノキ属をはじめ、エノキ属－ムクノキ属、ニレ属－ケヤキ属等の検出することから、これらが生育する平地林や河畔林の存在が推測される。一方マツは、開発による伐採地に先駆的に生育し二次林を形成することが多い種類であり、このような特性から植林されることもしばしばある。今回検出されたマツ属花粉も、こういった二次林に由来するとみられ、大宰府周辺の開発が進むにしたがって、マツの二次林や植林が増加し、山地で優勢であった照葉樹林が減少してきた可能性がある。なお、北九州地方では、マツ属花粉の増加が約 1500 年前以降に起こることが指摘されている（Hatanaka, 1985; 畑中ほか, 1998 等）。

今回の結果は、暖地に多い常緑広葉樹林の多産、ハンノキ属等河畔や湿地を好む花粉化石の検出、マツ属の増加という特徴がある。しかし細かくみると、S-175 暗灰色粘土と他の試料では、マツ属の割合に差があり、S-175 暗灰色粘土のみマツ属の割合が高い。大宰府条坊跡第 225 次調査の結果（パリノ・サーヴェイ株式会社, 2004）をみると、古代におけるマツ属とアカガシ亜属の割合は、マツ属の方が若干高い傾向にあり、S-175 暗灰色粘土の組成に近い。さらに、これまで当社が行った大宰府条坊跡並びにその周辺遺跡の結果をみても、奈良・平安時代では、アカガシ亜属に比べてマツ属の割合が高い。今回は、河畔や湿地を好む花粉化石の割合が高いことから、低地の植生を強く反映している可能性が高く、マツ属花粉の割合が低いのは、低地を中心とした局地的な植生を反映しているためと推測される。

一方、草本花粉に着目すると、イネ科、カヤツリグサ科、クワ科、アカザ科、ヨモギ属が多い。これらは開けた場所に先駆的に草地を作る種類で、人家や耕作地に多くみられることから、「人里植物」と呼ばれている。おそらく遺構周辺は開発によって草地化し、これらの草本類が生育していたものとみられる。今回栽培の可能性があるのはイネ科とベニバナ属と既存の結果に比べてやや少ないものの、これらが周辺で栽培･利用されていたことが示唆される。なお、これまでの成果をみると、イネ科をはじめ、ソバ属、ナス属、キュウリ属など栽培種もしくは栽培植を含む分類群の花粉化石が検出されている。

引用文献

Hatanaka Ken' ichi, 1985, Palynological stadies on the vegetational succession the Wurm Glacial Age in Kyusyu and adjacenet areas. Journal of the faculty of Literature, Kitakyusyu UniveraSity (Series B) , 18, 29-71.

畑中健一・野井英明・岩内明子, 1998, 九州地方の植生史. 図説日本列島植生史, 安田喜憲・三好　教夫編, 朝倉書店, 151-161.

金原正明・金原正子, 1992, 花粉分析および寄生虫. 藤原京跡の便所遺構－右京七条一坊西北坪－, 奈良国立文化財研究所, 12-15.

金原正明・金原正子, 1994, 堆積物中の情報の可視化. 可視化情報, 14, 9-14.

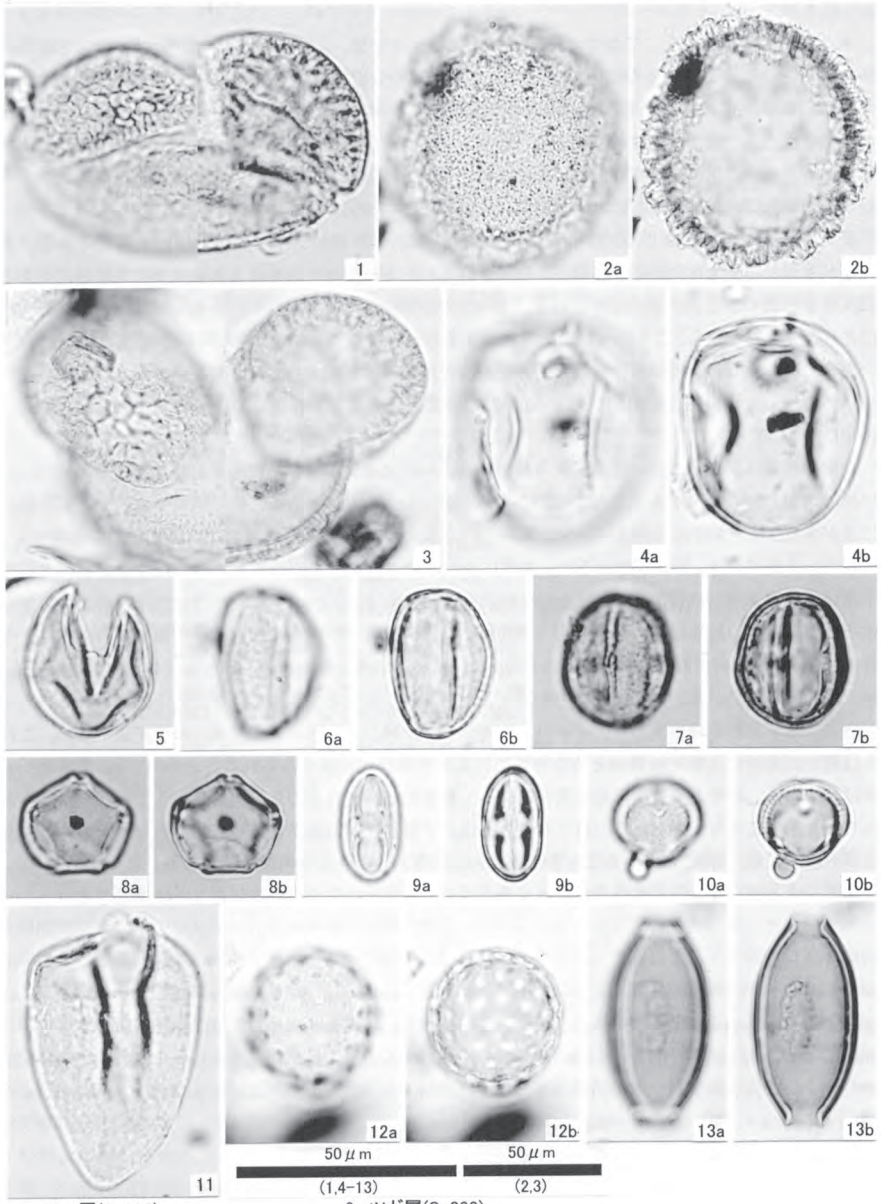
農林省農林水産技術会議事務局監修, 1967, 新版標準土色帖.

パリノ・サーヴェイ株式会社, 2004, 自然科学分析. 大宰府条坊跡 26　第 225 次調査, 太宰府市教育委員会, 81-93.

ペドロジスト懇談会編, 1984, 土壌調査ハンドブック. 博友社, 156p.

徳永重元・山内輝子, 1971, 花粉・胞子. 化石の研究法, 共立出版株式会社, 50-73.

写真 1、花粉化石・寄生虫卵



1．マツ属(S-300)
2．ツガ属(S-300)
3．モミ属(S-175;暗灰粘)
4．イネ科(S-300)
5．スギ属(S-300)
6．コナラ属コナラ亜属(S-300)
7．コナラ属アカガシ亜属(S-300)
8．ハンノキ属(S-300)
9．シイノキ属(S-300)
10．ヨモギ属(S-300)
11．カヤツリグサ科(S-300)
12．アカザ科(S-175;明灰粘2)
13．鞭虫卵(S-175;明灰粘2)

○放射性炭素年代測定・樹種同定

はじめに

大宰府条坊跡第 257 次調査では、8 世紀と考えられる掘立柱建物跡や 9 世紀後半と考えられる井戸跡が検出されており、柱痕、礎板、井戸枠等の木質遺物も出土している。本報告では、掘立柱建物跡の年代を確認するため、柱痕および礎板の放射性炭素年代測定を実施する。また、掘立柱建物跡や井戸の部材の木材利用を明らかにするため、出土した建築部材の樹種同定を実施する。

1. 試料

試料は、S-300 の礎板（No.7）および柱根（No.50）と、S-95 の井戸枠（No.25）の 3 点である。年代測定は S-300 の 2 点について実施する。樹種同定は、3 点全点について実施する。

2. 分析方法

(1) 放射性炭素年代測定

土壌や根など目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをピンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。その後 HC 1 により炭酸塩等酸可溶成分を除去、NaOH により腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、HC 1 によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去を行う（酸・アルカリ・酸処理）。

試料をバイコール管に入れ、1g の酸化銅（Ⅱ）と銀箔（硫化物を除去するため）を加えて、管内を真空にして封じきり、500℃（30 分）850℃（2 時間）で加熱する。液体窒素と液体窒素＋エタノールの温度差を利用し、真空ラインにて CO_2 を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製した CO_2 と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを 650℃で 10 時間以上加熱し、グラファイトを生成する。

化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径 1mm の孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。測定機器は、3MV 小型タンデム加速器をベースとした 14C-AMS 専用装置（NEC Pelletron 9SDH-2）を使用する。AMS 測定時に、標準試料である米国国立標準局（NIST）から提供されるシュウ酸（HOX-Ⅱ）とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に $^{13}C/^{12}C$ の測定も行うため、この値を用いて $\delta^{13}C$ を算出する。

放射性炭素の半減期は LIBBY の半減期 5,568 年を使用する。また、測定年代は 1950 年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma;68%）に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.02（Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer）を用い、誤差として標準偏差（One Sigma）を用いる。

(2) 樹種同定

剃刀の刃を用いて木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の 3 断面の徒手切片を作製し、ガム・クロラール（抱水クロラール，アラビアゴム粉末，グリセリン，蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートを作製する。作製したプレパラートは、生物顕微鏡で木材組織を観察し、その特徴から種類を同定する。なお、同定の根拠となる顕微鏡下での木材組織の特徴等については、島地・伊東（1982）、Wheeler 他（1998）、Richter 他（2006）を参考にする。また、各樹種の木材組織の配列の特徴については、林（1991）、伊東（1995,1996,1997,1998,1999）や独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースを参考にする。

3. 結果

同位体効果による補正を行った測定結果および樹種同定結果を表 1 に示す。また、暦年較正結果を表 17 に示す。年代測定値は、S-300No.7 が 1,490 ± 30BP、S-300No.50 が 1,660 ± 40BP を示す。

暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、及び半減期の違い（^{14}C の半減期 5730 ± 40 年）を較正することである。暦年較正に関しては、本来 10 年単位で表すのが通例であるが、将来的に暦年較正プログラムや暦年較正曲線の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、1 年単位で表している。いずれも炭化材であることから、北半球の大気中炭素に由来する較正曲線を用いる。

暦年較正は、測定誤差σ、2σ双方の値を計算する。σは統計的に真の値が 68% の確率で存在する範囲、2σは真の値が 95% の確率で存在する範囲である。また、表中の相対比とは、σ、2σの範囲をそれぞれ 1 とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。測定誤差をσとして計算させた結果、S-300No.7 は calAD550-606、S-300No.50 は calAD265-432 である。

一方、柱痕・礎板・井戸枠は、針葉樹 2 種類（マキ属・カヤ）と広葉樹 1 種類（クスノキ）に同定された。各種類の解剖学的特徴等を記す。

・マキ属（Podocarpus） マキ科

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか。樹脂細胞は早材部および晩材部に散在する。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はヒノキ型で 1 分野に 1-2 個。放射組織は単列、1-10 細胞高。

・カヤ（Torreya nucifera Sieb. et Zucc.） イチイ科カヤ属

軸方向組織は仮道管のみで構成され、樹脂道および樹脂細胞は認められない。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は狭い。仮道管内壁には 2 本が対をなしたらせん肥厚が認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はトウヒ型～ヒノキ型で、1 分野に 1-4 個。放射組織は単列、1-10 細胞高。

・クスノキ（Cinnamomum camphora（L.）Presl） クスノキ科クスノキ属

散孔材で、道管径は比較的大径、管壁は薄く、横断面では楕円形、単独または 2-3 個が放射方向に複合して散在する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、1-3 細胞幅、1-10 細胞高でやや階層状に配列する。柔組織は周囲状～翼状。柔細胞には油細胞が認められる。

地区	遺構	番号	種類	器種	樹種	推定年代	補正年代 BP	δ 13C (‰)	測定年代 BP	Code No.
O11	S-300	No.7	生木	礎板	カヤ	8世紀	1,490± 30	-27.18±0.53	1,530± 30	IAAA-42470
R14	S-300	No.50	生木	柱痕	マキ属	8世紀	1,660± 40	-22.56±0.52	1,620± 40	IAAA-42471
T16	S-95	No.25	生木	井戸枠	クスノキ	9世紀後半	―	―	―	―

1)年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用。
2)BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。
3)付記した誤差は、測定誤差σ（測定値の68%が入る範囲）を年代値に換算した値。

表 16. 放射性炭素年代測定結果

遺構名	番号	補正年代 (BP)		暦年較正年代(cal)													相対比	Code No.
S-300	No.7	1,489± 31	σ	cal	AD	550	-	cal	AD	606	cal	BP	1,400	-	1,344		1.000	IAAA-42470
			2σ	cal	AD	467	-	cal	AD	481	cal	BP	1,483	-	1,469		0.018	
				cal	AD	534	-	cal	AD	645	cal	BP	1,416	-	1,305		0.982	
S-300	No.50	1,655± 42	σ	cal	AD	265	-	cal	AD	273	cal	BP	1,685	-	1,677		0.043	IAAA-42471
				cal	AD	334	-	cal	AD	432	cal	BP	1,616	-	1,518		0.957	
			2σ	cal	AD	258	-	cal	AD	297	cal	BP	1,692	-	1,653		0.090	
				cal	AD	320	-	cal	AD	468	cal	BP	1,630	-	1,482		0.777	
				cal	AD	479	-	cal	AD	534	cal	BP	1,471	-	1,416		0.132	

1)計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.01(Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer)を使用
2)計算には表に示した丸める前の値を使用している。
3)1桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1桁目を丸めていない。
4)統計的に真の値が入る確率はσは68%、2σは95%である
5)相対比は、σ、2σのそれぞれを1とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。

表 17. 暦年較正結果

4. 考察

S-300 の年代は、発掘調査所見から 8 世紀と考えられているが、柱痕（No.50）の補正年代は 1,660 ± 40BP で、歴年代は calAD265-432 となる。また、礎板（No.7）は、補正年代が 1,490 ± 30BP、暦年代が calAD550-606 であり、礎板の方が古い年代を示し、いずれも調査所見よりも古い年代を示す。これらの樹種は、礎板がカヤ、柱痕がマキ属であり、礎板と柱痕で樹種が異なる結果が得られた。カヤとマキ属はいずれも針葉樹で成長が遅いため、柱材等に利用するためには相当の樹齢の木材を利用したと考えられる。そのため、樹齢によって年代値が推定値よりも古い値を示している可能性がある。カヤとマキ属は、針葉樹材としては比較的重硬・緻密で強度や耐水性が高い材質を有しており、柱や礎板として適材といえる。いずれも暖温帯常緑広葉樹林中に生育する樹種であり、大宰府条坊跡でこれまでに実施された花粉分析などの古植生調査結果（パリノ・サーヴェイ株式会社，2004, 2005 等）を考慮すれば、周辺に生育していた可能性がある。

大宰府条坊跡では、第 236 次調査でも柱痕の樹種同定を実施しているが、クスノキ科やイスノキ等の広葉樹材が利用されており、針葉樹材は確認されていない。このうち、クスノキ科については年代測定を実施しており、今回の礎板と柱根の間に入る 5 世紀前半～6 世紀前半の暦年代が得られている。また、イスノキの柱材は平安前期以前と考えられており、いずれも今回の柱材と時期的にも近い。そのため、木材利用が異なる背景には、各建物の規模・用途・機能等の違いが関係している可能性がある。

一方、9 世紀後半と考えられる井戸枠は、広葉樹のクスノキであった。クスノキは、交錯木理があるために加工はやや困難であるが、樟脳を多く含み耐水性があることから井戸枠としては適材といえる。大宰府条坊跡では、第 236 次調査で検出された平安前期とされる井戸でもクスノキが確認されており、今回の結果とも調和的である。

引用文献

林 昭三，1991，日本産木材 顕微鏡写真集．京都大学木質科学研究所．

伊東隆夫，1995，日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ．木材研究・資料，31，京都大学木質科学研究所，81-181.

伊東隆夫，1996，日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ．木材研究・資料，32，京都大学木質科学研究所．66-176.

伊東隆夫，1997，日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ．木材研究・資料，33，京都大学木質科学研究所，83-201.

伊東隆夫，1998，日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ．木材研究・資料，34，京都大学木質科学研究所，30-166.

伊東隆夫，1999，日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ．木材研究・資料，35，京都大学木質科学研究所，47-216.

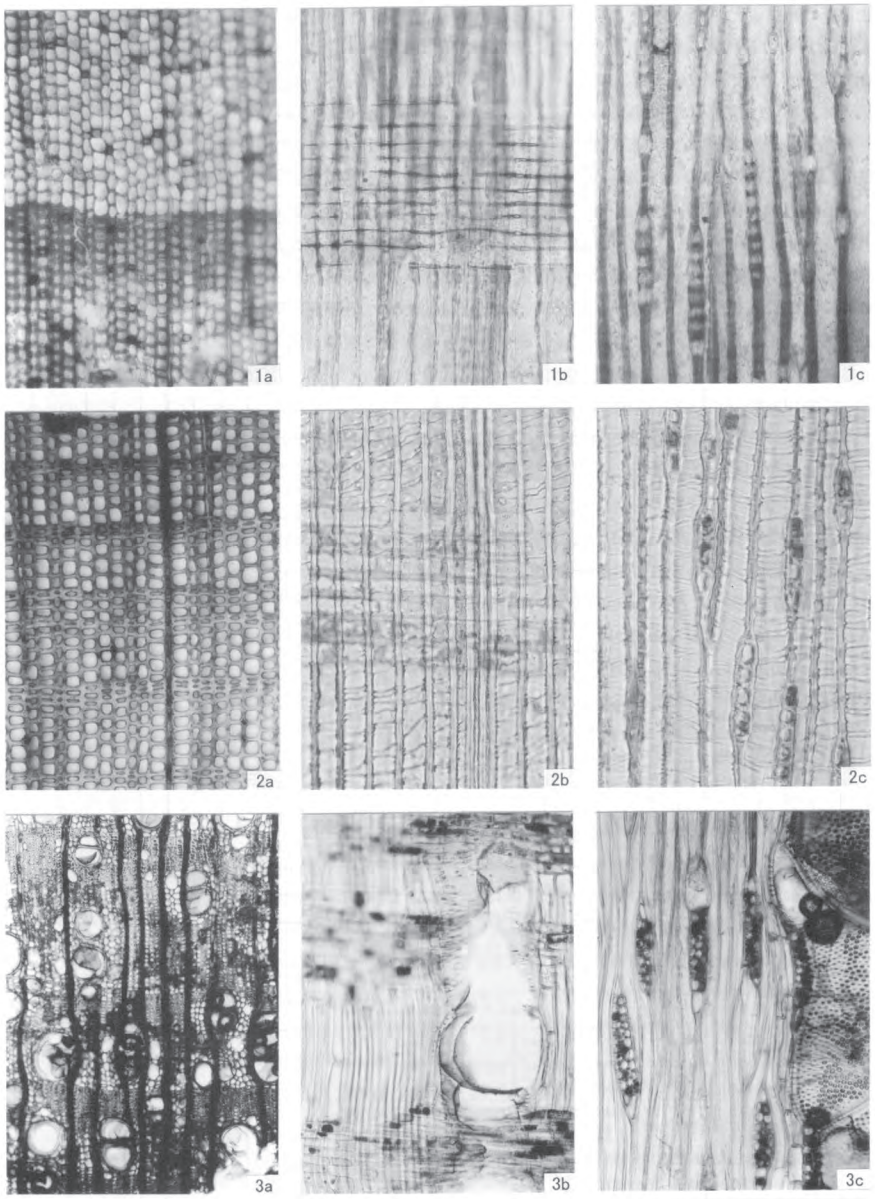
パリノ・サーヴェイ株式会社，2004，自然科学分析．「太宰府の文化財第 76 集 大宰府条坊跡 26」，太宰府市教委，81-91.

パリノ・サーヴェイ株式会社，2005，自然科学分析．「太宰府の文化財第 81 集 大宰府条坊跡 27」，太宰府市教委，207-209.

Richter H.G.，Grosser D.，Heinz I. and Gasson P.E.（編），2006，針葉樹材の識別 IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト．伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部久・内海泰弘（日本語版監修），海青社，70p.［Richter H.G.，Grosser D.，Heinz I. and Gasson P.E.（2004）IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification］.

島地謙・伊東隆夫，1982，図説木材組織．地球社，176p.

Wheeler E.A.，Bass P. and Gasson P.E.（編），1998，広葉樹材の識別 ＩＡＷＡによる光学顕微鏡的特徴リスト．伊東隆夫・藤井智之・佐伯浩（日本語版監修），海青社，122p.［Wheeler E.A.，Bass P. and Gasson P.E.（1989）IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification］.



1. マキ属(S-300;No.50)
2. カヤ(S-300;No.7)
3. クスノキ(S-95;No.25)
a:木口, b:柾目, c:板目

200 μm:3a
200 μm:1-2a・3b,c
100 μm:1-2b,c

VI、調査まとめ

特筆すべき所見を列挙すると以下のとおりである。

・大型掘立柱建物の検出。
・東西道路（推定 15・16 条路）の検出。
・条坊区画の検出。
・土取り遺構の検出。
・畑状遺構の検出。
・奈良三彩の出土。
・重弧文軒平瓦の出土。

遺構の変遷

○古代以前

今回の調査区では古代以前の目立った遺構は確認されていない。また、遺物も弥生土器や古式土師器、石器類は出土しているものの、目立った出土量ではない。

○ 7 世紀末～ 8 世紀前半

政庁Ⅰ期になると、条坊区画があったことが窺わせる痕跡が確認されている。255SD035 は上層が 11 世紀後半～ 12 世紀前半、下層が 7 世紀末～ 8 世紀前半の埋没と明瞭に分層される。この溝が政庁Ⅰ期に掘削され、8 世紀前半には一度完全に埋没し、奈良時代には掘り直しが行われることがなかったため、埋土が荒らされることがなかったとみられる。また、第 236-2 次調査で検出された 236-2SX091 や SX092 が 255SD035 の延長上にあり、その南側 4.8m の所に 236-2SD035 が平行していることを考えると、255SD022 を対とした道路であった可能性が考えられる。15 条路でも 236-1SD015 下層で 7 世紀末の遺物がまとまって出土したことを考え合わせると、遺構が重複せず、奈良時代以降の掘り直しを免れた場合、政庁Ⅰ期の溝が確認される例はあり、政庁Ⅰ期の時点で条坊区画がある程度出来ていたと考えて良いかもしれない。

この頃の建物として 251SB060 や 236-1SB040（3 × 2 間総柱）、236-2SB060（2 × 3 間総柱）が検出されている。この 2 棟の東側丘陵中腹の第 249 次調査でも 8 世紀前半築造の 3 × 3 間の総柱建物(249SB010)が検出されている。これは 251SB060 と 236-2SB060 のほぼ東に位置している。そのほか般若寺丘陵では、塔跡周辺の般若寺 4 次（SB010、身舎 3 間庇 5 間）・条坊第 231 次調査（SB010、2 × 2 間以上総柱）で、7 世紀後半から 8 世紀前半にかけての掘立柱建物が確認されている。また、第 257 次調査の北隣の第 277 次調査でも 8 世紀初頭の 3 × 5 間の東西棟が確認されている。

また、重弧文軒平瓦やそれと同じ「目」のような格子叩き目を持つ平瓦が、第 251 次(28 点)、第 255 次(6 点)、第 257 次（2 点）出土した。ほとんどが後世の遺構から出土するものだが、255SD035 より出土した瓦は、7 世紀末ー 8 世紀前半の遺物を伴うものであった。東側丘陵にあった般若寺の前身と考えられている塔原廃寺（筑紫野市）で出土する瓦と同じ叩き具を使用しているため、塔原廃寺が移転した際に瓦も再利用された可能性が考えられるのだが、般若寺塔跡周辺の調査でこれらの瓦が出土したという報告を見ない。上記のように総柱建物が散在している状況を考え合わせると、般若寺塔跡がある丘陵上面ではなく、それ以外の丘陵裾の調査地周辺にこの瓦を使用した建物があったと考えざるを得ない。

以上のように、政庁Ⅰ期に般若寺丘陵周辺で活発な動きがあったことを物語っているが、どういう目的でこれらが築造されたのかは不明瞭であるが、総柱建物が比較的多いのが特徴的である。

○ 8 世紀前半～後半

条坊痕跡として、第 251 次調査では 8 世紀代の溝が多く検出されている。それらの中に SD045 と 065 を側溝とする 251SF195 があり、井上条坊案の 16 条路と推測される。これに取り付く南北道路(251SF205)があるが、これは 251SB060 廃絶後に築造され、16 条路より先に埋没している。第 257 次調査で、平安時代の溝と重複しながら、8 世紀後半埋没の 257SD020・185 を確認し、この間を 15 条路（257SF375）と推測している。この 251SF195 と 257SF375 の中点間の距離は約 88.7m を測る。251SF195 が東側丘陵に所在する般若寺の塔跡の南 50m 付近を通ることため、朱雀大路から般若寺に向かう道路のひとつであった可能性が考えられる。

この時期の中心的な建物遺構は、257SB300（5 × 11 間、8.6 × 23.6m）の大型掘立柱建物で、北隣の 236-1SB480（5? × 16 間、8.6 × 29.6m）と 10.7m の間隔を置いて南北に並んでいる。このような大型建物が南北に並ぶのは、大宰府では政庁の脇殿のみである。また、第 236 次調査で多く出土した須恵器の獣脚付盤は調査例が増えた大宰府でも特異な出土量を誇る。また、引き続き行われた周辺の調査から匙をはじめとする佐波里製品などが出土している。この南北棟がある場所は、政庁南門から 927m で、中央大路（推定朱雀大路）から 93m と大路に隣接した位置にある。このような調査例は多賀城の市川橋遺跡であり、政庁から約 1050m 地点に大路の東側に 11 × 2 間（33 × 6m）の大型建物が 2 棟南北に建ち並んで確認されている。このような位置関係は平安京鴻臚館が左右京 7 条一坊の朱雀大路の両脇にあり、外国使節を迎える場があったことから、2 棟の建物（236-1SB480・257SB300）は、外国使節を安置した客館の施設の可能性が指摘されている。257SB300 と 15 条路側溝の 257SD020・185 の埋没がほぼ同時期の 8 世紀後半と推測されるため、15 条路が大型掘立柱建物の南約 6.5m の位置を通っていたことになる。この間に明確な築地や塀の痕跡は確認できていない。

○ 8 世紀後半～ 9 世紀初め

第 257 次調査では大型掘立柱建物（257SB300）に切り込む形で、南北溝（257SD285）が掘られ、8 世紀後半前後に埋没後 SB295・305 の掘立柱建物が築造され、9 世紀初めにかけて存在している。255SB015 も同時期の建物の可能性が考えられる。これらの建物が前代の客館のような官衙的施設としての機能を有していたかはわからないが、建物の規模が他の条坊内のものと変わりないものとなっている。

今回の 3 つの調査地点からは、奈良時代埋没の井戸は未検出であるが、9 世紀前半埋没の 257SE090・210・345 が 257SB295・305 の周りにあり、これらが奈良時代の掘立柱建物と併存していた井戸の可能性が考えられる。

○ 9 世紀前半～ 10 世紀代

この時期は奈良時代の掘立柱建物群から一変して、第 257 次調査では格子状の痕跡を残す畑状遺構（SX380）が広がり、第 251・255 次では、目立った遺構が存在しない。畑状遺構（SX380）は東西約 45m、南北 36m に及んでいるが、西側端の溝から西側に続く溝があり、15 条路から約 22m 付近に区画割されている。畑状遺構とそれ以外の所とで区画されている状況にも見てとれる。

また、この時期の建物跡は、今回の調査区内では検出されていないが、畑状遺構の西側に若干時期が異なる 10 世紀代の井戸が 5 基検出されている。これによって、西側調査区外に建物が展開するのか、礎石建物などが削平されたと考えることもできる。しかし、畑と合わせると耕作用の井戸とも考えられるが、この時期の事例を知り得ていない。

15 条路付近では長さは短いが、257SD180・170（9 世紀後半～ 10 世紀前半埋没）が掘られ、側溝状をなしている。

○ 11 世紀～ 12 世紀初め

この時期の井戸は 5 基、建物は時期が明確でないものも多いが約 9 棟確認されている。調査面積の割には少ない方で切り合いもないが、平安後期の遺物は、他の条坊域同様に多く出土し、この時期の遺物を埋没時期とする溝は多い。15 条路がほぼ前代を同じ場所を通っているのに対し、16 条路が約 12m 南移動している様子が窺える。また、15・16 条路の中間に位置する 257SD035 が政庁 I 期掘削の溝と全く同じ場所に浅い掘削が行われており、7 世紀代と同じ区画ラインであったことを物語っている。また、15 条路を横切る 257SD040 や 257SD025 など南北方向の溝が明確に掘削されており、条坊区画内を細分していた区画溝と推測される。

第 251 次調査南側の土取り遺構（251SX001・025・030）は、出土遺物から平安後期の埋没である可能性が高く、その北側から第 255 次調査にかけて広がる土取りより若干古い掘削である可能性が考えられる。

○ 12 世紀前半以降

土取り遺構が 15 条路の南側に広がる。土取り遺構の埋土の遺物は 11 世紀後半から 13 世紀代のもので、土取り遺構の埋土に切り込む形で、13 世紀代には 251SB130・180、SA135 が建ち並んでいる。条坊の東西道路上にも 257SB001・005・055 などが整然と建ち並び、条坊の規制が全くなくなった後に生活空間が営まれたことが窺える。第 257 次調査・251 次調査の建物群とも、建物は切り合いや方位から最低 1 回は建物の建て替えがあったことが窺えるが、12 世紀中頃～ 13 世紀代の井戸は未確認で、遺物量も極めて少ない。建物群がいつまで存続していたかは明確ではないが、遺物の状況から 13 世紀の早い段階で廃絶していた可能性が高い。

これらの建物廃絶以降の遺構や遺物は未確認であり、鎌倉時代後期頃以降から近代に至るまで生活空間として利用されることはなかったと推測される。

参考文献

井上信正「大宰府条坊の基礎的考察」『太宰府学』第 5 号　太宰府市市史資料室　2011

井上信正「大宰府朱雀大路沿いの大型建物群と出土品」『都府楼　第 42 号』2010

太宰府市教委『大宰府条坊跡 32』太宰府市の文化財 90 集　2007

太宰府市教委『大宰府条坊跡 33』太宰府市の文化財 92 集　2007

太宰府市教委『大宰府条坊跡 36』太宰府市の文化財 99 集　2008

太宰府市教委『大宰府条坊跡 第 277・285 次調査 現地説明会資料』2011

多賀城市教委『市川橋遺跡』多賀城市文化財調査報告書第 60 集　2001

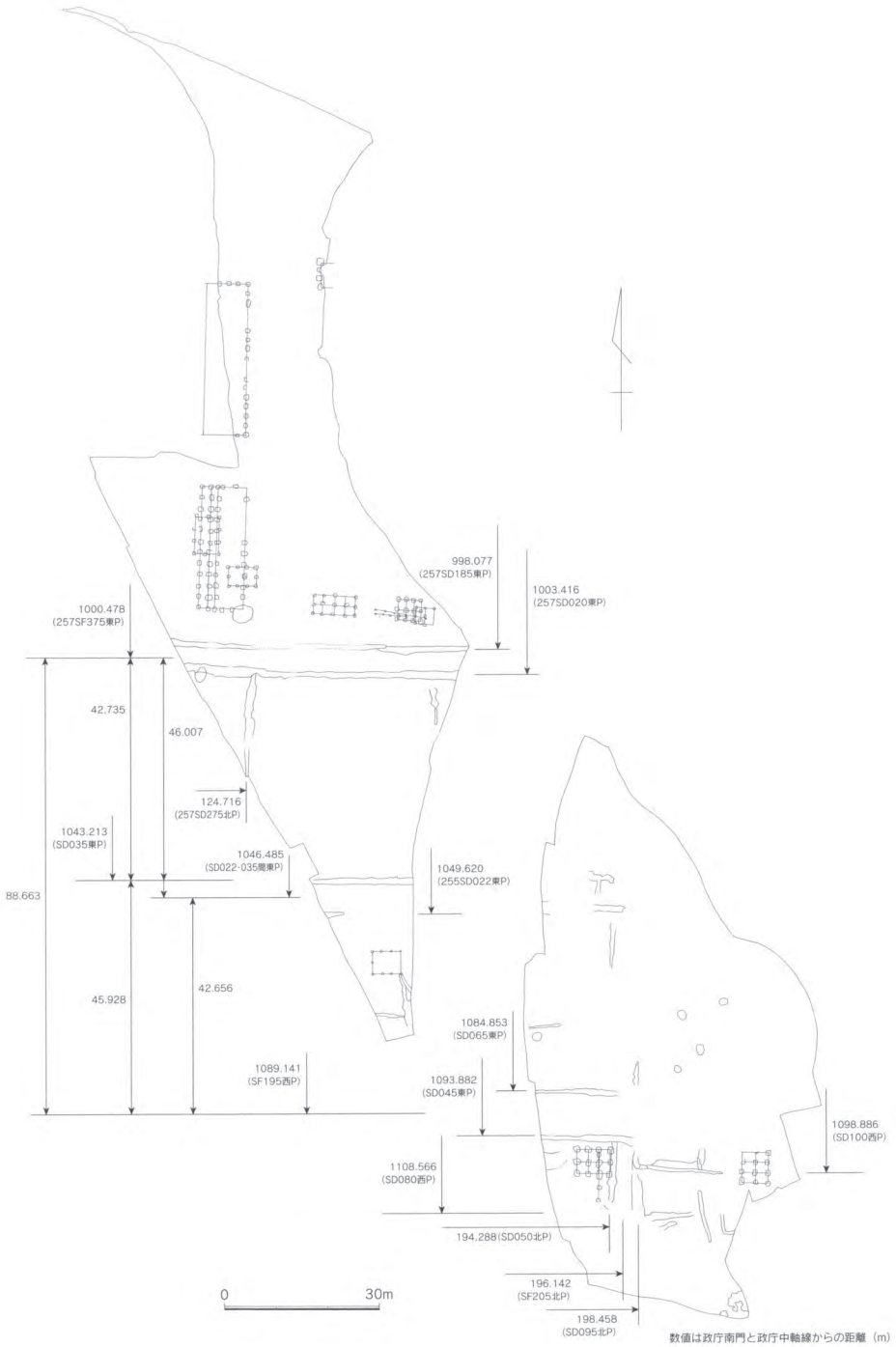


Fig. 108　奈良時代の主要遺構（第 236·251·255·257 次調査）(1/1000)

Fig. 109　平安時代前～中期の主要遺構（第 236·251·255·257 次調査）(1/1000)

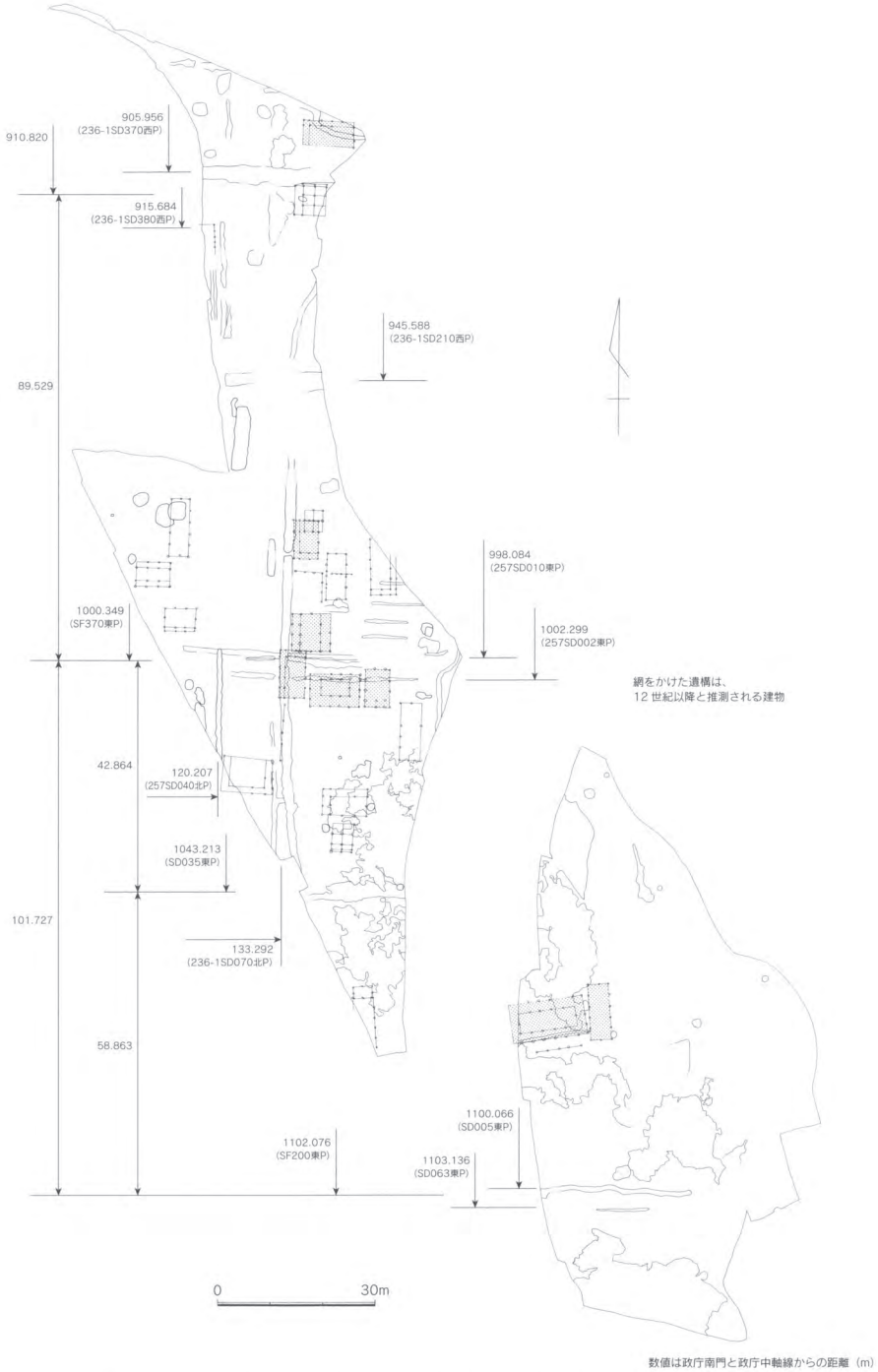


Fig. 110　平安時代後期以降の主要遺構（第 236･251･255･257 次調査）（1/1000）

写真図版

写真図版には遺構の主な写真を掲載している。その他の遺構写真および遺物写真は、付録の CD にカラー情報で収録している。

第 251・255・257・236 次調査第 2 調査面全景（合成写真、上が北）

第 251 次調査南半部 1 面目全景（上が西）

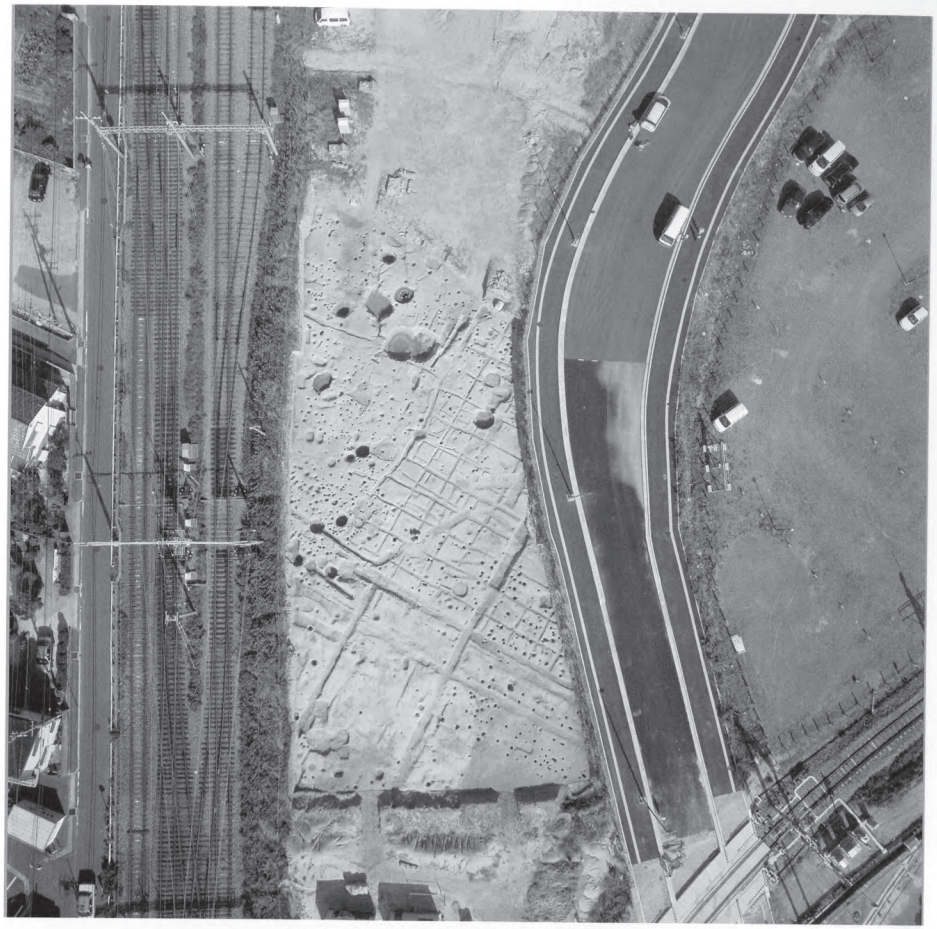
第 251 次調査推定 16 条路付近（上が西）

251SX001 全景（東から）

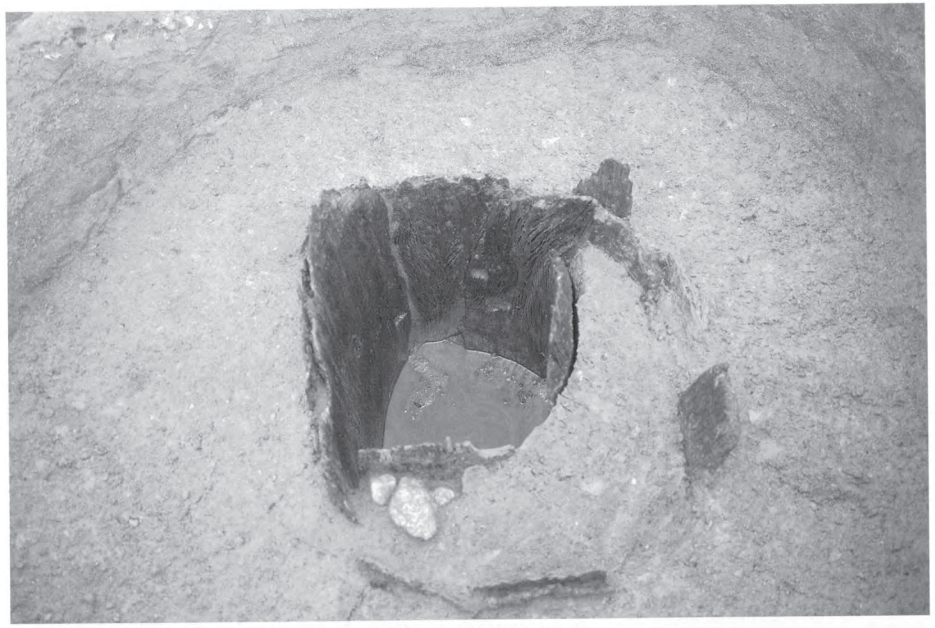
第 251 次調査南半部 2 面目全景（上が南）

第 257 次調査　1 面目全景（上が南西）

第 257 次調査　SB001・005・055・120 全景（上が西）



第 257 次調査　第 2 面全景（上が北西）



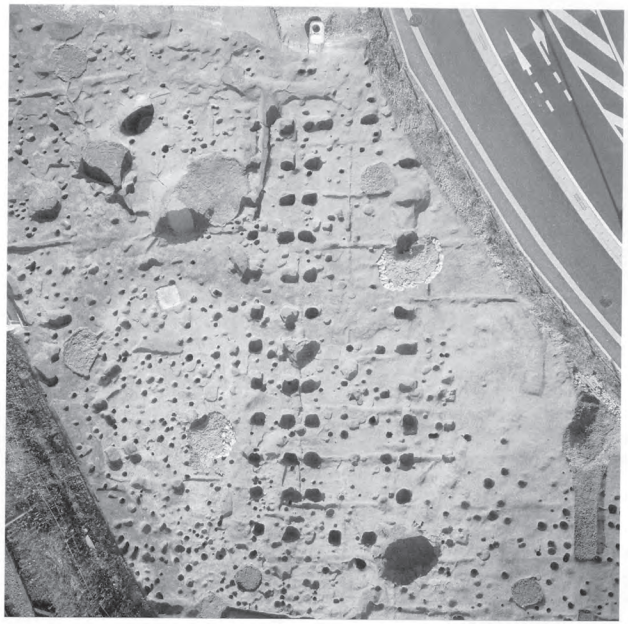
257SE095 井戸枠検出状況（南から）

257SE095 井戸枠検出状況（北から）

257SE245 井戸枠検出状況（北から）

畑状遺構完掘状況（北から）

第 257 次調査　第 3 面全景（上が北西）



257SB300 全景（上が北）

257SB300 ⑦　土層観察（東から）

257SB300 ⑩ 敷石　出土状況（東から）

257SB300 ㉛　礎板　出土状況（北から）

257SB300 ㊶　柱痕　出土状況（北から）

257SK175 曲物検出状況（南から）

257SK175 曲物内　木片出土状況（北から）

第 255 次灰褐色土軒平瓦（Fig. 39-11）

257SE245 黒色土帯金具
（Fig. 102-28）

257SB300 ㊶　柱（Fig. 93-23）

257SX866 緑釉陶器小壺（Fig. 92-116）

第 257 次暗青灰色粘土
石槍（Fig. 101-7）

257SK175 曲物内須恵器・土師器（Fig. 99-76. 79. 80）

257SE090 灰茶色土
墨書土器（Fig. 64-47）

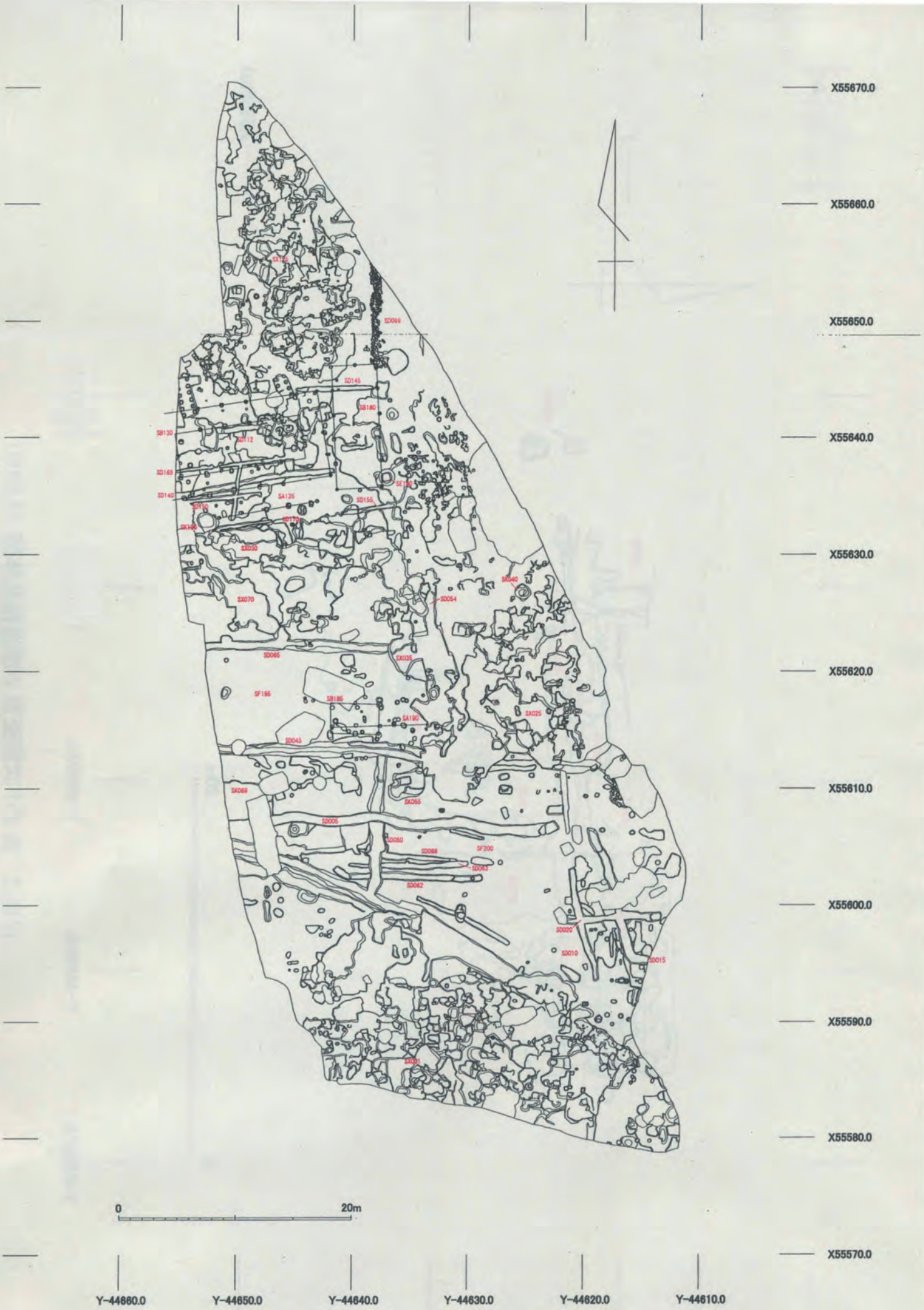
報告書抄録

ふりがな	だざいふじょうぼうあと
書名	大宰府条坊跡　42
副書名	第 251・255・257 次調査
シリーズ名	太宰府市の文化財
シリーズ番号	114 集
編著者	宮崎亮一
編集機関	太宰府市教育委員会
所在地	福岡県太宰府市観世音寺 1 丁目 1 番 1 号
発行年月日	2012（平成 24）年 3 月 31 日

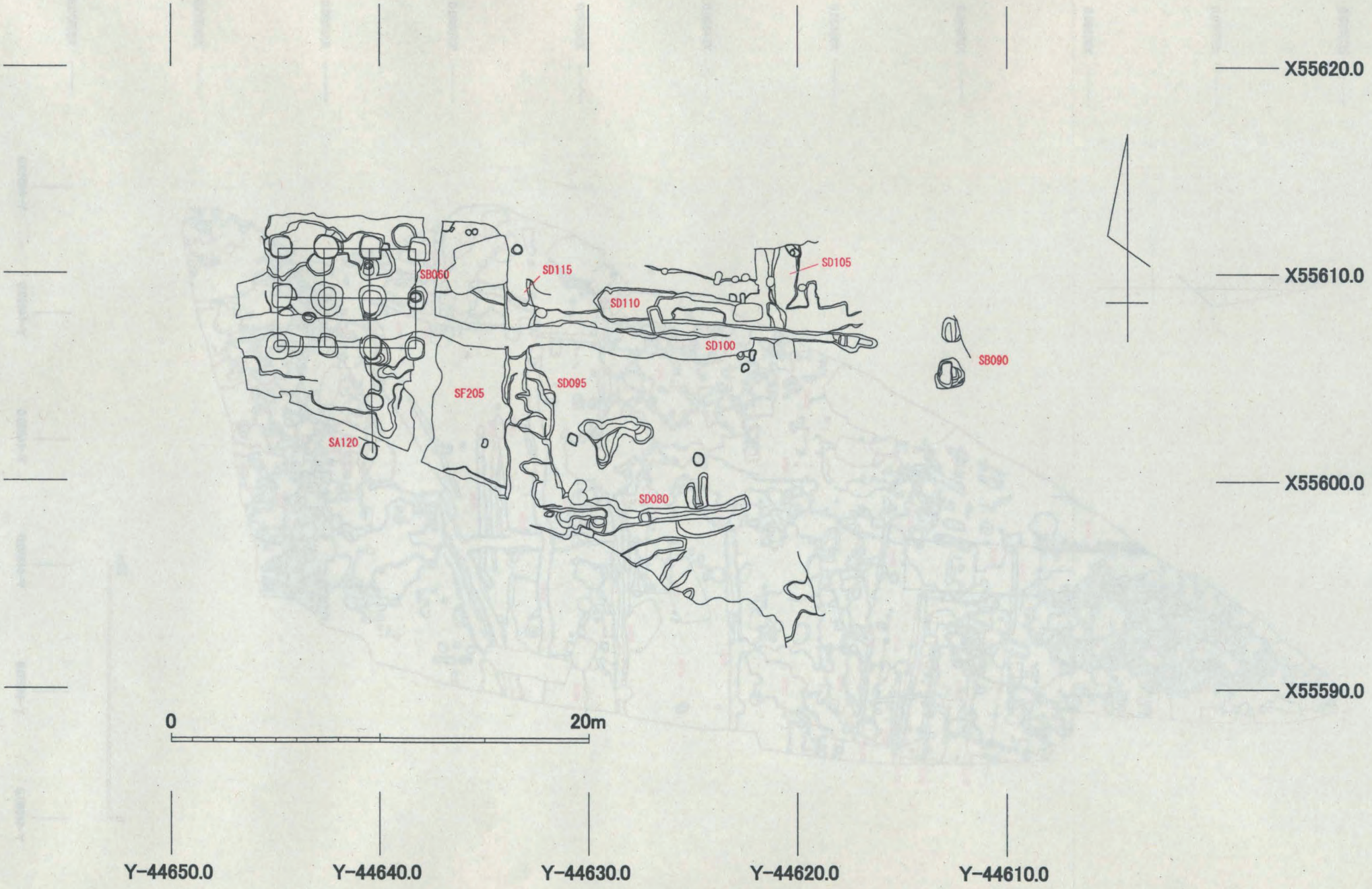
ふりがな 所収遺跡名	条坊 【鏡山推定案】	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	座標 X	座標 Y	調査期間 開始	調査期間 終了	調査面積 ㎡	調査原因
だざいふじょうぼうあと 大宰府条坊跡　第 251 次	左郭 14 条 2 坊	太宰府市 朱雀 2 丁目	402214	210050-251	55630. 0	-44630. 0	20050620	20051130	2351	商業施設
だざいふじょうぼうあと 大宰府条坊跡　第 255 次	左郭 13・14 条 2 坊	太宰府市 朱雀 3 丁目	402214	210050-255	55670. 0	-44680. 0	20051205	20060318	1213	商業施設
だざいふじょうぼうあと 大宰府条坊跡　第 257 次	左郭 13 条 1・2 坊	太宰府市 朱雀 3 丁目	402214	210050-257	55720. 0	-44710. 0	20060320	20070131	1805	商業施設

所収遺跡名	遺跡種別	時代	主要遺構	主要遺物	特記事項
大宰府条坊跡　第 251 次	都城	古代	掘立柱建物、井戸 土取り遺構、道路	重弧文瓦　奈良三彩	
大宰府条坊跡　第 255 次	都城	古代	掘立柱建物 、道路 土取り遺構	緑釉陶器　灰釉陶器 墨書土器　重弧文瓦	
大宰府条坊跡　第 257 次	都城	古代	大型掘立柱建物 井戸、道路	緑釉陶器　灰釉陶器　鋳型 墨書土器	客館と推測される建物

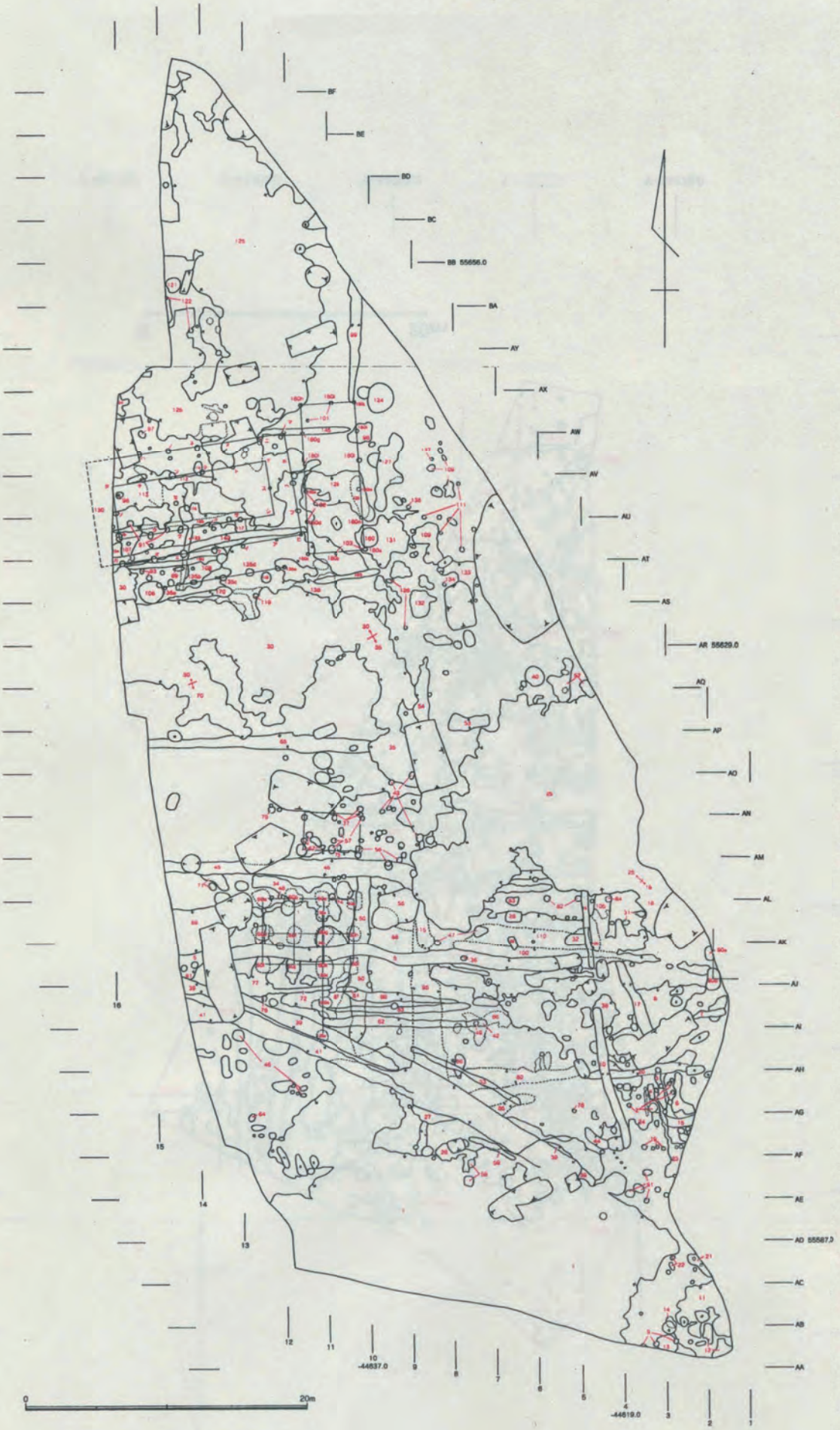
太宰府市の文化財　第 114 集
大宰府条坊跡 42
－第 251・255・257 次調査－
平成 24（2012）年 3 月
編集　太宰府市教育委員会
発行　太宰府市観世音寺 1-1-1
印刷　有限会社 システム・レコ
福岡市東区多の津一丁目 14 番 1 号
FRC ビル



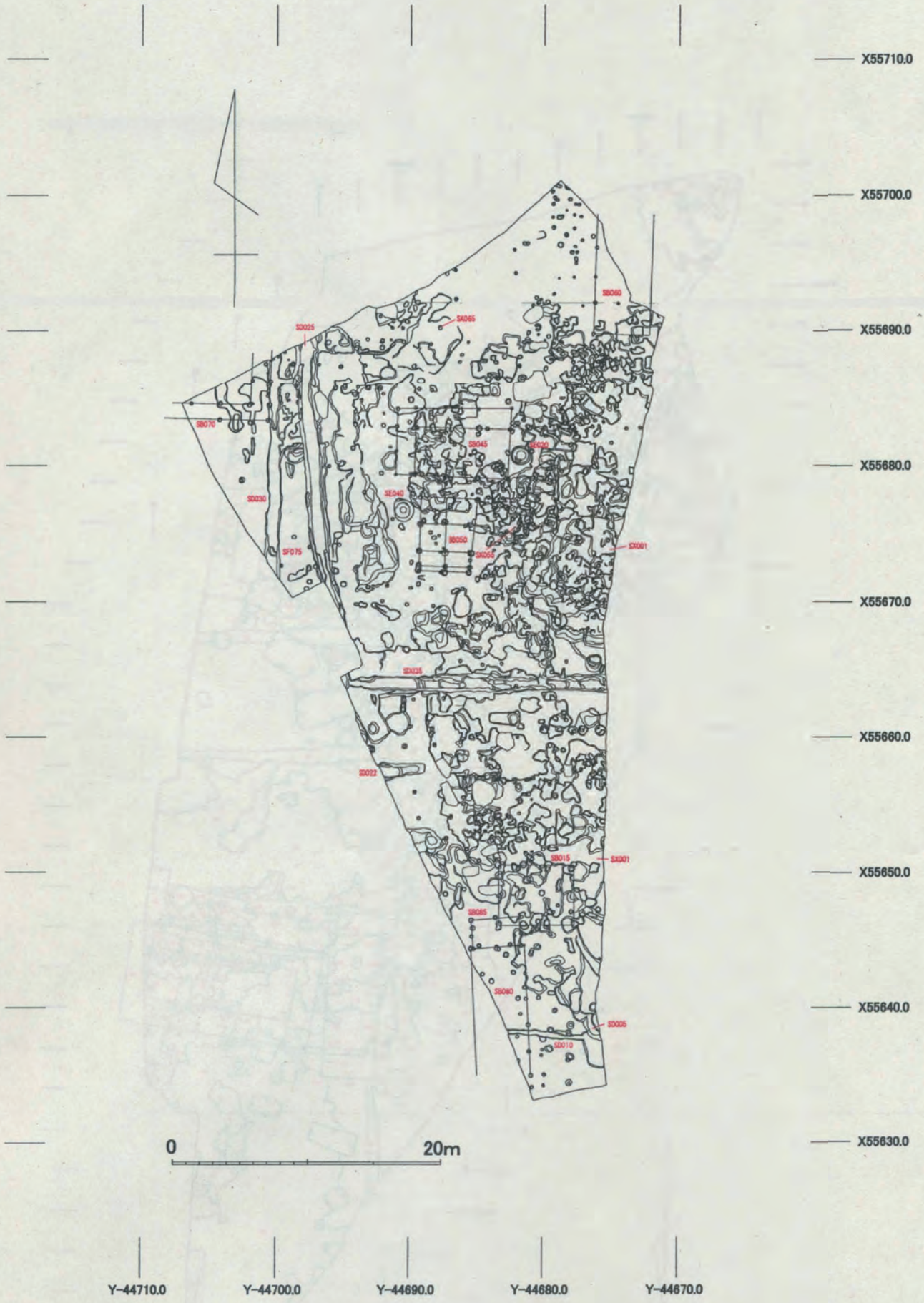
付図1　第251次調査第1面遺構全体図（1/200）



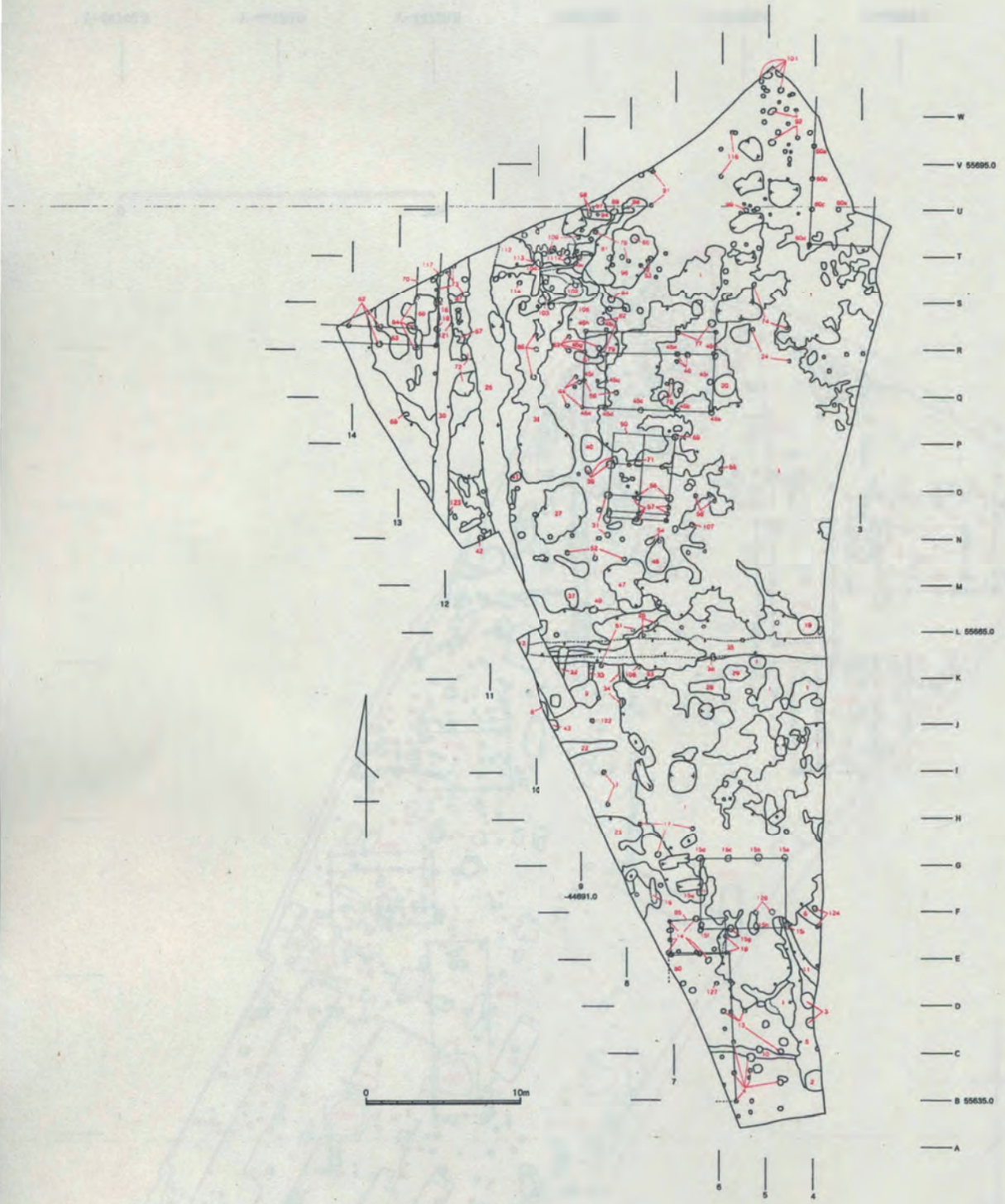
付図 2　第 251 次調査第 2 面遺構全体図（1/200）



付図3　第251次調査遺構略測図（1/200）



付図4　第255次調査遺構全体図（1/200）



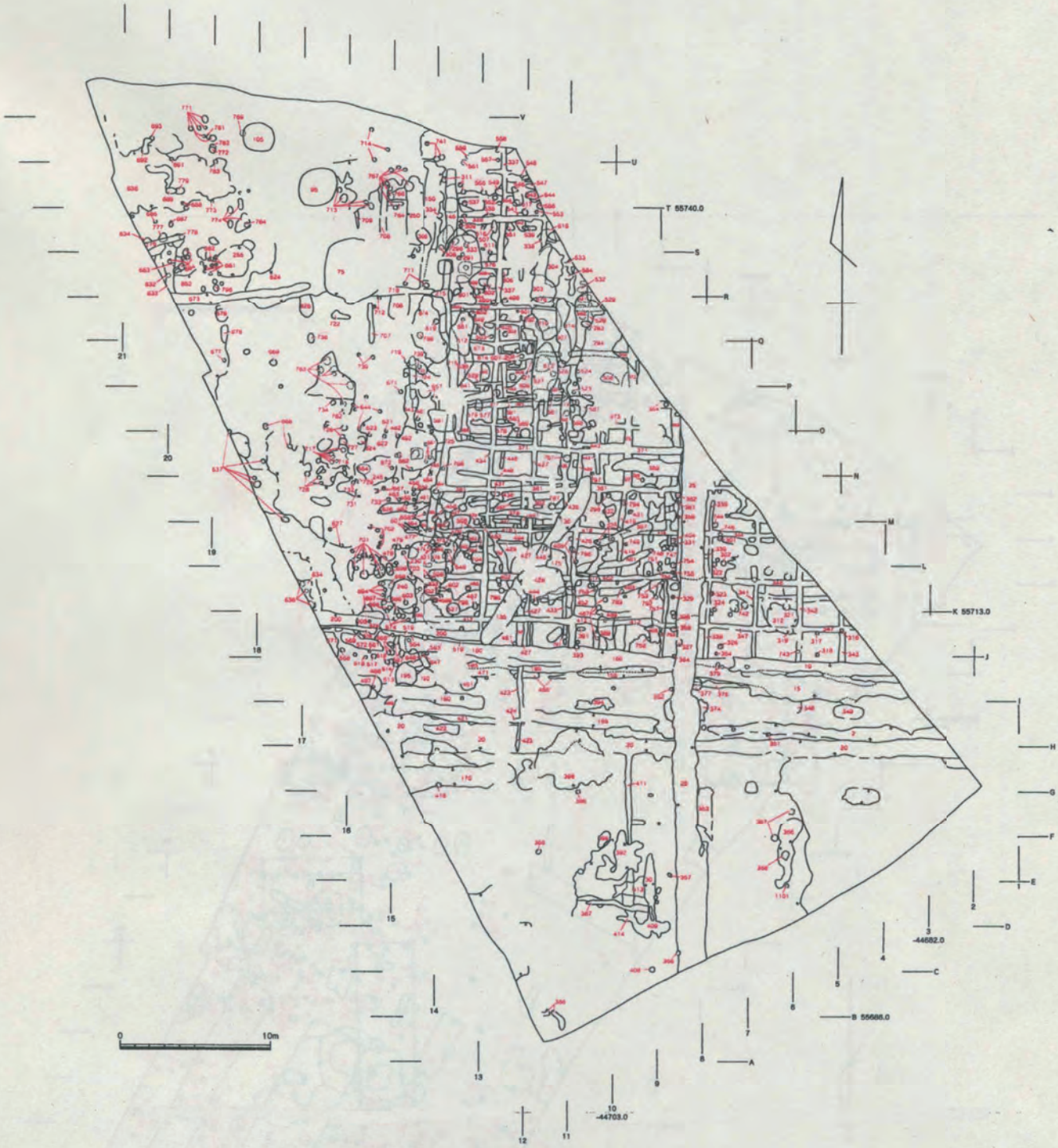
付図5　第255次調査遺構略測図（1/200）

付図 6　第 257 次調査第 1 面遺構全体図（1/200）

付図 7　第 257 次調査第 2 面遺構全体図（1/200）

付図 8　第 257 次調査第 3 面遺構全体図（1/200）

付図 9　第 257 次調査第 1 面遺構略測図 (1/200)



付図 10　第 257 次調査第 2 面遺構略測図（1/200）

付図 11　第 257 次調査第 3 面遺構略測図（1/200）